

平成 30 年度

博士（看護学）学位論文

要介護高齢者へのケア提供者の  
地域文化ケアの実践と文化的感受性

沖縄県立看護大学大学院保健看護学研究科 博士後期課程

専門領域：成人・老年保健看護

学籍番号：430001

氏 名：呉地 祥友里

指導教授：大湾 明美

# 博士論文要旨

保健看護学専攻 成人・老年保健看護 領域	学籍番号 430001 氏 名 吳地 祥友里
論文題目	要介護高齢者へのケア提供者の 地域文化ケアの実践と文化的感受性
<b>【背景】</b> 要介護高齢者が住み慣れた地域で馴染みの関係の中で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域文化を理解しケアに活かすことが重要である。そのためには、地域文化ケアにおいて、ケア提供者の文化的感受性を高める教育が求められる。	
<b>【目的】</b> 本研究の目的は、要介護高齢者の地域文化に寄り添うケア（地域文化ケア）を導き、老年看護の教育に活用するために、ケア提供者の地域文化ケアの実践を手がかりとして、地域文化ケアの実践と文化的感受性を明らかにすることである。そのために、本研究では、以下の探求の問いをかける。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. 地域文化ケアはどのように実施されているか</li><li>2. 地域文化ケアを実施する意図は何か</li><li>3. ケア提供者は、地域文化ケアをどのように（自己）評価しているか</li><li>4. 地域文化ケアの実施には、どのような段階があるか</li><li>5. 地域文化ケアを実践しているケア提供者には、どのような文化的感受性があるか</li><li>6. 地域文化ケアにおける文化的感受性は、どのように看護教育に活用できるか</li></ol>	
<b>【方法】</b> 研究デザインは質的記述的研究である。研究フィールドは、地域文化圏とケア施設のサービスクラウドが一致している地域を選定する。圏域の一致は、海域による区分がわかりやすい離島地区とした。また、要介護高齢者のケアの場による特性を網羅するために、治療の場、療養の場、生活の場から、ケア提供施設を選定し、かつ地域文化ケアを実践しているケア提供者を研究参加者とした。研究参加者は、治療の場 10 名、療養の場 10 名、生活の場 16 名の計 36 名であった。研究は 3 つの段階で構成する。第 1 段階はケア提供者が実践する地域文化ケア（ケアの方法（実施）、ケアの意図、ケアの評価）を把握する。第 2 段階は、ケア提供者の主体性の観点から地域文化ケアの実施の段階を検討する。第 3 段階はケア提供者の認識であるケアの意図とケアの評価から、ケア提供者の文化的感受性を導く。	
<b>【結果】</b> <b>1. 地域文化ケアの実践</b> 研究参加者 36 名の地域文化ケアの実践場面は、ひとり 2～11 場面、合計 243 場面であった。	

1) 地域文化ケアの方法: ケアの方法は、【当事者の行事への参加支援】、【家族・地域のつながりの継続支援】、【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】、【当事者の祈りを尊重する支援】、【地域文化でつくるケア関係】、【地域文化を共感するケア】、【習い続ける地域文化】、【地域文化の周知と啓蒙】、【みんなで育み続ける地域文化ケア】、【家族のようにつながり続けるケア】、【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】、【みんなで創り広める地域文化ケア】の 12 が導かれた。

2) 地域文化ケアの意図: ケアの意図は、【家族・関係者との交流・つながりの支持】、【個人の生きてきた価値の支持】、【地域に息づく価値の支持】、【地域文化のケアへの取り込み】、【地域文化の楽しみの想起】、【地域文化の習熟と継承】、【高齢者の地域文化への貢献】、【地域文化ケアの育成】、【我が事のような相互依存】、【地域文化によるケアの創造】の 10 が導かれた。

3) 地域文化ケアの評価: ケアの評価は、【高齢者・家族の良い反応に満足】、【高齢者から地域文化を学び満足】、【自らの地域文化ケアに満足】、【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】、【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】、【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】、【ケアの手間と地域の価値の了解】、【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】、【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】、【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】の 10 が導かれた。

## 2. 地域文化ケアの実施の段階

地域文化ケアの実施の段階には、第 1 段階の [求めに応じる地域文化ケア]、第 2 段階の [活かされる地域文化ケア]、第 3 段階の [活かし継承される地域文化ケア]、第 4 段階の [創造される地域文化ケア] があった。

## 3. 地域文化ケアにおける文化的感受性の要素

ケア提供者の文化的感受性には、職場、経験の差に関わらず、研究参加者全員にみられ「理解」、「満足」、「配慮」、「認知」、「支持」、「融合」、「楽しみ」、「実感」、「共感」、「信頼」、「自負」、「希求」、「創造」があった。

### 【結論】

1. 要介護高齢者への地域文化ケアの実践は、ケアの場、専門性の違い、経験年数、地元出身の有無に関わらず、ケア提供者全員が複数事例に複数回の実践をしていた。ケアの方法(実施)には、ケアの意図があり、ケアの評価は肯定的な評価をしていた。

2. ケア提供者の主体性の観点から実践している地域文化ケアの実施の段階は、Leininger の文化を考慮したケアと照らし合わせると、第 4 段階の [創造される地域文化ケア] が新たに見いだされた。

3. 地域文化ケアにおける文化的感受性は、Foronda の概念分析による文化的感受性の要素の他に、「楽しみ」、「実感」、「共感」、「信頼」、「自負」、「希求」、「創造」の 7 つの要素が見いだされた。

4. 老年看護教育の地域文化ケアにおける文化的感受性は、地域文化を「体験して楽しむ」という Kolb の提唱する経験学習が適切であることが示唆された。

# 目次

第1章 序論	1
第2章 文献検討	3
第1節 文化と文化看護	3
1. 文化という概念の概観	
2. わが国の看護における文化の捉え方	
1) 看護のテキストにみる文化看護	
2) 文化看護学会誌にみる文化看護	
3. 国内外の高齢者の文化看護の研究	
1) 「個人の持つ文化」	
2) 「家族の持つ文化」	
3) 「地域の持つ文化」	
4) 「移民の文化」	
5) 「組織・専門職文化」	
6) 「文化の比較」	
7) 「文化の教育研究方法」	
4. 文化看護における地域文化	
第2節 文化的感受性と地域文化ケア	10
1. 文化的感受性(cultural sensitivity)の概観	
1) 文化的感受性と文化的能力	
2) 文化的感受性の概念	
2. 看護における文化的感受性の国内外の研究	
1) 文化的感受性の国内文献	
2) 文化的能力の国内文献	
3) 文化的感受性の国外文献	
3. 文化ケアと地域文化ケア	
4. 文化的感受性と高齢者ケアの教育の必要性	
第3章 研究方法	19
第1節 研究方法の概要	19
第2節 研究デザイン	19

第3節	概念枠組み	20
第4節	用語の定義	21
1.	地域文化ケア	
2.	文化的感受性	
3.	地域文化ケアの実践	
第5節	研究対象	21
1.	研究フィールドの選定	
2.	宮古島市の概要	
3.	研究参加者の選定	
4.	研究参加者の概要	
1)	研究参加者の基本属性	
2)	研究参加者の地域文化行動の体験	
第6節	データ収集・データ分析	23
1.	第1段階の概要	
1)	データの収集	
2)	データの分析	
2.	第2段階の概要	
1)	地域文化ケアの実施の段階を導く方法	
2)	地域文化ケアの実施の段階の検討	
3.	第3段階の概要	
1)	文化的感受性を導く方法	
2)	ケア提供者の文化的感受性の検討	
第7節	研究者の立場	26
第8節	研究の真実性	26
1.	明解性	
2.	信用可能性	
3.	移転可能性	
4.	確認可能性	
第9節	倫理的配慮	27
1.	研究の対象とする個人の人権の擁護	

2. 研究の対象となる者に理解を求め、同意を得る方法
3. 生じる個人への利益及び不利益並びに危険性の予測
  - 1) 個人への利益
  - 2) 個人への不利益

## 第4章 研究結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

### 第1節 地域文化ケアの実践の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

1. 地域文化ケアの場面・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
2. 地域文化ケアの方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

- 1) 【当事者の行事への参加支援】
- 2) 【家族・地域のつながりの継続支援】
- 3) 【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】
- 4) 【当事者の祈りを尊重する支援】
- 5) 【地域文化でつくるケア関係】
- 6) 【地域文化を共感するケア】
- 7) 【習い続ける地域文化】
- 8) 【地域文化の周知と啓蒙】
- 9) 【みんなで育み続ける地域文化ケア】
- 10) 【家族のようにつながり続けるケア】
- 11) 【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】
- 12) 【みんなで創り広める地域文化ケア】

3. 地域文化ケアの意図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

- 1) 【家族・関係者との交流・つながりの支持】
- 2) 【個人の生きてきた価値の支持】
- 3) 【地域に息づく価値の支持】
- 4) 【地域文化のケアへの取り込み】
- 5) 【地域文化の楽しみの想起】
- 6) 【地域文化の習熟と継承】
- 7) 【高齢者の地域文化への貢献】
- 8) 【地域文化ケアの育成】
- 9) 【我が事のような相互依存】
- 10) 【地域文化によるケアの創造】

4. 地域文化ケアの評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

- 1) 【高齢者・家族の良い反応に満足】
- 2) 【高齢者から地域文化を学び満足】
- 3) 【自らの地域文化ケアに満足】

4) 【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】	
5) 【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】	
6) 【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】	
7) 【ケアの手間と地域の価値の了解】	
8) 【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】	
9) 【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】	
10) 【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】	
5. 地域文化ケアの方法・意図・評価・・・・・・・・・・・・・・・・	94
1) ケアの方法	
2) ケアの意図	
3) ケアの評価	
第2節 地域文化ケアの実施の段階・・・・・・・・・・・・・・・・	95
1. 第1段階：求めに応じる地域文化ケア	
2. 第2段階：活かされる地域文化ケア	
3. 第3段階：活かし継承される地域文化ケア	
4. 第4段階：創造される地域文化ケア	
5. 地域文化ケアの実施の段階	
第3節 地域文化ケアにおける文化的感受性の要素・・・・・・・・	101
1. 地域文化ケアの意図からみた文化的感受性の要素	
2. 地域文化ケアの評価からみた文化的感受性の要素	
3. 地域文化ケアにおける文化的感受性の要素	
第5章 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	103
第1節 地域文化ケアの特徴・・・・・・・・・・・・・・・・	103
1. 老年看護の実践にみる地域文化ケアの特徴	
2. 国内外の高齢者の文化看護にみる地域文化ケアの特徴	
3. EBP (evidence based practice) にみる地域文化ケアの特徴	
4. ケアリングにみる地域文化ケアの特徴	
第2節 地域文化ケアの実施の段階・・・・・・・・・・・・・・・・	105
1. 看護理論から捉えた地域文化ケアの実施の段階	
2. 文化的能力から捉えた地域文化ケアの実施の段階	
3. 地域包括ケアから捉えた地域文化ケアの実施の段階	
4. [創造される地域文化ケア] の実施の段階	

第3節	地域文化ケアに見いだされた文化的感受性・・・・・・・・・・	109
1.	地域文化ケアに見いだせなかった文化的感受性	
2.	地域文化ケアに見いだされた文化的感受性	
3.	文化的感受性に見いだされた「楽しみ」	
第4節	高齢者の地域文化に寄り添うケアへのための 老年看護教育への提言・・・・・・・・	112
1.	高齢者における地域文化ケアの教育への提言	
2.	地域文化ケアにおける文化的感受性の教育への提言	
第5節	本研究の限界と今後の課題・・・・・・・・・・	114
1.	本研究の限界	
2.	本研究の今後の課題	
第6章	結論・・・・・・・・・・	116
引用文献	・・・・・・・・・・	118
謝辞	・・・・・・・・・・	125
図	・・・・・・・・・・	127
表	・・・・・・・・・・	135
付録	・・・・・・・・・・	205



## 図一覧

---

番号	タイトル
図 1	高齢者ケアにおける地域文化ケアの必要性の文献検討
図 2	地域文化ケアにおける文化的感受性の必要性の文献検討
図 3	文化的感受性と文化的能力
図 4	文化的感受性と文化的能力の関係
図 5	Leininger のサンライズモデル
図 6	本研究の概念枠組み
図 7	地域文化ケアの方法・意図・評価
図 8	地域文化ケアにおける文化的感受性の要素

---

## 表一覧

番号	タイトル
表 1	文化人類学における文化の定義と特徴
表 2	A.L.Kroeber と C.Klukchohn による Cultute の定義と説明
表 3	文化の特徴と内容
表 4	心理学における研究方法ごとの文化の定義と特徴
表 5	看護のテキスト一覧
表 6	看護のテキストにみる文化の記述内容
表 7	文化看護学会誌からみた文化の捉え方
表 8	高齢者ケアにおける文化看護の研究
表 9	文化的能力の概念や定義
表 10	文化的感受性の概念や定義
表 11	文化的感受性の国内文献
表 12	文化的能力の国内文献
表 13	文化的感受性の国外文献
表 14	研究参加者の基本属性
表 15	研究参加者の地域文化行動の体験
表 16～28	地域文化ケアの方法
表 29～39	地域文化ケアの意図
表 40～50	地域文化ケアの評価
表 51	地域文化ケアの実施の段階とケア提供者の主体性
表 52	地域文化ケアの意図からみた文化的感受性の要素
表 53	地域文化ケアの評価からみた文化的感受性の要素
表 54	Benner の臨床技能習得レベルから捉えた地域文化ケアの実施の段階
表 55	Leininger による文化ケアの実践のタイプから捉えた地域文化ケアの実施の段階
表 56	感情階層説モデルにおける本研究の文化的感受性

## 第1章 序論

長い老年期を健康で生きがいをもって過ごすことは、全世界的な課題である。WHO (2002/2007) は、老年期を施設でケアを受けるのではなく、住み慣れた地域で過ごすことをめざし、高齢者をケアの受け手としてだけでなく、社会の支え手であり、勤労者であり、家族の支え手であり、地域での互助的な取り組みの主体として位置づけ、高齢者の完全参加をめざしている。

わが国は世界に類をみない超高齢社会に対応するために、社会保障制度改革推進法(総務省行政管理局 (e-Gov) , 2012)、医療介護総合確保法(総務省行政管理局 (e-Gov) , 2014)を制定し、地域包括ケアシステム構築を推進している。それは、本人が望む場での生活を継続する観点から、在宅ケア、地域ケアの構築を推進しようとするものである。このように、要介護高齢者ケアにおける看護の場は、病院だけでなく在宅や地域へと拡がり、住み慣れた地域で馴染みの関係の中で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、より個別的で生活全体をアセスメントした看護実践が求められている。

高齢者の個性を理解するためには、老化の多様性における個人差について生涯を過ごした自然環境や文化背景の影響を考慮する必要がある(松林, 2007)。また、下地(2007)は、その地域に限定された文化を地域文化とし、地域文化行動(慣れた地域に住み続けること、伝統行事や地域行事に参加すること、方言で話すこと)は、健康感と幸福感に影響していると述べている。そして、同じ地域文化をもつケア提供者と施設入所高齢者が伝統行事を共有していることで、施設ケアの内容に高齢者の地域文化を意識したケアが実践できること(呉地ら, 2010)、ケア提供者が施設入所高齢者に宮古島トライアスロン大会で街頭応援という役割を付加して地域行事への参加を促進していること(坂東ら, 2007)、自宅の畳の上で死ぬという死生観をもつ地域文化を共通しているケア提供者は、在宅の要介護高齢者とともに看取り文化の継承をしていること(大湾ら, 2012)など、地域文化ケアの実践報告がある。これらは「高齢者は地域文化を生きている」ことを前提とした要介護高齢者ケアであると考えられる。

看護において文化ケアが取り上げられたのは、1990年代にアメリカで文化人類学の視点から看護を捉えた Leininger (1991/1995) が始まりである。Leininger は、文化的背景がケアに影響するとし、サンライズモデルを提唱し、「文化ケア(Culture care)」理論を構築した。わが国の看護における文化は、千葉大学の21世紀COEプログラム(千葉大学大学院看護学研究科, 2008)である日本文化型看護学の創出・国際発信拠点―実践知に基づく看護学の確立と展開―で組織的に検討され始めた。その成果として、「世界の各地に生きる人々がもつ文化の多様性、普遍性を探求し、それらに反映した看護方法を研究開発し、看護学の発展に寄与すること」を目的に文化看護学会(2007)が設立された。野口ら(2011)は、「文化に根ざした保健看護の取り組み(文化看護)は、実際は地域ケアの実践である」とし、地域ケアとは「ケアを地域で実践するのではなく、地域によるケア」と述べ、地域文化を基盤にそこで暮らす人々とともにケアを創ることを強調している。そして、ケア提供者である看護職者が、看護実践の中で地域文化と健康との関係を経験し、地域の人々とともに実践した報告がある(知念, 2011; 大湾ら, 2011)。このように、地域文化をケアに活かしている実践やその必要性に関する報告は散在している。

ところで、文化ケアの看護教育については、多民族社会の諸外国では多くみられ、海外留学生・

外国人・マイノリティを活用した教育の効果、臨地実習による文化的感受性の効果などがある。特に、文化的コンピテンシーの教育プログラムの開発、その実践報告や評価がある(Hern, 2005; Sanner, 200)。我が国の文化ケアの看護教育については、基礎看護教育のテキストの記述内容を分析し、文化の定義、文化の構成要素、文化を踏まえたケアの重要性が述べられている(呉地ら, 2015; 佐藤ら, 2005)。そして、単一民族であるが故に異文化に触れる機会が少ない日本人は自文化を意識する必要性から、異文化を意識するための自文化への文化的感受性を高める教育の必要性を述べてきた(呉地ら, 2015)。

Foronda (2008) は文化的感受性 (cultural sensitivity) の概念分析を行い、文化的感受性の特性を整理している。多様性と認識と出会いを前提とし、その特性とは、①文化的違いと価値についての知識、②慎重に考え関心を持つ配慮、③性質と意義を認める理解、④感謝か関心を示す意欲と定義される尊敬、⑤適応するテーラリングであると述べている。そして、文化的感受性によってもたらされる影響として、効果的なコミュニケーション、効果的な介入及び双方とも満足感があつたとも述べている。

文化的感受性の類似用語に文化的能力 (cultural competency) がある。看護職者の文化的能力についての構成概念には、感情領域、知識領域、技能領域があり、文化的感受性は文化的能力の感情領域に位置づけられ、これらは相互に関連しあっていると報告している(小野ら, 2011)。知識領域に関する報告(河田ら, 2002; 知念ら, 2011) や、技能領域に関する報告(丸谷, 2005; 本田ら, 2007) は散見される。しかし、感情領域の文化的感受性が、地域文化ケアの実践にどのように関係しているかについては見いだせず、実証的データを積み重ねる必要があると考える。

したがって、地域文化に根ざした地域文化ケアを推進するためには、ケア提供者の地域文化ケアの実践を可視化し、文化的能力の感情領域である文化的感受性を明らかにすることは重要であると考えられる。地域文化ケアの実践と文化的感受性が明らかになれば、地域文化を生きている高齢者に寄り添うケアが推進できる。また、地域文化ケアの実践の中にある文化的感受性を高める老年看護の教育への示唆が得られると考える。

以上のことから、本研究の目的は、要介護高齢者の地域文化に寄り添うケア(地域文化ケア)を導き、老年看護の教育に活用するために、ケア提供者の地域文化ケアの実践を手がかりとして、地域文化ケアの実践と文化的感受性と明らかにすることである。そのために、本研究では、以下の探求の問いをかける。

1. 地域文化ケアはどのように実施されているか
2. 地域文化ケアを実施する意図は何か
3. ケア提供者は、地域文化ケアをどのように(自己)評価しているか
4. 地域文化ケアの実施には、どのような段階があるか
5. 地域文化ケアを実践しているケア提供者には、どのような文化的感受性があるか
6. 地域文化ケアにおける文化的感受性は、どのように看護教育に活用できるか

## 第2章 文献検討

### 第1節 文化と文化看護

高齢者ケアにおける地域文化ケアの必要性を導くために、1. 文化という概念の概観、2. 我が国の看護における文化の捉え方、3. 国内外の高齢者の文化看護の研究、4. 文化看護における地域文化について文献検討を行った（図1）。

#### 1. 文化という概念の概観

文化人類学、文化社会学、文化心理学のそれぞれの分野の研究者による文化についての論述を文献で整理した。

文化は、culture の訳語であり、原義は「耕作」である。古在(2009)は、culture の多様な複合語から、日本語では、文化以外に耕、作、業、芸、養、殖、産、育、栽、培、飼の意味があり、「文化は、生態系の一員としての人間の創造行為により生まれる」と述べている。このように、文化は人間と環境との相互作用の産物であり、人間の日常生活に直結したものである。したがって、人間理解をめざす学問領域では、文化の概念化に多様性がある。

文化人類学における文化の概念化とその変遷を概観した太田(1994)の文献から、文化の定義を整理した(表1)。学術的に初めて文化を定義したイギリスの人類学者エドワード・タイラー(1871)は、人間の行動上の違いは「人種」によるものではなく、後天的に習得された「文化」という考え方で説明を試みた。タイラーは、「文化、または、文明とは、広い民族史的観点からいえば、知識、信仰、道徳、法、習俗、その他人間が社会の一員として獲得したすべての能力と習性を含むひとつの複雑な全体」と定義し、文化を行動パターンと捉え、文化には優劣がありヨーロッパ文明社会を頂点とした文化の階層性を説明した。そして、「未開人」集団も後天的に文化を習得し、ヨーロッパ文明社会と同等の文化を十分に発達させることができるとした。

そののち、アメリカの人類学者フランツ・ボアズ(1886)は、文化の定義を明確にしていなかったが、「未開人」の現地調査から、それぞれの文化は等しく価値を認められるべきという文化相対主義を強調した。ボアズの考え方は、ルース・ベネディクト(1887)やジェームズ・ピーコック(1886)によって、文化とは「特定の集団のメンバーによって、学習され共有された自明でかつきわめて影響力のある認識の仕方と規則の体系」と定義している。ボアズ以降の文化の定義の特徴は、文化を階層ではなく相対でとらえ、行動パターンのみでなく行動に意味が付与されることを含めていた。

このような文化の捉え方の多様性について、クローバーとクラックホーンが、261 に及ぶ文化の定義や説明を整理(表2)、7つの定義と6つの説明に分類した(江村, 2003)。また、桑山(2005)は、文化の特徴と内容を「文化は学習される」、「文化は共有される」、「文化は理念と実践の双方からなる」、「文化は統合されている」、「文化は適応の手段である」、「文化は変化する」の6つとしている(表3)。

文化社会学では、北川(1999)が、クラックホーンの文化の定義を「明示的・暗示的に存在する、行動に関する、または行動のためのパターンからなり、シンボルによって獲得され伝達されるもので、人間の集団の顕著な功績である。文化の本質的な中核は、伝統的に継承されてきた観念や、

とりわけそれに付与された価値からなっている」と和訳した。そのうえで、社会学的に文化を分析する視点を、シンボルの体系、意味の体系、価値の体系に整理し、文化の類型として、物質形態の有無により精神文化を「文化」とし、物質文化を「文明」とする類型、あるいは意味の性質により「明示的文化」と「匿名的文化」とする類型、さらに文化の受け入れられている社会成員の範囲により「普遍的文化」、「特殊的文化」、および「選択的文化」とする類型を提案した。さらに文化のとらえ方は、研究目的や方法によりこれからも考案され続け、多様性が増すと結論づけている。

文化心理学の分野では、ヴントが、環境と心を独立させ、機能的な心を研究する「生理心理学（実験心理学）」と文化的所産としての心を研究する「民族的心理学」の二つの心理学を提唱した(Cole, 1996/2002)。石井(2010)は、心理学における文化の捉え方と研究方法を整理した。文化心理学における文化の捉え方は、適応体系と観念体系というふたつがあり、適応体系は、心と文化は切り離され、心が文化に適応していくために、文化は心に影響するという捉え方、観念体系は、文化は人間に内包され、あるいは人間を内包し、心と文化は双方向に影響し合うという捉え方である。また文化と心理に関する研究方法は、文化心理学的アプローチ、社会歴史的アプローチ、制度的アプローチの3タイプがあり、それぞれの文化の定義と特徴を表4に整理した。

以上のように、文化を研究対象とする学問分野は広がり、捉え方や定義も多様に発展してきた。

## 2. わが国の看護における文化の捉え方

看護学のテキストと文化看護学会誌から文化の捉え方(文化看護)を把握した。看護のテキストにみる文化看護については、看護基礎教育で「文化看護」について記述されているテキスト名とその内容に関する文献が2005年まで検討され整理されていた(佐藤ら, 2005)。その文献検討の継続として、2006年から2013年までの看護基礎教育における看護のテキストで文化がどのように扱われているか検討した。用いたテキストは、先行研究(佐藤ら, 2005)で文化看護の記述内容が掲載されていた基礎看護領域、地域看護領域(家族看護、在宅看護を含む)に老年看護領域を加えた。検討テキストは75冊中、目次か索引に文化のキーワードが含まれている13冊を分析対象とした。看護領域別で文化の記載があったものは、基礎看護領域は3冊、地域看護領域は8冊、老年看護領域は2冊であった。分類は文化についての記述部分を段落で抜き出し、その記述内容を佐藤らの項目に照らして分類した。

文化看護学会誌にみる文化看護については、文化看護学会が発行している全ての学会誌である第1巻～第5巻(2009～2013年)を用いた。対象文献は、総説、原著、報告、資料であり、寄稿論文や学会活動の報告等は除外し21件に絞り込み、文化の捉え方に関する記述を要約し、内容ごとに文化の捉え方を分類した。

### 1) 看護のテキストにみる文化看護

文化の記述のあったテキスト13冊(表5)を佐藤らの先行研究の記述内容の項目である「文化の定義」、「文化の構成要素」、「看護における文化」、「地域保健医療福祉における文化」に照らし分類した。文化の記述内容は、文化の定義に関することは5冊、文化の構成要素に関することは1冊、看護における文化に関することは13冊、地域保健医療福祉における文化に関することは5

冊にみられた（表 6）。

文化の定義に関する記述内容は、テキストごとに特徴はあったが、前述した桑山の文化の概念の 6 つの特徴(桑山, 2005)を包含していた。

看護における文化は、基礎看護領域、地域看護領域、老年看護領域に記述されていた。記述内容は、佐藤ら(2005)の看護における文化について「看護の対象となる「個人」、「家族」、「地域」あるいは「病気」、「健康」というものは、文化によって規定されるもの、あるいは文化そのものとして捉えて理解し、それを踏まえた看護ケアをすることが重要である」という結果と同様のものがあつた。

佐藤らの先行文献(2005)にはみられなかった内容として、基礎看護領域では、「日本人は、文化的背景の異なる人々と接する機会が少なかったために、異文化を感性ではなく知識レベルで理解しようとする。(ID8)」と、我が国では文化を看護の中にとり入れるために、自文化を意識する必要性を記述していた。また、地域看護領域では、「家族のアセスメントと同時にその家族が暮らす地域の文化的価値観のアセスメントが重要になる。(ID24)」と、家族のアセスメントには、地域の文化的価値観のアセスメントの視点の重要性を記述していた。老年看護領域では、「人々の老いに対する意識は人々が生きてきた時代や文化により変化している (ID29)」ので「現代の工業化社会のように生産者としての能力に重きが置かれる文化的価値観では、高齢者の社会行動に影響を与え・・・(ID28)」と、社会のまなざしが老いの価値観を形成すると記述していた。また、「高齢者は自文化や価値観に接することで心癒やされるので、現在の生活が自文化や価値観と一致していることが重要である。自文化や価値観は意識しづらいので言語化されにくいいため、高齢者の文脈や行動場面から対象理解する姿勢が必要である。(ID32)」と、高齢者の生きている文化を、意識的に理解する必要性を記述していた。

地域保健医療福祉における文化については、佐藤ら(2005)の先行文献では、看護専門家以外の社会学や心理学、公衆衛生学のそれぞれの分野で取り扱われていた。しかし今回の研究では、基礎看護領域と地域看護領域にみられ、「・・・文化の違いが政治問題とされるようになった。その解決には、文化、宗教、民族、性別の違いを受け入れる・・・(ID33)」、「世界において、健康に悪い影響を及ぼす文化の例を紹介・・・(ID34)」、「日本人が移民により、日本文化の価値観を時間とともにどのように引き継いでいるかの紹介・・・(ID37)」など、グローバル化社会における健康問題への取り組みを世界レベルで記述していた。また、「離島には、歴史や独自の風土を育み・・・健康問題への対応に影響している。(ID35)」、「地域には・・・老いや障害、死をめぐる地域の文化的風土があり、それは近隣の助け合いに影響する。(ID36)」と、特定の地域の文化を意識したローカルな健康問題への取り組みも記述されていた。

## 2) 文化看護学会誌にみる文化看護

文化看護学会誌の 21 文献を「外国の文化に関すること」7 文献と「日本の文化に関すること」14 文献に大別し、記述内容から文化の捉え方を分類した（表 7）。

外国の文化に関することでは、文化の捉え方は、「日本と外国の比較」と「外国出身者が日本文化に適応する過程」に分けられた。

日本と外国の比較は、「認知症の捉え方の違いにもとづく認知症ケア実践の日本と中国の比較」

があった(ID1)。外国出身者が日本文化に適応する過程は、「外国出身看護師が日本の医療現場で体験する人間関係や看護技術の文化的差異を獲得する工夫と適応」があった(ID4)。

日本の文化に関することでは、文化の捉え方は「個人の生活体験による認識と意味」、「家族の生活体験による認識と意味」、「地域の特徴による人とのつながり」、「歴史の生活への影響」、「看護職が異なる地域文化にふれる体験」、「組織の特徴による人とのつながり」に分けられた。

個人の生活体験による認識と意味は、例えば、糖尿病患者に自分の身体についてどのように思うか質問すると、身体変化を知識だけでなく、自ら体験した身近な病人の身体変化の記憶から自己の身体をとらえる「糖尿病患者の主観的な身体の捉え方に影響する生活体験と身近な病者の身体変化の記憶」があった(ID10)。

家族の生活体験による認識と意味は、終末期がん患者の家族の意思決定と家族介護に対する姿勢の“ゆれ”は、患者の希望や心情を理解し寄り添おうと思う反面、周囲から提供される情報で「こうすべき」という規範に惑わされてしまう、があった(ID14)。

地域の特徴による人とのつながりは、地域のつながりが農作業や冠婚葬祭の相互扶助的な「ゆい」によって支えられた地域が、「ゆい」の衰退により地域での人と人とのつながりによる助け合いが希薄化していることを懸念し、新たな組織づくりによるつながりをつむぐ、があった(ID16)。

歴史の生活への影響は、日本独自の睡眠援助方法となった足浴を洞察するために、看護学の教科書などから理論的背景や、関連する日本の習慣や歴史との関連を調べた「看護技術(足浴療法)について、歴史からその起源と生活習慣との関係を紐解き、日本独自の看護ケアを考察」があった(ID17)。

看護職が異なる地域文化にふれる体験は、沖縄で看護経験を持つ看護職が、患者がユタを精神的拠り所に行っていることや特殊な民間療法を受けているなどの事実を体験する、があった(ID20)。

組織の特徴による人とのつながりは、専門看護師に役割遂行をさせるために看護管理者が、モチベーションへの支援や伝統的な縦割り組織で専門看護師が役割を遂行できるよう、組織で横断的に関われる職位につけ支援をする、があった(ID21)。

文化という概念は、人間理解をめざす学問領域で多様性を持ち、人間を対象とする看護領域でも国内外で「文化看護」、「cultural nursing」、「cultural care」として取り入れられていた。

看護基礎教育における文化看護は、理論書で1980年代、看護のテキストでは、1990年代に地域看護領域、2000年代に基礎看護領域、老年看護領域では、2010年代に記述がみられた。このように看護基礎教育では、文化看護を取り扱う領域の拡がりが見える。その記述内容は、先行研究では、看護の対象が文化によって規定されるものであり、文化を踏まえた看護ケアの重要性を記述していた。今回の結果では、文化看護を先進させ、単一民族であるが故に異文化に触れる機会が少ない日本人の特徴から自文化を意識する必要性、家族のアセスメント項目に文化的価値観の追加する提案、社会のまなざしと老いの価値観の関係、健康問題の取り組みは、グローバルな視点とローカルな視点で文化を意識することを記述していた。

文化看護学会誌からみた文化看護の研究は、外国とわが国との国際比較よりもわが国の個人や家族、地域や組織の持つ文化の特徴について多く取り上げられていた。特に、個人や家族の生活体験や看護職が異なる地域文化にふれる体験というように体験に意味をのせて文化を紐解き、対



象の持つ異文化と看護職の持つ自文化の相違を認識し対象理解につなげていた。また、特定の地域を取り上げ、歴史的な生活習慣や人とのつながりの理解から看護ケアを組み立てる研究が行われていた。つまり価値観や規範の異なる人間として異文化を理解する研究が行われているといえる。

### 3. 国内外の高齢者の文化看護の研究

国内文献の抽出は、国内の医学・看護学関係文献を網羅的に収録している医学中央雑誌 web 版を用い、1989 年～2013 年を検索対象とした。キーワードは「文化」、「看護」、「高齢者」とし、「文化」×「看護」×「高齢者」で 398 件であった。さらに「原著」と「総説」を抽出し 174 件に絞り込んだ。絞り込んだ後、論文名、キーワード、要旨のどちらにも「文化」の文字が記されていないもの、及び固有名詞（〇〇文化大学）や行事（文化祭）などは除外し、分析対象を 61 件とした。分類は、先に文化看護学会誌の掲載文献を、研究目的、対象、方法から、研究メンバー間で帰納的な分析をくり返し、高齢者ケアにおける文化看護について「個人の持つ文化」、「家族の持つ文化」、「地域の持つ文化」、「移民の文化」、「組織・専門職文化」、「文化の比較」、「文化の教育と研究の方法」の 7 つの項目に統合した。

国外文献の抽出は、看護とそれに関連する医療分野の文献を収録している CINAHL を用い 1981 年以降を検索対象とした。キーワードは「cultural」、「nursing」、「elderly」とし、「cultural」×「nursing」×「elderly」で 25 件、abstract 検索で 12 件に絞り込んだ。同様に「local」×「cultural」×「elderly」の abstract 検索は 7 件、「cultural care」×「nursing」×「elderly」の abstract 検索は 10 件であった。また、PubMed を用いて「cultural care」×「nursing」×「elderly」の abstract のあった 61 件を加えた。絞り込んだ文献に重複はなく、abstract を読み内容が高齢者と関連性がない 5 件を除外し、検討文献は 85 件とし、国内文献と同様に分類した。

高齢者ケアにおける文化看護を、文化看護学会誌の掲載文献から検討すると 7 項目であった（表 8）。その分類で国内外の文献を整理すると、国内文献は「地域の持つ文化」、「文化の比較」がそれぞれ 15 件（24.6%）、「移民の文化」3 件（4.9%）であった。それに対し、国外文献は「移民の文化」が 25 件（29.4%）と最も多く、「家族の持つ文化」が 0 件であった。

国内外の研究を概観すると、「個人のもつ文化」には、当事者としての要介護高齢者や健康障害をもった高齢者の生活の実態やケア、レイニンガーの看護理論の有用性などがあった。「家族の持つ文化」には、高齢者の健康の変化（終末期、認知症など）に対する家族や介護者の体験や認識、家族のきずなや家族間の文化の伝承などがあった。「地域のもつ文化」には、地域の文化に影響される高齢者の健康やケア、看護師が体験した地域文化的看護体験があった。「移民の文化」には、移民を対象とした高齢者の健康の実態とケアがあった。「組織・専門職文化」には、病院や施設におけるケアの文化、看護師、介護支援専門員など専門家の高齢者やケアに対する意識などがあった。「文化の比較」には、民族や国単位の健康の比較、在日の外国人における文化の健康やケアへの影響などがあった。「文化の教育と研究の方法」には、文化的能力を育てる教育方法・カリキュラムの開発などの教育、高齢者の健康をナラティブアプローチやエスノグラフィー等を用いて明らかにする質的研究などがあった。

以下、項目ごとの文献例を紹介する。

### 1) 個人の持つ文化

国内の例として、障害をもつ当事者の地域生活を支える看護への示唆を得ることを目的とした文献(宇野澤, 2013)は、重度身体障害を持つ高齢期の女性を対象とし、重度身体障害を持ちながら生活している人の体験を当事者の語りからライフストーリー研究の方法を用いて分析していた。当事者の体験の行動パターンと語りによる意味を付与するとし、個人の持つ文化として捉えていた。

国外の例として、レイニンガー理論を適用して高齢者の日常的ケアを分析することを目的とした文献(Souza. et al, 2012)は、II型糖尿病を持つ高齢者を対象に、半構成的面接を実施し、内容分析と contemplated pre-analysis で分析していた。レイニンガー理論から導かれたカテゴリーにより、II型糖尿病を持つ高齢者の日常ケアを、個人の持つ文化として捉えていた。

### 2) 家族の持つ文化

国内の例として、家族の文化の違いを探り、家庭内において健康行動に影響を及ぼし得る文化がどのように伝承されているか検討することを目的とした文献(深澤, 2005)は、三世代(祖母・母・娘)を対象とし、インタビュー法を用い、データから各世代間の文化と思われる内容を分類し分析していた。3世代家族間において家庭内文化を伝承する、家族の持つ文化として捉えていた。

### 3) 地域の持つ文化

国内の例として、看護職の地域文化的看護体験と沖縄の地域文化の関係の検討を目的とした文献(知念ら, 2011)は、沖縄で看護経験のある看護師を対象に、沖縄で暮らす患者・家族・住民とのかかわりの中で認識した地域文化的看護体験について聞き取り、データを分類整理し、その結果を沖縄の地域文化との関連において検討していた。沖縄での看護の地域文化的な特徴を、地域の持つ文化として捉えていた。

国外の例として、ファミリーヘルスチームのコミュニケーションの有効性を評価することを目的とした文献(de Almeida. et al, 2013)は、ケアの受手である高齢者を対象にインタビューを実施し、質的に分析していた。高齢者とケア提供者のコミュニケーションに影響する要因として、地域の持つ文化を捉えていた。

### 4) 移民の文化

国内の例として、ブラジル日系永住者の地域における健康づくりの担い手としての役割と日系コロニアにおける健康に関する支援のあり方を明らかにすることを目的にした文献(佐藤ら, 2012)は、コロニアのリーダーを対象に、半構成的面接を実施し、エスノグラフィーを一質的帰納的に分析していた。健康づくりにおいて移民として異文化のなかで自文化と照らして検討し、移民の文化として捉えていた。

国外の例として、英語を話さない認知症高齢者をナーシングホームに入所させた介護者(親戚)の体験を明らかにすることを目的とした文献(Kong, 2006)は、家庭での介護者を対象としてインタビューを行い、内容分析を行っていた。韓国人の物事の考え方と認知症のとらえ方を、認知症ケア提供における韓国人特有の基本的文化モデルとし、移民の文化として捉えていた。

### 5) 組織・専門職文化

国内の例として、療養病棟における高齢者と看護師の入浴援助場面の構造を明らかにすることを目的とした文献(坂井ら, 2008)は、療養病棟の経験の長い看護師と長期入院している高齢者を対象とし、看護師による高齢者の入浴援助場面を参与観察と当事者インタビューを行い、KJ法で分析していた。療養病棟の文化の影響をうける看護師と高齢者を、組織文化として捉えていた。

国外の例として、看護師不足の原因を明らかにすることを目的とした文献(McNeese-Smith, 2001)は、看護師を対象に離職に影響する要因を調査し、内容分析で分析していた。組織として離職に関与している要因を組織文化として捉えていた。

#### 6) 文化の比較

国内の例として、日本と中国の看護の相違点の認識を調査することを目的とした文献(安部ら, 2010)は、日本で看護研修経験のある中国人看護師を対象とし、中国の看護理解と異文化看護の分析に数量化し検定を用いる方法であった。国単位の異文化看護を理解する、比較文化として捉えられた。

国外の例として、糖尿病を持つアメリカ原住民の、足の潰瘍を治癒させる生物医学的および伝統的方法についての認識を明らかにする目的の文献(de Vera, 2003)は、アメリカ原住民を対象に、エスノグラフィックな方法を用いてデータを収集し、レイニンガーのサンライズモデルを枠組みとして分析していた。自国内に居住する原住民の文化を理解する、比較文化として捉えていた。

#### 7) 文化の教育と研究の方法

国内の例として、糖尿病治療を中断し通院再開する時、それに至るまでにどのような体験をしているかを明らかにすることを目的とした文献(藤田ら, 2012)は、Ⅱ型糖尿病患者を対象とし、エスノグラフィーの手法を方法としていた。治療の中断から再開までの体験を文脈として理解する、文化の研究方法として捉えた。

国外の例として、文化に配慮したケアの評価ツールを導入することを目的とした文献(Jeffreys et al, 2013)は、看護学生を対象に、一つの評価ツールで文化的能力を測定していた。看護実習における教員と学生の学びの共有を、文化の教育方法と捉えていた。

### 4. 文化看護における地域文化

文化看護について、前述の通り、国内外の文献を検討した。国内外の特徴として、国内文献は「地域の持つ文化」、「文化の比較」が多く、「移民の文化」は少なかった。それに対し、国外文献は「移民の文化」が最も多く、「家族の持つ文化」は皆無であった。

文化看護の教育は、単一民族であるが故に異文化に触れる機会が少ない日本人の特徴から、自文化を意識する必要性を述べていた。老年看護領域では、社会のまなざしが老いの価値観を形成するとし、高齢者の生きている文化を意識的に理解する必要性を述べていた。

文化看護の研究は、外国とわが国との国際比較よりもわが国の個人や家族、地域や組織の持つ文化の特徴について多く取り上げられていた。特に、対象の持つ異文化と看護職の持つ自文化の相違を認識し対象理解につなげていた。また、特定の地域を取り上げ、歴史的な生活習慣や人とのつながりの理解から看護ケアを組み立てる研究が行われていた。

このように我が国の文化看護は、日本人を対象とした教育研究を主流として行われてきたといえる。

ところで、地域文化とは何か。沖縄の地域文化の特徴は何か。地域文化について、農林水産省は、「特定の地域の固有の風土の中で暮らしてきた人々によって育まれ、共有され、伝承されてきた生活様式としている(農林水産省, 2006)。沖縄の歴史と文化に精通した外間(1986)は、「文化のとらえ方として、スモール・トラディション(村落レベル)とグレート・トラディション(国家や民族レベル)を提示し、「沖縄文化のとらえ方として、スモール・トラディションの視点は適切であり、有効な方法論が生み出される可能性と期待がもたれる」と述べている(外間, 1986)。そして、民俗学や文化人類学の研究者によって提唱された国家や民族レベルの文化とは異なる村落レベルで文化を捉える(地域文化)ことで有効な方法論が生み出される可能性と期待が持てる」とも述べている。

また、地域文化ケアを推進する立場から、野口(2007)は、地域文化を「ある地域の集団のメンバーによって幾世代にもわたって獲得された知識、経験、信念、価値観、態度、社会階層、宗教、役割、時間、空間関係、宇宙観、物資所有関係といった諸相の集大成」と述べている。そして、下地(2007)は、「特定の地域に共有される言語や生活様式」とし、構成する要素として①方言で会話すること、②地域に住み続けること、③地域の伝統行事に参加すること、④地域行事に参加することを地域文化行動として、地域文化行動が高齢者の幸福感と健康感に影響することを示していた。

このように、村落レベルで捉える地域文化に根ざしたケア(地域文化ケア)は、民俗学や文化人類学者、また看護分野での文化ケアの創設者であるレイニンガーの国家や民族レベルで捉える文化に根ざしたケア(文化ケア)とは異なる研究が必要であると考えられる。

## 第2節 文化的感受性と地域文化ケア

地域文化ケアにおける文化的感受性の必要性を導くために、1. 文化的感受性(cultural sensitivity)の概観、2. 看護における文化的感受性の国内外の研究、3. 地域文化ケアにおける文化的感受性について文献検討を行った(図2)。

### 1. 文化的感受性(cultural sensitivity)の概観

感受性とは、辞書によれば「外界からの刺激を深く感じ取り、心に受けとめる能力」(三省堂編集所, 2006)とされ、教育学では、「感受(性)とは、知覚(五感)したものから想像力(価値や理念)が生じたときの感情である」としている(田中, 2017)。したがって、感受性(sensitivity)とは、人間の感情領域の概念であるといえる。

文化人類学の視点から看護を捉えた Leininger は、1960年代に文化ケア、文化の多様性、文化的価値観、文化的コンテキストなどの用語を用い、異文化看護を提唱した(Leininger, 1991/1995)。そして、文化的能力(cultural competency)の概念や定義については、1980年代に、Crossらや Greenによって言及され始めたことが報告されている(Burchum, 2002)。

#### 1) 文化的感受性と文化的能力

文化的感受性と文化的能力との関係を検討するために、文化的能力の概念や定義について整理した(表9)。Burchum(2002)は、Rodgersの進化的概念分析を用いて、「文化的意識」、「文化的

知識」、「文化的スキル」、「文化的感受性」、「文化的相互作用」、「文化的理解」の6つの属性を特定し、文化的感受性は文化的能力の属性のひとつとしていた。Burchum (2002)の文化的能力の6つの属性は、他の概念分析研究でも支持された(Jirwe ら、Smith、Suh)。そのほか、Baccote (2002)は、医療サービス提供における文化的能力のプロセスの論文で、「文化的能力はプロセスであり、事象ではない」とし、「文化的能力は、文化的意識、文化的知識、文化的スキル、文化的出会い、文化的欲求の5つの構成からなる」と定義していた。Suh (2004)は、進化的概念分析による文化的能力のモデルを提示し、文化的能力をプロセスとして、文化的意識、知識、感受性、技能、出会いを重視していた。Purnell (2005)は、文化的能力のためのPurnellモデルの論文で、文化的能力を知識やスキルだけでなく、「文化的能力を受け入れ尊重する」などの文化的能力の特性を示していた。Shen(2015)が、文献レビューを行い、看護における文化的能力を、「感情領域の文化的感受性、認知領域の意識、知識、理解、スキル・実践・行動領域のスキル、相互作用と出会い」としていた。

## 2) 文化的感受性の概念

文化的感受性の概念については、Foronda (2008)は、「自身その他の認識を識別して、多様なグループまたは個人に出会った後に、その人の知識、考慮、理解、尊敬とテーラリングを採用する。文化的感受性は、効果的なコミュニケーション、効果的介入と満足感に終わる」と述べていた(表10)。そして、Rodgersの概念分析を用い、前提、属性(特質)、結果に整理している(Foronda, 2008)。Forondaは、前提を「多様性」、「認識」、「経験」、属性を「知識」、「考慮」、「理解」、「尊重」、「テーラリング」、結果を「効果的なコミュニケーション」、「効果的な介入」、「満足感」としていた。そのほか、Burchum (2002)は、文化的感受性を文化的能力の属性のひとつとし、「文化的多様性を評価し、尊重し、評価することで発展する。そうすることにより自らの個人的かつ職業的なアイデンティティが実践にどのように影響するかを理解するようになる。効果的な文化交流を体験するにはこの段階が不可欠である」としていた。Purnell (2005)は、文化的能力と文化的感受性は同義とし、「クライアントの文化を受け入れ、文化的差異を尊重し、文化的遭遇の開放性(文化的出会いの受け入れ)、クライアントの適応に対する自己文化の認識、知識、理解である」としていた。Shu (2004)は、文化的感受性には文化的差異に関する感情認識が含まれるとし、「文化的感受性は、文化的能力の必須要素である文化的多様性に対する意図的かつ感情的な認識である。文化的感受性は、文化的差異に対する敬意を表している」としていた。

図3は、文化的感受性と文化的能力について、6人の看護研究者の文化ケアの概念や定義の論文をまとめた。Forondaは文化的感受性として整理していたが、5人の研究者は、文化的能力として整理していた。このように、文化的感受性についての概念や定義は必ずしも合意形成は得られていないといえる。

以上のことから、文化的感受性は、文化的能力の一部であるとしながらも、文化的感受性の属性には、「意識」、「知識」、「理解」、「出会い」、「テーラリング(技能)」という文化的能力の属性と重なっているものと、「考慮」、「多様性」、「尊重」という重ならないのものも含まれていた(図4)。

## 2. 看護における文化的感受性の国内外の研究

看護における文化的感受性の研究について、国内外の文献から概観した。国内文献は、文化的感受性と文化的能力について、国外文献は文化的感受性について文献検討した。

### 1) 文化的感受性の国内文献

国内文献の抽出は、国内の医学・看護学関係文献を網羅的に収録している医学中央雑誌 web 版を用いた。キーワードは「文化」、「看護」、「感受性」とし、15 件であった。抄録の有無を確認し、「あり」はそれを読み、抄録で内容が把握できない場合および抄録「なし」は文献を取り寄せて読んだ。文化的感受性についての記述がみつからない 5 件を除外し、文化的感受性の検討文献は 15 件中 10 件とした。文化的感受性については、文献数が少ないため、原著論文だけでなく、会議録、解説を加えた (表 11)。

文化的感受性についての内容をまとめると、「看護基礎教育に関すること」5 件、「看護実践に関すること」3 件、「看護・看護政策への提言に関すること」2 件であった。

#### (1) 看護基礎教育に関すること

日本人の看護学生の文化的感受性については、文化的感受性に関連する要因として、海外での家族の利益、家庭環境における宗教的信念、訪問国数があったとしていた (文献 5, 7, 8)。また、日本人看護学生は、異文化感受性発達モデルで受容の段階にあり、異文化に対する違いの存在を認め、正しく理解する姿勢を持っているとし、海外渡航の経験や留学生との関わりが影響を及ぼしているとしていた (文献 9)。看護学生の海外研修前後の異文化間感受性は、研修中の体験の意味づけや相手の価値観に立脚した捉え方が影響すると報告していた (文献 1)。

#### (2) 看護実践に関すること

松岡は、精神科訪問看護領域で、熟練した看護師の看護実践のインタビューから、文化的感受性を備えたりカバリー志向の看護援助は、「人生や生活という視点で利用者の体験を理解しようとする文化的感受性を基盤として、利用者のストレングスに焦点を当て、希望に寄り添い、自己決定を重視することである」としていた (文献 6)。そして、文献レビューにより、文化的感受性を備えた実践は、「看護師自身の実践の振り返り、利用者と看護師の立場を行き来すること、利用者に関わる人々の多様な意見を取り入れることという 3 段階の複眼的思考に基づく」とし、3 つの階層が相互に影響し合うとしていた (文献 4、文献 2)。

#### (3) 看護・看護政策への提言に関すること

訪日外国人と出国日本人が増加する中、医療者の多文化に対する感受性の涵養の必要性がある (文献 3) と、非言語的コミュニケーションは異なる文化圏の文化的感受性を発達させる。また、患者と面談する際の手法は、ワトソンの理論による教授法を提言していた (文献 14)。

### 2) 文化的能力の国内文献

国内文献の抽出は、国内の医学・看護学関係文献を網羅的に収録している医学中央雑誌 web 版

を用いた。キーワードは「文化」、「看護」、「能力（コンピテンシー）」とし、41件であった。抄録の有無を確認し、「あり」はそれを読み、抄録で内容が把握できない場合および抄録「なし」は文献を取り寄せて読んだ。文化的能力についての記述が見つからない9件を除外し、文化的能力の検討文献は41件中30件とした（表12）。

文化的能力についての内容をまとめると、看護基礎教育に関すること5件、看護継続教育に関すること4件、看護実践に関すること11件、看護管理に関すること10件の4つに分類された。

### **(1)看護基礎教育に関すること**

看護基礎教育に関することには、異文化看護を推進する必要性、看護教育における文化の理解の現状があった。

#### **<異文化看護を推進する必要性>**

日本の異文化看護の教育カリキュラムの推進の必要性（文献1）や、国際看護に必要な能力の育成のために必要な内容（文献15）について述べられていた。

#### **<看護教育における文化の理解の現状>**

臨床実習において専門性により認識に文化的特徴があること（文献21）や、看護教育における日本文化についての科目を評価検討し（文献31）看護学生の文化の理解の現状が述べられていた。

### **(2)看護継続教育に関すること**

看護継続教育に関することには、看護専門性と文化的対応の必要性、新人看護師育成と職場の文化の醸成があった。

#### **<看護専門性と文化的対応の必要性>**

看護専門職の役割移行における行動様式の獲得（文献17）や実践知を育むための文化的対応の必要性（文献2）について述べられていた。

#### **<新人看護師育成と職場の文化の醸成>**

新人看護師が看護実践現場でなじむ移行のプロセス（文献21）や職場での育成のため、中堅看護師の支援内容の評価（文献5）をして職場文化の醸成をしていた。

### **(3)看護実践に関すること**

看護実践に関することには、外国人への文化的意識と評価、異文化看護活動に必要な能力とプロセスの開発、外国人看護師の文化的理解の課題、があった。

#### **<外国人への文化的意識と評価>**

日本人の外国人患者への看護実践の経験による認識では cultural competence の獲得のプロセスがあった（文献14）や、異文化間看護能力について尺度の開発、評価（文献40）をし、外国人への文化的意識の評価をしていた。

#### **<異文化看護活動に必要な能力とプロセスの開発>**

国際協力活動において看護師に必要なコンピテンシーの獲得プロセス（文献28）を明らかにし、異文化看護活動に必要な能力とプロセスの開発をしていた。

#### **<外国人看護師の文化的理解の課題>**

外国人看護師が日本で働くために、看護師国家試験合格に向けての課題（文献 27）があることや日本独自の文化的理解を含めた研修の必要性（文献 33）について述べていた。

＜外国人の文化看護の実践の評価＞

外国の看護職が地域の産後習慣を取り入れたケアの実践（文献 10）や、院内助産所の取り組みの評価（文献 13）という海外の文化看護に関する実践の評価があった。

#### **(4)看護管理に関すること**

看護管理に関することには、組織の安全文化の効果、職場の風土と職務能力との関係、職場の環境と職務継続との関連、組織の文化の改善と評価があった。

＜組織の安全文化の効果＞、

看護部のコミュニケーションの向上の取り組みによる安全文化の構築（文献 8）や ICUでのコミュニケーションの向上の取り組みによる安全文化の効果を評価（文献 9）していた。

＜職場の風土と職務能力との関係＞

看護職の自尊感情を高める職場の風土作りの必要性（文献 30）や看護師が捉える職場の組織風土の意識と課題を評価し（文献 16）、職務能力との関係を報告していた。

＜職場の環境と職務継続との関連＞

看護職のバーンアウトと看護実践環境（文献 25）や中堅看護師の職務継続の要因（文献 29）と職場の環境との関連について述べられていた。

＜組織の文化の改善と評価＞

看護部の自主・自立のための組織の変革により、看護実践能力が向上していた（文献 36）という組織の文化の改善と評価を報告していた。

### **3) 文化的感受性の国外文献**

国外文献の抽出は、看護とそれに関連する医療分野の文献を収録している CINAHL PubMed で 2018 年 5 月に検索した。検索キーワードは「cultural」、「sensitivity」、「nursing」とし、「cultural」×「sensitivity」×「nursing」で 2,651 件、「cultural sensitivity」×「education」×「nursing」で 1,058 件、「cultural sensitivity in nursing」のフレーズで 67 件、重複を削除し 55 件であった。Abstract の有無を確認し、「あり」はそれを読み、抄録で内容が把握できない場合および抄録「なし」は文献を取り寄せて読んだ。文化的感受性（cultural sensitivity）の記述ない文献 2 件を除外し、検討文献は 53 件とした。これらの文献は 1976 年～2017 年が出版年であった。

文化的感受性についての内容をまとめると 53 件、「看護基礎教育に関すること」27 件、「看護継続教育に関すること」7 件、「看護実践に関すること」14 件、「看護・看護政策への提言に関すること」5 件の 4 つに分類された（表 13）。

#### **(1)看護基礎教育に関すること**

看護基礎教育については、文化的感受性を促進する教育の要因、海外留学・外国人・マイノリティを活用した教育の効果、文化的感受性のプログラムの開発・その発達の評価、臨地実習による文化的感受性の効果が含まれていた。



#### <文化的感受性を促進する要因>

看護教育における文化的感受性を促進する教育実践の特定、看護教育経験や教育プログラムの種類は、文化的感受性の促進に影響すること（文献 44）、学生の文化的感受性に影響する要因（共感、自己効力感、海外旅行の経験、文化教育の認識）の特定（文献 25）など文化的感受性を促進する要因があった。

#### <海外留学・外国人・マイノリティを活用した教育の効果>

海外留学は文化的感受性を高める（文献 51）、外国人との交流経験や外国人は文化的感受性が高い（文献 12）、少数派の看護師の存在は看護文化の意識と感受性を高める（文献 27）など、海外留学・外国人・マイノリティを活用した教育は文化的感受性を高める効果があると報告していた。

#### <文化的感受性のプログラムの開発・その発達の評価>

国際看護交流プログラム（文献 6）、多様性チャレンジスケール（文献 45）、文化的意識尺度（文献 31）、多文化カリキュラム（文献 43）など文化的感受性のプログラムを開発していた。

また、開発されたプログラムの評価を行い、文化的感受性が「育った環境」、「実際の過去の異文化体験」、「過去の異文化体験の主観的印象」が影響していることを明らかにした文献（文献 22）、文化的感受性には「彼ら」「私達と彼ら」「私達」「超越者」の4つのレベルがあることを明らかにした文献（文献 13）、文化的意識や感受性に成果を上げている文献（文献 21）、多文化カリキュラムにより行動と態度が変化し成果を検証している文献（文献 43）など看護基礎教育において文化的感受性のプログラムは教育効果があることを評価していた。

#### <臨地実習による文化的感受性の効果>

臨地実習は、文化的理解と感受性に効果がある（文献 24）、多様な文化を持つ臨地実習先は看護学生が文化的感受性を学ぶ機会になっている（文献 30）など、臨地実習は文化的感受性を高める効果があるとしていた。

### (2)看護継続教育に関すること

看護継続教育に関することには、看護教員の文化的感受性の必要性和効果、看護職者の文化的感受性の教育の効果が含まれていた。

#### <看護教員の文化的感受性の必要性和効果>

看護教員の文化的感受性は、交流プログラムの参加や海外の教育経験に影響を受ける（文献 9）、看護教員の文化理解によって、マイノリティ学生の教育効果が挙がる（文献 37・38）、看護教員が文化的知識や感受性を高め教育に取り組む必要性和その対応（文献 34）などがあり、看護教員が文化的感受性を高めることで看護教育の効果が向上するとしていた。

#### <看護職者の文化的感受性の教育の効果>

看護スタッフの文化的意識と感受性を高めるために多分野とのチームアプローチケアは効果がある（文献 2）、文化的感受性を高めるための看護の研修の効果（文献 41）があり、看護職者の文化的感受性は継続教育により高められると効果を示していた。

### (3)看護実践に関すること

看護実践に関することには、文化的感受性の意味と必要性、文化的感受性のプログラムの開発・その評価が含まれていた。

＜文化的感受性の意味と必要性＞

異文化との出会いによる看護実践から文化的感受性はケアに不可欠である（文献 3）、看護実践には文化に関する知識と文化的感受性と安全性を備えることが必要である（文献 55）などがあり、看護実践における文化的感受性の意味と必要性を述べていた。

＜文化的感受性のプログラムの活用と評価＞

価値観思考ツール（文献 54）、終末期ケア教育プログラム（文献 42）などの文化的感受性のプログラムの活用は、ケアの改善に有効であったと評価していた。

#### **(4) 文化的感受性の提言・政策に関すること**

文化的感受性の提言・政策に関することには、文化的安全性の提言（課題）、文化的感受性を発達させる政策が含まれていた。

＜文化的安全性の提言（課題）＞

これまでの異文化看護をステレオ的に実施するのではなく、個別ニーズに対応する文化的に適切なケア提供のための課題（文献 36）、移民や難民受け入れに向けた文化的に安全な助産実践への提言（文献 7）があり、文化的安全性を取り上げていた。

＜文化的感受性を発達させる政策＞

包括的に反人種差別の看護に向けて、看護政策として看護教育カリキュラム改訂の提言（文献 10）、看護学生の採用促進と離職防止のための政府の政策（文献 17）があり、文化的感受性を発達させるために政府が取り組んでいた。

### **3. 文化ケアと地域文化ケア**

グローバル化が進展し、多様性と普遍性または共通性が追求される中、日本という地域の文化看護（ケア）はどうあるべきかとの問いに応えるべく、千葉大学で「日本文化型看護学」への序章が始まった。石垣は、千葉大学 21 世紀 COE (Center of Excellence) プログラムの報告書（2008）で、「看護を提供する側とされる側が共に同質の文化的な背景を持っていれば、看護実践上はより奥深い配慮がなされるが、それを意識化することは難しくなる。・・・日本社会の文化的変貌は著しくとも、底流には人々が心の拠り所とし、またその行動様式の核は存在する」として、日本の文化に根ざした独自の日本文化型看護学の構築をめざした。そして、「日本文化」としてのみ存在するのではなく世代や地域などによって多様な文化的差異が存在していた。さらに文化の多様性だけでなく看護を提供する側、される側が共有する文化を背景に看護が行われていることが明確にされた。そして、日本文化型看護学の特徴を見いだす 4 つの視点として、「身体性」、「関係性」、「健康・生活の営みに関する価値観」、「社会・組織」とし、なかでも「関係性の重視」をあげた。

ところで、Leininger (1991/1995) は、文化とは、「ある特定の集団の思考や意思決定やパターン化された行動様式を支配する、学習され共有され伝承された価値観、信念、規範、生活様式」とし、文化ケアとは、「安寧や健康を維持したり、人間の条件や生活様式を高めたり、病気や障害や死に対処しようとする個人または集団を援助し、支持し、能力を与えるような主観的および客

観的に学習され伝承された価値観、信念、パターン化された生活様式」としている。

Leininger (1991/1995)は、異なる価値観と生活様式をもつ人々にケアを行う意味と方法として、サンライズモデルを開発した。しかし、日本文化型看護学のめざすものは、「・・・均質で同質性の高いお互い同士が、一人ひとりが異なる考えや文脈の上で存在しているという前提の下で、心地よい関係を形成し、医療の中で看護としての役割を果たしていく理論をつくること」としている。

したがって、地域文化ケアは、Leininger に代表されるような異文化看護学の学術範囲（国レベルや広域な地域レベル、特殊な種族の中で、特定の民族背景をもつ集団であることが多く、その集団の持つ文化に根ざし必要とされるケアに関わる実践）ではなく、地域文化（特定の地域の固有の風土のなかで暮らしてきた人々によって生まれ、共有され、伝承されてきた生活様式であり、日常生活における習わしやしきたり、生産の技術、住民間の共同、祭礼神事など）に感受性高く意識し、それらを反映させたケアに関わる実践）であるといえる。

つまり、外間が提示する文化の捉え方で説明すると、Leininger の文化ケアは、グレート・トラディション（国家や民族レベル）で捉えた異文化看護であり、地域文化ケアはスモール・トラディション（村落レベル）で文化をとらえたものといえる。

グローバル化の中でも、地域文化の影響を受け続ける保健医療のケア提供者と、地域文化に長くさらされながら生きてきた要介護高齢者とが織りなす地域文化ケアは、それぞれの持つ文化背景への感受性（文化的感受性）に焦点を当て、要介護高齢者のケアのあり方を研究する必要がある。

#### 4. 文化的感受性と高齢者ケアの教育の必要性

Bennett (1986)は、文化の学びを通して、文化的感受性は自文化中心的な段階（自文化中心主義）の「否定」、「防衛」、「最小化」から、文化相対主義の段階である「受容」、「適応」、「統合」へ発達するものとし、文化相対主義の程度が増すと共感力が高まるなど、学習され獲得される能力であることを示した。このように、文化的感受性はその経験を通して学習されるものとするれば、ケア提供者の文化的感受性は、要介護高齢者へのケアを通して、高齢者に内在している文化を学び学習され、地域文化ケアの実践に際し、高齢者のニーズ把握やケア提供の判断、ならびに高齢者の反応の評価に影響していると考えられる。

また、Foronda (2008)は、63 文献から対象理解のための文化的感受性の概念分析を行い、文化的感受性の前提として個人は互いに違い diversity (多様性)があること、多様な異文化との encounter (出会い)があること、自文化との相違を awareness (意識)することを導いていた。そして、文化的感受性に必要なことは、自己と他者の文化を理解することであるとしていた。

そのような文化的感受性はどのように測定されているのかについて、Foronda が概念分析で用いた文献で検討した結果、それぞれの研究目的に合わせた多様な問いがなされ一般化された測定方法は見いだせなかった。例えば、情報交換における文化的感受性の有効性の把握を目的とした研究では、文化的背景をどの程度理解されたと思うか、どのようなコミュニケーションをどの程度とったかなどの質問がなされていた (Yang, 2003)。異文化に暮らして糖尿病治療を受けている患者への指導ツールの開発を目的とした文献では、疾患がどのような影響を人生に与えているかな

どを質問し(Skelly et al., 2000)、ケア提供者の文化的能力の開発を目的とした研究では、文化的感受性がどの程度あるか、文化的コミュニケーションがどの程度とれていると思うかなど(Ulrey et al, 2001)、異文化ケア教育の評価を目的とした研究では、文化背景や性差によって教育者の態度が変わったか、異文化看護が学べるようなカリキュラムであったと思うか(Warren et al, 2004)などの質問がなされていた。

我が国では、日本人の異文化をもつ人への態度として展途上国の人に対しては自文化中心主義、欧米人に対しては相手文化中心主義の傾向があるとの指摘がある(石井ら, 1996)。実証的な研究では、Bennett の異文化感受性発達モデル (A Developmental Model of Intercultural Sensitivity=DMIS) の日本人への適応を検討した山本(2014)が、日本人の文化的な違いに対する体験の語りに Bennett の DMIS モデルでは説明できない内容、特に自文化中心主義の段階に自他の違いを認めにくい内容が含まれていたことを見出した。日本文化の中で異文化感受性を改めて考えるならば、「日本人対象者が、何をどのように文化的違い、もしくは共通点としてとらえ、それらをどのように位置付けたり受け止めたりし、感じているのかを報告してもらい、そこから DMIS には含まれていない意味と次元を明らかにしていく調査が必要」と述べており、日本人特有の文化的感受性の存在を示唆している。また、鈴木ら(2016)は、Chen & Starousta (2000)が開発した異文化間感受性尺度の日本語版作成を試み、「異文化への肯定的な感情」以外に、「異文化へのアンビバレントな感情」、「異文化への否定的な感情」があることを見出し、日本人の異文化への感受性の特徴を明らかにした。

瀬戸ら(2006)は、看護ケアを捉える文化的枠組みを構築するための文献検討から、対象の文化への理解を深め、自文化を意識化することが文化的感受性の高いケア、すなわち多様な患者の文化に柔軟で解放的なケアの提供につながると述べている。さらに、河井ら(2007)は、自文化を意識化する視点として、自己と他者の境界が曖昧な「全体に融合した個」を基盤としたヘルスケアにおける日本の文化的特徴を提示した。このように、相互協調的自己観(北山, 1998)に代表される、自己と他者の境界が曖昧な日本人の特徴から、自己と他者の文化の違いを認識しづらい。したがって、地域文化ケアにおける文化的感受性を明らかにするためには、ケア提供者が自分の文化をどのように自覚しているのか、ケア提供者が高齢者の文化をどのように受け止め、地域文化ケアとして実践しているのかを具体的に記述することが必要と考える。

世界に類をみない超高齢社会に向かうわが国は、高齢者先進国としての役割がある。そのため、看護教育において、自文化と異文化を意識し、自文化と異文化への文化的感受性を高める教育が必要であると考え。それは高齢者個人の持つ文化、高齢者の家族の持つ文化、高齢者が生きてきた地域の持つ文化や現役時代の組織文化に関心を寄せ、今そこに存在する高齢者のアセスメントに生かす教育が求められていると考える。さらに、桑山(2005)は、近年のグローバル化により、これまで明確に区切られた特定の場所で隔離、発展してきた文化が互いに共有されることで、新しい文化観の構築が課題となっていると述べている。このように高齢者ケアにおける文化看護の教育には、個々の高齢者の持つ文化という虫の目(ローカルな視点)と人間として老いのもたらす文化という鳥の目(グローバルな視点)の必要性を示唆していた。

## 第3章 研究方法

### 第1節 研究方法の概要

研究デザインは質的記述的研究である。要介護高齢者への地域文化ケアを実践しているケア提供者の実践内容を記述し、ケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係を考察することを目的とする。そのために、研究フィールドは、地域文化圏とケア施設のサービス圏域が一致している地域を選定する。圏域の一致は、海域による区分が明確な離島地区とした。また、要介護高齢者のケアの場による特性を網羅するために、治療の場、療養の場、生活の場から、ケア提供施設を選定し、かつ地域文化ケアを実践しているケア提供者を研究参加者とする。

研究は3つの段階で構成する。

第1段階：ケア提供者が実践する地域文化ケア（ケアの方法、ケアの意図、ケアの評価）を把握する。

第2段階：ケア提供者の主体性の観点から実施している地域文化ケアの段階を検討する。

第3段階：ケア提供者の認識であるケアの意図とケアの評価から、ケア提供者の文化的感受性を導く。

### 第2節 研究デザイン

グレッグ（2007）は、質的研究の定義を概観し、「質的研究とは、自然な状態で、研究者と研究参加者が相互作用をするなかで行われ、文字データを用いて帰納的に探究する研究である」としている。

質的看護研究を行う理由として、「質的研究を行う者は、人間中心で全体的な見方をする。質的研究方法を用いることで、人間の経験について理解を深めることができる。このような理解は、ケアリング、コミュニケーション、相互作用に焦点をあてている健康専門職者にとって重要である。・・・研究者は特定の臨床の状況や専門的な職務、教育的な職務だけでなく、社会的・文化的文脈なかで人間に焦点をあてる。質的看護研究は、調査中の現象の性質に調和している。すなわち、感情、認識、活動は質的体験なのである」としている(Holloway et al, 2002/2006)。

本研究では、地域文化ケアの実践をケアの方法、ケアの意図、ケアの評価とし、感情と認識を文化的感受性ととらえ明らかにする研究であり、質的看護研究が適切であると考える。

質的看護研究にはいくつか特徴的な研究デザインがある。質的記述的研究は、「その他の質的研究方法と同様に、イーミック(内部者)の視点から現実を明らかにすることを目的とするものである。看護の研究のなかでは比較的良好に用いられている方法であるが、質的記述的研究は、一般的な質的研究のなかで扱われ、この方法自体について詳しく述べているものはほとんどない」(グレッグ, 2007)としている。そのため、質的記述的研究を実施するのは「①研究領域が比較的新しい、あるいは研究しようとしている現象についてほとんどわかっていないときである。このような場合は、より具体的な質問をするのが難しく、具体的な質問が早計であり、質的記述的研究が望ましいと考えられる。②また、自分が研究しようとしている研究領域のなかで混乱があったり、矛盾があったり、あるいは研究が前進していないと思われるときである。③研究課題が非常に複雑な出来事やプロセス、あるいは人間の経験であり、注意深い定義や記述が要求されるときにも

質的記述的研究が適している」とまとめている。

本研究は、以下の理由により質的記述的研究が適しているとした。その理由は、①我が国では、地域文化ケアや文化的感受性の研究が少なく、看護教育上のカリキュラムも確立していないこと、②文化的感受性、文化的能力の定義が多様で曖昧であり、その解釈は複雑であること、③地域文化ケアは、実践として存在していても表現されにくく、ケア提供者の意識もされにくいこと、④実践を振り返りインタビューを丁寧に行い可視化する必要があることからである。

ところで、文化行動を記述し解釈する方法には、エスノグラフィー（記述民俗学）がある。Holloway ら（2002/2006）は、看護学における記述民俗学について、「主として看護現象を詳細に記録し、記述し、説明することに焦点をあてた特有な研究方法である」としている。また、クレッグら（2007）は、「エスノグラフィーは、特定集団の人々との相互作用によって研究者が文化を解釈するための方法であり、その場、その時、研究者が特定集団の人々との相互作用のなかで解釈した結果である」としている。このように、エスノグラフィーは、文化はその集団の人々にとって、経験によって獲得し、日常生活で直面する問題や状況に対処するための実践知でもあり、多くの場合意識されることはないとし、研究者が現象を記録し、記述し、説明し、解釈するための方法ということになる。筆者が行った過去のインタビューで、施設のケア提供者に「何故、要介護高齢者に地域の伝統行事参加のケアを行うか」と質問すると、「何故、そのようなことを聞くのか？当たり前なことなのに」と回答され、困惑した経験がある。これは、地域文化ケアの実践はあっても意識されにくいことを示しており、エスノグラフィーが適切な方法であると考えられた。

しかし、今回は、地域文化ケアの実践として、実施の方法（行動）だけでなく、その活動の意図（認識）がケア提供者に意識されていること、また、ケア提供者からケアの意図（認識）とその自己評価（認識）を問い、ケア提供者の文化的感受性を導くことが目的であることから、質的記述的研究がより適切であると考えた。

### 第3節 概念枠組み

Leininger（1991/1995）の示したサンライズモデルによると、文化ケア（看護ケア）は、対象者の文化背景に基づく民間的（土着的）システムと、ケア提供者の専門的教育および経験によって培われた専門的システムへの理解に基づいた橋渡しとして、実践されるものと位置づけられる（図5）。民間的システムとは、「文化的に学習され伝承された非専門的・自然発生的（伝統的）・民族的（家庭ケア）な知識と技能」とされ、専門的システムとは、「個人または集団に対して援助的・支持的・促進的行動を行うために用いられる教育機関で修得された専門的ケアの知識と実践技能」（Leininger, 1991/1995）とされている。

本研究の概念枠組みは、サンライズモデルを参考に、地域文化ケアは、民間的システム（イーミック）と専門的システム（エティック）との橋渡しによって実践されるとした（図6）。地域文化ケアの実践において、ケア提供者の「認識」と「行動」があり、感情を含む認識によって「ケアの意図」がおこり、行動として「ケアの方法」で実施し、認識として「ケアの評価」が行われ、「ケアの評価」から新たな「ケアの意図」が生み出されるサイクルがあるとした。文化的感受性は、「ケアの評価」と「ケアの意図」から導かれるとした。

## 第4節 用語の定義

### 1. 地域文化ケア

限定された地域（ローカル）において、地域文化行動（方言で会話すること、伝統行事に参加すること、地域行事に参加すること、地域に住み続けること）を体験したケア提供者が、同一の地域に暮らす要介護高齢者（ケアの受け手）の地域文化行動を支援する。ケア提供者とは、要介護高齢者のケアに携わる多様な者で、専門職、非専門職を問わない。

### 2. 文化的感受性

ケア提供者が、ケアを受ける対象や地域のもつ多様な信念や行動およびニーズを感じ取って認識して、ケアを効果的に思考し、双方（ケアの受け手、ケア提供者）の満足感を期待する。

### 3. 地域文化ケアの実践

地域文化ケアのために、ケアの方法（行動）、ケアの意図（認識）、ケアの評価（認識）を包含する。

## 第5節 研究対象

### 1. 研究フィールドの選定

研究フィールドの選定は、①海域で隔てられた離島であること、②先行研究（下地，2007）で高齢者の地域文化行動（方言で会話すること、伝統行事に参加すること、地域行事に参加すること、地域に住み続けること）の実態が明らかにされていること、③研究参加候補者であるケア提供者が高齢者と生活圏域を共有しており共通した地域文化を体験していると推察されること、④治療の場、療養の場、在宅の場でのケア提供者が同一地域で確保できることの全てを満たすことを要件とした。その結果、全ての要件を満たす宮古島市を研究フィールドとして選定した。

### 2. 宮古島市の概要

先島諸島に位置する宮古諸島は、宮古島市と多良間村からなる。宮古島市は、2005年10月、当時の平良市、城辺町、伊良部町、下地町、上野村が合併し現在の宮古島市になった。人口は54,464人（平成30年8月現在）である。宮古諸島は、沖縄本島の方言とは異なる独自の方言がある。宮後島諸島には多くの「ウタキ」（神様に祈る場所）がある。その「ウタキ」拜む伝統行事は、「旧十六日祭」（あの世の正月）が島の最大の伝統行事である。また宮古島の一部の島で行われる「ミヤークツツ」などはその地域では最大の行事となり、地域によって多彩な伝統行事が大事にされている。地域行事は、地域ごとに開催される「敬老会」、20年以上前から地域全体で参加する「宮古島トライアスロン大会」など、独特の地域文化がある。さらに、地域で住み続け、住み遂げる価値が残されている。簡素化されつつあるが、地縁血縁が、「旧十六日」や「ミヤークツツ」では集まる機会となっており、その準備は長男が行うことが多く、長男嫁は伝統行事が近くなると料理作りなどの準備をする。

宮古島市における高齢者ケアの場は、病院4施設、介護保険施設12施設、介護保険事業所140

事業所がある（平成30年11月末現在）。

### 3. 研究参加者の選定

研究参加者は、地域文化の象徴といえる方言が共有されているエリアで活動し、ケアの対象となる要介護高齢者の地域文化を把握し（民間的システムを共有している者）、要介護高齢者のケアに携わっている者（ケア提供者）、また資格の教育期間や経験の長短はあるが、要介護高齢者の介護に関するケアの知識や実践技能を有している者（専門的システムを共有している者）とし、該当するものを研究参加候補者とした。

研究参加候補者は、確実に地域文化ケアを実践している必要があったことから、筆者が過去の研究活動や実践活動で地域文化ケアの実践をしていることを把握した施設（療養の場、生活の場）のケア提供者に研究参加候補者としての依頼を行った。これらの研究参加候補者から同意を得て、研究参加者とした。その後、宮古島市の治療の場、療養の場、生活の場それぞれの場で地域文化ケアを実践している者を研究参加候補者として紹介を受け、同様の選定方法で研究参加への依頼を行い研究参加者とした。

### 4. 研究参加者の概要

#### 1) 研究参加者の基本属性

研究参加者は、治療の場10名、療養の場10名、生活の場16名のケア提供者36名であった（表14）。研究参加者の所属するケアの場は、治療の場3施設（急性期病院1、亜急性期病院1、その他の病院1）、療養の場4施設（介護老人福祉施設1、介護老人保健施設1、有料老人ホーム2）、生活の場6事業所（訪問看護ステーション2、小規模多機能型居宅介護事業所1、居宅介護支援事業所1、地域包括支援センター2）の13施設であった。

職種は、看護職18名（看護師・保健師）、介護職8名（介護福祉士・ヘルパー）、その他10名（管理者4・理学療法士1・介護支援専門員2・生活相談員1・事務職2）であった。

性別は、男性4名、女性32名で、年代は、30代3名、40代8名、50代8名、60代16名、70代1名で、60代が最も多かった。

高齢者ケア経験年数は、5年未満3名、6～10年未満6名、10～19年12名、20～29年5名、30年以上10名で、20年以上が15名であった。

高齢者ケアの経験場所は、病院、診療所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、小規模多機能型居宅介護、有料老人ホーム（宅老所）、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所介護、訪問介護、地域包括支援センター、保健センター、市町村、保健所であった。経験場所が1カ所20名、2カ所以上16名であった。

出身は、地元（宮古島、宮古圏域の離島）27名、地元外（沖縄本島、沖縄の離島、県外）9名で、地元27名中宮古以外での生活歴は、あり24名、なし3名であった。

#### 2) 研究参加者の地域文化行動の体験

研究参加者の地域文化行動の体験として、方言での会話、伝統行事への参加、地域行事への参加について調査した（表15）。



### (1) 方言での会話体験

話すことと聞くことについて、「できる（日常会話に困らない程度に話す、または聞くことができる）」、「一部できる（いくつかの表現を話す、または聞ける）」、「単語のみ（単語なら一部話せる、または聞ける）」、「できない（ほとんど話せない、または聞けない）」で質問した。

話すことについては、「できる」19名、「一部できる」7名、「単語のみ」5名、「できない」5名であった。聞くことについては、「できる」27名、「一部できる」3名、「単語のみ」6名、「できない」ゼロであった。

### (2) 伝統行事への参加体験

伝統行事への参加体験の有無について、宮古島の年中行事表（比嘉，2003）を参考に10項目を選択して調査した。

地元か否かを問わず全ての研究参加者が参加していた伝統行事は、「旧十六日」であり、ほとんど参加しているのは「旧盆」と「十五夜」であった。宮古島圏域であっても、より狭い地域に限定された「ミヤークヅツ」と「八月踊り」の参加体験は少なかった。

### (3) 地域行事への参加体験

地域行事への参加体験の有無について、宮古島の関係者に尋ねて、主な地域行事として3項目に整理し調査した。

宮古島で人口の約1割以上がボランティアとして開催される「宮古島トライアスロン大会」には全員参加体験があった。「敬老会などの自治会のイベント」、「運動会など学校イベント」のいずれも、ほとんどの研究参加者に参加体験があった。

## 第6節 データ収集・データ分析

### 1. 第1段階の概要

第1段階では、3つの研究の問い（1. 地域文化ケアはどのように実施されているか、2. 地域文化ケアを実施する意図は何か、3. ケア提供者は、地域文化ケアをどのように（自己）評価しているか）を探索するために、要介護高齢者と地域文化を共有しているケア提供者の地域文化ケアの実践内容を把握した。

#### 1) データの収集

データの収集は、半構造化面接法を実施した。宮古島市のケア提供者は、日常の交流が頻回で情報交換が活発であり、話題が共有されやすいことを把握していたため、互いに先入観をもたず、ケア提供者独自の地域文化ケアの実践内容が聴取できるようデータを収集するための調査体制を工夫した。調査体制は、研究参加候補者（30名程度）を把握した後、ケア提供者間で情報が共有されない前に短期間（2週間程度）で調査が完了できるよう、調査補助者を5人確保した。調査補助者の条件は、①看護職の資格を有し高齢者ケアの研究や実践があり、面接の回答内容がイメージできる者、②研究方法等、研究活動に関して知識がある修士以上の学位を持つ者、③面接のための説明会への参加ができる者とし、①～③の条件をすべて満たす者とした。また調査前に調

査補助者説明会を開催し(付録 A-9)、調査補助者の個人情報保護、研究情報の保護の責務の説明、調査方法、インタビューガイド(付録 A-7)の手順を説明し、調査補助者から同意と誓約(付録 A-11-1, A11-2, A-12)を得た。

調査期間は平成 29 年 2 月～3 月で、研究参加者の指定する日時、場所で行った。面接時間は 60 分～120 分であった。面接での語りの内容は、全員の了解を得て IC レコーダーに録音した。録音内容は、すべて逐語録を作成した。

面接調査では、研究参加者の属性としての基本情報は、出身地、宮古島以外での生活経験、高齢者ケアの経験年数、地域文化行動の体験とし、要介護高齢者の地域文化を共有している程度を概観した。

地域文化ケアの実践内容はケアの方法を把握するために、要介護高齢者に対し、①伝統行事への参加を支援した経験、②地域行事への参加を支援した経験、③方言での会話を支援した経験、④地域に住み続けることを支援した経験について、それぞれ想起してもらい、事例ごとに語ってもらった。可能な限り実践内容を多く語ってもらえるよう、事前に調査票を送付し質問内容を伝えた。地域文化ケアの実践内容を自由に語ってもらいつつ、ケアの意図を把握するために、「何故、そのケアを実践しようと思ったのか」、「何故、そのケアの必要性に気づいたのか」の問いを行った。そして、ケアの(自己)評価を把握するために、「高齢者や家族など関係者の反応はどのように捉えたか」、「ケア提供者はそのケアを実施したときには、どんな気持ちだったか」を質問した。

## 2) データの分析

データの分析は、研究参加者ごとに、研究者と研究指導教員、研究指導補助教員、必要時は調査補助者を加え、逐語録を精読し、内容や文脈の意味内容を共有しつつ、「地域文化ケアの実践場面」を討議し要約を作成した。次に、研究参加者ごとに作成された実践場面を精読し、研究者と研究指導教員、必要時は調査補助者を加えて、「ケアの方法は何か」、「ケアの意図は何か」、「ケアをどのように(自己)評価しているか」について討議を繰り返し、キーセンテンスを作成した。地域文化ケアの実践場面、ケアの実践内容(ケアの方法、ケアの意図、ケアの評価)についての個票の暫定版として、研究参加者ごと、実践場面ごとに、整理した。ケアの意図とケアの評価については、研究参加者が言語化したものだけでなく、地域文化ケアの実践場面の逐語録に戻り、討議し、文脈を読み込んでキーセンテンスにしたものもあった。また、ケアの方法は取り出せても、ケアの意図とケアの評価が読み取れない部分は空白とした。

個票の暫定版は、研究参加者に戻して、回答内容とずれがないかの点検、およびケアの意図とケアの評価の追記を依頼し、個票を完成させた。

研究参加者全体の分析として、ケアの実践内容である「ケアの方法」、「ケアの意図」、「ケアの評価」ごとに、それぞれまとめ、類似したものを集めサブカテゴリー化、さらに類似したものを集めカテゴリー化し、地域文化はケアにどのように関与しているかの観点からコアカテゴリーを命名した。

キーセンテンスは“ ”、サブカテゴリーは< >、カテゴリーは【 】、コアカテゴリーは[ ] と表示した。

## 2. 第2段階の概要

第2段階では、研究の問いの4. 地域文化ケアの実施には、どのような段階があるかを探索するために、ケア提供者の主体性の観点から「ケアの方法」を「ケアの意図」と「ケアの評価」を関係づけながら地域文化ケアの段階を検討した。

### 1) 地域文化ケアの実施の段階を導く方法

地域文化ケアの実施の段階は、第1段階の結果の地域文化ケアの「ケアの方法」のコアカテゴリーについて、ケア提供者の主体性の観点から導いた。ケア提供者の主体性は、「ケアの方法」のカテゴリー、サブカテゴリー、地域文化ケアの場面に戻りながら、ケア提供者と要介護高齢者として、「ケアの始まり（起点）は何だったのか」、「ケア提供者の主体性はどのようなものか」を問うた。そして、「ケアの意図」と「ケアの評価」を関連づけながら、ケア提供者の主体性の有り様で地域文化ケアの実施の段階を導いた。

### 2) 地域文化ケアの実施の段階の検討

Leininger(1991/1995)のサンライズモデルでは、看護ケアは「民間的システム」と「専門的システム」との橋渡しによって表出されるとし、その橋渡しで表出される文化を考慮した看護ケアには、「文化ケアの保持/増進」、「文化ケアの調整/交渉」、「文化ケアの再パターン/再構成」があると述べている。筆者ら（呉地ら，2010）の先行研究において、地域文化ケアのタイプには、「地域文化への充足ケア」、「地域文化への代替ケア」、「地域文化への継続ケア」があると報告した。これらを参考に地域文化ケアの実施の段階を点検した。

## 3. 第3段階の概要

第3段階では、研究の問いの5. 地域文化ケアを実践しているケア提供者の文化的感受性とはどのようなものかを探索するために、文化的感受性の操作的定義に照らして、ケア提供者の地域文化ケアの実践内容の認識に該当する「ケアの意図」と「ケアの評価」から文化的感受性の要素を導いた。

### 1) 文化的感受性を導く方法

前述の文献検討において、文化的感受性は、定義、要素についての合意が得られていないこと、文化的感受性と文化的能力との区別が明確でないことを確認した。そこで、本研究では、文化的感受性の操作的定義（ケアを受ける対象や地域のもつ多様な信念や行動およびニーズを感じ取って認識して、ケアを効果的に思考し、双方（ケアの受け手、ケア提供者）の満足感を期待することである）から感情（情動）を含めた認識とし、地域文化ケアの認識に位置づけた「ケアの意図」と「ケアの評価」を認識と位置づけ、そのコアカテゴリーから、感情（情動）を含め認識を表現するキーワードを取り出し、ケア提供者の「文化的感受性」の要素とした。

### 2) ケア提供者の文化的感受性の要素の検討

ケア提供者の文化的感受性の命名を、Foronda が文化的感受性の概念分析で取り出した要素（知

識、出会い、多様性、理解、考慮、意識、尊重、テーラリング、満足) と照らしあわせながら、ケア提供者の文化的感受性の要素を点検した。

## 第7節 研究者の立場

研究者は、看護師として病院や老人保健施設、訪問看護ステーションでの勤務の経験があり、多くの高齢者ケアに携わってきた。宮古島の介護老人福祉施設では、「施設ケア提供者の伝統行事への認識と高齢者ケアの実際－沖縄県宮古島の一介護老人福祉施設の事例」をテーマに地域文化ケアの研究を行った(呉地ら, 2010)。その後、宮古島にて1年間生活し、訪問看護ステーションに勤務し宮古島の地域文化に触れながら高齢者ケアを実践した。

よって、研究者の立場は、本研究における研究参加者の半構造化した面接ができ、かつ、面接内容を理解し、解釈できることで、分析結果の妥当性となると考える。しかし、解釈の過程で自己の経験以外の経験に対しバイアスが入る可能性があるため、研究の真実性について評価基準を担保できるようにした。

## 第8節 研究の真実性

Holloway ら (2002/2006) は質的研究における評価基準について、Lincoln と Guba の基準を中心に量的研究と比較して、厳密性には真実性、信頼性には明解性、妥当性には信用可能性、一般化可能性には移転可能性、客観性には確認可能性に置き換えた。そし、質的研究においては、開発された明解性、信用可能性、移転可能性、確認可能性を通して真実性の判定をすとしてしている。

### 1. 明解性

明解性は、研究者の意思決定の過程を追うことを通して、分析の適切さを評価できる。

本研究では、データ収集方法、データ分析方法のプロセスについて、前述のとおり詳細に記述した。

### 2. 信用可能性

信用可能性は、参加者自らが環境や状況に与える意味や、自身の社会的文脈中に見いだす「真実」を認識することである。

本研究では、逐語録から取りだした地域文化ケアの実践場面の要約、ケアの方法、ケアの意図、ケアの評価についてのキーセンテンスの記述を読んでもらい「〇〇さんが、地域文化ケアの実践のインタビューで話した内容の記述は、これでよろしいですか」、「キーセンテンスに矛盾や取り違えはありませんか」、「追記することはありませんか」と確認を依頼した。連絡先が把握できず、連絡の取れない2名を除き確認できた。5名の研究参加者が協議した後、加筆修正となった。

### 3. 移転可能性

移転可能性は、ある文脈における知見は、似たような状況や参加者に移転できるということである。

本研究では、知見の一貫性や妥当性を確保するために、老年保健看護の専門家である研究指導

教員、研究指導補助教員、調査補助者とデータ分析のディスカッションを行った。データ分析には、2人以上の専門家が関わっており、異なった観点から研究している現象や課題を検討できるようにした。

#### 4. 確認可能性

研究の知見や結論が研究の目的を達成した段階でその方法が判定される時、あるいは研究者の持っていた調査前の予想や仮説ではない時に確認可能性があるとされる。

本研究では、データを要約した内容（研究参加者ごとの個票）は、研究参加者に戻し確認したこと、および老年保健看護の専門家である研究指導教員、研究指導補助教員、および必要時には調査補助者にもデータ分析のプロセスで随時確認した。また、地域文化ケアの実践場面の要約、キーセンテンスは資料として添付し、キーセンテンスからサブカテゴリー、カテゴリー、コアカテゴリーは結果の表で示し、具体例を文章で記述し、具体から抽象へ、抽象から具体へ往来できるようにした。

### 第9節 倫理的配慮

本研究は、沖縄県立看護大学倫理審査委員会において、平成30年9月20日（承認番号16023-変更1）に承認を得た。

#### 1. 研究の対象とする個人の人権の擁護

1) 研究の目的・内容を口頭及び文書で説明し同意を得るが、その際、研究への参加は自由意志であり、同意後でも、いつでも断ることは可能であり日時や場所を指定できることを伝える。疑問点や要望にはその場で速やかに応じる。

2) 面接調査の内容は、研究参加者の同意を得てICレコーダーに録音する。録音を拒否する場合には、調査票に記載し記録する。記録および逐語録を作成する際には、個人を特定する情報は匿名化する。

3) 個人情報(氏名、所属など)を保護するため、分析会議や学会発表、報告会などの全プロセスにおいて、個人が特定される表現はしない。

4) 得られた個人情報は、研究目的以外には使用しない。

5) データは鍵のかかる場所で厳重に保管し、保管期間は10年とする。10年経過後は速やかにシュレッダーで処分する。

#### 2. 研究の対象となる者に理解を求め、同意を得る方法

1) 研究参加候補者を選定する際に業務管理者へ研究参加候補者の推薦を依頼する時には、業務管理者及び研究参加候補者それぞれに管理者や業務管理者から圧力がかからないよう協力依頼は研究者が行うこととし、管理者及び業務管理者から協力依頼をしないことを説明する。

2) 管理者及び研究参加候補者には、研究者が口頭で研究協力のための手続きを説明する。そして、口頭及び文書で研究目的、研究の必要性・内容等を説明し、同意を得る（付録A1, A3, A5「依頼書」、付録A2-1, A2-2, A4-1, A4-1, A6-1, A6-2）「同意書」。「同意書」は研究終了まで保管し

ておくことを説明し、文書にも明記する。研究参加内容に関する要望や疑問があれば、その場で速やかに応じる。

3) 研究参加者に対する調査を行う際には、「調査票」(付録 A8) を用いて調査内容を説明し同意を得る。要望や疑問があれば、その場で速やかに応じる。

### **3. 生じる個人への利益及び不利益並びに危険性の予測**

1) 個人への利益：ケア提供者は自己の地域文化ケアを語ることで、自らのケアを振り返りケアの自己評価の機会となる。また、自文化と異文化を意識することで、地域文化ケアの必要性を確認できる。

2) 個人への不利益：研究参加者には、同意を得て研究参加の協力依頼をするが、複数回の面接時間の確保に調整が必要になるため、負担が生じる危険性がある。業務や個人の日常生活に支障がないよう面接時間の配慮を丁寧に行う。また、同意後も中断が可能であること、中断しても不利益にならないことを説明する。

## 第4章 研究結果

### 第1節 地域文化ケアの実践の内容

#### 1. 地域文化ケアの場面

研究参加者 36 名の地域文化ケアの場面はひとり 2～12 場面で、合計 243 場面であった。(付録 B-1～36)

#### 2. 地域文化ケアの方法

地域文化ケアの方法のカテゴリーは、【当事者の行事への参加支援】、【家族・地域のつながりの継続支援】、【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】、【当事者の祈りを尊重する支援】、【地域文化でつくるケア関係】、【地域文化を共感するケア】、【習い続ける地域文化】、【地域文化の周知と啓蒙】、【みんなで育み続ける地域文化ケア】、【家族のようにつながり続けるケア】、【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】、【みんなで創り広める地域文化ケア】の 12 が導かれた(表 16)。カテゴリー毎に地域文化ケアの方法を説明する。

#### 1) 【当事者の行事への参加支援】(表 17)

【当事者の行事への参加支援】のカテゴリーは、＜行事へのニーズを引き出す＞、＜行事に参加できるよう関係者と調整する＞、＜行事に参加するための体調管理をする＞、＜行事ができるよう頼まれなくても手伝う＞、＜行事に参加したい高齢者を連れ出す＞の 5 つのサブカテゴリーがあった。

##### (1) ＜行事へのニーズを引き出す＞

“伝統行事が近づくと「行事どうしますか(家に帰りますか)」と聞くようにしている(ID2)”、“終末期の患者には地域行事や伝統行事の話を積極的にする(ID3)”、“伝統行事が近づくと、デイサービスの活動で話題にしなが、高齢者の行事の準備状況を語らせ、把握している(ID33)”、“運動したがる高齢者に、生まれ育った地域について意図的に話題にし、地域に関心を引き寄せさせたら、地域に散歩にでかけるようになった(ID22)”などの行事への参加の意向や高齢者が関心よせる話題をだしたり、“楽しませながら次のケアを高齢者とつくるために、伝統行事と一緒に参加し、「今やってみたいことある？」と聞き出すようにしている(ID26)”など、参加していたことから、さらにニーズを引き出すようにしていた。

**場面の例** “伝統行事が近づくと、デイサービスの活動で話題にしなが、高齢者の行事の準備状況を語らせ、把握している(ID33)”

高齢者達は、行事が近づくと活動中(デイサービス)に、行事の準備の話をする。行事のことをすごく気にしている感じがするので、自分からも、行事の準備のことを話題にする。話題にしなが、行事の段取りを教えてもらっている。

##### (2) ＜行事に参加できるよう関係者と調整する＞

“伝統行事に合わせて、帰れる人（退院できそうな人）、帰りたい人（外泊できそうな人）を探し、主治医と調整する（ID3）”、“盛大に行われる地域行事（入学祝い）に合わせて高齢者が早期退院を希望していたので主治医と調整した（ID5）”などの行事への参加できるように医師との調整したり、“伝統行事が近づき落ち着かなくなる高齢者には、家族に連絡し伝統行事に参加できるようにしている（ID12）”、“ひとり暮らし要介護高齢者には、伝統行事ができるように、島外の家族と買い物や準備の段取りなど連絡を取り合い手伝う（ID28）”、“地域行事（孫のバレーボール大会）への参加を渋っていたが、最期になるかもしれないと思い、本人の強い説得、家族調整と会場の安楽な姿勢の確保を支援した（ID23）”、“高齢者が、伝統行事（墓参り）に参加できるように家族の介護負担の軽減（介護タクシーの活用）を図っている（ID23）”などの要介護状態や一人暮らし高齢者でも参加できるように家族との調整したり、“要介護状態でも、敬老会に参加できる環境を整えるよう、自治会長と調整している（ID35）”、“伝統行事として墓参りに高齢者が希望すれば、家族に調整し、無理の場合には職員が手伝えるよう調整している（ID16）”などの地域やサービス提供者と調整し参加できるようにしていた。

**場面の例** “高齢者が、伝統行事（墓参り）に参加できるように家族の介護負担の軽減（介護タクシーの活用）を図っている（ID23）”

伝統行事（十六日祭）でのお墓参りは、家族にとっては、邪魔扱いされても、本人は、絶対に行きたいと思う。ただ、移動、車いすの状態では、家族が移動に困ると思うので、高齢者がお墓参りにいけるように、介護タクシーを使うと、家族の負担が軽減することを家族に説明し、介護タクシーでの外出をすすめている。多くの家族は、介護負担がかからないのであれば、一緒にお墓参りにつれていく。

### (3) <行事に参加するための体調管理をする>

“伝統行事で役割を果たしたいとの希望をリハビリ目標に取り入れることを、医師と看護師仲間に提案し、共有が図れた（ID4）”という伝統行事参加のための医療目標としたり、“伝統行事（豊年祭）の後に、高血圧が悪化する住民が増えるので、ヤギ汁にヨモギをたくさん入れて食べるように指導している（ID36）”、“伝統行事（豊年祭）には、高齢者を車に乗せてパレードする習慣があるので、要介護高齢者は心身の健康管理をしながら一緒に楽しむ（ID36）”という伝統行事や地域行事に安全に参加できる体調にするための準備をしたり、“抑鬱状態の高齢者宅に近隣の高齢者が毎日集うことを訪問時に聞き、「介護予防になるので続けた方が良い」と支持した（ID22）”という体調管理としても地域でのつながりを支持していた。

**場面の例** “抑鬱状態の高齢者宅に近隣の高齢者が毎日集うことを訪問時に聞き、「介護予防になるので続けた方が良い」と支持した（ID22）”

高齢者が抑うつになったとき、生まれも育ちも同じ地域の同年代の気持ちの通じ合う高齢者たちが毎日本人の家に集まり、おしゃべりしたりお茶会したりして1年くらい継続している。高齢者は「大変だけど茶菓子を出している」と話すが表情はうれしそうである。人と話すのは介護予防になるので続けたほうが良いと支持している。抑鬱状態の



高齢者には近隣との関わりが介護予防に最も良いと思う。

#### (4) <行事ができるよう頼まれなくても手伝う>

“伝統行事（浜下り）で海にいけない高齢者が、儀式（手足を海水で洗い清める）ができるように、海水を汲んできて手足が洗えるようにした（ID25）”、“要介護状態で仏壇にお茶を供えることができない高齢者の代わりに、毎朝お茶を供える（ID30）”、“伝統行事の手伝いが必要な要介護高齢者を把握しているので、行事があるときは自分から申し出て、ヘルパー業務をしながら行事の手伝いをする（ID28）”、“伝統行事（拝み）の準備をするために、転倒することがあったので、無理をさせないよう予防的に早めに準備を手伝う（ID31）”などの、業務のなかで予測されることの手伝いや、“伝統行事（十五夜）では、仏壇に行事食（団子）を供えることになっているので、自分で団子の準備ができない高齢者の分を自宅で作って、届けている（ID31）”などボランティアとして必要なことの手伝いや、“雨の日の夜中に「草取りをしたい」と何度も訴えている高齢者の草取りにつきあう（ID19）”時間に関係なく意向への手伝いをしていた。

**場面の例** “雨の日の夜中に「草取りをしたい」と何度も訴えている高齢者の草取りにつきあう（ID19）”

帰宅願望の強い高齢者が、夜中の2時に、家に帰りたと言い出して、明日にしようとして説得しても、応じてもらえず、施設をそっと出て行くので、一緒に後ろからずっと歩いた。きび畑に入って行って、きび畑の草取りを暗いなかで一生懸命とっている。しばらく草取りをして、「疲れた」というので、「帰る？」とうながしたら、「じゃあ、帰ろう」といって、一緒に施設に戻った。やりたいことをさせれば、落ち着くので、させた方がいいと思う。畑にいつてきた、きび植えたと話したら、会話が繋がった。「疲れたね、じゃあ、着替える？、お風呂入る？」と聞いたら、会話が繋がり、夜中から入浴をする。そういうことを、天候や時間に関係なく、しょっちゅうやる。雨の日の草取りは、その日がいいという。私は傘をさして、草取りをさせる。施設に戻り、入浴の後に二人で熱いお茶を入れて飲んだ。お茶を一緒に飲みながら、「また行く？」と聞くと、行かない、もういい」と言うので、「じゃあ、終わり」と言う。こんなことだけをしている。

高齢者が満足をするまで、必ず連れていった方がいいと思う。本人がやりたいときに、満足するから、させたほうがいい。

#### (5) <行事に参加したい高齢者を連れ出す>

“地域行事（トライアスロン）は、希望者を募り、車いすでも応援できるよう、安全面を考えて応援会場に出かけ見守りしている（ID10）”、“高齢者が地域行事に参加して「応援したい」と希望すれば、その希望に応えている（ID12）”、“外出支援は組織も推進しているので、現場から提案すると了解が得られ、時間外でも、どこの地域でも、どの地域行事でも高齢者を誘って希望したら出かける（ID17）”、“高齢者が地域行事に参加することを好まない家族もいるが、外出の好きな高齢者は地域行事への参加を支援している（ID17）”、“地域行事（ひ孫の誕生祝

い)に行きたいとせがむので、誕生祝いの日には車いすでも外出した (ID19) ”などの、高齢者の行事の参加希望を把握して連れ出していた。

**場面の例** “地域行事(トライアスロン)は、希望者を募り、車いすでも応援できるよう、安全面を考えて応援会場に出かけ見守りしている (ID10) ”

地域行事(トライアスロン)は、島全体が参加し、応援している。園は、バイクコースなので、毎年テントを張り、希望者を募り、車いすでも応援できるようにしている。園で過ごしている高齢者も、島ぐるみのイベントには一緒に参加してほしいと思う。そろいのシャツや帽子を身につけて、宮古島の一員としてこのイベントに参加できた一体感を感じる機会になっている。私は安全面を考えて、見守りしながら、応援会場に出かけている。

## 2) 【家族・地域のつながりの継続支援】(表 18)

【家族・地域のつながりの継続支援】の категорияは、<行事は家で過ごせるよう関係者と調整する>、<面会者とのつながりを大事にする>、<行事を家で過ごせていることを確認する>、<行事はつながり・交流の機会として連れ出す>、<島の住民とのコミュニケーションを手伝う>の5つのサブカテゴリーがあった。

### (1) <行事は家で過ごせるよう関係者と調整する>

施設入所や行事の日のデイサービスの高齢者が希望すれば、“「家に帰りたい」と訴える高齢者には、家族と調整して外泊させる (ID11)”、“伝統行事には、高齢者が家で家族と過ごせるよう、上司と一緒に家族を説得する (ID27)”、“伝統行事(十六日祭)には、島内外の家族や親族と過ごせるように希望すればできるだけ誰でも自宅に戻れるように家族と主治医と調整する (ID24)”など、家族・親族や医師などの専門職と調整していた。

**場面の例** “「家に帰りたい」と訴える高齢者には、家族と調整して外泊させる (ID11)”

誰でも自分の家がよいと思っており、施設入所中の利用者が家に「帰りたいとい、家を見に行きたい」と不穏になるときは、利用者の状況と家族状況を加味して、家族に休みの日などに外泊する調整をし、連れて帰ってもらう。夫の命日の日に、調整をして外泊を実現したこともある。

### (2) <面会者とのつながりを大事にする>

“高齢者の出身地域は、島が小さいので隣近所の者を身内のように感じているので、家族以外の面会者を大事にしている(朝のミーティングでも話題になる) (ID5)”、“伝統行事で島外から帰省する親戚縁者が病院の面会ルールにあわせて時間外にわーわーと大勢来ても、制限しないで許可している (ID6)”、“近隣のつながりが入院で途切れないように、関係者の支えが高齢者に伝わるように、高齢者の名前が曖昧な面会者であっても邪険にせず、病室を一緒に歩いて探す (ID5)”など、病院のルールに合わなくても、家族以外でも、面会者とのつながりを持って

るようにしていた。

**場面の例** “高齢者の出身地域は、島が小さいので隣近所の者を身内のように感じているので、家族以外の面会者を大事にしている(朝のミーティングでも話題になる)(ID5)”

入院患者の出身地域は、朝のミーティングでも話題にしているし、その内容はすーっと頭に入ってくる。宮古島全体が小さいから、いろんな情報がすーっと頭に入ってきて、他人でも身近に感じ、身内のように感じる。だから、面会者をできるだけ、入院患者には、面会させてあげたいという思いがある。

### (3) <行事を家で過ごしていることを確認する>

“施設入所後、伝統行事の時には、施設から外泊し、自宅で家族と過ごしていることを確認した(ID22)”という高齢者が入所しても伝統行事は家でできるようにしていた。

**場面の例** “施設入所後、伝統行事の時には、施設から外泊し、自宅で家族と過ごしていることを確認した(ID22)”

私は、高齢者が仏壇を大事にしているという価値をもっており、仏壇行事の中でも特に本人が大事にしている行事も把握していたので、外泊のできる施設を探した。高齢者が施設に入所するとき、施設ケア提供者へ高齢者がいかに仏壇を大事にしているか説明した。この人は仏壇をととても大事にしている人で入所までの間に仏壇の継承をめぐり家族と相談をしてようやく仏壇の継承ができる段取りが整い入所したということを伝えた。そして仏壇行事(十六日)の日には外泊ができるように娘家族や施設のケア提供者と調整をして仏壇行事の時に外泊がなかった。

### (4) <行事はつながり・交流の機会として連れ出す>

“要介護状態でも、島の人と交流できる機会として、伝統行事のハーリーに連れ出している(ID35)”、“島の人が集まる地域行事や伝統行事を外出の機会とし、景色や外気に触れ、日光浴のために連れ出す(ID31)”、“島の人が集う伝統行事(ハーリー)に介助して連れ出し、地域の人たちと一緒に参加し、交流を持たせている(ID32)”、という行事を交流の機会を捉えて参加できるようにしていた。

**場面の例** “島の人が集う伝統行事(ハーリー)に介助して連れ出し、地域の人たちと一緒に参加し、交流を持たせている(ID32)”

ハーリーに行きたい人は連れていって、地域の人たちと一緒にみて、久しぶりに会って、元気だったの?としゃべったりしながら、船こぎを一緒にみる。

### (5) <島の住民とのコミュニケーションを手伝う>

“島内外から集まった島の人に声かけされても認識できない要介護高齢者には、島での人間関係を知っている私が、声掛けした人が思い出せるよう話題を提供している(ID35)”、“島の人

が挨拶しても、認知症で理解できない人には、その人との人間関係に合わせながら、思い出せるよう話題を提供し、伝えている（ID31）”など、島の伝統行事に集まった人たちとコミュニケーションで交流ができるようにしていた。

**場面の例** “島内外から集まった島の人に声かけされても認識できない要介護高齢者には、島での人間関係を知っている私が、声掛けした人が思い出せるよう話題を提供している（ID35）”

島最大の行事、ミャークヅツ（伝統行事）には、島出身者が帰省し、島の人口が普段の3倍になる。帰省した島の人々に合わせるために、利用者を連れ出すことによって、これまでつながりを持ってきた人々に出会うことができる。・・・声掛けをしてくれる人が誰かわからないので、そばにいて、その人のことを説明し、過去の話をして、過去のつながりがよみがえるように話題にしている。

### 3) 【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】（表19）

【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】のカテゴリーは、＜高齢者の「帰りたい」ニーズを代弁する＞、＜「住み遂げたい」に諦めずに寄り添う＞の2つのサブカテゴリーがあった。

#### (1)＜高齢者の「帰りたい」ニーズを代弁する＞

“重症患者の外出は責任とれないと主張する主治医に、「高齢者は帰りたい」と代弁する（ID3）”、“地域に住み続けたいと希望していることを把握していたので、島外の子ども達と調整し地域に戻れるようにした（ID4）”という、高齢者の住み遂げたい思いを支援していた。

**場面の例** “重症患者の外出は責任とれないと主張する主治医に、「高齢者は帰りたい」と代弁する（ID3）”

離島に帰りたいと訴える高齢者に対し、医療が不便なので医師が「責任とれない」というと、責任とってほしいとは言ってない、「帰りたい」といっていると代弁をした。離島で、医療が不便であったとしても、生きてきたところにいたいと思うんです。だから、医師に伝えるようにしています。そういう時には調整して帰るようにしている。

#### (2)＜「住み遂げたい」に諦めずに寄り添う＞

“「自分の家で死ぬ」ことにこだわっている島があることを知っているのので、その島の高齢者の場合には、病院から自宅にたどり着くまでの移動をシュミレーションし、具体的な段取りを敷く（ID6）”、“自宅で息を引き取るという島の高齢者が危ない状態になると、息を引き取る前に家族と調整しその希望が叶うようにしている（ID24）”、“家族が高齢者を島外の施設へ入所させる検討をすると、島にいたい高齢者の気持ちを代弁する（ID30）”、“認知症の老夫婦が地域の人々に支えられながら暮らしの継続を支援している（ID23）”などの住み慣れた地域で住みとげられるように多様な方法をとっていた。

**場面の例** “認知症の老夫婦が地域の人々に支えられながら暮らしの継続を支援している (ID23)”

老夫婦の認知症高齢者が、ゴミ屋敷になっていると、近所の人から、通報があった。ヘルパーや保健師やその夫、ヘルパー事業所の仲間達が8人集まり、近所の人や親戚も加わり、みんなで大掃除した。老夫婦での生活は、もう限界だろうと思い、施設入所を娘と一緒に進めた。しかし、経済的理由で、要介護状態で、二人で今の生活を継続することになった。認知症で、地域を歩き回っても地域の人々や施設のボランティアが見守り、道に迷っても見つけて自宅まで届けてくれる。地域では、いつもぐるぐる同じところを回っているおじいとおばあがいると、地域の人々は知っているので、今日は違うところにいるねと、気遣ってくれる。

自分の家で、地域の人に見守られながら、住み続けているので、施設に入らなくて良かったと思える。

#### 4) 【当事者の祈りを尊重する支援】(表 20)

【当事者の祈りを尊重する支援】の категорияは、<家族の魔除けの儀式を支持する>、<魔除けの儀式を支持する>、<身体的判断を超え高齢者の望みを叶える>の3つのサブカテゴリーであった。

##### (1) <家族の魔除けの儀式を支持する>

“魔除けとしてベッド周辺に葉っぱや塩などを置かせてほしいと家族に依頼され、ケアの邪魔にならないよう工夫して置かせた (ID6)”、“同僚看護師が魔除けとして塩を置きたいと希望した家族の要望を受け入れなかったと聞き、「ケアに邪魔にならない願いは聞いてあげようよ」と指導した。(ID6)”、“亡くなった患者のそばで、伝統の祈りを捧げている家族を祈りが終わるまで見守った (ID4)”などの家族の高齢者への儀式を支持して尊重していた。

**場面の例** “亡くなった患者のそばで、伝統の祈りを捧げている家族を祈りが終わるまで見守った (ID4)”

急性期病院では急に亡くなるが多かった。そのとき家族が魂を拾うとあって、患者のそばで拜みを始めることがあったので、そのときは、終わるまで待っていた。「魂をひろうことができたかね」とか「安心できたねこれで」ということを話していた。

##### (2) <魔除けの儀式を支持する>

“枕元にはさみを見つけても(島の風習であることを知っている)邪険にすることなく「気をつけて置いてください」と話す (ID9)”、“伝統行事(十五夜)に本物の獅子によるお祓いはできないが、代替えの獅子を訪問看護師仲間できつくり十五夜の夜に近隣の高齢者も誘い、お祓いをした (ID21)”、“生活保護の高齢者が、供え物の購入を禁止され幻聴が出るほど思い詰めていたので、生活保護ワーカーと相談し希望をかなえた (ID25)”などの高齢者の希望する儀式の継続を支持し尊重していた。

**場面の例** “枕元にはさみを見つけても（島の風習であることを知っているのので）邪険にすることなく「気をつけて置いてください」と話す（ID9）”

島には、ベッドの枕元にはさみをおいたりする風習がある。県外出身の私は危険だと思っているが、邪険にすることはなく、患者の病状などに照らして、「気をつけて置いて下さい」とその行為を認めている。

### (3) <身体的判断を超え高齢者の望みを叶える>

“バイタルは落ち着いているが「気分が悪いので拝みが必要だから家族に連絡したい」と訴えている高齢者に、病院の携帯電話を貸して家族に連絡を取らせ、気の済むようにした（ID7）”、“処置中にいきなりパニック状態になり、ぶつぶつとしゃべり出し塩を要求したので、少しでも落ち着けばと思い要求に応じた（ID7）”と、身体的判断のできない高齢者の希望を叶え尊重していた。

**場面の例** “バイタルは落ち着いているが「気分が悪いので拝みが必要だから家族に連絡したい」と訴えている高齢者に、病院の携帯電話を貸して家族に連絡を取らせ、気の済むようにした（ID7）”

ナースコールがあり訪室すると、女性の高齢者から「気分が悪いので、自宅に電話して、おじいに拝みをしてくれ」と頼まれた。気分の悪さや、バイタルを確認すると特に問題はなかったが、電話をしたら、落ち着くのかなと思い、本人に（病院の）携帯電話を貸し、本人は家族に電話をした。意味不明な会話の後、自宅で線香をたてるよう、お願いしていた。その後、しばらくして、気分がよくなったと、穏やかな表情をしていた。

## 5) 【地域文化でつくるケア関係】（表 21）

【地域文化でつくるケア関係】のカテゴリーは、<地域のつながりをケアに活かす>、<方言での会話を通訳する>、<方言での会話を通訳してもらおう>、<方言でのコミュニケーションを認め重宝する>、<行事の話題で会話を膨らませる>、<出身地の話題で会話を膨らませる>の6つのサブカテゴリーであった。

### (1) <地域のつながりをケアに活かす>

“不穏のある患者を同じ地域の患者と同室にしたら方言での会話がはじまり、そのうち落ち着いた（ID4）”、“家に帰りたく訴え続ける高齢者に同じ出身地であることを伝える（ID13）”と、高齢者の住んでいる地域とのつながりを活かしケア関係を作っていた。

**場面の例** “不穏のある患者を同じ地域の患者と同室にしたら方言での会話がはじまり、そのうち落ち着いた（ID4）”

入院している高齢者Aさんが不穏があることで、大部屋に移すことに困った。大部屋にいる、同じ島（〇〇島）出身の高齢者のBさんに着目し、同じ島出身の中に入れば落ち着く

のではないかと思った。また不穩があってもいいのではないかと思った。同室にしたところ、不穩の高齢者は、相手を知っており、方言で声掛けしたりして、落ち着いた。

私は二人が〇〇島出身であることを知っていた。Aさんは代看（診療所看護師の休暇時に病院から応援する）で行ったときに把握し、Bさんは入院時の記録で把握していた。方言や生活背景が共有しあえる環境を整える必要があると思った。Aさんの不穩は方言や生活背景など異なることが原因であると考えた。Bさんははっきりしないが、Aさんの不穩は落ち着いた。

## (2) <方言での会話を通訳する>

“高齢者が、医師に症状や訴えを表現できるように方言で「ツグスヤムヌ（膝が痛い）」と話すと通訳し、安心し方言で話せるようにしている（ID6）”、“診断や治療に役立つよう、高齢者が語る方言を通訳している（ID6）”、“県外の看護師が標準語で説明しているが、高齢者がちぐはぐな会話をしている場面にでくわし、私が方言で説明したら高齢者はよくわかったという表情をした。（ID7）”と、高齢者の方言での会話を通訳しケア関係を作っていた。

**場面の例** “高齢者が、医師に症状や訴えを表現できるように方言で「ツグスヤムヌ（膝が痛い）」と話すと通訳し、安心し方言で話せるようにしている（ID6）”

高齢者が方言で「ツグスヤムヌ（膝が痛い）」と言って、医師が困っているところに、「膝が痛い」と通訳をし、患者の伝えたい痛みの代弁をした。そうすると患者は心を開いて自分のことを方言で語り始める。自分の症状や訴えをたくさん表現してくれる。

## (3) <方言での会話を通訳してもらおう>

“県外出身の私は、方言が通じないので、高齢者が方言で話しかけてきたら、地元の看護師を探し通訳をしてもらっている（ID9）”、“方言が聞けない、話せない私は、方言で高齢者が話し始めると、方言の聞ける人に解説してもらい、訴えを理解し「こうしようね」とケアに活かしている（ID10）”と、方言のわからないケア提供者は通訳してもらい、ケア関係を作っていた。

**場面の例** “方言が聞けない、話せない私は、方言で高齢者が話し始めると、方言の聞ける人に解説してもらい、訴えを理解し「こうしようね」とケアに活かしている（ID10）”

島外出身の私は、方言が話せず、聞けないので、方言で話しかけられたら、地元の職員に声かけして、代わりに聞いてくれないかをお願いしている。・・・方言がわからなくて、「もういいよ」と対象に拒否された経験もある。もういいよじゃなくて、ごめんね。わかる人になるからこの人に話して下さいとお願いをしている。そのことで、高齢者も安心している。方言を聞ける人に解説してもらい、本人が話していることを通訳してもらって、「こうしようね」とケアに活かすと、本人が安心した表情になる。

## (4) <方言でのコミュニケーションを認め重宝する>

“方言を交えてコミュニケーションを取り親しくなった患者から「誰にもいえないところがかゆい」と陰部搔痒感を訴えられ、帯状疱疹の診断を受け、治療につなげた（ID8）”、“医師と共通語でぎこちない会話をしている高齢者に方言で話すことを促すために方言で語りかけると、方言を交えて症状を伝えられた（ID5）”、“共通語で話が续かなくなったときに、「方言で話してもいいよ」といったら、ぼそぼそと語りはじめるので本人の意思を確認しながらケアが組み立てやすい（ID26）”、“共通語で話すと、家族が主導権を握って本人が黙ってしまうので、本人の意思を確認するときには方言での会話を促す（ID26）”、“方言での高齢者との会話は冗談やいいたいことが言えるので、方言で話している（ID29）”、“地域の子ども達が慰問で、方言での挨拶をしたら高齢者が涙ぐんだ場面に出会い、方言の持つ高齢者ケア力に感動した（ID15）”などの、高齢者と方言でのコミュニケーションがケアに活かされるケア関係を作っていた。

**場面の例** “方言を交えてコミュニケーションを取り親しくなった患者から「誰にもいえないところがかゆい」と陰部搔痒感を訴えられ、帯状疱疹の診断を受け、治療につなげた（ID8）”

高齢者には、できるだけ方言を交えて会話をするようにしている。だんだん親しくなったある日、「誰にもいえないところがかゆい」と方言で言だし、当初から全身搔痒感があり、軟膏を塗布していたが、軟膏を塗ってもかゆみが良くならないと言っていたので、そのことを主治医に告げ、診察の結果、帯状疱疹が見つかった。

#### (5) <行事の話題で会話を膨らませる>

“伝統行事食を一緒に食べながら調理方法や長男嫁としての伝統行事の苦労話を聞いた（ID2）”、“初めて出会う高齢者に「どこ生まれ」と尋ねて、伝統行事や、地域への関心度、つながりなどきっかけをみつけコミュニケーションを図るようにしている（ID6）”、“地域が異なれば伝統行事も異なるので、新聞などで情報を仕入れ高齢者に話題を提供している（ID20）”、“島の伝統行事や地域行事に参加し、高齢者との会話で出来事を話題にする（ID33）”、“認知症高齢者であっても、伝統行事のことをよく覚えているので、話題にして語らせるようにしている（ID28）”などの、高齢者の地域行事・伝統行事の話題を見つけ、ケア関係を作っていた。

**場面の例** “伝統行事食を一緒に食べながら調理方法や長男嫁としての伝統行事の苦労話を聞いた（ID2）”

・・・行事に帰ることをすすめてみても、家族がいなかったり、家族に断られた入院患者がいるので、その時は、自分の自宅から行事食をもってきて、帰れなかった人たちに配った。・・・料理を見て、「今日は〇〇行事だね」や「元気な頃は自分はこんな風に料理をしたよ」と語りだし、話が弾む。・・・伝統行事の話をする、長男嫁の苦労話も出てきて、自分も長男嫁だと伝え、共有している。その話を聞きながら、長男嫁の役割について学んでいることもある。

#### (6) <出身地の話題で会話を膨らませる>



“誰もが生きることが精一杯だった時代を生きた高齢者に、出身地やその人自身について語れるように話題を工夫している（ID14）”、“共通の話題を見つけ距離感を縮めるために県外出身の私のことも話題にする（ID15）”、“高齢者の出身地を話題にし、高齢者の生活歴、関係者のつながりを把握するようにしている（ID18）”、“手工芸（織物）をしていた地域であり、手工芸に関心があるのでは？と思い、母の手作りの小物を見せると若い頃の思い出まで話題が広がった（ID15）”などの、高齢者の住んでいる地域の話を見つけ、ケア関係を作っていた。

**場面の例** “誰もが生きることが精一杯だった時代を生きた高齢者に、出身地やその人自身について語れるように話題を工夫している（ID14）”

目の前の高齢者達は、生きていくことに必死で、狭い範囲で生活してきたので、話題性が隣の村や、部落までは及ばず、自分の身近なこと、身近な出来事に目を輝かせる。それに気づいたのは、伝統工芸（宮古上布）の色や折り方が、多様にあるにもかかわらず、自分の折り方しか知らなかったことに驚き、今のように情報があるわけではないので、そのゆとりもなかったもので、知らなかったことが了解できた。この経験を通して、高齢者との話題は、生きるために一生懸命自分のことだけをしてきた時代に生きてきた人たちなので、その人の出身地やその人自身のことが語れるように話題を工夫している。高齢者のケアには、出身地が大事なことだと気づいたので、職員には、高齢者が入所時に出身地を聞くように伝えている。

## 6) 【地域文化を共感するケア】（表 22）

【地域文化を共感するケア】のカテゴリーは、＜行事重視を理解し、対処する＞、＜代替ケアをつくる＞、＜慣れ親しんだ行事に誘い連れ出す＞、＜慣れ親しんだこととの触れ合いをつくり出す＞の4つのサブカテゴリーであった。

### (1) <行事重視を理解し、対処する>

“伝統行事の時期は島外からの面会者が増加することを予測し、病室で談話ができるよう環境を整えた（ID3）”、“入院中の高齢者は、1日、15日に仏壇の供え物をする人を探していたので、供えてくれる人が見つかったか確認した。（ID1）”、“伝統行事が忙しく高齢者の介護が十分できないことで社会的入院になる患者を「仕方がない」と受け入れている。（ID6）”、“伝統行事（十六日祭）に参加できず落ちこんでいた70代の高齢者に、「元気になってから事情を説明したら神様はとがめないと90代の高齢者が話していたよ」と作り話をして励ました（ID8）”など、入院により伝統行事に参加できない高齢者の行事重視を理解し、対処していく、地域文化を共有するケアや、“地域行事（運動会）は地域によって日程が異なるため、教育委員会に問い合わせ、病棟看護師が地域行事に参加できるよう師長として勤務を組んだ（ID1）”、“伝統行事の準備の中心は長男嫁であるため、高齢者が長男嫁であるか否かを把握している（ID3）”、“足の不自由な高齢者が伝統行事の買い物に困らないよう、前もって声かけし自分の買い物のついでに買い物をする（ID21）”などの、行事の準備や参加を、高齢者とケア提供者が滞りなくできるよう、地域文化を共有するケアであった。

**場面の例** “伝統行事（十六日祭）に参加できず落ちこんでいた 70 代の高齢者に、「元気になってから事情を説明したら神様はとがめないと 90 代の高齢者が話していたよ」と作り話をして励ました（ID8）”

伝統行事（旧十六日祭）に、入院中のため参加が出来ない高齢者が、仏壇に線香があげられないことに対して先祖に申し訳ないと落ちこんでいた 70 代の高齢者に、「神行事に詳しい 90 代の高齢者が病気を直して、後からでも線香を上げて事情を説明すれば、神様はとがめないと」と作話をして伝えた。早く元気になって、退院して、神様にありがとうございますと感謝の言葉をかけようねと慰めた。主治医が驚くほど、患者の表情が明るくなり、前向きに生きる姿勢が見られ、不思議に検査データも良好になって、退院した。・・・

## (2) <代替ケアをつくる>

“地域行事（敬老会）を重視する地域の高齢者が敬老会までに退院できなかったので病院で敬老会を開催することを提案し、実施した（ID2）”、“伝統行事に帰れない高齢者には施設内で月見会をしたり、「家の方向に向かって手を合わせようね」と支援している（ID11）”、“若い頃楽しんだ地域行事（運動会）の話題がでるので、施設で運動会を実施し、対象の状態にあわせて見学や応援を手伝っている（ID10）”、“家族との折り合いがつかず施設に残る高齢者には伝統行事食をつくって一緒に食べる（ID27）”、“伝統行事（八月踊り）への参加は家族の反対で叶わなかったが、代替案として同級生に伝統行事当日に訪問を依頼し伝統行事について語ってもらった（ID36）”などの、行事や地域文化の代替ケアで共有していた。

**場面の例** “伝統行事（八月踊り）への参加は家族の反対で叶わなかったが、代替案として同級生に伝統行事当日に訪問を依頼し伝統行事について語ってもらった（ID36）”

終末期の高齢者が、島に帰りたがっていた。家族は状態が悪いので、連れて行けないと諦めていたが、毎年参加している伝統行事で有り、最後の参加になると思ったので、家族に島の伝統行事（八月踊り）に連れて帰ることは出来ないのかと何度も、しつこく説得をした。それでも家族の了解が得られなかった。何か出来ないかと家族と相談したところ、家族が要介護高齢者の同級生に相談し、同級生が島の八月踊りに行く前に、自宅を訪問してくれた。島に帰すことはできず、八月踊りに参加することは叶わなかったが、同級生の訪問で参加したかった八月踊りの話で盛り上がり、本人はすごく喜び、一時ではあるが、元気になっていた。亡くなった後、家族から友達を自宅に呼んで八月踊りのことを話題にして本人が嬉しそうにしていたのは、良かったと感謝された。

## (3) <慣れ親しんだ行事に誘い連れ出す>

“海の近くにある施設であり、浜下りする伝統行事（サニツ）には、おやつを準備して、声かけしてでかけ、車いすごと浜辺に下し楽しむ（ID10）”、“女性の高齢者には、伝統行事（浜下り）に参加し元気になってもらいたいと思うので、意図的に誘っている。（ID26）”、“カツオ漁で家族を支えてきた認知症の男性高齢者には、昔の記憶を呼び戻せるよう伝統行事（ハー

リー)に連れ出した(ID35)”などの、高齢者が経験してきた行事と一緒に参加し共有するケアであった。また“地域の行事を地元のテレビなどで情報を入手し、高齢者を誘い一緒に参加する(ID26)”、“地域行事(トライアスロン)は、準備の段階から地域全体の参加で開催されるので、施設の高齢者も応援する参加を企画し、毎年実施している(ID14)”などの、高齢者の経験してきた行事への参加の準備から共有するケアであった。

**場面の例** “女性の高齢者には、伝統行事(浜下り)に参加し元気になってもらいたいと思うので、意図的に誘っている(ID26)”

女性の高齢者の場合は、特にサニツ(女性が身を清める伝統行事)のことを気にして、聞くようにしている。希望を把握して、女性の高齢者は、一人でも多く、サニツの時期に海に出かけ、車いすでも足をつけられるようにしている。昔からの行事なので、サニツに海で足を清めると元気になるという意味があるので、元気になってほしいし、本人が参加して自分も元気になるんだという気持ちが出てくればと期待して、意図的に誘っている。

#### (4) <慣れ親しんだこととの触れ合いをつくりだす>

“伝統工芸(宮古上布)の材料を(チョマ)を施設の中庭で栽培し、職員で収穫して、高齢者に宮古上布を紡げるようにした(ID14)”、“人との交流が得意でない高齢者が若い頃にやっていたこと(豆を蒔き、収穫し、調理してみんなに振る舞う)を一人でやり遂げられるように企画し、取り組んだ(ID17)”、“高齢者が暮らしていた地域に複数で外出し、若い頃集まった場所でお茶会をしたり、地域の売店で買い物をしたり、地域の人々の歓迎された(ID18)”などの、高齢者の地域での生活と触れ合える機会をつくり共有するケアであった。

**場面の例** “人との交流が得意でない高齢者が若い頃にやっていたこと(豆を蒔き、収穫し、調理してみんなに振る舞う)を一人でやり遂げられるように企画し、取り組んだ(ID17)”

今はやれないけど、高齢者が「豆を植えたい」と言ってきたので、それを一緒に続けてきた。元気な時にずっと豆を植えてきた、自分で育てた豆をみんなに焚いて食べさせたいとこぼしていたのを聞き、家族に種を買ってきてもらい、施設のちょっとした畑に植えようと言ったら、本人は曲がった背中で畝を作り、木を伐り、一連の作業をすべて一人でやり遂げた。人との交流が得意じゃなく、何年も前から入所しているのに、ずっと思っていたと思うけど、そのことをずっと語らずにいたが、今、やっと語ってくれた。

### 7) 【習い続ける地域文化】(表 23)

【習い続ける地域文化】の категорияーは、<方言を学ぶ>、<行事を学ぶ>の2つのサブカテゴリーであった。

#### (1) <方言を学ぶ>

“見舞客が持ってきた方言の本をみて、高齢者に「わからないから教えて下さい」と頼むと、

高齢者はうれしそうに教えてくれた（ID4）”、“方言は高齢者たちの会話の主流であるので、方言を必死で覚え、方言を交えて会話するようにしている（ID36）”、“よりよい信頼関係を高齢者とつくりたいので、方言を理解する努力をしている（ID15）”などの、高齢者から方言を習い続けていた。

**場面の例** “よりよい信頼関係を高齢者とつくりたいので、方言を理解する努力をしている（ID15）”

地域ごとに特徴的な方言があり、県外出身の私は、方言の話もできないし、聞くこともできないので、私が困った顔をしていると、ぎこちないながらも標準語で話して、会話を成立させるために気を使ってくれていると感じている。関係性が壊れないよう気を使ってくれる。私も信頼関係を作りたいので、方言を理解する努力をしている。

## (2) <行事を学ぶ>

“「島のことをもっと教えるので自宅に遊びにおいで」と誘われ退院後、方言や伝統行事を学びに高齢者宅を訪問した（ID4）”、“伝統行事（十五夜）を味わってもらうために、過去にやっていたおはぎづくりを習いながら訪問看護師仲間も誘って一緒につくった（ID21）”、“デイサービスで行事のことを話題にしながら、要介護高齢者から行事の段取りを習う（ID33）”、“高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい（ID19）”などの、高齢者から行事を習い続けていた。

**場面の例** “高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい（ID19）”

特に、女性高齢者は、これまで行事のときには、料理をつくってきたので、女性高齢者は男性よりも、行事には、帰りたい願望が強いと思う。だから、女性高齢者の方が、行事が近づくとそわそわする。女性高齢者には、行事料理の品数や、作り方や料理の由来など、話を聞くようにしている。私も受け継ぐべきものは受け継ぐと思っているので、自分から聞いて習うようにしている。私は、結構受け継いだタイプだと思う。高齢者から聞いた内容を子ども達にも伝えていきたいと思う。わからないことがいっぱいあるので、これからも高齢者から習いたいと思う。

## 8) 【地域文化の周知と啓蒙】（表 24）

【地域文化の周知と啓蒙】の категорияは、<地域の価値を病院に啓蒙する>、<行事の大事さを病院・施設に周知する>の2つのサブカテゴリーであった。

### (1) <地域の価値を病院に啓蒙する>

“県外出身の看護職が「ルールを守らせて下さい」と発言しても、見舞客の面会を優先する必要性を伝えている（ID3）”、“自宅で亡くならないと成仏できない島の高齢者であることを看護師に伝え合うようにしている。（ID1）”、“「病院の敷地内に拝所がほしい」との患者家族

からの要望に応じて、その設置にむけて病院長、事務長と検討し、予算を工面して実現にこぎ着けた（ID1）”、“地域で行われているエンゼルケア（葬儀屋）と病院のエンゼルケアが異なっていることを知り、葬儀屋と話し合い折り合いをつけた（ID1）”という、地域の要望や価値を、病院に取り入れ、周知や啓蒙していた。

**場面の例** “「病院の敷地内に拝所がほしい」との患者家族からの要望に応じて、その設置にむけて病院長、事務長と検討し、予算を工面して実現にこぎ着けた（ID1）”

旧病院の時に、病院の入り口で塩を置いたり、供え物を置いたりする拝所と「塩はここに置いてください」という立て看板もあった。新病院になるときは、当初拝所がなかったので、あちこちに塩を置かれていたことと、利用者から要望があったため、病院で院長、事務長を含め、拝所の設置について検討した。そして、ヌジファ（病院で亡くなった人の魂を家につれて帰る儀式）のための拝所を、予算を工面して作った。・・・

## (2)＜行事の大事さを病院・施設に周知する＞

“病棟のカレンダーに伝統行事はマークしている（ID3）”、“盛大な伝統行事の日に検査を入れようとする新米の医師には、伝統行事について解説し、別日程の調整を依頼している（ID6）”、“職員研修会で、地域行事に参加することで施設では見ることのできない高齢者の表情があることを伝えている（ID12）”、“（施設長の私は）どの地域行事でも、外出を支援し地域と交流する機会を持つよう、職員に指示している（ID14）”などの、高齢者の行事の大事さを病院・施設に周知していた。

**場面の例** “盛大な伝統行事の日に検査を入れようとする新米の医師には、伝統行事について解説し、別日程の調整を依頼している（ID6）”

できるだけ伝統行事はみんなで楽しみたいので、十六日の伝統行事には、検査日程は組まないように、カレンダーにわかるように書いてある。検査日の設定は患者と医師で行われるが、新米の医師はわからないで組んでしまうことも予測している。長い付き合いの医師なら「これではできないよ」と言うが、1年交代の医師には、意識をして検査日を調整する。伝統行事の日は検査を組んでも「患者さんきませんよ」と伝えるようにしている。十六日が大事な伝統行事であることを解説する。そしてずらしてもらえるように、お願いをする。

## 9)【みんなで育み続ける地域文化ケア】（表 25）

【みんなで育み続ける地域文化ケア】の категорияーは、＜家族が伝統行事を安心してできるよう工夫する＞、＜高齢者と職員が行事ができるよう工夫する＞、＜つながりのある人々（家族・地域住民・事務職・専門職）をケアに巻き込む＞、＜ケアに高齢者の強みを借りる＞の4つのサブカテゴリーであった。

### (1)＜家族が行事を安心してできるよう工夫する＞

“伝統行事の儀式（行事の祈り役）の締めくくりへの参加を介護のためにあきらめかけている嫁介護者に、娘の了解も得て、要介護高齢者のショートステイ利用を支援した（ID25）”、“伝統行事の墓参りには、要介護高齢者の家族が安心して墓参りできるよう訪問看護の時間を調整している（ID21）”、“嫁介護者を、伝統行事の締めくくりに参加させてくれた要介護高齢者に「ありがとう」と感謝した（ID25）”、“エンゼルケアとして家族や身内で入浴の習慣を持つ地域で、専門職として入浴のしやすい用具や方法を伝える（ID36）”という、高齢者だけでなく家族も行事に安心して参加できるよう工夫して地域文化ケアをしていた。

**場面の例** “エンゼルケアとして家族や身内で入浴の習慣を持つ地域で、専門職として入浴のしやすい用具や方法を伝える（ID36）”

宮古では、亡くなったあとに死者をお風呂に入れるという習慣を持つ地域がある。入浴は身内皆で、あの世の旅立ちに、身を清めて神様になるという意味で、入浴をする習慣があり、浴室の床に死者を寝かせて流水で入浴する行為がある。訪問看護師の私は、死者の入浴を支援するのにシャワーキャリーがあると便利なことを知っているのので、家族に声かけし、環境を整える支援をしている。

## (2) <高齢者と職員が行事ができるよう工夫する>

“（管理者の私は）高齢者だけでなく、職員の出身地も把握するようにしている（ID17）”、“伝統行事（十六日、旧盆）は、職員も高齢者もできるように、同じ地域はペアを組む調整をしている（ID16）”、高齢者だけでなくケア提供者の職員も伝統行事に安心して参加できるよう工夫して地域文化ケアをしていた。

**場面の例** “伝統行事（十六日、旧盆）は、職員も高齢者もできるように、同じ地域はペアを組む調整をしている（ID16）”

十六日と旧盆は、利用者だけでなく、職員も伝統行事として墓参りをするので、ケアのついでに職員が自分の墓参りができるよう、地元が一緒の高齢者と職員をペアに調整している。宮古には、祖先崇拜で墓参りを大事にしている文化があるので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしている。職員も同じ地元の高齢者は、「自分が連れていく」と申し出るので、職員の同意も得られている。

## (3) <つながりのある人々（家族・地域住民・事務職・専門職）をケアに巻き込む>

“町並みを美しくするために植栽を推進している高齢者を支持し、訪問看護師仲間にも声かけして夜の花見会を高齢者宅で行った（ID21）”、“最期のエンゼルケアは、馴染みの宗教仲間に声かけし、一緒に行った（ID21）”、“外出支援でケア提供者が足りないときには、事務職も巻き込む（ID11）”、“伝統行事には私（職員）の仏壇もあるため、家族を巻き込んでいる（ID11）”、“新人職員を伝統行事や地域行事の外出支援に連れて行く（ID11）”、“（管理者の私は）同じ地域の高齢者と職員をマッチングさせ、地域行事に高齢者を連れ出している（ID17）”などの、高齢者の希望に、高齢者となつながらのある多様な人々を巻き込み地域文化ケアをしていた。

**場面の例** “最期のエンゼルケアは、馴染みの宗教仲間に声かけし、一緒に行った (ID21)”

ひとり暮らしの高齢者が、「入院したくない、輸血したくない、家にいたい」と言い続けていたので、本人の希望するケアを在宅で行ってきた。訪問時に、同じ宗教の関係者が頻繁に出入りをしてお見舞いをしていたので、いよいよターミナル期には、この人達に看取りの協力をしてもらいたいと考え、見守りを依頼した。高齢者に必要なケアを組み立て、本人の希望でもあったので、宗教関係者に見守りと食事の介助を依頼し、一日の中でローテーションを作って、提案し合意を得た。食事介助については、食事の準備から食事の食べさせ方まで具体的に指導をしたところ、宗教仲間はきちんとその通りにしてくれた。本人は、宗教関係者のケアを望んだので、本人の言うとおりにした。亡くなる瞬間には、ケアに参加していた宗教関係者を呼んで、一緒にエンゼルケアを実施した。

#### (4) <ケアに高齢者の強みを借りる>

“県外出身の私が高齢者同士の方言での会話に入れないうことで関係性が崩れないように高齢者に気遣ってもらわれていると感じる (ID15)”、“特技 (三味線を弾く) が見いだせたので、一緒に歌う機会をつくったり、施設のイベントに三味線の披露をしてもらった (ID15)” “高齢者を地域に連れ出すと、高齢者は地域に詳しいので職員を案内してもらい、主導権を握らせる (ID18)”、“仏壇のある家に訪問したら、親戚、近隣が家に入らないぐらい集まり、高齢者を歓迎してくれた (ID18)”などの、高齢者の特技や人間性、地域で培ってきた強さを借りて地域文化ケアをしていた。

**場面の例** “高齢者を地域に連れ出すと、高齢者は地域に詳しいので職員を案内してもらい、主導権を握らせる (ID18)”

地域に出ると高齢者は方言でペラペラしゃべれるし、職員はお客さんになり、高齢者が主役になって主導権が施設と変わる。また、高齢者は地域に詳しいので、地域を職員に案内してくれる。施設より地域にいる高齢者は生き生きする。

#### 10) 【家族のようにつながり続けるケア】 (表 26)

【家族のようにつながり続けるケア】のカテゴリーは、<自分のために祈りを願う>、<家族の介護をねぎらう>、<業務を越え家族のようにつながり合う>、<家族のように大切に>、<生活の喜びをおすそ分けする>の5つのサブカテゴリーであった。

##### (1) <自分のために祈りを願う>

“私のメンタルケアが必要な時に、高齢者に一緒に祈りをしてほしいとお願いしている (ID15)”というケア提供者の希望を伝え、行ってもらうという家族のようにつながり続けるケアをしていた。

**場面の例** “私のメンタルケアが必要な時に、高齢者に一緒に祈りをしてほしいとお願い

している (ID15) ”

私が気分がすぐれず、もやもやしているときには、その神様がみえると話している高齢者に自ら声掛け、誘って外出し、(私のために)一緒に拝みをしている。「これで大丈夫ね」とその高齢者にすがすがしく言われると、私も大丈夫と思える。だから、私のメンタルのケアが必要な時にはその高齢者に一緒に拝みをしてもらえるよう、お願いしている。

## (2) <家族の介護をねぎらう>

“高齢者と家族の思いが違う時には、高齢者の島にいたい気持ちに肩入れするだけでなく、家族の介護負担に配慮し、家族を癒すようにしている (ID30) ”、“高齢者と家族の思いが違う時には、家族の介護負担に配慮し、差し入れや生活のためにできることを探し、手伝いをして (ID30) ” という、高齢者を介護している家族へも、つながり続けるケアをしていた。

**場面の例** “高齢者と家族の思いが違う時には、高齢者の島にいたい気持ちに肩入れするだけでなく、家族の介護負担に配慮し、家族を癒すようにしている (ID30) ”、“高齢者と家族の思いが違う時には、家族の介護負担に配慮し、差し入れや生活のためにできることを探し、手伝いをしている (ID30) ”

家族を説得はするが、家族にもストレスや介護疲れがあるだろうと感ずるので、自分の孫をその家に行かせるようにして、なにか癒されるように配慮している。また、差し入れをしたり、少しでも生活が楽になるように、できることを手助けしている。そうして、介護家族にも頑張ってもらいたいと思っている。

介護家族も、施設に入れたいと言っているが、島で介護を続けてくれるので、ありがたいと思う。

## (3) <業務を越え家族のようにつながり合う>

“担当している高齢者が入院中に会いたがっていると知り、業務ではないが仕事の合間に病院に見舞った (ID28) ”、“地域行事は、新聞などで情報収集し時間外に高齢者と一緒に出かけている (ID17) ”、“仏壇のある家に、朝のヘルパー業務で訪問するときは、「今日も一日、利用者も、私も家族同様お守りください」と必ず仏壇に手を合わせる (ID32) ”などの、業務ではなく高齢者の個々生活に合わせて、家族のようにつながり続けるケアをしていた。

**場面の例** “仏壇のある家に、朝のヘルパー業務で訪問するときは、「今日も一日、利用者も、私も家族同様お守りください」と必ず仏壇に手を合わせる (ID32) ”

朝の高齢者宅の訪問の際には、おはようございますと言いながら、自然に「今日も一日お守りください」と仏壇に手を合わせる。お守りくださいというのは、利用者だけじゃなくて、私も一緒に守ってという意味である。拜んだ後は、守ってくれると思ひ、安心する。

## (4) <家族のように大切に>

“病院に見舞いに行くと「自分は死んだほうがいい」と話すので、「私のお母さんのように大



切にするから、そんなことを言わないで」と伝え、2人で抱き合っ泣いた（ID28）”、“長年芋料理を届けた高齢者が亡くなった時には、四十九日まで家族のように芋料理を届け、供養している（ID28）”、“自分の親が好む芋料理を、毎週日曜日にたくさん調理し、島の一人暮らし高齢者へ配布している（ID28）”という、高齢者を身内と思い、家族のようにつながり続けるケアをしていた。

**場面の例** “病院に見舞いに行くと「自分は死んだほうがいい」と話すので、「私のお母さんのように大切にするから、そんなことを言わないで」と伝え、2人で抱き合っ泣いた（ID28）”

一人暮らしの高齢者が、入院したときに見舞いに行った友人たちにヘルパーが見舞いに来ないと泣いていたと耳にしたので、こんなに頼りにされているのかと思い、仕事の合間に病院に見舞いに行く。高齢者の関係者が見舞いに行ったら、「ヘルパーが見舞いに来ないと泣いていた」と人づてに聞かされて、自分に会いたいんだと思った。見舞いに行くと「自分は死んだほうがいい」と弱音を吐いて、泣き出したりするので、「私のお母さんと思っているから・・・」と伝え、二人で泣いた。

#### (5) <生活の喜びをおすそ分けする>

“一人暮らしの高齢者には、芋料理の好みを聞いて、好きな人に届けている（ID28）”という、自分の家族のために好きなものを作り、他の高齢者にも同様に生活の喜びをおすそ分けし、家族のようにつながり続けるケアをしていた。

**場面の例** “一人暮らしの高齢者には、芋料理の好みを聞いて、好きな人に届けている（ID28）”

8年前から、自分の高齢の親が好きなお芋を、日曜日ごとにたくさん購入し料理を作り、一人暮らしの高齢者に配布している。高齢者に「お芋たべる？」と高齢者に聞いて、「食べるさ」と言ったらもっていくようにしている。高齢者にも食べやすいと思い、食べやすい料理をして、もって行き差し入れる。自分の親の分を作るから、ついでに一人暮らしの高齢者の分を、たくさんでもないので作って分けている・・・

#### 11) 【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】(表 27)

【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】の категорияは、<子どもと関わり高齢者の力を活かす取り組み>、<島での暮らしの継続と活性化>の2つのサブカテゴリーであった。

##### (1) <子どもと関わり高齢者の力を活かす取り組み>

“高齢者と子ども達との交流の機会を日常的に作っている（ID34）”、“高齢者が尊敬されるよう、子ども達がシマを誇れるよう高齢者の力を子ども達の教育に活かす取り組み(シマ学校)を始めた（ID34）”、“要介護高齢者の力を借りて、シマの童歌と一緒に掘り起こした（ID34）”、“掘り起こした童歌を子ども達に教えて発表会で地域の人々に披露した（ID34）”という、高

齢者と子どもの交流から、高齢者の力を活かす地域づくりをしていた。

**場面の例** “掘り起こした童歌を子ども達に教えて発表会で地域の人々に披露した (ID34)”

高齢者達が掘り起こし、教えてもらった童歌は、子ども達に教えて祭のときなどに発表会でシマの人たちに披露する。シマの人たちは、すごい、すごいと喜ぶ。高齢者達は、こっくり頷いたり、ほそぼそと口ずさむ。本当にすごいと思うので、未来につなげていきたい。高齢者の力を借りてその役割を担いたい。

## (2) <島での暮らしの継続と活性化>

“高齢者がつくってきた世界は島にあるので、島での暮らしの継続できるような支援をしている (ID34)”、“高齢者の生きてきた知恵 (命の大切さ、違いの受け止め、心に響く語り) を活かす活動 (民泊事業) を始めた (ID34)” という、高齢者の島での暮らしが継続し活性化するように、高齢者の地域文化力を活かす地域づくりをしていた。

**場面の例** “高齢者の生きてきた知恵 (命の大切さ、違いの受け止め、心に響く語り) を活かす活動 (民泊事業) を始めた (ID34)”

高齢者から、「高齢者は口うるさく、役に立たないから捨てられるんだ」といわれた。今の若者は犬や猫はかわいがるが高齢者は捨てると言われた。島の高齢者の生きてきた知恵を活かしたい、高齢者を島の宝として役立たせたいと思い、民泊事業を始めた。高齢者は何回も島の歴史を語ってもらいたい、島の暮らしを再現してもらいたいと思った。高齢者だからできるものがあると絞り込んだ。高齢者は戦争体験者なので命の大切さを知っている。若い人は同じじゃないと満足しないが高齢者は違っていてもいいと違いを認めてくれる。繰り返し繰り返し話してくれるので心に響く。これこそ生きる力を養う教育と思ったので高齢者を主役とした民泊を始めた。

## 12) 【みんなで創り広める地域文化ケア】 (表 28)

【みんなで創り広める地域文化ケア】の категорияは <つながりのある人々を巻き込みケアを発足させ、広める> の 1 つのサブカテゴリーであった。

### (1) <つながりのある人々を巻き込みケアを発足させ、広める>

“寝たきり高齢者の外出支援について、専門職、行政、住民で話し合い、一緒に考え、活動をスタートさせた (ID20)”、“誕生した寝たきり高齢者の外出支援は、近隣の町村とも話し合い、活動を広げた (ID20)”、“看護の日には、家族、住民ボランティア、医療者を巻き込み、医療的支援が必要な高齢者の外出を支援するイベントを企画し、毎年実施している (ID21)” という、つながりのある人々を巻き込みケアを発足させ、広めていく、みんなで創り広める地域文化ケアをしていた。

**場面の例** “看護の日には、家族、住民ボランティア、医療者を巻き込み、医療的支援が必要な高齢者の外出を支援するイベントを企画し、毎年実施している（ID21）”

・・・看護の日（日曜日）には、社協のヘルパー、ケアマネ、保健所などに声をかけて、イベントとして普段外出しづらい、人工呼吸器を装着した高齢者など、外出支援のボランティアを依頼している。看護の日は、看護をわかってもらいたい日なので、看護職はこんなこともできるよと、高齢者やその家族に伝わるように、毎年イベントをしている。イベント時には、専門職のボランティアだけでなく、家族や親戚にも役割を作って一緒に参加してもらった。息子がイベントで担った役割を支持し、高齢者には、息子のおかげだから、息子への感謝を促した。息子はイベントで自信を得たのか、介護への参加が増えた。・・・本人の喜びはもちろんのこと、ボランティアの参加者が増えてきた。

### 3. 地域文化ケアの意図

地域文化ケアの意図の категорияは【家族・関係者との交流・つながりの支持】、【個人の生きてきた価値の支持】、【地域に息づく価値の支持】、【地域文化のケアへの取り込み】、【地域文化の楽しみへの想起】、【地域文化の習熟と継承】、【高齢者の地域文化への貢献】、【地域文化ケアの育成】、【我が事のような相互依存】、【地域文化によるケアの創造】の10が導かれた（表29）。category毎に地域文化ケアの意図を説明する。

#### 1) 【家族・関係者との交流・つながりの支持】（表30）

【家族・関係者との交流・つながりの支持】のcategoryは、＜行事には自宅で過ごしてほしい＞、＜行事は、つながり・交流の機会にしたい＞、＜最期までつながり・交流を維持したい＞、＜地域とのつながり・交流の機会をつくりたい＞の4つのサブcategoryであった。

##### (1)＜行事には自宅で過ごしてほしい＞

“行事は忙しいので患者が帰ると家族も大変だと思うが高齢者の思いを大事にし、伝統行事の時は家で過ごさせたい（ID2）”、“伝統行事への参加許可がおりず落ち込んでいる高齢者に、外泊が無理でも数時間の外出にでも代替させたい（ID8）”、“伝統行事の時には、親戚が島外からもたくさん集まるので家で過ごしてほしい（ID26）”、“伝統行事の日は、家で家族、神さまと一緒に過ごしてほしい（ID30）”、“誰でも施設ではなく自分の家が良いと思っているので、帰りたいたときには帰してあげたい（ID11）”などの、高齢者は行事では自宅で過ごし、家族・親族・神様などとのつながりを継続することを支持していた。

**場面の例** “伝統行事の時には、親戚が島外からもたくさん集まるので家で過ごしてほしい（ID26）”

旧正月や十六日には、家族と調整をして、できるだけ家に帰し、伝統行事のために島に戻ってくる親族も含めて家族と一緒に過ごしてもらおう。（本人は言わないけど）できるだけ、伝統行事は家族と過ごしてほしいのではないかと考えている。本人は、伝統行事の様子を私に嬉しそうに報告してくれる。子供とか孫とか、親戚がたくさん島外からも集まって、

身内と過ごしたことを生き生きと話す。

## (2) <行事は、つながり・交流の機会にしたい>

“行事には日頃会えない人たちも集まるので、交流の機会にしたい (ID2)”、“高齢者は行事に参加するといい表情をすることをこれまでの経験で知っているので外出や外泊を渋っていた家族も高齢者の表情を見て喜ぶと思える (ID2)”、“伝統行事には島内外から関係者が集まるので高齢者とその仲間を入れ交流させたい (ID3)”、“訪問時、何度も「前の職場 (施設) を見てみたい」と訴えるので、地域行事 (施設の祭) の機会にその思いを叶えたい (ID21)”、“伝統行事に参加し地域との交流の機会となり、当時の楽しい気持ちに戻ってほしい (ID16)”、“地域行事 (運動会) に参加することで、屋外まで活動範囲を広げ、島内外の人と交流してほしい (ID31)”などの、行事への参加をつながり・交流の機会になるよう支持していた。

**場面の例** “伝統行事に参加し地域との交流の機会となり、当時の楽しい気持ちに戻ってほしい (ID16)”

地域 (久松) の海神祭に、その地域の利用者を集めて連れて行った。若い時にハーリーを見に行っていたことを楽しそうに語っているのを聞いたことがあったので、地域との交流の機会になることを期待して、連れて行った。若い時から親しんできた行事に参加すると、寝たきりやどんな状態の高齢者でも、当時の楽しい気持ちに戻れるんじゃないかという想いがある、ぜひ、地域の行事には参加させたいと思っていた。その伝統行事を一緒に見て、一緒に応援して、一緒に食事をして、そして海の見える場所だから、一緒に地域巡りをして、一緒に楽しんでいる。たまにしかない貴重な場 (伝統行事) に参加することは、有意義なことだと思う。

## (3) <最期までつながり・交流を維持したい>

“危篤状態であれば、ずっとそばにいたい心情を察して、面会時間以外の面会や付き添いをさせたい (ID9)”、“最期の誕生日会に好きな食べ物を食べさせ、みんなで祝ってあげたい (ID21)”という、高齢者が最期までつながり・交流できることを支持していた。

**場面の例** “危篤状態であれば、ずっとそばにいたい心情を察して、面会時間以外の面会や付き添いをさせたい (ID9)”

危篤状態になると家族や関係者が押しかけて、消灯を過ぎてもうるさくなってしまうので、他の入院患者に配慮するよう注意をするが、危篤の状態であれば、どうしてもそばにいたいだろうと思うので、面会時間以外の付き添いもそのやり方を家族と相談して、他の入院患者に迷惑にならないように許している。

## (4) <地域とのつながり・交流の機会をつくりたい>

“施設にいても地域との交流を深めるために外出の機会を作りたい (ID12)”、“施設に入所していても、外出の機会を多くつくり地域との交流を深めてほしい (ID12)”、“要介護状態で

あっても、島の一員として連帯感を持って日々を過ごしてほしい（ID34）”という、家族だけでなく高齢者の地域とのつながり・交流の機会がもてることを支持していた。

**場面の例** 要介護状態であっても、島の一員として連帯感を持って日々を過ごしてほしい（ID34）”

島の高齢者には、寂しく暮らしてほしくないし、笑顔になってほしい、元気になってほしいという思いがある。その人の人格をみとめ対等な関係であり続けるために、地域の一員としてまだまだ生きてるという実感を持たせるために、伝統行事にまつわる人の出入りや、島の人たちの様子をできるだけ情報提供し、共有し、話題にしている。島の人のある伝統行事は高齢者が島の情報や動きを知るいい機会だと思っている。

対等な関係でいられるとうれしいし、人の世話になっていると卑下することなく、対等で、お互いさまという感じで生きてほしいと思っているので、島の情報（救急車が来たとか、人が亡くなったとか、祭りでだれが翔ってきているとか、そういう情報）は逐一流し、施設に出入りする子どもたちにも高齢者に伝わるように大きな声で声掛けするように指導をしている。島の情報を共有することで、私も島の一員だと、連帯感をもって、島の一員と感じられるよう日々を送ってほしいと思っている。

## 2) 【個人の生きてきた価値の支持】(表 31)

【個人の生きてきた価値の支持】の категорияは、<染み込んだ習慣をやり遂げさせたい>、<「家で死ぬ」を叶えたい>、<祈りの価値を認めたい>、<行事に参加できない痛みを受け止める>の4つのサブカテゴリーであった。

### (1) <染み込んだ習慣をやり遂げさせたい>

“最大の地域行事（敬老会）には高齢者を参加させたい（ID8）”、“高齢者を中心に執り行ってきた伝統行事には、高齢者にとって大切なことであるので何より優先して伝統行事に参加させたい（ID7）”、“病气すると人は誰でも神頼みをするので神事や行事はできるようにしたい（ID2）”、“小さい頃からやってきた身体に染みついている伝統行事は、身体が不自由になってもやりたい気持ちがあると思うので援助して続けさせたい（ID10）”、“残り少ない日々を楽しく、幸せに、安心して、穏やかに過ごしてほしいので、島で生きてきた高齢者の世界を人生の最期まで継続させたい（ID34）”、“高齢者にとって方言は、人生の中で身体に染み込んだ大切なもので威力がある（ID15）”などの、高齢者の習慣になっている地域文化行動の価値の支持をしていた。

**場面の例** “小さい頃からやってきた身体に染みついている伝統行事は、身体が不自由になってもやりたい気持ちがあると思うので援助して続けさせたい（ID10）”

十五夜には、行事を味わってもらうために、ふきやぎ（お供えのお餅）を買ってきて、一緒に食べて行事の雰囲気味わえるようにしている。昔からこの地域であたりまえにやってきた伝統行事なので、入所中の高齢者であっても、やるべきものと思っている。小さ

い頃からやってきた行事については、私が知らないことを教えてもらう機会があることと、小さい頃から体にしみついた行事は、やりたい気持ちがあり、身体的にできなくなっても、援助してもらってでも続けていきたい気持ちを察している。

## (2) <「家で死ぬ」を叶えたい>

“終末期で自宅に帰りたい人の心情は生きてきたところにいたいと思っているのでそれができるようにしたい (ID3)”、“自宅死をあきらめている高齢者でも、隠れたニーズ (人生の最期の方は家で過ごしたい) に沿いたい (ID6)”、“病院より在宅は家族との距離が近くなり伝えたいことが伝えられやすく、家族の絆が持ちやすいので在宅看取りを推進したい (ID24)”、“自宅で看取る価値を持つ島の高齢者と家族の思いを遂げられるようにしたい (ID6)”、“宗教仲間のケアを受けながら自宅で最期を迎えることを希望していたのでその希望を叶えさせたい (ID21)”などの、高齢者の住み慣れた自宅で死ぬことの価値の支持をしていた。

**場面の例** “病院より在宅は家族との距離が近くなり伝えたいことが伝えられやすく、家族の絆が持ちやすいので在宅看取りを推進したい (ID24)”

息を引き取る前に、自宅に連れて帰るという習慣がある地域 (〇〇島) の患者は、先生が「そろそろあぶない」というと、「家族が連れて帰りたい」というので、搬送の準備を整えるなど、家族の思いに応えている。その地域は、自宅で亡くならないと、魂が戻らないということがあり、死後に病院で拝みをしなければならないという習わしがあるので、その通りにして、退院ができるように調整している。患者の最期を看取することは、家族にとってとても大事なことと思うので大事している。病院では、医師と看護師の出入りが激しく、家族とのかかわりがとりづらくなると思う。在宅では、家族との距離が近いので、「ありがとうね」と言えたり、心の交流があると思うので、自分も帰したいと思う。〇〇島だけではなく、在宅で看取することで、本人や家族の意向に添うことになる。人の最期は、感謝の言葉やこころの交流が大事なことだと思っている。病院が看取りができないということではなく、在宅では、大きな声で泣くことができるし、患者をゆすったり、触ることができ、伝えたいことが伝えられるので、家族の絆が持ちやすい。それを大事にしたいと思っている。そのために心から、最期をサポートしてあげないといけないと思うので、できるだけ在宅で看取りができるよう手伝っている。

## (3) <祈りの価値を認めたい>

“亡くなった人のそばで拝みにより魂が宿るとの価値を支持したかった (ID4)”、“非科学的と思えるようなこと (ベットのそばに塩と葉っぱを置く) でも家族の要望であれば、治療に影響ないことは支持したい (ID6)”、“パニック状態に陥っている高齢者が祈ることで処置の継続ができるなら祈ることは必要と思った (ID7)”、“看護師仲間で靈感の話題があり、病院は信仰を否定する場所ではないので危険なく、節度が守られていれば患者の信仰の行為を認めたい (ID9)”、“高齢者の仏壇の継承の悩みが心身機能に影響しているので、その悩みを取り除きたいので家族に代弁する必要がある (ID22)”、“信仰の習慣である伝統行事 (拝み) につ

いては、十分理解していないが、親がやっていたことでもあるので、高齢者たちを手伝いたい（ID31）”などの、高齢者の多様な祈りの価値を支持していた。

**場面の例** “パニック状態に陥っている高齢者が祈ることで処置の継続ができるなら祈ることは必要と思った（ID7）”

処置中に突然、誰かが見ている等、ぶつぶつと急にしゃべりだし、塩をもっておいでと言われた。様子がおかしいと思ったが、邪気を取り除くために、塩を用いることので生活経験があったので、この人が必要としているし、少しでも落ち着けばと思い、訴えに応じた。その塩を握りしめ、だんだん、落ち着いてきた。この対象者が祈ることでパニック状態から解放されて、安全な処置ができるようにしたかったから、塩を渡し、祈りが終わるのを待った。

塩が邪気を取り除くということは理解しているし、落ち着いたし、この人を安楽にさせるためには必要なケアだと思う。

#### (4) <行事に参加できない痛みを受け止める>

“地域で生きている人は伝統行事を大事にしているし、私も大事と思う（ID3）”、“伝統行事は高齢者と一緒にみんなでやりたいが、高齢者が入院しているので、できない心情を理解しできることをしたい（ID6）”、“伝統行事に参加できず落ち込んでいる高齢者を「参加できないことは（神様から）許される」と作話をしても慰めたい（ID8）”、“伝統行事に自宅に帰れない高齢者のために施設でイベントを企画し、寂し思いをさせないようにする（ID26）”、“女性が家に帰って伝統行事食をつくりたい心情を察して、料理の由来や作り方を語らせたい（ID19）”などの伝統行事の参加を支持したいが、参加できない高齢者の痛みを受け止めていた。

**場面の例** “女性が家に帰って伝統行事食をつくりたい心情を察して、料理の由来や作り方を語らせたい（ID19）”

特に、女性高齢者は、これまで行事のときには、料理をつくってきたので、女性高齢者は男性よりも、行事には、帰りたい願望が強いと思う。だから、女性高齢者の方が、行事が近づくとそわそわする。女性高齢者には、行事料理の品数や、作り方や料理の由来など、話を聞くようにしている。

私も受け継ぐべきものは受け継ぐと思っているので、自分から聞いて習うようにしている。私は、結構受け継いだタイプだと思う。高齢者から聞いた内容を子ども達にも伝えていきたいと思う。わからないことがいっぱいあるので、これからも高齢者から習いたいと思う。

### 3) 【地域に息づく価値の支持】（表 32）

【地域に息づく価値の支持】のカテゴリーは、<地域の習慣を大事にしたい>、<「地域で死ぬ」を叶えたい>の2つのサブカテゴリーであった。

### (1) <地域の習慣を大事にしたい>

“高齢者が入院すると集落総出でお見舞いに来る習慣があることを知っているので、病院のルールを緩やかに解釈して面会させたい (ID5)”、“地域は狭く情報が入りやすく、入院すると近隣も自分事のように心配するので、その関係性を入院によって途切れさせないようにしたい (ID5)”、“行事に参加しなかったら仏壇の神様に怒られ高齢者の立場が悪くなるので、そうさせたくない (ID3)”、“伝統行事は治療より優先させたいが、地域行事は治療を優先させたい (ID3)”、“(県外出身の私は) ベットの枕元にはさみを置くことは危ないと思うが島の風習を認めたい (ID9)”などの、高齢者の地域の習慣を大事にし、価値を支持していた。

**場面の例** “行事に参加しなかったら仏壇の神様に怒られ高齢者の立場が悪くなるので、そうさせたくない (ID3)”

病院のカレンダーに旧正月とか、旧盆、十六日はマークをしている。行事の日が近づくと、帰る人いないかな、退院を早めたい人はいないかなと、帰れる人、帰りたい人を探すようにしている。・・・行事に参加しなかったら、大変なことになります。神様は怒るだろうなど。行事に参加しないと、この高齢者の立場が悪くなるんじゃないとか。あっちこっち (島外) から帰ってくる人たち、せっかくみんなが集まって、めったにない機会なのに、この人だけが会えなかったらかわいそうと思います。特に高齢者は、何回も参加できるわけではないのだから。だから、いま参加をしてできることがあれば、その場所に入れてあげたいと思うんです。・・・

### (2) <「地域で死ぬ」を叶えたい>

“離島であることが壁になって終末期に島に戻れないということは納得できない (ID3)”、“過去の島の診療所の経験から「医療のない島でも終末期にかえれないことはない。できないことはない」と思えた (ID3)”、“最期を看取することを大事にしている島の価値を支援したい (ID24)”、“私が高齢者の島にいたい思いを代弁することで、家族に島にいたい高齢者の気持ちをわかってほしい (ID30)”、“高齢者の島にいたい思いを代弁することで、高齢者には島にいられるかもしれないという希望を持ってほしい (ID30)”、“経済的理由で施設入所のできない認知症の老夫婦を地域の人々の見守りを受け地域で住み続けさせたい (ID23)”などの、地域の習慣や強みを活かして、高齢者の「地域で死ぬ」という価値を支持していた。

**場面の例** “経済的理由で施設入所のできない認知症の老夫婦を地域の人々の見守りを受け地域で住み続けさせたい (ID23)”

老夫婦の認知症高齢者が、ゴミ屋敷になっていると、近所の人から、通報があった。ヘルパーや保健師やその夫、ヘルパー事業所の仲間達が8人集まり、近所の人や親戚も加わり、みんなで大掃除した。老夫婦での生活は、もう限界だろうと思い、施設入所を娘と一緒に進めた。しかし、経済的理由で、要介護状態で、二人で今の生活を継続することになった。認知症で、地域を歩き回っても地域の人々や施設のボランティアが見守り、道に迷



っても見つけて自宅まで届けてくれる。地域では、いつもぐるぐる同じところを回っているおじいとおばあがいると、地域の人々は知っているの、今日は違うところにいるねと、気遣ってくれる。自分の家で、地域の人に見守られながら、住み続けているので、施設に入らなくて良かったと思える。

#### 4) 【地域文化のケアへの取り込み】(表 33)

【地域文化のケアへの取り込み】のカテゴリーは、〈方言を援助に活かしたい〉、〈方言で関係を良くしたい〉、〈つながりをケアに活かしたい〉、〈行事を活かし生きがいに導きたい〉、〈地域間の文化の違いを理解しケアに活かしたい〉、〈行事を介護予防に活かしたい〉、〈行事はケアを進展させる機会にしたい〉、〈地元出身の強みを活かしたケアをしたい〉、〈仲間同士で分かち合える話題づくりをしたい〉の9つのサブカテゴリーであった。

##### (1) 〈方言を援助に活かしたい〉

“高齢者の訴えを適切に把握しケアに活かすために方言を知っている看護師につながった(ID4)”、“方言を交えて高齢者と会話することで、方言で症状などを訴えやすいようにする(ID6)”、“地域の高齢者は標準語で上手く話せない島民性を知っているの、代弁する必要がある(ID6)”、“方言での会話では高齢者の意思確認ができるので、家族の希望ではなく本人の意思を優先したケアを組み立てたい(ID26)”、“方言での会話では健康問題以外に生活上の課題も相談されやすい(ID22)”、“馴染みの地域を一緒に徘徊しながら、方言で過去の話をするので高齢者は安心して落ち着く(ID27)”、“方言での会話で、認知症高齢者の笑顔を増やしたい(ID30)”などの、方言を使うことで高齢者のケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “馴染みの地域を一緒に徘徊しながら、方言で過去の話をするので高齢者は安心して落ち着く(ID27)”

帰宅願望があり徘徊する高齢者は、私と同じ集落に住んでいることを知っていた。ケアを提供している場所から家までの道中がわかり、安全であることを知っているので、「私も一緒の方向なので、一緒に帰ろう」と言って徘徊に付き合う。出来るだけ落ち着かせるために集落の話や、昔のことなど本人が関心を寄せられそうな過去の話題を方言で話ながら一緒に徘徊する。帰宅時間になるとそわそわし、表情は険しくなり外に出たがる。その表情をみて、先取りしている。高齢者の反応は、だんだんおだやかになってきて安心したような表情がでてくるので、一緒に休みながら歩き続ける。

高齢者は、家に帰りたいということ把握しているので、徘徊を一緒にすることで、落ちついてきたり、安心して安定してくるのでよいのではないかと。

##### (2) 〈方言で関係を良くしたい〉

“島の高齢者は、大きい病院では緊張することを知っているの、方言で声をかけることで言いたいことが伝えられるようになってほしい(ID5)”、“一生懸命に標準語で訴えているが上手く表現できていない高齢者をみて、「方言でも良い」というメッセージを伝えたいと思った

(ID5) ”、“高齢者は方言での会話は、共通語では語れないことも話してくれ、心を開き、心を許してくれるような気がする (ID26) ”、“方言には、親近感をもたらす効果があり、看護技術にも勝る経験をしているのでターミナルケアでは意図的に方言で会話する (ID22) ”、“認知症のためにすぐ忘れるとしても、感情を表出しやすい方言で声掛け、刺激している (ID29) ”などの、方言でのコミュニケーションで関係を良くするために、ケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “島の高齢者は、大きい病院では緊張することを知っている、方言で声をかけることで言いたいことが伝えられるようになってほしい (ID5) ”

今の高齢者は、共通語で意思疎通も出来る方も多いが、きれいで大きな病院に来ると気構えて萎縮し、緊張しながらも医師やいろんな専門職に共通語で自分の症状を伝えようとしている。医師に対し、うまくないけど、一生懸命自分の症状を伝えているけど、うまくいっていない感じがするので、うまく表現できていない様子を見て、「おばあ」と声かけて、できるだけ、緊張せずに自分の思いを話して欲しいと思うので、方言を交えて「眠れた？」とか、他愛もない会話を始める。そうすると方言で自分の症状を方言交えて伝えられるように手伝っている。

地元以外の医師には、共通語で説明しないと行けないので、高齢者は、医師には伝えにくい、言いづらいと思っていることが、長年見てきた経験や、高齢者の話を聞いていて、知っている。田舎の高齢者は、こういう大きな病院では、かしこまり、奥ゆかしく、不満を言わずに、じっと我慢している感じがするので、方言を交えて話しているとふっと和らぐ。

### (3) <つながりをケアに活かしたい>

“同じ島の出身者同士を同室にしたのは、出身者同士は安心するので落ち着くかもしれないと思った (ID4) ”、“面会者によって入院中の患者が元気になることを知っている、見舞客は大事にしている (ID5) ”、“これまで近隣と支え合って暮らして生きたことを知っていたので公的サービスも取り入れながら自宅に返せると思った (ID4) ”、“学校行事や地域行事は、要介護高齢者と島の人との交流の機会ととらえ、高齢者ケアに活かしたい (ID33) ”、“意思表示ができないが、島の人との交流で表情が和らぐので、意思表示ができなくても、デイサービスに閉じ込めず、地域に出したい (ID33) ”、“地域に出向き利用者の知り合いから利用者の得意なことを聞きたい (ID11) ”、“同じ地域行事を持つ高齢者と職員をマッチングさせることで一緒に楽しめる (ID17) ”などの、高齢者のつながりを活かしてケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “地域に出向き利用者の知り合いから利用者の得意なことを聞きたい (ID11) ”

地域行事を調べて、一覧を作り、地域ごとに利用者に提示した。どんな地域行事に行きたいかという希望を聞く。利用者の希望に対して、職員の日程や、行き先を調整して、段取りを敷く。その後、利用者の家族に連絡して、地域行事の時にいきますよという連絡を

する。それは、日頃面会には来られなくても、そこで会える機会、話をする機会を作りたいので、情報提供する。家族に連絡するかしないかも、利用者に了解をもらっていく。

地域行事に利用者と参加すると、利用者の知り合いから、利用者の得意なことややってきたことも聞きたい。その話を聞いて、それを施設のケアに活かすことができる。

#### (4) <行事を活かし生きがいに導きたい>

“伝統行事への参加は、生きる意味、楽しみにつながるので参加を手伝いたい (ID26)”、“高齢者は地域には愛着があると思うので、運動することを地域で出かける意欲につなげたい (ID22)”、“高齢者の特技(伝統行事の仕方や料理など)をみつけてケアに活かしたい(ID21)”、“要介護状態になっても、昔を懐かしみ、喜びを島の皆と分かち合うことで、生きる気持ちになることを期待したい (ID35)”、“伝統行事を手伝う時は、要介護高齢者が出来る役割を見つけ、参加できるようにしている (ID28)”、“要介護高齢者は、伝統行事のことを語る時は誇らしげなので、伝統行事のことを語らせたいたい (ID28)”、“施設の中でも地域行事への参加を通して過去の暮らしを思い出し生き生きとしてほしい (ID12)”などの、高齢者が培ってきた行事を生きがいになるようケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “要介護状態になっても、昔を懐かしみ、喜びを島の皆と分かち合うことで、生きる気持ちになることを期待したい (ID35)”

ハーリーに連れ出すと、普段めったに会わない人たちも含めて島の人たちが島内外から大勢集まって交流できる一番いい機会だと思っているので、要介護高齢者を連れ出している。行事は人がたくさん集まり、絆を深める機会になる。だから、「歩けないから家にいなさい」ではなく、車いすで参加させる。今までやってきたことを体が不自由になったことを理由に、やらない、させないことは残酷なことだと思う。だから、行事に少しでもかかわらせるケアをしている。この島に生まれ育ち、私たちを見守り育ててくれ、すべての行事にかかわってきた皆さんだから、伝統行事、地域行事には参加させたい。連れだすことで、昔を懐かしみ、過去の楽しかった記憶を思い起こしてくれ、それが喜びとなり頑張って生きる気持ちを持ってくれたらということ期待している。

#### (5) <地域間の文化の違いを理解しケアに活かしたい>

“出身地にあわせて地域行事や伝統行事を頭に入れ、患者看護師間の距離を縮める (ID2)”、“適切なケアのためには、地域の把握や地域の行事を知る必要がある (ID6)”、“言葉の違いや伝統行事の違いを知っているほうが高齢者ケアに活かせるので、方言や伝統行事は知っておく必要があると思った (ID4)”、“退院後の自宅訪問は地域のことを知ることは高齢者ケアに役立つと思った (ID4)”、“高齢者は地域を愛していることを前提にしているので、地域ごとの行事を意識して話の糸口を見つけるようにしている (ID3)”などの、地域間の文化の違いを理解しケアに活かし取り込みたいとしていた。

**場面の例** “言葉の違いや伝統行事の違いを知っているほうが高齢者ケアに活かせるので、

方言や伝統行事は知っておく必要があると思った（ID4）”

方言を読んでもらうと、「宮古のこと知らないだろー」と言われて、「知らない」と答えたら、「退院したら自分の家において」といわれたので、2-3人くらいで遊びにいった。「宮古のこと知らないでしょ？」と言われて、地域のことを知ることは高齢者ケアに必要であると思い、知りたいと思った。患者が退院した時に、「遊びにおいて」と言われて遊びに行った。

幼少期に祖母と母が宮古島に関する行事をしていたのを見て育った。私自身は十六日、旧正月、お盆に興味はなかった。学生時代県外の実習で地域の人たちと出会い地域の文化に触れて、地域によって違うんだなと、地域によって価値が異なることを学んだ。それで沖縄のことに関心が持てたが、沖縄本島ではあまり考える機会がなかった。宮古に転勤して、違和感、ちょっと違うなー、言葉が違う、伝統行事が違うということで、違いに関心をよせた。その違いを知っている方が、高齢者ケアに活かせるのではないかと思った。高齢者のケアに方言や伝統行事は知っておく必要があると思った。

#### (6) <行事を介護予防に活かしたい>

“地域行事を施設で実施することは、高齢者の認知症予防になる（ID10）”、“外出しながら高齢者に希望する伝統行事（ハーリー）への参加を企画し、外出の機会にしたい（ID22）”、“孫の学園祭（地域行事）に参加を促し、孫との交流で認知機能を活性化させたい（ID12）”、“抑鬱状態の高齢者の介護予防は、近隣の気持ちの通じ合う高齢者との交流が大切であることを高齢者に伝えたい（ID22）”、“伝統行事や地域行事を話題にして回想法の効果を狙う（ID27）”、“祭の食事は変えられないが、食べ方を工夫してセルフケアにつなげたい（ID36）”などの、行事の参加や話題を介護予防に活かしてケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “祭の食事は変えられないが、食べ方を工夫してセルフケアにつなげたい（ID36）”

〇〇島で保健師をしていたとき、地域行事や伝統行事に参加しなければ、その地域では暮らせないで、自分がそこにいるために、必死でそれらの行事に参加していた。

祭りになると、血圧が高くなる住民がいるので、それをコントロールするために、島の食生活の保健指導として、祭り食（山羊汁）を食べないわけにはいけないので、祭り食に野草（フーチバー）をたくさん入れて食べるように指導していた。セルフケアに祭り食を活用し、取り込んだ。

#### (7) <行事はケアを進展させる機会にしたい>

“伝統行事に島外から関係者が来ることを知っているのだから、訪問を控えるか、意図的に家族に会える機会にするかを個別的に判断する（ID25）”、“伝統行事で、気持ちを解放し昔の話を引き出し、次のケアと一緒に考えたい（ID26）”という、高齢者の参加する行事からケアを発展させられるよう、ケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “伝統行事に島外から関係者が来ることを知っているの、訪問を控えるか、意図的に家族に会える機会にするかを個別的に判断する（ID25）”

旧盆時期には訪問しないように配慮している。島外からの家族、親戚が訪ねてきている場合には邪魔にならないように訪問を控える。そのために、家族や親せきが帰ってきているのかを確かめるようにしている。ただ、家族にケアの方針を話すいいタイミングになるので、家族が帰ってきているのを見計らって、旧盆の時に訪問を意図的に組むこともある。伝統行事には、普段会えない島外の家族や親せきが訪ねてくる習慣があることを知っているの、家族とのつながりをケアに活用できるかを個別に考える。

#### (8) <地元出身の強みを活かしたケアをしたい>

“地域のことをよく知る人のケアは、安心で、信頼でき、共感し合えると思う（ID20）”、“同じ地域で生まれ育った人ができるケアをしたい（ID20）”、“自分の生まれ育った地域であり、自分（看護師）のありのままを出してケアしたい（ID27）”、“島の出身であり、方言を自由に使えることを自分の強みとしてケアに活かしたい（ID33）”、“家に帰りたい願望を受け止め、労わりたい想いで接し、同郷であることで安心を与えたい（ID13）”などの、高齢者とケア提供者が同じ地元である強みを活かして、ケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “地域のことをよく知る人のケアは、安心で、信頼でき、共感し合えると思う（ID20）”

脳卒中後遺症で右麻痺、言語障害があり、言葉でのコミュニケーションがとれない対象者宅で「歌は好きですか?」、「民謡がいいかな」と聞いたら頭をたてにふった。宮古民謡（伊良部トーガニ）の歌を体をさすりながら、歌い出すと、体を少し揺らしリズムをとりながら、静かに聴いていた。そしたら、大粒の涙を流し、泣きながら最後まで聴いていた。私も一緒に歌を歌いながら、泣いた。

このようなことは、私も初めての経験であり、このときに、私と相手の気持ちが一一致し、共感の理解を感じた。看護の幅の広さと奥の深さを感じた瞬間であり、このとき、看護という言葉の重みを身をもって学ばせて頂いた。対象者は、この歌のメロディーや歌詞をよく存じていたに違いない。この歌がもつ、わびしさ、悲しさ、ふがいなさ、苦しさなど、世話をしてくれる高齢の夫への申し訳なさを喜怒哀楽の境地に思いを廻らされていたのかと思う。この対象者を訪問した時期の宮古島は、きび収穫の多忙な頃であり、世話をしている高齢の夫は昼食時間に家に帰り、対象者の食事介助や排泄の世話をし、また畑へ収穫作業に勤しむという生活状況であった。それゆえに、自分がおかれている状況を重ね合わせ、わびしさ、悲しさ、ふがいなさ、苦しさ、世話をしてくれる夫への申し訳なさ等を、普段より強く感じていたかなと思われる。

その地域に生まれて、その地域の状況を知っているものでなければ、できない看護だと思った。私がケアを受ける身になった時には、同じ地域に生まれ育った人から、ケアを受けたいという思いが強くなっている。それは、安心で、安全で、信頼に繋がり、共感し合えると思うからだ。

### (9) <仲間同士で分かち合える話題づくりをしたい>

“デイサービスの活動だけでは話題に乏しいので、行事に参加して利用者同士の会話を弾ませたい (ID33)”、“高齢者が地域行事 (運動会) に参加することで、話題が見つかり、利用者間での会話がはずんでほしい (ID31)”、“高齢者が、同世代の方たちと一緒にあって喜びを分かち合ってほしい (ID35)” という、高齢者同士で分かち合える話題づくりをしてケアに取り込みたいとしていた。

**場面の例** “デイサービスの活動だけでは話題に乏しいので、行事に参加して利用者同士の会話を弾ませたい (ID33)”

介護度が高くなって、地域の行事に行こうと誘っても、行くまでの気持ちが落ちてきているのか、声かけに反応が弱くなっている。だから、何度も何度も誘う。「行こう、行こう」と何度も誘う。理由は、参加した高齢者も、行くと楽しんでいるから、楽しみを増やしたいから誘う。何度も何度も声をかける理由は、家と施設の往復だけでは、高齢者との会話がはずまない。地域に出て、島の人たちに会うと、島の人たちが声をかけてくれるので、楽しそう。しぶしぶ行った人も、「久しぶりに誰々みたよ」等、利用者同士で会話がはずみ、楽しそうである。

### 5) 【地域文化の楽しみの想起】 (表 34)

【地域文化の楽しみの想起】の категорияは、<地域文化を楽しませたい>、<地域文化と一緒に楽しみたい>、<行事への思いを想起してほしい>の3つのサブカテゴリーであった。

#### (1) <地域文化を楽しませたい>

“高齢者が楽しみにしている地域行事 (敬老会) に参加したい心情を察し、代替えでもその楽しみをつくりたい (ID2)”、“人生最後の伝統行事 (八月踊り) に参加させ楽しませたい (ID36)”、“伝統行事をその人の過ごし方で再現し、楽しませたい (ID21)”、“外出の支援はデイサービスでのケアより介護の負担があるが、高齢者たちの表情の変化に期待している (ID31)”、“伝統行事の場は楽しさやうれしさを感じると思うので、場を共有することは意味があると思う (ID28)”、“島の伝統行事 (ハーリー) が好きだが、人に見られたくないと葛藤している高齢者に、せめてもの楽しみを作りたい (ID32)”、“高齢者は、地域のことはよく知っていて、地域では楽しい思いができるので、地域に出かけて楽しんでもほしい (ID18)”などの、高齢者に地域の行事などへの参加や話題で、楽しみの想起をさせたいとしていた。

**場面の例** “伝統行事の場は楽しさやうれしさを感じると思うので、場を共有することは意味があると思う (ID28)”

・・・車いすで、認知症があるから、いろんなことが分からなくなっているが、にがい (祈り) のやり方を語っているときには、誇らしげに見える。だから、伝統行事で役割が果たせなくても、反応がわからなくても、伝統行事に参加させたいと思うし、伝統行事に

いるだけでも意味がある、場の共有だけでもいいと思える。楽しいとか嬉しいと感じていると思う。

## (2) <地域文化を一緒に楽しみたい>

“美しい幻想的な風景は、私も一緒に見て楽しみたい (ID2)”、“病院で開催する地域行事は準備の段階から高齢者も準備する職員も楽しみたい (ID8)”、“年に一度の浜下りには、施設の近くの海に連れだし、楽しみたい (ID10)”、“島の伝統行事 (ハーリー) に行くことができなくても、話題を共有し、一緒に楽しみたい (ID32)”、“要介護高齢者が子供たちに癒される場を共有して一緒に楽しみたい (ID30)”、“過去の暮らし (地域での豆腐づくり) を再現し、一緒に楽しみたい (ID14)”、“地域行事 (トライアスロン) は準備から当日の応援まで一緒に楽しみたい (ID19)”などの、高齢者の行事、習慣をケア提供者も一緒に楽しみを想起したいとしていた。

### 場面の例 “美しい幻想的な風景は、私も一緒に見て楽しみたい (ID2)”

夜の、美しい (幻想的な) 宮古島の風景を一緒に見たいと思い、夜の地域行事 (なりやまあやぐ大会) の鑑賞会を企画したが、当日は雨によって、入院患者を連れ出すことが叶わず、実現できなかったことが、残念だった。次の年は、家族の協力も得て、入院患者が地域行事 (なりやまあやぐ大会) に参加できるように医師、家族の協力をえて調整をした。その夜のイベントは、幻想的なイベントなので、入院患者の癒しになると思い、企画した。体調不良時の対応ができるよう、医師や医療機器業者、家族と調整し、看護師として付き添い家族と一緒に外出した。地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフもボランティアとして誘ったら感動していたので嬉しかった。

## (3) <行事への思いを想起してほしい>

“言葉ではわからなくても実物を見て昔の記憶を呼び戻してほしい (ID35)”、“認知機能が低下していても、伝統行事 (ハーリー) に参加して懐かしい場面に触れると思い出すことを期待している (ID31)”、“認知機能が低下し、島の伝統行事 (ハーリー) がわからなくなっている人でも、実際の伝統行事 (ハーリー) の映像をビデオで見ることで参加したい気持ちを持ってほしい (ID32)”、“伝統的な踊りを舞う伝統行事は、伝統行事の雰囲気を楽しんでほしいし、体の動く部分を使って参加したい、踊りたい気持ちになることを期待している (ID32)”などの、楽しかった伝統行事を想起させたいとしていた。

### 場面の例 “認知機能が低下していても、伝統行事 (ハーリー) に参加して懐かしい場面に触れると思い出すことを期待している (ID31)”

ハーリー (伝統行事) は事業所の目の前でされるので、認知機能が低下していても、ハーリーがわかるかどうかかわからない高齢者も、ハーリー会場に連れ出して、「ハーリーだよ」と声かけして見せている。元気な時は、当たり前前にハーリーに参加してきた人たちなので、わかるはずと思い、自己満足かも知れないけど、自分が何かいいことしている感じになる。

そしてハーリーにみんな連れて行って、疲れるけど、終わったらほっとしている感じになる。元気じゃなくても、ハーリーに参加できてよかった、無事にハーリーを終えることができたと思える。

## 6) 【地域文化の習熟と継承】(表 35)

【地域文化の習熟と継承】の категорияは、〈方言を習いたい〉、〈行事を習いたい〉、〈行事を引き継ぎたい〉、〈家族に行事を継続させたい〉、〈職員の行事も大事にしたい〉の5つのサブカテゴリーであった。

### (1) 〈方言を習いたい〉

“高齢者の日常生活を把握してケアに活かす必要があると思ったので、方言での語りを理解したかった(ID4)”、“看護職が方言を学ぶことは、高齢者ケアに意味のあることであることを高齢者に伝えたいと思った(ID4)”、“看護職として方言に興味があったし、方言を習って伝わり合いたいと思った(ID4)”“高齢者ケアに方言での会話は必要であるため、方言を習いたい(ID36)”という、高齢者から方言を習い成熟したいとしていた。

**場面の例** “高齢者の日常生活を把握してケアに活かす必要があると思ったので、方言での語りを理解したかった(ID4)”

60代くらいの、池間民族の入院患者にお見舞いの客が方言で書かれた島の本をもってきていた。方言で書かれている本をみて、これすごいなと関心をよせた。患者にわからないから読んでくださいということを書いて、読んでもらって教えてもらったので良かった。方言を話す高齢者に出会って、自分が通じないため、習わなければならないと思っていた。これをきっかけに教えてもらった。高齢者の日常生活を把握して、このひとのケアに活かす必要があると思った。看護職として方言を知りたいので、教えてもらって、相手の話を理解したい、相手に伝えたいと思った。・・・

### (2) 〈行事を習いたい〉

“(ID4)”“伝統行事のやり方は家庭ごとに違うので、島の高齢者から習って自分なりのやり方を見つけたい(ID28)”、“高齢者の仏壇のことを手伝いながら、仏壇のことを高齢者から習いたい(ID31)”、“島出身者であっても、行事を面倒に感じている自分を変えたい(ID33)”、“島の伝統行事、地域行事を面倒がらずに大切に、島の高齢者のように良い年の取り方をしたい(ID33)”という高齢者から行事を習い成熟したいとしていた。

**場面の例** “伝統行事のやり方は家庭ごとに違うので、島の高齢者から習って自分なりのやり方を見つけたい(ID28)”

・・・自分はお芋を高齢者に配りながら、母親から学べなかった伝統行事のやり方を島の高齢者たちに教えてほしいとお願いして、学んでいる。家庭によって行事のやり方は家庭によって違うので、自分なりの家庭のやり方を見つけるためにもたくさん的高齢者から



習っている。

### (3) <行事を引き継ぎたい>

“高齢者は、伝統行事について教えたい、引き継ぎたいと思っているのでそれを引き継ぎ、次世代に伝えていきたい (ID21)”、“伝統行事食を習い、引き継ぎたい (ID19)”という、高齢者のもつ行事の知識や方法を習い継承したいとしていた。

**場面の例** “高齢者は、伝統行事について教えたい、引き継ぎたいと思っているのでそれを引き継ぎ、次世代に伝えていきたい (ID21)”

伝統行事 (十五夜) には、「ふきやぎ (おもち)」を作って仏壇に供えることは共通しているが、過ごし方は地域によって異なる。十五夜が近づくと、高齢者宅で十五夜の供え物や過ごし方については、地域によって異なるので、意識して聞くようにしている。幼少期に自分が体験した十五夜は地域の人皆で集まり、月見会をし、歌って、踊って楽しんでいたので、どんな十五夜を過ごしてきたのかと要介護高齢者に聞いていたら、「これまでふきやぎを作って、隣近所に喜ばれて、今でもやりたいが出来なくなっている」ことを知った。そこで、私が手伝いながら、一緒にふきやぎ作りをしたいと思い、また実際にどういう風を作るのか、自分自身も習いたいと思ったので、高齢者にできるかと聞いた。高齢者は、すぐに生き生きとした表情になり、「教えてあげるよ」と合意した。ふきやぎの材料は私が買ってくることになり、下ごしらえを要介護高齢者が引き受け、十五夜の日と同僚にも声かけして仕事終わりに作る約束をした。職場に戻り、職員に提案したところ、職員は、こういう行事はいいよね、と共感し、自分たちの文化は大事にしたい、高齢者に習いたいという思いがあった。・・・人は誰でも出来る力を持っていて、特に高齢者は伝統行事について教えたい、引き継ぎたい思いを持っている。これまで祖先から受け継いできたものを、途絶えさせずに、大事にしながら、次の世代へ伝えていきたいと思う。”

### (4) <家族に行事を継続させたい>

“伝統行事の儀式 (行事の祈り役) の締めくくりへの参加は重要なことであり、それを希望する介護者の思いを要介護高齢者の介護より優先させたい (ID25)”、“大切な伝統行事を家族が安心して皆と同じようにできるようにしたい (ID21)”、“伝統行事の日は、家で、家族にもくつろいでほしいので必要な介護は手伝いたい (ID30)”という、家族にも行事を継承させたいとしていた。

**場面の例** “伝統行事の日は、家で、家族にもくつろいでほしいので必要な介護は手伝いたい (ID30)”

正月と十六日とお盆の時は、家庭で過ごして伝統行事食を楽しめるよう組織が進めている。それは、亡くなった家族もこの世に戻ってきて一緒にご馳走を食べるし、自分も神様と一緒に過ごしたいと思うからいいと思う。その行事の時は、そういう目的で配食サービスはしないのだけど、その日は家族もみんなくつろぐ感じなので、必要な家には食事介助

やおむつ交換に入って、家族でくつろげるようにしている。

#### (5)〈職員の記事も大事にしたい〉

“高齢者と同様に私（職員）の伝統行事も大事にしたいので家族にも協力してほしい（ID11）”、“職員も高齢者も伝統行事での墓参りを大事にしていることを支援したい（ID16）”という、ケア提供者の記事を継承させたいとしていた。

**場面の例** “高齢者と同様に私（職員）の伝統行事も大事にしたいので家族にも協力してほしい（ID11）”

伝統行事は一人一人の個別支援で手間がかかり、自分たちの仏壇行事も重なるため、調整が難しいので家族を巻き込んでいく。地域行事は、同じ地域の複数の高齢者をグループで連れて行けるので、家族に依頼しなくても、介護職だけでなく施設の事務職員も巻き込んで、集めて連れていく。

#### 7) 【高齢者の地域文化への貢献】（表 36）

【高齢者の地域文化への貢献】の категорияは、〈高齢者を地域文化に貢献させたい〉の1つのサブカテゴリーであった。

#### (1)〈高齢者を地域文化に貢献させたい〉

“高齢者を尊敬できる子ども、シマを誇れる子どもを育てる役割を高齢者に担ってもらいたい（ID34）”、“高齢者が掘り起こしたシマの童歌を未来につなげていきたい（ID34）”などの、地域の高齢者の力を、地域の子どものに活かして貢献したいとしていた。

**場面の例** “高齢者を尊敬できる子ども、シマを誇れる子どもを育てる役割を高齢者に担ってもらいたい（ID34）”

高齢者を先生にして子ども達と一緒にシマ学校を始めた。すると、学校でシマの方言での挨拶が始まった。また子ども達は、三味線を購入し、高齢者から三味線を習い、舞台発表会で三味線を弾きながら歌を披露していた。高齢者に役立ち感を持ってもらいたい。高齢者は尊敬に値するものであり、粗大ゴミではない。高齢者からたくさんのことを学んで、子ども達にシマの誇りを持ってほしいと思う。高齢者の力を子ども達の教育に活かしたい。

#### 8) 【地域文化ケアの育成】（表 37）

【地域文化ケアの育成】の категорияは、〈地域文化を育む看護職でありたい〉、〈地域文化看護を育てたい〉、〈地域文化ケアを育てたい〉の3つのサブカテゴリーであった。

#### (1)〈地域文化を育む看護職でありたい〉

“看護職として、地域行事（トライアスロン）が活性化し島が発展することに貢献できる（ID1）”、“地域行事（運動会）には、看護職も参加希望があるので病棟勤務の調整をしておく

必要がある（ID1）”、“職員みんなで施設のケアを広げたい（ID11）”、“それぞれの施設での伝統行事の過ごし方を認めたい（ID12）”、“高齢者のように気遣いケアができるようになりたい（ID15）”という、行事や地域の習慣をケア提供者も継続し育成したいとしていた。

**場面の例** “地域行事（運動会）には、看護職も参加希望があるので病棟勤務の調整をしておく必要がある（ID1）”

病棟師長時代は、4月の年度初めの仕事として、宮古地区全体の運動会の日程を、教育委員会へ連絡して調べ、病棟職員の暮らす地域を確認し、運動会に勤務を組まないよう工夫した。運動会は、家族、親族が一堂に集まるので、運動会に準備したお弁当を囲んで、地域行事が家族、親族で楽しんでもらいたいとおもうので、弁当を作れるように休みにしている。それは、地域が大事にしているものを受け継ぐことになるし、行事を絶やさないことに繋がる。

## (2) <地域文化看護を育てたい>

“看護職は、地域行事や伝統行事については個人差があるので、個別ケアにおいて行事のケアを落とさないようにしたい（ID1）”、“病院の敷地内で拝む地域であり、病院に拝所はあったほうが良いと考えているので、その整備は必要である（ID1）”、“島外出身の看護職にも助け合っている地域性を伝えたい（ID3）”、“非科学的にみえても最期の願いを聴くことを優先する看護職を育てたい（ID6）”、“同僚の訪問看護師も地域文化ケアと一緒に共感したい（ID21）”などの、行事や地域の習慣を継続できる（継承）できる看護を育成したいとしていた。

**場面の例** “非科学的にみえても最期の願いを聴くことを優先する看護職を育てたい（ID6）”

入院中にベッドの周囲に、塩や葉っぱを置かせてほしいと、元同僚の看護師（妻の友達）にお願いされたので、本人や家族がそれで安心をするということであれば、いいですよということで、ベッドの頭の元におかせた。その時に塩がこぼれないように袋にいれておかせた。塩や葉っぱを置かせてほしいと依頼された。私も当然やるものだと思う。ケアの邪魔になるものではなく、家族がそうやってほしいという最後の願いを病院にしているのをそれを聞くのは当たり前であり、当然やって当たり前。例えば病棟の看護職がそのような願いに対して、断ってきたら、「何を言っているのか、最後の願いは聞いてあげようよ」と師長の私は指導する。最近の若い看護職は、ルーチン化されたマニュアルを守ることを第一に考えがちであるが、意味がないように見えることでも大事なことがあることを伝えていきたい。

## (3) <地域文化ケアを育てたい>

“新人職員にも地域行事や伝統行事への外出支援が高齢者ケアになることを知ってほしい（ID11）”、“職員研修会で職員に外出支援の良さを伝え、広げたい（ID12）”、“高齢者が地

域行事に参加して、施設では見ることのできない表情を職員と共有したい（ID12）”などの、行事参加や地域への外出支援の継続できる（継承）できるケアを育成したいとしていた。

**場面の例** “高齢者が地域行事に参加して、施設では見ることのできない表情を職員と共有したい（ID12）”

伝統行事（サニツ）のお祭りに参加するために外出した時は、家族を見つけ、声かけ、家族の共食の場面で、おとーり（酒を飲み交わす）に加わった。普段施設の生活では見れない表情を観察するために、同席して付き合った。その表情を記憶して、利用者が落ち込んだとき、元気のない時に笑顔を取り戻せるケアとして、その行事に参加するための企画をする。やってみて、自分が楽しいからやる。ここだけで生活を終わらせるのはもったいないので。

普段見れない表情を見せていたので、機会があれば連れていきたいと思ったし、ほかの職員にも見てもらいたいと思った。こういう喜びの表情を施設の中で作ることが必要と思いい、職員の教育の一環として、他の職員に同行させるようにしている。職員の研修に取り入れたのは、自分が参加して楽しいのと、利用者の表情を見ていると、施設の中だけで生活を終わらせるのはもったいないので、職員に広げたいと思う。指示された業務ではなく、ケアの一部だし、自然にできるといいと思う。

## 9) 【我が事のような相互依存】（表 38）

【我が事のような相互依存】のカテゴリーは、〈つながりのある人々（家族・地域住民・専門職）と協働でケアしたい〉、〈高齢者に家族のようにお世話したい〉、〈ケアの効果や達成感によって励まされたい〉、〈高齢者も地域の一員として認めてほしい〉、〈高齢者が心地よく暮らせる環境をつくりたい〉、〈自分のために祈ってほしい〉の6つのサブカテゴリーであった。

### (1) 〈つながりのある人々（家族・地域住民・専門職）と協働でケアしたい〉

“家族のストレスや介護疲れを少しでも理解し、できることは手伝いたい（ID30）”、“高齢者の思いを遂げるために、介護する家族にも頑張ってもらいたい（ID30）”、“高齢者を支えながら介護に苦勞する家族の思いを受け止めたい（ID30）”、“宗教仲間のケアを受けながら自宅で最期を迎えることを希望していたので協力を依頼したい（ID21）”、“急でも頼めそうな馴染みのある保健所保健師の力も借りることで、緊急事態のケアはできると思った（ID21）”という、家族・地域住民・専門職と協働でケアしたいという我が事のような相互依存であった。

**場面の例** “家族のストレスや介護疲れを少しでも理解し、できることは手伝いたい（ID30）”

高齢者は在宅希望だが、家族を説得はするが、家族にもストレスや介護疲れがあるだろうと感じるので、自分の孫をその家に行かせるようにして、癒されるように配慮している。また、差し入れをしたり、少しでも生活が楽になるように、できることを手助けしている。

そうして、介護家族にも頑張ってもらいたいと思っている。介護家族も、施設に入れたいと言っている、島で介護を続けてくれるので、ありがたいと思う。

### (2) <高齢者に家族のようにお世話したい>

“島の高齢者らにかわいがられて育ったので、恩返しをしたい (ID32)”、“一人暮らし高齢者の家族関係や行事の準備の仕方など、子供の頃から何でも知っているの、島外家族へ連絡をすることも、行事の準備をすることも当たり前である (ID29)”、“ヘルパーとして担当している高齢者は、日頃から、伝統行事で困っていることを相談してくるので、身内のように頼られていると感じるので、ヘルパー業務度外視で、自分の親のように手伝いたい (ID28)”、“この島に生まれた私たちを見守り育ててくれた高齢者だから、島の伝統行事や地域行事には参加させたい (ID35)”、“自分がしてほしいケアを高齢者へ実践したい (ID32)”などの高齢者を家族のようにお世話する相互依存であった。

**場面の例** “一人暮らし高齢者の家族関係や行事の準備の仕方など、子供の頃から何でも知っているの、島外家族へ連絡をすることも、行事の準備をすることも当たり前である (ID29)”

「行事が近づいているけど、今度はどうするの？」と島外の親戚や子どもや姪や甥に連絡して、行事の準備に供える。加勢 (手伝うこと) は、当たり前だと思っているからやっている。仏壇行事の準備を誰かがしないと困るだろうからやっている。電話をかけて、島外の家族に調整をしたりすると、「ありがとう」と感謝され、島に戻ってくる時には、お土産をもらったりする。子供の頃からなんでもよく知っているの、昔からやっていることなので、義務感でやっている。

### (3) <ケアの効果や達成感によって励まされたい>

“島の高齢者らに芋料理を配ることで、ありがとうと言われるので、自分自身の励みにしたい (ID28)”、“高齢者の伝統行事 (拝み) への思いを察して準備を手伝うことで、感謝され、褒められたい (ID31)”、“方言での会話で高齢者の笑顔を増やし、この仕事を続けるための元気をもらいたい (ID30)”、“伝統行事や地域行事への義務感や負担感と同時に、行事をすることで味わう心地よさを大事にしたい (ID33)”、“仏壇を拝むのに手伝いが必要とわかっていなければ、自分が後ろめたいので自分のためにやる (ID31)”、“島の先祖たちに見守られる安心感を得たい (ID32)”、“高齢者の出身地や関係者とのつながりを知り、介護の醍醐味を感じたい (ID18)”、“島の人として、世代を超えてわかり合えるひとときを (私が) 過ごしたい (ID19)”などの、高齢者へのケアを通して、ケア提供者への効果やそこから得られる良い感情という相互依存であった。

**場面の例** “島の先祖たちに見守られる安心感を得たい (ID32)”

朝の高齢者宅の訪問の際には、おはようございますと言いながら、自然に今日も一日お守りくださいと仏壇に手を合わせる。お守りくださいというのは、利用者だけじゃなくて、

私も一緒に守ってという意味である。拜んだ後は、守ってくれると安心する。

#### (4) <高齢者も地域の一員として認めてほしい>

“年を取ることで身体が変化し、できないことが増えることを島の人にわかってもらいたい (ID28)”、“要介護状態であることを、みっともないという島の人にも、島の大きな家族の一員として、認めてほしい (ID28)”という、高齢者も地域の一員として認めてほしいという相互作用であった。

**場面の例** “要介護状態であることを、みっともないという島の人にも、島の大きな家族の一員として、認めてほしい (ID28)”

行事(運動会、ハーリー)には、高齢者を参加させるようにしている。ヘルパーとしてできるだけ、要介護高齢者を、島の人が集まる行事に連れ出すようにしている。家族は、(要介護状態で)かわいそうだから、見せたくない」という人もいる。認知症があつて、会話ができなくなる人もいるので、島の人に見せたくないという家族の気持ちもわかるけど、年を取るのはみんな同じで、年を取るといふことは、そういうことだと思つるので、高齢者は参加させている。

地域の人は、近づいてきて、「元気か」と声掛けしてくれる人もいるが、「あんな姿になってかわいそうに」とか、「みっともない、連れまわさなければいいのに」と陰口をたたく人もいる。でも、外に連れ出すと高齢者がよい表情で喜んでるので、高齢者は地域の人が集まる地域行に参加したほうがいいと思つている。家族や地域の人たちは、「みっともない、やめてくれ」という人もいるけど、この島の人には建前ではやいのやいの言うが、本音は一つの家族だから、要介護高齢者が参加することを拒んではいない。要介護高齢者のうれしいという反応が島の人にも伝わって、受け入れられている。

#### (5) <高齢者が心地よく暮らせる環境をつくりたい>

“自分の親をこの施設に入所させたい、この施設は楽しいと思わせたい (ID12)”、“高齢者の希望が言える施設、希望が叶えられる施設にしたい (ID17)”、“高齢者が夢を実現していることを楽しんでいることがわかり、やりたいことが語れることが伝染してほしい (ID17)”、“高齢者が心地よく暮らせる島にしたい (ID34)”という心地よく暮らせる環境をつくることによる相互依存であった。

**場面の例** “自分の親をこの施設に入所させたい、この施設は楽しいと思わせたい (ID12)”

昔農作業をしていた畑好きな利用者には、プランターを準備して、本人が育てていた野菜作りを始めている。利用者は、土を入れる、種を入れると、現場監督のように職員に指示をして、職員が次はどうするの?と習うことで話が弾み、元気がでていた。発芽や成長ぶりを毎日楽しみにして、観察したりそれについての会話が弾み、元気になっている。その料理の仕方を習って、職員が調理をし、一緒に食べている。

自分はわからないことが分かるようになり、楽しいし面白い。高齢者との関係は、会話

が弾み接しやすくなる。要介護状態で施設で暮らす人にとっては、この施設が暮らしの場になっている、居心地のいい場になっている。帰る場所はここだと高齢者が言ってくれる。自分の親をこの施設に入所させたい、ここにいると面白いんだろうなと思えるケアをしたい。ここが第二の人生の場所で、僕たちと一緒に入れたら楽しいなと思わせるケアをしたい。

#### (6) <自分のために祈ってほしい>

“私のもやもや感を神様と交信できる特殊な能力を持つ入所高齢者に取り除いてほしい (ID15)” という、自分のために祈ってほしいという相互依存であった。

**場面の例** “私のもやもや感を神様と交信できる特殊な能力を持つ入所高齢者に取り除いてほしい (ID15)”

私が気分がすぐれず、もやもやしているときには、その神様がみえると話している高齢者に自ら声掛け、誘って外出し、一緒に拝みをしている。「これで大丈夫ね」とその高齢者にすがすがしく言われると、私も大丈夫と思える。だから、私のメンタルのケアが必要な時にはその高齢者に一緒に拝みをしてもらえるよう、お願いしている。特定の宗教ではなく、漠然とした信仰心を感じ安心する。

#### 10) 【地域文化によるケアの創造】(表 39)

【地域文化によるケアの創造】のカテゴリーは、<地域文化ケアを波及させたい>、<看護実践を文化にしたい>の2つのサブカテゴリーであった。

##### (1) <地域文化ケアを波及させたい>

“ひとつの地域で誕生させた寝たきり高齢者の新たな外出支援は、近隣の町村にも波及させたい (ID20)” という、地域に住み続けられるようケアを波及させるための創造としていた。

**場面の例** “ひとつの地域で誕生させた寝たきり高齢者の新たな外出支援は、近隣の町村にも波及させたい (ID20)”

老健事業がはじまった頃、寝たきり高齢者の外出支援をどのようにしたらいいかということについて、駐在保健師の私と、役場の職員と、住民と、家族でその課題について、みんなで話し合いをもちながら、一緒に考える場をつくり、高齢者の健康づくりの活動も含めて、事業をスタートさせた。ひとつの事業は、ひとつの町村にとどまらず、近隣の町村とも話し合いをもって、近隣の市町村もちまわりで、活動を広げた。

##### (2) <看護実践を文化にしたい>

“看護の日を看護の理解と新たなイベント(地域行事)に位置づけたい (ID21)” という看護実践を地域行事にしたいという創造としていた。

**場面の例** “看護の日を看護の理解と新たなイベント（地域行事）に位置づけたい（ID21）”

日頃の訪問で、多くの時間を在宅で暮らしている高齢者に、外出の機会をつくろうと行きたいところはあるかと尋ねるようにしている。看護の日（日曜日）には、社協のヘルパー、ケアマネ、保健所などに声をかけて、イベントとして普段外出しづらい、人工呼吸器を装着した高齢者など、外出支援のボランティアを依頼している。看護の日は、看護をわかってもらいたい日なので、看護職がこんなこともできるよと、高齢者やその家族に伝えるように、毎年イベントをしている。イベント時には、専門職のボランティアだけでなく、家族や親戚にも役割を作って一緒に参加してもらった。息子がイベントで担った役割を支持し、高齢者には、息子のおかげだから、息子への感謝を促した。本人の喜びはもちろんのこと、ボランティアの参加者が増えてきた。これまで、保健所の保健師は、用事のあるときのみ訪問看護ステーションにきていたが、イベントを始めたことで、何か私達に出来ることはあるか、困っていることはないかと、こちらが依頼しなくても、ボランティアとしての参加意欲が伝わるようになった。その後、保健所に依頼できること（台風時の停電の対応）は相談するようになっている。息子はイベントで自信を得たのか、介護への参加が増えた。保健所は、高齢者宅への訪問回数が増えていた。また、イベントを通して、私は、保健所保健師に関係性が近づき、依頼しやすくなった。

#### 4. 地域文化ケアの評価

地域文化ケアの評価のカテゴリーは、【高齢者・家族の良い反応に満足】、【高齢者から地域文化を学び満足】、【自らの地域文化ケアに満足】、【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】、【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】、【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】、【ケアの手間と地域の価値の了解】、【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】、【地域文化ケアで協働する喜びと感謝】、【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】の10であった（表40）。カテゴリー毎に地域文化ケアの評価を説明する。

##### 1) 【高齢者・家族の良い反応に満足】（表41）

【高齢者・家族の良い反応に満足】のカテゴリーは＜高齢者の安心した感情表出でよかったと評価＞、＜家族の肯定的反応に満足＞の2つのサブカテゴリーであった。

##### (1) ＜高齢者の安心した感情表出でよかったと評価＞

“検査日や外来は、伝統行事と重ならないように主治医と調整すると、高齢者からほっとした表情をして「ありがとう」といわれる。（ID6）”、“生活保護費を工面して仏壇に供え物をした後は、「もう手を合わせてきたので安心した」と語り、妄想や幻聴がなくなっていた。（ID25）”、“伝統行事には島外からも家族親戚が戻ってくるので、「身内と過ごしてほしい」と思うのでその調整をしているが、高齢者は子どもや孫と過ごしたことを私に嬉しそうに報告してくれる。（ID26）”などの、伝統行事の準備や参加することへのケアが、高齢者の安心した感情表出、“不穏の高齢者を同じ地域の高齢者と同室にしたら不穏が落ち着いたのは、地域によって、違



う方言や生活背景があることを把握していたので生活環境を配慮したことで不穏が落ち着いたと思う。(ID4) ”、“方言を通訳することは、看護師の指導が伝わることと、高齢者の言いたいことが伝えられるので高齢者は不安が減り「ほっ」とした表情をしていた。(ID7) ”、“死にゆく高齢者の大好きだった料理を特別注文でしつらえ、一緒に高齢者宅で食べたら高齢者は涙を流して喜んでた。(ID21) ”、“それぞれの地域や家庭で昔の豆腐作りの方法を話し始め、集中して、トイレも忘れ、失禁する高齢者もいて、みんなで楽しんだ。(ID14) ”、“認知症高齢者は、伝統行事に多くの知り合いで出会い声かけ合ってもすぐに忘れてしまうが、その瞬間は楽しそうである。(ID19) ”などの、高齢者の地域の行事や習慣へのケアが、高齢者・家族の安心した感情表出となり、良い反応に満足していた。

**場面の例** “生活保護費を工面して仏壇に供え物をした後は、「もう手を合わせてきたので安心した」と語り、妄想や幻聴がなくなっていた。(ID25) ”

親兄弟や親戚に迷惑をかけた生保の一人暮らし男性高齢者が、車で移動しなければならない本家にお供え物をもって仏壇に線香をあげたいと希望している事例があった。生保なので、仏壇行事のために、お供え物にお金をかけるのはどうかということで、生保のワーカーから注意を受けて、禁止していた。それから、本人も気になりだして、統合失調症もあり、幻聴などの症状が現れ始めていたので、ケアマネージャーとして調整に入った。そこで、本人の小遣いと考えて本人の希望のものを購入することでどうかと提案し、調整した。その背景として、不義理で迷惑をかけてきた分だけ、仏壇に供え物をしたいだろうし、その仏壇がある地域に戻りたい希望が強いだらうと感じたので実践した。権利擁護が入っていたので、ヘルパーへの訴えがあり、こだわりが強くなって、介護者が困っていた。そのため、生保のワーカーと調整に入り、本人の意向を把握した。必要性を感じた理由は、「先祖崇拜の文化があるじゃないですか。私自身もおじいとおばあに育てられていますから。もうとうや(本家)にお線香あげたいと思う気持ちがあるんですね。対象者の様子は、統合失調症の病気の特徴で感情の表現をうまくすることはないが、こだわりがとれ、妄想や幻聴がなくなっていた。「もう手を合わせてきたので安心した」と語ったので、「お父さんもお母さんも喜んでるはずよ。よかったね」と返した。私は、段取りが成功してうれしいかったし、今回の面接で私の無意識の文化に気づけてよかったと思った。

## (2) <家族の肯定的反応に満足>

“伝統行事参加のための外泊や外出に渋る家族もいるが、その後に苦情を言う家族はいないので「それで良い」と思う (ID2) ”、“高齢者の希望(自宅に戻りたい)を知りつつ、自宅で看取することをあきらめかけている家族を説得したら、後日、「自宅で最期まで家族に囲まれ、とても喜んでた」と家族から感謝された。(ID6) ”、“同じ地域で育った私は、神行事の締めくくりに参加することは「絶対的」と思ったので、家族介護者(嫁)に神行事を優先させるケアをしたら、家族から感謝された。(ID25) ”、“家族が安心して伝統行事にはお墓参りが出来るように、お墓参りの日時を合わせて訪問し家族が必要なことを手伝うと、家族から感謝の言葉をもらう。(ID21) ”、“高齢者が伝統行事ができるように島外の家族と調整し手伝うと、島外

の家族から「ありがとう」とお礼を言われたり、お土産をもらったりする。(ID29) ”などの、高齢者の行事参加への支援を通して、家族の肯定的反応があり満足していた。

**場面の例** “高齢者が伝統行事ができるように島外の家族と調整し手伝うと、島外の家族から「ありがとう」とお礼を言われたり、お土産をもらったりする。(ID29) ”

「行事が近づいているけど、今度はどうするの？」と島外の親戚や子どもや姪や甥に連絡して、行事の準備に供える。加勢(手伝うこと)は、当たり前だと思っているからやっている。仏壇行事の準備を誰かがしないと困るだろうからやっている。電話をかけて、島外の家族に調整をしたりすると、「ありがとう」と感謝され、島に戻ってくるときには、お土産をもらったりする。子供の頃からなんでもよく知っているのだから、昔からやっていることなので、義務感でやっている。

## 2) 【高齢者から地域文化を学び満足】(表 42)

【高齢者から地域文化を学び満足】の категорияは、<高齢者からの学びに満足>、<伝統行事の機会を捉えた学び>の2つのサブカテゴリーであった。

### (1) <高齢者からの学びに満足>

“看護職として、方言を知りたいと思い、患者に教えてもらったので満足した。(ID4) ”、“これまで祖先から受け継いできたものを、途絶えさせずに、大事にしながら、高齢者に教えてもらい、次の世代へ伝えていきたいと思う。(ID21) ”、“高齢者と子どもたちとの活動に私も参加して、方言の歌をいっしょに学べ、幼少期の記憶もよみがえってうれしい。(ID30) ”、“畑好きな高齢者から私は、野菜の作り方を教えてもらい、自分はわからないことがわかるようになり、楽しいし面白い。(ID12) ”、“伝統行事のことはわからないことがいっぱいあるので子ども達にも伝えていきたいので、これからも高齢者から習いたいと思う。(ID19) ”、“方言や伝統行事のことを高齢者から習うようにしているが認知症高齢者でも昔のことは良く覚えていて教えてくれる。(ID28) ”などの、高齢者から方言や伝統行事を学び満足していた。

**場面の例** “高齢者と子どもたちとの活動に私も参加して、方言の歌をいっしょに学べ、幼少期の記憶もよみがえってうれしい。(ID30) ”

子どもたちが学校から、高齢者の施設に「ただいま」と帰ってくることで、高齢者は元気づけられると思う。高齢者は、子どもたちに癒されると思うから、子どもたちが、出入りをするのはありがたい。子どもたちは一緒になって、高齢者と話したり、方言の歌を教え歌ったりして、お互いに楽しんでいる。子どもと接する表情が明るく、方言の歌を教える時も嬉しそうにしている。子どもたちと一緒に私も参加して、自分も方言の歌をいっしょに学べ、幼少期の記憶もよみがえってうれしい。

### (2) <伝統行事の機会を捉えた学び>

“自宅に帰れず入院中の高齢者から伝統行事の日に、行事の話聞き、長男嫁の役割について

学ぶこともあった。(ID2) ”、“高齢者は伝統行事が近づくと行事の準備をすごく気にしていると感じるので、そのことを話題にして行事の段取りをしながら学んでいる。(ID33) ”、“高齢者の仏壇の手伝いをするので高齢者からいろいろ教えてもらえるので、とても楽しい。

(ID31) ”、“高齢者の仏壇行事と一緒に手伝うことで、話だけではわからないことも実際に見ることで自分自身に身についたので、私はたくさんのことを教えてもらい、得したと思う。

(ID31) ” という、高齢者の伝統行事の支援を通して学び満足していた。

**場面の例** “高齢者の仏壇行事と一緒に手伝うことで、話だけではわからないことも実際に見ることで自分自身に身についたので、私はたくさんのことを教えてもらい、得したと思う。(ID31) ”

ひとり暮らしの高齢者宅に訪問するときは、高齢者が大切にしている、毎朝お茶を仏壇に供えるという習慣を、出来なくなった高齢者に変わって、準備する。高齢者を車いすに乗せて、仏壇に近づけて、窓を開けて、高齢者が指示する通りに仏壇のセッティングを高齢者に聞いて、お花とお茶を準備をしている。一緒に拝み、一緒にお茶を飲んでいる。その理由は、食事をするときに頂きますというのと同じ、毎日の生活の習慣だから実施している。これは高齢者から依頼されなくても、朝ご飯を食べるように当たり前のこととしてやっている。高齢者は、穏やかな表情で、いい雰囲気になり、穏やかな表情で「ありがとう」と、すごい幸せな表情で言ってくれる。ヘルパーとしての仕事かどうかはわからないけど、仏壇の拝の手伝いをしないで帰ると、やった方が良かったのではないかと思うし、自分自身がいいことをしていると思っているので、いいことあるようにと、自分のことを仏壇にお願いしている。

高齢者の仏壇のことを手伝うことで、高齢者からいろいろ教えてもらえるので、とても楽しい。高齢者の仏壇行事と一緒に手伝うことで、話だけではわからないことも実際に見てくれたので、自分自身に身についたので、私はたくさんのことを教えてもらい、得したと思う。

### 3) 【自らの地域文化ケアに満足】(表 43)

【自らの地域文化ケアに満足】のカテゴリーは、<自らのケアに満足>、<高齢者の価値の支持に満足>、<高齢者に家族のように頼りにされている実感>、<自らの地域文化能力に満足>、<地域に生まれ育った自負>、<自らが恩恵を受けている実感>、<地域住民が恩恵を受けている実感>の7つのサブカテゴリーであった。

#### (1) <自らのケアに満足>

“島でずっと80年余り生きてきて、島に帰りたい思いを持つ高齢者が、最期の最期に一時でも島に帰れるようにしたことは良かったと思う。(ID3) ”、“新病院でも、旧病院同様に利用者が病院内の拝所で祈りの儀式が出来るようになり、拝みをしているので利用者の希望に添えて良かったと思う。(ID1) ”、“伝統行事のイベントを地域の人々も誘ってやったら、高齢者や近隣の喜びように私もうれしかった。(ID21) ”、“地域行事で高齢者の祝いを地域を挙げて行う

地域行事への参加は疲れるが、要介護高齢者達が嬉しそうで、生き生きとしていたので自分自身も楽しかった。(ID36) ”、“伝統行事は高齢者が島外の人とふれあいを持つチャンスと思うので、参加支援をしているが高齢者が一緒にお酒を飲んでいる姿を見てうれしいと思う(ID32) ”、“仏壇にお茶を供えて高齢者と拝むと「いいことをしている」と思える。(ID31) ”、“伝統行事に高齢者を連れ出すと疲れるが、要介護状態でもハーリーに参加できて良かったと「ほっ」とする。(ID31) ”などの、ケア提供者が行った高齢者へのケアに、自身が満足していた。

**場面の例** 伝統行事は高齢者が島外の人とふれあいを持つチャンスと思うので、参加支援をしているが高齢者が一緒にお酒を飲んでいる姿を見てうれしいと思う(ID32) ”

ミャークヅツ(伝統行事)で、クイチャー(伝統的な踊り)をみたいという、車いすの高齢者には、車いすを押して、一緒にクイチャーを見にいきます。車いすを押して、一緒にクイチャー輪の中に入り、ニガイ酒(お祝いのお酒)を飲ませます。参加できることは嬉しいと思います。「ミャークヅツは、もうすぐさ」、「ミャークヅツあるよ」と、活動中に何回も話題に、行きたい気分にして、当日には連れて行きます。「ミャークヅツを見に行くか」と聞いて、何人か行きたい人がいたら、連れていっています。〇〇地域で人口が増えるイベントで、島外の人たちとのふれあいをもつチャンスだと思います。

## (2) <高齢者の価値の支持に満足>

“祈りの儀式をすることにより納得するのであれば、それで良いと思える。(ID4) ”

“ベット周辺に塩や葉っぱを置く習慣は、私も共有しているので、私も当然やるものだと思いますし、本人家族が安心すればそれでよいと思う。(ID6) ”という、高齢者の持つ価値に合わせて支持し満足していた。

**場面の例** “ベット周辺に塩や葉っぱを置く習慣は、私も共有しているので、私も当然やるものだと思いますし、本人家族が安心すればそれでよいと思う。(ID6) ”

入院中にベッドの周囲に、塩や葉っぱを置かせてほしいと、元同僚の看護師(妻の友達)にお願いされたので、本人や家族がそれで安心をするということであれば、いいですよということで、ベッドの頭の元におかせた。その時に塩がこぼれないように袋にいれておかせた。塩や葉っぱを置かせてほしいと依頼された。私も当然やるものだと思う。ケアの邪魔になるものではなく、家族がそうやってほしいという最後の願いを病院にしているのでそれを聞くのは当たり前であり、当然やって当たり前。例えば病棟の看護職がそのような願いに対して、断ってきたら、「何を言っているのか、最後の願いは聞いてあげようよ」と師長の私は指導する。最近の若い看護職は、ルーチン化されたマニュアルを守ることを第一に考えがちであるが、意味がないように見えることでも大事なことがあることを伝えていきたい。

## (3) <高齢者に家族のように頼りにされている実感>

“入院中のひとり暮らし高齢者が「ヘルパー（私）が見舞いに来ない」と泣いている話を聞き、頼りにされていることを実感した。（ID28）”、“高齢者が「自分の家で住み遂げたい」と口にするのはケア提供者を自分の子供のように思い、言いやすいからだと感じる。（ID30）”、“ひとり暮らし高齢者の期待に応じることは、「家族のように思われている」と思える。（ID28）”、“長くケアをしている高齢者から「自分の子どもだったらよかったね」といわれると高齢者から家族のように思われていると感じる。（ID31）”などの、ケア提供者が高齢者から家族のように頼りにされていることを実感し満足していた。

**場面の例** “長くケアをしている高齢者から「自分の子どもだったらよかったね」といわれると高齢者から家族のように思われていると感じる。（ID31）”

島外の子ども達に向かって、私（ヘルパー）のことを「自分の子どもだったら良かったね」と、高齢者が話してくれるのはありがたい。長いことケアをしてくると、家族以上の思いが出てくる感じがする。米寿のお祝いのあと、もっと長生きしてもらって、カジマヤーのお祝いをしたいなと思う。

#### (4) <自らの地域文化能力に満足>

“拝みのことを依頼されたのは、私が年齢が高く方言がわかるから選ばれたと思う。（ID7）”、“方言での会話は、親近感が持ちやすいので、方言を身につけていたことで、方言で会話ができることは、看護に役に立った。（ID8）”、“高齢者に「方言で話してもいいよ」といったら心を開き、心を許してくれる感じがするので方言が理解できる私は、通り一遍ではなく、その人の思いに沿って安心してケアを進めていくことができる。（ID26）”、“島外から戻って3日で方言がしゃべれるようになったので高齢者の話はほぼ聞けることがありがたいしこれを強みにしたい。（ID33）”、“活動に参加しようとしないう高齢者の地域では三味線の上手い人が多いことを知っていたので、三味線を弾きながら一緒に歌うことを試みたら、高齢者が上手に三味線を引いてくれたので、私は高齢者ケアのツールとして三味線を活用できることがわかった。（ID15）”、という、自らの地域文化ケアの能力に満足していた。

**場面の例** “高齢者に「方言で話してもいいよ」といったら心を開き、心を許してくれる感じがするので方言が理解できる私は、通り一遍ではなく、その人の思いに沿って安心してケアを進めていくことができる。（ID26）”

自分は方言は話せないけど聞くことができる。訪問してこの高齢者は話が續かないかなと思うときは、「方言聞けるから方言で話してもいいよ」と言ったら、話をしてくれるようになる。高齢者は、方言で話してもいいということを知ると、心を開き、心を許してくれる感じがする。そのことで、これまで言わなかったことも、ぼそぼそと話したりする。それを受け止めるかどうかは、聞く側の問題だけど、共通語だとたどたどしく話していた方が、方言だと一気に思いを吐き出す人もいて、その人の思いが伝わってくるので、通り一遍ではない、その人の思いに沿って、安心してケアを進めていくことができる。標準語だと家族が主導権をにぎって、本人は黙ってしまうが、方言で話すことを進めると、本人が

どうしてほしいかということ語ってくれる。本人に方言でいうと、ぼそぼそと話してくれるので、本人の意思を確認しながら進めていくと、本人もケアに納得しているように感じる。方言をつかって本人の意思に沿ってケアを組み立てるが、病院に連れて行かず在宅死をしたことについて、家族にこれでよかったのかといわれると、迷うこともある。

#### (5) <地域に生まれ育った自負>

“地域の踊りを一緒に踊って楽しむのは、都会ではできず、自分の生まれ育った地域だからできると思う (ID27) ”、“生まれ育った地域で高齢者と関わりができたので、「地元に戻ってきて良かった」と思う。(ID27) ”、“重度認知症高齢者が歌った歌は、同じ島の人だからこそ伝わるし、世代を超えてわかり合えて、ひとときを一緒に笑って過ごすことができることを嬉しいと思える (ID19) ”、“高齢者と一緒に民謡を歌いながら、その地域に生まれて、その地域の状況を知っているものでなければできない看護があると思えた。(ID20) ”という、ケア提供者が高齢者や同じ地域に生まれ育った自負とし満足していた。

**場面の例** “地域の踊りを一緒に踊って楽しむのは、都会ではできず、自分の生まれ育った地域だからできると思う (ID27) ”、“生まれ育った地域で高齢者と関わりができたので、「地元に戻ってきて良かった」と思う。(ID27) ”

レクリエーションの時に、出来るだけ地域の踊り (クイチャーやモーヤーなど) のメニューをだして、自分から踊る。高齢者を一緒にさそって踊る。高齢者は、クイチャーやモーヤーを踊ることは楽しいだろうと思う。高齢者の反応は、一緒に楽しむみテンションが上がる。自分も「上手」と褒められるのでうれしい。これまで長く県外で看護師をしていたが、このようなケアが共有できるのは、この地域でなければできないことだと思う。自分のありのままをだしてそのケアをすることは、東京などでできない。自分の生まれ育った地域でないとできないことだと思う。

#### (6) <自らが恩恵を受けている実感>

“高齢者から地域行事のことを話しかけられ、そのやり取りが私の楽しみになっている。(ID11) ”、“母の手作りの小物をみて、母を褒めてくれたので、自分自身もうれしくなった。(ID15) ”、“「伝統行事に供え物を供えると (手伝っている私にも) いいことがある」と思うのでやっている。(ID30) ”、“島言葉での会話は関係性を柔らかくするので方言での会話で私が高齢者から元気づけられる。(ID30) ”、“高齢者の地域の踊りを一緒に踊ると高齢者から「上手」と褒められ私もうれしい。(ID27) ”、“私がケアを受ける身になったときには、安心で、その人を信頼し、共感しあえる同じ地域に生まれ育った人から、ケアを受けたいという思いが強くなった。(ID20) ”、“認知症であっても伝統行事の話は誇らしげに語ってくれるので、伝統行事に参加を促すケアの必要性を支持してくれるので続けられる。(ID28) ”などの、自らが高齢者から、恩恵を受けている実感していた。

**場面の例** “認知症であっても伝統行事の話は誇らしげに語ってくれるので、伝統行事に

参加を促すケアの必要性を支持してくれるので続けられる。(ID28) ”

方言での会話は親しみが湧くので、方言で会話をするようにしている。高齢者との方言での会話では、方言で敬う言葉や、伝統行事のことを話題にしている。自分は、方言や伝統行事のことをもっと知りたいと高齢者に伝えている。にがい(折り)の言葉や線香の立て方などを習っている。今でも習いながらやっている。要介護高齢者であっても、昔の伝統行事については鮮明に覚えて、話してくれているので、今、認知症を抱えている要介護状態の高齢者に、行事のことを教えてと伝え、教えてもらっている。車いすで、認知症があるから、いろんなことが分からなくなっているが、にがいのやり方を語っているときには、誇らしげに見える。だから、伝統行事で役割が果たせなくても、反応がわからなくても、伝統行事に参加させたいと思うし、伝統行事にいただけでも意味がある、場の共有だけでもいいと思える。楽しいとか嬉しいと感じていると思う。

#### (7) <地域住民が恩恵を受けている実感>

“地域行事(子ども達の発表会)では、ふれあいを通して高齢者は子ども達に元気を与えていると思う。(ID35) ”、“重度の認知諸高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった。(ID19) ” 高齢者から、子供や他の高齢者である地域住民が恩恵を受けている実感し満足していた。

**場面の例** “重度認知症高齢者が歌った歌は、同じ島の人だからこそ伝わるし、世代を超えてわかり合えて、ひとときを一緒に笑って過ごすことができることを嬉しいと思える(ID19) ”

重度の認知症高齢者が幼少期に方言で歌っていた歌を歌い出していたので、それをイベント時に本人に歌ってもらったり、子ども達に教えて、子ども達に歌ってもらったりしている。子ども達へ歌を伝えることを通して、重度の認知症高齢者でもできることがある、役割を持てるということがわかった。島の人でなければ、この喜びというのはわからない、世代を超えてわかり合えて、ひとときを一緒に笑って過ごすこと、喜ぶことが嬉しいと思える。

#### 4) 【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】(表 44)

【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】のカテゴリーは、<行事の参加ニーズの把握>、<行事がケア関係をよくする力の実感>、<高齢者の地域での暮らしに着目してケア充実に活用>、<方言によるニーズ表出の効果の確認>、<行事参加の効果の確認>、<高齢者の地域文化力に感動>の6つのサブカテゴリーであった。

##### (1) <行事の参加ニーズの把握>

“日頃、寂しさや悔しさをみせることはない高齢者が、行事に帰れない日に昔の話を語り、寂しさを滲ませるので、「行事の日は帰りたい」と思う気持ちを察した。(ID2) ”、“過去を思

い出し、楽しみ、生き生きすることを期待して地域行事への参加支援をしているが、高齢者は行事に見入り、活気が出て次の外出希望ややりたいことを表出する。(ID12) ”、“地域行事などに連れ出すと表情が変わり、繰り返して外出支援をするうちに、「〇〇に外出したい」と要望してくるのでやり続けている。(ID12) ”、“単調な施設の暮らしでも季節を感じてもらえるよう行事に合わせてイベントをしているが、高齢者は施設のイベントに参加しながら、地域に戻ることを含めて季節の行事の過ごし方を気にし始めると感じる。(ID12) ”、“伝統行事(ハーリー)に高齢者を連れ出し、生まれ育った地域で高齢者の気持ちを解放し、昔の話を引き出し、「今やってみたいことある?」と次のケアがつながるように一緒に考える機会になっている(ID26) ” という、高齢者と地域文化の関係が強いことを信頼し、高齢者の行事の参加ニーズの把握していた。

**場面の例** 伝統行事(ハーリー)に高齢者を連れ出し、生まれ育った地域で高齢者の気持ちを解放し、昔の話を引き出し、「今やってみたいことある?」と次のケアがつながるように一緒に考える機会になっている(ID26) ”

昔やっていた行事は、参加したいんじゃないか、見たいんじゃないかと思っていて、本人たちを楽しませるために、ハーリーのさかんな地域の出身者を誘って連れていっている。ハーリーの場面では、今のハーリーを見物しながら、昔のハーリーの様子を高齢者同士で、昔のことを回想している。会話を一緒にしながら、本人たちの気持ちを開放し、昔の話を引き出し、「今やってみたいことがある?」と次のケアにつながるケアを、一緒に考える。楽しませながら、次のケアをつくる事を心がけている。

## (2) <行事がケア関係をよくする力の実感>

“出身地域の地域行事や伝統行事を頭に入れて会話をすると親しみ感がわき、患者と看護師との距離が縮まる実感がある。(ID2) ”、“敬老会(病院内での)をきっかけに、看護師と医師との関係がコミュニケーションがとりやすくなったり、患者と看護師との関係も親しみやすい関係がつくられていった。(ID8) ”、“日常の施設ケアで、参加したい地域行事の企画を高齢者と一緒にすることを続けていると、高齢者から地域行事のことやいろいろと話しかけてくるようになった。(ID11) ”、“高齢者の気持ちに寄り添うケアをすることで対象者が落ち着くと、介護の現場も落ち着くので良いと思う。(ID15) ”、“伝統行事(旧盆)には、島外から家族、親戚が尋ねてくるので、家族とのケアの方針を話すタイミングや家族とのつながりをケアに活用できるよう取り組んでいる。(ID25) ”などの、高齢者と行事の関係が強いことを信頼し、ケア関係をよくする力の実感していた。

**場面の例** 日常の施設ケアで、参加したい地域行事の企画を高齢者と一緒にすることを続けていると、高齢者から地域行事のことやいろいろと話しかけてくるようになった。(ID11) ”

一度地域行事へ外出支援をすることで、利用者が地域行事に参加できるということがわかった。次に行きたい地域行事を一緒に考えて計画する。地域行事の連れて行くことを約



束する。日常の施設ケアの中で、予定している地域行事のことを話題にする。利用者からも話題にされる。そのやり取りが私は楽しみとなり、利用者とのコミュニケーションとして使っている。何も楽しみのない施設生活を変化させることで、運動会や遠足と同じようにその日まで楽しい時間をす過ごせるのではないか。施設ケアにも楽しみがもてるのではないかと思う。とても楽しみにして、「その行事はまだか」と自分から話すようになったり、今度はこの行事に行きたいと要望をだすようになる。利用者から地域行事の企画の話だけでなく、色々な話かけをしてくれるようになる。施設の生活に楽しみとして取り込まれていると思える。

### (3) <高齢者の地域での暮らしに着目してケア充実に活用>

“病院でイベントを企画するときには、高齢者の入院前の役割を意識しながらその力を発揮させる大事さを学んだ後から、病院でイベントを企画するときには高齢者の力を発揮させるようにしている。(ID2)”、“地域行事について生き生きと語ることを糸口として、その人が生活基盤としている経済状況（農業やきびかり、収入の状況など）を把握することで、治療環境を整えることに役立っている。(ID1)”、“高齢者の入所前の暮らしの情報を把握し、それを話題にすると、会話が弾む。(ID11)”、“高齢者の入所前の暮らしの情報を、職員間で共有したら、職員もその情報を活用して高齢者と関わるようになった。(ID11)”、“高齢者が三味線が上手いことを把握したので、施設の敬老会に披露してもらおう事を提案し、私も一緒に楽しんだ。

(ID15)”、“高齢者の仏壇事を解決し、病状が安定して施設入所した経験から、高齢者の不安のニーズには仏壇事もあることを知っているのとケアが変わると思った。(ID22)”、“高齢者が落ち込んだとき、笑顔を取り戻せるケアとして、地域行事参加のための外出を企画している。

(ID12)”、“畑好きな高齢者に土作りや野菜作りを私が習うことで話が弾み元気になっていた。施設での暮らしが居心地の良い場所になっていると思える。(ID12)”、“高齢者が職員（関係者）の出演する地域行事（トライアスロン大会）を応援したい、見たいと要望し、応援することが利用者の楽しみになっている。(ID12)”、“高齢者は運動会の話題や歌が大好きであることを知っているので、高齢者が沈んだ表情や空気がよどんでいると運動会を話題にしたら盛り上がる。(ID20)”などの、高齢者の地域での暮らしに着目してケア充実に活用していた。

**場面の例** “高齢者の仏壇事を解決し、病状が安定して施設入所した経験から、高齢者の不安のニーズには仏壇事もあることを知っているのとケアが変わると思った。(ID22)”

高齢者は自分の体が弱くなったら施設に入りたいという意向があった。しかしひとり暮らしのため自分が施設に入所すると仏壇はどうなるのか不安であるとケア提供者に相談していた。ADLが低下し仏壇のことが一人でできないことが増えると、仏壇の継承をどうすればいいのかということに関して悩み、症状がなくてもニトロペンを必要以上に飲んだり、吐いたり過剰内服や身体症状がみられた。どうしたのかと聞いたら自分は施設にいかなければいけないんだけど、仏壇をどうしたらいいかわからず、不安であることを把握した。高齢者の仏壇の継承を何とかしなければならぬというニーズを把握した。そこでケア提供者は島内の娘を呼んで、高齢者、娘と会議をもった。娘にお母さんは仏壇行事

を大事にすることで子どもたちが成功したと思っているということを伝え、仏壇を大事にしていることをわかってほしいことを伝えた。そして施設に入って後の仏壇の継承に困っており継承してほしいことを代弁した。仏壇の継承を誰がやるかについて家族で話し合い持つことを娘に約束させた。また、仏壇の継承を悩み、過剰薬物の投与や身体症状我でていることを娘に伝え、高齢者の悩みの理解を得た。家族は話し合いで、仏壇の継承者を決め、高齢者は「安心して施設に行ける」と言って、施設に入った。その後、身体症状が良くなり、不必要な薬も飲まなくなった。訪問看護師の私のことを「神様」といってくれ、施設入所までの間、私が訪問することを待っていてくれた。高齢者の仏壇ごとを解決し、病状が安定して施設入所した経験から、高齢者の不安のニーズには仏壇ごともあることを知っているのとケアが変わると思った。

#### (4) <方言によるニーズ表出の効果の確認>

“言葉や伝統行事の違いを実感し、関心を寄せ、その違いを知り、高齢者ケアに生かしたいと思った。(ID4)”、“長年の経験から、高齢者には、気持ちを表現できるよう、方言で介入する支援をしているが、方言を交えて話すとうっと和らぐ。(ID5)”、“方言を標準語に通訳することで、高齢者は方言で症状や訴えをたくさん表現してくれるので、方言での会話は診断や治療方針に役立つ。(ID6)”、“私が方言を勉強し聞けるようになったら、方言で話す高齢者が自分のいいことをちゃんと伝えてくるようになった。(ID11)”、“高齢者は共通語で話すとなんかぐったりしていて、心に蓋をしているように感じるが、方言を使うと、穏やかになれるし、素直な心になれる、意思の疎通が自然体で「あ・うん」にできる。(ID34)”、“方言での会話は、目には見えないけど、気持ちをともにしたい思いが伝わり、ともになれるので、安心すると思う。(ID20)”

**場面の例** “長年の経験から、高齢者には、気持ちを表現できるよう、方言で介入する支援をしているが、方言を交えて話すとうっと和らぐ。(ID5)”

今の高齢者は、共通語で意思疎通も出来る方も多いが、きれいで大きな病院に来ると気構えて萎縮し、緊張しながらも医師やいろんな専門職に共通語で自分の症状を伝えようとしている。医師に対し、うまくないけど、一生懸命自分の症状を伝えているけど、うまくいっていない感じがするので、うまく表現できていない様子を見て、「おばあ」と声かけて、できるだけ、緊張せずに自分の思いを話して欲しいと思うので、方言を交えて「眠れた？」とか、他愛もない会話を始める。そうすると方言で自分の症状を方言交えて伝えられるように手伝っている。地元以外の医師には、共通語で説明しないと行けないので、高齢者は、医師には伝えにくい、言いづらいと思っていることが、長年見てきた経験や、高齢者の話を聞いていて、知っている。田舎の高齢者は、こういう大きな病院では、かしこまり、奥ゆかしく、不満を言わずに、じっと我慢している感じがするので、方言を交えて話しているとふっと和らぐ。自分が手伝うことで、高齢者の言いたいことが伝えられるようになっていと思う。長年の経験から、高齢者には、気持ちを表現できるよう、方言で介入する支援が必要と思う。

#### (5) <行事参加の効果の確認>

“主治医が驚くほど、病院内の敬老会に参加した高齢者の表情が明るくなり、前向きに生きる姿勢が見られ退院したので、伝統行事には、治療効果があると思えた。(ID8)”、“地域行事(孫の運動会)への参加支援を促し参加したらその後のリハビリ意欲が向上し、高齢者は、「意欲があれば何でもできる」ことを学んだ。(ID23)”、“地域行事への参加は、私のケアの限界を超え、人を復活させる力があることを学んだ。(ID23)”、“高齢者は地域行事と一緒に参加して、表情が穏やかになり、子ども達にも関心を寄せるので脳も活性化されると思う。(ID33)”、“伝統行事に参加して表情豊かになった高齢者を見て、「高齢者は自分を取り戻しまたやれる」という気持ちが出てきたと感じる。(ID35)”、“同じ地域で育ったので地域行事や伝統行事を知っていて、その話題を積極的にケアに取り入れると、高齢者は盛り上がって話が弾むので回想法の効果が得られると思う。(ID27)”という、高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼として、行事参加の効果の確認をしていた。

**場面の例** “地域行事への参加は、私のケアの限界を超え、人を復活させる力があることを学んだ。(ID23)”

元気な頃は、孫の学校行事には全て参加していた。高齢者が大腿骨頸部骨折で入院し、退院直後に孫のバレーボール大会があり、もうあきらめているからいいさと、何か寂しそうな表情をしていた。娘から、行こう、行こうと誘われたが、いけるわけがないさと断っていた。体に合う椅子を私が準備するので、行けると思うよと、バレーボールの応援への参加を促した。しぶっていたため、家族も説得をしたが、応じなかった。家族は、本人としては、座れるものが確保でき、連れて行ってあげたら、たぶん行きたいと思うと話し、息子からの説得が、効果的であるということ話し合った。息子と話し合いの機会をもち、私は椅子の確保をして、バレーボール大会に参加した。その時に、私は、心身機能も低下しているし、最期の機会になるかもしれないと思ったから、強く説得した。その孫の試合が、功を奏したのが、(きっかけになったのか)、ポータブル便器への移乗やリハビリに意欲的になり、復活した。私は、来年は死ぬかも知れないし、最期だから、連れてあげたいと思った。意欲があれば何かできることを学んだ。私が無理と限界をつくったら、この人復活しなかったのかもしれない。まわりからみて、無理と思っても、本人がやる気になったらできる。だから、本人が希望することはなんでもやってあげた方がいいと思った。

#### (6) <高齢者の地域文化力に感動>

“病院内の敬老会で、病室でしょんぼりしている高齢者の挨拶が素晴らしかったのでびっくりしたし、感動した(ID2)”、“病院内の敬老会で素晴らしい挨拶をした高齢者(病室でしょんぼりしている)の情報収集したら老人クラブの会長として活躍していたことがわかった(ID2)”、“伝統行事の話になると自宅に戻って役割を遂行している時のようなキリッとした表情をし、生活者の顔になる(ID3)”、“伝統行事に食べるふきやぎ(おはぎ)と一緒に作りながら、教えてもらうといつもの元気のなさは違って生き生きとしていたので、要介護状態

でも、ずっとやってきたこと、出来ることをすることは、やっぱり力がでると思った（ID21）”、“昔の豆腐づくりをデイサービスで再現したら、認知症があっても、豆腐作りの方法は鮮明に覚えていて、皆に指図していたので驚いた（ID14）”、“地元出身のスタッフが地域の行事を教えてください、高齢者を地域行事に参加する企画をし、実施しているが、高齢者は見学だけでなく飛び入りでイベントに加わり主体性を発揮していた。（ID17）”、“地域に出かけると高齢者が主役で主導権を握り、職員はお客さんになるので高齢者が生き生きとする。（ID18）”、“高齢者が掘り起こした古い地域の童謡を子ども達が歌うと、頷いたり、口ずさんだりするので、高齢者はすごいと思う。（ID34）”という、高齢者の地域文化力に感動し、高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼していた。

**場面の例** “地元出身のスタッフが地域の行事を教えてください、高齢者を地域行事に参加する企画をし、実施しているが、高齢者は見学だけでなく飛び入りでイベントに加わり主体性を発揮していた。（ID17）”

*地域の祭りには、地域の出身者であるケア提供者が地元の高齢者を連れ出している。その地域出身のスタッフが地域の祭りを把握しているので、地域で祭りがあるときは、そのスタッフから高齢者が楽しめるんじゃないか、興味を持ってくれるのではないかといい、申し出て高齢者を地域へ連れ出している。祭りに出かけると、高齢者は単に祭りを眺めているだけでなく、飛び入りでイベントにも加わり、主体的に参加している。そのため、高齢者とスタッフの出身地を把握するように意識している。そのことで地域のスタッフが地域の行事をしてくれるので、高齢者が地域行事に参加するための企画がしやすい。*

## 5) 【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】(表 45)

【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】の категорияは、<高齢者に染み込んだ習慣をやり遂げさせるケアの承認>、<状況に応じた住み遂げる支援の承認>、<地域のつながりを重視したケアの価値の承認と期待>、<協働で高齢者を行事に参加させるケアの必要性の学び>、<地域文化に馴染むための必死な努力>の5つのサブカテゴリーであった。

### (1) <高齢者に染み込んだ習慣をやり遂げさせるケアの承認>

“伝統行事に参加し、家族のなかで、役割を果たし、「まだまだできる」という自信につながることは当たり前のケアだと思う。（ID7）”、“高齢者の暮らしや伝統行事での祈りの習慣を把握し、伝統行事で当たり前の活動が続けられるようなケアをしているが、これまでやってきたことを継続するのは当たり前のことだと考えている。（ID25）”、“地域行事参加による高齢者の変化をみて、専門職が無理と思っても本人のやる気次第でできることを知ったので、本人の希望は何でも叶えたいと思った。（ID23）”、“「神様にお茶をあげるので家に帰らなければならない」と訴え続ける認知症高齢者は説得しても聞かないので、止めるためのケアより一緒に外出して希望を達成するケアは必要と思う。（ID15）”、“若い頃親しんできた行事に参加すると、当時の楽しい気持ちに戻れると期待して、高齢者と一緒に伝統行事に参加し、一緒に見学して、一緒に応援して、一緒に食事し一緒に楽しんだ。（ID16）”、“私も小さい頃から誕生祝いを盛大

にやることを知っているので、高齢者が誕生祝いに地域に出かけたいとせがむと義務としてやらないといけないと思う。(ID19)”などの、高齢者に染み込んだ習慣をやり遂げさせるケアの承認していた。

**場面の例** “「神様にお茶をあげるので家に帰らなければならない」と訴え続ける認知症高齢者は説得しても聞かないので、止めるためのケアより一緒に外出して希望を達成するケアは必要と思う。(ID15)”

「帰る、帰る、おうちに帰るよ。」と廊下を繰り返し往復している認知症の周辺症状がでている高齢者が、神様にお茶をあげるので家に帰らなければならないと何度も訴え続ける。落ち着かないので、仏壇（神様）にお茶をあげることを大事にしているこの高齢者の気持ちは、なだめたり説得することでは気持ちは切り替えられないと判断したので、その気持ちはどこにいつてしまうだろうと、どうしてもそれがしたいという気持ちに沿いたいと思ったので「一緒に帰って手を合わせて戻ってこようね」と外出し、仏壇に手を合わせて施設に戻ると、別人のように落ち着いた。認知症の周辺症状が出ているときは、説得しても悪循環なので、止めるためのケアよりも本人の思いに沿い、一緒に外出して本人の目標を達成するケアをすることは必要と思う。その気持ちに寄り添うケアをすることで、対象者が落ち着き、介護の現場も落ち着くのでそれでいいと思う。この人たちが大切にしていることは自分も大切にしないといけないと思っている。

## (2) <状況に応じた住み遂げる支援の承認>

“病院から退院し在宅での看取りを経験し、最後の感謝の言葉や心の交流ができることは大事なことであることを学んだので在宅看取りを推進したいと思えた。(ID24)”、“在宅での看取りは家族の絆が保たれやすいので、それを大事にし、心から最期をサポートしたいと思える。(ID24)”、“死者を入浴する習慣のある地域で、その習慣を受け入れることは必要なことと思う。(ID36)”、“重度の認知症高齢者でも、外出して地域巡りをして、施設に戻るとホッとして、寝つきが良くなる。(ID12)”などの、高齢者の地域での状況に応じた住み遂げる支援の承認していた。

**場面の例** “在宅での看取りは家族の絆が保たれやすいので、それを大事にし、心から最期をサポートしたいと思える。(ID24)”

息を引き取る前に、自宅に連れて帰るという習慣がある地域（〇〇島）の患者は、先生が「そろそろあぶない」というと、「家族が連れて帰りたい」というので、搬送の準備を整えるなど、家族の思いに応えている。その地域は、自宅で亡くならないと、魂が戻らないということがあり、死後に病院で拝みをしなければならないという習わしがあるので、その通りにして、退院ができるように調整している。患者の最期を看取することは、家族にとってとても大事なことと思うので大事している。病院では、医師と看護師の出入りが激しく、家族とのかかわりがとりづらくなると思う。在宅では、家族との距離が近いので、「ありがとうね」と言えたり、心の交流があると思うので、自分も帰りたいと思う。〇〇島だ

けではなく、在宅で看取することで、本人や家族の意向に添うことになる。人の最期は、感謝の言葉やこころの交流が大事なことだと思っている。病院が看取りができないということではなく、在宅では、大きな声で泣くことができるし、患者をゆすったり、触ることができ、伝えたいことが伝えられるので、家族の絆が持ちやすい。それを大事にしたいと思っている。そのために心から、最期をサポートしてあげないといけないと思うので、できるだけ在宅で看取りができるよう手伝っている。医師もそういう想いを共有していると思う。だから、協力してくれる。

### (3) <地域のつながりを重視したケアの価値の承認と期待>

“離島で、伝統行事の機会に島外から家族や親戚が里帰りし、入院患者の見舞いにたくさんの人が訪れるのは、この島のフレンドリーな気質であり、強みとなる良い風習だと思うので、面会人は制限しなくてよいと思う。(ID3)”、“エンゼルケアについて、葬儀屋と病院で現状と課題を共有し、整理して、新しいエンゼルケアに向けて役割分担が出来たことは、地域が小さく集まりやすいことと、助け合う意識が高い気質があったからできたと思う。(ID1)”、“地域行事へでかけると、高齢者の知り合いから高齢者がやってきたことや得意なことが聞け、施設のケアに活かすことができた。(ID11)”、“伝統行事に参加させると島の人が近づいてきて優しい言葉かけをしてくれ、元気づけ、勇気づけてくれることはうれしく感動的なことだと思っている。(ID35)”、“施設には家族の面会も少ないので、地域行事(保育園のイベント)への参加は家族とも交流し一緒に楽しむ機会になっている。(ID19)”などの、高齢者の地域のつながりを重視したケアの価値の承認と期待し、地域文化ケアの認知していた。

**場面の例** “伝統行事に参加させると島の人が近づいてきて優しい言葉かけをしてくれ、元気づけ、勇気づけてくれることはうれしく感動的なことだと思っている。(ID35)”

島最大の行事、ミャークツツ(伝統行事)には、島出身者が帰省し、島の人口が普段の3倍になる。帰省した島の人々に合わせるために、利用者を連れ出すことによって、これまでつながりを持ってきた人々に会うことができる。みんなが近づいて、声掛けをしてくれることで、自分のことをわかってくれる人がたくさんいることで、寂しい思いが減ると思う。そのことが、生きる意欲につながっていると思うから、伝統行事に連れていく。声掛けをしてくれる人が誰かわからないので、そばにいて、その人のことを説明し、過去の話をして、過去のつながりがよみがえるように話題にしている。「元気だった?自分はどここのだれだれよ」と声をかけてくれる。声をかけられると、あの人はだれかと聞いてくるので、その人が誰かわからなくても、自然に微笑みが生まれている。島の人の中には、「わからなくなっている」とか、「みっともない」、「優しい賢い人だったのに、残念だ」とか、心無い言葉も耳に入ってくるが、思いは人によりけりだが、声をかけてくれるという島の人々のやさしさが、本人にとっては、うれしい、喜ばしいことであり、その人を元気づけ、勇気づけてくれる。感動的なことだと思っている。いろんな人がその高齢者にかかわることができるのは、たくさんの人がかかわる「お祭り」だからである。

#### (4) <協働で高齢者を行事に参加させるケアの必要性の学び>

“「伝統行事には地域に帰す」という目標を他の職員もみんなでも共有し、一緒にケアを組み立てることに意味があることを学んだ (ID4)”、“地域行事に外出支援することの効果について新人職員研修で語ったり、一緒に外出支援に連れて行き、高齢者の反応や交流を確認することで、施設のケアが広がっている。(ID11)”という、ケア提供者は協働で高齢者を行事に参加させるケアの必要性を学んでいた

**場面の例** “「伝統行事には地域に帰す」という目標を他の職員もみんなでも共有し、一緒にケアを組み立てることに意味があることを学んだ (ID4)”

地域の伝統行事で役割を担っていた高齢者がインフルエンザで入院してきた。もともと入院前に歩いていたのであれば、地域から来た人が、地域に帰るという目標設定にしてケアを組みかえることを提案した。伝統行事までに地域に帰し、これまでの役割を担うよう、地域に返すために、医師や看護師仲間たちに伝え共有を図った。元気な頃の生活背景や生活環境を知っていたので、その生活に近づけたいと思った。〇〇島の人であり、意識していたかもしれない。私だけでなく、他の職員みんなでも共有できたことが一番。宮古といっても生活背景が違うことをみんなに伝えられたことがよかった。〇〇島の生活背景とか地域の出身が一緒であることを知っていて一緒にケアを組み立てるといことが、意味があることが伝わったということがケアの自己評価です。

#### (5) <地域文化に馴染むための必死な努力>

“島外出身の私は、高齢者のケアをするために、島に人々に馴染めるよう必死に伝統行事や地域行事に参加せざるを得ない。(ID36)”、“高齢者との会話は方言が主流であるので、島外出身の私は必死に方言を覚えコミュニケーションが図れるように努力している。(ID36)”、“県外出身者の私が方言が聞けずに困った顔を見ると、高齢者はぎこちないながらも標準語を話して、関係性が壊れないように気を遣ってくれるので、私は方言を学習し、高齢者のように気遣うケアができるようになりたいと思う。(ID15)”、“伝統行事に参加し続けることで、伝統行事が好きでない自分から好きになれるように脱皮したいと思う。(ID33)”という、ケア提供者が、地域文化に馴染むための必死な努力として認知していた。

**場面の例** “高齢者との会話は方言が主流であるので、島外出身の私は必死に方言を覚えコミュニケーションが図れるように努力している。(ID36)”

島の高齢者達の日常の会話は方言が主流なので、コミュニケーションを図るために、必死で方言を覚える努力をした。今でも方言はうまくしゃべれないが、方言を学ぶために高齢者との会話は方言を交えて、話すようにしている。

#### 6) 【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】(表 46)

【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】のカテゴリーは、<高齢者の希望が叶えられないときの罪悪感>、<伝統行事に参加できない高齢者の心情への配慮>の

2つのサブカテゴリーであった。

### (1) <高齢者の希望が叶えられないときの罪悪感>

“高齢者が大事にしている地域の行事には、自宅に戻れるような調整をしているが、上手くいかない罪悪感を感じる。(ID3)”、“地域が好きで、家に帰りたい末期の高齢者の希望を実現できないのは、希望を叶えられず残念である。(ID3)”という、高齢者の地域文化の希望が叶えられないときの罪悪感を感じていた。

**場面の例** “地域が好きで、家に帰りたい末期の高齢者の希望を実現できないのは、希望を叶えられず残念である。(ID3)”

〇〇島の人など、地域ごとの生活文化を意識して、漁の話やパントゥなどその地域の伝統行事や生活様式について話題にして、話しやすい雰囲気づくりをしている。その理由は、島の人には島のことを愛していると思うので、そういう話を糸口にするけど、末期の人たちは、その話をしながら、家に帰りたい思いを表出させている。地域の話をしていると、「うわあっ」と話がたくさん出てくるので、その反応をみると、やっぱり、地域が好きなんだなって思います。治療のために、市街地に転居するよう家族が進めても、絶対高齢者は「いやっ」と言います。地域が好きで、家に帰りたい末期の高齢者の希望を実現できないのは、希望を叶えられず残念である。

### (2) <伝統行事に参加できない高齢者の心情への配慮>

“伝統行事に家族の元に帰れない高齢者の思いは様々であることを経験しているので、その思いを配慮し、踏み込まないことを心がけている。(ID12)”、“伝統行事に家に帰れず施設にいる高齢者は、落ち着かなくなるし、心が沈むので、自宅に帰れない高齢者の寂しい思いを汲んで元気になれるようその場を一緒に楽しむ。(ID19)”という、伝統行事に参加できない高齢者の心情への配慮をしていた。

**場面の例** “伝統行事に家族の元に帰れない高齢者の思いは様々であることを経験しているので、その思いを配慮し、踏み込まないことを心がけている。(ID12)”

伝統行事の時期に、家族のもとに帰れない高齢者に対しては、厨房から伝統行事にちなんだ料理を出してくれる。それをみて、高齢者が「今日は何の日？」と聞かれるので、十六日や旧正月を伝えている。施設に残っている高齢者に対し、伝統行事の話題をすると、利用者が「自分は無理、帰れないよね」と話しをやめた経験があるので、その思いに配慮してあまり話題にしない。拝みたい人は拝めるように、ベランダに向かわせたりするけど、無理強いはいしない。伝統行事にそわそわしている人に伝統行事の話をする、余計に落ち着かなくなったと聞いた経験がある。

## 7) 【ケアの手間と地域の価値の了解】(表 47)

【ケアの手間と地域の価値の了解】のカテゴリーは、<ケアの手間からくる実施制限の了解



>、<ケアの手間を超えた地域の価値の理解>の2つのサブカテゴリーであった。

### (1) <ケアの手間からくる実施制限の理解>

“夜の地域行事への参加支援は、協力体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った。(ID2)”という、ケアの手間からくる実施制限を了解していた。

**場面の例** “地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフも感動していたので嬉しかった。(ID2)”

夜の、美しい(幻想的な)宮古島の風景を一緒に見たいと思い、夜の地域行事(なりやまあやぐ大会)の鑑賞会を企画したが、当日は雨によって、入院患者を連れ出すことが叶わず、実現できなかったことが、残念だった。次の年は、家族の協力も得て、入院患者が地域行事(なりやまあやぐ大会)に参加できるように医師、家族の協力をえて調整をした。その夜のイベントは、幻想的なイベントなので、入院患者の癒しになると思い、企画した。体調不良時の対応ができるよう、医師や医療機器業者、家族と調整し、看護師として付き添い家族と一緒に外出した。地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフもボランティアとして誘ったら感動していたので嬉しかった。家族は入院中の患者を連れていくのは大変だと思うが、本人が喜んでいたので、参加してよかったと感じていると思う。私もそのイベントは好きなので、私の楽しみにもなっていた。ただ、夜の地域行事への参加支援は、協力体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った。

### (2) <ケアの手間を超えた地域の価値の理解>

“伝統行事への参加支援は大変であるが、大変なことも含めて楽しんでいる(ID36)”、“やってきたこと(地域行事への参加)がやれるように支援することで忙しくなり、うれしい悲鳴をあげている。(ID12)”、“伝統行事はやりたくなくても島中の雰囲気からやらないと気持ちが悪いし、やった方が楽かなと思う。(ID33)”、“地域行事は面倒がらず、やらないでいいと思わず、高齢者のやってきたこと(地域行事への参加)を一緒に楽しんでいる。(ID12)”、“仏壇にお茶を供えることはヘルパー業務か否かわからないが、やらないと後悔する。(ID31)”というケアの手間を超えた地域の価値の了解していた。

**場面の例** “伝統行事はやりたくなくても島中の雰囲気からやらないと気持ちが悪いし、やった方が楽かなと思う(ID33)”

この島は、行事が多すぎるのが、切実な悩みです。伝統行事や地域行事が多いと思うが、高齢者に関わる仕事として、積極的ではないが、参加している。一緒に参加すると、年寄りと話をするときに、話題づくりがしやすい。性格的には、行事は好きではないけれども、職業としては、必要と思う。そういう自分から脱皮したいと思う。ちょっと今、脱皮中です。不思議なもので、伝統行事はやらないと思っても、島中がそんな雰囲気なので、やらないと気持ちが悪い。うちだけやらないのは、無理。だから、出来る範囲でやらないといけないと思う。やったら、やったで、気持ちが良く、いい年とっているという感じがする。

やった方が気持ち楽かなと思う。島に住んでいる人たちは思い入れが違うような感じがすると最近、勝手に理解してきた。

## 8) 【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】(表 48)

【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】の категорияは、<高齢者の生活を優先したケア関係者間の折り合いの大切さの理解>、<治療と島の風習・価値との折り合いの承認>、<入居者・家族とケア提供者の地域文化の多様な価値への配慮>、の3つのサブカテゴリーであった。

### (1) <高齢者の生活を優先したケア関係者間の折り合いの大切さの理解>

“病院の都合と主治医の治療方針、高齢者の身体の状態とで、治療の折り合いがつけば、高齢者の生活を優先していいと思った。(ID2)”、“行事を優先したい患者と治療を優先したい医師との調整は、うまくいくときも、行かないときもある。(ID3)”、“地域の高齢者は自分の言いたいことがきちんと標準語で伝えられない、医師の言うことは絶対と思い込んでいるので、伝統行事のことで医師との調整を補うことは必要なケアだと思う。(ID6)”、“地域での役割(葬儀の遂行)を果たすために外来順番の変更の希望を外来待ちの住民も島のしきたりとして、その必要性を理解して交替してくれた。(ID7)”などの、高齢者の生活を優先したケアをするための関係者間の折り合いの大切さの理解していた。

**場面の例** “地域での役割(葬儀の遂行)を果たすために外来順番の変更の希望を外来待ちの住民も島のしきたりとして、その必要性を理解して交替してくれた。(ID7)”

外来で、順番を待って受診することは当然のこととっていたが、今日の葬式の係で、早く準備をしないといけないので、自分から先にしてくれと言われ、困惑した。話を聞くと、葬式は集落で、役割が決められており、その役割を果たさないと、葬式が進められない。しかし島の人たちみんなで、役割を分担して、葬式をとりしきるという、島の葬式の仕方を知ることにより、外来で訴えていることの大事さが伝わり、この仕事をするためには、それを受け入れることが大事をわかり、訴えがある場合には、医者にもその説明をして、外来の順番を入れ替えるようにしている。訴えを聞いている外来待ちの住民たちも、必要性と大事さを知っているので、その訴えを理解してくれ、先に外来を済ませてくれとお願いする。(ありがとうというの言わないので、当然と思っているかな。)本人はやっとこれで、葬式の準備ができると安心した表情をしていた。

### (2) <治療と島の風習・価値との折り合いの承認>

“島の風習(ベットの傍にはさみを置く)はケアに影響がない限りは邪険にせずに認める。(ID9)”、“島の風習(塩を枕元に置く)危険がなく、節度が守られていれば否定しない。(ID9)”、“伝統行事に外泊許可が得られず落ち込んでいる高齢者の主治医と交渉し外出許可をえて、「外出できるのは病気が良くなった証拠」となだめたら頷いていた。(ID8)”、“外出の機会として伝統行事(ハーリー)に外出支援を実践したが、体調を崩したことで、継続した外出の機会確

保にはつながらなかった。(ID22)” という、治療と島の風習や価値との折り合いの大切さの理解していた。

**場面の例** “島の風習（塩を枕元に置く）危険がなく、節度が守られていれば否定しない。(ID9)”

高齢者の枕元に塩が袋につつまれて置かれていることをよく見かけるが、何も言わないようにしている。看護師の中にも、「神だかい人」がいて、勤務中にも塩を携帯していることをみかけたり、聞いたりするので、あえて否定しようとは思わない。日常的に看護師仲間で靈感のことを話題にしているので、宗教に繋がる部分があったり、病院は信仰を否定する場所ではないので、危険でなければ、節度が守られていれば、患者の信仰を否定しない。

### (3) <入居者・家族とケア提供者の地域文化の多様な価値への配慮>

“職員の関心には差があるが、季節感を高齢者に感じてもらえるよう地域行事には地域に合わせて外出支援ができるよう施設長として工夫し、関心のある職員の賛同があり、継続できている。(ID14)”、“方言で話すことで安心感が得られ落ち着く高齢者もいるが、方言での会話はけんかをしているように感じる高齢者もおり、メリットとデメリットがあるので、迷うことがあるが、私もしゃべれないこともあり、施設では方言を使いづらくなっていると思う。(ID12)” 入居者やケア提供者の地域文化の多様性への配慮をし、折り合いの大切さを理解していた。

**場面の例** “職員の関心には差があるが、季節感を高齢者に感じてもらえるよう地域行事には地域に合わせて外出支援ができるよう施設長として工夫し、関心のある職員の賛同があり、継続できている。(ID14)”

施設の中では、季節を感じる機会が乏しいので、季節感を感じてもらいたいと思うので、ハーリーやマラソン、運動会などの地域の行事で高齢者が季節感を感じられるよう、職員に地域行事に参加するケアを促している。ここ最近の職員は、そのようなイベントに高齢者を参加させる支援に賛同しづらくなっているが、施設の業務として位置づけられるよう、職員の負担を最小限になるように、事前準備や勤務の組み方を工夫している。関心のある職員がいて、賛同が得られるところもあるので、続けている。

## 9) 【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】(表 49)

【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】の категорияは、<行事参加の楽しみの共有>、<協働したケア関係者への感謝>の2つのサブカテゴリーであった。

### (1) <行事参加の楽しみの共有>

“地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフも感動していたので嬉しかった。(ID2)” という、行事参加へのケアを他のケア提供者と協働することで、感動の共有を喜びとしていた。

**場面の例** “地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフも感動していたので嬉しかった。(ID2)”

夜の、美しい(幻想的な)宮古島の風景を一緒に見たいと思い、夜の地域行事(なりやまあやぐ大会)の鑑賞会を企画したが、当日は雨によって、入院患者を連れ出すことが叶わず、実現できなかったことが、残念だった。次の年は、家族の協力も得て、入院患者が地域行事(なりやまあやぐ大会)に参加できるように医師、家族の協力をえて調整をした。その夜のイベントは、幻想的なイベントなので、入院患者の癒しになると思い、企画した。体調不良時の対応ができるよう、医師や医療機器業者、家族と調整し、看護師として付き添い家族と一緒に外出した。地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフもボランティアとして誘ったら感動していたので嬉しかった。家族は入院中の患者を連れていくのは大変だと思うが、本人が喜んでいたので、参加してよかったと感じていると思う。私もそのイベントは好きなので、私の楽しみにもなっていた。ただ、夜の地域行事への参加支援は、協力的体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った。

## (2) <協働したケア関係者への感謝>

“地域の夜のイベントに入院中の高齢者を参加させるために、医師や医療機器業者の協力が得られたので感謝した。(ID2)”、“病棟の同僚が伝統行事の準備ができるよう一緒に勤務調整に協力してくれ、必要な人に休みを出せて、管理者としてうれしい(ID6)”、“島で一生懸命介護している家族は、口が悪くても親のことを思っていると感じる(ID30)”、“介護している家族も、「施設に入りたい」と言ったりもするが、島で介護を続けてくれるので、ありがたいと思う。(ID30)”、“高齢者の地域行事参加に島の人たちが協力してくれるのでありがたいと思う。(ID35)”、“祖先崇拜で墓参りを大事にする文化があり、職員も同じ地域の高齢者を「自分が連れていく」と申し出るので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしていることが伝わる。(ID16)” 行事参加へのケアを他のケア提供者と協働ですることへの感謝であった。

**場面の例** “祖先崇拜で墓参りを大事にする文化があり、職員も同じ地域の高齢者を「自分が連れていく」と申し出るので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしていることが伝わる。(ID16)”

十六日と旧盆は、利用者だけでなく、職員も伝統行事として墓参りをするので、ケアのついでに職員が自分の墓参りができるよう、地元と一緒に高齢者と職員をペアに調整している。宮古には、祖先崇拜で墓参りを大事にしている文化があるので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしている。職員も同じ地元の高齢者は、「自分が連れていく」と申し出るので、職員の同意も得られている。

## 10) 【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】(表 50)

【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】のカテゴリーは、<帰島希望を実現させるケアの協働体験による自信>、<地域行事で培われた協働能力の自負>、<地域住民

として地域に貢献できる実感>、<高齢者の住み遂げたい希望実現と一体感>、<協働の輪の広がりの実感>の5つのサブカテゴリーであった。

### (1) <帰島希望を実現させるケアの協働体験による自信>

“「状態が悪く島に帰る事は無理」と思えた患者に関わった多くの病院スタッフは、「やればできるので、本人の思いを聞くことが大事なことである」と理解し、自信につながったと思う。(ID3)”という、ケアの協働体験により、高齢者の帰島希望を実現させたことでケアが発展し自信(自負)となっていた。

**場面の例** “「状態が悪く島に帰る事は無理」と思えた患者に関わった多くの病院スタッフは、「やればできるので、本人の思いを聞くことが大事なことである」と理解し、自信につながったと思う。(ID3)”

〇〇島の出身者で、入院中にずっと帰りたいと話していた高齢者がいて、やっぱり島で生きて島で死ぬということができないのかと思った。そこで、病院全体に帰る方法を問いかけた。そうしたところ、家族、親戚に病棟スタッフでスタッフが30名集まった。自分は、朝から弁当を準備した。離島だからといって、離島であることが壁になって帰れないということは納得できないと思い、何か方法があるはずと考えた。最期ぐらいは願いをかなえてあげたいと思った。最期に願いをかなえろとしたら今しかないと思った。できないことはないと思ったので、病院に提案をした。そこまで頑張った理由は、島の診療所の経験から、島の人に見守られて最期を過ごせることは、島の診療所で実践してきたから、患者の暮らしていた島でもできると思えたんだと思う。できないことはないと思ったのは、そういうことだった。高齢者に家に連れていくと話すと、喜んでいて。家族が喜んでいただけでなく、島中の人が集まって、お祝いみたいに喜んでくれた。島に戻って若いころの写真を見せてもらい、この人の生きてきた生きざまを私たちは学んだ。島でずっと80年余り生きてきたので、最期の最期に島に帰れたことは良かったと思う。また、かかわったスタッフはやればできるから、本人の思いを聞くことは大事、自信につながった。病棟全体が一体感を持てた。離島に帰りたいと訴える高齢者に対し、医療が不便なので医師が「責任とれない」というと、責任とってほしいとは言っていない、「帰りたい」といっていると代弁をした。離島で、医療が不便であったとしても、生きてきたところにいたいと思うんです。だから、医師に伝えるようにしています。そういう時には調整して帰るようにしている。帰りたいと訴えている人は、離島で医療が不便であっても生きてきたところにいたいと思うことがわかる。最期に一時帰宅はできたが、結局自宅で死ぬことはできなかった。高齢者の思いを遂げることはできなかった。

### (2) <地域行事で培われた協働能力の自負>

“島内外の医療職で協働連携し、トライアスロンを成功させる経験は、災害(宮古島台風)があったときの対応に活かされた。(ID1)”、“トライアスロンで何もなかったところからみんなで協力して、何かを作る力が身につく、地域全体で協働して仕事ができるようになったと思える。

(ID1) ”、“「看護の日」にボランティア活動を継続しているうちに、緊急事態の高齢者のケアを保健所保健師と一緒にできるようになった。(ID21) ”、“保健所保健師は、「看護の日」のボランティア活動をしてから医療機器を装着して地域で暮らしている高齢者宅への訪問回数が増えた。(ID21) ”という、地域行事で培われた協働能力を活かし、発展させてきた自負となっていた。

**場面の例** “島内外の医療職で協働連携し、トライアスロンを成功させる経験は、災害（宮古島台風）があったときの対応に活かされた。(ID1) ”、“トライアスロンで何も無いところからみんなで協力して、何かを作る力が身につく、地域全体で協働して仕事ができるようになったと思える。(ID1) ”

看護職としてトライアスロンに医療ボランティアとして参加しているが、その目的は、医療サービス・看護サービスの提供だけでなく、トライアスロンが活性化することで島が発展する、医療職が島の発展に貢献できると思うから、実践している。島内外の医療職で協働連携し、トライアスロンを成功させることで、災害時（宮古島台風）の対応に活かされた。トライアスロンで何も無いところからみんなで協力して、何かを作る力が身につく、地域全体で協働して仕事ができるようになったと思える。

### (3) <地域住民として地域に貢献できる実感>

“看護職としてトライアスロンにボランティアとして参加しているが、看護サービスの提供だけでなく、トライアスロンが活性化することで島の発展に貢献できると思う。

(ID1) ”、“運動会で家族、親族が一堂に集まりご馳走を囲んで楽しめるようにすることは、伝統を受け継ぐことなので、リーダーとして勤務調整することで伝統行事に貢献できると思う。

(ID1) ”、“看護師が住民の一人として地域行事に参加することで参加した後から、住民からの話しかけが増えたので、気軽に何でも相談でき、コミュニケーションが取りやすくなったと思う。(ID3) ”、“「地域行事（トライアスロン）はみんなで活性化し続けてほしい」と思っているので、高齢者にも応援を促し、安全に応援ができるように調整すると応援してくれる。(ID21) ”という、行事を通してケアが発展し、地域住民として地域に貢献できる実感となっていた。

**場面の例** “看護師が住民の一人として地域行事に参加することで参加した後から、住民からの話しかけが増えたので、気軽に何でも相談でき、コミュニケーションが取りやすくなったと思う。(ID3) ”

〇〇島は村民運動会があり、救護班としてだけでなく、選手としても診療所は参加している。このことは島全体を見ることになり、そして高齢者もたくさんいる場所である。また、私たちにとっても島の人に対するお披露目の場になっている。顔を合わせてお披露目して、コミュニケーションの場になっている。そうすると、高齢者たちがあいさつをしに来たり、差し入れを持って来たりする。診療所では、運動会を話題にして、受診者と医師、看護師との会話が変化し、関係性が変化する。島の方は、医師が変わると、どんな医師が来るのかと不安がっているのがわかるので、村民運動会で医師をお披露目して、そのこと

で、島民が安心できるように意識している。医師と高齢者をつなぐ役割になり、また自分のことを話す場にもなり、島民と医師、看護師との関係づくりに活用している。他人行儀ではなく、話しかけやすい雰囲気をつくることは、医療職には必要なことと思ひ、村民運動会に参加することでそれが作られている。くぱーくぱー（ぎくしゃく）と形式ばって話しづらいのではなく、なんでも相談できる診療所になるために、道で会うと話しかけてくれたり、診療所に差し入れがあったり、あるいは診療所に大根が置かれてあったり、お祝いの招待状を持ってくるようになっていく。そうすると、自分は行事に参加したいから外来に来れないなど、自分の要望を住民が伝えられるようになっていく。それまでは事務員にいていたものが、看護師にいうようになっていたり、医師に言えるようになっていくので、コミュニケーションがとりやすくなっていると思ひえる。

#### (4) <高齢者の住み遂げたい希望実現と一体感>

“病棟全体が一人の高齢者の島に帰りたい思いを実現するために病院全体が一体感が持てた。(ID3)”、“要介護状態になっても、参加支援をすることで地域の全てのことに関われることは対等な関係でいられることがうれしい。(ID34)”、“伝統行事を通じてみんながつながって生きているし、生きていく中でつながりができていると思ひえる。(ID34)”、“要介護高齢者のうれしい反応が地域の人には伝わり、地域に受け入れられていると思ひう。(ID28)”という、高齢者の住み遂げたい希望実現のケアをすることで、一体感として実感していた。

**場面の例** “要介護状態になっても、参加支援をすることで地域の全てのことに関われることは対等な関係でいられることがうれしい。(ID34)”、“伝統行事を通じてみんながつながって生きているし、生きていく中でつながりができていると思ひえる。(ID34)”

島の高齢者には、寂しく暮らしてほしくないし、笑顔になってほしい、元気になってほしいという想ひがある。その人の人格をみとめ対等な関係であり続けるために、地域の一員としてまだまだ生きてるといふ実感を持たせるために、伝統行事にまつわる人の出入りや、島の人たちの様子をできるだけ情報提供し、共有し、話題にしている。島の人がある伝統行事は高齢者が島の情報や動きを知るいい機会だと思ひている。対等な関係でいられるとうれしいし、人の世話になっていると卑下することなく、対等で、お互いさまという感じで生きてほしいと思ひているので、島の情報（救急車が来たとか、人が亡くなったとか、祭りでだれが翔ってきているとか、そういう情報）は逐一流し、施設に出入りする子どもたちにも高齢者に伝わるように大きな声で声掛けするように指導をしている。島の情報を共有することで、私も島の一員だと、連帯感をもって、島の一員と感じられるよう日々を送ってほしいと思ひている。子どもたちが、自分たちのしてきたことを繰り返すことで、年を取るとそのことが心地よいと感じられるようになるのではないかと思ひている。高齢者は要介護状態でも、島の空気を感じ、島で暮らし、島で死にたいとわかっている。認知機能にかかわらず、要介護高齢者は子どもたちの声には、普段は目を閉じていてもぱちっと目を開けたり、敏感に反応する。島の一人一人の想ひがこの地域を創ってきたし、その想ひが未来を創る。いい意味で昔のような暮らしができればと思ひている。人

も物も暮らしも全てが宝物なので持ち続けていきたい。残していきたい。そのツールが伝統行事であり、伝統行事を通じてみんながつながって生きている。そして、生きていく中でまた、つながりができる。

#### (5) <協働の輪の広がりの実感>

“高齢者にとっての人とのつながり方が、花を植えて増やすことだったのではないかと感じたので、そのような人とのつながり方を若い職員にも受け継いでもらいたいと思い、職員を誘ったら、乗ってくれ一緒に楽しんだ。(ID21)”、“死にゆく高齢者に最期の楽しみ(お寿司を食べること)をプレゼントしたいと思い、飲食店に特別注文をしたらそれに応じてくれたことから、人は思いがあれば共感する人はいると思えた。(ID21)”、“地域で専門職が医療機器を装着した高齢者の外出支援のボランティア活動を継続していたら、専門職から「何かできることはないか」と主体的に声がかかるようになり、ボランティア参加者が増加してきた。(ID21)”、“地域の行事に参加を繰り返すと地域行事の事務局と馴染みの関係ができ、地域のイベントに誘いを受ける。(ID17)”、“医療機器を装着し地域で暮らしている高齢者の家族は、外出支援を継続しているうちに家族として介護への参加が増えた。(ID21)”、“できるだけ伝統行事には家族と過ごしてほしいと思い、家族に協力を依頼していたら、伝統行事が近づくと調整を依頼する家族がでてきた。(ID11)”などの、高齢者のケアを通して、他のケア提供者・家族・地域住民との協働の輪の広がりを実感していた。

**場面の例** “死にゆく高齢者に最期の楽しみ(お寿司を食べること)をプレゼントしたいと思い、飲食店に特別注文をしたらそれに応じてくれたことから、人は思いがあれば共感する人はいると思えた。(ID21)”

訪問時にお寿司が好きと語っていた高齢者が、飲み込むことがままならないターミナル期を迎えていた。この人が好きなお寿司をどうしても食べさせたいとずっと考え続けていた。あのレストランの蒸し寿司ならと思いついたので、これまで高齢者の誕生日会をしてきたが、今年の誕生日が最期になると思い、誕生日に好きなお寿司をどうしても食べさせたいので、食べられそうなお寿司を出しているレストランに交渉した。「余命幾ばくもない高齢者に、どうしてもお宅のお寿司を食べさせたい」と交渉し、職員では対応できず店長に代わり、店長に「私が取りに行きますからお願いします」と頼み込んだ。レストランの店長は了解をし、きれいに彩りよく盛り付けて、心のこもったパック詰めのお寿司を特別に準備してくれた。昼食の休憩時間に誕生日会を企画し、職員にも声かけし、賑やかに高齢者宅で、一緒に蒸し寿司を食べた。高齢者は涙を流して喜んでいて。人は思いがあれば、共感する人はちゃんといると思えた。

#### 5. 地域文化ケアの方法・意図・評価

地域文化を共有するケア提供者が実施する地域文化ケアの「ケアの方法」、「ケアの意図」、「ケアの評価」について、地域文化はケアにどのように関与しているかの観点でコアカテゴリーを



導いた（図7）。

### 1) ケアの方法

ケアの方法のコアカテゴリーには、[求めに応じる地域文化ケア]、[活かされる地域文化ケア]、[活かし継承される地域文化ケア]、[創造される地域文化ケア]があった。

[求めに応じる地域文化ケア]は、【当事者の祈りを尊重する支援】、【家族・地域のつながり継続支援】、【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】、【当事者の行事への参加支援】、[活かされる地域文化ケア]は、【地域文化を共感するケア】、【地域文化でつくるケア関係】、[活かし継承される地域文化ケア]は、【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】、【家族のようにつながり続けるケア】、【みんなで育み続ける地域文化ケア】、【習い続ける地域文化】、【地域文化の周知と啓蒙】、[創造される地域文化ケア]は、【みんなで創り広める地域文化ケア】があった。

### 2) ケアの意図

ケアの意図のコアカテゴリーには、[地域文化に息づく価値の支持]、[地域文化の楽しみとケアの融合]、[地域文化への共感と一体感の希求]、[地域文化によるケアの創造]があった。

[地域文化に息づく価値の支持]は、【家族・関係者との交流・つながりの支持】、【地域に息づく価値の支持】、【個人の生きてきた価値の支持】、[地域文化の楽しみとケアの融合]は、【地域文化のケアへの取り込み】、【地域文化の楽しみの想起】、[地域文化への共感と一体感の希求]は、【高齢者の地域文化への貢献】、【我が事のような相互依存】、【地域文化の習熟と継承】、【地域文化ケアの育成】、[地域文化によるケアの創造]は【地域文化によるケアの創造】があった。

### 3) ケアの評価

ケアの評価には、[地域文化ケアの満足]、[地域文化ケアへの信頼と認知]、[地域文化ケアとの折り合いの理解と配慮]、[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]があった。

[地域文化ケアに満足]は、【自らの地域文化ケアに満足】、【高齢者から地域文化を学び満足】、【高齢者・家族のよい反応に満足】、[地域文化ケアへの信頼と認知]は、【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】、【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】、[地域文化ケアとの折り合いの理解と配慮]は、【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】、【ケアの手間と地域の価値の了解】、【地域の文化ニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】、[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]は、【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】、【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】があった。

## 第2節 地域文化ケアの実施の段階

地域文化ケアの方法（[求めに応じる地域文化ケア]、[活かされる地域文化ケア]、[活かし継承される地域文化ケア]、[創造される地域文化ケア]）について、ケア提供者の主体性の観点から、ケアの意図とケアの評価とを関係づけながらケアの実施の段階を導いた（表51）。

Leininger(1991/1995)のサンライズモデルでは、看護ケアは「民間的（土着的）システム」と「専門的システム」との橋渡しによって表出されるとし、その橋渡しで表出される文化を考慮し

た看護ケアには、「文化ケアの保持/増進」、「文化ケアの調整/交渉」、「文化ケアの再パターン/再構成」があると述べている。研究者の呉地ら(2010)の先行研究において、地域文化ケアのタイプには、「地域文化への充足ケア」、「地域文化への代替ケア」、「地域文化への継続ケア」があると報告した。これらを参考し、前述で導いた地域文化ケアの実施の段階を点検した。

## 1. 第1段階：求めに応じる地域文化ケア

【求めに応じる地域文化ケア】は、要介護高齢者の訴えを起点として、ケアの必要性が想起されており、ケア提供者の主体性は高齢者によって誘発されていたことから、ケアの実施の第1段階に位置づけられた。

【求めに応じる地域文化ケア】の【当事者の祈りを尊重する支援】の例(ID7)

ナースコールがあり訪室すると、女性の高齢者から「気分が悪いので、自宅に電話して、おじいに拜みをしてくれ」と頼まれた。気分の悪さや、バイタルを確認すると特に問題はなかったが、電話をしたら、落ち着くのかなと思い、本人に(病院の)携帯電話を貸し、本人は家族に電話をした。意味不明な会話の後、自宅で線香をたてるよう、お願いしていた。その後、しばらくして、気分がよくなったと、穏やかな表情をしていた。私にとって、意味不明なことであっても、信仰がらみで依頼されることは、必要なケアだと思う(ケアの意図：[地域文化に息づく価値の支持]の【個人の生きてきた価値の尊重】)。

私に、それを依頼したのは、年齢がいつているし、方言がわかるから選ばれたと思う。そして、本人たちが、これまでやってきたことや、こだわりを支援することは、必要なケアである。(ケアの評価：[地域文化ケアに満足]の【自らの地域文化ケアに満足】、[地域文化ケアへの信頼と認知]の【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】)

【求めに応じる地域文化ケア】の【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】の例(ID30)

言葉に出して「自分の畳の上から死にたいと、島から出たくない」という人がたくさんいる(ケアの意図：[地域文化に息づく価値の支持]の【地域に息づく価値の支持】)。それを高齢者は口にする。島の人みんな家族のようなものだから、(ケア提供者を)自分の息子や娘のように思って、言いやすいのではないかと感じる(ケアの評価：[地域文化ケアに満足]の【自らの地域文化ケアに満足】)。そういう人でも、家族によって島外に連れていかれそうな時には、気持ちわかるので、「いくな、お家がいいよね。やっぱりお家の方がいいよね」って、本人が行きたくないという時には代弁する(ケアの意図：[地域文化に息づく価値の支持]の【地域に息づく価値の支持】)。施設や病院では高齢者本人が、死んでからしか帰ってこれないと不安がって、怖がっているから、一生懸命本人の希望や、「島の人と一緒にいいよねえ」ときいて、本人がうなずくようにしたり、子どもに少しでも高齢者の意向を表出できるように一緒に伝えて家族を説得している。高齢者は子どもたちに言えないし、子どもたちもその反応に気づかないので、サポートしてできる限り希望をかなえたい(ケアの意図：[地域文化に息づく価値の支持]の【地

域に息づく価値の支持】)。

高齢者は、家族を説得している場面を見ると、嬉しそうな表情をしている(ケアの評価:[地域文化ケアに満足]の【高齢者・家族の良い反応に満足】)。島で一生懸命介護している家族を見ると、口が悪くても、親のことを思っていると感じることができる(ケアの評価:[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]の【地域文化ケアで協働する喜びと感謝】)。

## 2. 第2段階:活かされる地域文化ケア

[活かされる地域文化ケア]は、要介護高齢者の地域文化に対する訴えやニーズを満たすために、地域文化がケアに活かせる可能性を意識したことを起点として、ケア提供者が地域文化を活用しようとする主体性が発揮されていたことから、ケアの実施の第2段階に位置づけられた。

[活かされる地域文化ケア]の【地域文化でつくるケア関係】の例(ID2)

行事は、高齢者がこれまで続けてきたことなので、続けさせたいと思うし、病気をすると、人は神頼みが必要だと思うので、神事や行事を続けてほしいと思う(ケアの意図:[地域文化に息づく価値の支持]の【個人の生きてきた価値の支持】)。行事に帰ることをすすめてみても、家族がいなかったり、家族に断られた入院患者がいるので、その時は、自分の自宅から行事食をもってきて、帰れなかった人たちに配った。病院の食事はありきたりであるが、行事食を病院が出すことは難しいことを知っているので、自分が自宅から行事食をもってきて少しでも味わってもらい、行事を感じてもらいたい季節感を味わってほしいと思っている(ケアの意図:[地域文化の楽しみとケアの融合]の【地域文化の楽しみの想起】)。

料理を見て、「今日は〇〇行事だね」や「元気な頃は自分はこの風に料理をしたよ」と語りだし、話が弾む。その話が話題になり、どんどん昔の話を語ってくれる。話を聞きながら、「本当は行きたいけど行けなかった」と感じる。でも、これまでの関わりでは寂しさや悔やみを見受けることはなかった。昔のことを話しながら、楽しそうに、生き生きと話しこむ姿に、帰りたいだろうと思うし、残念、悔しい、寂しいという想いもあったかもしれない。

伝統行事の話をすると、長男嫁の苦労話も出てきて、自分も長男嫁だと伝え、共有している。その話を聞きながら、長男嫁の役割について学んでいることもある。本家と分家の役割など立場によって違うことを学んでいる(ケアの評価:[地域文化ケアに満足]の【高齢者から地域文化を学び満足】)。

[活かされる地域文化ケア]の【地域文化を共感するケア】の例(ID3)

〇〇島は、伝統行事の多い地域で、伝統行事の年間スケジュールが診療所に掲示されている。伝統行事には、島民で役割が分担されており、その役割によって、外来受診日時の調整をしていた。その理由は、祭りの役割がある日に外来を入れると、本人が焦っ

て時間を気にするし、十分な診療ができない（ケアの意図：[地域文化の楽しみとケアの融合]の【地域文化のケアへの取り込み】）。伝統行事に忙しいことは、診療所でも共有しているので、伝統行事のある時は外来日時を調整する必要があることを理解している。その際、若い先生は、どうして外来を組まないのかと苦情を言うが、うまくいくときも、いかないときもあります（[地域文化ケアとの折り合いの理解と配慮]の【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】）。住民がわがままを言っているのではなく、地域の行事はひとりでやるものではなく、地域みんなでやるものだから、それはみんなに合わせる必要があり、それが地域の良さだから、外来の日程を融通している（ケアの意図：[地域文化に息づく価値の支持]の【個人の生きてきた価値の支持】）。

そのことで、住民側は、行事の場で親しげに声をかけてきてくれ、暮らしのイベントを自分に報告し、日程調整をしたり、日程調整のお礼を言ってくれたりする（ケアの評価：[地域文化ケアに満足]の【高齢者・家族の良い反応に満足】）。

[活かされる地域文化ケア]の【地域文化を共感するケア】の例（ID29）

この地域は昔から、盛大だったハーリー（伝統行事）には、なるべく連れ出すようにしている。傍にいて、ハーリーのことを話題にしている。利用者は、ハーリー会場で久しぶりに会う知人に挨拶したりする。認知機能が低下して、昔からの馴染みの知り合いに気づかないことがあるので、「どこそこのだれだれだよ」と出会う人たちとの関係を伝えている。人によっては、要介護状態になった無様な姿は、みじめだから、人前に連れてくるなどという人もいるが、連れていった方がいい（ケアの意図：[地域文化の楽しみとケアの融合]の【地域文化の楽しみへの想起】、[地域文化に息づく価値の支持]の【家族・関係者との交流・つながりの支持】）。本人は、行きたいかもしれないと前向きに考えている（ケアの意図：[地域文化に息づく価値の支持]の【個人の生きてきた価値の支持】）。

行きたいといわなくても、連れ出せば、なんか嬉しそうな表情をする（ケアの評価：[地域文化ケアに満足]の【高齢者・家族の良い反応に満足】）。久しぶりに人をいっぱい見て、家にいたら、ほとんど、誰にも出会うことなく、家に来る人もいないが、ハーリーで、みんなに会えるから行った方がいいと思う（ケアの評価：[地域文化ケアへの信頼と認知]の【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】）。

### 3. 第3段階：活かし継承される地域文化ケア

[活かし継承される地域文化ケア]は、地域文化をケアに活かし継承したいケア提供者の意図を起点として、高齢者のニーズを誘発していたことから、ケアの実施の第3段階に位置づけられた。

[活かし継承される地域文化ケア]の【地域文化の周知と啓蒙】の例 ID3

十六日、旧正月、旧盆の三大大行事には、島外からたくさんの家族や親せきなど面会人が増えることになる。そうすると、病室が待合室になるぐらい、人であふれていく。そのため、病室で懇談が十分できるように、椅子や車いすなどセッティングをするように

している。県外出身の看護職は、病院に大勢の人が集まる事態に「病院に人が集まるのは理解ができない」、「ちゃんとルールを守らせてください」と訴える。そういう看護師には、「これが地域性なのよ。こうやって助け合って生きているんだよ」、「家族だったらやっぱり会いたいでしょう」、「ここは離島だから、こういう時（島外の家族や親戚が行事に合わせて帰島する）にしか会えないのよ、いいんじゃない」と伝え、ダメとは言わせないようにしている（ケアの意図：[地域文化への共感と一体感の希求]の【地域文化ケアの育成】）

高齢者は、本当に喜んでいるし、来ている人がいると、全然表情が違います。そうして、家族が高齢者に伝統行事の進行状況を報告し、高齢者が指示している場面もみられ、生き生きしている。高齢者は伝統行事の機会に見舞いに来る家族・親戚に会い、緊張が柔らぎ、心を許し、喜んでいるような表情になる。特に、伝統行事で孫が来ると本当にいい笑顔になる（ケアの評価：[地域文化ケアに満足]の【高齢者・家族の良い反応に満足】）やっぱりいいなあと思いますよ。それが宮古なんだよね、宮古の風習というか、氣質がフレンドリーじゃないですか。しかも、家族だけでなく隣近所の人にも会いに来ます。そういうのが強みなんだと思います。だから、面会は制限しなくて良いと思う（ケアの評価：[地域文化ケアへの信頼と認知]の自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】）。

[活かし継承される地域文化ケア]の【みんなで育み続ける地域文化ケア】の例（ID6）

伝統行事はみんなでやるものだから、病棟のスタッフたちにも、みんなでやる。皆で準備をする。命がけで。長男嫁を中心として、家族みんなで仏壇行事をやることを知っているの、病棟のスタッフでも勤務調整をして仏壇行事の準備をしてもらうようにしている（ケアの意図：[地域文化への共感と一体感の希求]の【地域文化の習熟と継承】）。

島外からの親戚縁者が集まることも知っているの、いつもより長男嫁は忙しいことを把握しているの、休ませて時間をつくるようにしている。スタッフたちは、仏壇行事で準備があることを知っているの、それぞれが段取りを敷いて、みんなに休みが割り振られるように、配慮してくれることが管理者としてうれしい（ケアの評価：[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]の【地域文化ケアで協働する喜びと感謝】）。

[活かし継承される地域文化ケア]の【家族のようにつながり続けるケア】と【習い続ける地域文化】の例（ID28）

8年前から、自分の高齢の親が好きなお芋を、日曜日ごとにたくさん購入し料理を作り、一人暮らしの高齢者に配布している。高齢者に「お芋食べる？」と高齢者に聞いて、「食べるさ」と言ったらもって行くようにしている。高齢者にも食べやすいと思い、食べやすい料理をして、行き差し入れる（ケアの意図：[地域文化への共感と一体感の希求]の【我が事のような相互依存】）。

自分の親の分を作るついでに一人暮らしの高齢者の分もつくる。ヘルパーをしてきて、これまで亡くなった人には、四十九日までは死んだ人のところには、自分のケアの区切りとして供えてほしいと思うので、食べないけど、「これを供えてちょうだい」と持って

いく（ケアの評価：[地域文化ケアに満足] の【自らの地域文化ケアに満足】）。高齢者の中にはありがたく思って、「自分はこれ（お芋の差し入れ）で、命をもっている（つないでいる）」と語る人もいるし、喜んで、楽しいと思ってくれる人もいる。長いこと継続していると、ありがとう、ありがとうと言われるので、励みにしているし、断らない人は好きだろうと思ひ、続けている（ケアの評価：[地域文化ケアに満足] の【自らの地域文化ケアに満足】）。中には、いない、あまり好きじゃないという人もいる。自分はお芋を高齢者に配りながら、母親から学べなかった伝統行事のやり方を島の高齢者たちに教えてほしいとお願いして、学んでいる。家庭によって行事のやり方は家庭によって違うので、自分なりの家庭のやり方を見つけるためにもたくさん的高齢者から習っている（ケアの評価：[地域文化ケアに満足] の【高齢者から地域文化を学び満足】）。

#### 4. 第4段階：創造される地域文化ケア

【創造される地域文化ケア】は、地域文化をケアに活かし継承するだけでなく、地域文化に根ざしたケアを創造する意図を起点として、地域文化をケアに取り込んでいたことから、ケアの実施の第4段階に位置づけられた。

【創造される地域文化ケア】の【みんなで創り広める地域文化ケア】の例（ID21）

日頃の訪問で、多くの時間を在宅で暮らしている高齢者に、外出の機会をつくろうと行きたいところはあるかと尋ねるようにしている。看護の日（日曜日）には、社協のヘルパー、ケアマネ、保健所などに声をかけて、イベントとして普段外出しづらい、人工呼吸器を装着した高齢者など、外出支援のボランティアを依頼している。看護の日は、看護をわかってもらう日なので、看護職はこんなこともできるよと、高齢者やその家族に伝わるように、毎年イベントをしている（ケアの意図：[地域文化によるケアの創造] の【地域文化によるケアの創造】）。

イベント時には、専門職のボランティアだけでなく、家族や親戚にも役割を作って一緒に参加してもらった（ケアの評価：[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負] の【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】）。息子がイベントで担った役割を支持し、高齢者には、息子のおかげだから、息子への感謝を促した。息子はイベントで自信を得たのか、介護への参加が増えた。本人の喜びはもちろんのこと、ボランティアの参加者が増えてきた（ケアの評価：[地域文化ケアに満足] の【高齢者・家族の良い反応に満足】）。

これまで、保健所の保健師は、用事のあるときのみ訪問看護ステーションにきていたが、イベントを始めたことで、何か私達に出来ることはあるか、困っていることはないかと、こちらが依頼しなくても、ボランティアとしての参加意欲が伝わるようになった。その後、保健所に依頼できること（台風時の停電の対応）は相談するようになっている。保健所は、高齢者宅への訪問回数が増えていた。また、イベントを通して、私は、保健所保健師に関係性が近づき、依頼しやすくなった（ケアの評価：[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負] の【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】）。

[創造される地域文化ケア] の【みんなで創り広める地域文化ケア】の例 (ID20)

老健事業で、寝たきり高齢者の外出支援をどのようにしたらいいかということについて、保健師の私と、役場の職員と、住民でその課題について、みんなで話し合いをもちながら、一緒に考える場をつくり、健康づくりの活動をスタートさせた。ひとつの事業は、ひとつの町村にとどまらず、近隣の町村とも話し合いをもって、近隣の市町村もちまわりで、活動を広げた(ケアの意図:[地域文化によるケアの創造]の【地域文化によるケアの創造】)。

## 5. 地域文化ケアの実施の段階

地域文化ケアの実施の段階は、ケア提供者の主体性の観点から、第1段階の[求めに応じる地域文化ケア]、第2段階の[活かされる地域文化ケア]、第3段階の[活かし継承される地域文化ケア]、第4段階の[創造される地域文化ケア]があった。

### 第3節 地域文化ケアにおける文化的感受性の要素

#### 1. 地域文化ケアの意図からみた文化的感受性の要素

地域文化ケアの意図について、「地域文化はケアにどのように関与しているか」の観点で導かれた4つのコアカテゴリー[地域文化に息づく価値の支持]、[地域文化の楽しみとケアの融合]、[地域文化への共感と一体感の希求]、[地域文化によるケアの創造]について、「どのような感受性が見いだせるか」の観点で感受性の要素を取り取りだした(表52)。

取り出した感受性の要素は、[地域文化に息づく価値の支持]から「支持」、[地域文化の楽しみとケアの融合]から「楽しみ」と「融合」、[地域文化への共感と一体感の希求]から「共感」と「希求」、[地域文化によるケアの創造]から「創造」があった。

#### 2. 地域文化ケアの評価からみた文化的感受性の要素

地域文化ケアの評価について、「地域文化はケアにどのように関与しているか」の観点で導かれた4つのコアカテゴリー[地域文化ケアに満足]、[地域文化ケアへの信頼と認知]、[地域文化ケアとの折り合いの理解と配慮]、[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]について、「どのような感受性が見いだせるか」の観点で感受性の要素を取り取りだした(表53)。

取り出した感受性の要素は、[地域文化ケアに満足]から「満足」、[地域文化ケアへの信頼と認知]から「信頼」と「認知」、[地域文化ケアとの折り合いの理解と配慮]から「理解」と「配慮」、[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]から「実感」と「自負」があった。

#### 3. 地域文化ケアにおける文化的感受性の要素

地域文化ケアの意図と評価からみた文化的感受性の要素と、文化的感受性の概念分析を行ったForondaの文化的感受性の要素(前提を含む)を照らし合わせた(図8)。

地域文化ケアの意図と評価からみた文化的感受性の要素は、「支持」、「楽しみ」、「融合」、「共感」、「希求」、「創造」、「満足」、「信頼」、「認知」、「理解」、「配慮」、「実感」、「自負」の13であった。Forondaは、「多様性」、「出会い」、「意識」、「知識」、「理解」、「満足」、「考慮」、

「尊重」、「テーラリング」の9つであった。

本研究の結果と Foronda の文化的感受性との共通または類似していた要素は、「理解」、「満足」、「考慮（配慮）」、「意識（認知）」、「尊重（支持）」、「テーラリング（融合）」であった。フォロンドのみにあった要素は、「知識」、「出会い」、「多様性」であり、本研究のみの要素は、「楽しみ」、「信頼」、「実感」、「共感」、「自負」、「希求」、「創造」、があった。



## 第5章 考察

### 第1節 地域文化ケアの特徴

本研究の地域文化ケアは、民間的システム（イーミック）と専門的システム（エティック）との橋渡しで表出されるケアの方法、ケアの意図、ケアの評価を包含する実践とした。

#### 1. 老年看護の実践にみる地域文化ケアの特徴

研究参加者らは、地域文化ケアの実践について、全員が複数事例に複数回（2場面から12場面）の実践を語っていた。高齢者の状況と自らの意図、ケア環境からその成果に至るまで詳細に想起することができていた。そして、本研究で見いだした地域文化ケアは、専門的システム（個人または集団に対して援助的・支持的・促進的行為を行うために求められる教育機関で修得された専門的ケアの知識と実践技能）を前提にしていなかった。むしろ、ケア提供者が自らその必要性を見いだし、地域文化に根差したケアを手探りでつかみ取って、自らの判断により実践してきたものであった。

野口(1997)は、老年看護学について、分野としての新しさと、その対象となる高齢者が全身性の老化を引き受け、かつ心理社会的変化により個別性が拡大するという観点から、複眼的な、多面的な看護研究の必要性とその方法を開発する必然性を指摘している。特に経験的に試み、積み上げられているエキスパートの実践に学ぶことを提案している。また、松尾(2011)は、経験から学ぶ前提として「よく考えられた実践」である必要性を指摘し、内省的実践のあり方を提示している。内省的実践とは、自分でよく考えながら実践する「行為の中での内省」と、実践のあとで深く振り返り、次につなげる「行為の後の内省」を繰り返すことであるとしている。さらに、正木(2006)は、高齢者ケアと文化との関係について、高齢者看護を追求することは、すなわち高齢者に内在化された「文化」に根ざしたケアを見いだし、開発、理論化することを要求すると述べている。

本研究のケア提供者らは、要介護高齢者の地域文化ケアの実践をとおして、複眼的、多面的に経験を積み重ね、内省的実践を繰り返し、地域文化に根ざしたケアを見いだし、持論を確立、問い直し続けていることが推察された。

したがって、老年看護の実践にみる地域文化ケアの特徴は、ケア提供者が実践知として、高齢者ケアにおける必要性と効果を経験的に確かめながら実践していると考えられた。

#### 2. 国内外の高齢者の文化看護にみる地域文化ケアの特徴

国内外の高齢者ケアにおける文化看護に関する教育研究の動向(呉地ら, 2015)では、国外の民族に触れる機会の圧倒的な少なさ、文化的自己観や家族システムの歴史に象徴される他者とのつながりや関係性の特徴から、差異があった。国外の文化看護研究では、ケア提供者とケア対象との国・民族レベルで文化が異なる「移民の文化」が多かったが、国内の文化看護研究では、「地域の持つ文化」と「家族のもつ文化」に関する研究が多かった。特に「家族の持つ文化」に関する研究は、国外文献では皆無であった。日本は、単一民族と称されるもののその地理的、歴史的背景から、東西南北に弓なりに広がり、国土の大半を山が占め、かつ島嶼地域を多く有する独特の

地理的特徴を有していることで、気候範囲は寒帯から亜熱帯までと広い範囲に及び、生活を営む集団（集落）ごとにその暮らしには独特の様式、すなわち地域文化が根づいている。これらは、地方の方言や伝統行事に代表されるように、小規模の生活圏域で共有されてきている。このように、日本が独自の地形と広い国土を有しかつ海に囲まれているという海洋性から、他国と地続きにある諸外国と異なり、本研究における地域文化が生活圏域ごとに形成されている特徴がある。つまり、外間(1986)が指摘したように、グレート・トラディション（国家や民族レベル）ではなく、スモール・トラディション（村落レベル）の視点から、地域文化を文化ケアに位置づけ高齢者ケアを実践することが必要であると考えられる。

したがって、ケア提供者らの実践にみられたように、地域文化を生活の基盤と位置づけそれを知ることは、高齢者に内在化された文化をつかみ取る糸口になり、文化に根ざした高齢者ケアを推進しうることが示唆された。

### 3. EBP (evidence based practice) にみる地域文化ケアの特徴

看護においては、その効率化および質の確保をめざし EBP の概念を実践に取り入れる必要性が提唱されている。松岡(2010)は、その定義を整理し、EBP の構成要素「最良の（リサーチ）エビデンス」、「臨床的専門技能」、「患者の価値観（患者・家族の選択）」を明確にした。「最良のエビデンス」は、システムティックレビューから専門職の見解までを含めた幅広い概念であること、「臨床専門的技能」は、臨床スキルと過去の経験を活用する能力であり、その範囲は個々の状態、介入による利益や個人的価値観と期待をあきらかにすることとし、「患者の価値」は、個々の患者の選択、関心、期待を意味し、臨床判断に統合されるべきことを指摘している。

本研究で見いだされた地域文化ケアは、最良のエビデンスをケアの意図として語っていたケア提供者は皆無だった。しかし、高齢者の地域文化の価値観を前提としているから「患者の価値」は重視されていた。また、ケアの評価においては、いずれも肯定的な評価として語られていたことから、ケアの場で求められる臨床スキルのもとで実践されており、「臨床専門的技能」を發揮していたと考えられた。

したがって、地域文化ケアの実践研究を積み上げ、「最良のエビデンス」を生成していくことによって地域文化ケアは EBP として確立され、より専門的ケアシステムとして位置づけられる可能性があった。そのためには、エキスパートの実践知の必要性と効果を可視化（研究）することが課題である。

### 4. ケアリングにみる地域文化ケアの特徴

ケアの対象とケア提供者の相互関係によるケアを記述する概念に、ケアリングがある。ケアリングについては、佐藤(2010)は、レイニンガー、ワトソン、ベナーのケアリング論をまとめた。ケアリングは、「患者-看護師」間に存在し、「看護においてなくてはならない要素」であり、「患者の目的達成をめざす過程で発揮」され、同時に看護師の成長も達成される。そして、ケアリングは、「みえづらくわかりづらい」特性があると説明している(佐藤, 2010)。永島(2013)は、20年に及ぶケアリングに関する文献検討で、「導入期」、「ケアリング概念の活用期」で整理し、「人は誰でも自然に他者への関心に向ける存在であり、生活の場で起きている現象を見て、自分自身

を他者の立場に投影して考えることのできる存在である」としていた。そして、「誰もが自然に実施しているケアリングに研究者が視点を置いてそのプロセスや要因、意味を探求し、その結果を教育やケアリングの実践に還元しようとしている努力の軌跡」をケアリングの文献検討でみたと述べていた。ケアリングの文献検討をさらに進めた石垣(2013)は、日本におけるケアリング概念の変遷を整理し、ケアリングは「社会的存在である人間が、その時、その時の社会環境が求める看護のあり方に合わせて概念をつくりあげている」と述べつつ、「弱いものや助けを必要とする者に対する何らかの感情がある」という普遍性があるとも報告している。このように、ケアリングは、誰でも実施しているものであり、社会環境や看護のあり方に影響され、見えにくいものであるといえる。

ケアリングは、「見えづらくわかりづらい」特性とされているのに対し、地域文化ケアは、「伝統行事に参加すること、地域行事に参加すること、方言で話すこと、地域に暮らし続けること」への支援と定義していることから、見えやすくわかりやすい特徴があった。

したがって、地域文化ケアを地域文化行動への支援として実践することで、ケアリングを可視化できる可能性が示唆された。

## 第2節 地域文化ケアの実施の段階

地域文化ケアの方法（実施）の段階は、[求めに応じる地域文化ケア]、[活かされる地域文化ケア]、[活かし継承される地域文化ケア]、[創造される地域文化ケア]があった。

### 1. 看護理論から捉えた地域文化ケアの実施の段階

看護理論家である Benner (2001/2005) は、臨床技能修得の段階に関する理論を構築した(表 54)。臨床技能習得の段階は、「状況に応じた対応ができない」初心者レベル、「その場の状況を理解し判断できる」新人レベル、「現在の状況だけでなく将来の状況や優先順位の判断ができる」一人前レベル、「その場の一時的な視点ではなく全体的な視点で捉えられ、格率（行為や論理の規則）を基に分析的に実践ができる」中堅レベル、「直感的に状況を広く・深い視野で理解し実践ができる」達人レベルであるとしている。

本研究における地域文化ケアの実施の段階を Benner の臨床技能習得レベルで検討した。第1段階の[求めに応じる地域文化ケア]は、要介護高齢者の訴えを起点として、ケアの必要性が想起されており、ケア提供者の主体性は高齢者によって誘発されていた。つまり、ケア提供者は自らが提供するサービスとして想定はしていないが、要介護高齢者から言語的・非言語的な要望を感じ取ることで、将来の状況や優先順位を判断し、その求めに応じたと考えられ、「一人前のレベル」に対応していた。第2段階の[活かされる地域文化ケア]は、要介護高齢者の地域文化に対する訴えやニーズを満たすために、地域文化がケアに活かせる可能性を意識したことを起点として、ケア提供者が地域文化を活用しようとする主体性が発揮されていた。つまり、将来の状況や優先順位の判断にとどまらず、行為がもたらす成果や意義を分析し、その可能性を確認していたと考えられ「中堅レベル」に対応していた。第3段階の[活かし継承される地域文化ケア]は、地域文化をケアに活かし継承したいケア提供者の意図を起点として、高齢者のニーズを誘発していた。これは、ケアの起点が要介護高齢者からケア提供者に転換する段階であり、第1段階、第2段階

と異なるが、経験的な知見に基づいていると推測するものの、直観的な判断や広く・深い視野に基づいているとは考えにくいことから、第2段階と同様、「中堅レベル」に対応によると考えた。第4段階の[創造される地域文化ケア]は、地域文化をケアに活かし継承するだけでなく、地域文化に根ざしたケアを創造する意図を起点として、地域文化をケアに取り込んでいた。つまり、目の前の要介護高齢者のケアにとどまらず、広く地域ケアを意識し、創造した実践であり、要介護高齢者へのケアと地域文化の継承を直感的に関連させ、かつ広がりを持って実践していたと考えられることから「達人レベル」に対応していた。

このように、地域文化ケアの実施の段階を Benner の臨床技能修得の段階と照らし合わせると、地域文化ケアの実施は、技能習得の段階とマッチし、「一人前レベル」、「中堅レベル」、「達人レベル」に位置づけられる実践であった。

また、Leininger(1991/1995)は、専門的システムと民間的システムを橋渡す文化ケアの実践について3つのタイプを提示している(表55)。一つ目は、特定の文化を持つ人々がケアの価値観を保持または維持することを支援する「文化ケアの保持もしくは維持」、二つ目は、特定の文化を持つ人々が健康や死などに対処できるよう調整したり、取り引きしたりすることを支援する「文化ケアの調整もしくは取り引き」、三つ目は、人々がよりよいケアの実践や効果を得るために、生活様式を変化させたり、再構成するのを支援する「文化ケアの再パターン化もしくは再構成」である。これらは、筆者が先行研究(呉地ら, 2010)で取り組んだ、介護施設のケア提供者が実施する要介護高齢者の伝統行事参加への支援で明らかにした三つのパターンと類似していた。まず、ケア提供者が要介護高齢者のニーズを直接充足させる「ニーズの充足」は、「文化ケアの保持もしくは維持」、直接にニーズを充足できないが工夫して代替行為を実施しニーズを満たそうとする「代替ケア」は、「文化ケアの調整もしくは取り引き」、ケア提供者が過去に要介護高齢者のニーズを記憶し、ケアのなかに取り入れ継続的に支援する「ケアの発展」は、「文化ケアの再パターン化もしくは再構成」に類似していた。

本研究の地域文化ケアの実施の段階を Leininger および先行研究のタイプと照らし合わせると、第1段階の[求めに応じる地域文化ケア]は、「文化ケアの保持もしくは維持」と「ニーズの充足」、第2段階の[活かされる地域文化ケア]は、「文化ケアの保持もしくは維持」と「文化ケアの調整もしくは取り引き」、「代替ケア」を含んでいた。第3段階の[活かし継承される地域文化ケア]は、「文化ケアの再パターン化もしくは再構成」と「ケアの発展」に該当すると考えられた。そして、第4段階の[創造される地域文化ケア]は、Leininger の文化ケアのタイプや先行研究では見いだせないタイプであった。[創造される地域文化ケア]の段階では、ケア提供者は、ケアの受け手である要介護高齢者の健康や安寧だけでなく、要介護高齢者が暮らす地域全体の変革を志向していた。研究参加者36名の全ては地域文化行動の体験があり、地域文化ケアを実践していたが、[創造される地域文化ケア]の段階の実践は、2名のみにも語られていた。この2名の特徴は、地元出身で、看護職として30年以上の実務経験があり、実務は施設ケアと在宅ケアの経験を有していた。

Leininger は、文化ケアの実践に際し、当事者から学ぶことの重要性を強調している。[創造される地域文化ケア]の実践者は、幼少期から地域文化行動を体験し、看護職として施設ケアだけでなく、生活のなかで在宅ケアを長く実践するなかで当事者から学ぶ機会が多くあったと考えられ

た。そして、「ケアの意図」を持ち、「ケアの方法」を実施し、関係者の反応も観察しながら「ケアの評価」を繰り返し、地域文化ケアの創造へと、自己のケアを発展させてきたことが示唆された。

また、[創造される地域文化ケア]を実践していたケア提供者は、ケアを専門的システムから始める態度（エティックな態度）ではなく、地域の人々が求める暮らしやすさへの貢献のために地域のケア提供者と地域の人々が学び合ってケアする民間的システムから始める態度（イーミックな態度）があると考えられた。つまり、「ケアは地域のなかで地域の人々と協働で人々の求めに応じて創る」という技能を習得していると考えられた。

以上のことから、看護理論から捉える地域文化ケアの実施の段階は、知識と経験に裏打ちされた熟達した実践であり、かつケアの受け手への介入を超えた地域の変革をめざす実践であった。

## 2. 文化的能力から捉えた地域文化ケアの実施の段階

文化的能力は、様々な研究者による概念分析を経て、プロセスであり事象ではないことが支持され、文化的能力は発達することが示されている(Burchum, 2002; Jirwe, 2009; Smith, 1998; Campinha-Bacote, 2002; Suh, 2004)。看護における文化的能力発達の実態を示した Blanchet ら (2015) の、文化的能力発達の段階は、レベル1「文化的に多様な状況で実践の複数の異なる現実を受け入れる」、レベル2「文化的に多様な状況で自己の実践の妥当性を問う」、レベル3「文化的に多様な状況で実践の複数の異なる現実を統合化する方法で組み合わせる」へと発達することを示した。

本研究における地域文化ケアの実施の段階と Blanchet ら (2015) の、文化的能力発達の段階を照らし合わせた。[求めに応じる地域文化ケア]は、要介護高齢者が表出するニーズから地域文化ケアの必要性を認識しケアを提供していた。これは、ケア提供者の全員が自らの地域文化の体験や地域文化ケアの実践があったことから、レベル1は通り越し、レベル2「文化的に多様な状況で自己の実践の妥当性を問う」段階になっていたと考えられた。[活かされる地域文化ケア]は、要介護高齢者が表出するニーズに対し、地域文化ケアを活かすことでよりよい成果が得られるようにケアと工夫していたことから、レベル3「文化的に多様な状況で実践の複数の異なる現実を統合化する方法で組み合わせる」の段階と考えられた。[活かし継承される地域文化ケア]は、ケア提供者が意図的に高齢者のニーズを誘発し、実施していたことから、「文化的に多様な状況で実践の複数の異なる現実を受け入れる」レベル1の上にと、「文化的に多様な状況で実践の複数の異なる現実を統合化する方法で組み合わせる」レベル3とが融合していると考えられた。また、[創造される地域文化ケア]は、地域文化をケアに活かしつつ、地域文化をケアに取り込んでいたことから「文化的に多様な状況で実践の複数の異なる現実を統合化する方法で組み合わせる」レベル3の段階と考えられた。

このように、地域文化ケアの実施の段階は、文化的能力の発達段階とは方向は一致しているが同じではなかった。文化的能力として示される能力は、主に異文化に対処する能力であるのに対し、本研究における地域文化ケアは、ケア提供者と要介護高齢者とが地域文化を共有している点で相異があった。すなわち、文化的能力の発達段階と一致しなかった[求めに応じる地域文化ケア]は、ケア提供者と要介護高齢者が地域文化を共有していること、[活かし継承される地域文化ケア]、

[創造される地域文化ケア]は、ケア提供者と要介護高齢者が地域文化を共有していることに加え、ケアの起点が要介護高齢者ではなくケア提供者であることによって文化的能力の発達段階と一致しなかった可能性が示唆された。

以上のことから、文化的能力から捉えた地域文化ケアの実施の段階は、文化の捉え方の視点が共有か違いであることと、地域文化ケアの起点によって発達段階に違いが生じる可能性が示唆された。

### 3. 地域包括ケアから捉えた地域文化ケアの実施の段階

正木(2006)は、老年看護学研究の動向を、川口(2003)が提示した「人間-環境系」の考え方、すなわち「決定論」、「相互作用論」、「相互浸透論」の視点で整理し、人間-環境系の捉え方を進化させ、相互浸透論で高齢者看護に関する研究を推進する必要性を提案している。相互浸透論は、「人間と環境は一体であり、相互に影響し合っているのみではなくて、お互いに手を取り合いながら共通の目標に向かって、共通の手段で進んでいく存在である」という考え方である。

本研究では、地域文化ケアの実施は、第一段階のケアの実践(方法)では、[求めに応じる地域文化ケア]で、高齢者は「ケアの受け手」と位置づけていた。しかし、[地域文化の楽しみとケアの融合]や[地域文化への共感と一体感の希求]などのケアの意図を持ち、ケアの段階が上がると、高齢者と共に地域文化を[活かし継承される地域文化ケア]、みんなで創り広める[創造される地域文化ケア]を実施していた。このように、ケアの実施の段階が発展するにつれ、ケアの受け手と担い手の立場ではなく、共に地域文化行動に取り組む関係を形成していた。その評価は、[地域文化ケアに満足]や[地域文化ケアが協働で発展する実感と自負]をもたらしていた。つまり、地域文化を共有するケア提供者の実践は、ケアの受け手と担い手の枠を超え、地域文化と一緒に楽しむために方言での会話や伝統行事に参加するなどの地域文化行動をするという目標と手段を共有しており、相互浸透論で地域文化ケアが実践されていると考えられた。

地域包括ケアシステムの構築は、要介護高齢者であっても地域の構成員として、ケアの受け手であり、ケアの担い手として、それぞれの役割を期待している。したがって、地域文化ケアは、地域包括ケアの理念である、住み慣れた地域において活かし活かされる高齢者の有り様が、要介護状態であっても実現可能であることを示唆していると考えられた。

### 4. [創造される地域文化ケア]の実施の段階

[創造される地域文化ケア]の実施の段階が、新たに見いだされた理由として、島嶼性があると考えられる。このコアカテゴリーは、施設ケアと在宅ケアの場で豊かなケア経験を持つ60代の地元の看護職者2名に見いだされた(ID20、ID21)。その内容は、<つながりのある人々を巻き込みケアを発足させ、広める>であった。盛島(2017)は、宮古島の母子保健活動を振り返り、島嶼の特質から見た発展要因の意味には、「環海による隔離性からくるまとまりやすさ」、「島暮らしの厳しさが培った地域力・助け合う力・工夫する知恵」、「島で暮らしている同じ住民としての熱い心」などがあるとしていた。島のまとまりやすさ、地域で助け合い工夫する知恵、同じ住民としての当事者の思いがあり、そのような島の特徴が、ケアを創造させやすい環境になっていると考えられた。

また、ケア提供者は、ケアの方法としてエビデンスに基づく専門的システムによるエティックなケアより当事者である高齢者の「求めに応じる地域文化ケア」を優先し、「活かされる地域文化ケア」、「活かし継承される地域文化ケア」へと段階を踏んできたことが、「創造される地域文化ケア」を生み出したと考えられた。これは、専門職でありながらケア提供者が民間的システムであるイーミックなケアを優先させ、高齢者やその家族、地域の関係者と前述の島の特徴を活かしたことが影響していると考えられた。そして、そのケアの意図は、「地域文化に息づく価値の支持」、「地域文化の楽しみとケアの融合」、「地域文化への共感と一体感の希求」を経て、「地域文化によるケアの創造」へと発展し、「地域文化ケアが協働で発展する実感と自負」と評価していた。

このようにケアを実施し、ケアの受け手の反応も確かめながらケアの評価を行い、それが新たなケアの意図を生み出すという実践を繰り返すなかで地域文化ケアの創造へと発展してきたことが示唆された。そして、繰り返し、繰り返し、看護実践を重ねることで、地域の人々が求める暮らしやすさに向け、ケアは地域のなかで地域の人々と協働で人々の求めに応じて創るという技能を習得していったと考えられた。

### 第3節 地域文化ケアに見いだされた文化的感受性

文化的感受性の概念分析によって導かれた文化的感受性の要素と、本研究でケアの意図とケアの評価から導かれた文化的感受性の要素には共通と相違があった(図8)。本研究の結果とフォロンドの文化的感受性との共通または類似していた要素は、「理解」、「満足」、「考慮(配慮)」、「意識(認知)」、「尊重(支持)」、「テーラリング(融合)」であった。本研究では見いだせずフォロンドのみにあった要素は、「知識」、「出会い」、「多様性」であり、本研究のみに見いだせた要素は、「楽しみ」、「信頼」、「実感」、「共感」、「自負」、「希求」、「創造」、があった。

#### 1. 地域文化ケアに見いだせなかった文化的感受性

本研究では見いだせず、フォロンドの文化的感受性にあった3つの要素は、その人の情報の範囲である「知識」、文化的感受性を体験するためには、接触するか、文化の違う経験を持っている「出会い」、お互いの個人の違いである「多様性」であった。

文化的感受性の文献では、「知識」については、国内文献では見いだせなかったが、国外文献では、国際看護交流プログラム(Hern et al, 2005)、多様性チャレンジスケール(Sanner et al, 2010)、文化的意識尺度(Rew et al, 2003)、多文化カリキュラム(Hughes et al, 2007)など、文化的感受性のプログラムの開発やその発達の評価がなされていた。「出会い」については、海外渡航の経験や留学生との関わりが異文化感受性に影響し(TASHIRO et al, 2016; 田代ら, 2014; 張ら, 2014; 稲嶺, 2014; Dewald, 2010; Drake, 2004; Meydanlioglu et al, 2015)とし、文化的感受性を高めるとしていた。「多様性」については、異文化間感受性は、研修中の体験の意味づけや相手の価値観に立脚した捉え方が栄養する(戸田ら, 2018)や、自己の実践を振り返り、利用者と看護師の立場を行き来し、多様な意見をとり入れることで文化的感受性を備えた実践ができると報告していた(松岡, 2016; 松岡, 2017)。国外文献では、文化的な顧客のニーズへの対応(Parker, 2001)、患者や家族の意思決定への支援のための対象理解(Morgante et al, 2006)、文化は対人コミュニケーションとヘルスケアの国際的違いを生み出すことへの理解(Burnard, 2005)があった。このよう

に、「知識」は異文化看護を実践するための教育プログラム、「出会い」は海外留学や留学経験などの異文化との影響、「多様性」は、国内外の文献で見いだされ、立場による違いへの感受性の要素として見いだされていた。

本研究で、「知識」、「出会い」、「多様性」が見いだされなかったのは、研究フィールドと研究参加者の特徴に起因すると考えられた。研究フィールドの宮古島は、環海性、狭小性、遠隔性を特徴とする島嶼地域であり、要介護高齢者とケア提供者で地域文化が共有されていたこと、研究参加者であるケア提供者は、島外者もいたが全員が何らかの地域文化行動（方言で話すこと、伝統行事に参加すること、地域行事に参加すること）の経験があり、要介護高齢者の地域文化行動へのニーズを受け入れる文化的感受性があったと考えられた。つまり、ケア提供者と要介護高齢者は同じ地域文化を共有していたことから、地域文化の「知識」を持ち、「出会い」は時間をかけて頻繁で日常的であり、「多様性」は、相手のことがわかりやすく我が事のようにケアすることができることから文化的感受性の要素としてケア提供者から語られなかったと考えられた。

## 2. 地域文化ケアに見いだされた文化的感受性

フォロンドの文化的感受性の要素には見いだせず、本研究のみに見いだせた文化的感受性の要素は、「楽しみ」、「信頼」、「実感」、「共感」、「自負」、「希求」、「創造」、の7つあった。

福田（2010）は、感情階層説モデルで、感情には情動と（高等）感情があり、さらに情動には原始情動と基本情動、（高等）感情には、社会的感情と知的感情の4階層があるとしている（表56）。そして、社会的感情は他者の関係性に関与した感情であり、知的感情は文化に依存した感情で、意識的な利己的行動や利他的行動があるとし、ヒトの感情は、基本情動から、社会的感情の獲得を経て、知的感情へと進化の過程があると述べている。

本研究で見いだせた7つの文化的感受性の要素を福田の感情階層説モデルと照らし合わせると、基本情動として、「楽しみ」があり、他者の関係性に関与した社会的感情として「信頼」、「実感」、「共感」があり、意識的な利己的行動の知的感情として「自負」、意識的や利他的行動の感情として「希求」と「創造」が位置づけられた。

地域文化ケアのケア提供者は、地域文化ケアを実践することで、「楽しみ」という肯定的な情動を文化的感受性で体験していた。その肯定的な情動の体験は、他者を「信頼」し、他者に「共感」し、他者との協働を「実感」するという文化感受性で社会的感情に進化していた。そして、社会的感情の体験は、地域文化ケアを実践している自己に自信を持ち誇らしく思う「自負」と、利他的な未来を描き向かって願い望みを「希求」という文化的感受性、利己と利他のためにそれまでなかった地域文化ケアを創り出す「創造」という文化的感受性となっていたと考えられた。

文化的感受性の類似用語である看護職者の文化的能力についての構成概念には、感情領域、知識領域、技能領域があり、文化的感受性は文化的能力の感情領域に位置づけられていた。地域文化ケアにおける文化的感受性は、「楽しみ」という肯定的な基本的情動の体験を始まりとして、エンパワメントされ、自己への肯定、他者への肯定、未来への希望と創造へとヒトの感情の進化のプロセスをたどると考えられた。ヒトとして、文化的感受性を高めるためには、社会的感情や知的感情を育てる前提に、「楽しみ」の情動を育てる必要性が示唆された。



### 3. 文化的感受性に見いだされた「楽しみ」の情動

文化的感受性の「楽しみ」は基本情動として、ポジティブ（肯定的）な感情である。福田（2010）は、恐怖や怒り、嫌悪というネガティブな気分は他者に対する関心を弱め、援助を伴う共感が得られにくいとし、逆にポジティブな感情は、生きる希望を与えてくれるとしている。

ケア提供者の実践の例（ID2）として、ケア提供者が好きな地域行事に高齢者を誘った。“美しい幻想的な風景は、私も一緒に見て楽しみたい”という〈地域文化と一緒に楽しみたい〉と【地域文化の楽しみへの想起】をし、業務を超えて高齢者と一緒に楽しむことを意図した。そして、“地域の夜のイベントは私も好きであるが、（私が誘った）病院スタッフも感動していたので嬉しかった”と参加したケア提供者仲間とも、ともに楽しんでいた。

このように、「ケア提供者の私が楽しみたい」が触発され、ケアが提案され、「高齢者や関係者と一緒に地域文化を楽しみたい」というケアの意図が「楽しみ」という文化的感受性になったと考えられた。

ところで、Pam（2000）は、看護は感情労働であるとし、感情労働は、自己で感情を管理できることが前提であると述べている。それは、自分の感情を加工することによって相手の感情に働きかける仕事であり、表情や声や態度で適正な感情を演出することを求められる仕事である（武井，2006）。看護実践の現場では、病院看護師は、「患者の気持ちに共感せよ」、「患者には優しく親切に」といった振る舞いを規定する感情規則（武井，2001）、また、救命の場では、感情に振り回されないで業務を優先する規則（片田ら，2008）、さらに、苛立ちや悲しみは表情抑制するが、嬉しさは表情抑制しない（片山，2006）という規則がある。このように、患者を安心させ、信頼できるようにするために、いくつかの感情規則がある。

看護師の感情規則は、否定的な感情は抑制し、肯定的な感情は表出することから、「楽しみ」の表出は当然とも捉えられる。しかし、今回、導かれた「楽しみ」は、楽しみの起点がケア提供者であり、「私が楽しみたい」、そして「ケアを高齢者や関係者とみんなで一緒に楽しむ」ということであった。

前述したが、ケアリングとは、看護においては、患者の目的達成をめざす過程で発揮され、その概念は社会環境で変化するとしつつも「弱い者や助けを必要とする者に対する何らかの感情である」という普遍性があると報告している（永島，2013. 石垣，2013）。地域文化ケアには、患者の目的達成や弱者への感情に止まらず、ケア提供者の楽しみたい意図もあることが確認できたことから、ケアリングの概念拡大をも示唆していると考えられた。

ところで、ケア提供者の楽しみとしての地域文化ケアの文化的感受性は、ケア提供者のワーク・ライフ・バランスに貢献できないかと考えた。内閣府（2007）は、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」をめざし、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会に向けて取り組み始めた。それを受け、看護職においては、日本看護協会がワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、個人のライフイベントに応じて働き方を選択できる「多様な勤務形態」の普及に取り組んでいる（公益社団法人 日本看護協会）。これは離職率（退職者）の低下や、人材の定着を目的とし、仕事（ワ

ーク)を軸としたバランスの取り方といえる。つまり、内閣府のめざしている前段の仕事のバランス(ワークバランス)の部分であると考え。一方、後段の生活のバランス(ライフバランス)はどうだろうか。

たとえば、宮古島トライアスロン大会は、地域行事として行政が提案し、保健医療福祉の専門職と地域の人々(幼稚園生から高校生までの子どもたちや要介護高齢者を含む)との協働によって毎年開催されている。今回の研究参加者であるケア提供者は、ボランティアとして保健医療福祉サービスを提供するだけでなく、要介護高齢者を含む地域の人々と一緒に選手たちの応援を楽しむ。その楽しみは、仕事(ワーク)を超えて、同じ地域に住む住民としての熱い心を育み、生活(ライフ)のなかで地域文化を楽しんでいた。

めざすワーク・ライフ・バランスは、ワークとライフのバランスであり、双方向からの取り組みが求められている。多様な勤務形態への取り組みに加え、ワークをライフと重ねあわせた楽しみ方として、地域文化ケアは活用できると考えた。したがって、文化的感受性に見いだされた「楽しみ」の情動は、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現した社会に貢献することを示唆していた。

#### 第4節 高齢者の地域文化に寄り添うケアのための老年看護教育への提言

##### 1. 高齢者における地域文化ケアの教育への提言

ケア提供者らの実践にみられたように、地域文化を生活の基盤と位置づけそれを知ることは、高齢者に内在化された文化をつかみ取る糸口になり、文化に根ざした高齢者ケアを推進しうることが示唆された。また、本研究のケア提供者らは、要介護高齢者の地域文化ケアの実践をとおして、複眼的、多面的に経験を積み重ね、内省的実践を繰り返し、地域文化に根ざしたケアを見だし、「持論」を確立、問い直し続けていることが推察された。それは、ケア提供者が経験的に実践知として、高齢者ケアにおける必要性和効果を確かめながら実践していると考えられた。したがって、地域文化ケアの実践研究を積み上げ、「最良のエビデンス」を生成していくことによって地域文化ケアはEBPとして確立され、より専門的ケアシステムとして位置づけられる可能性があったといえる。

我が国の看護基礎教育での看護における文化について、佐藤ら(2005)は1981~2005年、呉地ら(2008)は2006年~2013年の看護のテキストから検討している。看護基礎教育では、看護の対象となる「個人」、「家族」、「地域」、あるいは「病気」、「健康」というものは、文化によって規定されるもの、あるいは文化そのものとして捉え理解し、それを踏まえた看護ケアをすることの重要性についての教育内容であった。

老年看護領域の看護基礎教育では、では、社会のまなざしが老いの価値観を形成するとし、「人々の老いに対する意識は人々が生きてきた時代や文化により変化していると記述されていた(水谷ら, 2011. 正木ら, 2011)。そして、「高齢者は自文化や価値観に接することで心癒やされるので、現在の生活が自文化や価値観と一致していることが重要である。自文化や価値観は意識しづらいので言語化されにくい。高齢者の文脈や行動場面から対象理解する姿勢が必要である。」(正木ら, 2011)とし、高齢者の生きている文化を、意識的に理解する必要性に踏み込んでいた。

ところで、看護基礎教育充実に関する検討会報告（厚生労働，2007）では、看護職には国際社会において諸外国と協力し対応できる能力を養う内容を盛り込んでいる。中越ら(2014)は、学部と大学院での国際看護関連科目の開講について回答大学の95.8%が国際看護関連科目を開講している実態を把握した。その内容は、異文化理解、異文化看護、異文化間看護、民族学、社会学、歴史など様々な分野を内包していたことから、授業目標や授業内容の差を課題にしていた。そして、国際性を備えた看護師に必要な能力は、「在日・来日 外国人の健康観の理解」、「文化および生活習慣の理解と尊重」、「対象者の文化と自文化の相違と類似の理解」、「言語的・非言語的コミュニケーションを図る態度」、「社会・文化的背景および宗教が健康に及ぼす影響の理解」、「自分が持っている偏見や差別などの気づき」、「国際保健の 動向の理解」であったとしていた。国際看護関連科目は、国家や民族レベルで文化を捉え、文化に根ざしたケア（文化看護）に必要な看護師の文化的能力として、気づき、理解、尊重する態度であるとしていると考えられた。

また、日本看護系大学協議会(2014)では、文化的能力は博士前期課程で習得すべき能力とし、「倫理的・文化的感受性を持ち、専門職としての責務を果たす」と述べている。そして、本学では、看護基礎教育で、「国際保健看護」と「島嶼保健看護」を科目立てし、異文化看護は国際保健看護で、地域文化看護は島嶼保健看護に位置づけていた。博士前期課程においては、地域文化看護論を開講し、「看護における地域文化の影響、地域文化に根ざした看護について検討する」するとし、文化看護ではなく地域文化看護と位置づけている。その内容は、文化の定義を概観し、異文化看護と地域文化看護を整理し、地域文化看護に軸足を置き、研究から課題を導き、地域文化を実践に活かせるようにしていた。

以上のことから、我が国にける文化看護の教育は、看護基礎教育や博士前期課程教育で行われ、その内容は異文化看護を推進する方向性は示されていた。しかし、異文化看護と地域文化看護を整理し、学士課程と博士前期課程の教育内容として、何を何処まで教育するかについての体系化は十分ではないといえる。特に、超高齢社会を迎えた我が国においては、「高齢者は地域文化を生きている」という観点から、地域にある多様な文化も考慮した地域文化看護教育の体系化が急がれていると考えられた。

## 2. 地域文化ケアにおける文化的感受性の教育への提言

本研究での研究参加者であるケア提供者は、多様なケアの場、多様な資格要件（事務職や管理者を含む）、多様な年齢と経験年数、県内外の地元以外の出身者であったが、全員が何らかの地域文化行動（方言で話すこと、伝統行事に参加すること、地域行事に参加すること）の経験があった。そして、要介護高齢者の地域文化行動へのニーズを受け入れ、地域文化ケアを実践していた。また、地域文化ケアのケア提供者は、地域文化ケアを実践することで、「楽しみ」という肯定的な情動を文化的感受性で体験していた。

Miller(1990)のコンピテンシーのモデルでは、専門性の真正性には、「知っている」は知識の言及であり、「方法を知っている」は能力、「方法を示す」は演じる、「実践する」は行動とし、知識から行動へと段階があるとし、知識を前提に行動はあるとしている。一方、経験学習論を提示したKolbは、経験学習を「具体的経験が変容された結果、知識が創出されるプロセス」(Kolb, 1984)、すなわち「経験に基盤を置く連続的変換的なプロセス」(Kolb, 1983)と定義し、具体的な経験の

重要性を述べている。そして、寺西(1990)は、「従来の知における知識か体験かという二分法の発想を超える知の構想」を提示している。

本研究では、地域文化に関する知識は必ずしも十分ではない県内外の地元以外の研究参加者は、全員が地域文化行動の体験を持ち、地域文化ケアの実践が語られていた。このことから感情領域に位置づけられた文化的感受性は、いかなる地域文化であるかその内容は問わず地域文化行動の体験を通して「楽しみ」という肯定的な基本的情動の体験があるか否かは影響すると考えられた。

したがって、文化的能力が、知識から行動の段階に移行していくプロセスの教育とすれば、文化的感受性はコルブの提唱する地域文化を「体験して楽しむ」という経験学習が適切である事が示唆された。

## 第5節 本研究の限界と今後の課題

### 1. 本研究の限界

本研究は、高齢者と地域文化を共有しているケア提供者から、地域文化ケアの場面を想起してもらい、面接を実施した。研究参加者全員が、高齢者の状況とケアの意図、ケアの方法、ケアの評価について想起し回答した。回答した面接内容を個票として整理し、研究参加者に加筆修正を依頼しデータとしたことにより、信用可能性は保てたと考えられた。

本研究の限界は、研究者を含め宮古島を地元としない者が面接を実施している。面接者の技術だけでなく宮古島の文化に精通していなことで、研究参加者の複雑で多様な地域文化ケアの実践内容に気づかず、捉えられなかった可能性がある。そのため、捉えきれてない実践内容を少なくするために、データを返し回答内容とずれがないかの点検、およびケアの意図とケアの評価の追加修正を依頼しており、信用可能性は保てたと考える。しかし、点検することで回答を誘導している可能性があることは否定できない。

### 2. 本研究の今後の課題

本研究の今後の課題は以下の4点である。

- 1) ケアの受け手や協力者である、高齢者や家族、専門職等からの面接は実施していないことである。ともに、地域文化ケアに取り組む関係を形成していたことから、その関係の形成について明らかにすることで、主体の変化などの地域文化ケアの特徴と段階がより明らかになったと考えられる。ケア提供者と高齢者や家族、専門職等からの面接や参与観察などの方法を用いて、今回の研究の結果である「地域文化ケアの段階」を検証していくことで精錬させていく必要がある。
- 2) ケア提供者の地域文化ケアは、ケア提供者の地域文化行動への参加の有無だけでなく、地域文化における役割の実態やその時の感情にも影響することが推察されるため、ケア提供者の地域文化の詳細についても検討していく必要がある。
- 3) ケア提供者の地域文化ケアの提供の場は、治療の場、療養の場、生活の場から13施設が選択され網羅性は担保された。しかし、ケア提供者の地域文化ケアは、働く職場の地域文化への理解や推進によっても異なると推察されるため、ケア提供の場の組織的な地域文化への理解や協力、推進体制について今後明らかにしていく必要がある。

- 4) 文化的感受性の教育方法については、楽しむという経験学習の必要性が示唆された。宮古島を地元としないケア提供者の地域文化ケアも多数見いだせたため、文化的感受性が地域文化ケアの段階にどのように影響するかという、文化的感受性と地域文化ケアの関係を検討することで、具体的な教育方法を提案できると考える。

## 第6章 結論

### 第1節 結論

本研究の目的は、要介護高齢者の地域文化に寄り添うケア（地域文化ケア）を導き、老年看護の教育に活用するために、ケア提供者の地域文化ケアの実践を手がかりとして、地域文化ケアの実践と文化的感受性を明らかにすることであった。要介護高齢者と地域文化を共有しているケア提供者から、以下の結論を得た。

1. 研究参加者 36 名の地域文化ケアの実践場面は、ひとり 2～11 場面で、合計 243 場面であった。地域文化ケアの実践は、ケアの場、専門性の違い、経験年数、地元出身の有無に関わらず、ケア提供者全員が複数事例に複数回の実践をしていた。
2. 地域文化ケアの方法は、【当事者の行事への参加支援】、【家族・地域のつながりの継続支援】、【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】、【当事者の祈りを尊重する支援】、【地域文化でつくるケア関係】、【地域文化を共感するケア】、【習い続ける地域文化】、【地域文化の周知と啓蒙】、【みんなで育み続ける地域文化ケア】、【家族のようにつながり続けるケア】、【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】、【みんなで創り広める地域文化ケア】の 12 が導かれた。
3. 地域文化ケアの意図は、【家族・関係者との交流・つながりの支持】、【個人の生きてきた価値の支持】、【地域に息づく価値の支持】、【地域文化のケアへの取り込み】、【地域文化の楽しみの想起】、【地域文化の習熟と継承】、【高齢者の地域文化への貢献】、【地域文化ケアの育成】、【我が事のような相互依存】、【地域文化によるケアの創造】の 10 が導かれた。
4. 地域文化ケアの評価は、【高齢者・家族の良い反応に満足】、【高齢者から地域文化を学び満足】、【自らの地域文化ケアに満足】、【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】、【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】、【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】、【ケアの手間と地域の価値の了解】、【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】、【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】、【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】の 10 が導かれた。
5. ケア提供者の主体の観点からとらえた地域文化ケアの段階には、第 1 段階の [求めに応じる地域文化ケア]、第 2 段階の [活かされる地域文化ケア]、第 3 段階の [活かし継承される地域文化ケア]、第 4 段階の [創造される地域文化ケア] があり、Leininger の文化を考慮したケアと照らし合わせると、第 4 段階の [創造される地域文化ケア] が新たに見いだされた。
6. ケア提供者の文化的感受性の要素は、「理解」、「満足」、「配慮」、「認知」、「支持」、「融合」、「楽しみ」、「実感」、「共感」、「信頼」、「自負」、「希求」、「創造」の 13 があり、Foronda の概念分析による文化的感受性の要素と照らして「楽しみ」、「実感」、「共感」、「信頼」、「自負」、

「希求」、「創造」の7つの要素が新たに見いだされた。

7. 感情領域に位置づけられた文化的感受性は、地域文化行動の体験を通して「楽しみ」という肯定的な基本的情動の体験があるか否かに影響すると考えられたことから、文化的能力が、知識から行動の段階に移行していくプロセスの教育とすれば、老年看護教育の文化的感受性はKolbの提唱する地域文化を「体験して楽しむ」という経験学習が適切である事が示唆された。
8. 本研究の限界は、研究者を含め宮古島を地元としない者が面接を実施おり、研究参加者の複雑で多様な地域文化ケアの実践内容に気づかず、引き出せなかった可能性が考えられた。

## 引用文献

- 安部由紀, 西村正子, 前田迪郎. (2010). 中国人看護師が感じた日中看護の相違点--中国の看護理解と異文化看護. 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 6, 91-100.
- 坂東瑠美, 大湾明美, 呉地祥友里, 糸数仁美, 山口初代. (2007). 宮古島トライアスロンを活かした介護老人福祉施設の地域ケア. 日本ルーラルナーシング学会第2回学術集会, 40-41.
- Benedict, R. (1946/1967). 長谷川松治訳, 菊と刀: 日本文化の型, 社会思想社, 1-33.
- Benner, P. E., 井部俊子, 井村真澄, 上泉和子, 新妻浩三. (2001/2005). 井部俊子監訳, ベナ一看護論: 初心者から達人へ (新訳版 ed.), 医学書院, 1-30.
- Blanchet Garneau, A., & Pepin, J. (2015). A constructivist theoretical proposition of cultural competence development in nursing. *Nurse Educ Today*, 35(11), 1062-1068.
- Boas, F. (1889). On Alternating Sounds. *American Anthropologist*, 2(1), 47-54.
- 文化看護学会. (2007). 文化看護学会設立趣意書. [scns.kenkyuukai.jp/special/?id=5082](http://scns.kenkyuukai.jp/special/?id=5082)
- Burchum, J. L. (2002). Cultural competence: an evolutionary perspective. *Nurs Forum*, 37(4), 5-15.
- Burnard, P. (2005). Cultural sensitivity in community nursing. *Journal of Community Nursing*, 19(10), 4-8.
- Campinha-Bacote, J. (2002). The Process of Cultural Competence in the Delivery of Healthcare Services: a model of care. *J Transcult Nurs*, 13(3), 181-184; discussion 200-181.
- 千葉大学大学院看護学研究科. (2008). 日本文化型看護学への序章: 実践知に基づく看護学の確立と展開: 千葉大学大学院看護学研究科, 1-225.
- 知念久美子, 野村幸子, 盛島幸子. (2011). 沖縄における地域文化的看護体験. *文化看護学会誌*, 3(1), 30-37.
- 張曉春, 田代麻里江. (2014). 日本人看護学生の異文化感受性発達に関する調査(第1報) 尺度の内的整合性についての検討. *日本看護科学学会学術集会講演集*, 34回, 583.
- Cole, M. (1996/2002). 天野清 (訳), 文化心理学: 発達・認知・活動への文化-歴史的アプローチ: 新曜社, 9-51.
- de Almeida, R. T., & Ciosak, S. I. (2013). Communication between the elderly person and the family health team: is there integrality? *Rev Lat Am Enfermagem*, 21(4), 884-890.
- de Vera, N. (2003). Perspectives on healing foot ulcers by Yaquis with diabetes. *J Transcult Nurs*, 14(1), 39-47.
- Dewald, R. J. (2010). Teaching strategies and practices that promote a culturally sensitive nursing education: A Delphi study. (Ph.D.), Capella University.
- Drake, K. B. (2004). The role of short study abroad in the development of cultural sensitivity and the ability to provide culturally competent care in senior baccalaureate nursing students. (Ph.D.), University of Minnesota.
- 江村裕文. (2003). 文化の定義のための覚書--文化その1: 異文化 論文編(4), 112-123.
- Foronda, C. L. (2008). A concept analysis of cultural sensitivity. *Journal of Transcultural*



- Nursing, 19(3), 207-212.
- 藤田結香里, 稲垣美智, 多崎恵子. (2012). 通院中断した2型糖尿病患者の通院再開に至るまでの体験. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 16(特別号), 118.
- 深澤圭子. (2005). 健康行動に関わる家庭内文化の伝承-祖母・母・娘三世代への聞き取りから. 札幌医科大学保健医療学部紀要(8), 93-97.
- 福田正治. (2010). 共感 心と心をつなぐ感情コミュニケーション, へるす出版, 13-64.
- グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江. (2007). よくわかる質的研究の進め方・まとめ方: 看護研究のエキスパートをめざして: 医歯薬出版, 1-105.
- Hern, M. J., Vaughn, G., Mason, D., & Weitkamp, T. (2005). Creating an international nursing practice and education workplace. *Journal of Pediatric Nursing*, 20(1), 34-44.
- 外間守善. (1986). 沖縄の歴史と文化 (Vol. 799), 中央公論社, 16-17.
- 比嘉政夫. (2003). 沖縄の祭と行事, 沖縄文化社, 85-90.
- Holloway, I, Wheeler, S. (2002/2006). 野口美和子監訳, ナースのための質的研究入門: 研究方法から論文作成まで (第2版 ed.): 医学書院, 247-261.
- 本田光, 前川美奈代, 砂川貴美, 根間京子, 盛島幸子, 宇座美代子. (2007). 沖縄県離島における県外出身保健師の地域把握方法: 実践の入り口としての生活習慣の年表作成(地域看護活動報告). 日本地域看護学会誌, 10(1), 100-105.
- Hughes, K. H., & Hood, L. J. (2007). Teaching methods and an outcome tool for measuring cultural sensitivity in undergraduate nursing students. *Journal of Transcultural Nursing*, 18(1), 57-62.
- 稲嶺里香, 垣花シゲ, 平安名由美子, 眞榮城千夏子. (2014). 日本人看護学生の異文化感受性に関する研究. 日本看護科学学会学術集会講演集, 34回, 580.
- 石垣和子. (2013). 【ケアリング・パラダイムへの回帰】 トランス文化の視座から見たケア/ケアリングの普遍性. 保健の科学, 55(12), 796-802.
- 石井敬子. (2010). 第2章 文化と認知 文化心理学的アプローチ, 石黒広昭・亀田達也(編集), 文化と実践: 心の本質的社会性を問う: 新曜社, 15-160.
- 石井敏, 岡部朗一, 久米昭元, 古田暁. (1996). 異文化コミュニケーション: 新・国際人への条件 (改訂版 ed. Vol. [770]): 有斐閣.
- J. Bennett, M. (1986). A developmental approach to training for intercultural sensitivity. *International Journal of Intercultural Relations*, 10(2), 179-196.
- Jeffreys, M. R., & Dogan, E. (2013). Evaluating cultural competence in the clinical practicum. *Nurs Educ Perspect*, 34(2), 88-94.
- Jirwe, M., Gerrish, K., Keeney, S., & Emami, A. (2009). Identifying the core components of cultural competence: findings from a Delphi study. *J Clin Nurs*, 18(18), 2622-2634.
- 片田裕子, 中村奈緒子, 八塚美樹, 片田正一, 益子邦弘. (2008). フライトナースの現状から考える看護師の役割-KJ法を用いて, 日本航空医療学会雑誌, 9(3), 54-62.
- 片山由加里. (2006). 看護師の感情と認識が感情労働に及ぼす影響, 日本看護福祉学会, 11(2), 163-173.

- 河田聡子, 上田禮子. (2002). 異文化看護に必要な知識 : 小児保健看護に焦点をあてて. 沖縄県立看護大学紀要, 3, 128-134.
- 河井伸子, 菅谷綾子, 森野愛, 今泉香里, 柳井田恭子, 坂井さゆり, 谷本真理子, 正木治恵. (2007). 外国文献の中で言及されたヘルスケアにおける日本の文化的特徴. 千葉看護学会会誌, 13(1), 119-127.
- 川口孝泰. (2003). 【ケア技術のエビデンス】 看護における環境調整技術のエビデンス. 臨床看護, 29(13), 1880-1886.
- 北川紀男. (1999). 文化社会学研究 : 現代文化の理解にむけて. 八千代出版, 1-50.
- 北山忍. (1998). 自己と感情 : 文化心理学による問いかけ (Vol. 9). 共立出版, 1-74.
- Kolb, D. A. (1983). Problem Management Learning From Experience: in Srivasta & Associates, The Executive Mind, Jossey-Bass.
- kolb, D. A. (1984). Experiential learning: experience as the source of learning and development: Prentice-Hall.
- Kong, E. -H. (2006). The lived experiences of Korean immigrant caregivers after nursing home placement of their non -English -language speaking (NELS) elderly relatives with dementia. University of Pennsylvania, Ph. D, 178.
- 厚生労働省. (2007). 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書, <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
- 呉地祥友里, 大湾明美, 佐久川政吉, 下地敏洋, 田場由紀. (2010). 施設ケア提供者の伝統行事への認識と高齢者ケアの実際 沖縄県宮古島の一介護老人福祉施設の事例. 沖縄県立看護大学紀要, 11, 51-57.
- 呉地祥友里, 大湾明美, 田場由紀, 大川嶺子, 山口初代, 佐久川政吉. (2015). 高齢者ケアにおける文化看護. 沖縄県立看護大学紀要(16), 1-16.
- 桑山敬己. (2005). 第4部 文化はどのように人びとを作るか—その諸領域(文化—人類学のキーコンセプト), 山下晋司編, 文化人類学入門 : 古典と現代をつなぐ20のモデル. 弘文堂, 208-219.
- Leininger, M. M. (1991/1995). 稲岡文昭 (監訳). レイニンガー看護論 : 文化ケアの多様性と普遍性. 医学書院, 1-74.
- 丸谷美紀. (2005). 地域の文化に根ざした保健師活動の展開方法. 日本地域看護学会誌, 8(1), 73-80.
- 正木治恵. (2006). 【高齢者看護の現状と展望 21世紀は看護の時代】 高齢者看護領域における臨床研究の現状と展望. Geriatric Medicine, 44(8), 1069-1072.
- 正木治恵, 真田弘美. (2011). 老年看護学概論 : 「老いを生きる」を支えることとは: 南江堂.
- 松林公蔵. (2007). 後期高齢者の地域健康管理の課題2 国際的観点から—特にアジアの点描 (特集 人口動態からみた老化・老年病). ジェロントロジー, 19(1), 31-35.
- 松村明, 三省堂編集所. (2006). 大辞林 (第3版 ed.): 三省堂.
- 松岡千代. (2010). 【EBPを根づかせていくための概念モデルと方略 <概念・研究編>EBPの概念とその実行に向けた方略】 EBP実行を促進するためのTRIP介入モデル 組織的介入モデル

- ルとしての概要とその効果. 看護研究, 43(3), 193-202.
- 松岡純子. (2016). 精神科訪問看護における文化的感受性を備えたりカバリー志向の看護援助モデルの構築. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36 回, 285.
- 松岡純子. (2017). 精神科訪問看護における文化的感受性を備えたりカバリー志向の看護援助モデルの二ヵ月間の活用を通じた精錬. 日本看護科学学会学術集会講演集, 37 回, [PB-10-16].
- 松尾睦. (2011). 職場が生きる人が育つ「経験学習」入門: ダイヤモンド社, 89-119.
- McNeese-Smith, D. K. (2001). A nursing shortage: building organizational commitment among nurses. *J Healthc Manag*, 46(3), 173-186; discussion 186-177.
- Meydanlioglu, A., Arikan, F., & Gozum, S. (2015). Cultural sensitivity levels of university students receiving education in health disciplines. *Advances in Health Sciences Education*, 20(5), 1195-1204.
- Miller, G. E. (1990). The assessment of clinical skills/competence/performance. *Acad Med*, 65(9 Suppl), S63-67.
- 盛島幸子, 大湾明美, 野口美和子. (2017). 島嶼における保健看護活動の評価のあり方-宮古保健所内における母子保健活動の過程を通して-沖縄県立看護大学紀要, 18, 67-73.
- Morgante, L., Hartley, G., Lowden, D., Namey, M., LaRocca, T., & Shilling, J. (2006). Decision making in multiple sclerosis: theory to practice. *International Journal of MS Care*, 8(4), 113-120.
- 内閣府男女共同参画局 仕事と生活の調和推進室. (2007). 「仕事と生活の調和」推進サイトホーム, [www.cao.go.jp/wlb/towa/index.html](http://www.cao.go.jp/wlb/towa/index.html)
- 中越利佳, 森久美子, 田中祐子, 野村亜由美, 城宝環. (2014). わが国の看護基礎教育における国際看護教育の現状と課題. 愛媛県立医療技術大学紀要, 11(1), 9-13.
- 永島すえみ. (2013). わが国の看護における「ケアリング」論の導入と研究の動向. 佛教大学教育学部学会紀要, 12, 99-111.
- 公益社団法人 日本看護協会. 看護職のワーク・ライフ・バランスとは, <https://www.nurse.or.jp/wlb/about/summary/index.php>
- 一般社団法人 日本看護系大学協議会. (2014). 平成 25 年度 文部科学省 大学における医療人養成推進等委託事業 看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究報告書, 7.
- 野口美和子. (1997). 老年看護学研究のススメ. 老年看護学, 2(1), 4-5.
- 野口美和子. (2007). ルーラルナーシングと日本文化, 千葉大学 21 世紀 COE プログラム第 4 回国際シンポジウム特別講演, 退職記念誌 沖縄県立の看護大学への軌跡—沖縄県立看護大学設置の趣旨に沿った取組から—, 77-83.
- 野口美和子, 大湾明美. (2011). 沖縄から漕ぎ出す「島しょ保健看護学」の船出(新連載・1)「島しょ保健看護学」の確立の必要性. 看護教育, 52(11), 942-947.
- 農林水産省. (2006). 美の里づくりガイドライン, [http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/binosato\\_gaidorain/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/binosato_gaidorain/)

- 大湾明美, 坂東瑠美, 佐久川政吉, 田場由紀, 伊牟田ゆかり, 呉地祥友里. (2011). 小離島における在宅終末期ケアのしくみづくり—A島とB島の特徴から—. 第76回日本民族衛生学会総会, 244-245.
- 大湾明美, 佐久川政吉, 田場由紀, 山口初代, 呉地祥友里, 伊牟田ゆかり. (2012). 沖縄県小離島の在宅終末期ケアにおける島出身のケア提供者と要介護高齢者の‘強み’. 日本ルーラルナーシング学会第7回学術集会, 36.
- 小野聡子, 山本八千代. (2011). 看護者の異文化間能力に関する文献検討. 川崎医療福祉学会誌, 20(2), 507-512.
- 太田好信. (1994). 第1章 文化—文化の日、文化鍋、軽チャ〜・・・etc. でも、人類学者にとり、文化とはナニ?, 浜本満, 浜本まりこ共著, 人類学のコモンセンス : 文化人類学入門: 学術図書出版社, 1-20.
- Parker, P. L. (2001). Human Caring Theory and the English Curriculum. [ヒューマン・ケアリング理論と英語教育課程]. 日本赤十字広島看護大学紀要, 1, 33-38.
- Pam Smith. (1992/2000). 武井 麻子, 前田 泰樹 (監訳), 感情労働としての看護, ゆみる出版, 1-31.
- Peacock, J. (1986/1988). 今福龍太訳, 人類学と人類学者, 岩波書店.
- Purnell, L. (2005). The Purnell Model for Cultural Competence. THE JOURNAL OF MULTICULTURAL NURSING & HEALTH, 11(2), 7-15.
- Rew, L., Becker, H., Cookston, J., Khosropour, S., & Martinez, S. (2003). Measuring cultural awareness in nursing students. Journal of Nursing Education, 42(6), 249-257.
- 坂井さゆり, 田所良之, 清水安子, 正木治恵. (2008). 療養病棟における高齢者と看護師の入浴援助場面の構造—ケアリング実践に影響する療養病棟文化・環境の考察. 千葉看護学会会誌, 14(1), 62-70.
- Sanner, S., Baldwin, D., Cannella, K. A. S., Charles, J., & Parker, L. (2010). The impact of cultural diversity forum on students' openness to diversity. Journal of Cultural Diversity, 17(2), 56-61.
- 佐藤美樹, 田高悦子, 臺有桂, 今松友紀, 田口理恵, 河原智江, 糸井和佳, 根本明宜, 水嶋春朔, 森口エミリオ秀幸. (2012). ブラジル日系永住者の地域における健康づくりの担い手が有する資質と役割の記述的研究. 横浜看護学雑誌 = Yokohama journal of nursing, 5(1), 55-62.
- 佐藤紀子, 井出成美, 宮崎美砂子. (2005). 地域健康支援における文化に関する文献検討. 千葉看護学会会誌, 11(1), 79-86.
- 佐藤聖一. (2010). 看護におけるケアリングとは何か. 新潟青陵学会誌, 3(1), 11-20.
- 瀬戸奈津子, 山本育子, 岡崎優子, 岡田ゆかり, 河井伸子, 坂井さゆり, 森小津恵, 清水安子, 正木治恵. (2006). 看護ケアを捉える文化的枠組みの構築 : 海外文献による文化的視点の明確化. 千葉看護学会会誌, 12(1), 65-70.
- Shen, Z. (2015). Cultural competence models and cultural competence assessment instruments in nursing: a literature review. J Transcult Nurs, 26(3), 308-321.

- 下地敏洋 (2007). 高齢者の地域文化行動が幸福感に及ぼす影響に関する研究 : 宮古出身者の地域文化行動を通して, 沖縄県立看護大学博士論文.
- Skelly, A. H., Samuel-Hodge, C., Elasy, T., Ammerman, A. S., Headen, S. W., & Keyserling, T. C. (2000). Development and testing of culturally sensitive instruments for African American women with type 2 diabetes. *Diabetes Educ*, 26(5), 769-774, 776-767.
- Smith, L. S. (1998). Concept analysis: cultural competence. *J Cult Divers*, 5(1), 4-10.
- 総務省行政管理局 (e-Gov) . (2012). 社会保障制度改革推進法.
- 総務省行政管理局 (e-Gov) . (2014). 地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律.
- Souza, N. M., Honorato, S. M., Xavier, A. T., Pereira, F. G., & de Ataide, M. B. (2012). [World-view, cultural care and environmental concept, the daily care of the elderly with diabetes mellitus]. *Rev Gaucha Enferm*, 33(1), 139-146.
- Starosta, G.-M. C. W. J. (2000). The Development and Validation of the Intercultural Sensitivity Scale. *Human Communication*, 3, 1-15.
- Suh, E. E. (2004). The model of cultural competence through an evolutionary concept analysis. *J Transcult Nurs*, 15(2), 93-102.
- 鈴木ゆみ, 齋藤誠一. (2016). 異文化間感受性尺度日本語版作成の試み. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 9(2), 39-44.
- 武井麻子. (2001). 感情と看護 人とかかわりを職業とすることの意味 (シリーズ ケアをひらく), 医学書院, 40-42.
- 武井麻子. (2006). ひと相手の仕事はなぜ疲れるのか 感情労働の時代, 大和書房, 18-48.
- 田中智志. (2017). 何が教育思想と呼ばれるのか: 共存在と超越性: 第四章感情と感受性の違い, 一藝社, 64-76.
- TASHIRO, M., & Zhong, X. (2016). Japanese nursing students' Intercultural Sensitivity and related factors. *Journal of International Health*, 31(3), 248-248.
- 寺西和子. (1990). 「体験活動とそのカリキュラム化—〈知〉のとらえなおしと〈意味〉の社会化」〔日本教育方法学会第 29 回研究大会課題研究発表資料〕.
- 戸田登美子, 丸光恵. (2018). 海外研修前後における異文化間感受性の変化. 甲南女子大学研究紀要(看護学・リハビリテーション学編)(12), 37-44.
- Tylor, E. B. (1871). *Primitive Culture*: Cambridge University Press.
- Ulrey, K. L., & Amason, P. (2001). Intercultural communication between patients and health care providers: an exploration of intercultural communication effectiveness, cultural sensitivity, stress, and anxiety. *Health Commun*, 13(4), 449-463.
- 宇野澤輝美枝. (2013). 重度身体障害をもちながら生きてきた人のライフストーリー. 文化看護学会誌, 5(1), 1-11.
- Warren, D. P., Henson, H. A., Turner, S. D., & O'Neill, P. N. (2004). Diversity, cultural sensitivity, unequal treatment, and sexual harassment in a school of dental hygiene. *J Dent Hyg*, 78(4), 9.

- WHO. (2002/2007). 日本生活協同組合連合会医療部会 (訳), 「アクティブ・エイジング」の提唱 : 政策的枠組みと高齢者にやさしい都市ガイド: 萌文社.
- 山本志都. (2014). 文化的差異の経験の認知 : 異文化感受性発達モデルに基づく日本的観点からの記述. 多文化関係学, 11, 67-86.
- Yang, H. M., Mary Benson. (2003). Understanding the Relationships among American Primary-Grade Teachers and Korean Mothers: The Role of Communication and Cultural Sensitivity in the Linguistically Diverse Classroom. *Early childhood Research and Practice*, 5(1), 1-15.

## 謝辞

本論文の作成には、多くの皆様のご支援とご指導を賜りました。調査にご協力して戴きました宮古島の研究参加者の皆様、並びに調整をして戴きました皆様には心より感謝申し上げます。

本研究をまとめるにあたり、野口美和子名誉教授、嘉手苺英子教授、永島すえみ特任教授には副査としてご助言を戴くとともに本論文の細部にわたりご指導を戴き感謝申し上げます。

また、田場由紀准教授、山口初代助教、砂川ゆかり助教には日頃より多くのご助言、ご協力を戴きました。深く感謝し御礼申し上げます。

そして貴重なご意見、ご協力を戴きました、大川嶺子准教授、赤星成子前准教授、名桜大学佐久川政吉教授、下地幸子准教授、浦添訪問看護ステーション伊祖眞由美子氏、本研究に取り組む動機を下さいました琉球大学下地敏洋教授、並びに老年保健看護研究会の皆様に感謝申し上げます。

最後に、研究指導教員大湾明美教授にはとても長い期間、本当に辛抱強くご指導を賜りました。自他を信じるのが、研究を進めることのみならず、生きることすべてに通じることを学びました。ここに深謝し御礼申し上げます。





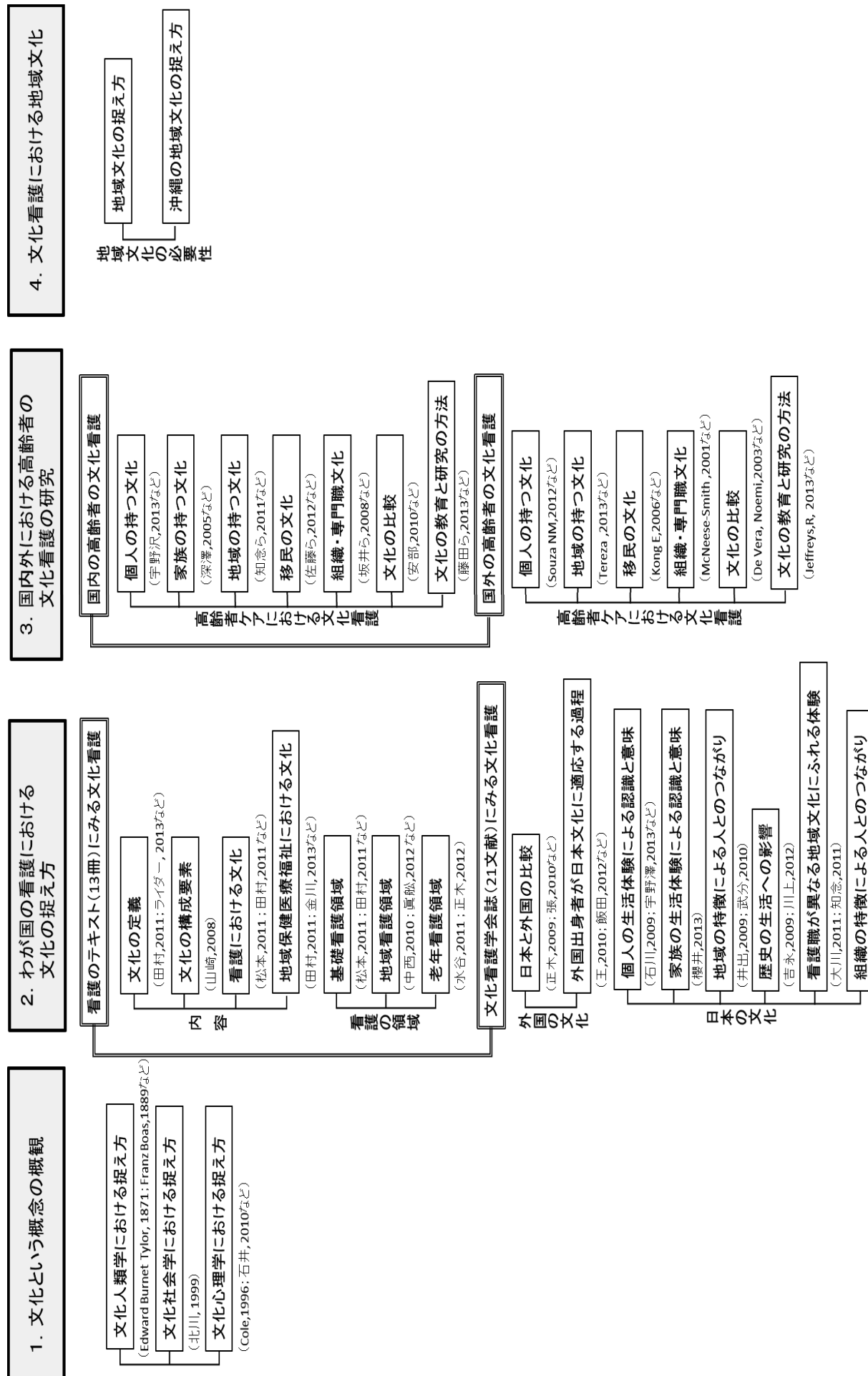


図1 高齢者ケアにおける地域文化ケアの必要性の文献検討

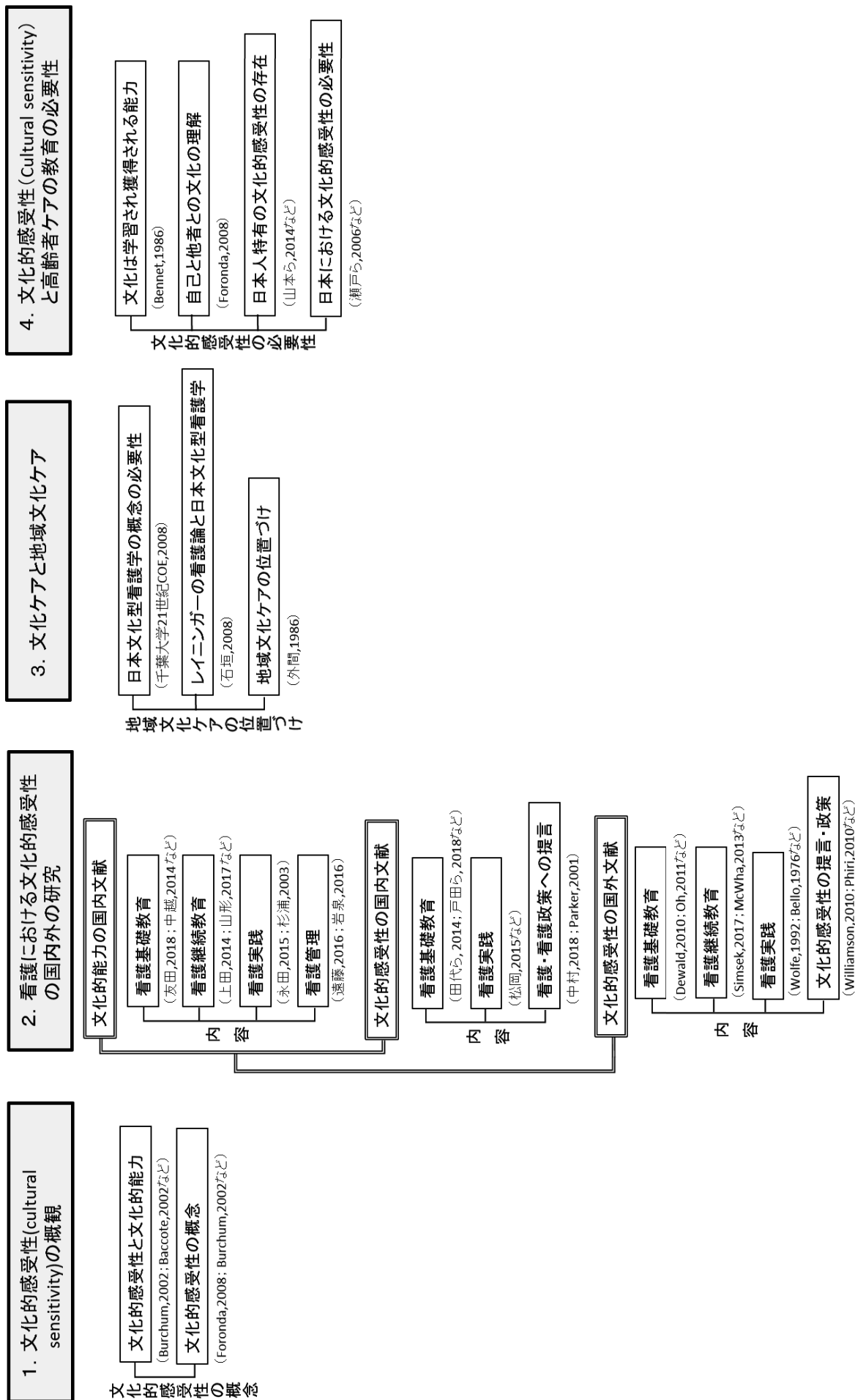


図2 地域文化ケアにおける文化的感受性の必要性の文献検討

	Burchum(2002) cultural competence	Zuwang Shen (2015) cultural competence	SUH (2004) cultural competence	Baccote (2002) cultural competence	Purnell (2005) cultural competence	<b>Foronda (2008)</b> <b>cultural sensitivity</b>
antecedents 前提			Sensitivity 感受性 Awareness 意識 Knowledge 知識 Skill 技能			Awareness 意識 diversity 多様性 Encounter 出会い
Attributes 属性	Sensitivity 感受性 Awareness 意識 Knowledge 知識 Understanding 理解 Skill 技能 Interaction/Encounter 相互作用/出会い	Sensitivity 感受性 Awareness 意識 Knowledge 知識 Understanding 理解 Skill 技能 Interaction/Encounter 相互作用/出会い	Openness 開放性 Flexibility 柔軟性 Ability 実力			Knowledge 知識 Understanding 理解 Consideration 考慮 Tailoring テーラリング Respect 尊重
constructs 構成				Desire 欲求 Awareness 意識 Knowledge 知識 Skill 技能 Interaction/Encounter 相互作用/出会い		
characteristics 特性					Awareness 意識 Knowledge 知識 Understanding 理解 Skill 技能 Interaction/Encounter 相互作用/出会い Respect 尊重 diversity 多様性 Tailoring テーラリング	
Consequences 結果			Holistic nursing care ホリスティックなケア Quality of Life 生活の質 Health care satisfaction ヘルスケアの満足度 Adherence to treatment 治療への遵守 personal/professional treatment growth 個人的・専門的なケアの成長 Cognitive development 認知発達 Quality of nursing performance 看護業績の質 Treatment effectiveness 治療効果 Cost effectiveness 費用対効果			Effective communication 効果的なコミュニケーション Effective intervention 効果的な介入 Satisfaction 満足感
	文化的感受性は、文化的能力の6つの属性の一部として位置づけられていた。また、感情領域、認知領域、スキル/実践/行動領域/の内の感情領域としていた。特に4つの属性が重要な要素(下線)	文化的感受性は、文化的能力の6つの属性の一部として位置づけられていた。また、感情領域、認知領域、スキル/実践/行動領域/の内の感情領域としていた。特に4つの属性が重要な要素(下線)	文化的感受性は、文化的能力の前提に位置づけられている。4つの領域(認知的、感情的、行動的、環境的側面)の感情領域に位置づけられている。	文化的感受性は、文化的能力の構成要素には位置づけられていない。文化的欲求は、医療従事者が文化的に敏感なケアを提供しようとする実際の動機や希望とされる。	文化的感受性は、文化的能力の特徴にはない。他の文化的能力の5つの属性は含まれている。(他の著者の文化的感受性の定義は文化的能力の定義と同じと述べている。)	文化的感受性の定義: 「自身その他の認識を識別して、多様なグループまたは個人に出会った後に、その人の知識、考慮、理解、尊敬とテーラリングを採用する。文化的感受性は、効果的なコミュニケーション、効果的介入と満足感に終わる。」

図3 文化的感受性と文化的能力

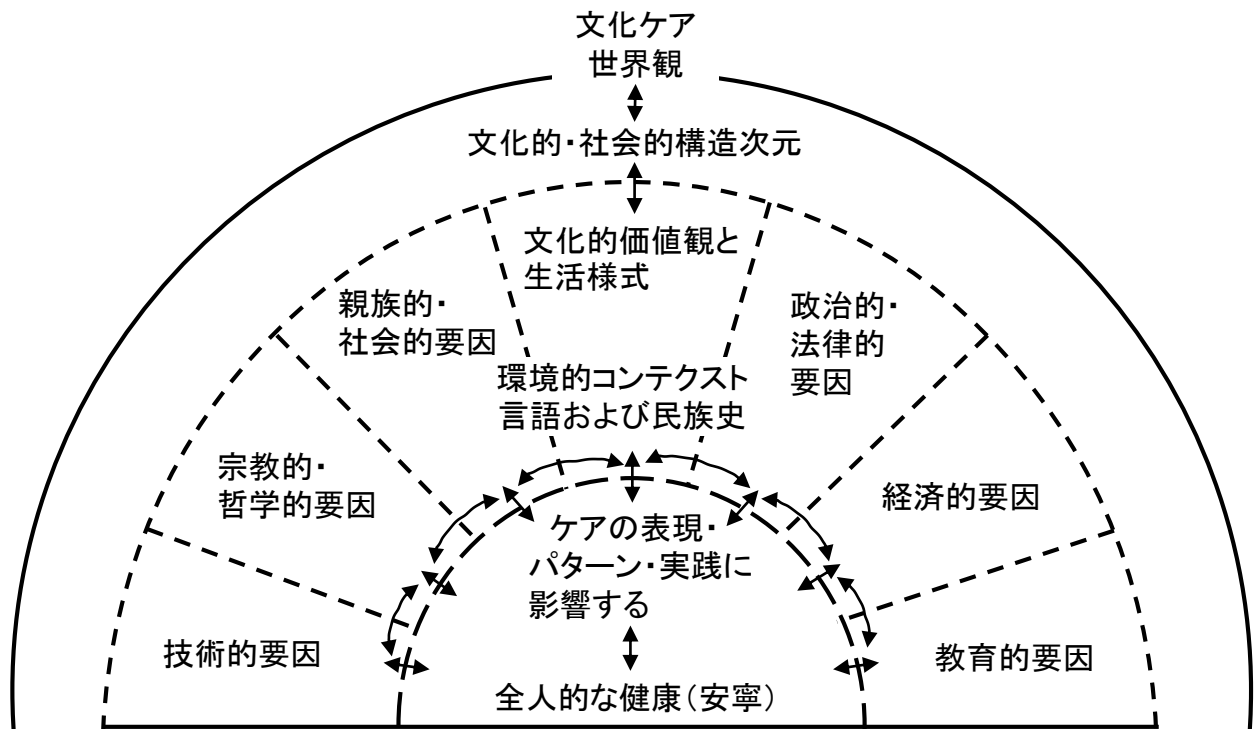
【cultural competence】  
文化的能力



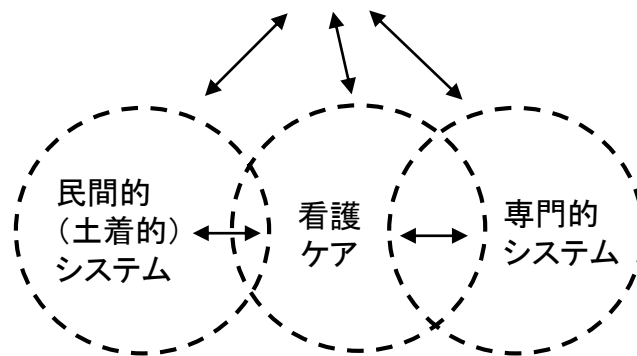
【cultural sensitivity】  
文化的感受性



図4 文化的感受性と文化的能力の関係



多様な医療システムにおける  
個人、家族、集団、組織



看護ケアの意思決定と行為

文化ケアの保持もしくは維持  
文化ケアの調整もしくは取り引き  
文化ケアの再パターン化もしくは再構成

文化を考慮した看護ケア

コード ↔ 影響

M. M. Leininger. (1991/1995). 稲岡文昭(監訳). レイニンガー看護論文化ケアの多様性と普遍性(第1版), 1-74, 医学書院, 東京.

図5 Leiningerのサンライズモデル

# 地域文化ケア

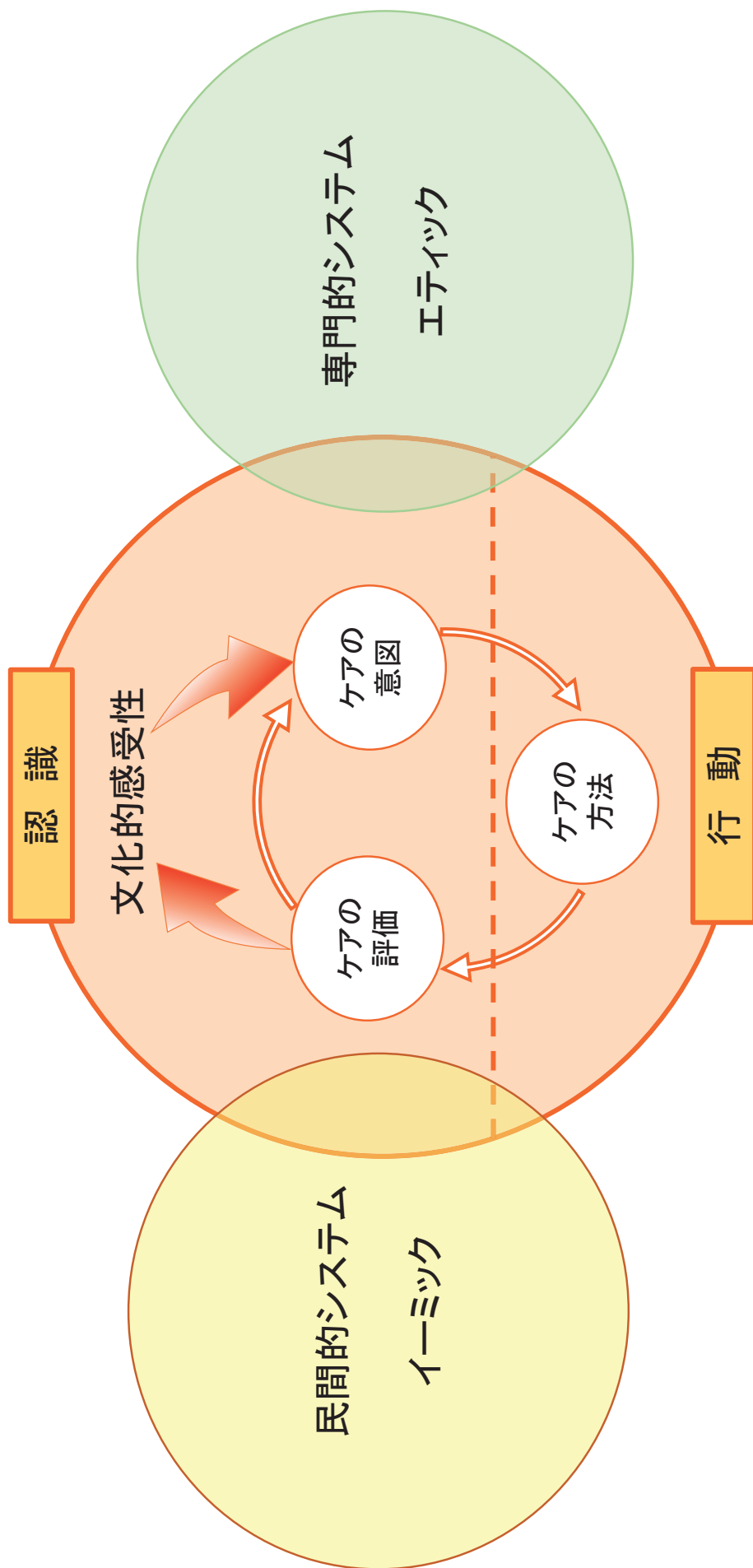


図6 本研究の概念枠組み

ケアの評価

ケアの意図

ケアの方法

<p>創造される地域文化ケア</p> <p>【みんなで創り広める地域文化ケア】</p>	<p>地域文化によるケアの創造</p> <p>【地域文化によるケアの創造】</p>	<p>地域文化ケアが協働で発展する実感と自負</p> <p>【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】 【地域文化ケアで協働する喜びと感謝】</p>
<p>活かし継承される地域文化ケア</p> <p>【地域文化の周知と啓蒙】 【習い続ける地域文化】 【みんなが育み続ける地域文化ケア】 【家族のようにつながり続けるケア】 【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】</p>	<p>地域文化への共感と一体感の希求</p> <p>【地域文化ケアの育成】 【地域文化の習熟と継承】 【我が事のような相互依存】 【高齢者の地域文化への貢献】</p>	<p>地域文化ケアとの折り返いの理解と配慮</p> <p>【地域文化のニーズに添えない罪悪感と 高齢者の心情への配慮】 【ケアの手間と地域の価値の了解】 【治療と地域の風習・価値の折り返いの大切さの理解】</p>
<p>活かされる地域文化ケア</p> <p>【地域文化でつくるケア関係】 【地域文化を共感するケア】</p>	<p>地域文化の楽しみとケアの融合</p> <p>【地域文化のケアへの取り込み】 【地域文化の楽しみの想起】</p>	<p>地域文化ケアへの信頼と認知</p> <p>【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】 【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】</p>
<p>求めに応じる地域文化ケア</p> <p>【当事者の行事への参加支援】 【地域で生き、住み逃げたい思いの支援】 【家族・地域のつながり継続支援】 【当事者の折り返しを尊重する支援】</p>	<p>地域文化に息づく価値の支持</p> <p>【個人の生きてきた価値の支持】 【地域に息づく価値の支持】 【家族・関係者との交流・つながりの支持】</p>	<p>地域文化ケアに満足</p> <p>【高齢者・家族の良い反応に満足】 【高齢者から地域文化を学び満足】 【自らの地域文化ケアに満足】</p>

図7 地域文化ケアの方法・意図・評価

# Forondaの文化的感受性の要素

# 地域文化ケアの意図と評価からみた 文化的感受性の要素

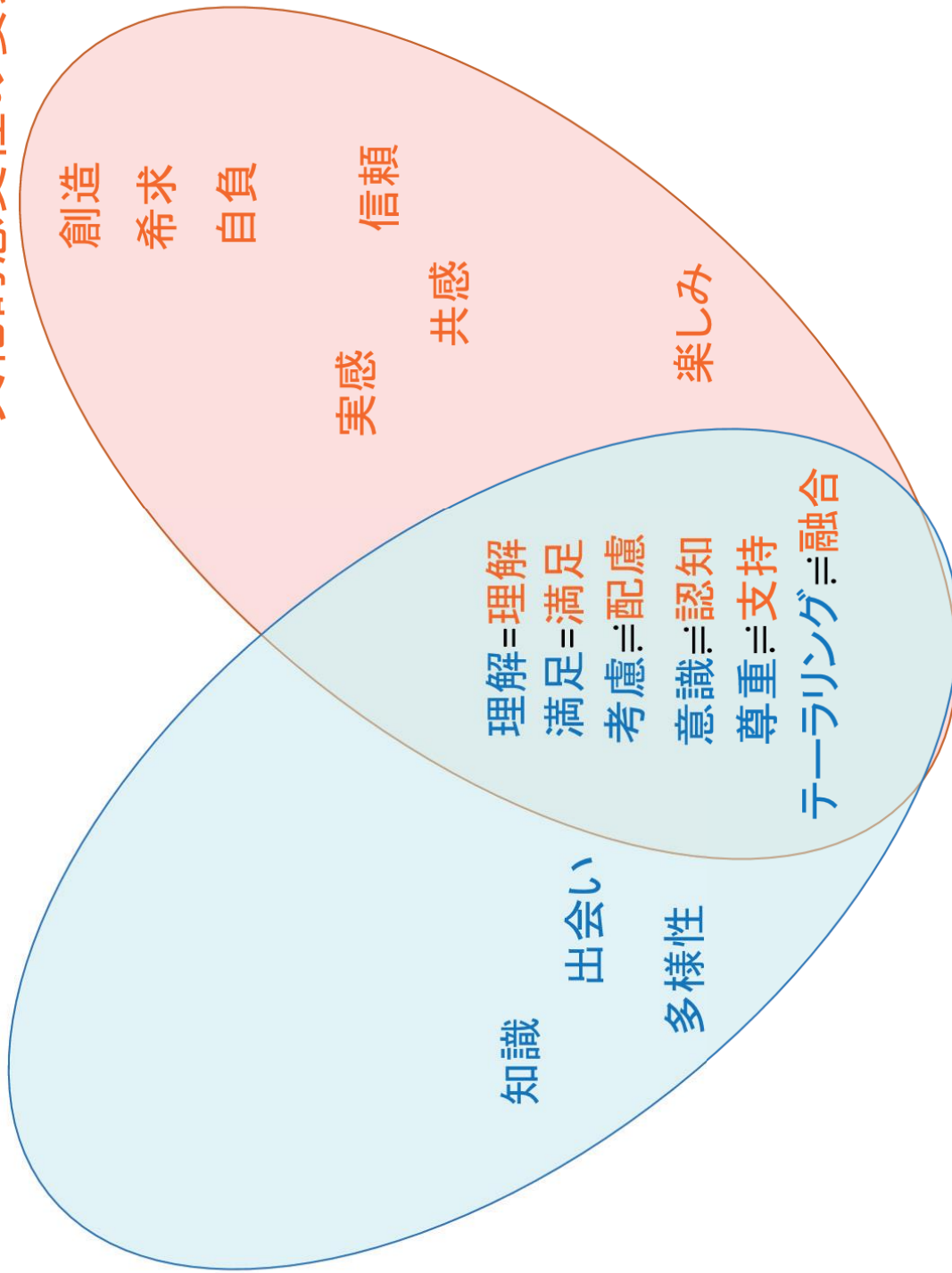


図8 地域文化ケアにおける文化的感受性の要素



表

表1 文化人類学における文化の定義と特徴

提唱者 (提唱年)	文化の定義	特徴
エドワード・ タイラー (1871)	文化、または、文明とは、広い民族誌的観点からいえば、知識、信仰、道徳、法、習俗、その他人間が社会の一員として獲得したすべての能力と修正を含むひとつの複雑な全体のこと	①文化は社会の構成員によって後天的に獲得される ②文化は知識、信仰、道徳などの複雑な総体である ③文化は（ヨーロッパ文明）に等しく、（概念として）単数扱いされる
フランツ・ ボアズ (1889)	/	①（概念として）文化は複数扱いされる ②世界中の文化は平等である ③文化は経験を秩序立てる
ルース・ ベネディクト (1946)	文明国が立脚しているところの諸前提（としての文化） 文化とは世界の諸社会が各々もっているいろいろなレンズのことであるから、そのレンズは各社会毎に異なり、社会の成員が暗黙のうちに自明のこととして認め、そのレンズを通して人々は自らの経験を秩序立てていく	①文化は社会のメンバーによって共有される ②文化は暗黙の了解である ③文化は（概念として）複数扱いをする ④行動を意味づける枠組みである
ジェームス・ ピーコック (1986)	文化とは特定の集団のメンバーによって学習され共有された自明でかつきわめて影響力のある認識の仕方と規則の体系	①文化は社会の構成員によって学習される ②文化は（自明であるがゆえに）暗黙の了解事項である ③（特定集団は数多く存在するので）文化も（概念として）複数扱いされる ④文化は認識の仕方・規則の体系である

出典：太田好信. (1994). 文化. 浜本満, 浜本まりこ共編. 人類学のコンセンサス文化人類学入門, 1-20, より一部抜粋して作成

表2 A. L. KroeberとC. KlukchohnによるCultuteの定義と説明

タイプ	内容	数
Definitions (定義)	A : Enumeratively descriptive	20
	B : Historical	22
	C : Normative	25
	D : Psychological	38
	E : Structural	9
	F : Genetic	40
	G : Incomplete Definitions	7
Statements (説明)	A : The Nature of Culture	22
	B : The Components of Culture	7
	C : Distinctive Properties of Culture	9
	D : Culture and Psychology	22
	E : Culture and Language	17
	F : Relation of Culture to society, Individuals, Environment, and Artifacts	23

出典：江村裕文. (2003). 文化の定義のための覚書－文化その1－, 112-123, の一部を抜粋し作成

表3 文化の特徴と内容

文化の特徴	内容
①文化は学習される	民族間で男らしさ、女らしさなどに関して全く異なる気質が見られることから、これらは、文化によって後天的に作り上げられ、生み出されるものであり、従って文化は、学習された結果である
②文化は共有される	同一文化の成員は、文化を同じくする人間は、似たように考え行動するという意味で同質的である
③文化は理念と実践の双方からなる	文化の規則や規範（理念）は、人々の行動（実践）を制限するが、規則や規範と行動とは必ずしも一致しない
④文化は統合されている	文化は様々な要素から成立するが、それらは、相互に関連して1つの全体を形成している
⑤文化は適応の手段である	生物としての人間が生き延びるためには、自分が置かれた自然環境に適応しなければならない。人間の場合、学習され、世代間で踏襲される文化が、いわば個体と外界のクッションとして作用する
⑥文化は変化する	文化の変化には発明、革新、伝播という3つの契機がある。発明は無から有を生むこと、発明されたものは革新を経て覚知へ伝播する。

出典：桑山敬己. (2005). 人類学のキーコンセプト 文化. 山下晋司編. 文化人類学入門 - 古典と現代をつなぐ20のモデル, 208 - 219を一部抜粋して作成

表4 心理学における研究方法ごとの文化の定義と特徴

研究方法	文化の定義	特徴
文化心理学的 アプローチ	文化とは、歴史的に取捨選択され、累積してきた慣習、概念、イメージ、通念、それらの体系化された構造、さらにそれらに基づいて作られた人工物の総体	①文化とは様々な要素が体系化され構造化されている ②文化とは、体系化された構造に基づき人によって生成される
社会歴史的 アプローチ	文化とは、複数の人々が何らかの人工物を介して協議し合う過程とその所産であるとし、通常それは世代間で改変されながら継承されるもの	①文化とは、複数の人々に共有され、生成される ②文化とは、継続し、継承される ③文化とは、変化する
制度的 アプローチ	文化的な信念や行動傾向は、生態環境への適応戦略である。	①文化とは、生態環境への適応をめざした信念であり、行動パターンである

出典：石黒弘明, 亀田哲也. (2010). 文化実践, 15-160, 心の本質的社会性を問うより一部抜粋して作成

表5 看護のテキスト一覧

	テキスト 番号	著者名	発行年	著書名	出版社
基礎看護 領域	A	松本光子	2011	看護学概論 看護とは・看護学とは[第5版]	ヌーヴェルヒロカワ
	B	田村やよひ	2011	看護学基礎テキスト 第3巻 社会の中の看護	日本看護協会出版会
	C	ライダー島崎玲子・岡崎寿美子・ 小山敦代	2013	看護学概論 第3版 看護追求へのアプローチ	医歯薬出版
地域看護領域 (在宅看護領域、 家族看護領域を含む)	D	中西睦子・井伊久美子・平野かよ 子	2010	TACSシリーズ・10 実践 地域看護学	建帛社
	E	眞船拓子・杉本正子・丸山美知 子・西田厚子	2012	看護師教育のための地域看護概説—公衆衛生看護を含む地域の 看護に取り組むために—	ヌーヴェルヒロカワ
	F	金川克子	2013	最新 保健学講座1 公衆衛生看護学概論	メヂカルフレンド社
	G	宮崎美砂子・北山三津子・春山早 苗・田村須賀子	2013	最新 公衆衛生看護学 第2版 2013年版 各論2	日本看護協会出版会
	H	渡辺裕子	2009	家族看護学を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第2版	日本看護協会出版会
	I	石垣和子・上野まり	2014	看護学テキスト Nice 在宅看護論 自分らしい生活の継続を めざして	南江堂
	J	山崎あけみ・原礼子	2008	看護学NiCE 家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考 える	南江堂
K	鈴木和子・渡辺裕子	2014	家族看護学 理論と実践 第4版	日本看護協会出版会	
老年看護 領域	L	水谷信子・水野敏子・高山成子・ 高崎絹子 編	2011	最新 老年看護学 改訂版	日本看護協会出版会
	M	正木 治恵・真田 弘美	2011	老年看護学概論—看護学テキストNiCE	南江堂

表6 看護のテキストにみる文化の記述内容(その1)

項目	看護領域*	テキスト番号	ID	記述の内容
文化の定義	基礎	B	1	文化には、衣食住などの物質的なものから、社会的関係や意思疎通の手段である言語や表情などがある。それらは、人間が自然環境に適応するために、各地で独自に形成され維持されるものである。文化は、歴史や社会の都合上、形づくられた約束事であり、普遍的なものでも客観的なものでもない“常識”であり、社会基盤が異なれば、異なる数だけ存在する。
		C	2	文化とは、ある集団で学習され、共有され、伝承されてきた価値観、信念、規範および生活習慣のことであり、これらがその集団の考え方や決定・行動にある一定のパターン化された方法となって表現される(マデリンM.レイニンガー,1995)。
	地域	I	3	文化とは人々に共有されている信念や価値体系のことであり、私たちの行動や認識を意識的・無意識的に枠付けるものである。
		J	4	文化とは、人間が学習によって社会から習得した生活の仕方の総称。衣食住を初め技術・学問・芸術・道徳・宗教など物心両面にわたる生活形成の様式と内容を含む(広辞苑,2007)個人や家族が有する固有の信条・価値観の背景となるものである。人間の生活様式、行動様式、思考様式であり、そこで育った人にとって認識されにくいものである。
	老年	M	5	文化は生活様式のあらゆる側面であり、広範囲にわたり、人間の諸活動すべてを包含する。その時代を生きた人に共通する考えであるが、世代間や育った地域によって異なる。
構成要素の文化	地域	J	6	ガイガーとデイヴィッドハイザーは、異文化アセスメントモデルの項目として、コミュニケーション、距離感、社会組織、時間感覚、環境に対する効力感、生物学的差異をあげていた。

\*看護領域 基礎:基礎看護領域 地域:地域看護領域 老年:老年看護領域

表6 看護のテキストにみる文化の記述内容(その2)

項目	看護領域*	テキスト番号	ID	記述の内容
看護における文化	基礎	A	7	異なる文化は異なる方法のケアを知覚し、知り、実践する。しかし、ケアには世界中のあらゆる文化において一部共通するものがある。人間は個々のヒューマンケアをする文化的存在であり、環境は個人や文化的集団がそこにおいて生活する背景としてとらえている。
		B	8	日本人は文化的背景の異なる人々と接する機会が少なかったために、異文化を感性ではなく知識レベルで理解しようとする。看護活動をする上で自分の背景を自覚し、根気強く相互理解に努めることである。
		B	9	文化的背景の違いによって看護の質に格差が生じないために、レイニンガー(Leininger MM)は、「人々の文化的背景を理解することなくして、すべての対象者に公正で公平な看護を提供することはできない」と認識し、「文化を超えた看護」(transcultural nursing)、「民族看護」(ethnonursing)、「比較文化看護」(cross-cultural nursing)を提唱した。
		B	10	アメリカでは、文化の研究が盛んにおこなわれており、看護教育においても基礎教育から大学院や卒後教育まで幅広くカリキュラムに組み込まれ、発展し、保健医療政策の策定にも貢献している。わが国はアメリカとは、国際社会における歴史のおよび文化交流の背景が全く異なるため、日本独自の看護理論を構築することが求められている。
		C	11	文化的ケアとは、文化に基づいて健康(安寧状態)を維持したり、人間の条件もしくは生活様式を高めたり、死や障害に向き合おうとする他者または集団を援助し、支持し、能力を与えるような行為をさす。(マデリンM.レイニンガー,1995)。
		C	12	レイニンガーは、異なる環境や文化的状況におけるヒューマンケア、安寧、健康にかかわる看護の現象に着目し、実際の調査から、ヒューマンケアリングが人間の誕生、成長、病気からの回復、安寧の維持に欠かせないもので、どのような文化にも存在するとし、文化ケアを提唱し、サンライズモデルを考案した。
		D	13	保健師は、人々を地域文化(個人を取り巻く外部の生活環境)に帰属意識をもち、そこで生きる価値観や生活習慣を育み、生活環境と相互に影響を与え合う関係の中での生活者としてアプローチする。
		D	14	地域看護におけるコミュニティの要素とは、①コアとしての人口動態、文化、歴史など、②自然環境、③教育、④安全と輸送、⑤政治と行政、⑥保健と社会サービス、⑦コミュニケーション、⑧経済、⑨レクリエーションであり、文化をコアとして位置づけている。
		D	15	保健師活動において対象となる住民のものの見方、考え方、それに基づく生活のしかたという地域住民の文化を知ることは非常に重要なことである。
		E	16	地域看護活動の特徴は、対象となる地域の自然環境、これまで受け継がれてきた文化や歴史、人口構成の割合、主要な交通網、人々の生活を支える政治や経済、教育、そして医療保健福祉サービスの充実度などから、地域を1人の人間のように、統合された1つの単位(システム)としてアセスメントしていく必要がある。
		F	17	宗教的な信条や地域の喫煙や飲酒に対する許容度の違いが家庭内での行動に影響することから、文化や価値観が健康に及ぼす影響は大きい。
		F	18	日本の文化としての地域ケアに、健康と人権を取り入れるためには、対象のもつ保健ニーズの把握や事例検討だけでは不十分で、他者との対話の中で自分ごととして受け止める。
	G	19	人々の保健行動、地域ケア体制などに影響を及ぼす地域の生活文化は簡単に変えられないが、看護活動を通して健康観や介護観を変化させるには、地域文化を問い直し、発展させることにより、住み遂げたい地域づくりにつながる。	
	I	20	在宅看護は、その個人が有する価値観やライフスタイルを尊重した看護を提供することであるが、それらは、地域社会から影響を受けるため、その文化を尊重した看護を提供すべきである。	
	J	21	文化的背景の違いは、生活のしかた、考え方、行動およびその意味に影響を与え、ガイガー(Giger)とデイヴィッドハイザー(Davidhizar)による異なる文化をもつ人々の間でも意味のある援助が成り立つための指針、異文化アセスメントモデルを紹介している。	
	J	22	ライトは、「病気に対する考え方は、社会的・文化的背景をもつ患者とその家族自身が、経験、信条、価値観に基づいて独自に生み出すもので、看護者が対象を理解する鍵」としている。	
	J	23	フリードマンは、少数民族的な視点と、フェミニストの視点から、看護者の文化を理解する姿勢と家族の捉え方について、家族資源、ライフスタイル、家族周期、家族機能、家族形成過程の多様化をあげている。	
	J	24	家族のアセスメントと同時にその家族が暮らす地域の文化的価値観のアセスメントが重要になる。	
	K	25	家族は、文化から影響を受け、また、その時代の文化を創る。特に歴史的な文化を背負って生きてきた高齢者のケアの場面では、看護者は、文化的背景にまつわる家族の問題に直面しやすい。	
	K	26	文化的背景の異なる国・地域の家族や家族看護を参考にしつつも、個人の文化的背景を中心に考察することが重要である。一方、文化の異なる国・地域の家族と比較することは、対象の特性や背景を浮き彫りにすることができる。	
	老年	L	27	個人に影響をあたえる要因として、「年齢成熟的要因」、「文化的・生育史的要因」、「個別的要因」の3つをあげ、相対的強度について説明している。文化的生育的要因では、成年期にピークを迎え、加齢と共に下降する。
		L	28	現代の工業化社会のように、生産者としての能力に重きが置かれる文化的価値観は、高齢者の社会行動に影響を与え、多くの高齢者は、勤労意欲があるにもかかわらず、就業の機会を阻まれていく。
		M	29	人々の老いに対する意識は、人々が生きて暮らしてきた時代や文化により変化している。
		M	30	儒教的な敬老精神が今も日本文化の中に流れているが、日本語表現では、「老」を賛美するより、マイナスイメージとして用いられる言葉が多い。「年齢・加齢に対する考え方に関する意識調査」(内閣府 平成15年)でも、回答者の7割が高齢者を経験や知恵が豊かであるプラスイメージより、健康不安などのマイナスイメージで捉え、言葉にみるわが国の伝統的な老いに対する価値観と一致している。
		M	31	生活史や健康歴、その生きてきた社会や時代、特定の人々との関係は、文化や価値観として自然に身につく、高齢者の物事の判断や選択、これからの生き方に影響する。高齢者に共通の文化・価値観は存在するが、個別に異なる文化もある。
	M	32	高齢者は、自文化や価値観に接することで、心癒されるので、現在の生活が自文化や価値観と一致していることを重要である。高齢者は、自文化や価値観に接することで、心癒されるので、現在の生活が自文化や価値観と一致していることを重要である。	
地域における文化	基礎	B	33	人類の歴史は、民族移動による混血と、文化、医療、ケアなど環境に適応するための知恵を交流し発展させてきた。それが近代社会では、自決権を重視した国境により、文化や経済にも境界をつくり、文化の違いが政治問題とされるようになった。その解決には、文化、宗教、民族、性別の違いを受け入れられること、個々人の個々人のレベルでも自分と異なるものを理解することである。
		F	34	世界において、健康に悪い影響を及ぼす文化の例を紹介している。
	地域	G	35	離島には、歴史や独自の風土を育み、伝承されている地域があり、生活行動や生活習慣、健康問題への対応に影響している。
		H	36	地域には人々が長年にわたり代々受け継いできた老いや障害、死をめぐる地域の文化的風土があり、それは近隣の助け合いに影響する。
		J	37	日本人が移民により、日本文化の価値観を時間とともにどのように引き継いでいるかを紹介している。
J	38	教育環境の異なる老親と老親を支える世代の経験した文化的価値の相違を紹介している。		

\*看護領域 基礎:基礎看護領域 地域:地域看護領域 老年:老年看護領域



表7 文化看護学会誌からみた文化の捉え方

ID	著者名	発行年	文献名	文化の捉え方に関する記述の要約	文化のとらえ方	
1	正木治恵, 張平平, 周宇とう他	2009	文化に根ざした認知症予防教室の開発過程における日中比較	認知症の捉え方の違いにもとづく認知症ケア実践の日本と中国の比較	日本と外国を比較	外国の文化に関すること
2	張平平, 正木治恵	2010	中国老年看護の発展に向けた一考察 日本老年看護の概観を通し	高齢者対策・制度と老年看護の提供体制を文化とした日本と中国の比較		
3	藤田水穂	2013	日本およびフィンランドの小学校教科書における人体や健康に関する教育の比較	子供に対する健康教育制度を文化とした日本とフィンランドの比較		
4	王麗華, 小林和成, 大野絢子	2010	外国出身看護師の医療現場における文化的対応に関する研究	外国出身看護師が日本の医療現場で体験する人間関係や看護技術の文化的差異を獲得する工夫と適応	外国出身者が日本文化に適應する過程	
5	飯田貴映子, 酒井郁子	2012	高齢者長期ケア施設における外国人看護職・介護職の就労の現状と課題	外国人看護職・介護職の就労の困難と可能性		
6	酒井郁子, 胡秀英	2012	四川大地震における災害後リハビリテーションと看護の課題	災害支援での他地域での支援と文化的コンピテンシーの必要性		
7	西田伸枝, 田所良之, 谷本真理子他	2013	在日コリアン高齢者1世における文化を尊重したデイサービスの意味	日本に移住した在日コリアン同士のデイサービス利用時における自国の習慣再現とその意味		
8	石川麻衣, 宮崎美砂子	2009	自主グループ参加者のライフストーリーからみた健康づくりのテーマ	健康づくり体験の意味の類似性と多様性から対象を理解	個人の生活体験による認識と意味	
9	宇野澤輝美枝	2013	重度身体障害をもちながら生きてきた人のライフストーリー	重度障害をもちながら生活する主観的体験の理解によるエンパワメント		
10	高橋良幸, 張平平, 清水安子他	2010	日本における糖尿病予防に取り組む人々の身体の捉え方とその文化的考察	糖尿病患者の主観的な身体の捉え方に影響する生活体験と身近な病者の身体変化の記憶		
11	杉本洋	2011	表現する生存者の戦術的実践 経験の深化と「正常」と「異常」の再構成	精神障害を抱える患者の表現活動から捉えた主観的な病気体験の理解		
12	酒井郁子, 湯浅美千代, 島田広美他	2010	脳卒中患者の自我発達を促進する看護援助理論を用いた看護師学習プログラムの開発と評価	看護職経験後の看護理論の学びなおしが実践との照合により専門職アイデンティティの確立に与える影響	家族の生活体験による認識と意味	
13	遠藤和子, 正木治恵	2011	食卓の営みの語り表れた2型糖尿病とともにある中高年女性のありよう	食卓の営みに表現される女性の生活経験と病気体験の関係		
14	櫻井智穂子, 眞嶋朋子	2013	終末期の緩和を目的とした療養への移行におけるがん患者の家族の決断のゆれに関する研究	終末期の療養環境に関する家族の意志決定に影響する地域の規範と家族のずれ		
15	井出成美, 佐藤紀子, 山田洋子他	2009	社会的サポートネットワークの構築につながる高齢者のエンパワメント指標の試案	地域にある人間関係を活用した住民エンパワメント	地域の特徴による人とのつながり	
16	武分祥子, 柄澤邦江, 岩崎みずす他	2010	地域ケアにおける人々のつながりに関する研究 飯田市郊外の住民が語った「結い」の実態をもとに	地域の人間関係がつくる相互扶助的サポートネットワークの変化		
17	吉永亜子, 吉本照子, 石垣和子	2009	睡眠を促す日本の看護技術としての足浴足浴利用法の変化	看護技術(足浴療法)について、歴史からその起源と生活習慣との関係を紐解き、日本独自の看護ケアを考察	歴史の生活への影響	
18	川上裕子	2012	国民健康保険組合の設立と保健婦活動の展開 千葉県社会保健婦養成所卒業生の履歴から	保健師養成の歴史(地元の女子を対象)が生んだ地域の生活に密着した保健活動		
19	大川嶺子	2011	小規模離島A島における高齢者地域ケアシステム構築を目指した住民活動の支援 住民活動の進展に影響を与えていた社会文化的要因の検討	地域ケアシステム構築支援における地域の伝統的な意思決定システムの理解	看護職が異なる地域文化にふれる体験	
20	知念久美子, 野村幸子, 盛島幸子他	2011	沖縄における地域文化的看護体験	異なる地域文化をもつ看護職の文化看護体験		
21	眞嶋朋子, 楠潤子, 渡邊美和,他	2012	専門看護師が必要とする看護管理者からの支援 組織文化からの一考察	専門看護師が組織横断的に役割を発揮するための看護管理者との連携と組織風土、および人間関係	組織の特徴による人とのつながり	

表8 高齢者ケアにおける文化看護の研究

	国内文献(%)	国外文献(%)
個人の持つ文化	7 (11.5)	16 (18.8)
家族の持つ文化	7 (11.5)	0 (0.0)
地域の持つ文化	15 (24.6)	16 (18.8)
移民の文化	3 (4.9)	25 (29.4)
組織・専門職文化	7 (11.5)	8 (9.4)
文化の比較	15 (24.6)	7 (8.2)
文化の教育と研究の方法	7 (11.5)	13 (15.3)
計	61 (100.0)	85 (100.0)

表9 文化的能力の概念や定義

研究者	論文名	文化的能力の概念や定義
Burchum (2002)	Cultural competence: An evolutionary perspective	<p>文化的能力の属性は、文化的意識、文化的知識、文化的理解、文化的感受性、文化的相互作用、文化的スキルとして特定される。文化的能力は、決して終わらず、かつ拡大している非線形動的過程として最もよく識別することができる。その属性に関連する知識やスキルの向上に基づいて構築される。</p>
Baccote (2002)	The Process of Cultural Competence in the Delivery of Healthcare Services: A Model of Care	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的能力はプロセスであり、事象ではない。</li> <li>・文化的能力は、文化的意識、文化的知識、文化的スキル、文化的出会い、文化的欲求の5つの構成からなる。</li> </ul>
Suh (2004)	The Model of Cultural Competence	<p>理論的枠組として、文化的能力を達成することは、特定の能力、文化的属性への開放性、相違点と類似点の両方の属性に適応する柔軟性を必要とするプロセスであることを示している。文化的意識、知識、感受性、技能、出会いは文化的能力で重視すべきである。</p>
Larry Purnell (2005)	The Purnell Model for Cultural Competence	<p>文化的能力の特性は、知識やスキルだけでなく、以下のものが含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の文化、存在、感覚、思考、環境を、他の背景の人々に過度の影響を与えずに自覚させる。</li> <li>・クライアントの文化、健康関連のニーズ、および健康と病気の意味に関する知識と理解を裏証する。</li> <li>・文化的差異を受け入れ、尊重すること。</li> <li>・医療提供者の信念と価値が顧客の信念と価値と同じであると仮定しない。</li> <li>・「違うものはそれほど良いものではない」などの判断力に抵抗する。</li> <li>・文化的出会いに開放的であること。</li> <li>・文化的な出会いに慣れていること。</li> <li>・クライアントの文化と一致するようにケアを適応させる。</li> <li>・文化的能力は、文化的なレンズを通じて評価を行うことから始まる個別のケア計画である。</li> </ul>
Shen (2015)	Cultural competence models and cultural competence assessment instruments in nursing: a literature review	<p>文化的能力の領域と範囲は、感情領域(文化的感受性)、認知領域(意識、知識、理解)、スキル/実践/行動領域(スキル、相互作用/出会い)の6つの属性である。</p>

表10 文化的感受性の概念や定義

研究者	論文名	文化的感受性の概念や定義
Foronda (2008)	A concept analysis of cultural sensitivity	自身その他の認識を識別して、多様なグループまたは個人に出会った後に、その人の知識、考慮、理解、尊敬とテーラリングを採用する。文化的感受性は、効果的なコミュニケーション、効果的介入と満足感に終わる。
Burchum (2002)	Cultural competence: An evolutionary perspective	文化的多様性を評価し、尊重し、評価することで発展する。そうすることにより自らの個人的かつ職業的なアイデンティティが実践にどのように影響するかを理解するようになる。効果的な文化交流を体験するにはこの段階が不可欠である。
Purnell (2005)	The Purnell Model for Cultural Competence	クライアントの文化を受け入れ、文化的差異を尊重し、文化的遭遇の開放性(文化的出会いの受け入れ)、クライアントの適応に対する自己文化の認識、知識、理解である。
Shu (2004)	The Model of Cultural Competence Through an Evolutionary Concept Analysis	文化的感受性は、文化的能力の必須要素である文化的多様性に対する意図的かつ感情的な認識である。文化的感受性は、文化的差異に対する敬意を表している。

表11 文化的感受性の国内文献

文献番号	文献名	著者	分類	内容		分類
5	日本人の看護学生における異文化間の違い感受性と関連する因子(Japanese nursing students' Intercultural Sensitivity and related factors)(英語)	Tashiro Marie, Zhong Xiaochun	会議録	日本の看護学生の異文化間の感性とその関連要因には、「海外での家族の利益」、「宗教的信念」、「訪問回数」があった。	日本人の看護学生における異文化間の違い感受性と関連する因子	文化的感受性を促進する教育の要因
7	日本人看護学生の異文化感受性発達に関する調査(第2報) 異文化感受性発達に関連する要因	田代 麻里江, 張 曉春	会議録	多文化看護教育カリキュラムの検討をするため、学生の異文化感受性発達度の把握と関連する要因について、「異文化感受性発達尺度」で評価した。海外旅行の体験により成熟が促進される傾向が見られ、家庭環境における宗教的影響も学生の異文化感受性の成熟に影響を及ぼしている可能性が伺えた。	看護学生の異文化感受性発達度と関連する要因	
8	日本人看護学生の異文化感受性発達に関する調査(第1報) 尺度の内的整合性についての検討	張 曉春, 田代 麻里江	会議録	日本人看護学生の異文化感受性は、日本語版異文化感受性発達尺度を用いた。60項目中α係数が比較的に低い項目(否認の「無関心」、受容の「違いを楽しむ」など)が含まれていた。	日本人看護学生の異文化感受性発達尺度の内的整合性についての検討	
9	日本人看護学生の異文化感受性に関する研究	稲嶺 里香, 垣花 シゲ, 平安名 由美子 他	会議録	異文化感受性とは異文化を見る「認知的枠組み」で、個人が異文化で上手く適応できるかを左右するものである。異文化感受性発達モデルで日本人看護学生は受容の段階にあり、異文化に対する違いの存在を認め、正しく理解する姿勢を持っている段階である。海外渡航の経験を持つ者が異文化感受性が高い。国内での異文化体験では、留学生と関わりがあることが異文化感受性に最も影響を及ぼした。	異文化感受性発達モデルでの日本人看護学生の発達段階の評価と影響	文化的感受性のプログラムの活用と評価
1	海外研修前後における異文化間感受性の変化	戸田 登美子, 丸 光恵	原著論文	看護専門職英語運用能力と国際感覚の涵養を目的とした海外研修から、看護学生の研修前後における異文化間感受性の変化を日本語版異文化間感受性尺度を研修前後に測定した。研修後上昇者と下降者がいた。研修中の体験の意味づけや相手の価値観に立脚したとらえ方が異文化間感受性に影響することが考えられた。	看護学生の研修前後における異文化間感受性の変化	
2	精神科訪問看護における文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助モデルの二カ月間の活用を通じた精錬	松岡 純子	会議録	モデルによって文化的感受性を備えたリカバリー志向の実践が促進されたことが示された。分析結果に基づいて精錬したモデルは、1が配置された第1階層と、2、3、4を含む第2階層、5、6を含む第3階層という3つの階層が相互に影響し合う構造として表すことができた。	文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助モデルの実施と評価	
4	精神科訪問看護における文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助モデルの構築	松岡 純子	会議録	看護師が精神看護文化を客観視し、当事者の価値観を尊重する文化的感受性を備えていることは必須であり、文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助モデルを構築を文献レビューより行った。文化的感受性を備えた実践は、看護師自身の実践の振り返り、利用者との看護援助の場を行き来すること、利用者に関わる人々の多様な意見を取り入れることという3段階の複眼思考に基づく実践と考えられた。	文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助モデルを構築	文化的感受性のプログラムの開発・その発達の評価
6	精神科訪問看護における文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助	松岡 純子	会議録	熟練した精神科訪問看護師へのインタビューから、文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助の構成要素を明らかにした。看護師は自分の看護実践やその環境がリカバリー志向であるか繰り返し振り返り、人生や生活という視点で利用者の体験を理解しようとする文化的感受性を基盤とし、利用者のストレングスに焦点をあて、希望に寄り添い、自己決定を重視した看護援助を実践していた。	精神科訪問看護師の文化的感受性を備えたリカバリー志向の看護援助の構成要素	
3	【注目すべき国際感染症】国際感染症の背景 インバウンドとアウトバウンド	中村 安秀	解説/特集	日本のインバウンドとアウトバウンドは増加している。国際感染症に対応するためには、医療者は多文化に対する感受性を涵養する必要がある。	医療者の多文化に対する感受性を涵養の必要性	看護・看護政策への提言
14	ヒューマン・ケアリング理論と英語教育課程(Human Caring Theory and the English Curriculum)(英語)	Parker Patricia L.	解説	看護教育課程の中の英語教育に対していくつかの示唆を得ることができる。異文化コミュニケーションの一つの形式として非言語コミュニケーションを教え、更に、簡潔な会話の方法を教えることは、看護学生が他の文化圏のこぼ話を話す人々に対してより感受性が増し、鋭敏になるのに役立つ。	看護教育課程の中の英語教育における文化的感受性	文化的感受性の育成への提言

表12 文化的能力の国内文献(その1)

文献番号	文献名	著者	内容	分類
41	臨床実習における医療スタッフの専門性に関する研究 臨床実習後に学生が記憶していた場面から(Study on Speciality of Medical Staff in Clinical Practice: From Scenes That Students Remembered after Clinical Practice)(英語)	Maruyama Masami	臨床実習の専門職教育における文化的特徴(教育)	看護教育における文化の理解の現状
31	講義「女性と日本文化」の効果を測定する項目の検討	牛ノ濱 幸代, 大園 孝子, 山下 美穂 他	日本文化に関する講義の評価項目の検討	
1	異文化看護に関する研究動向から見る日本の看護教育の課題 日本の看護のグローバル化とダイバーシティ	友田 隆子, 中島 美津子	日本の異文化看護の教育への提言	
15	わが国の看護基礎教育における国際看護教育の現状と課題	中越 利佳, 森久美子, 田中 祐子 他	日本の看護基礎教育における国際看護教育の現状と国際性を備えた看護師の必要性	異文化看護を推進する必要性
18	グローバル化した看護専門職を目指すために必要な看護教育学の基盤 文献的検討	木場しのぶ, 葛典子, 日下とよみ 他	グローバル化した看護専門職の育成の要因	
17	看護職者の役割移行 概念分析	上田 貴子	概念分析による看護専門職の役割移行の定義	
2	看護の実践知に関する文献検討 近年の国内文献から	山形 真由美, 名越 恵美	文化的対応のなかで育まれる実践知	看護専門性と文化的対応の必要性
21	新卒看護師の看護実践コミュニティへの参加過程における学びの経験 正統的周辺参加論の視点によるエスノグラフィック・ケーススタディー	奥野 信行	新卒看護師が看護実践現場になじむ移行プロセス	
5	新人期看護師の看護コンピテンシーの向上に寄与する中堅期看護師からの支援	隅田 千絵, 細田 泰子	中堅看護師から新人看護師への育成支援内容と評価	新人看護師育成と職場の文化の醸成
4	長崎市・佐世保市の看護職が考える外国人への周産期ケアコミュニケーション能力	橋村 愛, 大西 真由美	外国人産褥婦への周産期ケアコミュニケーション能力の要因	
26	大阪における外国人患者の周術期管理に対する日本人看護師の見解(Japanese Nurses' Views of Perioperative Management of Foreign Patients in Osaka)(英語)	Maeno Mami, Sakuyama Mika, Motoyama Satoru 他	外国人患者のに対する日本人看護師の意識	外国人への文化的意識と評価
14	在日ブラジル人患者の看護経験からみたカルチュラルコンピテンシの検討	永田 文子, 濱井 妙子	在日外国人患者への看護の文化的能力獲得プロセス	
40	異文化間看護能力の現状と規定要因 青年海外協力隊看護職帰国隊員と公立総合病院勤務看護職の比較より	杉浦 絹子	異文化間看護能力尺度の開発とその評価	
28	国際協力活動中堅看護職のコンピテンシー獲得の過程 赤十字国際活動に従事した看護職の体験より	大澤 絵里	国際協力活動に必要なコンピテンシーを獲得のプロセス	異文化看護活動に必要な能力とプロセスの開発
22	国際平和協力活動における看護マネジメント能力の構造化	尾立 篤子, 中原 るり子, 竹内 千恵子	国際平和協力活動の目的を達成するために求められる看護マネジメント能力獲得とそのプロセス	
35	国際看護コラボレーターに必要な能力モデル構築と教育プログラムの開発	林 直子, 田代 順子, 菱沼 典子 他	国際看護コラボレーターに必要な能力モデル構築と教育プログラムの開発	

表12 文化的能力の国内文献(その2)

文献番号	文献名	著者	内容	分類
27	外国人看護師とその指導者の国家試験に対する思い 看護師国家試験合格にむけての課題	福武 まゆみ, 難波 峰子, 島村 美砂子 他	外国人看護師の文化的意識と目的達成の課題	外国人看護師の文化的理解の課題
33	日本とフィリピンにおける病院看護業務の比較 タイムスタディー法を用いた主要業務の検討	田中 博子, 志賀 由美, 西垣 克	外国人看護師の文化的理解	
10	ラオスの産後慣習に関する看護の探索的研究(第2報) 看護師の文化的コンピテンシーと看護	佐山 理絵	国外の看護師の産後慣習を取り入れた看護実践	
13	助産所におけるケア提供者としての初回経験および現在の心境 民族誌学的研究(First experiences and current feelings as care providers in a birthing center: an ethnographic study)(英語)	Marcondes Nunes Michelly Christiny, Komura Hoga Luiza Akiko, Reberte Luciana M 他	海外の院内助産所の組織文化からみた評価	外国人の文化看護の実践の評価
8	チームSTEPPSの組織的導入 看護部からの取り組み	遠藤 栄理	安全文化の醸成のため取り組み	組織の安全文化の効果
9	ICUにおけるコミュニケーションとチームワークに関する調査 Team STEPPSの医療安全文化評価質問紙を用いたラダー別評価を試みて	岩泉 尚子, 吉田 玲香, 佐藤 浩美 他	医療安全文化指標による看護師の経験とコミュニケーションの評価	
30	助産師の専門性に影響する要因 分娩期ケアの実践能力に焦点をあてて	谷田部 仁子	助産師の専門性を発揮できる職場の風土作りの必要性	職場の風土と職務能力との関係
3	自治体保健師の施策化能力に関連する事業化経験と職場環境要因	渡部 恵子, 田中 美延里, 鳥居 順子 他	自治体保健師の施策化能力に関連する事業化経験と職場環境要因	
16	看護職がとらえる職場の組織風土と臨床実力1公立病院の看護職への質問紙調査を通して	鹿糠 みち恵	看護職がとらえる職場の組織風土の意識と課題	
25	看護職のバーンアウトと看護職特性および看護実践環境との関連	緒方 泰子, 永野 みどり	看護職のバーンアウトと看護実践環境との関連	職場の環境と職務継続との関連
29	中堅看護師の職務継続につながる要因の分析	山見 尚子, 山之上 絹代, 馬淵 紀代子 他	中堅看護師の職務継続につながる要因	
37	Total Quality Managementと組織変革に関する研究 変革構造と組織への影響	中島 美津子	評価指標による組織変革の評価	組織の文化の改善と評価
24	中小病院における感染対策への支援に関する一考察 B病院に対する支援とその評価から	篠田 かおる, 三善 郁代, 土井 まつ子 他	感染対策支援による組織の文化の評価	
36	組織変革による看護ケアの実践能力の変化	鈴木 君江, 相川 三保子, 林 圭子	自主・自律のための組織の風土・文化の再生)の評価	

表13 文化的感受性の国外文献(その1)

文献番号	文献名	著者	内容	分類
44	文化的に敏感な看護教育実践を促進する教育戦略と実践: A デルファイ研究	Dewald, Robin J	文化的感受性を促進する看護実践の分析と評価	文化的感受性を促進する要因
25	看護学生の文化的感受性に影響する要因	Oh, WO	文化的感受性に影響する要因を明らかにし、韓国の文化に配慮した国際交流課理キユラム必要性の提示	
50	文化的感受性とトルコ人看護学生のアサーティブネスとの関係。	Kiliç SP; Sevinç S	異文化間感受性は、自己主張の高さに影響	
1	ヘルスケアの多文化主義批判: 看護師教育のための挑戦。	Culley L	従来の看護師教育の批判から異文化理解の教育の必要性	
4	看護/助産分野で必要なコンピテンシーの動向	Chiarella M; Thoms D; Lau C etc.	文化的コンピテンシーの欠如を挙げ、助産分野での必要なコンピテンシーの提案	
51	4年次看護学部学生の文化に配慮したケア能力の育成における海外短期留学の役割。	Drake KB	学部学生の文化ケア能力育成における海外留学生の役割の評価	海外留学生・外国人・マイノリティを活用した教育の効果
19	留学を通じた文化的感受性の開発	Johns A; Thompson CW	留学は文化的感受性を発達させることに効果的	
12	健康分野で教育を受ける大学生の文化的感受性のレベル。	Meydanlioglu, Ayse; Arıkan, Fatma; Gozum, Sebahat	学生の文化的感受性のレベルを向上させるために外国人との交流プログラムの開発が必要	
27	学生の文化的感受性の育成: より多様な看護へのステップ	Robinson JH	マイノリティ学生による文化的感受性の発達への貢献	
49	正統派ユダヤ教の体験: 現象学的研究. 第28回学術会議、2017年6月2-6日、ポルティモア、メーランド	Bressler, Toby	看護学生の経験の理解は文化看護の有用性の検証に重要	
39	セカンドオピニオン。准看護学生の文化的な態度。	Rowe MM; Hollis SP	マイノリティインストラクターか否かによる学生の文化的感受性の効果	
20	文化的な感受性の育成: 看護学生の海外留学体験	Ruddock HC; Turner DS	国際学習経験は看護学生の文化的感受性の育成に貢献	
6	国際看護実践と教育の場の創造	Hern MJ; Vaughn G; Mason D etc.	文化理解のための国際看護教育プログラムの位置付け	
47	看護の留学コースの実施	Johanson L	文化意識と感受性を発達させるための留学コースの取り組み紹介	文化的感受性のプログラムの開発・その発達の評価
22	看護学生における文化的な態度の開発。	Timmermans BB	看護学生の文化的感受性に及ぼす影響	
56	折衷的なモデルを使用した看護師患者関係における文化の影響についての教育	Kleiman S; Frederickson K; Lundy T	学部学生に文化的感受性モデルを用いた教育の評価	
13	文化的感受性の訓練: ワーク ショップの詳細と評価。	Hutnik N; Gregory J	看護学生の文化的感受性の教育前後の評価	

看護基礎教育



表13 文化的感受性の国外文献(その2)

文献番号	文献名	著者	内容	分類
29	サスカチュワン州看護学生の異文化における不安と文化的セルフ・エフィカシー：糖尿病をもつアボリジニの経験	Quine, Allisson	異文化経験を持つ看護学生は、文化的自己効力感と効果的な異文化コミュニケーションが可能	文化的感受性のプログラムの開発・その発達の評価
45	文化多様性フォーラムが学生の文化的寛容性へ与えた影響。	Sanner S; Baldwin D; Cannella KAS	看護学生の文化的多様性フォーラム前後の文化的感受性の能力の評価	
40	文化について学びたい人も学びたくない人もいる：学士課程看護学生の文化的感受性の開発	Hamre, Pamela S.E	看護学生の文化的感受性を発達させる取り組みの評価	
48	民間治療が宗教系看護教育機関の学生の異文化間セルフ・エフィカシーに与える影響	Schroeder, Pamela A	学生の文化的能力を促進するための取り組みの評価	
21	学士看護学生の座学と看護現場での実践的学習の統合の開発と実施：文化的意識開発の支援	Thomas, Catherine S; Konieczny, Leona	学生の文化的意識や感受性を発達させるプログラムの開発とその成果	
31	看護学生の文化的意識の測定	Rew L; Becker H; Cookston J etc.	看護学生の文化的意識尺度の開発と検証	
43	看護基礎教育における文化的感受性教育の方法と、その結果測定ツール	Hughes KH; Hood LJ	文化的感受性教育の方法と測定ツールによる成果の検証	
24	異文化発見モデル学習の評価。	Barton JA; Brown NJ	文化的理解と感受性に関する臨地実習の効果	臨地実習による文化的感受性の効果
23	看護学生の文化的感受性の醸成	Palmer CJ	看護学生の文化的感受性を醸成する臨地実習の学びの評価	
30	教えることを通して学ぶ：地域に密着した看護ケアセンターでの文化的に多様な患者と学生のエンパワーメント	Sensenig JA	多様な文化を持つ臨地実習先は看護学生の文化的感受性を学ぶ機会	
9	トルコの看護教育者における文化的感受性と関連要因	Simsek, Hatice; Erkin, Ozun; Temel, Ayila Bayik	看護教員の文化的感受性は、交流プログラム参加、海外の教育経験などに影響	
37	マイノリティーの准看護学生の中退理由	McWha, Jennifer	マイノリティー学生への文化理解による教員の関与の必要性和効果	看護教員の文化的感受性の必要性和効果
15	文化的な感受性：看護学部教員、および英語を母国語とせず英語が入門レベルである学生の声。	Glasgow, Felecia M	教員の文化的感受性養成プログラムの評価	
34	アフリカのシエラレオネ共和国看護研究所：継続教育経験	Cunningham ME; Beal CS; Nerderman RM	看護教員が文化的知識や感受性を高め、教育に取り込む必要性和その対応	
38	看護教育者の文化的能力とマイノリティー看護学生の入学および卒業との関係性	Ume-Nwagbo PN	看護教育者の文化的能力はマイノリティー学生の教育に影響	
2	多文化的背景をもつ患者に対するチームアプローチによるケア。	Peterson R; Smith J	看護スタッフの文化的意識と感受性を高めるために多分野とのチームアプローチケアの評価	看護職者の文化的感受性の教育の効果
41	文化的に敏感な看護ケアのためのスタッフ教育	Rooda L; Gay G	文化的感受性を看護に取り入れる研修の効果	

表13 文化的感受性の国外文献(その3)

文献番号	文献名	著者	内容	分類	
35	アメリカの中国系女性の子宮頸部スクリーニングの利点と障壁	Wei-Chen Tung; Minggen Lu; Granner, Michelle	女性特有の病息のスクリーニングに看護提供者の文化的感受性の重要性の検証	文化的感受性の意味と必要性	
33	ネイティブ アリカンコミュニティにおける看護	Buehler J	看護ケアにおける文化的感受性の重要性		
55	体験的な文化理解: オーストラリア先住民看護師のリフレクション	Blackman, Renee	看護師の体験から学ぶ知識と文化的感受性と安全性の提示		
3	道遠し・・・文化的感受性がケアの不可欠な部分になれること	Wolfe M	異文化のとの出会いによる看護実践から、文化的感受性はケアに不可欠であることの学び		
52/53	3 番目の次元: 看護実践における文化的な態度。	Bello TA	私達の知らない人々は文化的な健康信念を持っているため、特に色の違いや貧しい人々への看護実践に対する、文化的に敏感な態度の必要性		
14	文化的な感受性: サービスを改善するための実用的なアプローチ。	Daddy J; Clegg A	顧客ニーズに添うための文化的感受性の必要性		
16	多発性硬化症における意思決定: 実践のための理論。	Morgante L; Hartley G; Lowden D etc.	患者の意思決定に影響する文化的感受性の必要性		
32	宣教師ナースドロシー・デイビス・クック、1940 - 1972: 'スワジの看護の母'	Elliott SE	文化的感受性と文化的コンピテンシーの重要性		
11	地域看護における文化的感受性。	Burnard P	地域看護における文化的感受性の評価		
18	国際看護分野での文化的感受性および感性の開発	Norton D; Marks-Marand D	国際看護分野で貢献するための準備性		
54	エチオピア看護師のケアに関する価値志向とケアリングの認識	Hall CA	価値観志向ツールを用いた看護実践の評価		文化的感受性のプログラムの活用と評価
46	フィリピン看護師の文化的感受性訓練 ケア行動の柔軟性の変化による訓練効果の測定	Russell MB	文化的感受性の訓練は効果的でケア行動に影響		
8	臨床看護師における文化的感受性: 記述的研究。	Yilmaz, Medine; Toksoy, Serap; Direk, Zübeyde Denizci etc.	看護実践の向上のために文化的感受性と文化的能力の準備の必要性の検証		
42	人生の終わりを文化的視点から考える: エンドオブライフ教育コンソーシアム プログラム	Matzo ML; Sherman DW; Mazanec P etc.	エンドオブライフ教育に文化的視点を加えたプログラム紹介		
36	文化的に適切なケアの提供: 文献の検討。	Williamson M; Harrison L	個別にニーズに対応する(文化的安全性)文化的に適切なケアの提供のための課題	文化的安全性の提言(課題)	文化的感受性の提言・政策
7	オーストラリア助産実践における文化的安全性とその重要性	Phiri J; Dietsch E; Bonner A	移民や難民受け入れに向けた、文化的に文化的安全性の提言		
10	オンタリオ州看護政策と教育の問題としての文化的感受性: と統合的フェミニスト コンテキスト分析	Gustafson DL	看護政策と教育において文化的感受性を加える必要性	文化的感受性を発達させる政策	
17	成功の度合い: ヒスパニック系看護学生の採用促進と離職防止	Marquand B	文化理解による採用促進と離職防止のための政府の政策		
26	看護の現実的未来像: パートナーシップ、実践、そして経済学	Bechtel GA; Davidhizar R; Tiller CM etc.	看護の未来像として文化的感受性のスキルの提示		

表14 研究参加者の基本属性

ID	ケアの場	職種*1	性別	年代	高齢者ケア 経験年数*2	高齢者ケア 経験場所	出身*3	宮古島以外 での生活歴
1	A病院	看護職	女性	60	30年以上	病院	地元	有
2	A病院	看護職	女性	50	30年以上	病院	地元	有
3	A病院	看護職	女性	40	20～29年	病院	地元	有
4	A病院	看護職	女性	30	5年未満	病院	地元外(沖縄本島)	—
5	A病院	看護職	女性	50	5～9年	病院	地元	有
6	A病院	看護職	女性	50	10～19年	病院	地元	有
7	A病院	看護職	女性	40	10～19年	病院	地元	有
8	A病院	看護職	女性	70	30年以上	病院	地元	有
9	B病院	看護職	女性	60	20～29年	病院	地元外(県外)	—
10	C病院	看護職	女性	40	5～9年	訪問看護ステーション、病院	地元外(沖縄本島)	—
11	D介護老人福祉施設	その他	男性	30	10～19年	病院、介護老人福祉施設	地元	無
12	D介護老人福祉施設	介護職	男性	40	10～19年	介護老人福祉施設	地元	無
13	D介護老人福祉施設	その他	女性	50	10～19年	介護老人福祉施設	地元	有
14	D介護老人福祉施設	その他	女性	60	30年以上	診療所、介護老人福祉施設	地元外(県外)	—
15	D介護老人福祉施設	その他	女性	40	5年未満	介護老人福祉施設	地元外(県外)	—
16	D介護老人福祉施設	その他	男性	60	30年以上	高齢者施設、介護老人福祉施設	地元	有
17	E介護老人保健施設	介護職	女性	60	20～29年	老人福祉施設、老人保健施設	地元	有
18	E介護老人保健施設	その他	女性	40	20～29年	病院、保健センター、老人保健施設	地元外(県外)	—
19	F有料老人ホーム	その他	女性	50	10～19年	通所介護、有料老人ホーム	地元	有
20	G有料老人ホーム	看護職	女性	60	30年以上	保健所、通所介護、有料老人ホーム	地元	有
21	H訪問看護ステーション	看護職	女性	60	30年以上	病院、訪問看護ステーション	地元	有
22	I訪問看護ステーション	看護職	女性	60	30年以上	病院、訪問看護ステーション	地元	有
23	J居宅介護支援事業所	その他	女性	50	10～19年	居宅介護支援事業所	地元外(県外)	—
24	K地域包括支援センター	看護職	女性	60	20～29年	病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センター	地元外(沖縄の離島)	—
25	L地域包括支援センター	看護職	女性	40	10～19年	病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター	地元	有
26	L地域包括支援センター	看護職	女性	60	30年以上	病院、訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター	地元	有
27	L地域包括支援センター	看護職	女性	60	30年以上	病院、小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター	地元	有
28	M小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	女性	60	5～9年	小規模多機能型居宅介護	地元	有
29	M小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	男性	50	5～9年	小規模多機能型居宅介護	地元	有
30	M小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	女性	60	5～9年	小規模多機能型居宅介護	地元	有
31	M小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	女性	60	5～9年	小規模多機能型居宅介護	地元	有
32	M小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	女性	40	10～19年	訪問介護、小規模多機能型居宅介護	地元	無
33	M小規模多機能型居宅介護事業所	介護職	女性	50	5年未満	小規模多機能型居宅介護	地元	有
34	M小規模多機能型居宅介護事業所	その他	女性	60	10～19年	小規模多機能型居宅介護	地元	有
35	M小規模多機能型居宅介護事業所	その他	女性	60	10～19年	小規模多機能型居宅介護	地元	有
36	M小規模多機能型居宅介護事業所	看護職	女性	30	10～19年	病院、市町村、宅老所、訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護	地元外(県外)	—

\*1職種:看護職(看護師・保健師)、介護職(介護福祉士・介護士)、その他(管理者・理学療法士・社会福祉士・介護支援専門員・相談員・事務職)

\*2高齢ケアの経験年数:5年未満、5～9年、10～19年、20年～29年、30年以上

\*3出身:地元(宮古島、宮古島圏域の離島)、地元外(沖縄本島、沖縄の離島、県外)

表15 研究参加者の地域文化行動の体験

ID	方言での会話*1		伝統行事への参加*2										地域行事への参加*3		
	話すこと	聞くこと	旧正月	旧十六日	旧盆	サニツ	十五夜	彼岸	七夕	ハーリー	ミヤークツツ	八月踊り	自治会 敬老会など イベント	学校 運動会など イベント	トライアスロン
1	一部できる	できる		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2	できる	できる	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
3	単語のみ	できる	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
4	単語のみ	一部できる	○	○	○		○					○			○
5	一部できる	できる		○	○		○	○					○	○	○
6	一部できる	できる	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
7	できる	できる	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○
8	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
9	できない	単語のみ		○	○		○	○					○	○	○
10	単語のみ	単語のみ	○	○	○	○	○		○	○				○	○
11	一部できる	できる	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
12	単語のみ	一部できる	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○
13	一部できる	できる	○	○	○	○	○	○		○			○	○	○
14	できない	単語のみ		○	○		○	○		○			○	○	○
15	できない	単語のみ	○	○		○	○			○					○
16	できる	できる	○	○	○	○	○			○			○	○	○
17	できる	できる		○	○	○	○	○					○	○	○
18	できない	単語のみ		○	○	○		○						○	○
19	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
20	できる	できる		○	○		○	○	○				○	○	○
21	できる	できる		○	○	○	○	○	○				○	○	○
22	できる	できる	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
23	できない	単語のみ	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○
24	単語のみ	できる		○	○	○	○			○			○	○	○
25	一部できる	できる	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○
26	できる	できる	○	○	○	○	○	○		○			○	○	○
27	できる	できる	○	○	○		○						○	○	○
28	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
29	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
30	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
31	できる	できる	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
32	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
33	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
34	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
35	できる	できる	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
36	一部できる	一部できる		○						○	○		○	○	○

\*1方言での会話: できる(日常生活に困らない程度に話すまたは聞くことができる)、一部できる(いくつかの表現を話すまたは聞くことができる)、単語のみ(単語なら一部話せるまたは聞ける)、できない(ほとんど話せないまたは聞けない)

\*2伝統行事への参加: 宮古島の年中行事表(沖縄の祭りと行事, 2003)を参考に整理した項目である

\*3地域行事への参加: 宮古島の関係者に主な地域行事を尋ねて整理した項目である

表16 地域文化ケアの方法

サブカテゴリー	カテゴリー
<行事へのニーズを引き出す>	【当事者の行事への参加支援】
<行事に参加できるよう関係者と調整する>	
<行事に参加するための体調管理をする>	
<行事ができるよう頼まれなくても手伝う>	
<行事に参加したい高齢者を連れ出す>	
<行事は家で過ごせるよう関係者と調整する>	【家族・地域のつながりの継続支援】
<面会者とのつながりを大事にする>	
<行事を家で過ごしていることを確認する>	
<行事はつながり・交流の機会として連れ出す>	
<島の住民とのコミュニケーションを手伝う>	【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】
<高齢者の「帰りたい」ニーズを代弁する>	
<「住み遂げたい」に諦めずに寄り添う>	
<家族の魔除けの儀式を支持する>	【当事者の祈りを尊重する支援】
<魔除けの儀式を支持する>	
<身体的判断を超え高齢者の望みを叶える>	
<地域のつながりをケアに活かす>	【地域文化でつくるケア関係】
<方言での会話を通訳する>	
<方言での会話を通訳してもらう>	
<方言でのコミュニケーションを認め重宝する>	
<行事の話題で会話を膨らませる>	
<出身地の話題で会話を膨らませる>	
<行事重視を理解し、対処する>	
<代替ケアをつくる>	【地域文化を共感するケア】
<慣れ親しんだ行事に誘い連れ出す>	
<慣れ親しんだこととの触れ合いをつくり出す>	
<方言を学ぶ>	【習い続ける地域文化】
<行事を学ぶ>	
<地域の価値を病院に啓蒙する>	【地域文化の周知と啓蒙】
<行事の大事さを病院・施設に周知する>	
<家族が行事を安心してできるよう工夫する>	【みんなで育み続ける地域文化ケア】
<高齢者と職員が行事ができるよう工夫する>	
<つながりのある人々(家族・地域住民・事務職・専門職)をケアに巻き込む>	
<ケアに高齢者の強みを借りる>	【家族のようにつながり続けるケア】
<自分のために祈りを願う>	
<家族の介護をねぎらう>	
<業務を越え家族のようにつながり合う>	
<家族のように大切に>	
<生活の喜びをおすそ分けする>	【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】
<子どもと関わり高齢者の力を活かす取り組み>	
<島での暮らしの継続と活性化>	
<つながりのある人々を巻き込みケアを発足させ、広める>	【みんなで創り広める地域文化ケア】

表17 地域文化ケアの方法【当事者の行事への参加支援】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー	
25	4	伝統行事(浜下り)で海にいけない高齢者が、儀式(手足を海水で洗い清める)ができるように、海水を汲んできて手足が洗えるようにした	<行事ができるよう頼まれなくても手伝う>	【当事者の行事への参加支援】	
26	1	心疾患のある高齢者が、伝統行事参加を希望したので、心身の負担に配慮しつつ、参加できるように手伝った			
28	1	伝統行事の手伝いが必要な要介護高齢者を把握しているので、行事があるときは自分から申し出て、ヘルパー業務をしながら行事の手伝いをする			
28	1	伝統行事の時に、ヘルパー業務がないときは、ボランティアで訪問し、行事を手伝う			
35	6	要介護状態でも、島をあげての敬老会に参加できるよう準備や送迎を手伝っている			
29	1	行事の準備を手伝う家族がいない一人暮らしの高齢者を把握しているので、買物や行事の準備を手伝っている			
29	1	高齢者が行事を大切にしていること、一人では準備ができないことも知っているため、頼まれなくても手伝っている			
30	1	要介護状態で一人暮らしをしている高齢者には、仏壇行事の準備をし、供え物をつくっている			
30	2	要介護状態で仏壇にお茶を供えることができない高齢者の代わりに、毎朝お茶を供える			
31	1	毎日仏壇にお茶を供えることができなくなった一人暮らし要介護高齢者を手伝う			
31	1	仏壇に拝む準備をし、高齢者と一緒に拝み、供えたお茶と一緒にいただく			
31	2	伝統行事(十五夜)では、仏壇に行事食(団子)を供えることになっているので、自分で団子の準備ができない高齢者の分を自宅で作って、届けている			
31	3	伝統行事(拝み)の準備をするために、転倒することがあったので、無理をさせないよう予防的に早めに準備を手伝う			
32	1	伝統行事(サニツ)には、浜辺で手足を洗い清め、健康祈願をする儀式に行けない要介護高齢者には、海水を汲んできて、手足を洗い清める手伝いをする			
31	9	地域行事(米寿のお祝い)に一人暮らし高齢者が参加できるよう手伝った			
32	5	伝統的な踊りを舞う伝統行事は、できるだけ参加を手伝っている			
12	3	伝統行事に施設の中で拝みを希望する高齢者には拝みができるように姿勢や場所を支援している			
16	4	毎日仏壇のお茶を取り替える習慣のあった高齢者には、自宅に帰る機会を増やしその習慣を継続させている			
19	6	雨の日の夜中に「草取りをしたい」と何度も訴えている高齢者の草取りにつきあう			
10	3	地域行事(トライアスロン)は、希望者を募り、車いすでも応援できるよう、安全面を考えて応援会場に出かけ見守りしている			<行事に参加したい高齢者を連れ出す>
22	4	他の地域の伝統行事(ハーリー)に関心があることを把握していたので、伝統行事の日にあわせてヘルパーも依頼し訪問し、参加した			
21	4	杖歩行の高齢者を元職場(施設)の祭に行くことを提案し、了解を得て、一緒に参加した			
30	3	本人が希望すれば、島の伝統行事(ハーリー)へ連れ出し、参加させている			
32	2	島の伝統的な踊り(クイチャー)が好きな高齢者を把握しているので、伝統行事で踊りをみる機会があるときは、車いすで介助して連れ出し、一緒に輪の中に入りお祝いのお酒を飲ませる			
33	1	学校行事や地域行事へ高齢者が参加できるよう、休みを返上し、ボランティアで手伝っている			
12	2	施設高齢者に楽しみの一環としていろいろな地域行事に連れ出す			
12	5	伝統行事(浜下り)には、高齢者に声かけて海に出かけている			
12	6	高齢者が地域行事に参加して「応援したい」と希望すれば、その希望に応えている			
14	3	施設職員と高齢者と一緒に地域行事(トライアスロン)を街頭で応援し、テント内で食事をして、一緒に楽しむ			
15	1	外出して仏壇に拝みをしたと訴え続ける認知症高齢者を、説得するのではなく外出して思いを遂げさせた			
17	4	外出支援は組織も推進しているので、現場から提案すると了解が得られ、時間外でも、どこの地域でも、どの地域行事でも高齢者を誘って希望したら出かける			
17	5	高齢者が地域行事に参加することを好まない家族もいるが、外出の好きな高齢者は地域行事への参加を支援している			
17	5	高齢者の地域行事参加を好まない家族を事前に把握し、家族とかけ合わない地域行事に参加するようにしている			
17	3	地域のイベントへの参加の誘いがあり、参加しそうな高齢者に声かけ参加を促し、一緒に参加した			
16	1	地域行事(ハーリー)に高齢者と参加し、一緒に見て、一緒に応援し、一緒に食事し、一緒に地域巡りをし、一緒に楽しんだ			
19	1	地域行事(地域の保育園のイベント)に出かけて、子ども達と、家族と一緒に踊り、謡い、食事をするを支援している			
19	2	伝統行事(みゃーくづつ)には、家族が協力できない高齢者を誘って外出させている			
19	3	地域行事(ひ孫の誕生祝い)に行きたいとせがむので、誕生祝いの日に車いすで外出した			
23	1	高齢者が希望している伝統行事(みゃーくづつ)に、訪問看護師、ヘルパー、ケアマネの私で抱きかかえるようにして参加を支援した			
16	6	地域行事(孫の運動会)に、高齢者が参加できるように計画し、実践する			
12	1	認知症高齢者を孫の学園祭(地域行事)に誘って一緒に参加した			

表18 地域文化ケアの方法【家族・地域のつながりの継続支援】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
24	2	伝統行事(十六日祭)には、島内外の家族や親族と過ごせるように希望すればできるだけ誰でも自宅に戻れるように家族と主治医と調整する	<行事は家で過ごせるよう関係者と調整する>	【家族・地域のつながりの継続支援】
26	4	伝統行事は、できるだけ家で過ごせるように家族と調整する		
27	5	伝統行事には、高齢者が家で家族と過ごせるよう、上司と一緒に家族を説得する		
22	3	施設入所時、仏壇を大事にして伝統行事には自宅で過ごしたい希望があることを施設職員に伝えた		
11	5	「家に帰りたい」と訴える高齢者には、家族と調整して外泊させる		
5	3	伝統行事中の見舞客は面会時間外にグループで来ることもあるが、早めに帰るよう声かけしつつ、多少は目をつぶっている	<面会者とのつながりを大事にする>	
5	4	近隣のつながりが入院で途切れないように、関係者の支えが高齢者に伝わるように、高齢者の名前が曖昧な面会者であっても邪険にせず、病室を一緒に歩いて探す		
5	5	高齢者の出身地域は、島が小さいので隣近所の者を身内のように感じているので、家族以外の面会者を大事にしている(朝のミーティングでも話題になる)		
6	4	伝統行事で島外から帰省する親戚縁者が病院の面会ルールにあわせて時間外にわーわーと大勢来ても、制限しないで許可している		
9	3	特に危篤状態の時には面会時間を守らず家族や関係者が押しかけてくるが、他の入院患者に配慮し、付き添い方など家族と相談し許している		
22	3	施設入所後、伝統行事の時には、施設から外泊し、自宅で家族と過ごしていることを確認した	<行事を家で過ごせていることを確認する>	
35	2	要介護状態でも、島の人と交流できる機会として、伝統行事のハーリーに連れ出している	<行事はつながり・交流の機会として連れ出す>	
31	6	島の人が集まる地域行事や伝統行事を外出の機会とし、景色や外気に触れ、日光浴のために連れ出す		
32	4	島の人が集う伝統行事(ハーリー)に介助して連れ出し、地域の人たちと一緒に参加し、交流を持たせている		
35	3	島内外から集まった島の人に声かけされても認識できない要介護高齢者には、島での人間関係を知っている私が、声掛けした人が思い出せるよう話題を提供している	<島の住民とのコミュニケーションを手伝う>	
29	3	島の人が挨拶しても、認知症で理解できない人には、その人との人間関係に合わせながら、思い出せるよう話題を提供し、伝えている		
31	5	島の人が、高齢者に話しかけてくるが、会話がつかないときは、高齢者の思いを代弁している		

表19 地域文化ケアの方法【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
3	5	重症患者の外出は責任とれないと主張する主治医に、「高齢者は帰りたい」と代弁する	<高齢者の「帰りたい」ニーズを代弁する>	【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】
4	3	地域に住み続けたいと希望していることを把握していたので、島外の子ども達と調整し地域に戻れるようにした		
6	1	「自分の家で死ぬ」ことにこだわっている島があることを知っているので、その島の高齢者の場合には、病院から自宅にたどり着くまでの移動をシミュレーションし、具体的な段取りを敷く	<「住み遂げたい」に諦めずに寄り添う>	
24	1	自宅で息を引き取るという島の高齢者が危ない状態になると、息を引き取る前に家族と調整しその希望が叶うようにしている		
6	2	自宅で最期を迎えたいがきらめかけている患者に、自宅に戻る後押しをし、退院に向けて機器やベットの手配や移動手段などの準備をした		
3	5	入院中に島(離島の離島)に帰りたいと何度も訴えていた高齢者の最期の願いを叶えさせるために、その必要性和方法をみんなで考えたいと思い病院に提案し、実現した		
4	3	近隣の協力が得られやすい地域であることを把握していたので、島外の子ども達と調整し地域に戻れるようにした		
21	5	「積極的治療をせず自宅で過ごしたい」と希望する高齢者が、自宅で最期を迎えられるよう馴染みの宗教仲間をケアの担い手として提案し、受け入れられた		
21	6	最期の誕生日に好きなものを食べさせたいと思い、高齢者の状態にあった食事をレストラン店長と交渉し、取り寄せ、訪問看護師仲間と昼食時間に誕生会をした。		
30	4	高齢者の「自分の量の上からあの世界に行きたいので、島から出たくない」という思いを受け止めている		
30	4	家族が高齢者を島外の施設へ入所させる検討をすると、島にいたい高齢者の気持ちを代弁する		
30	4	家族が高齢者を島外の施設に入所させようとするときは、自分事のように思い、家族を説得する		
23	5	認知症の老夫婦が地域の人々に支えられながら暮らしの継続を支援している		



表20 地域文化ケアの方法【当事者の祈りを尊重する支援】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
6	3	魔除けとしてベット周辺に葉っぱや塩などを置かせてほしいと家族に依頼され、ケアの邪魔にならないよう工夫して置かせた	<家族の魔除けの儀式を支持する>	【当事者の祈りを尊重する支援】
6	3	同僚看護師が魔除けとして塩を置きたいと希望した家族の要望を受け入れなかったと聞き、「ケアに邪魔にならない願いは聞いてあげようよ」と指導した		
4	8	亡くなった患者のそばで、伝統の祈りを捧げている家族を祈りが終わるまで見守った		
9	1	枕元にはさみを見つけても(島の風習であることを知っているので)邪険にすることなく「気をつけて置いてください」と話す	<魔除けの儀式を支持する>	
9	2	枕元に塩が置かれていることをよくみかけますが、勤務中に塩の入った袋を携帯している看護師もいるので、注意したりしない		
25	2	生活保護の高齢者が、供え物の購入を禁止され幻聴が出るほど思い詰めていたので、生活保護ワーカーと相談し希望をかなえた		
21	3	伝統行事(十五夜)に本物の獅子によるお祓いはできないが、代替えの獅子を訪問看護師仲間で作くり十五夜の夜に近隣の高齢者も誘い、お祓いをした		
19	5	外出しながら高齢者に外出もしてほしいが、朝昼晩、拝みの道具を並べて祈っているのでも今までやってきたことを支持して好きなようにさせている		
7	2	バイタルは落ち着いているが「気分が悪いので拝みが必要だから家族に連絡したい」と訴えている高齢者に、病院の携帯電話を貸して家族に連絡を取らせ、気の済むようにした	<身体的判断を超え高齢者の望みを叶える>	
7	3	処置中にいきなりパニック状態になり、ぶつぶつとしゃべり出し塩を要求したので、少しでも落ち着けばと思い要求に応じた		

表21 地域文化ケアの方法【地域文化でつくるケア関係】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
4	1	不穏のある患者を同じ地域の患者と同室にしたら方言での会話がはじまり、そのうち落ち着いた	<地域のつながりがケアに活かす>	【地域文化でつくるケア関係】
13	2	家に帰りたいと訴え続ける高齢者に同じ出身地であることを伝える		
6	7	高齢者が、医師に症状や訴えを表現できるように方言で「ツグスヤムヌ(膝が痛い)」と話す通訳し、安心して方言で話せるようにしている		
6	7	診断や治療に役立つよう、高齢者が語る方言を通訳している	<方言での会話を通訳する>	
7	1	県外の看護師が標準語で説明しているが、高齢者がちくはぐな会話をしている場面にでくわし、私が方言で説明したら高齢者はよくわかったという表情をした		
9	5	県外出身の私は、方言が通じないので、高齢者が方言で話しかけてきたら、地元の看護師を探し通訳してもらっている	<方言での会話を通訳してもらう>	
10	5	方言が聞けない、話せない私は、方言で高齢者が話し始めると、方言の聞ける人に解説してもらい、訴えを理解し「こうしようね」とケアに活かしている		
26	8	方言が理解できなかったので、方言が良く聞けて、よく話せる人に引き継ぎ通訳してもらう		
8	5	方言を交えてコミュニケーションを取り親しくなった患者から「誰にもいえないところがかゆい」と陰部掻痒感を訴えられ、帯状疱疹の診断を受け、治療につなげた	<方言でのコミュニケーションを認め重宝する>	
4	6	方言での会話で高齢者の情報が詳しく把握できることを知っているので、高齢者が方言でしゃべり始めると、方言ができる看護職仲間に通訳を依頼している		
5	2	医師と共通語でどこちない会話をしている高齢者に方言で話すことを促すために方言で語りかけると、方言を交えて症状を伝えられた		
20	1	保健師活動では、対象の生活背景を理解のために意識的に方言で育った地域のことを方言で語らせるようにした		
26	3	共通語で話が続かなくなったときに、「方言で話してもいいよ」といったら、ぼそぼそと語り始めるので本人の意思を確認しながらケアが組み立てやすい		
26	3	共通語で話す、家族が主導権を握って本人が黙ってしまうので、本人の意思を確認するときには方言での会話を促す		
27	1	共通語での会話で緊張感を持つこともあるので、地域や過去の職業を開き、方言での会話を使い分けている		
27	1	共通語では話しにくいことでも、方言での会話は本音が出やすいので、こちらから方言で話しかけるようにしている		
27	2	帰宅願望のある徘徊する高齢者でも、方言で関心を寄せそうな過去の話をしながら一緒に馴染みの地域を歩く		
22	5	方言が馴染みややすい高齢者には、こちらから方言で話しかける		
22	1	方言での会話は親近感が増すので、特にターミナルケアの時には高齢者と方言で語り合うようにしている		
26	6	高齢者から地域の行事の情報を方言を交えながら入手する		
28	4	高齢者との方言での会話は親しみが湧くので方言を使う		
35	4	島の言葉は島の人を結びつける宝と思っているので、要介護高齢者には方言で「がんじゅーいー(元気)?」と声かけするようにしている		
29	4	方言での高齢者との会話は冗談や言いたいことが言えるので、方言で話している		
30	7	方言は人間関係を柔らかくすると感じるので、高齢者には方言で話している		
31	4	高齢者には方言で話している		
33	4	冗談を交えながら高齢者と方言でコミュニケーションを取る		
29	4	認知機能が低下し、周囲に関心が持てない高齢者は、方言で怒ったり、笑ったりできるような会話をしている		
12	9	方言での会話は、メリット(落ち着く)とデメリット(乱暴に聞こえる)があるので、対象に合わせて使い分けている		
15	6	地域の子ども達が慰めで、方言での挨拶をしたら高齢者が涙ぐんだ場面に会い、方言の持つ高齢者ケア力に感動した		
34	1	高齢者との会話はできるだけ方言で話しかけるようにしている		
2	2	伝統行事食と一緒に食べながら調理方法や長男嫁としての伝統行事の苦労話を聞いた	<行事の話題で会話を膨らませる>	
1	1	高齢者の生活状況を把握するコミュニケーションの糸口として、地域行事のことを詳しく患者から聞くようにしている		
6	6	初めて出会う高齢者に「どこ生まれ」と尋ねて、伝統行事や、地域への関心度、つながりなどきっかけをみつけコミュニケーションを図るようにしている		
3	4	伝統行事や地域行事は地域によって異なるので、その話題を積極的に提供し、相談しやすい雰囲気づくりをしている		
20	6	地域が異なれば伝統行事も異なるので、新聞などで情報を仕入れ高齢者に話題を提供している		
27	4	高齢者の地域での地域行事や伝統行事を知っている、昔体験したと思われる行事について話題にする		
28	4	認知症高齢者であっても、伝統行事のことをよく覚えているので、話題にして語らせるようにしている		
33	6	島の伝統行事や地域行事に参加し、高齢者との会話で出来事を話題にする		
11	2	外出支援を好まない職員について、利用者との外出時の会話を楽しめるように誘っている		
11	7	地域行事や伝統行事の話題は、やりとりが楽しいのでコミュニケーションとして日常の施設ケアに取り入れている		
34	2	伝統行事(ハーリー)の日には、昔のハーリーのことを高齢者たちに語ってもらうようにしている		
15	7	話を膨らませて高齢者を理解したいので高齢者の出身地を把握するようにしている		<出身地の話題で会話を膨らませる>
14	5	誰もが生きることが精一杯だった時代を生きた高齢者に、出身地やその人自身について語れるように話題を工夫している		
14	5	(施設長の私は)高齢者が入所するには必ず出身地を聞くように伝えている		
15	7	共通の話題を見つけ距離感を縮めるために県外出身の私のことも話題にする		
18	4	高齢者の出身地を話題にし、高齢者の生活歴、関係者のつながりを把握するようにしている		
2	3	伝統行事や地域行事は地域によって異なるので、日常のケアで出身地を聞くようにしている		
15	8	手工芸(織物)をしていた地域であり、手工芸に関心があるので?と思い、母の手作りの小物を見せると若い頃の思い出まで話題が広がった		
11	12	高齢者の入所前の地域の暮らしを把握し、そのことを話題にしてコミュニケーションを図った		

表22 地域文化ケアの方法【地域文化を共感するケア】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー	
3	1	伝統行事の時期は島外からの面会者が増加することを予測し、病室で談話ができるよう環境を整えた	<行事重視を理解し、対処する>	【地域文化を共感するケア】	
1	3	入院中の高齢者は、1日、15日に仏壇の供え物をする人を探していたので、供えてくれる人が見つかったか確認した			
3	3	伝統行事への参加は「何とかしたい」と努力するが、「地域行事」への参加は高齢者からの相談があっても治療を優先させる			
1	2	看護職として地域行事(トライアスロン)に医療ボランティアとして参加している			
1	6	地域行事(運動会)は地域によって日程が異なるため、教育委員会に問い合わせ、病棟看護師が地域行事に参加できるよう師長として勤務を組んだ			
6	4	伝統行事が忙しく高齢者の介護が十分できないことで社会的入院になる患者を「仕方がない」と受け入れている			
3	2	伝統行事の準備の中心は長男嫁であるため、高齢者が長男嫁であるか否かを把握している			
8	2	伝統行事(十六日祭)に参加できず落ちこんでいた70代の高齢者に、「元気になってから事情を説明したら神様はとがめないと90代の高齢者が話していたよ」と作り話をして励ました			
8	3	伝統行事(墓参り)に参加できないと悩んでいた高齢者に、「神様は心が広いのでとがめないと励ました			
25	5	伝統行事には島外からの関係者の訪問があるか否かを前もって把握し、訪問計画をしている			
25	3	伝統行事での祈りの習慣や重要性を把握し、高齢者の心身の状況と照らして、やってきたことが継続できるように必要なケアを組み立てている			
22	3	仏壇を大事にしているので伝統行事には外泊を積極的にしている施設を紹介した			
21	8	足の不自由な高齢者が伝統行事の買い物に困らないよう、前もって声かけし自分の買い物のついでに買い物をする			
33	6	島の伝統行事や地域行事は、高齢者ケアにつながるので、仕方なく参加している			
31	3	昔からしてきた信仰の習慣として伝統行事(拝み)ができなくなっている高齢者が、困らないように準備をする			
35	1	島の行事を守ってきた高齢者は、優先して伝統行事、地域行事に連れ出している			
12	3	伝統行事に帰れない高齢者に配慮して伝統行事の話題は控えるようにしている			
19	8	伝統行事に自宅に帰れない女性高齢者から、伝統行事食を教えてもらっている			
34	3	伝統行事(ハーリー)が近づくと、高齢者達はそわそわするのでハーリーを話題にして盛り上がる時間を作る			
2	6	治療や手術の緊急性に照らして、主治医を交えて説得したり本人の生活を優先させたりしている			
3	6	伝統行事の役割があると、外来を焦るので、役割に配慮して外来受診日時を調整した			
2	2	自宅に帰れない高齢者に看護師が自宅で作った伝統行事食を病棟に持参し、高齢者に食べる機会を作った			<代替ケアをつくる>
2	4	地域行事(敬老会)を重視する地域の高齢者が敬老会までに退院できなかったので病院で敬老会を開催することを提案し、実施した			
8	1	地域行事(敬老会)に参加できない高齢者に少しでも癒やしになればと思い、医師や看護師仲間を巻き込んで手作り地域行事を開催した			
2	5	夜の地域行事(なりやまあやぐ大会)の鑑賞会を高齢者と一緒に参加する提案をし、家族と調整し主治医を誘って一緒に参加した			
10	4	伝統行事(十五夜)を味わってもらうために、おはぎを買ってきて一緒に食べて行事の雰囲気を楽しんでいる			
10	6	若い頃楽しんだ地域行事(運動会)の話題がでるので、施設で運動会を実施し、対象の状態にあわせて見学や応援を手伝っている			
12	3	伝統行事に帰れない高齢者には、厨房から伝統行事にちなんだ料理を出している			
20	5	地域で敬老会に参加できなかった寂しさを埋め合わせるため、施設での敬老会では、私の得意のオカリナを演奏する			
26	5	伝統行事で施設に残っている高齢者には、一緒に食事をつくるなどのイベントを企画している			
27	6	家族との折り合いがつかず施設に残る高齢者には伝統行事食をつくって一緒に食べる			
36	4	伝統行事(八月踊り)への参加は家族の反対で叶わなかったが、代替案として同級生に伝統行事当日に訪問を依頼し伝統行事について語ってもらった			
32	3	島の人々が集う伝統行事(ハーリー)が好きなのに、要介護状態の姿を見られたくないと訴える人がいるので、ビデオを撮影し、デイサービスで伝統行事(ハーリー)の上映会をしている			
11	10	伝統行事に帰れない高齢者には施設内で月見会をしたり、「家の方向に向かって手を合わせようね」と支援している			
19	7	伝統行事(旧正月)に自宅に戻れない高齢者たちと、三味線を弾いてうたを歌ったり、伝統行事食と一緒に食べる			
34	3	伝統行事(ハーリー)に参加できない高齢者のためにビデオに録音し、映像を見せている			
36	7	ハーリー(伝統行事)に参加できない高齢者のためにビデオ撮影をし、事業所で上映した			

表22 地域文化ケアの方法 【地域文化を共感するケア】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
10	1	海の近くにある施設であり、浜下りする伝統行事(サニツ)には、おやつを準備して、声かけてでかけ、車いすごと浜辺に下し楽しむ	<慣れ親しんだ行事に誘い連れ出す>	【地域文化を共感するケア】
10	2	決まった日(七夕、十六日)にしか墓参りのできない地域であるので、その日は、施設内にある納骨堂に手をあわせることを手伝っている		
20	2	歌の好きな寝たきり高齢者と島の民謡を一緒に泣きながら歌った		
20	7	地域行事(運動会)の話題になると高齢者は生き生きするので、高齢者が沈んだ表情をすると運動会の歌や校歌を歌うことを提案し、職員もみんな一緒にうたう		
26	2	女性の高齢者には、伝統行事(浜下り)に参加し元気になってもらいたいと思うので、意図的に誘っている。		
26	6	地域の行事を地元のテレビなどで情報入手し、高齢者を誘い一緒に参加する		
27	3	地域にある昔からの踊りを一緒に誘って踊る		
28	4	伝統行事で役割が果たせない高齢者でも、できるだけ行事に参加してもらおう		
28	5	要介護高齢者は、島の人が集まる伝統行事や地域行事に連れだし、参加してもらおう		
28	1	伝統行事の準備で線香を供えるのを手伝った後、要介護高齢者に線香が消えるまで見守るように声かけをする		
35	1	カツオ漁で家族を支えてきた認知症の男性高齢者には、昔の記憶を呼び戻せるよう伝統行事(ハーリー)に連れ出した		
35	3	島出身者が帰省する島最大の伝統行事(みゃーくづつ)に、要介護高齢者を連れだしている		
29	3	要介護状態になっても、島の人が集まる伝統行事(ハーリー)に連れ出している		
31	7	認知機能が低下していても、昔楽しんだ伝統行事(ハーリー)に連れ出している		
31	5	地域行事(運動会)がある時は、デイサービスで過ごすことが多い高齢者を強く誘って一緒に参加する		
31	8	伝統行事(みゃーくづつ)へ、要介護高齢者が参加できるよう連れ出す		
32	7	地域行事(トリアスロン大会)には、要介護高齢者を連れ出し、一緒に応援している		
33	1	高齢者が学校行事や地域行事へ参加できるよう送迎をしている		
33	3	意思表示ができない重介護の高齢者でも、家族の後押しを受けて地域行事へ連れ出し、参加を手伝う		
33	2	介護度が高く、地域行事への誘いに応じない高齢者には、その気になるまで何度でも誘う		
33	7	心身機能が低下している高齢者は、島の地域行事や伝統行事への参加を拒むことがあるが、参加を促している		
30	1	ふだんミキサー食の高齢者でも、行事の時には、行事食であることがわかるように調理を工夫している		
29	3	認知症のために、伝統行事(ハーリー)のことが理解できなくなっている人には、傍でハーリーのことを話題にする		
11	1	施設入所者の地域の伝統行事や地域行事を調べて、日時・場所に合わせて、高齢者の外出支援をしている		
12	11	高齢者が元気がない時、落ち込んだときには笑顔を取り戻せるケアとして伝統行事や地域行事に誘っている		
14	3	地域行事(トリアスロン)は、準備の段階から地域全体の参加で開催されるので、施設の高齢者も応援する参加を企画し、毎年実施している		
12	10	地域行事や伝統行事に乗り気でない高齢者も、「行きたい」と思えるよう工夫して誘っている		
18	3	体調が少々悪く、来年はないかもしれないと思い、若い頃役割のあった伝統行事(みゃーくづつ)に誘った		
19	4	地域行事(トリアスロン)は、準備を施設で行い、当日は地域の人々とテントの中で一緒に応援する		
34	4	伝統行事は島の情報を知るいい機会なので、島での出来事をたくさん提供している		
36	7	認知症であっても、ハーリー(伝統行事)には参加を促している		
11	8	外出を好まない施設利用者をドライブしながら「家を見てみよう」と誘い出す	<慣れ親しんだこととの触れ合いをつくりだす>	
12	8	農業をしていた高齢者に馴染みの農作業を習いながら、一緒に野菜作りをした		
13	1	帰宅願望がある高齢者の帰りたい気持ちを察し、一緒に外出して馴染みのある地域を歩く		
14	1	伝統工芸(宮古上布)の材料を(チョマ)を施設の中庭で栽培し、職員で収穫して、高齢者に宮古上布を紡げるようにした		
18	1	高齢者が暮らしていた地域に複数で外出し、若い頃集まった場所でお茶会をしたり、地域の売店で買い物をしたり、地域の人々の歓迎された		
17	8	人との交流が得意でない高齢者が若い頃にやっていたこと(豆を蒔き、収穫し、調理してみんなに振る舞う)を一人でやり遂げられるように企画し、取り組んだ		
15	4	集団のケアに馴染まない高齢者の地域を思いだし、特技(三味線を弾く)を見つけ、一緒に歌った		

表23 地域文化ケアの方法 【習い続ける地域文化】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
4	4	見舞客が持ってきた方言の本をみて、高齢者に「わからないから教えて下さい」と頼むと、高齢者はうれしそうに教えてくれた	<方言を学ぶ>	【習い続ける地域文化】
36	5	方言は高齢者たちの会話の主流であるので、方言を必死で覚え、方言を交えて会話するようにしている		
30	6	要介護高齢者が方言の歌を子供たちに教えるときには一緒に参加する		
28	4	方言で会話をしながら、敬う言葉や伝統行事の祈りの言葉を、要介護高齢者から習う		
15	3	よりよい信頼関係を高齢者につくりたいので、方言を理解する努力をしている		
11	9	方言の話せる職員との会話は楽しそうなので、利用者の話が聞けるように方言を勉強し、聞くことだけでもできるようにしている		
4	5	「鳥のことをもっと教えるので自宅に遊びにおいで」と誘われ退院後、方言や伝統行事を学びに高齢者宅を訪問した	<行事を学ぶ>	
21	1	伝統行事(十五夜)を味わってもらうために、過去にやっていたおぼろ餅づくりを習いながら訪問看護師仲間も誘って一緒につくった		
28	3	芋料理を配りながら、伝統行事のやり方を教えてほしいと、一人暮らし高齢者へお願いしている		
33	8	デイサービスで行事のことを話題にしながら、要介護高齢者から行事の段取りを習う		
14	2	過去の暮らし(地域の豆腐づくり)の材料を仕込んで、高齢者から学びながら一緒に豆腐づくりを再現した		
19	8	高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい		
3	7	高齢者がたくさんいる地域の行事に救護班として参加しながら、地域行事を学ぶ		

表24 地域文化ケアの方法【地域文化の周知と啓蒙】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
3	1	県外出身の看護職が「ルールを守らせて下さい」と発言しても、見舞客の面会を優先する必要性を伝えている	<地域の価値を病院に啓蒙する>	【地域文化の周知と啓蒙】
1	4	「病院の敷地内に拝所がほしい」との患者家族からの要望に応じて、その設置にむけて病院長、事務長と検討し、予算を工面して実現にこぎ着けた		
1	3	自宅で亡くならないと成仏できない島の高齢者であることを看護師に伝え合うようにしている		
1	5	地域で行われているエンゼルケア(葬儀屋)と病院のエンゼルケアが異なっていることを知り、葬儀屋と話し合い折り合いをつけた		
3	2	病棟のカレンダーに伝統行事はマークしている		
6	5	盛大な伝統行事の日に検査を入れようとする新米の医師には、伝統行事について解説し、別日程の調整を依頼している	<行事の大事さを病院・施設に周知する>	
11	11	伝統行事や地域行事への外出支援の良さを新人職員の研修会で話す		
12	11	職員研修会で、地域行事に参加することで施設では見ることのできない高齢者の表情があることを伝えている		
14	3	(施設長の私は)どの地域行事でも、外出を支援し地域と交流する機会を持つよう、職員に指示している		
14	4	(施設長の私は)地域行事は季節感を味わう機会になるので、職員に地域行事に参加するケアを促している		
16	3	伝統行事(十六日、旧盆)が近づくと落ちつかない高齢者をよく見かけるので、管理者の私は家族の協力を得て自宅で過ごせるよう職員に指示している		

表25 地域文化ケアの方法【みんなで育み続ける地域文化ケア】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
25	1	伝統行事の儀式(行事の祈り役)の締めくりへの参加を介護のためにあきらめかけている嫁介護者に、娘の了解も得て、要介護高齢者のショートステイ利用を支援した	<家族が行事を安心してできるよう工夫する>	【みんなで育み続ける地域文化ケア】
21	9	伝統行事の墓参りには、要介護高齢者の家族が安心して墓参りできるよう訪問看護の時間を調整している		
25	1	嫁介護者を、伝統行事の締めくりに参加させてくれた要介護高齢者に「ありがとう」と感謝した		
36	3	エンゼルケアとして家族や身内で入浴の習慣を持つ地域で、専門職として入浴のしやすい用具や方法を伝える		
17	1	(管理者の私は)高齢者だけでなく、職員の出身地も把握するようにしている	<高齢者と職員が行事ができるよう工夫する>	
16	5	伝統行事(十六日、旧盆)は、職員も高齢者もできるように、同じ地域はペアを組む調整をしている		
6	8	伝統行事は病棟スタッフもみんなでやることなので、長男嫁を優先して勤務調整をした		
36	6	島出身の職員が高齢者の地域行事(運動会)への支援と住民としての参加の調整をした	<つながりのある人々(家族・地域住民・事務職・専門職)をケアに巻き込む>	
21	2	町並みを美しくするために植栽を推進している高齢者を支持し、訪問看護師仲間にも声かけして夜の花見会を高齢者宅で行った		
21	5	最期のエンゼルケアは、馴染みの宗教仲間にも声かけし、一緒に行った		
21	7	人工呼吸器を装着している高齢者が安全に地域行事(トライアスロン)に参加できるよう、本人、家族の協力を得て街頭応援の参加を支援した		
21	11	緊急事態の高齢者のケアを保健所保健師と一緒に協力しながら行った		
11	3	外出支援でケア提供者が足りないときには、事務職も巻き込む		
11	6	伝統行事はできるだけ家族の支援を依頼し、地域行事は施設の職員で対応するようにし、関係者みんなで協力し合う		
11	6	伝統行事には私(職員)の仏壇もあるため、家族を巻き込んでいく		
11	11	新人職員を伝統行事や地域行事の外出支援に連れて行く		
11	12	リーダーの私は、高齢者の入所前の暮らしの情報を入手し、施設職員にも情報を提供した		
14	4	地域行事に継続的に高齢者の外出支援ができるよう職員の負担軽減のための工夫をしている	<ケアに高齢者の強みを借りる>	
35	7	みゃーくづつ(伝統行事)には全日程、要介護高齢者が参加できるように、職員間の業務調整をする		
17	1	(管理者の私は)同じ地域の高齢者と職員をマッチングさせ、地域行事に高齢者を連れ出している		
17	7	(管理者の私は)職員に高齢者の夢を叶えるために外出支援を時間外で依頼することは強制できないので、理解してくれる職員に協力を依頼している		
15	3	県外出身の私が高齢者同士の方言での会話に入れないことで関係性が崩れないように高齢者に気遣ってもらっていると感じる		
15	5	特技(三味線を弾く)が見いだせたので、一緒に歌う機会をつくったり、施設のイベントに三味線の披露をしてもらった		
18	2	高齢者を連れ出し家族と待ち合わせ、地域の美容室に出かけたら、予想外の近隣の歓迎にあった		
18	5	高齢者を地域に連れ出すと、高齢者は地域に詳しいので職員を案内してもらい、主導権を握らせる		
18	1	仏壇のある家に訪問したら、親戚、近隣が家に入らないぐらい集まり、高齢者を歓迎してくれた		

表26 地域文化ケアの方法【家族のようにつながり続けるケア】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
15	2	私のメンタルケアが必要な時に、高齢者に一緒に拝みをしてほしいとお願いしている	<自分のために祈りを願う>	【家族のようにつながり続けるケア】
30	5	高齢者と家族の思いが違う時には、高齢者の島にいたい気持ちに肩入れするだけでなく、家族の介護負担に配慮し、家族を癒すようにしている	<家族の介護をねぎらう>	
30	5	高齢者と家族の思いが違う時には、家族の介護負担に配慮し、差し入れや生活のためにできることを探し、手伝いをしている		
28	2	担当している高齢者が入院中に会いたがっていると知り、業務ではないが仕事の合間に病院に見舞った	<業務を越え家族のようにつながり合う>	
17	2	地域行事は、新聞などで情報収集し時間外に高齢者と一緒に出かけている		
32	6	仏壇のある家に、朝のヘルパー業務で訪問するときは、「今日も一日、利用者も、私も家族同様お守りください」と必ず仏壇に手を合わせる		
28	2	病院に見舞いに行くとき「自分は死んだほうがいい」と話すので、「私のお母さんのように大切にすることから、そんなことを言わないで」と伝え、2人で抱き合って泣いた	<家族のように大切に>	
28	3	長年芋料理を届けた高齢者が亡くなった時には、四十九日まで家族のように芋料理を届け、供養している		
28	3	自分の親が好む芋料理を、毎週日曜日にたくさん調理し、島の一人暮らし高齢者へ配布している		
28	3	一人暮らしの高齢者には、芋料理の好みを聞いて、好きな人に届けている	<生活の喜びをおすそ分けする>	



表27 地域文化ケアの方法【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
34	5	高齢者と子ども達との交流の機会を日常的に作っている	<子どもと関わり高齢者の力を活かす取り組み>	【高齢者の地域づくり文化力を活かす地
34	8	高齢者が尊敬されるよう、子ども達がシマを誇れるよう高齢者の力を子ども達の教育に活かす取り組み(シマ学校)を始めた		
34	9	要介護高齢者の力を借りて、シマの童歌を一緒に掘り起こした		
34	10	掘り起こした童歌を子ども達に教えて発表会で地域の人々に披露した		
35	5	学校からイベントの招待があると、子ども達を元気づけるために要介護高齢者と学校行事に参加する		
19	9	重度の認知症高齢者のできること(幼少期の方言の歌)を見だし、イベント時に披露させたり、地域の子ども達に教えて歌ってもらう機会を作っている	<島での暮らしの継続と活性化>	地
34	6	高齢者がつくってきた世界は島にあるので、島での暮らしの継続できるような支援をしている		
34	7	高齢者の生きてきた知恵(命の大切さ、違いの受け止め、心に響く語り)を活かす活動(民泊事業)を始めた		

表28 地域文化ケアの方法【みんなで創り広める地域文化ケア】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
20	4	寝たきり高齢者の外出支援について、専門職、行政、住民で話し合い、一緒に考え、活動をスタートさせた	<つながりのある人々を巻き込みケアを発足させ、広める>	広 め む ケ る ん ナ ら の 地 域 で 文 化 創 化 し たい
21	10	看護の日には、家族、住民ボランティア、医療者を巻き込み、医療的支援が必要な高齢者の外出を支援するイベントを企画し、毎年実施している		
20	4	誕生した寝たきり高齢者の外出支援は、近隣の町村とも話し合い、活動を広げた		

表29 地域文化ケアの意図

サブカテゴリー	カテゴリー
<行事には自宅で過ごしてほしい>	【家族・関係者との交流・つながりの支持】
<行事は、つながり・交流の機会にしたい>	
<最期までつながり・交流を維持したい>	
<地域とのつながり・交流の機会をつくりたい>	【個人の生きてきた価値の支持】
<染み込んだ習慣をやり遂げさせたい>	
<「家で死ぬ」を叶えたい>	
<祈りの価値を認めたい>	
<行事に参加できない痛みを受け止める>	【地域に息づく価値の支持】
<地域の習慣を大事にしたい>	
<「地域で死ぬ」を叶えたい>	
<方言を援助に活かしたい>	【地域文化のケアへの取り込み】
<方言で関係を良くしたい>	
<つながりをケアに活かしたい>	
<行事を活かし生きがいに導きたい>	
<地域間の文化の違いを理解しケアに活かしたい>	
<行事を介護予防に活かしたい>	
<行事はケアを進展させる機会にしたい>	
<地元出身の強みを活かしたケアをしたい>	
<仲間同士で分かち合える話題づくりをしたい>	【地域文化の楽しみの想起】
<地域文化を楽しませたい>	
<地域文化を一緒に楽しみたい>	
<行事への思いを想起してほしい>	【地域文化の習熟と継承】
<方言を習いたい>	
<行事を習いたい>	
<行事を引き継ぎたい>	
<家族に行事を継続させたい>	【高齢者の地域文化への貢献】
<職員の行事も大事にしたい>	
<高齢者を地域文化に貢献させたい>	【地域文化ケアの育成】
<地域文化を育む看護職でありたい>	
<地域文化看護を育てたい>	
<地域文化ケアを育てたい>	【我が事のような相互依存】
<つながりのある人々(家族・地域住民・専門職)と協働でケアしたい>	
<高齢者に家族のようにお世話したい>	
<ケアの効果や達成感によって励まされたい>	
<高齢者も地域の一員として認めてほしい>	
<高齢者が心地よく暮らせる環境をつくりたい>	
<自分のために祈ってほしい>	【地域文化によるケアの創造】
<地域文化ケアを波及させたい>	
<看護実践を文化にしたい>	

表30 地域文化ケアの意図【家族・関係者との交流・つながりの支持】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
3	2	伝統行事は、できるだけ自宅で家族や関係者と過ごしてほしい	<行事には自宅で過ごしてほしい>	
24	2	伝統行事の日は、できるだけ自宅で家族と過ごしてほしい		
2	1	行事は忙しいので患者が帰ると家族も大変だと思うが高齢者の思いを大事にし、伝統行事の時は家で過ごさせたい		
8	4	伝統行事への参加許可がおりず落ち込んでいる高齢者に、外泊が無理でも数時間の外出にでも代替させたい		
8	4	伝統行事を地域でしてほしいと思うので、外泊ではなく外出許可になったことを、一時でも地域に戻れることを意味づけ、一緒に喜びたい		
26	4	伝統行事の時には、親戚が島外からもたくさん集まるので家で過ごしてほしい		
30	8	伝統行事の日は、家で家族、神さまと一緒に過ごしてほしい		
33	5	伝統行事(仏壇行事)は、自宅で一緒に家族、親族と過ごしたいという希望をかなえたい		
11	4	伝統行事は、できるだけ自宅に戻り家族と過ごしてほしい		
11	5	誰でも施設ではなく自分の家が良く思っているの、帰りたいときには帰してあげたい		
2	1	行事には日頃会えない人たちも集まるので、交流の機会にしたい		
2	1	高齢者は行事に参加するといいい表情をすることをこれまでの経験で知っているの外出や外泊を渋っていた家族も高齢者の表情を見て喜ぶと思える		
3	1	地域行事や伝統行事に参加できない入院中の高齢者と島内外の関係者のつながり続けさせたい		
3	2	伝統行事には島内外から関係者が集まるので高齢者とその仲間を入れ交流させたい		
3	2	高齢であればあるほど、伝統行事に参加する機会が限定されてきているので、来年はないかもしれないと思うと参加させたい		
24	2	行事にみんなで集まり顔を見せ、ふれあうことでつながりが確認できることは大事なことだと思う		
10	6	地域行事を施設で実施することは、高齢者と職員の交流の機会になる		
27	5	伝統行事の来客は仏壇への拝みだけでなく、高齢者にも会いに来るので、高齢者を来客者に会わせたい		
9	4	伝統行事には島外から親戚や孫が帰ってくるので、皆が集まって元気になり戻ってきたらいいと思う		
21	7	地域行事(トライアスロン)を、引きこもりがちな要介護高齢者と地域の人の交流の機会にしたい		
21	4	訪問時、何度も「前の職場(施設)を見てみたい」と訴えるので、地域行事(施設の祭)の機会にその思いを叶えたい		
28	5	要介護状態でも、島の人とふれあう機会をつくりたい		
35	3	要介護状態になっても、島最大の伝統行事(みゃーくづつ)で帰省した島の人にあってほしい		
29	3	伝統行事(ハーリー)は、島の人がたくさん集まるので、島の人との交流の機会にしたい		
35	2	島内外から人があつまると伝統行事に参加して、島の人と交流し絆を深めてほしい		
32	2	島内外から島の人が集う伝統行事(みゃーくづつ)に参加させ、島の人と要介護高齢者との交流の機会にしたい		
32	4	伝統行事(ハーリー)では、島の人たちと会えるので、島の一人として一緒にいて、日常のデイサービスとは違う交流を楽しんでほしい		
31	5	地域行事(運動会)に参加することで、屋外まで活動範囲を広げ、島内外の人と交流してほしい		
35	3	要介護状態でも、伝統行事(みゃーくづつ)に参加することで、帰省者と交流し、うれしい、楽しいという思いを味わってもらいたい		
11	1	地域行事や伝統行事の場に施設入所者が地域に出向き昔の知り合いと交流させたい		
11	2	地域行事や伝統行事の場には、地域の人々が集まるので、日頃面会に来られない方でも会う機会、話をする機会にしたい		
16	1	伝統行事に参加し地域との交流の機会となり、当時の楽しい気持ちに戻ってほしい		
16	6	地域行事の機会を捉えて、家族や親戚と交流させたい		
19	1	地域行事に参加して、家族と交流させたい		
9	3	危篤状態であれば、ずっとそばにいたい心情を察して、面会時間以外の面会や付き添いをさせたい	<最期までつながり・交流を維持したい>	
21	6	最期の誕生日に好きな食べ物を食べさせ、みんなで祝ってあげたい		
12	1	施設にいても地域との交流を深めるために外出の機会を作りたい	<地域とのつながり・交流の機会をつくりたい>	
12	2	施設に入所していても、外出の機会を多くつくり地域との交流を深めてほしい		
17	3	地域に出ると地域の人と出会い、方言で自由に話せるので、高齢者に楽しんでほしい		
18	1	馴染んだ地域での関係者との関わりによって、地域と高齢者をつなぎ止めたい		
34	4	要介護状態であっても、島の一人として連帯感を持って日々を過ごしてほしい		

表31 地域文化ケアの意図 【個人の生きてきた価値の支持】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
8	1	最大の地域行事(敬老会)には高齢者を参加させたい	<染み込んだ習慣をやり遂げさせたい>	【個人の生きてきた価値の支持】
5	1	島の地域行事(入学祝い)は盛大であることを知っていたので高齢者も参加させたいと思った		
3	2	伝統行事は大事にしているので、入院中であっても参加させたい		
7	4	高齢者を中心に執り行ってきた伝統行事には、高齢者にとって大切なことであるので何より優先して伝統行事に参加させたい		
2	2	病気になる人は誰でも神頼みをするので神事や行事はできるようにしたい		
2	2	高齢者がこれまで家でやってきた神事や行事を続けさせたい		
4	2	元気な頃、伝統行事で役割を担っていたことを知っていたので、その生活に近づけたいと思った		
4	7	行事の時の地域のリーダー(区長)の役割は代替えがきかず重要であると思ったのでその役割を担わせなかった		
10	4	昔からこの地域でやってきたこと(十五夜にはおはぎを食べる)をやり、伝統行事の雰囲気味わってもらいたい		
10	4	伝統行事を味わうことは、入所中の高齢者であっても、やるべきと思っている		
10	4	小さい頃からやってきた身体に染みついていて伝統行事は、身体が不自由になってもやりたい気持ちがあると思うので援助して続けさせたい		
25	2	本家に伝統行事に供え物を持参し線香を挙げたい気持ち共有できるので生活保護世帯であってもできるようにしたい		
25	4	祖母が伝統行事(浜下り)には、手足を海水で洗い清めていたので、要介護高齢者でも「当たり前にするべきこと」であると思う		
26	1	これまで参加してきた伝統行事は継続して参加したいだろうと思う		
22	3	仏壇を大事にしていること、施設入所後も伝統行事には自宅で過ごしたいことを把握していたので、できるようにしたい		
21	8	買い物ができないことで伝統行事ができない高齢者をつくらないようにしている		
36	3	家族や身内の行うエンゼルケアを認め、かつそのケアを容易にするための支援を行いたい		
26	2	これまでやってきた伝統行事に参加して元気になってほしいと思い、手伝ってできるようにしたい		
29	1	一人暮らしの要介護高齢者が、行事をきちんとしたい気持ちがあることを知っているの、行事ができるよう手伝う義務があると思う		
31	8	伝統行事(みやーくづつ)は、高齢者にとってはやるべきことであり、やらないといけない思いがあると思う		
29	2	一人暮らしの要介護高齢者が、家で行事ができるよう手伝うことは当たり前のことと思う		
31	2	どんなに忙しくても、伝統行事が高齢者でもできるように手伝いたい		
29	3	本人が表現しなくても、島の伝統行事(ハーリー)に参加してきたことを知っているの、その気持ちに込めたい		
35	2	要介護状態になっても、これまでやってきたことを、続けて参加させたい		
31	1	高齢者の毎日の生活習慣を続けられるようにしたい		
31	8	伝統行事(みやーくづつ)に要介護高齢者の参加を支援し続けたい		
31	3	高齢者が伝統行事(拝み)をするために、危険な行動は避けてほしい		
33	9	高齢者は、伝統行事の準備を気にするので、その気持ちを汲み取り、できないことを手伝いたい		
31	3	「伝統行事(拝み)の準備を手伝ってほしい」と訴えがなくても、高齢者がやりたい思いを察して手伝いたい		
35	1	要介護状態になったことで地域行事に参加できない理不尽さを解消したい		
28	1	島のヘルパーとして、どんな人の話も聞いて、誰も伝統行事に困らないようにしてあげたい		
11	8	家族と関係性が取りにくい高齢者でも自分の家は見たいと思う		
12	5	施設での生活は単調なので、地域に出かけて生活に変化をつけたい		
14	4	施設の中では季節を感じる機会が乏しいので、地域行事に参加して季節感を感じてほしい		
18	3	次がないかもしれない(年齢や状態から次の祭まで生きていないかもしれない)ので、今年の伝統行事に少々無理をしても参加させたい		
15	6	高齢者にとって方言は、人生の中で身体に染み込んだ大切なもので威力がある		
11	3	行事に参加し高齢者を元気にしたい		
19	3	高齢者が継続してきたことや大事にしていること(誕生祝い)は叶えさせたい		
19	5	高齢者の気が済むように、施設でも本人が大切にできてきたやりたいことを支持したい		
19	6	認知症高齢者を説得をするよりも、やりたいことが理不尽であっても満足するまでさせたい		
23	4	伝統行事(十六日)に参加したい高齢者の思いを代弁してでも叶えたい		
34	3	要介護状態になっても、昔から自然発生的に繰り返される日々の暮らしを届けたい		
16	2	伝統行事の墓参りに参加したい思いを叶えたい		
23	1	高齢者が毎年参加している伝統行事(みやーくづつ)の参加を続けさせたい		
23	3	家族の介護負担を軽減し、高齢者に墓参りに参加させたい		
17	7	高齢者の夢(出かけたい場所)を実現させたい		
17	6	背中を押して、あきらめ掛けているやりたいことを語らせ、やってきたことをできるようにしたい		
34	9	残り少ない日々を楽しく、幸せに、安心して、穏やかに過ごしてほしいので、島で生きてきた高齢者の世界を人生の最期まで継続させたい		
3	6	外来受診の日時調整の希望は、住民のわがままではないので、地域の行事での役割は病気をしている、みんなに担わせるようにしたい		

表31 地域文化ケアの意図 【個人の生きてきた価値の支持】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー	
3	5	人生の最期ぐらいは本人の希望を叶えてあげたい	<「家で死ぬ」を叶えたい>	【個人の生きてきた価値の支持】	
3	5	終末期で自宅に帰りたい人の心情は生きてきたところにいると思うのでそれができるようにしたい			
6	2	自宅死をあきらめている高齢者でも、隠れたニーズ(人生の最期は家で過ごしたい)に沿いたい			
24	1	病院より在宅は家族との距離が近くなり伝えたいことが伝えられやすく、家族の絆が持ちやすいので在宅看取りを推進したい			
24	1	最期の場で感謝のことや心の交流が持てることは大事なことであり、それは在宅看取りでできる			
6	1	自宅で看取る価値を持つ島の高齢者と家族の思いを遂げられるようにしたい			
21	5	宗教仲間のケアを受けながら自宅で最期を迎えることを希望していたのでその希望を叶えさせたい			
34	6	要介護状態になっても島外にでることなく「家の畳の上から」人生を終えてほしい			
3	4	終末期の患者には、家に帰りたい思いを表出させ、自宅で死ぬ準備を始めたい			
7	2	意味不明なことでも、先祖崇拝の信仰がらみで依頼されることは必要なケアと思う			<祈りの価値を認めたい>
7	3	邪気を払うため塩をまく生活体験があったので、邪気を取り除き安楽にするケアは必要である			
4	8	亡くなった人のそばで拝みにより魂が宿るとの価値を支持したかった			
6	3	非科学的と思えるようなこと(ペットのそばに塩と葉っぱを置く)でも家族の要望であれば、治療に影響ないことは支持したい			
6	3	家族の祈祷したい願いを病院は受け止めるべきと思う			
7	3	パニック状態に陥っている高齢者が祈ることで処置の継続ができるなら祈ることは必要と思った			
9	2	看護師仲間で霊感の話題があり、病院は信仰を否定する場所ではないので危険なく、節度が守られていれば患者の信仰の行為を認めたい			
10	2	納骨堂に身内が納められている高齢者は、日々のケアの際に「手を合わせたい」との希望を聞いているので、本人の希望することを援助したい			
25	3	伝統行事の祈りの価値は個性があるので、その状況を把握し、必要であれば当たり前の活動が継続してできるように支援したい			
22	2	高齢者の仏壇の継承の悩みが心身機能に影響しているため、その悩みを取り除きたいので家族に代弁する必要がある			
21	3	伝統的な習慣を大切に生きてきた高齢者が、体調が悪くなったことを「獅子によるお祓いをしていないから」と気にしている気持ちを軽くしたい			
30	2	高齢者が、熱心に仏壇に手を合わせる様子から、「困ったときの神頼み」を感じるため、その思いが遂げられるよう手伝いたい			
32	1	昔から健康祈願としてやってきた当たり前のことなので、要介護状態でも続けられるようにしたい			
31	3	信仰の習慣である伝統行事(拝み)については、十分理解していないが、親がやっていたことでもあるので、高齢者たちを手伝いたい			
15	1	高齢者が大切にしていること(仏壇に拝みをした)を大切にしたい			
3	2	地域で生きている人は伝統行事を大事にしているし、私も大事と思う	<行事に参加できない痛みを受け止める>		
6	4	伝統行事は高齢者と一緒にみんなでやりたいが、高齢者が入院しているので、できない心情を理解しできるようにしたい			
8	2	伝統行事に参加できず落ち込んでいる高齢者を「参加できないことは(神様から)許される」と作話をしても慰めたい			
8	3	伝統行事に参加できず落ち込んでいる高齢者を「神様の広い心は許してくれる」と励ましたい			
26	5	伝統行事に帰れない高齢者のために施設でイベントを企画し、寂し思いをさせないようにする			
11	10	伝統行事に家に帰れない高齢者の思いを慰めたい			
12	7	落ち着かなくなるのは、伝統行事に参加したいのかもしれないと思う			
16	4	高齢者の習慣(毎朝仏壇にお茶を供える)ができないことは、むなしく悲しいことだと思うので、高齢者に詫言いたい			
19	7	伝統行事(旧正月)に自宅に帰れない高齢者の寂しい思いを軽減したい			
19	8	女性が家に帰って伝統行事食をつくりたい心情を察して、料理の由来や作り方を語らせたい			

表32 地域文化ケアの意図【地域に息づく価値の支持】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
5	3	高齢者が入院すると集落総出でお見舞いに来る習慣があることを知っているので、病院のルールを緩やかに解釈して面会させたい	<地域の習慣を大事にしたい>	【地域に息づく価値の支持】
5	4	地域は狭く情報が入りやすく、入院すると近隣も自分事のように心配するので、その関係性を入院によって途切れさせないようにしたい		
5	5	他人でも身近に感じる地域性があるので、面会者はできるだけ面会させたい		
3	2	行事に参加しなかったら仏壇の神様に怒られ高齢者の立場が悪くなるので、そうさせたくない		
3	3	伝統行事は治療より優先させたいが、地域行事は治療を優先させたい		
9	1	(県外出身の私は)ベットの枕元にはさみを置くことは危ないと思うが島の風習を認めたい		
3	5	島で生き、島で死ぬようにしたい		
4	3	島に住み続けることを希望している夫婦の暮らしを組み立てる必要があると思った		
3	5	離島であることが壁になって終末期に島に戻れないということは納得できない		
3	5	過去の島の診療所の経験から「医療のない島でも終末期にかえれないことはない。できないことはない」と考えた	<「地域で死ぬ」を叶えたい>	
12	4	施設が最期の場所だと感じていると思うからこそ、せめて高齢者が行きたい場所は連れて行きたい		
24	1	最期を看取することを大事にしている島の価値を支援したい		
30	4	私が高齢者の島にいたい思いを代弁することで、高齢者にも自分の気持ちを家族に伝えてほしい		
30	4	私が高齢者の島にいたい思いを代弁することで、家族に島にいたい高齢者の気持ちをわかってほしい		
30	4	高齢者の島にいたい思いを代弁することで、高齢者には島にいられるかもしれないという希望を持ってほしい		
23	5	経済的理由で施設入所のできない認知症の老夫婦を地域の人々の見守りを受け地域で住み続けさせたい		

表33 地域文化ケアの意図 【地域文化のケアへの取り組み】(その1)

ID	場面	キーセンテンス	サブカテゴリー	カテゴリー
4	6	高齢者の訴えを適切に把握しケアに活かすために方言を知っている看護師につなぎたかった	<方言を援助に活かしたい>	【地域文化のケアへの取り組み】
6	7	方言を交えて高齢者と会話することで、方言で症状などを訴えやすいようにする		
6	5	地域の高齢者は標準語で上手く話せない島民性を知っているので代弁する必要がある		
7	1	これまでの経験から高齢者が説明を取り違えないよう、不安がらないよう方言の通訳が必要と思った		
10	5	方言は慣れ親しんだ言葉で、方言でしか表現できないニュアンスもあるため、対象の理解に役立てたい		
26	3	方言での会話では高齢者の意思確認ができるので、家族の希望ではなく本人の意思を優先したケアを組み立てたい		
22	5	方言での会話では健康問題以外に生活上の課題も相談されやすい		
27	2	馴染みの地域と一緒に徘徊しながら、方言で過去の話をするので高齢者は安心して落ち着く		
26	8	方言を理解できないことで怒鳴られ困ったので方言のわかる人に引き継ぎ、高齢者の言いたいことを知りたい		
30	7	方言での会話で、認知症高齢者の笑顔を増やしたい		
8	5	方言での会話は何でも気さくに話し合える関係性がつくれる	<方言で関係を良くしたい>	
5	2	島の高齢者は、大きい病院では緊張することを知っているため、方言で声をかけることで言いたいことが伝えられるようになってほしい		
7	1	方言でしか会話できない高齢者に、標準語の通訳が必要であった		
5	2	一生懸命に標準語で訴えているが上手く表現できていない高齢者をみて、「方言でも良い」というメッセージを伝えたいと思った		
20	1	方言での会話は、気持ちの距離が短くなるので方言で語らせたい		
20	1	方言での会話は、コミュニケーションを形成する上で非常に重要なことだと思う		
26	3	高齢者は方言での会話は、共通語では語れないことも話してくれ、心を開き、心を許してくれるような気がする		
27	1	方言での会話は、緊張感をなくし関係性が深まる		
27	1	方言での会話は関係づくりができるので、ニーズを把握し共有できる(本音が聞ける)		
22	1	方言には、親近感をもたらす効果があり、看護技術にも勝る経験をしているのでターミナルケアでは意図的に方言で会話する		
20	1	方言で会話すると、気持ちをともにしたい、ともになれるので安心すると思う		
9	5	県外出身の私は、高齢者が方言で話しかけてきても全くわからないが、理解する必要性を感じる		
30	7	方言で話すことで、高齢者との関係をよくしたい		
33	4	高齢者がなじみやすい方言でコミュニケーションをしたい		
28	4	高齢者との方言での会話は親しみが湧くと思う		
29	4	認知症のためにすぐ忘れられるとしても、感情を表出しやすい方言で声掛け、刺激している		
12	9	方言の善し悪しを考えて使い分けるよう心がける		
11	9	高齢者は方言で話す方が自分の言いたいことがちゃんと伝えられると思う		
35	4	ケアの時は、厳しく伝えないといけないこともあるので、心の絆を保ち、いい関係を保てるよう方言を使うようにしている		
34	1	方言は使い慣れている愛着のある言葉で魂が入っているので方言で話しかけたい		
34	1	リズム良く会話し、高齢者の素直な心を引き出すために方言でキャッチボールしたい		
4	1	同じ島の出身者同士を同室にしたのは、出身者同士は安心するので落ち着くかもしれないと思った	<つながりをケアに活かしたい>	
5	4	面会者によって入院中の患者が元気になることを知っているため、見舞客は大事にしている		
4	3	これまで近隣と支え合って暮らして生きてきたことを知っていたので公的サービスも取り入れながら自宅に返せると思った		
33	1	学校行事や地域行事は、要介護高齢者と島の人との交流の機会ととらえ、高齢者ケアに活かしたい		
35	3	島の人たちのやさしさに触れることで、元気や勇気もらってほしい		
33	3	意思表示ができないが、島の人との交流で表情が和らぐので、意思表示ができなくても、デイサービスに閉じ込めず、地域に出したい		
11	2	地域に出向き利用者の知り合いから利用者の得意なことを聞きたい		
17	1	同じ地域行事を持つ高齢者と職員をマッチングさせることで一緒に楽しめる		



表33 地域文化ケアの意図【地域文化のケアへの取り組み】(その2)

ID	場面	キーセンテズ	サブカテゴリー	カテゴリー	
7	4	伝統行事に参加することで、高齢者に「まだまだできる」という自信につなげたい	<行事を活かし生きがいに導きたい>	【地域文化のケアへの取り組み】	
26	1	伝統行事への参加は、生きる意味、楽しみにつながるので参加を手伝いたい			
22	6	高齢者は地域には愛着があると思うので、運動することを地域で出かける意欲につなげたい			
21	1	高齢者の特技(伝統行事の仕方や料理など)をみつけてケアに活かしたい			
26	1	伝統行事に参加することで、生きる手助けになる、元気になってほしいと思うので希望を叶えたい			
23	2	元気な頃にしてきたことで最期の思い出をつくりたい			
28	1	伝統行事を手伝う時は、要介護高齢者が出来る役割を見つけ、参加できるようにしている			
28	4	要介護高齢者は、伝統行事のことを語る時は誇らしげなので、伝統行事のことを語らせたい			
35	2	要介護状態になっても、昔を懐かしみ、喜びを島の皆と分かち合うことで、生きる気持ちになることを期待したい			
12	2	地域行事に連れ出すことで、施設のなかでも自由があることをわかかってほしい			
12	2	施設の中でも地域行事への参加を通して過去の暮らしを思い出し生き生きとしてほしい			
12	2	施設の中だけで人生を終わりにしてほしくない			
12	5	伝統行事への参加をとおして季節感を味わってほしい			
35	7	交流し、喜びの時間を共有し、行事に参加する満足感を持ってほしい			
16	3	高齢者が生きている間に思いを叶えることは施設の使命であり、その思いを叶えたい			
21	4	訪問時、何度も「前の職場(施設)を見てみたい」と訴えるので、施設の祭の機会にその思いを叶えたい			
14	1	過去にやったことができるので、残された機能を活かし、できることを続けてほしい			
15	8	高齢者の得意なこと、喜んでくれることを導き出したい			
11	7	楽しみの少ない施設ケアで、地域行事のことを話題にして施設の生活を楽しくしてほしい			
19	1	地域行事を外出を希望する高齢者の楽しみの機会にしたい			
19	4	高齢者は室内での活動が多いので地域行事(トライアスロン)の参加を誘い、外出の機会にする			
2	3	出身地にあわせて地域行事や伝統行事を頭に入れ、患者看護師間の距離を縮める			<地域間の文化の違いを理解しケアに活かしたい>
6	6	適切なケアのためには、地域の把握や地域の行事を知る必要がある			
4	5	退院後の自宅訪問は、地域のことを知ることができ高齢者ケアに役立つと思った			
4	5	言葉の違いや伝統行事の違いを知っているほうが高齢者ケアに活かせるので、方言や伝統行事は知っておく必要があると思った			
4	1	高齢者の不安は環境の違いから発生しているので、方言や生活環境が共有し合える環境を整える必要があると思った			
3	4	高齢者は地域を愛していることを前提にしているので、地域ごとの行事を意識して話の糸口を見つけているようにしている			
14	5	生きてきた時代や歴史をケアに活かしたい			
1	1	高齢者の生活状況を知らないケアはできないので、そのために地域行事をコミュニケーションの糸口にする			
26	6	地域行事や生活情報をマスコミや高齢者から入手し、個別のケアを組み立てたい			
7	5	島の葬式の仕方を知ることにより、外来で理不尽な訴えをしていることを理解したので、応えるようにしたい			
11	12	高齢者の入所前の暮らしを知り、ケアに活かしたい			
3	6	外来受診を焦らせず、受診に集中してほしいので、伝統行事の役割を理解したい	<行事を介護予防に活かしたい>		
3	6	みんなで地域の行事をやることは地域の良さであり、外来の受診の日時は融通をきかせたい			
10	6	地域行事を施設で実施することは、高齢者の認知症予防になる			
22	4	外出したくない高齢者に希望する伝統行事(ハリー)への参加を企画し、外出の機会にしたい			
22	7	抑鬱状態の高齢者の介護予防は、近隣の気持ちの通じ合う高齢者との交流が大切であることを高齢者に伝えたい			
36	1	祭の食事は変えられないが、食べ方を工夫してセルフケアにつなげたい			
20	6	高齢者は地域行事や伝統行事に関心があると思うので、情報を伝えることで脳の活性化につながると思う			
27	4	伝統行事や地域行事を話題にして回想法の効果を狙う			
12	1	孫の学園祭(地域行事)に参加を促し、孫との交流で認知機能を活性化させたい			
4	2	行事で活躍している高齢者がインフルエンザの入院を契機に寝たきりにしてはいけないと思った			

表33 地域文化ケアの意図 【地域文化のケアへの取り組み】(その3)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
25	5	伝統行事に島外から関係者が来ることを知っているのので、訪問を控えるか、意図的に家族に会える機会にするかを個別的に判断する	<行事はケアを進展させる機会にしたい>	【地域文化のケアへの取り組み】
26	7	伝統行事で、気持ちを解放し昔の話を引き出し、次のケアと一緒に考えたい		
3	7	住民は、交替して間もない新任医師について不安がっているのので、地域行事でお披露目し安心感を持たせるよう意識している		
3	7	地域行事を活用して、医師と住民をつなぎ、看護師も交えて関係づくりに活用する		
3	7	住民とのコミュニケーションがとれるよう地域行事を活用する		
3	7	医師・看護師が行事に参加することで、緊張せず、気軽に相談でき、住民の要望が伝えられるようになってほしい		
20	2	地域のことをよく知る人のケアは、安心で、信頼でき、共感し合えると思う		
20	2	同じ地域で生まれ育った人ができるケアをしたい		
27	3	自分の生まれ育った地域であり、自分(看護師)のありのままを出してケアしたい		
33	4	島の出身であり、方言を自由に使えることを自分の強みとしてケアに活かしたい		
13	2	家に帰りたい願望を受け止め、労わりたい想いで接し、同郷であることで安心を与えたい		
13	1	帰宅願望のある高齢者の気持ちを落ち着かせたい		
33	2	デイサービスの活動だけでは話題に乏しいので、行事に参加して利用者同士の会話を弾ませたい	<仲間同士で分かち合える話題づくりをしたい>	
31	5	高齢者が地域行事(運動会)に参加することで、話題が見つかり、利用者間での会話が弾んでほしい		
20	7	地域行事(運動会)は若い頃の楽しかった思い出がいっぱい詰まっていると思うので、高齢者同士で懐かしさや喜びを分かち合ってほしい		
35	6	高齢者が、同世代の方たちと一緒に喜びを分かち合ってほしい		

表34 地域文化ケアの意図 【地域文化の楽しみの想起】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
2	4	高齢者が楽しみにしている地域行事(敬老会)に参加したい心情を察し、代替えてもその楽しみをつくりたい	<地域文化を楽しませたい>	【地域文化の楽しみの想起】
2	4	イベントを企画することはもと好きであるが、病院で地域行事を企画して皆(患者)を楽しませることは看護師の使命であると感ずる		
2	5	美しい幻想的な島の風景は癒やしの効果があると思うので入院中の高齢者に見せたい		
8	1	最大の地域行事(敬老会)に参加できない高齢者でも代替であっても楽しい思いをしてほしい		
10	3	園で過ごしている高齢者も、島ぐるみのイベントには一緒に参加してほしい		
12	11	施設だけで生活を終わらせるのはもったいないので、高齢者に伝統行事に参加して楽しんでほしい		
20	5	施設より地域の敬老会を優先して参加させたい		
20	3	島の人みんなで応援する地域行事(トライアスロン)には、体調を管理しながら高齢者も応援に参加させたい		
26	7	伝統行事は参加したいのではないかとと思うので、参加して楽しみにつなげたい		
27	6	伝統行事の日は特別な料理を食べたいと思っていることを察する		
36	2	高齢者は伝統行事(豊年祭)でパレードに参加することを楽しみにしているので、安心して参加させたい		
36	4	人生最後の伝統行事(八月踊り)に参加させ楽しませたい		
21	1	伝統行事をその人の過ごし方で再現し、楽しませたい		
31	6	外出の支援はデイサービスでのケアより介護の負担があるが、高齢者たちの表情の変化に期待している		
29	3	要介護高齢者は、毎年恒例の伝統行事(ハーリー)に連れ出すと、うれしそうなのでハーリーに連れ出したい		
35	1	高齢者たちが守ってきた伝統行事を、要介護状態でも楽しんでほしい		
30	8	食事を供える行事では、日頃の配食ではなく伝統行事食を楽しんでほしい		
32	1	当たり前のことである伝統行事(サニツ)ができなくなっている高齢者に、伝統行事(サニツ)の代替をすることで、喜んでほしい		
32	2	伝統行事(みゃーくづつ)に参加することで、要介護高齢者を楽しませたい		
28	4	伝統行事の場は楽しさやうれしさを感じると思うので、場を共有することは意味があると思う		
30	3	伝統行事のハーリーは、船をこぐことはできなくても、参加し、島の人にたくさん会えることを喜んでいと思うので、参加を手伝いたい		
32	3	島の伝統行事(ハーリー)が好きだが、人に見られたいと葛藤している高齢者に、せめてもの楽しみを作りたい		
33	2	しづしづ地域行事に参加しても最後は喜んでもらえる期待があり、楽しみを増やしたい		
34	3	高齢者が若かりし頃の一大伝統行事(ハーリー)を、今でも楽しませたい		
36	7	高齢者にとって大事な行事であるハーリー(伝統行事)と一緒に楽しんでほしい		
11	3	家族が行事に誘わなくても、外出支援によりその場の雰囲気味わってほしい		
12	6	地域行事は臨場感を持って楽しませたい		
12	10	伝統行事や地域行事に参加すると楽しそうな表情をするので高齢者に参加してほしい		
15	4	施設での活動に参加したくなくてもその人なりに施設で楽しく過ごしてほしい		
12	11	伝統行事や地域行事に参加して元気を取り戻してほしい		
17	5	地域行事は家族に反対されても外出の好きな高齢者は参加させ、楽しませたい		
18	5	高齢者は、地域のことはよく知っていて、地域では楽しい思いができるので、地域に出かけて楽しんでほしい		
19	2	認知機能が低下している高齢者にも、島の人たちが声をかけてくれるので楽しい思いをさせたい		
34	4	寂しがらず、笑顔で、元気になってほしいので、高齢者が若かりし頃の一大行事(ハーリー)を、今でも楽しませたい		

表34 地域文化ケアの意図【地域文化の楽しみの想起】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー		
2	5	美しい幻想的な風景は、私も一緒に見て楽しみたい	<地域文化と一緒に楽しみたい>	【地域文化の楽しみの想起】		
6	5	検査予約を入れず、できるだけ伝統行事はみんなで楽しみたい				
8	1	業務で忙しい医師や看護師仲間にも病院で開催する地域行事で遊び心を持ってほしい				
8	1	病院で開催する地域行事は準備の段階から高齢者も準備する職員も楽しみたい				
2	2	病院で行事食を作ることは難しいので私の自宅の行事食を持参し少しでも味わってもらいたい、感じてもらいたい				
10	1	年に一度の浜下りには、施設の近くの海に連れだし、楽しみたい				
20	5	施設主催の敬老会で得意なおカリナを演奏し、会を盛り上げたい				
27	3	昔からの踊りを踊ることは楽しいだろうと思うので一緒に踊って楽しませたい				
21	7	地域行事(トライアスロン)は、要介護者も含めてみんなで盛り上げたい				
31	8	伝統行事(みゃーくづつ)への参加は、うれしい気持ちになるので、高齢者と一緒に楽しみたい				
32	3	島の伝統行事(ハーリー)に行くことができなくても、話題を共有し、一緒に楽しみたい				
30	6	要介護高齢者が子供たちに癒される場を共有して一緒に楽しみたい				
30	6	子供たちと一緒に学ぶと自分の幼少期を思い出しやすい				
32	7	自分が楽しい地域行事(トライアスロン大会)には高齢者も一緒に参加させて、楽しみたい、楽しませたい				
11	2	外出支援を好まない職員も誘って参加させることで、外出支援を楽しんでもらいたい				
12	2	外出の機会をとおして一緒に楽しみたい				
12	10	伝統行事や地域行事への参加は(私が)楽しい				
14	2	過去の暮らし(地域での豆腐づくり)を再現し、一緒に楽しみたい				
14	3	参加型の地域行事(トライアスロン)には、施設の高齢者も参加し職員も一緒に楽しませたい				
15	5	施設で過ごし時間を、高齢者が楽しんできたことで私も一緒に楽しみたい				
15	7	共感できる話題を探して見つけて会話を楽しみたい				
17	2	地域行事と一緒に楽しみたい				
17	4	地域に出かけると、地域の人の出会い楽しい				
19	4	地域行事(トライアスロン)は準備から当日の応援まで一緒に楽しみたい				
18	1	施設の高齢者が地域に向くと家族・親族・地域の人々が歓迎してくれるので私も楽しい				
35	1	言葉ではわからなくても実物を見て昔の記憶を呼び戻してほしい			<行事への思いを想起してほしい>	【地域文化の楽しみの想起】
31	7	認知機能が低下していても、伝統行事(ハーリー)に参加して懐かしい場面に触れると思い出すことを期待している				
32	3	認知機能が低下し、島の伝統行事(ハーリー)がわからなくなっている人でも、実際の伝統行事(ハーリー)の映像をビデオで見ることで参加したい気持ちを持ってほしい				
32	5	伝統的な踊りを舞う伝統行事は、伝統行事の雰囲気味わってほしいし、体の動く部分を使って参加したい、踊りたい気持ちになることを期待している				
33	7	伝統行事や地域行事は、高齢者が昔から楽しみながらやってきたので、心身機能や認知機能が低下しても、その楽しみを味わうことができると期待している				
32	3	認知機能が低下し、島の伝統行事(ハーリー)がわからなくなっている人でも、実際の伝統行事(ハーリー)の映像をビデオで見ることで、楽しかったことを思い出してほしい				
34	2	過去を振り返り、年を重ねることを心地よいと感じてほしいので、過去を回想させ、昔の風習を思い出し、伝統行事(ハーリー)に参加を希望してほしい				

表35 地域文化ケアの意図【地域文化の習熟と継承】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
4	4	高齢者の日常生活を把握してケアに活かす必要があると思ったので、方言での語りを理解しなかった	<方言を習いたい>	【地域文化の習熟と継承】
4	4	看護職が方言を学ぶことは、高齢者ケアに意味のあることであることを高齢者に伝えたいと思った		
4	4	看護職として方言に興味があったし、方言を習って伝わり合いたいと思った		
36	5	高齢者ケアに方言での会話は必要であるため、方言を習いたい		
28	3	伝統行事のやり方は家庭ごとに違うので、島の高齢者から習って自分なりのやり方を見つけたい	<行事を習いたい>	
31	1	高齢者の仏壇のことを手伝いながら、仏壇のことを高齢者から習いたい		
33	6	島出身者であっても、行事を面倒に感じている自分を変えたい		
33	6	島の伝統行事、地域行事を面倒がらずに大切に、島の高齢者のように良い年の取り方をしたい		
28	4	高齢者から方言を習いたい		
21	1	高齢者は、伝統行事について教えたい、引き継ぎたいと思っているのでそれを引き継ぎ、次世代に伝えていきたい	<行事を引き継ぎたい>	
19	8	伝統行事食を習い、引き継ぎたい		
25	1	伝統行事の儀式(行事の折り役)の締めくりへの参加は重要なことであり、それを希望する介護者の思いを要介護高齢者の介護より優先させたい	<家族に行事を継続させたい>	
21	9	大切な伝統行事を家族が安心して皆と同じようにできるようにしたい		
30	8	伝統行事の日は、家で、家族にもくつろいでほしいので必要な介護は手伝いたい		
11	6	高齢者と同様に私(職員)の伝統行事も大事にしたいので家族にも協力してほしい	<職員の行事も大事にしたい>	
16	5	職員も高齢者も伝統行事での墓参りを大事にしていることを支援したい		
36	6	島中で参加する地域行事には高齢者も職員も参加させたい		
6	8	病棟のスタッフで特に長男嫁は伝統行事には忙しいことを知っているため、伝統行事の準備をできるように勤務調整をしたい		

表36 地域文化ケアの意図【高齢者の地域文化への貢献】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
34	8	高齢者を尊敬できる子ども、シマを誇れる子どもを育てる役割を高齢者に担ってもらいたい	<高齢者を地域文化に貢献させたい>	【高齢者の地域文化への貢献】
34	5	高齢者が創り上げてきた人・物・心が循環する価値を子ども達に伝えてほしい		
34	7	高齢者を島の宝として、生きてきた知恵を活かしたい		
34	7	高齢者には島の歴史や暮らしを語りつづけ、島の暮らしを再現してもらいたい		
35	5	高齢者の一番の望みである子ども達が元気になるために一役担ってほしい		
34	10	高齢者が掘り起こしたシマの童歌を未来につなげていきたい		

表37 地域文化ケアの意図【地域文化ケアの育成】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
1	2	看護職として、地域行事(トライアスロン)が活性化し島が発展することに貢献できる	<地域文化を育む看護職でありたい>	【地域文化ケアの育成】
1	6	地域行事(運動会)には、看護職も参加希望があるので病棟勤務の調整をしておく必要がある		
11	11	職員みんなで施設のケアを広げたい		
12	3	それぞれの施設での高齢者の伝統行事の過ごし方を認めたい		
15	3	高齢者のように気遣いケアができるようになりたい		
1	3	看護職は、地域行事や伝統行事については個人差があるので、個別ケアにおいて行事のケアを落とさないようにしたい	<地域文化看護を育てたい>	
1	4	病院の敷地内で拝む地域であり、病院に拝所はあったほうが良いと考えているので、その整備は必要である		
1	5	同じ地域で行うエンゼルケアは矛盾がないようにすることが必要である		
3	1	島外出身の看護職にも助け合っている地域性を伝えたい		
6	3	非科学的にみえても最期の願いを聴くことを優先する看護職を育てたい		
6	5	「医師は絶対」という意識をこの地域の高齢者が持っていることを理解しているので要望を代弁する必要がある		
21	2	植栽を活用した人とのつながりかたを若い訪問看護師にも受け継いでもらいたい		
21	1	同僚の訪問看護師も地域文化ケアと一緒に共感したい		
11	3	外出時の高齢者の表情を職員で共有したい	<地域文化ケアを育てたい>	
11	12	施設職員みんなも入所前の高齢者が暮らして大事にしていたことを知り、ケアに活かしてほしい		
11	11	新人職員にも地域行事や伝統行事への外出支援が高齢者ケアになることを知ってほしい		
17	6	高齢者の希望を聞き、それに取り組むことを経験して参加する職員が増え、一緒に楽しんでほしい		
12	11	職員研修会で職員に外出支援の良さを伝え、広げたい		
12	11	高齢者が地域行事に参加して、施設では見ることのできない表情を職員と共有したい		

表38 地域文化ケアの意図【我が事のような相互依存】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
30	5	家族のストレスや介護疲れを少しでも理解し、できることは手伝いたい	<つながりのある人々(家族・地域住民・専門職)と協働でケアしたい>	【我が事のような相互依存】
30	5	高齢者の思いを遂げるために、介護する家族にも頑張ってもらいたい		
30	5	高齢者を支えながら介護に苦労する家族の思いを受け止めたい		
21	11	急でも頼めそうな馴染みのある保健所保健師の力も借りることで、緊急事態のケアはできると思った		
21	5	宗教仲間のケアを受けながら自宅で最期を迎えることを希望していたので協力を依頼したい		
32	9	島の高齢者らにかわいがられて育ったので、恩返しをしたい	<高齢者に家族のようにお世話したい>	
29	2	一人暮らし高齢者の家族関係や行事の準備の仕方など、子供の頃から何でも知っているの、島外家族へ連絡をすることも、行事の準備をすることも当たり前である		
30	1	島はみんな家族のようなものだから、親に接するように、一人でできない人には、代わりに手伝うのが当たり前と思う		
28	1	ヘルパーとして担当している高齢者は、日頃から、伝統行事で困っていることを相談してくるので、身内のように頼られていると感じるので、ヘルパー業務度外視で、自分の親にするように手伝いたい		
28	2	訪問を担当している要介護高齢者が、入院中に私が見舞いに来ないと嘆いていることを知り、頼りにされていると気づいたので、期待に応えたい		
31	9	要介護高齢者とは、長いかわりの中で家族以上の愛着を感じており、お祝いが続けられるよう長生きしてほしい		
35	2	この島に生まれた私たちを見守り育ててくれた高齢者だから、島の伝統行事や地域行事には参加させたい		
31	7	要介護高齢者を伝統行事(ハーリー)に参加させることは介護の負担感があるが、高齢者のために何かいいことをしたい		
28	3	毎週母親のために調理している芋料理を、他的高齢者にも食べさせたい		
28	1	島の高齢者は、皆繋がっていると感じているので、誰でも行事が出来るようにしてあげたい		
28	1	元気なころから知っているため、病気をしなせいで関係者が遠ざかっていると余計に愛しさを感じ、関わりたい		
32	7	自分がしてほしいケアを高齢者へ実践したい	<ケアの効果や達成感によって励まされたい>	
28	3	島の高齢者らに芋料理を配ることで、ありがとうと言われるので、自分自身の励みにしたい		
31	3	高齢者の伝統行事(拝み)への思いを察して準備を手伝うことで、感謝され、褒められたい		
30	7	方言での会話で高齢者の笑顔を増やし、この仕事を続けるための元気をもらいたい		
33	6	伝統行事や地域行事への義務感や負担感と同時に、行事をすることで味わう心地よさを大事にしたい		
31	1	仏壇を拝むのに手伝いが必要とわかっていなければ、自分が後ろめたいので自分のためにやる		
28	3	長年関わった高齢者がなくなった時には、四十九日まで芋料理を供えることで、自分のケアの区切りにする		
31	1	高齢者が仏壇に拝む手伝いをするので、私によいことがあってほしい		
30	1	島は先祖崇拝の島なので、伝統行事の供え物をつくることに困っている高齢者を手伝うことで、先祖に見守られ、私にもご利益があってほしいと思う		
32	6	島の先祖たちに見守られる安心感を得たい		
18	2	高齢者を地域に連れ出すことで成功体験(高齢者が施設では見せない良い表情をすることと地域で歓迎される)を何回も味わいたい	<高齢者も地域の一員として認めてほしい>	
18	4	高齢者の出身地や関係者とのつながりを知り、介護の醍醐味を感じたい		
19	9	島の人として、世代を超えてわかり合えるひとときを(私が)過ごしたい		
28	5	年を取ることで身体が変化し、できないことが増えることを島の人にわかってもらいたい		
28	5	要介護状態であることを、みっともないという島の人にも、島の大きな家族の一員として、認めてほしい		
12	8	自分の親をこの施設に入所させたい、この施設は楽しいと思わせたい	<高齢者が心地よく暮らせる環境をつくりたい>	
17	8	高齢者の希望が言える施設、希望が叶えられる施設にしたい		
17	6	高齢者が夢を実現していることを楽しんでいることがわかり、やりたいことが語れることが伝染してほしい		
34	5	高齢者が心地よく暮らせる島にしたい	<自分のために祈ってほしい>	
15	2	私のもやもや感を神様と交信できる特殊な能力を持つ入所高齢者に取り除いてほしい		



表39 地域文化ケアの意図 【地域文化によるケアの創造】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
20	4	ひとつの地域で誕生させた寝たきり高齢者の新たな外出支援は、近隣の町村にも波及させたい	<地域文化ケアを波及させたい>	【地 域 の 文 創 化 造 に よ る
21	10	看護の日を看護の理解と新たなイベント(地域行事)に位置づけたい	<看護実践を文化にしたい>	

表40 地域文化ケアの評価

サブカテゴリー	カテゴリー
<高齢者の安心した感情表出でよかったと評価>	【高齢者・家族の良い反応に満足】
<家族の肯定的反応に満足>	
<高齢者からの学びに満足>	【高齢者から地域文化を学び満足】
<行事の機会を捉えた学び>	
<自らのケアに満足>	【自らの地域文化ケアに満足】
<高齢者の価値の支持に満足>	
<高齢者に家族のように頼りにされている実感>	
<自らの地域文化能力に満足>	
<地域に生まれ育った自負>	
<自らが恩恵を受けている実感>	
<地域住民が恩恵を受けている実感>	
<行事の参加ニーズの把握>	【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】
<行事がケア関係をよくする力の実感>	
<高齢者の地域での暮らしに着目してケア充実に活用>	
<方言によるニーズ表出の効果の確認>	
<行事参加の効果の確認>	
<高齢者の地域文化力に感動>	
<高齢者に染み込んだ習慣をやり遂げさせるケアの承認>	【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】
<状況に応じた住み遂げる支援の承認>	
<地域のつながりを重視したケアの価値の承認と期待>	
<協働で高齢者を行事に参加させるケアの必要性の学び>	
<地域文化に馴染むための必死な努力>	【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】
<高齢者の希望が叶えられないときの罪悪感>	
<伝統行事に参加できない高齢者の心情への配慮>	
<ケアの手間からくる実施制限の了解>	【ケアの手間と地域の価値の了解】
<ケアの手間を超えた地域の価値の了解>	【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】
<高齢者の生活を優先したケア関係者間の折り合いの大切さの理解>	
<治療と島の風習・価値との折り合いの承認>	
<入居者・家族とケア提供者の地域文化の多様な価値への配慮>	【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】
<行事参加の楽しみの共有>	
<協働したケア関係者への感謝>	【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】
<帰島希望を実現させるケアの協働体験による自信>	
<地域行事で培われた協働能力の自負>	
<地域住民として地域に貢献できる実感>	
<高齢者の住み遂げたい希望実現と一体感>	
<協働の輪の広がりの実感>	

表41 地域文化ケアの評価【高齢者・家族の良い反応に満足】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリ	カテゴリ
2	1	行事に参加した高齢者の言い表情をみて、高齢者は安心感や達成感がもてたと思う	<高齢者の安心した感情表出でよかったと評価>	【高齢者・家族の良い反応に満足】
2	4	地域の敬老会に参加できない高齢者のために病院内で敬老会を企画したら、今までに見たことのない表情をし喜んでくれたので良かったと思った		
2	5	地域の夜のイベントに高齢者を誘い参加支援をしたが、高齢者が喜んでいたので「参加してよかった」と感じていると思う		
3	1	高齢者は伝統行事の機会に見舞いに来る家族・親戚に会い、緊張が柔らぎ、心を許し、喜んでいるような生き生きとした表情になる		
3	1	特に、伝統行事で孫が来ると本当にいい笑顔になる		
4	1	不穏の高齢者を同じ地域の高齢者と同室にしたら不穏が落ち着いていたのは、地域によって、違う方言や生活背景があることを把握していたので生活環境を配慮したことで不穏が落ち着いていたと思う		
5	1	地域行事(入学祝)が盛大に行われることを知っているので入学式に参加させたいと思い、医師と調整し実現したが、参加後に高齢者が喜んでいたので良かったと思った		
6	5	検査日や外来は、伝統行事と重ならないように主治医と調整すると、高齢者からほっとした表情をして「ありがとう」といわれる		
7	1	標準語で話すナースの指導にちがひな対応をしている高齢者に方言で解説したら「よくわかった」という表情をした		
7	1	方言を通訳することは、看護師の指導が伝わることで、高齢者の言いたいことが伝えられるので高齢者は不安が減り「ほっ」とした表情をしていた		
7	4	伝統行事に参加後は、「おかげさまで行ってきたよ」とうれしそうな表情をする		
7	5	外来の順番を早めて、地域の行事ができるようにしたら、葬式の役割が果たせると思ったのか安心した表情をした		
8	1	地域の敬老会に参加できない高齢者のために病院内で敬老会を企画したら、高齢者がすごく喜んでくれた		
8	3	伝統行事に参加できず悩んでいる高齢者に退院後の伝統行事への参加について具体的に話し合ったら落ち着いた		
2	5	夜の地域行事への参加で高齢者の健康状態に変化がなかったので、「良かった」と思った		
9	4	伝統行事を自宅でやってきた高齢者は、病院に戻ったときに明るい表情になる		
10	1	施設の近くの海にサニツ(旧3月3日)に車いすごと浜下りすると、見たこともない笑顔を見せた		
10	5	島外出身者の私は方言が聞けないので、地元の同僚に通訳してもらおうと、高齢者が安心した表情をする		
11	8	行事に乗り気でない高齢者でも、自宅は見たいらしく、「家を見に行こう」と誘ったら外出に応じ、自分の家を見て嬉しそうな表情をする		
25	1	同じ地域で育った私は、神行事の締めくりに参加することは「絶対的」と思ったので、家族介護者(嫁)に神行事を優先させるケアをしたら、高齢者から感謝された		
25	2	生活保護費を工面して仏壇に供え物をした後は、「もう手を合わせてきたので安心した」と語り、妄想や幻聴がなくなっていた		
26	1	伝統行事(ばーんとら)に参加を希望している心疾患を持つ高齢者に、生きる手助けになる、楽しみにつながると思い、健康に配慮しながら参加を支援したら本人は喜び表情も良くなったので良かったと思った		
26	2	伝統行事で足を海水で清める儀式をすると高齢者達は喜び、海藻もついでに採りたいと希望する		
26	4	伝統行事には島外からも家族親戚が戻ってくるので、「身内と過ごしてほしい」と思うのでその調整をしているが、高齢者は子どもや孫と過ごしたことを私に嬉しそうに報告してくれる		
26	7	伝統行事(ハーリー)を見たいのではないかといい、連れ出すと高齢者同士で昔のハーリーのことを回想している		
21	2	ケアは一人が関わるより多くの人が関わるのが良いと思うので職員を誘って高齢者宅で、花を見たら、花の育て方を教えてもらったり、花について語ることで、喜んでくれた		
21	3	高齢者が風習や伝統的な慣習を大切にしている思いを察して、代替ケアをしたら、本当に喜んで、顔も明るくなっていったし、誘った近隣の高齢者も喜んでくれた		
21	4	若い頃の職場で楽しかった思い出を何度も語るので、施設の祭りに合わせて一緒にもとの職場訪問したら、自分の目で職場を確かめて安心したのかその後話題になくなった		
21	6	死にゆく高齢者の大好きだった料理を特別注文でしつらえ、一緒に高齢者宅で食べたら高齢者は涙を流して喜んでくれた		
21	7	高齢者は、地域行事(トリアスロンを道ばたで応援する)に参加すると、地域の人との会話が弾み交流を楽しんでいる		
21	10	看護を地域の人々にPRする「看護の目」には、地域の専門職に声かけ、医療機器を装着し地域で暮らしている高齢者の外出機会を毎年つくっているが、高齢者はとても喜んでくれる		
11	3	地域行事で高齢者の表情がだんだん明るくなって、施設では見られないような表情や反応がある		
13	1	帰宅願望のある高齢者に声かけをして一緒に地域に出かけ散歩すると帰宅願望が一応落ち着く		
13	2	帰宅願望のある高齢者を受け止めて労わり、同郷であることを伝えると表情が和らいだ		
36	6	地域行事(運動会)に要介護高齢者も子どもたちも一緒にできる競技(パン食い競争)に参加し、皆で楽しんでいる		
36	7	伝統行事(ハーリー)の日は、高齢者同士は思い出話や昔の話を楽しんでいる様に感じている		
14	1	若い頃やった伝統工芸の慣れた手仕事は残された機能でできると続けさせたいと思い、材料を仕込みデザイナーの活動に取り入れたら、目の色を変えて疲れもトイレも忘れるほどに、苧麻を紡いでいた		
14	1	伝統工芸をデザイナーで始めたら、デザイナーだけでなく自宅に材料を持ち帰り楽しんでくれた		
14	2	それぞれの地域や家庭で昔の豆腐作りの方法を話し始め、集中して、トイレも忘れ、失禁する高齢者もいて、みんなで楽しんだ		
15	1	高齢者の気持ちに添って外出し仏壇に手を合わせて施設に戻ったら別人のように落ち着いた		
17	3	地域の行事に参加すると高齢者は地域の人と出会い、いろいろと声かけられ方言で会話ができかけて良かったと喜んでくれた		
18	1	施設入所することで地域とぶつ切り切れ、忘れ去られることは悲しいことだと感じたので、高齢者と地域に出かけ過ごす施設とはちがうすごくいい表情をしていた		
18	2	施設から地域に連れ帰るケアは楽しい成功体験をしていたので、帰宅願望のある高齢者を誘って出かけたなら、家族や親戚が集まり民家で歌ったり踊ったり、予想以上の歓迎をしてくれ、皆が見たことのない表情していた		
12	11	高齢者が落ち込んだとき、笑顔を取り戻せるケアとして、地域行事に参加支援をすると施設では見られない良い表情をする		
18	3	体調はすぐれなかったが年齢的に最後の伝統行事になるかもしれないと思い、希望を確認し参加したら、会場でははしゃいで元気があった		
29	3	伝統行事に行きたいと言わなくても連れ出すとうれしそうな表情をする		

表41 地域文化ケアの評価【高齢者・家族の良い反応に満足】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー		
33	2	地域に出かけると島の人たちが声をかけてくれるので会話が弾み楽しそうである	<高齢者の安心した感情表出でよかったと評価>	【高齢者・家族の良い反応に満足】		
22	7	抑鬱状態にある高齢者は自宅に近隣の高齢者が定期的集まっていることをうれしそうな表情で語る				
30	7	認知症であっても方言で話す笑顔が増えると感じる				
30	3	伝統行事(ハーリー)に連れ出すと、高齢者は話が弾み、島の人に会うとうれしいと言ってくれる				
30	4	島外施設に入所させようとする家族にヘルパーの私が「やっぱり家がいいよね」と引き止め家族を説得している場面で、高齢者はうれしそうな表情をする				
30	6	高齢者と子ども達との交流では、子どもと接する高齢者の表情が明るく、方言の歌を教える時も嬉しそうにしている				
30	8	伝統行事には高齢者を含めて家族みんなでくつろいでいる感じがする				
35	1	要介護高齢者が伝統行事(ハーリー)に参加し、会場で一体感を持ち、帰ってきて目を輝かせているとうれしくなる				
35	3	伝統行事に参加させると、島の人の声かけに高齢者は自然にほほえみが生まれる				
34	3	ハーリーで高齢者の表情は昔のことを話題にしながら穏やかになり、話題が膨らんだり、泣いたり、感情を表出する				
34	9	高齢者達の力を借りて昔の童謡を掘り起こしたとき、高齢者は素晴らしいと涙が出るほど感動した				
34	9	童謡を歌っているときの高齢者は、とても幸せそうな表情をする				
27	3	看護師が、高齢者を誘って地域の踊りをすると、高齢者は一緒に楽しみテンションが上がる				
27	6	伝統行事に自宅で過ごせない高齢者には伝統行事にちなんだ特別の料理をだすと高齢者はうれしそうな表情をみせる				
12	10	地域行事等への外出を繰り返すことで高齢者の表情が変わり、元気になっていると感じる				
12	10	外出しながら高齢者でも、誘って地域行事に参加すると、楽しそうな表情を見せる				
12	4	地域に出かけ外の空気や風景に触れるだけでも高齢者は全く違う表情を見せる				
19	1	高齢者は地域行事(保育園のイベント)に参加すると楽しそうである				
19	2	認知症高齢者は、伝統行事に多くの知り合いで出合い声かけ合ってもすぐに忘れてしまうが、その瞬間は楽しそうである				
19	3	昔からやっている子どもの誕生祝いをやりたいとせがむ高齢者を車いすで地域に出かけると「これで安心だ」と話し、私も「ほっ」とした				
19	4	高齢者は、地域行事(トリアスロン)の応援を地域の人々と一緒に楽しみ、ハイテンションになり、嬉しい表情をする				
20	2	民謡が好きな高齢者と民謡と一緒に歌ったら、歌のリズムを取りながら大粒の涙で大泣きしていた				
28	4	伝統行事の話をするときの表情から、高齢者が楽しい、うれしいを感じていると思う				
31	1	毎朝お茶を仏壇に供え一緒に拜むことで、高齢者は穏やかな表情でいい雰囲気になり「ありがとう」と幸せそうに話す				
31	2	家で作った伝統行事食を高齢者にお裾分けすると、高齢者は仏壇に供えて美味しく食べていた				
32	3	重度化して伝統行事(ハーリー)に参加できない高齢者にビデオを見せると、関心を示さない人もいるが、真剣に見て笑ったり話題が弾む人もいる				
32	7	地域行事(トリアスロン)に参加すると、日頃は「ぼーっ」と過ごしているが目を見開き表情が良くなる				
35	5	子ども達のイベント(地域行事)に参加し、イベントを盛り上げることが高齢者の一番の望みになっていると思う				
20	3	地域行事(トリアスロン)は、高齢者と一緒に応援して楽しんだ				
3	6	行事に参加すると高齢者から、親しげに声をかけられたり、情報提供されたり、お礼をされる				
2	1	伝統行事参加のための外泊や外出に渋る家族もいるが、その後苦情を言う家族はいないので「それで良い」と思う			<家族の肯定的反応に満足>	
6	2	高齢者の希望(自宅に戻りたい)を知りつつ、自宅で看取することをあきらめかけている家族を説得したら、後日、「自宅で最期まで家族に囲まれ、とても喜んでた」と家族から感謝された				
25	1	同じ地域で育った私は、神行事の締めくくりに参加することは「絶対的」と思ったので、家族介護者(嫁)に神行事を優先させるケアをしたら、家族から感謝された				
21	4	若い頃の職場で楽しかった思い出を何度も語るので、施設の祭の日に合わせて一緒にもの職場訪問したら、後日家族から電話でお礼を言われた				
21	9	家族が安心して伝統行事にはお墓参りが出来るように、お墓参りの日時を合わせて訪問し家族が必要なことを手伝うと、家族から感謝の言葉をもらう				
29	2	高齢者が伝統行事ができるように島外の家族と調整し手伝うと、島外の家族から「ありがとう」とお礼を言われたり、お土産をもらったりする				

表42 地域文化ケアの評価【高齢者から地域文化を学び満足】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
4	4	看護職として、方言を知りたいと思い、患者に教えてもらったので満足した	<高齢者からの学びに満足>	【高齢者から地域文化を学び満足】
9	4	伝統行事を味わってもらうための企画は、島外出身の私が知らないことを高齢者から教えてもらう機会になっている		
21	1	この地域の文化は大事にしたいので高齢者に習いたいと思ったし、教えてもらって良かった		
21	1	これまで祖先から受け継いできたものを、途絶えさせずに、大事にしながら、高齢者に教えてもらい、次の世代へ伝えていきたいと思う		
30	6	高齢者と子どもたちの活動に私も参加して、方言の歌をいっしょに学べ、幼少期の記憶もよみがえってうれしい		
12	8	畑好きな高齢者から私は、野菜の作り方を教えてもらい、自分はわからないことがわかるようになり、楽しいし面白い		
19	8	伝統行事のことはわからないことがいっぱいあるので子ども達にも伝えていきたいので、これからも高齢者から習いたいと思う		
28	3	差し入れ(私の母が好きだった芋)をしながら島の伝統行事を高齢者から教えてもらい、学び続けている		
28	4	方言や伝統行事のことを高齢者から習うようにしているが認知症高齢者でも昔のことは良く覚えていて教えてくれる		
2	2	自宅に帰れず入院中の高齢者から伝統行事の日に、行事の話聞き、長男嫁の役割について学ぶこともあった		
33	8	高齢者は伝統行事が近づく行事の準備をすごく気にしていると感じるので、そのことを話題にして行事の段取りをしながら学んでいる		
31	1	高齢者の仏壇の手伝いをすることで高齢者からいろいろ教えてもらえるので、とても楽しい		
31	1	高齢者の仏壇行事と一緒に手伝うことで、話だけではわからないことも実際に見ることで自分自身に身についたので、私はたくさんを覚えてもらい、得したと思う		

表43 地域文化ケアの評価【自らの地域文化ケアに満足】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
2	1	行事に参加して病院に戻ると、高齢者の表情が良くなるので、「行事に参加させて良かった」と思う		
2	2	伝統食をみて、元気な頃の伝統行事食の作り方などを声を弾ませるので自宅から伝統行事食を持参して良かったと思う		
3	3	伝統行事は家族の見守りがあり自宅での安全が保てるので、家族と調整して高齢者を伝統行事に帰せたのでうれしかった		
3	5	島ですと80年余り生きてきて、島に帰りたい思いを持つ高齢者が、最期の最期に一時でも島に帰れるようにしたことは良かったと思う		
1	3	高齢者の出身地域の伝統行事や看取りの情報を把握し、リーダーとして看護師の地域文化に対する個人差も踏まえながら行事のケアを看護師ができるようにしてきたと思える		
1	4	新病院でも、旧病院同様に利用者が病院内の拝所で祈りの儀式が出来るようになり、拝みをしているので利用者の希望に添えて良かったと思う		
4	3	夫婦ともに島に住み続けたい意向があったので、退院後の夫婦の暮らしを組み立て、島での生活の継続が支援できたので良かったと思う		
7	3	塩が邪気を取り除くということは理解していたので、パニック状態の高齢者が塩を要求したときに応じたら、高齢者は塩を握りしめ、落ち着いてきたので、この人を安楽にさせるためには必要なケアだったと思う		
9	3	危篤状態の患者の家族の面会時間外での付き添いを他の患者の迷惑にならないように評しているが、苦情を受けたことがないのでそれで良いと思う		
25	2	私は、生保ワーカーと調整して、高齢者がこだわっている仏壇に供え物をする行為の段取りが成功してうれしかった		
21	1	要介護状態であっても、この人の持てる力を活かしたいので、その特技(ふきやぎづくり)を見つけて、ケアに活かされたので良かったと思う		
21	3	伝統行事のイベントを地域の人々も誘ってやったら、高齢者や近隣の喜びように私もうれしかった		
36	4	伝統行事に参加させることはできないので代替ケアになったが死後に家族から「高齢者がすごく喜んでいて」と感謝されてうれしかった		
36	2	地域行事で高齢者の祝いを地域を挙げて行う地域行事への参加は疲れるが、要介護高齢者達が嬉しそうで、生き生きとしていたので自分自身も楽しかった		
15	8	手先の器用な高齢者が手工芸をしている場面を見て、私の母の手作りの小物が話題になるように仕掛けたら、饒舌になり、昔のこと、若い時のことを話し出すので、活気づいている様子を見て、楽しい時間になってよかったと思えた		
18	1	施設の高齢者と地域に出かけ、高齢者の関係者との集まりや、自宅でのゆっくり過ごすことは、私も楽しい		
18	4	高齢者の出身地を開き、生活歴を把握してからケアをすると、高齢者の反応が良いので介護の醍醐味を感じる		
32	2	伝統行事は高齢者が島外の人とふれあいを持つチャンスと思うので、参加支援をしているが、高齢者が一緒にお酒を飲んでいる姿を見てうれしいと思う		
32	4	伝統行事(ハーリー)に参加支援をして、高齢者がうれしそうにしているのを見ると「やって良かった」と感じる		
29	4	無表情のときには刺激になればと思い、わざと方言で怒らせる会話をすると、表情がでるぶん良かったと思える		
33	1	地域行事には高齢者を誘ってボランティアとして参加し、楽しい		
22	3	高齢者が施設入所後も伝統行事に仏壇に祈りたい希望があることを把握していたので、それができる施設を探し、実現したのは良かったと思う		
22	6	高齢者は地域への愛着ニーズがあると思うので出身の地域に散歩に出かけ運動への意欲と運動習慣につなげることができた	<自らのケアに満足>	
30	1	伝統行事食を工夫して調理すると高齢者がうれしそうにするので私もうれしくなる		
27	2	家に帰りたい思いを把握して先取りして「一緒に帰ろう」と誘い地域の話や過去の話題を方言で話すと、認知症高齢者は落ち着いてと安心したような表情が出てくるので良いと思う		
12	1	認知症があり孫はいないといいながら、孫の高校の学園祭に連れ出したら、孫に声かけられ、高齢者が喜び、孫もびびりながら喜ぶ様子を見て、外出支援はいいなあと思える		
17	2	地域の行事を新聞やテレビで探し、時間外や休みを利用して、その地域出身の高齢者を誘って出かけて一緒に楽しんでいるので、地域行事の情報収集は苦にならない		
17	7	サトウキビを育てていた高齢者が「キビ蒔りをしたい」という夢を語り、それを実現し、その直後に亡くなったが、「間に合って良かった」と思えた		
17	8	高齢者がやりたいことができる、やれると思うと楽しい、嬉しいと思えた		
17	8	一緒にいて、「あの笑顔が見られた」ということに喜び、うれしさを感じ、介護の仕事は楽しいと思える		
17	6	今まで希望を語らなかった高齢者がやりたいことを語り始めたので、この仕事を続けてきてよかったと思える		
27	3	高齢者の地域の踊りを一緒に踊ると高齢者から「上手」と褒められ私もうれしい		
12	10	地域行事に高齢者と参加すると私が楽しい		
12	11	伝統行事の外出支援は(私が)楽しい		
20	2	民謡の好きな高齢者と一緒に歌を歌いながら、(感動して)二人で泣き、相手の気持ちと共感できたと感じ、看護の幅の広さと奥の深さを感じた		
20	5	地域の敬老会に参加できない高齢者が寂しい思いをしないよう施設の敬老会を盛り上げ高齢者を楽しませた		
28	1	島のヘルパーとして同じことを何度も繰り返すような高齢者にも話を聞くよう心がけていることで、高齢者に頼りにされているのでうれしい		
28	3	生前に関わった高齢者が死んだ後も49日まで供え物をし、ヘルパーの仕事に区切りをつけ満足する		
31	1	仏壇にお茶を供えて高齢者と拝むと「いいことをしている」と思える		
31	3	伝統行事の手伝いをして「ありがとう」と言われると役立って良かった、褒められて嬉しいと思う		
31	5	高齢者を地域行事に誘って連れ出すが、参加後に何人もの高齢者で話題が弾み元気になるので良いと思う		
31	6	地域行事や伝統行事に連れ出すと、ヘルパーとしての体力を消耗するが、高齢者がいつもと違う楽しそうな表情を見せるので、仕事としても楽しい		
31	7	高齢者が元気なときに活躍していた伝統行事に連れ出すと、何かいいことをしているように感じる		
31	7	伝統行事に高齢者を連れ出すと疲れるが、要介護状態でもハーリーに参加できて良かったと「ほっ」とする		
31	8	伝統行事への高齢者の参加支援を終えたととてもうれしい気持ちになる		
4	8	祈りの儀式をすることにより納得するのであれば、それで良いと思える	<高齢者の価値の支持に満足>	
6	3	ペット周辺に塩や葉っぱを置く習慣は、私も共有しているので、私も当然やるものだと思うし、本人家族が安心すればそれでよいと思う		

【自らの地域文化ケアに満足】

表43 地域文化ケアの評価【自らの地域文化ケアに満足】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
28	2	入院中のひとり暮らし高齢者が「ヘルパー(私)が見舞いに来ない」と泣いている話を聞き、頼りにされていることを実感した	<高齢者に家族のように頼りにされている実感>	【自らの地域文化ケアに満足】
30	4	高齢者が「自分の家で住み逃げたい」と口にするのはケア提供者を自分の子供のように思い、言いやすいからだと感じる		
28	2	ひとり暮らし高齢者の期待に応じることが、「家族のように思われている」と思える		
28	1	島の人はみんなつながっているので頼りにされたら仕事を度外視して手伝いたい		
28	3	高齢者に差し入れ(私の母が好きだった芋)をすることで喜んでくれるので、それを励みにヘルパー業務が継続できる		
31	9	長くケアをしている高齢者から「自分の子どもだったらよかったね」といわれると高齢者から家族のように思われていると感じる		
31	9	長くケアをしている高齢者は、もっと長生きしてもらい、「98歳の祝い(カジマヤー)をしてあげたい」と思う		
7	2	拝みのことを依頼されたのは、私が年齢が高く方言がわかるから選ばれたと思う	<自らの地域文化能力に満足>	
8	5	方言での会話は、親近感が持ちやすいので、方言を身につけていたことで、方言で会話ができることは、看護に役に立った		
26	3	高齢者に「方言で話してもいいよ」といったら心を開き、心を許してくれる感じがするので方言が理解できる私は、通り一遍ではなく、その人の思いに沿って安心してケアを進めていくことができる		
15	4	活動に参加しようしない高齢者の地域では三味線の上手い人が多いことを知っていたので、三味線を弾きながら一緒に歌うことを試みたら、高齢者が上手に三味線を引いてくれたので、私は高齢者ケアのツールとして三味線を活用できることがわかった	<地域に生まれ育った自負>	
27	3	地域の踊りを一緒に踊って楽しむのは、都会ではできず、自分の生まれ育った地域だからできると思う		
27	4	生まれ育った地域で高齢者と関わりができたので、「地元に戻ってきて良かった」と思う		
19	9	重度認知症高齢者が歌った歌は、同じ島の人だからこそ伝わるし、世代を超えてわかり合えて、ひとときを一緒に笑って過ごすことができることを嬉しいと思える		
20	2	高齢者と一緒に民謡を歌いながら、その地域に生まれて、その地域の状況を知っているものでなければできない看護があると思えた	<自らが恩恵を受けている実感>	
15	1	高齢者を大切にするには自分も大切にしないといけないと思える		
11	7	高齢者から地域行事のことを話しかけられ、そのやり取りが私の楽しみになっている		
15	2	私が気分がすぐれずメンタルケアが必要なおときには、拝みのできる高齢者に声かけ一緒に拝みをする、漠然とした信仰心を感じ安心する		
15	8	母の手作りの小物を見て、母を褒めてくれたので、自分自身もうれしくなった		
17	6	外出支援は自分が楽しいし、利用者も楽しんでくれる		
32	6	高齢者宅の仏壇と一緒に「私も守ってください」と祈ると、安心する		
30	1	「伝統行事に供え物を供えると(手伝っている私にも)いいことがある」と思うのでやっている		
30	7	島言葉での会話は関係性を柔らかくするので方言での会話で私が高齢者から元気づけられる		
15	7	高齢者の出身地域を把握し、共感できる話題を探して見つけ会話を楽しんでいると、高齢者は私の生い立ちにも関心を寄せるので自身のことも話題し、共感できる機会が増え会話が楽しめる		
20	2	私がケアを受ける身になったときには、安心して、その人を信頼し、共感しあえる同じ地域に生まれ育った人から、ケアを受けたいという思いが強くなった		
28	4	認知症であっても伝統行事の話は誇らしげに語ってくれるので、伝統行事に参加を促すケアの必要性を支持してくれるので続けられる	<地域住民が恩恵を受けている実感>	
35	5	地域行事(子ども達の発表会)では、ふれあいを通して高齢者は子ども達に元気を与えていると思う		
19	9	重度の認知症高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった		

表44 地域文化ケアの評価【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリ	カテゴリ
2	2	日頃、寂しさや悔しさをみせることはない高齢者が、行事に帰れない日に昔の話を語り、寂しさを滲ませるので、「行事の日は帰りたい」と思う気持ちを察した	<行事の参加ニーズの把握>	
12	2	過去を思い出し、楽しみ、生き生きすることを期待して地域行事への参加支援をしているが、高齢者は行事に見入り、活気が出て次の外出希望ややりたいことを表出する		
12	10	地域行事などに連れ出すと表情が変わり、繰り返して外出支援をするうちに、「〇〇に外出したい」と要望してくるのでやり続けている		
12	5	単調な施設の暮らしでも季節を感じてもらえるよう行事に合わせてイベントをしているが、高齢者は施設のイベントに参加しながら、地域に戻ることを含めて季節の行事の過ごし方を気にし始めると感じる		
26	7	伝統行事(ハリー)に高齢者を連れ出し、生まれ育った地域で高齢者の気持ちを解放し、昔の話を引き出し、「今やってみたいことある?」と次のケアが広がるように一緒に考える機会になっている	<行事がケア関係をよくする力の実感>	
2	3	出身地域の地域行事や伝統行事を頭に入れて会話をすると親しみ感がわき、患者と看護師との距離が縮まる実感がある		
6	6	高齢者の出身地域を把握することは、地域行事や伝統行事を話題にして地域文化を理解しつつ、つながりを見つけるコミュニケーションを図ることにも役立っている		
8	1	敬老会(病院内での)をきっかけに、看護師と医師との関係がコミュニケーションがとりやすくなり、患者と看護師との関係も親しみやすい関係がつけられていった		
10	6	地域行事(運動会)を園で開催することは、高齢者と職員の交流の機会になっている		
11	2	地域行事への外出支援をする職員は、高齢者と会話が弾み、一緒に楽しんでいる		
11	3	地域行事への外出支援に人手が足りないときには、事務職員も巻き込むことで施設の全体の雰囲気そのものが明るくなっている		
11	7	日常の施設ケアで、参加したい地域行事の企画を高齢者と一緒に行っていることを続けていると、高齢者から地域行事のことやいろいろと話しかけてくるようになった		
11	7	施設職員と高齢者は地域行事に参加するケアによって、会話が増え、何の楽しみもない施設の生活に楽しみとして取り込まれていると思える		
15	1	高齢者の気持ちに寄り添うケアをすることで対象者が落ち着くと、介護の現場も落ち着くので良いと思う		
33	6	伝統行事や地域行事が多く煩わしいが高齢者と一緒に参加すると高齢者との話題が作りやすくてケアに活かせる		
25	5	伝統行事(旧盆)には、島外から家族、親戚が尋ねてくるので、家族とのケアの方針を話すタイミングや家族とのつながりをケアに活用できるよう取り組んでいる		
35	7	伝統行事に高齢者とケア提供者が一緒にいられる、一体になれる		
2	4	病院でイベントを企画するときには、高齢者の入院前の役割を意識しながらその力を発揮させる大事さを学んだ後から、病院でイベントを企画するときには高齢者の力を発揮させるようにしている		
1	1	地域行事について生き生きと語ることを糸口として、その人が生活基盤としている経済状況(農業やきびかり、収入の状況など)を把握することで、治療環境を整えることに役立っている		
11	12	高齢者の入所前の暮らしの情報を把握し、それを話題にすると、会話が弾む		
11	12	高齢者の入所前の暮らしの情報を、職員間で共有したら、職員もその情報を活用して高齢者と関わるようになった		
15	5	高齢者が三味線が上手いことを把握したので、施設の敬老会に披露してもらう事を提案し、私も一緒に楽しんだ		
20	7	地域行事(運動会)は、高齢者が若かった頃(イベントの少ない時代)には大きな楽しみであり、懐かしさや喜びがたくさん詰まっていると思うので、運動会の話題は高齢者を元気にする	<高齢者の地域での暮らしに着目してケア充実に活用>	
22	2	高齢者の仏壇ごとを解決し、病状が安定して施設入所した経験から、高齢者の不安のニーズには仏壇ごともあることを知っているケアが変わると思った		
26	6	個別のケアを組み立てるためには、マスコミの情報や方言を交えながらの高齢者情報は役に立つ		
12	8	畑好きな高齢者に土作りや野菜作りを私が習うことで話が弾み元気になっていたのも、施設での暮らしが居心地の良い場所になっていると思える		
12	6	高齢者が職員(関係者)の出場する地域行事(トリアスロン大会)を応援したい、見たいと要望し、応援することが利用者の楽しみになっている		
12	8	高齢者から土作りや野菜作り等を習うことで、高齢者との関係は会話が弾み接しやすくなる		
20	7	高齢者は地域行事(運動会)の話題や歌が大好きであることを知っているため、高齢者が沈んだ表情や空気がよどんでいると運動会を話題にしたら盛り上がる		
4	5	言葉や伝統行事の違いを実感し、関心を寄せ、その違いを知り、高齢者ケアに生かしたいと思った		
4	6	方言しかしゃべれない高齢者の理解には、方言で語らせたいと思い、方言のしゃべれる先輩にケアを交替したら、高齢者が落ち着き、ニーズを表出していたことから対象理解に方言で語らせることの意味を確認した		
5	2	方言での会話を促すことで、高齢者の言いたいことが伝えられるようになってきていると思う		
5	2	長年の経験から、高齢者には、気持ちを表現できるよう、方言で介入する支援をしているが、方言を交えて話すこととふつと和らぐ		
6	7	方言を標準語に通訳することで、高齢者は方言で症状や訴えをたくさん表現してくれるので、方言での会話は診断や治療方針に役立つ		
9	5	県外出身の私は、方言が全くわからないので、方言で話す高齢者には地元の看護師に通訳を依頼することで、高齢者の訴えを聞くことができた		
26	3	共通語では家族が主導権を握るが方言だと本人がぼそぼそ話してくれるので本人の意思を確認しながらケアを進めるので本人もケアを納得しているように感じる		
11	9	私が方言を勉強し聞けるようになったら、方言で話す高齢者が自分の言いたいことをちゃんと伝えてくれるようになった	<方言によるニーズ表出の効果の確認>	
15	6	地域の園児たちが、施設に慰問に訪れ、高齢者に方言で挨拶をした時、高齢者が涙を流している場面を見て方言のもつ高齢者へのケア力に感動した		
33	4	方言での会話は冗談を言いあったり関わり方が面白いので方言の大事さを感じる		
22	1	方言は親近感をもたらすと思えば方言でターミナルケアをすると看護技術にも勝る経験ができる		
22	5	方言での会話では、高齢者は借金のことまで相談する		
35	4	島言葉(方言)を使うことで、島への思いをお互いが持つことができ、お互いにかわり合えていると思う		
34	1	高齢者は共通語で話すとは何となくぐったりして、心に蓋をしているように感じるが、方言を使うと、穏やかになれるし、素直な心になれる、意思の疎通が自然体で「あうん」にできる		
27	1	高齢者の生活歴などに配慮しながら方言で語るようにしているが、共通語では語りにくいことでも方言では緊張感がほぐれリラックスして話やすく本音が出ると思う		
27	1	方言での会話は、会話の内容が共有でき、高齢者がニーズを訴えやすい関係づくりができ、人として通じ合う感覚を持つ		
27	1	方言での会話は困っていることが聞けるのでケアする私もうれしい		
20	1	方言での会話は、目には見えないけど、気持ちをともにしたい思いが伝わり、ともにできるので、安心すると思う		
20	1	高齢者とは方言で会話するように心がけているのは、標準語よりも方言の方が気持ちの距離が短いと感じるので、コミュニケーションを形成する上では、非常に重要なことだと思う		
20	1	高齢者も、方言で会話すると、いきいきとした表情で、会話をしてくれるのが伝わる		



表44 地域文化ケアの評価【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】(その2)

ID	場面	キーセンテンス	サブカテゴリ	カテゴリ	
8	2	主治医が驚くほど、病院内の敬老会に参加した高齢者の表情が明るくなり、前向きに生きる姿勢が見られ退院したので、伝統行事には、治療効果があると思えた	<行事参加の効果の確認>	【高齢者と地域文化の関係の強さへの信頼】	
10	1	サニツの日に海に下りられたら、海にまつわる思い出を生き生きと語り出すので、その思い出を共有できたと思えた			
10	6	高齢者が若い頃楽しんできた地域行事(運動会)は、高齢者の認知症予防にもなっていると思う			
23	1	伝統行事に訪問看護師に誘われ高齢者の参加支援をしたとき、高齢者が島の人の中に入り込み、元気になって普通の人のようにみえたことに驚き伝統行事の大事さを認識した			
23	2	地域行事(孫の運動会)への参加支援を促し参加したらその後のリハビリ意欲が向上し、高齢者は、「意欲があれば何でもできる」ことを学んだ			
23	2	地域行事への参加は、私のケアの限界を超え、人を復活させる力があることを学んだ			
33	1	高齢者は地域行事と一緒に参加して、表情が穏やかになり、子ども達にも関心を寄せるので脳も活性化されると思う			
35	1	伝統行事に参加して表情豊かになった高齢者を見て、「高齢者は自分を取り戻しまたやれる」という気持ちが出てきたと感じる			
27	4	同じ地域で育ったので地域行事や伝統行事を知っていて、その話題を積極的にケアに取り入れると、高齢者は盛り上がり話弾むので回想法の効果が見られると思う			
2	4	病院内の敬老会で、病室でしょんぼりしている高齢者の挨拶が素晴らしかったのでびっくりしたし、感動した			<高齢者の地域文化に感動>
2	4	病院内の敬老会で素晴らしい挨拶をした高齢者(病室でしょんぼりしている)の情報収集したら老人クラブの会長として活躍していたことがわかった			
3	2	伝統行事の話になると自宅に戻って役割を遂行している時のようなキリッとした表情をし、生活者の顔になる			
21	1	伝統行事に食べるふきやぎ(おはぎ)と一緒に作りながら、教えてもらういつもの元気のなさは違って生き生きとしていたので、要介護状態でも、ずっとやっていたこと、出来ることをすることは、やっぱり力がでると思った			
14	2	昔の豆腐づくりをデイサービスで再現したら、認知症があっても、豆腐作りの方法は鮮明に覚えていて、皆に指図していたので驚いた			
17	1	地元出身のスタッフが地域の行事を教えてくれ、高齢者を地域行事に参加する企画をし、実施しているが、高齢者は見学だけでなく飛び入りでイベントに加わり主体性を発揮していた			
18	5	地域に出かけると高齢者が主役で主導権を握り、職員はお客さんになるので高齢者が生き生きとする			
34	10	高齢者が掘り起こした古い地域の童謡を子ども達が歌うと、頷いたり、口ずさんだりするので、高齢者はすごいと思う			

表45 地域文化ケアの評価【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】(その1)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
4	7	主治医と調整し、地域行事で役割のある高齢者の外出許可をとり、参加をさせたが、必要なケアと思う		【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】
7	2	信仰がらみで依頼されることは意味不明なことであっても、これまでやって来たことやこだわりを支援することは、必要なケアと思う		
7	4	高齢者を中心にやってきたこと(伝統行事)をやれるようにするのは、この人たちの生活のなかで、最も大切なことであり、当たり前のことと思う		
7	4	伝統行事に参加し、家族のなかで、役割を果たし、「まだまだできる」という自信につなげることは当たり前のケアだと思う		
25	3	高齢者の暮らしや伝統行事での祈りの習慣を把握し、伝統行事で当たり前の活動が続けられようケアをしているが、これまでやってきたことを継続するのは当たり前のことだと考えている		
26	2	伝統行事(サニツ)に海に出かけ足を清めることは昔からやっていることであり、できなくなった高齢者を手伝って参加することは当たり前のことと思う		
23	2	地域行事参加による高齢者の変化をみて、専門職が無理と思っても本人のやる気次第でできることを知ったので、本人の希望は何でも叶えたいと思った		
23	4	高齢者は伝統行事のことをよく話題にするので、県外出身の私も大事なことに意識している		
23	4	伝統行事に参加できなかった高齢者は参加したかった気持ちが見え隠れするので、来年は参加させたいと思う		
15	1	「神様にお茶をあげるので家に帰らなければならぬ」と訴え続ける認知症高齢者は説得しても聞かないので、止めるためのケアより一緒に外出して希望を達成するケアは必要と思う		
32	1	伝統行事(サニツ)に手足を塩水で洗う儀式を勧めると高齢者は喜んでやるが、「昔からやっていることだから」と思う		
29	1	ひとり暮らし高齢者であっても伝統行事ができるように、仕事とは関係なく、伝統行事の買い物など頼まれたときにはやるのは当然だし、頼まれなくても家族のいない高齢者は困るので、買い物などの準備をやるのは義務だと思う		
29	2	伝統行事の手伝いは、昔からやっていることなので、義務感でやっている		
30	1	島はみんな同じ家族(親戚)のようなものだから、伝統行事ができない人に代わってやってあげるのは当たり前と思っている		
30	8	高齢者は、伝統行事には家族と神様と一緒に過ごしたいと思うから、それができるようにケアすることはいいと思う		
30	2	仏壇にお茶を供えようと、真剣に高齢者が手をあわせるので高齢者の寂しい心を癒してくれると思う		
34	3	ハーリーへの参加は、島の人の身体に染みついているので当然「参加できるようにしなければならない」と思う		
34	3	ハーリーが近づくと島全体にそのムードが漂うので、ハーリーに参加することは当たり前であり、要介護状態になっても日々の暮らしを続けさせたい		
27	4	高齢者は地域の行事のことを話題にすると、その瞬間を思い出さざらに話が弾むので意味があると確信できる	<高齢者に染み込んだ習慣をやり遂げさせるケアの承認>	
27	5	伝統行事には多くのお客さんが来るので高齢者には家で過ごせるよう調整するが、それは当たり前のケアと思う		
12	7	本人が落ち着かないのは、伝統行事への参加と関係があるかもしれないと思うので、落ち着かせるためのケアを組み立てたら、高齢者が落ち着いたので、伝統行事と高齢者の心身の状態は関係すると思う		
12	11	高齢者は地域行事などの外出先では施設ではみせない表情をするので、このケアを継続したい		
16	1	若い頃親しんできた行事に参加すると、当時の楽しい気持ちに戻れると期待して、高齢者と一緒に伝統行事に参加し、一緒に見学して、一緒に応援して、一緒に食事一緒に楽しんだ		
16	2	伝統行事としての墓参りに高齢者が参加を希望すると、「急がしいから」と家族の協力が得られなくても職員が時間を調整してお墓に連れて行き、本人の希望を叶える		
16	3	伝統行事に仏壇に手を合わせ家族や親戚とご馳走を食べ、話しの輪に高齢者が加わることは当たり前のことであり、高齢者が生きている間にその思いを叶えることは、特養の使命と思っている		
16	4	高齢者が地域の風習や大事にしてきたこと(毎日自分の仏壇のお茶を取り替えること)が叶えられないことは高齢者にとつてむなしく悲しいことだと思うので、できるだけ支援している		
19	3	私も小さい頃から誕生日を盛大にやることを知っているから、高齢者が誕生日に地域に出かけたいとせがむと義務としてやらなといけないうと思う		
19	5	誘っても外出したが朝昼晩、道具を並べて拝みをしている高齢者には、これまでやってきたことを施設でも継続しているので気の済むように支持することにした		
19	6	雨の日の夜中に「草取りをしたい」と理不尽なことを訴える認知症高齢者を説得するより、やりたいことをやらせれば落ち着くので、満足するまで本人がやりたいことにつきあうことがいいと思う		
21	8	買い物ができないことを理由に、伝統行事ができない高齢者には買い物支援をして、伝統行事のできない高齢者はつづらない		
25	2	無意識のなかで、先祖崇拝の文化を大事な事とし、ケアしていることに気づいたので、仏壇を大事にしていることを認めたい		
25	4	サニツ(旧3月3日)に海水で手足を清める意味づけができたので、次から高齢者のサニツへの思いを共有できると思う		
28	1	親のように、身内のように一人暮らし要介護高齢者でも伝統行事ができるように、業務に関係なく手伝うのは当たり前と思う		
31	1	高齢者から依頼されなくても毎朝お茶を仏壇に供えるケアは当たり前のことと思っている		
31	3	伝統行事の拝みの手伝いをしているが自分の親も同じことをしているので必要な手伝いと思う		
31	3	伝統行事の拝みの手伝いは、ヘルパーの仕事ではないと思うが、高齢者が昔からやってきたことであり、やりたいと思うので、その思いをくみ取することは必要なことと思う		
31	8	高齢者は「伝統行事をやらなといけないう」と思っていると思うので参加支援を続けている		
31	8	この島で暮らしていて、「私も伝統行事は大事」と思っているから、高齢者の伝統行事への参加支援を継続している		
6	1	高齢者の思い(島の自宅で死ぬこと)を遂げさせるためには、手間はかかるが高齢者と家族の希望に添うことはよいと思う		
11	5	帰宅願望がある高齢者が家族の協力で帰宅し、迎えにいって「家がいい、施設に戻りたくない」と言われるが、誰でも自分の家が良いと思っているので、それは当然のことだと思う		
24	1	病院から退院し在宅での看取りを経験し、最後の感謝の言葉や心の交流ができることは大事なことであったことを学んだので在宅看取りを推進したいと思った		
24	1	在宅での看取りは家族の絆が保たれやすいので、それを大事にし、心から最期をサポートしたいと思える	<状況に応じた住み遂げる支援の承認>	
23	5	施設入所ができない認知症の老夫婦が地域に暮らし続けているが、地域の人々の見守られ自分の家で住み続けているので施設に入れなくて良かったと思う		
36	3	死者を入浴する習慣のある地域で、その習慣を受け入れることは必要なことと思う		
12	4	重度の認知症高齢者でも、外出して地域巡りをして、施設に戻るとホッとして、寝つきが良くなる		
25	1	高齢者の介護し神行事を優先させた家族介護者は、高齢者が神行事に協力してくれたことを感謝し、高齢者を「(自宅で)最後まで看るから」と私と約束し、自宅で看取った		

表45 地域文化ケアの評価【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】(その2)

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
3	1	離島で、伝統行事の機会に島外から家族や親戚が里帰りし、入院患者の見舞いにくさんの人が訪れるのは、この島のフレンドリーな気質であり、強みとなる良い風習だと思うので、面会人は制限しなくてよいと思う	<地域をつなぐを重視したケアの価値の承認と期待>	【自らの体験に照らして地域文化ケアの認知】
1	5	エンゼルケアについて、葬儀屋と病院で現状と課題を共有し、整理して、新しいエンゼルケアに向けて役割分担が出来たことは、地域が小さく集まりやすいことと、助け合う意識が高い気質があったからできたと思う		
5	4	隣近所が心配して面会に来る習慣を受け入れることが、入院中でもつながりを途切れさせないことになると思う		
5	5	地域が小さいので出身地域のことが話題になると、私は他人でも身近に感じるので、近隣者も同じような思いを持ち面会に来ると思うから、その支援は必要である		
5	3	高齢者が入院すると家族親族だけでなく集落総出で、面会時間を度外視して面会に来るが、面会者の来訪で、入院中高齢者が元気になっていると感じる		
6	4	入院中高齢者は伝統行事に親戚縁者が見舞いに来ることを楽しみにしているので、面会時間の制限などのルールにこだわらず見舞客を受け入れることが、伝統行事に高齢者も参加したことになると思う		
21	3	今の人は、人は人、自分は自分という気持ちが強いが、高齢者のために近隣も集まってくれたので、「人のことをまだ考える気持ちがあるね」と思ったとき、私は嬉しかった		
11	1	高齢者と地域行事に出かけると、地域の知り合いに会い、交流が持て、高齢者は良い表情をして会話が弾むので地域行事に外出するケアを継続している		
11	2	地域行事へ出かけると、高齢者の知り合いから高齢者がやってきたことや得意なことが聞け、施設のケアに活かすことができた		
11	3	地域行事に高齢者を連れ出すと、誰かはよくわからなくても「あー」って反応するので、地域の人も、寄って来て昔の話をする		
14	3	地域行事(トライアスロン)には、選手達は、車いすの高齢者集団の声援に、バイクを止めて、握手をしたり、一緒に踊ったりするので、交流の機会になっていると思う		
16	6	高齢者にとって孫との交流が重要だと思うので、高齢者が地域行事(孫の運動会)することで、孫との交流だけでなく地域の人々との交流の機会になっていると思う		
32	4	施設(小規模多機能型居宅介護)では単調な交流しかできないが、伝統行事(ハーリー)への参加は地域の人と交流のできるのでもっといいと思う		
29	3	伝統行事に参加すると、久しぶりに地域の人にいっぱい会えるので、高齢者にとっていいと思う		
33	4	地域に出かけると重症でも表情が柔らかいので押しつけるわけにはいかないが、地域で出かけることはいいことだと思う		
35	3	伝統行事に参加させると島の人が近づいてきて優しい言葉かけをしてくれ、元気づけ、勇気づけてくれることはうれしく感動的なことだと思っている		
35	7	伝統行事で島の人と交流の時間、喜びの時間を一緒に過ごす満足感を持つことができるのは、行事に参加するからできると思える		
19	1	施設には家族の面会も少ないので、地域行事(保育園のイベント)への参加は家族とも交流し一緒に楽しむ機会になっている		
19	2	伝統行事(マーズツツ)には、高齢者を誘ってでかけると、知り合いが近づいて来て声かけしてくれるので地域の人々と交流の機会になっている		
28	5	住民は高齢者に近づいてきて「元気？」と声をかけてくれ、高齢者も良い表情をするので、地域の人の集まる伝統行事に参加した方が良くと思う		
28	5	伝統行事に参加させることを嫌がる家族や地域の人もあるが、本音は一つの家族として受け入れ拒んではいけないと思う		
4	2	「伝統行事には地域に帰す」という目標を他の職員もみんなでも共有し、一緒にケアを積み立てることに意味があることを学んだ	<協働で高齢者を行事に参加させるケアの必要性の学び>	
11	11	地域行事に外出支援することの効果について新人職員研修で語ったり、一緒に外出支援に連れて行き、高齢者の反応や交流を確認することで、施設のケアが広がっている		
36	1	島外出身の私は、高齢者のケアをするために、島に人々に馴染めるよう必死に伝統行事や地域行事に参加せざるを得ない	<地域文化に馴染むための必死な努力>	
36	5	高齢者との会話は方言が主流であるので、島外出身の私は必死に方言を覚えコミュニケーションが図れるように努力している		
15	3	県外出身者の私が方言が聞けずに困った顔を見ると、高齢者はごちないながらも標準語を話して、関係性が壊れないように気を遣ってくれるので、私は方言を学習し、高齢者のように気遣うケアができるようになりたいと思う		
33	7	伝統行事に参加し続けることで、伝統行事が好きでない自分から好きになれるように脱皮したいと思う		

表46 地域文化ケアの評価【地域文化のニーズに添えない罪悪感と高齢者の心情への配慮】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
3	2	高齢者が大事にしている地域の行事には、自宅に戻れるような調整をしているが、上手くいかない罪悪感を感じる	<高齢者の希望が叶えられないときの罪悪感>	【地 域 文 化 の 高 齢 者 の 心 情 に 添 え な い 罪 悪 感 と 化 配 慮 の 高 齢 者 の 心 情 に 添 え な い 高 齢 者 の 心 情 へ の 配 慮】
3	4	地域が好きで、家に帰りたい末期の高齢者の希望を実現できないのは、希望を叶えられず残念である		
12	3	伝統行事に家族の元に帰れない高齢者の思いは様々であることを経験しているので、その思いを配慮し、踏み込まないことを心がけている	<伝統行事に参加できない高齢者の心情への配慮>	
19	7	伝統行事に家に帰れず施設にいる高齢者は、落ち着かなくなるし、心が沈むので、自宅に帰れない高齢者の寂しい思いを汲んで元気になれるようその場を一緒に楽しむ		

表47 地域文化ケアの評価【ケアの手間と地域の価値の了解】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリー	カテゴリー
2	5	夜の地域行事への参加支援は、協力体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った	<ケアの手間からくる実施制限の了解>	【 ケアの手 間解と 】地 域の 価値 の
36	7	伝統行事への参加支援は大変であるが、大変なことも含めて楽しんでいる		
12	2	やってきたこと(地域行事への参加)がやれるように支援することで忙しくなり、うれしい悲鳴をあげている	<ケアの手間を超えた地域の価値の了解>	
33	6	伝統行事はやりたくなくても島中の雰囲気からやらないと気持ちが悪く、やった方が楽かなと思う		
12	2	地域行事は面倒がらず、やらないでいいと思わず、高齢者のやってきたこと(地域行事への参加)と一緒に楽しんでいる		
31	1	仏壇にお茶を供えていることはヘルパー業務か否かわからないが、やらないと後悔する		

表48 地域文化ケアの評価【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】

ID	場面	キーセンテンス	サブカテゴリー	カテゴリー
2	6	病院の都合と主治医の治療方針、高齢者の身体の状況とで、治療の折り合いがつけば、高齢者の生活を優先していいと思った	<高齢者の生活を優先したケア関係者間の折り合いの大切さの理解>	【治療と地域の風習・価値の折り合いの大切さの理解】
3	3	高齢者は行事に自宅に戻れないのがつらかったので、主治医と調整して帰せた時は、目的が達成できたと思う		
3	6	医師によって伝統行事の時の外来日時の調整は上手くいくときも、いかないときもあるが、地域の行事は地域の人々でやるものであり、地域の良さであるので外来の日時の調整は必要である		
3	3	地域行事は遊びや娯楽的な症状が安定してから参加してほしいと思うので高齢者の希望に添えなくても気にならない		
6	5	地域の高齢者は自分の言いたいことがきちんと標準語で伝えられない、医師の言うことは絶対と思い込んでいるので、伝統行事のことで医師との調整を補うことは必要なケアだと思う		
7	5	地域での役割(葬儀の遂行)を果たすために外来順番の変更の希望を外来待ちの住民も島のしきたりとして、その必要性を理解して交替してくれた		
23	3	伝統行事に参加したい要介護高齢者の希望を実現するには、家族の介護力に委ねるだけでなく、柔軟に地域の人的・物的サービスを調整することで高齢者と家族の折り合いがつけられる		
24	2	伝統行事に自宅に帰すのは、病院での見舞いとは違う自宅ならではのふれあいがあるので医師が外泊・外出許可を出してくれるとありがたいと思う		
14	5	情報の乏しかった時代に生きてきた高齢者へのケアは、身近な話題を高齢者と語る機会を工夫するよう職員に伝えているがやる職員とやらない職員がいる		
3	6	伝統行事に忙しいことは診療所も共有しているので、伝統行事がある時は外来日時を調整することが必要である		
9	1	島の風習(ベットの傍にはさみを置く)はケアに影響がない限りは邪険にせず認める	<治療と島の風習・価値との折り合いの承認>	
9	2	島の風習(塩を枕元に置く)危険がなく、節度が守られていれば否定しない		
8	4	伝統行事に外泊許可が得られず落ち込んでいる高齢者の主治医と交渉し外出許可をえて、「外出できるのは病気が良くなった証拠」となだめたら顔していた		
22	4	外出の機会として伝統行事(ハーリー)に外出支援を実践したが、体調を崩したことで、継続した外出の機会確保にはつながらなかった	<入居者・家族とケア提供者の地域文化の多様な価値への配慮>	
14	4	職員の関心には差があるが、季節感を高齢者に感じてもらえるよう地域行事には地域に合わせて外出支援ができるよう施設長として工夫し、関心のある職員の賛同があり、継続できている		
17	5	地域に出かけることを好まない家族もいるので、その家族には許可を取らないこともあり、出会えないように工夫するがたまにま出会って家族に叱られたことがある		
12	9	方言で話すことで安心感が得られ落ち着く高齢者もいるが、方言での会話はけんかをしているように感じる高齢者もあり、メリットとデメリットがあるので、迷うことがあるが、私もしゃべれないこともあり、施設では方言を使いつぶらくなっていると思う		
17	7	高齢者の夢を実現しようとする企画については時間外になったりして反対者もいるので、いつも同じ職員が連れ出すことになるが、協力してくれる職員はいる		

表49 地域文化ケアの評価【地域文化ケアで協働する喜びと感謝】

ID	場面	キーセンテス	サブカテゴリ	カテゴリ
2	5	地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフも感動していたので嬉しかった	<行事参加の楽しみの共有>	【地域文化ケアで協働する楽しみと感謝】
8	1	病院での敬老会の企画・実施は、準備の段階から患者と楽しみ、看護職仲間も楽しんだ		
2	5	地域の夜のイベントに入院中の高齢者を参加させるために、医師や医療機器業者の協力が得られたので感謝した	<協働したケア関係者への感謝>	
6	8	病棟の同僚が伝統行事の準備ができるよう一緒に勤務調整に協力してくれ、必要な人に休みを出せて、管理者としてうれしい		
30	4	島で一生懸命介護している家族は、口が悪くても親のことを思っていると感じる		
30	5	介護している家族も、「施設に入れたい」と言ったりもするが、島で介護を続けてくれるので、ありがたいと思う		
35	6	高齢者の地域行事参加に島の人たちが協力してくれるのでありがたいと思う		
16	5	祖先崇拝で墓参りを大事にする文化があり、職員も同じ地域の高齢者を「自分が連れていく」と申し出るので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしていることが伝わる		

表50 地域文化ケアの評価【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】

ID	場面	キーセンテンス	サブカテゴリー	カテゴリー
3	5	「状態が悪く島に帰る事は無理」と思えた患者に関わった多くの病院スタッフは、「やればできるので、本人の思いを聞くことが大事なことであり」と理解し、自信につながったと思う	<帰島希望を実現させるケアの協働体験による自信>	【地域文化ケアの実践によりケアが発展する実感と自負】
1	2	島内外の医療職で協働連携し、トライアスロンを成功させる経験は、災害(宮古島台風)があったときの対応に活かされた	<地域行事で培われた協働能力の自負>	
1	2	トライアスロンで何もなしどころからみんなで協力して、何かを作る力が身につく、地域全体で協働して仕事ができるようになったと思える		
21	11	「看護の日」にボランティア活動を継続しているうちに、緊急事態の高齢者のケアを保健所保健師と一緒にできるようになった		
21	10	保健所保健師は、「看護の日」のボランティア活動をしてから医療機器を装着して地域で暮らしている高齢者宅への訪問回数が増えた	<地域住民として地域に貢献できる実感>	
1	2	看護職としてトライアスロンに医療ボランティアとして参加しているが、看護サービスの提供だけでなく、トライアスロンが活性化することで島の発展に貢献できると思う		
1	6	運動会で家族、親族が一堂に集まりご馳走を囲んで楽しめるようにすることは、伝統を受け継ぐことなので、リーダーとして勤務調整することで伝統行事に貢献できると思う		
3	7	看護師が住民の一人として地域行事に参加することで参加した後から、住民からの話しかけが増えたので、気軽に何でも相談でき、コミュニケーションが取りやすくなったと思う	<高齢者の住み逃がたい希望実現と一体感>	
21	7	「地域行事(トライアスロン)はみんなで活性化し続けてほしい」と思っているの、高齢者にも応援を促し、安全に応援ができるように調整すると応援してくれる		
3	5	病棟全体が一人の高齢者の島に帰りたい思いを実現するために病院全体が一体感が持てた		
10	3	島全体が参加する地域行事(トライアスロン)へは、施設の高齢者も島の一人として一体感を感じる機会になっている	<協働の輪の広がりの実感>	
17	8	高齢者がずっと言えずに抱えていたやりたいこと(豆を蒔き、収穫し、調理してみんなに振る舞う)を言える雰囲気施設が作れたと思う		
34	4	要介護状態になっても、参加支援をすることで地域の全てのことに関われることは対等な関係でいられることがうれしい		
34	4	伝統行事を通じてみんながつながって生きているし、生きていく中でつながりができていると思える		
35	6	要介護状態でも島の人みんなに敬老会で祝ってもらっているという意識が持てる事が大事と思う		
28	5	要介護高齢者のうれしい反応が地域の人には伝わり、地域に受け入れられていると思う	<協働の輪の広がりの実感>	
3	7	他人行儀ではなく話しかけ易い雰囲気を作ることは医療職には必要なことであり、地域行事に参加することでそれができていると思える		
21	2	高齢者にとっての人のつながり方が、花を植えて増やすことだったのではないかと感じたので、そのような人のつながり方を若い職員にも受け継いでほしいと思いい、職員を誘ったら、乗ってくれ一緒に楽しんだ		
21	5	高齢者が希望する宗教仲間のケアを組み立てたら、宗教仲間は「できることはしたい」と看取りまでケアに参加してくれたので良かったと思う		
21	6	死にゆく高齢者に最期の楽しみ(お寿司を食べる)をプレゼントしたいと思いい、飲食店に特別注文をしたらそれに応じてくれたことから、人は思いがあれば共感する人はいると思えた		
21	10	地域で専門職が医療機器を装着した高齢者の外出支援のボランティア活動を継続していたら、専門職から「何かできることはないか」と主体的に声がかるようになり、ボランティア参加者が増加してきた		
21	10	地域で「看護の日」にボランティア活動を継続している専門職(保健所保健師)から相談されるようになった		
21	10	医療機器を装着して地域で暮らしている高齢者の家族は、外出支援を継続しているうちに家族として介護への参加が増えた		
21	10	「看護の日」に保健所保健師とボランティア活動をしてから、保健所保健師に相談をしやすくなった		
11	4	できるだけ伝統行事には家族と過ごしてほしいと思いい、家族に協力を依頼していたら、伝統行事が近づくと調整を依頼する家族ができた		
17	3	地域の行事に参加を繰り返すと地域行事の事務局と馴染みの関係ができ、地域のイベントに誘いを受ける		



表51 地域文化ケアの実施の段階とケア提供者の主体性

地域文化ケアの実施の段階		ケア提供者の主体性の観点
第1段階 [求めに応じる地域文化ケア]	<p>【当事者の祈りを尊重する支援】 【家族・地域のつながり継続支援】 【地域で生き、住み遂げたい思いの支援】 【当事者の行事への参加支援】</p>	<p>要介護高齢者の訴えを起点として、ケアの必要性が想起されており、ケア提供者の主体性は高齢者によって誘発されていた</p>
第2段階 [活かされる地域文化ケア]	<p>【地域文化でつくるケア関係】 【地域文化を共感するケア】</p>	<p>要介護高齢者の地域文化に対する訴えやニーズを満たすために、地域文化がケアに活かせる可能性を意識したことを起点として、ケア提供者が地域文化を活用しようとする主体性が発揮されていた</p>
第3段階 [活かし継承される地域文化ケア]	<p>【高齢者の地域文化力を活かす地域づくり】 【家族のようにつながり続けるケア】 【みんなで見守り続ける地域文化ケア】 【習い続ける地域文化】 【地域文化の周知と啓蒙】</p>	<p>地域文化をケアに活かし継承したいケア提供者の意図を起点として、高齢者のニーズを誘発していた</p>
第4段階 [創造される地域文化ケア]	<p>【みんなで創り広める地域文化ケア】</p>	<p>地域文化をケアに活かし継承するだけでなく、地域文化に根ざしたケアを創造する意図を起点として、地域文化をケアに取り込んでいた</p>

表52 地域文化ケアの意図からみた文化的感受性の要素

地域文化ケアの意図のコアカテゴリー	取り出した感受性
地域文化に息づく価値の <u>支持</u>	支持
地域文化の <u>楽しみ</u> とケアの <u>融合</u>	楽しみ、融合
地域文化への <u>共感</u> と一体感の <u>希求</u>	共感、希求
地域文化によるケアの <u>創造</u>	創造

表53 地域文化ケアの評価からみた文化的感受性の要素

地域文化ケアの評価のコアカテゴリー	取り出した感受性
地域文化ケアに <u>満足</u>	満足
地域文化ケアへの <u>信頼</u> と <u>認知</u>	信頼、認知
地域文化ケアとの折り合いの <u>理解</u> と <u>配慮</u>	理解、配慮
地域文化ケアが協働で発展する <u>実感</u> と <u>自負</u>	実感、自負

表54 Bennerの臨床技能習得レベルから捉えた地域文化ケアの実施の段階

Bennerによる臨床技能修得の段階		本研究における地域文化ケアの実施の段階	
初心者レベル	「状況に応じた対応ができない」	—	—
新人レベル	「その場の状況を理解し判断できる」	—	—
一人前レベル	「現在の状況だけではなく将来の状況や優先順位の判断ができる」	第1段階	[求めに応じる地域文化ケア]
中堅レベル	「その場の一時的な視点ではなく全体的な視点で捉えられ、格率（行為や論理の規則）を基に分析的に実践ができる」	第2段階	[活かされる地域文化ケア]
		第3段階	[活かし継承される地域文化ケア]
達人レベル	「直感的に状況を広く・深い視野で理解し実践ができる」	第4段階	[創造される地域文化ケア]

表55 Leiningerによる文化ケアの実践のタイプから捉えた地域文化ケアの実施の段階

Leiningerによる文化ケアの実践のタイプ	本研究における地域文化ケアの実施の段階
「文化ケアの保持もしくは維持」	第1段階 [求めに応じる地域文化ケア]
「文化ケアの調整もしくは取り引き」	第2段階 [活かされる地域文化ケア]
「文化ケアの再パターン化もしくは再構成」	第3段階 [活かし継承される地域文化ケア]
—	第4段階 [創造される地域文化ケア]

表56 感情階層説モデルにおける本研究の文化的感受性

		感情階層説モデル		本研究のみにある 文化的感受性
感情	情動	原始情動	快 不快	—
		基本情動	喜び 受容/愛情 恐怖 怒り 嫌悪	楽しみ
	(高等) 感情	社会的感情	愛情 親しみ 笑い(笑み) 憎しみ 嫉妬 内気など	信頼 実感 共感
		知的感情	愛 罪 恥 甘えなど	自負 希求 創造

出典：福田正治. (2010). 共感 心と心をつなぐ感情コミュニケーション, 15, より一部抜粋して作成

## 付録一覧

番号	タイトル
A1	研究へのご協力のお願ひ（依頼書）施設管理者用
A2-1	研究へのご協力のお願ひ（同意書）施設管理者用（本人控）
A2-2	研究へのご協力のお願ひ（同意書）施設管理者用（研究者控）
A3	研究へのご協力のお願ひ（依頼書）業務管理者用
A4-1	研究へのご協力のお願ひ（同意書）業務管理者用（本人控）
A4-2	研究へのご協力のお願ひ（同意書）業務管理者用（研究者控）
A5	研究へのご協力のお願ひ（依頼書）研究参加候補者用
A6-1	研究へのご協力のお願ひ（同意書）研究参加候補者用（本人控）
A6-2	研究へのご協力のお願ひ（同意書）研究参加候補者用（研究者控）
A7	インタビューガイド
A8	「ケア提供者の地域文化行動の体験と地域文化ケアの実践」調査票
A9	調査補助者説明会
A10	調査補助者としてのご協力のお願ひ（依頼書）
A11-1	調査補助者としてのご協力のお願ひ（同意書）（本人控）
A11-2	調査補助者としてのご協力のお願ひ（同意書）（研究者控）
A12	誓約書
B1～B36 地域文化ケアの実践	

施設管理者用

## 研究へのご協力のお願い（依頼書）

平成 年 月 日

はじめまして、私は沖縄県立看護大学博士後期課程の学生で、呉地祥友里（くれちさゆり）と申します。

私は要介護高齢者をケアされている皆様が、沖縄の地域文化に寄り添うケアをされてきた現状から、文化への気づきと地域文化ケアの関係について研究を計画しております（研究課題：要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係）。

そこで、貴施設の高齢者ケアをされている皆様へのご協力を頂きたいと考えています。そのため、貴施設の研究参加候補者の推薦のできる方（各部署のケア担当責任者など）の紹介の協力を頂きたいと考えています。事前に研究目的・内容等をご説明し、承諾を得たうえで行います。また、地域文化ケアの例などの内容を説明させていただきます。承諾が得られれば、業務等に支障がないように事前調整を十分に行い、指定する日時・場所、方法で行います。面接を3回、各1時間程を予定しています。

研究参加に協力していただく内容については、個人のプライバシーが保護されるよう秘密を固くお守りいたします。また研究結果を学会などで公表する際には、個人が特定されないよう慎重に取り扱います。

地域文化ケアの実践の中にある地域文化に寄り添うケアを明らかにすることで文化的感受性を高めるための老年看護の教育への示唆が得られ、その教育に貢献することができると考えています。

上記の趣旨をご理解いただき、貴施設の研究参加候補者の推薦のできる方（各部署のケア担当責任者など）の紹介をしていただければ幸いです。本調査のご協力に当たり、必要な手続き等がある場合には、速やかに対応いたします。

ご協力を頂ける場合は、別途、研究参加協力に関わる同意内容を明示した「同意書」を交わす手続きを取りたいと存じます。なお「依頼書」および「同意書」は調査が終わるまで、保管するようお願いいたします。

<p>研究者：呉地 祥友里          所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程          連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室）          住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1          指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）</p>
---



施設管理者用（本人控）

## 研究へのご協力をお願い（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名 \_\_\_\_\_

説明者 \_\_\_\_\_

研究者：呉地 祥友里 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室） 住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1 指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）
--

## 研究へのご協力のお願（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名 \_\_\_\_\_

説明者 \_\_\_\_\_

研究者：呉地 祥友里 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室） 住 所：〒902-0076 那覇市与儀 1 - 24 - 1 指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）
---

## 研究へのご協力のお願い（依頼書）

平成 年 月 日

はじめまして、私は沖縄県立看護大学博士後期課程の学生で、呉地祥友里（くれちさゆり）と申します。

私は要介護高齢者をケアされている皆様が、沖縄の地域文化に寄り添うケアをされてきた現状から、文化への気づきと地域文化ケアの関係について研究を計画しております（研究課題：要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係）。

そこで、貴施設の高齢者ケアをされている皆様へのご協力を頂きたいと考えています。そのため、貴施設の\_\_\_\_\_氏に研究参加へのご協力を頂きたいと考えています。事前に研究目的・内容等をご説明し、承諾を得たうえで行います。承諾が得られれば、業務等に支障がないように事前調整を十分に行い、指定する日時・場所、方法で行います。面接を3回、各1時間程を予定しています。

研究参加に協力していただく内容については、個人のプライバシーが保護されるよう秘密を固くお守りいたします。また研究結果を学会などで公表する際には、個人が特定されないよう慎重に取り扱います。

地域文化ケアの実践の中にある地域文化に寄り添うケアを明らかにすることで文化的感受性を高めるための老年看護の教育への示唆が得られ、その教育に貢献できると考えています。

上記の趣旨をご理解いただき、貴施設の\_\_\_\_\_氏への研究参加依頼を了承していただければ幸いです。本調査のご協力に当たり、必要な手続き等がある場合には、速やかに対応いたします。

ご協力を頂ける場合は、別途、研究参加協力に関わる同意内容を明示した「同意書」を交わす手続きを取りたいと存じます。なお「依頼書」および「同意書」は調査が終わるまで、保管するようお願いいたします。

<p>研究者：呉地 祥友里          所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程          連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室）          住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1          指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）</p>
---

業務管理者用（本人控）

## 研究へのご協力のお願い（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名

説明者

研究者：呉地 祥友里  
所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程  
連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室）  
住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1  
指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）

業務管理者用(研究者控)

## 研究へのご協力のごお願い (同意書)

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名

説明者

研究者：呉地 祥友里 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809 (老年保健看護共同研究室) 住 所：〒902-0076 那覇市与儀 1 - 24 - 1 指導教員：大湾明美 (沖縄県立看護大学)
---

研究参加候補者用

## 研究参加へのご協力のお願い（依頼書）

平成 年 月 日

はじめまして、私は沖縄県立看護大学博士後期課程の学生で、呉地祥友里（くれちさゆり）と申します。

私は要介護高齢者をケアされている皆様が、沖縄の地域文化に寄り添うケアをされてきた現状から、文化への気づきと地域文化ケアの関係について研究を計画しております（研究課題：要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係）。

そこで、ケア提供者の皆様に研究参加へのご協力を頂きたいと考えています。研究参加の内容は、地域文化ケアの実態と文化的気づき（感受性）についてのお話を伺う予定です。また内容について、答えたくない場合は自由に拒否することができます。

事前に研究目的・内容等をご説明し、承諾を得たうえで行います。承諾が得られれば、業務等に支障がないように事前調整を十分に行い、指定する日時・場所、方法で行います。面接を3回、各1時間程を予定しています。

研究参加に協力していただく内容については、個人のプライバシーが保護されるよう秘密を固くお守りいたします。また研究結果を学会などで公表する際には、個人が特定されないよう慎重に取り扱います。

研究参加へのご協力をいったん承諾した後でも、不都合や負担などが生じた場合には、いつでもお断りすることができます。

上記の趣旨をご理解いただき、研究参加にご協力いただければ幸いです。本研究のご協力に当たり、必要な手続き等がある場合には、速やかに対応いたします。

地域文化ケアの実践の中にある地域文化に寄り添うケアを明らかにすることで文化的感受性を高めるための老年看護の教育への示唆が得られ、その教育に貢献できると考えています。

ご協力を頂ける場合は、別途、研究参加協力に関わる同意内容を明示した「同意書」を交わす手続きを取りたいと存じます。なお「依頼書」および「同意書」は調査が終わるまで、保管するようお願いいたします。

研究者：呉地 祥友里
所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程
連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室）
住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1
指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）

研究参加者用（本人控）

## 研究へのご協力をお願い（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名 \_\_\_\_\_

説明者 \_\_\_\_\_

研究者：呉地 祥友里 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室） 住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1 指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）
--

研究参加者用（研究者控）

## 研究へのご協力をお願い（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名

説明者

研究者： <u>呉地 祥友里</u> 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室） 住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1 指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）
--



## インタビューガイド

### 【面接の準備】

1. 事前に研究参加者への依頼は研究者がおこなう。事前に同意が保留の方は面接当日に同意の可否の確認をする。
2. 面接日時：面接を行う日時について研究参加者の勤務に支障のない、希望される時間帯で面接する
3. 面接する個室の確保：使用可能な個室を予約しておく(施設の会議室や面接室)。
4. 必要物品：①面接調査依頼書(同意済みの同意書) ②面接調査用紙③インタビューガイド④筆記具⑤録音用 IC レコーダー"

### 【面接開始～面接中の配慮】

1. 面接の内容は事前に研究協力者に送付してあるので、記載状況を確認する。
2. 面接の度に、面接調査依頼書と研究計画書に基づいて研究目的、方法、倫理的配慮を口頭で説明し、研究参加者の自由意志に基づいて面接協力に同意が得られるかどうかを伺う。同意が得られている場合でも途中で辞退できる権利について説明する。
3. 面接は1時間程度の時間を頂くことを確認する。
4. 面接内容を録音してもよいかどうかを伺う。了解が得られたら録音させてもらう。録音の目的は、大切な面接内容を正確に把握し、調査目的にかなった分析をするためであることを伝える。録音された内容は研究者以外が聞くことはないこと、録音内容が全て転記された後は破棄することを説明する。
5. 研究参加者ができるだけ自由に自発的にお話ができるような配慮を行い、受容的姿勢、傾聴的姿勢に徹する。決して質問攻めや強要するようなことはしない。

### 【調査ガイド】

#### I 基本情報について

- ①年齢：正確な年齢を述べたくない場合は、十代区切りで回答を依頼してください。
- ②職種：現在の職種を聞いてください。職種変更などある場合は、高齢者ケアの経験施設と年数の部分で補足情報として記載してください。
- ③出身地：地域文化の共有をしているのか把握するためなので、正確な出身地の回答がためられるようであれば、宮古島出身者か島外出身者かの区別ができる程度で回答を依頼してください。
- ④宮古以外での生活経験は、異文化との接触の有無を参考にするためなので、年数や内容は問いません。ただし、旅行とは区別するようにしてください。
- ⑤高齢者ケアの経験施設と年数：可能な限り具体的な年数と場所を把握してください。ケアの場を治療の場、療養の場、在宅の場で区分しているため、それがわかるように回答を依頼してください。

⑥宮古島での地域文化行動の体験：出身地の如何にかかわらず、宮古島での地域文化行動の体験について回答を得てください。伝統行事、地域行事の一覧は別紙を参考にしてください。

## II 地域文化ケアの実践について

地域文化ケアとは、要介護高齢者に対し、①伝統行事への参加、②地域行事への参加、③方言での会話、④地域に暮らし続けることの4つの地域文化行動について、何らかの支援をした経験の語りを得るための質問です。

伝統行事、地域行事への参加については、具体的に参加を達成したのかどうかではなく、参加への思いやニーズを把握し、それについて「取り組んだ」経験であることを伝えてください。具体的な地域文化ケアの実践について、語りが得られにくい場合は、参考文献（呉地ら, 2010）、（知念ら, 2010）のケア内容や体験内容を提示しながら、研究参加者の想起を助けてください。

### 【面接後】

追加の面接依頼の可能性についての説明をする。返答の内容の補足や、確認を依頼することがあること。その場合、面接を再度行いたいことを伝えておく。同意が得られている場合でも途中で辞退できることも再度説明する。

## 「ケア提供者の地域文化行動の体験と地域文化ケアの実践」 調査票

## I 基本情報

①年齢	歳 (または 歳代)	
②職種		
③出身地		
④宮古以外での生活経験	有 ・ 無	
⑤高齢者ケアの経験施設と年数	施設名	( 年 )
	施設名	( 年 )
	施設名	( 年 )
⑥宮古島での地域文化行動の体験	有 ・ 無	
伝統行事	(体験有りの場合) 宮古島の伝統行事で参加経験のあるものを教えてください。	
地域行事	(体験有りの場合) 宮古島の伝統行事で参加経験のあるものを教えてください。	
方言	(体験有りの場合) 高齢者との方言での会話について教えてください	<方言で話すことについて> <input type="checkbox"/> 日常生活に困らない程度に話することができる <input type="checkbox"/> いくつかの表現を使うことができる <input type="checkbox"/> 単語なら一部話せる <input type="checkbox"/> ほとんど話せない  <方言を聞くことについて> <input type="checkbox"/> 日常生活に困らない程度に聴くことができる <input type="checkbox"/> いくつかの表現を聴くことができる <input type="checkbox"/> 単語なら一部聴ける <input type="checkbox"/> ほとんど聴けない
地域に暮らすこと	(研究参加者全員) あなたの関わる高齢者が地域に対しどのような思いを持っているか把握した経験がありますか。 どのように知りましたか。	

## II 地域文化ケアの実践

あなたは、（高齢者の地域文化行動への支援や地域文化行動に配慮した支援など）地域文化ケアを実践していましたか。それはどのような内容ですか。

（質問内容がわかりづらければ、次の項目それぞれについて想起してみてください）

- ①あなたがケア提供者として関わった要介護高齢者について、伝統行事（旧正月、旧十六日祭、七夕、旧盆、十五夜、豊年祭など）への高齢者の参加を促すなど、支援した経験がありますか。それはどのような内容ですか。
- ②あなたがケア提供者として関わった要介護高齢者について、地域行事（運動会、ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会、敬老会、同窓会、もあい、宮古島トライアスロン大会など）それはどのような内容ですか。
- ③あなたがケア提供者として関わった要介護高齢者について、方言での会話を支援した経験はありますか。それはどのような内容ですか。
- ④あなたがケア提供者として関わった要介護高齢者について、地域に住み続けることを支援した経験はありますか。それはどのような内容ですか。

支援事例	施設	実践内容について具体的に教えてください	なぜそのケアを実践しようと思いましたか。どのように、ケアの必要性に気づきましたか。	高齢者や家族、関係者はどのような反応がありましたか。	ケアを実施したときにはどのような気持ちでしたか。
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

## 調査補助者説明会

日 時：平成30年1月11日（木）（全90分）

場 所：沖縄県立看護大学（3階共同セミナー室）

### 次 第

研究代表者あいさつ

- 1 調査補助者の個人情報保護、研究情報の保護の責務の説明
- 2 調査補助者の権利の擁護（辞退者へは退出を認める）
- 3 研究計画と調査補助者の役割
- 4 研究参加者への倫理的配慮の方法
- 5 調査方法、インタビューガイドの手順
- 6 質疑
- 7 同意の手続き

## 調査補助者としてのご協力のお願い（依頼書）

平成 年 月 日

今回、私は要介護高齢者をケアされている方々が、沖縄の地域文化に寄り添うケアをされてきた現状から、文化への気づきと地域文化ケアの関係について研究を計画しております（研究課題：要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係）。

そこで、老年看護を専門とされている皆様に、面接調査の補助者としてご協力を頂きたいと考えています。ご協力内容は、宮古島のケア提供者より地域文化ケアの実態と文化的気づき（感受性）について面接にてお話を伺っていただく予定です。面接は1回1時間程度、一人の研究参加者につき3回実施します。面接の日程は、研究参加者の都合にあわせて実施します。

事前に調査説明会を開催し、研究目的・調査内容等をご説明し、承諾を得たうえで行います。

ご協力をいったん承諾した後でも、不都合や負担などが生じた場合には、いつでもお断りすることができます。

上記の趣旨をご理解いただき、調査補助者のご協力をいただければ幸いです。

ご協力いただける場合は、調査説明会終了後、研究参加協力に関わる同意内容を明示した「同意書」を交わす手続きを取りたいと存じます。

なお「依頼書」および「同意書」は調査が終わるまで、保管するようお願いいたします。

また、調査は研究参加者の情報を共有することになるため、個人情報保護、守秘義務、研究情報の保護について倫理を厳守していただくための「誓約書」提出もお願いいたします。

研究者：呉地 祥友里

所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程

連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室）

住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1

指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）

調査補助者用（本人控）

## 調査補助者としてのご協力のお願い（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名 \_\_\_\_\_

説明者 \_\_\_\_\_

研究者：呉地 祥友里 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室） 住 所：〒902-0076 那覇市与儀1-24-1 指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）
--

調査補助者用（研究者控）

## 調査補助者としてのご協力をお願い（同意書）

この度、研究課題「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアとの関係」に関して、以下のことを「依頼書」に基づき説明を受けました。

その目的や方法、内容等が承諾できましたので、協力することに同意いたします。

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 個人情報の保護などの守られるべき権利に関すること
4. 同意後も自由に調査の撤回や辞退ができること

平成 年 月 日

ご署名

説明者

研究者：呉地 祥友里 所 属：沖縄県立看護大学大学院博士後期課程 連絡先：098-833-8809（老年保健看護共同研究室） 住 所：〒902-0076 那覇市与儀 1 - 24 - 1 指導教員：大湾明美（沖縄県立看護大学）
---



## 誓約書

平成 年 月 日

私は、研究「要介護高齢者におけるケア提供者の文化的感受性と地域文化ケアのタイプとの関係」の調査補助者として、研究参加者に対する守秘義務、個人情報保護、研究情報の保護について倫理を厳守します。

平成 年 月 日

調査補助者

住所 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ (印)

ID	施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1	病院	対象の生活状況を知らない、ケアは出来なと思うので、看護技術も大事だけど、生活状況を把握するために、コミュニケーションの糸口として地域行事(闘牛)について私には知りたいので、患者から聞く努力をしている。 地域行事について生き生きと語ることを糸口として、その人が生活基盤としている経済状況(農業やきびかり、収入の状況など)を把握することに役立っている。	高齢者の生活状況を把握するコミュニケーションの糸口として、地域行事のことを詳しく患者から聞くようにしている	高齢者の生活状況を知らない、ケアはできないので、そのために地域行事をコミュニケーションの糸口にする	地域行事について生き生きと語ることを糸口として、その人が生活基盤としている経済状況(農業やきびかり、収入の状況など)を把握することに役立っている。
2	病院	看護職としてトライアスロンに医療ボランティアとして参加しているが、その目的は、医療サービス・看護サービスの提供だけでなく、トリアスロンが活性化することで島が発展する、医療職が島の発展に貢献できると思うから、実践している。 島内外の医療職で協働連携し、トリアスロンを成功させることで、災害時(宮古島台風)の対応に活かされた。トリアスロンで何もないところからみんなが協力して、何かを作る力が身につく、地域全体で協働して仕事ができるようになったと思う。	看護職として地域行事(トリアスロン)に医療ボランティアとして参加している。	看護職として、地域行事(トリアスロン)が活性化し島が発展することに貢献できる	島内外の医療職で協働連携し、トリアスロンを成功させる経験は、災害(宮古島台風)があったときの対応に活かされた。  トリアスロンで何もないところからみんなが協力して、何かを作る力が身につく、地域全体で協働して仕事ができるようになったと思う。
3	病院	病気で入院中の高齢者たちは、ベッド上安静を強いられる状況であっても、(旧暦の)一日、十五日にお供え物をするのは忘れずに、準備してくれる人を探している。だから、入院中に仏壇があるかを把握して、誰かしてくれる人はいないかを確認している。また、島によっては、自宅で亡くならないときは、祈りを捧げないという風習など、患者の情報を持っていたら、その後の看護士の行動は心がけていて、(管理者である私は)職員にも気をつけるよう伝えられている。職員(看護職)は個人差はあるが、高齢者の地域文化や風習に添って支援をしている看護士もいる。 高齢者の出身地域の伝統行事や看取りの情報を把握し、リーダーとして看護士に行事のケアができるようにしている。	入院中の高齢者は、1日、15日に仏壇のお供え物をする人を探していたので、供えられる人が見つかったか確認した  自宅で亡くならないと成仏できない島の高齢者であることを看護士に伝え合うようにしている	看護職は、地域行事や伝統行事については個人差があるので、個別ケアについて行事のケアを落とさないようにしたい	高齢者の出身地域の伝統行事や看取りの情報を把握し、リーダーとして看護士の地域文化に対する個人差も踏まえながら行事のケアを看護士ができるようにしてきたと思える。
4	病院	旧病院の時に、病院の入り口で塩を置いたり、供え物を置いたりする場所と「塩はここに置いてください」という立て看板もあった。新病院になるときは、当初場所がなかったもので、あちこちに塩を置かれていたことと、利用者から要望があったため、病院で院長、事務長を含め、拝所の設置について検討した。そして、又ジファ(病院で亡くなった人の魂を家につれて帰る儀式)のための拝所を、予算を工面して作った。病院内の思い思いの場所に、儀式のための塩が置かれて困っていたほか、患者家族から、拝みの場所が欲しいというニーズがあった。 新病院でも、利用者が拝所でその儀式が出来るようになり、病院も、院内の思い思いの場所に塩を置かれることもなくなっている。	「病院の敷地内に」拝所がほしいとの患者家族からの要望に応じて、その設置に向けて病院長、事務長と検討し、予算を工面して実現にこぎ着けた	病院の敷地で拝む地域であり、病院に拝所は必要と考えているので、その整備は必要である	新病院でも、旧病院同様に利用者が病院内の拝所で祈りの儀式が出来るようになり、拝みをしているので利用者の希望に添えて良かったと思う。

5	<p>亡くなった人へのエンゼルケアについて、地域で理解されているやり方と、病院で実施している方法にずれが生じていることに気づいた。過去には家族で行っていたケアを今は葬儀屋が担っている。しかし、身内から葬儀屋のやり方と病院のやり方が違うのは何故か？と聞かれたことから、エンゼルケアの実態を把握するために、地域の葬儀屋を全て集めることにした。葬儀屋は声かけに際し、現在やっているエンゼルケアについて説明をした。病院のやり方と異なることもあったが、それぞれのやり方について情報交換をし、それぞれのやり方を理解し、役割分担をした。</p> <p>宮古地区は小さくて集まりやすいことと、宮古の人の気質かもしれないが、すごくかしー(誰かのために手伝う、加勢)する意識が高い。だから、エンゼルケアについて情報を共有し、整理をして、新しいエンゼルケアに向けて役割分担が出来たと思う。</p>	<p>エンゼルケアについて、葬儀屋と病院で現状と課題を共有し、整理して、新しいエンゼルケアに向けて役割分担が出来たことは、地域が小さく集まりやすいことと、助け合う意識が高い気質があったからできたと思う。</p>	
6	<p>病棟師長時代は、4月の年度初めの仕事として、宮古地区全体の運動会の日程を、教育委員会へ連絡して調べ、病棟職員の暮らす地域を確認し、運動会に勤務を組まないよう工夫した。運動会は、家族、親族が一堂に集まるので、運動会に準備したお弁当を囲んで、地域行事が家族、親族で楽しんでもらいたいとおもうので、弁当を作れるように休みにしている。それは、地域が大事にしているものを受け継ぐことになるし、行事を絶やさないことに繋がる。</p>	<p>地域で行われているエンゼルケア(葬儀屋)と病院のエンゼルケアが異なっていることを知り、葬儀屋と話し合い折り合いをつけた</p>	<p>運動会で家族、親族が一堂に集まり一走を囲んで楽しめるようにすることは、伝統を受け継ぐことなので、リーダーとして勤務調整することで伝統行事に貢献できると思う。</p>
	<p>地域行事(運動会)は地域によって日程が異なるため、教育委員会に問い合わせ、病棟看護師が地域行事に参加できるように師長として勤務を組んだ。</p>	<p>地域行事(運動会)には、看護職も参加希望があるので病棟勤務の調整をしておく必要がある</p>	

施設 ID	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1	<p>行事は、日ごろ会えない人たちも集まるので、この機会に交流をしてほしいと思う(意図)ので、家族も大変だろうとは思いますが、本人の思いの方を大事にしたい。なので、大きい行事の時は、家族に連絡してなるべく外出や外泊を勧めてきた。患者は、本日は行事に行きたくても家族に遠慮して言い出せなかつたりすることをこれまでの経験で知っていたので、行事が近づくと、本人と家族に「行事どうしますか」と聞いている。そして、家族に協力を求めて、なるべく、短時間でも外出できるようにしてきた。</p> <p>本人が行事に参加したい表情をみせるので、外出や外泊を渋っていた家族でも、本人のその表情をみると喜ぶかと思える。行事の時に本人が帰ると、家族は準備が大変だとあがるが、行事に参加して帰ってきた時に、大変だったと話す家族はいなかった。本人の表情からは、安心や達成感を感じる。本人は行事に参加することで、病気による痛みやつらさがあるとしても、参加させてよかったと思える。参加した高齢者の言い表情をみて、高齢者は安心感や達成感ももてたと思う。</p>	<p>伝統行事が近づくと「行事どうしますか(家に帰りますか)」と聞くようにしている</p> <p>大きい行事の時は高齢者も行事に参加できるように家族に協力を依頼する</p>	<p>行事には日頃会えない人たちも集まるので、交流の機会にしたい</p> <p>行事は忙しいので患者が帰ると家族も大変だと思うが高齢者の思いを大事にし、伝統行事の時は家で過ごさせたい</p> <p>高齢者が行事に参加するとい表情をすることをこれまでの経験で知っているの外出や外泊を渋っていた家族も高齢者の表情を見て喜ぶかと思える</p>	<p>行事に参加した高齢者の言い表情をみて、高齢者は安心感や達成感ももてたと思う。</p> <p>伝統行事参加のための外出や外泊に渋る家族もいるが、その後、苦情を言う家族はいないので「それで良い」と思う</p> <p>行事に参加して病院に戻ると、高齢者の表情が良くなるので、「行事に参加させて良かった」と思う。</p>
2	<p>行事は、高齢者がこれまで続けてきたことなので、続けさせたいと思うし、病気をすると、人は神頼みが必要だと思うので、神事や行事を続けてほしいと思う。行事に帰ることをすすめてみても、家族がいなくなつたり、家族に断られた入院患者がいるので、その時は、自分の自宅から行事食をもつてきて、帰れなかつた人たちには配った。病院の食事はありきたりであるが、行事食を病院が出すことは難しいことを知っている。自分が自宅から行事食をもつてきて少しでも味わってもらい、行事を感じてもらいたい。季節感を味わってほしいと思っている。料理を見て、「今日は〇行事だね」や「元氣な頃は自分は今こんな風に料理をしたよ」と語りだし、話が弾む。その話が話題になり、どんな昔の話を語ってくれる。話を聞きながら、「本日は行きたいけど行けなかつた」と感じる。でも、これまでの関わりでは寂しさや悔やみを見受けるところはなかった。昔のことを話しながら、楽しいように、生き生きと話しむ姿に、帰りたいだろうと思うし、残念、悔しい、寂しいという想いもあつたかもしれない。</p> <p>伝統行事の話をすると、長男嫁の苦労話も出てきて、自分も長男嫁だと伝え、共有している。その話を聞きながら、長男嫁の役割について学んでいることもある。本家と分家の役割など立場によって違うことを学んでいる。</p>	<p>自宅に帰れない高齢者に看護師が自宅で作った伝統行事食を病棟に持参し、高齢者に食べる機会を作った</p> <p>伝統行事食と一緒に食べながら調理方法や長男嫁としての伝統行事の苦労話を聞いた</p>	<p>高齢者がこれまで家でやってきた神事や行事を続けさせたい</p> <p>病気になる人は誰でも神頼みをするので神事や行事はできるようにしたい</p> <p>病院で行事食を作ることは難しいので私の自宅の行事食を持参し少しだけでも味わってもらいたい、感じてもらいたい</p>	<p>自宅に帰れず入院中の高齢者から伝統行事の日に、行事の話を聞き、長男嫁の役割について学ぶこともあつた。</p> <p>伝統食をみて、元氣な頃の伝統行事食の作り方などを声を弾ませるので自宅から伝統行事食を持参して良かったと思う</p> <p>日頃、寂しさや悔しさをみせることはない高齢者が、行事に帰れない日に昔の話を語り、寂しさを弾ませるので、「行事の日は帰りたい」と思う気持ちを察した。</p>
3	<p>地域によって行事が違うことを知っている。日常のケアの中で、コミュニケーションをスムーズにするために、出身地を把握するようにしている。その出身地に合わせて、地域行事や伝統行事を頭にいれながら共通点を見つけ、そうすると親しみ感があるのので、患者と看護師の距離が縮まる。</p>	<p>伝統行事や地域行事は地域によって異なるので、日常のケアで出身地を聞くようにしている</p>	<p>出身地にあわせて地域行事や伝統行事を頭に入れ、患者看護師間の距離を縮める</p>	<p>出身地域の地域行事や伝統行事を頭に入れて会話をすると親しみ感がわき、患者と看護師との距離が縮まる実感がある</p>

<p>地域の敬老会に参加できない高齢者のために病院内で敬老会を企画したら、今までに似たことのない素情を喜んでくれたので良かったと思った。</p>	<p>病院内でイベントを企画するときには、高齢者の入院前の役割を意識しながらその力を発揮させる大事な事を学んだ後から、病院でイベントを企画するときには高齢者の力を発揮させるようにしている。</p> <p>病院内の敬老会で、病室でしょんぼりしている高齢者の挨拶が素晴らしいから嬉しく思っていた。</p> <p>病院内の敬老会で素晴らしい挨拶をした高齢者(病室でしょんぼりしている)の情報を収集したら老人クラブの会長として活躍していたことがわかった。</p>	<p>高齢者が楽しみにしている地域行事(敬老会)に参加したい心情を察し、代替えでもその楽しみをつくりたい</p> <p>イベントを企画することはほとんど好きであるが、病院で地域行事を企画して皆(患者)を楽しませることは看護師の使命であると感じる</p>	<p>地域の夜のイベントに高齢者を誘い参加支援をしたが、高齢者が喜んでいたので「参加してよかった」と感じていると思う。</p> <p>夜の地域行事への参加で高齢者の健康状態に変化がなかったので、「良かった」と思った。</p> <p>地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフも感動していたので嬉しかった。</p> <p>地域の夜のイベントに入院中の高齢者を参加させるために、医師や医療機器業者の協力が得られたので感謝した。</p> <p>夜の地域行事への参加支援は、協力体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った。</p>	<p>病院内の敬老会と主治医の治療方針、高齢者の身体状況とで、治療の折り合いがつけば、高齢者の生活を優先していいと思った。</p>
<p>地域行事(敬老会)を重視する地域の高齢者が敬老会までに退院できなかったため病院で敬老会を開催することを提案し、実施した</p>	<p>夜の地域行事(なりやまやぐ大会)の鑑賞会を高齢者と一緒に参加する提案をし、家族と調整し主治医を誘って一緒に参加した</p>	<p>美しい幻想的な島の風景は癒やしの効果があると思うので入院中の高齢者に見せたい</p> <p>美しい幻想的な風景は、私も一緒に見せたい</p>	<p>この地域的な風景は、本人が喜んでいたので、参加しやすかった</p> <p>私もそのイベントは好きなので、私の楽しみにもなっていた。ただ、夜の地域行事への参加支援は、協力体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った。</p>	<p>この地域の人は、牛の世話やきびかり、畑仕事を理由に入院を拒否することがある。自分の健康よりも生活を優先させざるを得ない状況(牛の世話やきびかり、畑仕事)があるので話を聞きながら、治療や手術の緊急性と照らし合わせて、主治医を交えて、日程を変更して本人の意向を取り入れたらいい。</p> <p>生活の糧も考慮しながら、治療をしてもらいたい。</p> <p>病院の都合と主治医の治療方針、本人の身体状況とで折り合いがつけば、生活を優先していいと思う。</p>
<p>整形外科病棟で師長をしていたとき、高齢者が地域の敬老会をすごく楽しみにしていることを知っていた。敬老会に行きたいが、敬老会までに退院できない患者に、スタッフと、医師たちと、「ここでできないかな?」「外でできないならここでやればいいんだ!」「どう?」と声をかけた。スタッフたちは賛同し、わーと盛り上がり「よしやろう」となったので私が企画した。高齢者は他の病棟の高齢者も誘っておこなった。</p> <p>いつも病室で暗い表情をしている高齢者たちは、病院での敬老会では、今まで見たことのない表情をしていた。しょんぼりしていた高齢者の挨拶が素晴らしいから嬉しかったので嬉しく思っていた。情報収集したら老人クラブの会長として活躍していたこと者さんが喜んでくれたので良かった。この年齢まで頑張ってきた高齢者にできることをやって、敬いたいと思った。</p> <p>イベントを企画するのはもともと好きで、皆を楽しませることが看護師の宿命と感じている。</p>	<p>夜の、美しい(幻想的な)宮古島の風景を一緒に見たいと思いついて、夜の地域行事(なりやまやぐ大会)の鑑賞会を企画したが、当日は雨によって、入院患者を連れ出すことが叶わず、実現できなかったことが、残念だった。</p> <p>次の年は、家族の協力も得て、入院患者が地域行事(なりやまやぐ大会)に参加できるように医師、家族の協力をえて調整をした。その夜のイベントは、幻想的なイベントなので、入院患者の癒しになると思いついて、企画した。体調不良時の対応ができるよう、医師や医療機器業者、家族と調整し、看護師として付き添い家族と一緒に外出した。地域の夜のイベントは私も好きであるが、病院スタッフもボランティアとして誘ったら感動していたので嬉しかった。</p> <p>家族は入院中の患者を連れていくのは大変だと思うが、本人が喜んでいたので、参加しやすかった</p> <p>私もそのイベントは好きなので、私の楽しみにもなっていた。ただ、夜の地域行事への参加支援は、協力体制づくり等の手間がかかったので、頻回には企画できないと思った。</p>	<p>治療や手術の緊急性に照らして、主治医を交えて説得したり本人の生活を優先させたりしている</p>	<p>この地域の人は、牛の世話やきびかり、畑仕事を理由に入院を拒否することがある。自分の健康よりも生活を優先させざるを得ない状況(牛の世話やきびかり、畑仕事)があるので話を聞きながら、治療や手術の緊急性と照らし合わせて、主治医を交えて、日程を変更して本人の意向を取り入れたらいい。</p> <p>生活の糧も考慮しながら、治療をしてもらいたい。</p> <p>病院の都合と主治医の治療方針、本人の身体状況とで折り合いがつけば、生活を優先していいと思う。</p>	<p>この地域の人は、牛の世話やきびかり、畑仕事を理由に入院を拒否することがある。自分の健康よりも生活を優先させざるを得ない状況(牛の世話やきびかり、畑仕事)があるので話を聞きながら、治療や手術の緊急性と照らし合わせて、主治医を交えて、日程を変更して本人の意向を取り入れたらいい。</p> <p>生活の糧も考慮しながら、治療をしてもらいたい。</p> <p>病院の都合と主治医の治療方針、本人の身体状況とで折り合いがつけば、生活を優先していいと思う。</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 病院	<p>十六日、旧正月、旧盆の三大行事には、島外からたくさん家族や親せきなど面会人が増える。そうすると、病室が待合室になるくらい、人であふれていく。そのため、病室で懇談が十分できず、椅子や車いすなどセッティングをするようにしている。島外出身の看護職は、病院に大勢の人が集まる事態に「病院に人が集まるのは理解がでない」、「ちゃんとルールを守らせてください」と訴える。そういう看護師には、「これが地域性なのよ。こうやって助け合っているんだよ」、「家族だつたらやっばり会いたいでしょう」、「ここは離島だから、こういう時(島外の家族や親戚が行事に合わせて帰島する)にしか会えないのよ、いいんじゃない」と伝え、ダメとは言わせないようになっている。</p> <p>高齢者は、本当に喜んでいて、来ている人がいると、全然表情が違います。そうして、家族が高齢者に伝達する進行状況を報告し、高齢者が指示している場面もみられ、生き生きしている。高齢者は伝達行事の見舞いに来る家族・親戚に会い、緊張が柔らぎ、心を許し、喜んでくれる。特に、伝達行事で孫が来る場合、面会に来る人が古の風習というか、氣質がフレンドリーじゃないですか。しかも、家族だけでなく隣近所の人にも会いに来ます。そういうのが強みなんだと思います。だから、面会は制限しなくて良いと思う。</p>	<p>伝達行事の時期は島外からの面会者が増加することを予測し、病室で談話ができるよう環境を整えた</p> <p>島外出身の看護職が「ルールを守らせて下さい」と発言しても、見舞客の面会を優先する必要性を伝えていく</p>	<p>島外出身の看護職にも助け合っている地域性を伝えたい</p> <p>地域行事や伝達行事に参加できない入院中の高齢者と島内外の関係者のつながりを続けさせたい</p>	<p>高齢者は伝達行事の機会に見舞いに来る家族・親戚に会い、緊張が柔らぎ、心を許し、喜んでくれるような生き生きとした表情になる</p> <p>特に、伝達行事で孫が来ると本当にいい笑顔になる</p> <p>離島で、伝達行事の機会に島外から家族や親戚が里帰りし、入院患者の見舞いにたくさんの方が訪れるのは、この島のフレンドリーな氣質であり、強みとなる良い風習だと思うので、面会は制限しなくてよいと思う</p>
2 病院	<p>病院のカレンダーに旧正月とか、旧盆、十六日はマークをしている。行事の日が近づくと、帰る人はいないかな、退院を早めたい人はいないかなと、帰りたい人を探るようにしている。探して、主治医と調整をしている。理由は、伝達行事の話になると自宅に戻って役割を遂行している時のようなキリッとした表情をし、生活者の顔になる。ずっと行事をやっているから、それを外すことはできないし、地域で生きている人はこれを大事にしているし、これが大事なことです。それができなければ(調整がつかず、患者が地域に戻れないときには)、私が罪悪感を感じるんです。だから、退院を一日早めるけど、本当に少しだけでも、やりませう。特に長男嫁かどうかを把握します。カレンダーも見るけど、知らなければ患者に直接聞くようにしている。本土の宙宇は除外する。伝達行事が近くと、高齢者は落ち着かなくなるので、それもわかる。行事は大事です。だから、参加させたい」という理由である。行事に参加しなかったら、大変なことになります。神様は怒るだろうな」と行事に参加しない、この高齢者の立場が悪くなるんじゃないかと。あつちこつち(島外)から帰ってくる人たち、せつかくみんなが集まって、めつたにない機会なのに、この人だけが会えなかったらかわいそうと思います。特に高齢者は、何回も参加できるわけではないのだから。だから、いま参加してできることがあれば、その場所に入れてあげたいと思うんです。みんな来るのにね、親戚中がね。たれたれの子供だよ、たれたの孫だよ、いま、どこで何をしているの？ という話をしたいじゃないですか。</p>	<p>伝達行事の準備の中心は長男嫁であるため、高齢者が長男嫁であるか否かを把握している。</p> <p>病棟のカレンダーに伝達行事はマークしている</p> <p>伝達行事に合わせ、帰れる人(退院できそうな人)、帰りたい人(外泊できそうな人)を探し、主治医と調整する。</p>	<p>伝達行事は、できるだけ自宅でも家族や関係者と一緒にできる</p> <p>地域で生きている人は伝達行事を大事にしているし、私も大事と思う</p> <p>伝達行事は大事にしているから、入院中であっても参加させたい</p> <p>伝達行事には島内外から関係者が集まるので高齢者とその仲間を入れ交流させたい</p> <p>高齢であればあるほど、伝達行事に参加する機会が限定されてきているので、来年はないかもしれないと思うと参加させたい行事に参加しなかったら仏壇の神様に怒られ、高齢者の立場が悪くなるので、そうさせたくない</p>	<p>伝達行事の話になると自宅に戻って役割を遂行している時のようなキリッとした表情をし、生活者の顔になる</p> <p>高齢者が大事にしている地域の行事には、自宅に戻れるような調整をしているが、上手いかわいさと罪悪感を感じる</p>

3	病院	<p>伝統行事は帰すようにするけど、運動会、模合、グラウンドゴルフに行きたいと高齢者から相談を受けることがある。その時は、治療の途中だから、次の機会にした方がいい、行事に主治医と調整して帰せると目的が達成できたと思ふ。</p> <p>自分の気持ちのラインが見えました。伝統行事には帰りたいと思うけど、地域行事は必要と思っていない、地域行事は遊びや娯楽的な症状が安定してから参加してほしいと思うので高齢者の希望が保てる。地域行事は家族の見守りがあり自己の安全が保てる。</p> <p>インタビュを通して、回答しながら、自分の価値が明確になった。</p>	<p>伝統行事への参加は「何とかしたい」と努力するが、「地域行事」への参加は高齢者からの相談があっても治療を優先させる</p>	<p>伝統行事は治療より優先させたいが、地域行事は治療を優先させたい</p>	<p>伝統行事は家族の見守りがあり自宅での安全が保てるので、家族と調整して高齢者を伝統行事に帰せたいのでうれしかった</p> <p>高齢者は行事に自宅に戻れないとがっかりするるので、主治医と調整して帰せた時は、目的が達成できたと思ふ</p> <p>地域行事は遊びや娯楽的な症状が安定してから参加してほしいと思うので高齢者の希望に添えなくても気にならない。</p>
4	病院	<p>〇〇島の人の人など、地域ごとの生活文化を意識して、漁の話やイベントなどその地域の伝統行事や生活様式について話題にして、話しやすい雰囲気をつくりたい。その理由は、島の人は島のことを愛していると思うので、そういう話を糸口にするけど、末期の人たちは、その話をしながら、家に帰りたい思いを表現させている。地域の話をしていくと、「うわあ」と話がたたくさん出てくるので、その反応をみると、やっぱり、地域が好きなんだなって思っています。治療のために、市街地に転居するよう家族が進めても、絶対高齢者は「いや」と言います。地域が好きで、家に帰りたい末期の高齢者の希望を実現できたいのは、希望を叶えられず残念である。</p>	<p>伝統行事や地域行事は地域によって異なるので、その話題を積極的に提供し、相談しやすい雰囲気をつくりたい。</p> <p>終末期の患者には地域行事や伝統行事の話を積極的にする。</p>	<p>高齢者は地域を愛していることを前提にしている。地域ごとの行事を議論して話の糸口を見つけているようにしている</p> <p>終末期の患者には、家に帰りたい思いを表現させ、自宅で死ぬ準備を始めた</p>	<p>地域が好きで、家に帰りたい末期の高齢者の希望を実現できたいのは、希望を叶えられず残念である。</p>
5	病院	<p>〇〇島の出身者で、入院中にずっと帰りたいと話していた高齢者がいて、やっぱり島で生きて死ぬというところがないかと思つた。そこで、病院全体に帰る方法を問いかけた。そうしたところ、家族、親戚に病棟スタッフでスタッフ30名集まった。自分という人は納得できないと思ふ、何か方法があるはずと考えた。最期ごろは願いをかたえてあげたいと思つた。最期に願いをかなえたいなら今しかないと思つた。できないことではないと思つたので、病棟に提案をした。そこまで頑張った理由は、島の診療所の経験から、島の人の見守られて最期を過ごせることは、島の診療所で実践してきたから、患者の暮らしていた島でもできると思えたんだと思ふ。できないことはないと思つたので、そういうことだった。</p> <p>高齢者に家に連れていくと話すと、喜んでた。家族が喜んでただけでなく、島中の人が集まって、お祝いみたいに喜んでくれた。島に戻って若いころの写真を見せてもらい、この人の生きてきた生きた私を私たちが学んだ。島ですつと80年余り生きてきたので、最期の最期に島に帰れたことは良かったと思ふ。また、かわつたスタッフはやれはできるから、本人の思いを聞くことは大事、自信につなげた。病棟全体が一体感を持てた。</p> <p>離島に帰りたいと訴える高齢者に対し、医師が不便なので医師が「責任とれない」というと、責任とってほしいとは言っていない、「帰りたい」といっていると言った。離島で、医療が不便であったとしても、生きてきたところにいたいと思ふ。だから、医師に伝えるようにしています。そういう時には調整して帰るようにしている。帰りたいと訴えている人は、離島で医療が不便であっても生きてきたところにいたいと思ふことがわかる。最期に一時帰宅はできたが、結局自宅で死ぬことはできなかったので、高齢者の思いを遂げることができなかった。</p>	<p>入院中に島(離島の離島)に帰りたいと何度も訴えていた。高齢者の最期の願いを叶えさせるために、その必要性と方法をみんな考えてくれた。悪い病院に提案し、実現した</p> <p>重症患者の外出は責任とれないと主張する主治医に、「高齢者は帰りたい」と代弁する</p>	<p>島で生き、島で死ぬようにしたい</p> <p>離島であることが壁になって終末期に島に戻れないというところは納得できない</p> <p>人生の最期ぐらいは本人の希望を叶えてあげたい</p> <p>過去の島の診療所の経験から「医療のない島でも終末期にかえれないことはない。できないことはない」と思えた</p> <p>終末期で自宅に帰りたい人の心情は生きてきたところに戻りたいと思っているのだからできるようにしたい</p>	<p>島ですつと80年余り生きてきて、島に帰りたい思いを持つ高齢者が、最期の最期に一時でも島に帰れるようにしたいと思つたと思ふ</p> <p>「状態が悪く島に帰る事は無理」と思えた患者に関わつた多くの病院スタッフは、「やれればできるので、本人の思いを聞くことが大事なことである」と理解し、自信につなげたと思ふ</p> <p>病棟全体が一人の高齢者の島に帰りたい思いを実現するために病院全体が一体感が持てた</p>

<p>6</p> <p>診療所</p>	<p>〇〇島は、伝統行事の多い地域で、伝統行事の年間スケジュールが診療所に掲示されている。伝統行事には、島民で役割が分担されており、その役割によって、外来受診日時の調整をしていた。その理由は、祭りの役割がある日に外来を入れると、本人が焦って時間を気にするし、十分な診療ができない。伝統行事に忙しいことは、診療所でも共有しているので、伝統行事の時は外来日時を調整する必要があることを理解している。その際、若い先生は、どうして外来を組まないのかと苦情を言ってくるが、うまくいくときも、いかないときもありです。</p> <p>住民がわがままを言っているのではなく、地域の行事はひとりやらのものではなく、地域のみんなでもやるものだから、それはみんなに合わせる必要があり、それが地域の良さだから、外来の日程を融通している。そのことで、住民側は、行事の場で親しげに声をかけてくれ、暮らしたイベントを自分に報告し、日程調整をしたり、日程調整のお礼を言ってくれたりする。</p>	<p>伝統行事の役割があると、外来を焦るので、役割に配慮して外来受診日時を調整した</p>	<p>外来受診を催せせず、受診に集中してほしいので、伝統行事の役割を理解したい</p> <p>外来受診の日時調整の希望は、住民のわがままではないので、地域の行事での役割は病気をさしていても、みんなに担わせるようにしたい</p> <p>みんなが地域の行事をやめることは地域の良さであり、外来の受診の日時は融通をきかせたい</p>	<p>伝統行事に忙しいことは診療所も共有しているから、伝統行事がある時は外来日時を調整することが必要である</p> <p>医師によって伝統行事の時の外来日時の調整は上手いくときも、いかないときもあるが、地域の行事は地域のみならず日であり、地域の良さであるので外来の日時の調整は必要である</p> <p>行事に参加すると高齢者から、親しげに声をかけられたり、情報提供されたり、お礼をされる</p>
<p>7</p> <p>診療所</p>	<p>〇〇島は村民運動会があり、救護班としてだけでなく、選手としても診療所は参加している。このことは島全体を見ることができ、そして高齢者もたくさんいる場所である。また、私たちにとっては島の人々に対するお披露目の場になっている。顔を合わせてお披露目したり、コミュニケーションの場になっている。そうすると、高齢者たちがあいさつをしに来たり、差し入れを持ってきてくれる。診療所では、運動会を話題にして、受診者と医師、看護師との会話が変化し、関係性が変化する。島の人は、医師が変わると、どんな医師が来るのかと不安がっているのがわかるので、村民運動会や医師をお披露目にして、自分のことを話す場にもなり、島民と医師、看護師との関係づくりに活用している。また、他人行儀ではなく、話しかけやすい雰囲気をつくることは、医療職には必要なことと思</p> <p>い、村民運動会に参加することでそれが作られている。くばくば（ぎくしゃく）形式ばかりで話したり、診療所に差し入れがあったり、あるいは診療所に大根が置かれてあったり、お礼の招待状を持ってくるようになっていく。そうすると、自分は行事に参加したから外来に来れないなど、自分の要望を住民が伝えられるようになっていく。それまでは事務員にお願いしていたものが、看護師にお願いできるようになっていくと思える。</p>	<p>高齢者がたくさんいる地域の行事に救護班として参加しながら、地域行事を学ぶ</p>	<p>住民は、交替して間もない新任医師について不安があるので、地域行事でお披露目し安心感を持たせるよう意識している</p> <p>地域行事を活用して、医師と住民をつなぎ、看護師も交えて関係づくりに活用する</p> <p>住民とのコミュニケーションがとれるよう地域行事を活用する</p> <p>医師・看護師が行事に参加することで、緊張せず、気軽に相談でき、住民の要望が伝えられるようになってほしい</p>	<p>看護師が住民の一人として地域行事に参加することで参加した後から、住民からの話しかけが増えたので、気軽に何でも相談でき、コミュニケーションが取りやすくなったと思う。</p> <p>他人行儀ではなく話しかけやすい雰囲気を作ることは医療職には必要なことであり、地域行事に参加することでそれができていると思える</p>



施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 病院	<p>入院している高齢者Aさんが不穏があることで、大部屋に移すことに困った。大部屋にいる、同じ島(〇〇島)出身の高齢者のBさんに着目し、同じ島出身の中に入れて落ち着くのではないかと思った。また不穏があってもいいのではないかと思った。同室にしたところ、不穏の高齢者は、相手を知っており、方言で声掛けしたりして、落ち着いた。</p> <p>私は二人が〇〇島出身であることを知っていた。Aさんは代看(診療所看護師の休暇時に病院から応援する)で行ったときに把握し、Bさんは入院時の記録で把握していた。方言や生活背景が共有しあえる環境を整える必要があると思った。Aさんの不穏は方言や生活背景など異なることが原因であると考えた。</p> <p>Bさんにはつきりしないが、Aさんの不穏は落ち着いた。</p> <p>〇〇島に足を運んだことから、宮古島とは違う方言や生活背景があることを把握していたことから、生活環境を配慮したことで不穏が落ち着いたと思う。</p>	<p>不穏のある患者を同じ地域の患者と同室にし、同室にしたら方言での会話がはじまり、そのうち落ち着いた。</p>	<p>同じ島の出身者同士をを同室にしたのは、出身者同士は安心するので落ち着くかもしれないと思った。</p> <p>高齢者の不安は環境の違いから発生しているのだから、方言や生活環境が共有し合える環境を整える必要があると思った。</p>	<p>不穏の高齢者を同じ地域の高齢者と同室にしたら不穏が落ち着いたのは、地域によって、違う方言や生活背景があることを把握していたので生活環境を配慮したことで不穏が落ち着いたと思う</p>
2 病院	<p>地域の伝統行事で役割を担っていた高齢者がインフルエンザで入院してきた。もともと入院前に歩いていたのであれば、地域から来た人が、地域に帰るという目標設定してケアを組みかええることを提案した。伝統行事までに地域に帰し、これまでの役割を担うよう、地域に返すために、医師や看護師仲間たちに伝え共有を図った。</p> <p>元気な頃の生活背景や生活環境を知っていたので、その生活に近づけたと思った。</p> <p>〇〇島の人であり、意識していたかもしれない。私だけでなく、他の職員みんなでも共有できたことが一番。宮古といっても生活背景が違うことをみんなに伝えられたことがよかった。〇〇島の生活背景とか地域の出身が一緒であることを知っていて一緒にケアを組み立てることが、意味があることが伝わったということがケアの自己評価です。</p>	<p>伝統行事で役割を果たしたいとの希望をリハビリ目標に取り入れることを、医師と看護師仲間提案し、共有が図れた。</p>	<p>行事で活躍している高齢者がインフルエンザの入院を契機に憂たきりにしてはいけないと思った。</p> <p>元気な頃、伝統行事で役割を担っていたことを知っていたので、その生活に近づけたいと思った。</p>	<p>「伝統行事には地域に帰す」という目標を他の職員もみんなでも共有し、一緒にケアを組み立てることに意味があることを学んだ。</p>
3 病院	<p>優良サトウキビ農家としてとても頑張りが、子どもたちをちゃんと成長させたという自信をもっている、高齢者夫婦がいた。妻が入院生活をきっかけとして夫婦がばらばらになり、夫婦ともに認知機能に障害があるが、生活環境は他者の力を借りながら、サービス受けながら、隣近所や、公的なサービスを取り入れながら、この夫婦が支えられると思っただけで、退院して、帰りがケアがなくなるように、島外の子どもたちと連絡をとり、サービスがつかないよう調整した。</p> <p>夫婦ともに島に住み続けたいという意向があることを(島の診療所で夫婦の情報を得ており)把握していたので、早めに島に戻す必要があると思った。もとの夫婦の暮らしを組み合わせる必要があると思っただけで、島での生活の継続ができたので良かった。</p>	<p>地域に住み続けたいと希望していることを把握していたので、島外の子ども達と調整し地域に居られるようにした。</p> <p>近隣の協力が得られやすい地域であることを把握していたので、島外の子ども達と調整し地域に居られるようにした。</p>	<p>これまで近隣と支え合って暮らして生きてきたことを知っていたので公的サービスも取り入れながら自宅に返せると思った。</p> <p>島に住み続けたいという意向があるから、近隣の協力が得られやすい地域であることを把握していたので、島外の子ども達と調整し地域に居られるようにした。</p>	<p>夫婦ともに島に住み続けたい意向があったので、退院後の夫婦の暮らしを組み合わせることで、島での生活の継続ができたので良かったと思う</p>

4	病院	<p>60代くらいの、池間民族の入院患者にお見舞いの客が方言で書かれた島の本をもってきていた。方言で書かれた本をみて、これすごいなと関心をよせた。患者にわからないから読んでくださいということを書いて、読んでもらって教えてもらったので良かった。方言を話す高齢者に出会って、自分が通じないため、習わなければならぬと思った。これをきっかけに教えてもらった。高齢者の日常生活を把握して、このひとのケアに活かす必要があると思った。</p> <p>看護職として方言を知りたいので、教えてもらって、相手の話を理解したい、相手に伝えたいと思った。</p> <p>高齢者に「方言を学びたい」ニーズとして伝えたい、それは意味のあることだということが高齢者に伝えたい。自分が学ぶことは高齢者のケアに意味があることなので知りたいということに相手に受け取ってほしいという必要性がある。</p>	<p>見舞客が持ってきた方言の本をみて、高齢者に「わからないから教えて下さい」と頼むと、高齢者はうれしそうに教えてくれた</p> <p>高齢者の日常生活を把握してケアに活かす必要があると思っただ</p> <p>看護職として方言に興味があったし、方言を習って伝わり合いたいと思った。</p> <p>看護職が方言を学ぶことは、高齢者ケアに意味のあることであることの高齢者に伝えたいと思った</p>	<p>方言を讀んでもらうと、「宮古のこと知らないだろう」と言われて、「知らない」と答えたら、「退院したら自分の家においで」といわれたので、2-3人くらいで遊びに行った。「宮古のこと知らないでよ？」と言われて、地域のことを知るとは高齢者ケアに必要であると思ひ、知りたかった。患者が退院した時に、「遊びにおいで」と言われて遊びに行った。</p> <p>幼少期に祖母と母が宮古島に関する行事をしていたのを見て育った。私自身は十六日、旧正月、お盆に興味はなかった。学生時代県外の実習で地域の人たちと出会い地域の文化に触れて、地域によって違うんだなと、地域によって価値が異なることを学んだ。それで沖縄のことに関心が持てたが、沖縄本島ではあまり考えられる機会がなかった。宮古に転勤して、違和感、ちよつと違うな、言葉が違ふ、伝統行事が違うということ、連日に関心をよせた。その違いを知っている方が、高齢者ケアに活かせるのではないかと思った。高齢者のケアに方言や伝統行事は知っておく必要があると思った。</p>	<p>高齢者には方言で話すほうが伝わりやすいことを、これまでの先輩のケアの場面で耳で知っていた。方言で語る高齢者を目的にして、自分が標準語でしゃべったら高齢者が怪訝な顔をしたりした場面があった。そこに先輩が来て、方言で会話をすると高齢者はしゃべりだして、高齢者のニーズを把握しやすかったという場面を見たことがあったので、方言で高齢者がしゃべり始めると、先輩を呼んで、「ちよつと何か言っていますけど、ちよつと通訳お願いします」と頼む。呼び理由はこの人の言葉を理解できない私で、この人は方言しかしゃべれないから、先輩を呼ぶ、</p> <p>対象のことを知りたいたから先輩を呼び、私もその場に居合わせた。この人を理解したいから、この人が訴えたいことは何なのかということを知る必要がある。ケアのために必要である。</p> <p>先輩の方言のやり取りをみて、そのやり取りで高齢者は落ち着いて、方言で主張するようになった。自分の状況を伝えるようになった。その場に私が居合わせることで、対象を理解でき、方言で語らせることの意味を確認する。</p>
5	病院	<p>退院後の自宅訪問は、地域のことを知ることができ高齢者ケアに役立つと思っただ</p> <p>言葉の違いや伝統行事の違いを知っているほうが高齢者ケアに活かせるので、方言や伝統行事は知っておく必要があると思っただ</p>	<p>言葉や伝統行事の違いを実感し、関心を寄せ、その違いを知り、高齢者ケアに生かしたいと思っただ</p>		
6	病院	<p>方言で話さずにはいられない高齢者の理解には、方言で語らせたいと思ひ、方言のしゃべれる先輩にケアを交差したら、高齢者が落ち着き、ニーズを表現していたことから対象理解に方言で語らせることの意味を確認した。</p>	<p>高齢者の話を適切に把握しケアに活かすために方言を知っている看護師にながさかかった</p>		

7 病 院	60代の高齢者が入院中に、区長の役割があるからグラウンドゴルフに行かなければならないと相談されたので、医師と相談して外出ができた。この人にとっては地域行事であるグラウンドゴルフで役割がある。区長という役割や責任を考えたらず、代替えがきかず重要と思っただけで医師に伝えていいかなと思っただけ。	区主催で開催される地域行事(グラウンドゴルフ)に区長としての役割があり外出希望があったので外出できるよう医師と相談した	行事の時の地域のリーダー(区長)の役割は代替えがきかず重要であると思っただけでその役割を担わせたかった	主治医と調整し、地域行事で役割のある高齢者の外出許可をとり、参加をさせたが、必要なケアと思う。
8 病 院	急性期病院では急に亡くなるが多かった。そのとき家族が魂を拾うと聞いて、患者のそばで拝み始めることがあったので、そのときは、終わるまで待っていた。「魂をひろわうことができたかね」とか「安心できたかね」ということを話していた。 魂が帰れると思ってくれるんだしたら、それで良いと思える。	亡くなった患者のそばで、伝統の祈りを捧げている家族を祈りが終わるまで見守った	亡くなった人のそばで拝みにより魂が宿るとの価値を支持したかった	祈りの儀式をすることにより納得するのであれば、それで良いと思える。

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 病院	<p>「孫の入学祝いがあるから早めに退院したい」という入院中の患者の要望に対して、入学祝いは盛大に行われる地域であることを知っているため、そこに参加させたいと思いい、医師と調整をし、外出の許可が取れ参加できた。病院内に戻り、患者が孫の入学式の話題を嬉しそうに話してくれたので、参加できて良かったと思った。</p>	<p>盛大に行われる地域行事(入学祝い)に合わせて高齢者が早期退院を希望していたので主治医と調整した</p>	<p>島の地域行事(入学祝い)は盛大であることを知っていたので高齢者も参加させたいと思った</p>	<p>地域行事(入学祝)が盛大に行われることを知っているため入学式に参加させたいと思いい、医師と調整し実現したが、参加後に高齢者が喜んでいたので良かったと思った</p>
2 病院	<p>今の高齢者は、共通語で意思疎通も出来る方も多いが、きれいで大きな病院に来ると気構えして萎縮し、緊張しながらも医師やいろんな専門職に共通語で自分の症状を伝えようとしている。医師に対して、うまくいかないけど、一生懸命自分の症状を伝えていくけど、うまくいっていない感じがするので、うまく表現できていない様子を見て、「おはあ」と声かけただけ、緊張せずに自分の思いを話して欲しいと思うので、方言を交えて話れたらどうか、他愛もない会話を始める。そうすると方言で自分の症状を方言交えて伝えられるように手伝っている。</p> <p>地元以外の医師には、共通語で説明しないと行けないので、高齢者には、医師には伝えにくい、言いづらいと思っていることが、長年見てきた経験や、高齢者の話を聞いていて、知っている。</p> <p>田舎の高齢者は、こういう大きな病院では、かしこまり、奥ゆかしく、不満を言わずに、じっと我慢している感じがするので、方言を交えて話していることと和らぐ。</p> <p>自分が手伝うことで、高齢者の言いたいことが伝えられるようになっていくと思う。長年の経験から、高齢者には、気持ちを表現できるよう、方言で介入する支援が必要と思う。</p>	<p>医師と共通語でぎこちない会話をしている 高齢者に方言で話すことを促すために方言で語りかけると、方言を交えて症状を伝えられた</p>	<p>一生懸命に標準語で訴えているが上手く表現できていない高齢者をみて、「方言でも良い」というメッセージを伝えたいと思った</p> <p>島の高齢者は、大きい病院では緊張することを知っているため、方言で声をかけることで言いたいことが伝えられるようになってほしい</p>	<p>方言での会話を促すことで、高齢者の言いたいことが伝えられるようになっていく</p> <p>長年の経験から、高齢者には、気持ちを表現できるよう、方言で介入する支援をしているが、方言を交えて話すことと和らぐ</p>
3 病院	<p>宮古では、高齢者が入院すると、家族親族だけでなく、部落総出でお見舞いに来る。そのため病室が賑やかになる。面会時間以外にグループで病室を訪れるが、多少は目をつぶり、時間を短めにしてとか、早めに帰るよう声をかけている。</p> <p>面会者の来訪で、入院中も患者さんが元気になると感じる。</p>	<p>伝行事中の見舞客は面会時間外にグループで来ることもあるが、早めに帰るよう声かけしつつ、多少は目をつぶっている</p>	<p>高齢者が入院すると部落総出でお見舞いに来る習慣があることを知っているため、病院のルールを緩やかに解釈して面会させてほしい</p>	<p>高齢者が入院すると家族親族だけでなく部落総出で、面会時間を度外視して面会に来るが、面会者の来訪で、入院中も高齢者が元気になると感じる</p>
4 病院	<p>面会に来て、「〇〇に住んで〇〇さんの部屋はどこですか」と居住地と性別だけを名乗るとから表現でインフォーマションに現れる面会者がいる。そこで、性別だけでなく名も覚えてから来て下さいと注意しつつ、せつかく来てくれるので、「今回だけでもよ」と許可してしまう。そして、住所を頼りに、面会者と一緒に病室を探す。</p> <p>「電気がついていないね、いないのかね、いないらしいよ、入院したらいいよ」と隣近所が気になって、お見舞いに訪れている。入院しても周囲が支えていることが伝わって、入院生活が楽々だと感じる。入院しても周囲が支えていることが伝わって、入院生活が楽々だと感じる。入院しても周囲が支えていることが伝わって、入院生活が楽々だと感じる。</p>	<p>近隣のつながりが入院で途切れないように、関係者の支えが高齢者に伝わるように、高齢者の名前が曖昧な面会者であっても邪険にせず、病室と一緒に歩いて探す</p>	<p>面会者によって入院中の患者が元気になることを知っているため、見舞客は大事にしている</p> <p>地域は狭く情報が入りやすく、入院すると近隣も自分事のように心配するので、その関係性を入院によって途切れさせないようにしたい</p>	<p>隣近所が心配して面会に来る習慣を受け入れることが、入院中でもつながりを途切れさせないことになると思う</p>

5	病院	<p>入院患者の出身地域は、朝のミーティングでも話題にしているし、その内容はすーっと頭に入ってくる。宮古島全体が小さいから、いろんな情報が入ってきて、他人でも身近に感じ、身内のように感じる。だから、面会者までできるだけ、入院患者には、面会させてあげたいという思いがある。</p>	<p>高齢者の出身地域は、島が小さいので隣近所の者を身内のように感じているので、家族以外の面会者を大事にしている(朝のミーティングでも話題になる)</p>	<p>他人でも身近に感じる地域性があるので、面会者ができるだけ面会させたい</p>	<p>地域が小さいので出身地域のことを話題になると、私は他人でも身近に感じるので、隣者も同じような思いを持ち面会に来ると思うから、その支援は必要である</p>
---	----	---	---	---	---

施設ID	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1	<p>〇〇島では、亡くなりそうなのは家に帰すときたりがある。その理由は、自分の生まれ島以外で亡くなった時は、家に連れて帰って帰ってから、祈りなどの供養をしないといけない。ということと私は同じ地域の出身で文化を共有していたので知っていた。家族から絶対島に連れて帰りたいと申し入れた場合、病院からは、病院から家への移動のプロセスをイメージ化して、その時の対応方法を確認している病院や看護士にできること、自分のワゴン車で送迎することと必要事項を把握して、自宅に戻るまでの具体的な支援(病院から港までのワゴン車での移送やワゴン車での安楽な姿勢、ワゴン車からフェリーに乗るとき、自宅の段差の状態の確認)をしている。</p> <p>患者や家族から、家に帰りたい、自宅で看取りはしたい、ということも聞いた時には、自宅に戻すようにしている。</p> <p>手間はありますが、患者は思いが遂げられるし、家族も希望すること(祈りをしなくてもいい)が実現するのでよいと思う。</p>	<p>「自分の家で死ぬ」ことと知っているので、その島の高齢者が高齢者の場合、病院から自宅にたどり着くまでの移動をシミュレーションし、具体的な段取りを敷く</p>	<p>自宅で看取る価値を持つ島の高齢者と家族の思いを遂げられるようにしたい</p>	<p>高齢者の思い(島の自宅で死ぬこと)を遂げさせるためには、手間はかかるが高齢者と家族の希望に添うことはよいと思う。</p>
2	<p>自宅へは帰れないと思ひこんでいる患者と、家族も「もういいですよここ」と半分あきらめていた。本人へどうしたいの?とたずね、「家に帰りたい」ということを確認した。それを聞いたので、この人の思いを遂げてあげようと思い、「本人が帰りたい」と言っていることを家族に伝え、「でもだめですよ」とあきらめかけている家族に調整して帰るための段取りを敷いた。帰る方向で、機器会社との交渉や活用方法、移動の手配をして、自宅のベットの手配や設置をして帰れるようにした。</p> <p>入院中のケアの経過のなかで、高齢者から家を新築して、こだわった庭造りをしたことや聞いたことがあった。高齢者は、重症化してあきらめかけているけれど、帰りたいと思っているのではないかと思った。ニーズの確認をして、家族を説得し、自宅で看取りした。</p> <p>四十九日終わってから、家族が来て、ひっきりなしに身内や親戚、隣近所の人に来て、本人がとて喜んでくれた。お世話になりましたと、茶菓子を持ってきてくれた。それでよかったと思った。</p>	<p>自宅で最期を迎えたいがあきらめかけている患者に、自宅に戻る後押しをし、退院に向けて機器やベットの手配や移動手段などの準備をした</p>	<p>自宅死をあきらめていた高齢者でも、隠れたニーズ(人生の最期の場は家で過ごしたい)に沿いたい</p>	<p>高齢者の希望(自宅に戻りたい)を知りつつ、自宅で看取することをあきらめかけていた家族を説得したら、後日、「自宅で最期まで家族に囲まれ、とても喜んでいました」と家族から感謝された</p>
3	<p>入院中にベッドの周囲に、塩や葉っぱを置かせてほしいと、元同僚の看護師(妻の友達)にお願されたので、本人や家族がそれで安心をすることができれば、いいですよということ、ベッドの頭の元におかせた。その時に塩がこぼれないように袋にいれておかせた。</p> <p>塩や葉っぱを置かせてほしいと依頼された。私も当然やるものだと思う。ケアの邪魔になるものではなく、家族がそうやってほしいという最後の願いを病院にしているのだから聞くのは当たり前であり、当然やってみよう。例えば病棟の看護職がそのような願いに対して、断ってきたら、「何を言っているのか、最後の願いは聞いてあげようよ」と師長は指導する。最近の若い看護職は、ルーチン化されたマニュアルを守ることを第一に考えがちであるが、意味がないように見えることでも大事なことがあることを伝えていきたい。</p>	<p>魔除けとしてベット周辺に葉っぱや塩などを置かせてほしいと家族に依頼され、ケアの邪魔にならないよう工夫して置かせた</p> <p>同僚看護師が魔除けとして塩を置きたいと希望した家族の要望を受け入れられなかったと聞き、「ケアに邪魔にならない願いは聞いてあげようよ」と指導した</p>	<p>非科学的と思えるようなこと(ベットのそばに塩と葉っぱを置く)でも家族の要望であれば、治療に影響ないことは支持したい</p> <p>家族の祈禱したい願いを病院は受け止めるべきと思う</p> <p>非科学的にみえても最期の願いを聴くことを優先する看護職を育てたい</p>	<p>ベット周辺に塩や葉っぱを置く習慣は、私も共有している。私も当然やるものだと思うし、本人、家族が安心すればそれでよいと思う。</p>

4	病院	<p>正月や十六日は社会的入院をさせる家族がいる。伝統行事をうまく取りおこなうために、高齢者は忙しくて面倒を見る人がいないので、社会的入院をさせる。特に、十六日には、島外から子や孫などの関係者が帰ってきて、お見舞いに来るということを知っている。</p> <p>高齢者の見舞客が薄々、病棟がにぎやかになったり、お見舞い時間を守らないことを予測して、それを病棟の管理者として許可している。「わーわー」と来てでもそれを制限しないで、時間外にお見舞いに来てでもそれを許している。伝統行事のついでにきてから、本当だったら、高齢者も一緒にやる伝統行事だが、高齢者は病院にいないから、お見舞いにくる。代替ケアである。</p>	<p>伝統行事が忙しく高齢者の介護が十分でないことで社会的入院になる患者を「仕方がない」と受け入れている。</p> <p>伝統行事で島外から帰省する親戚縁者が病院の面会ルールにあわせず時間外にわーわーと大勢来て、制限しないで許可している</p>	<p>伝統行事は、高齢者と一緒にみんなで行きたいが、高齢者が入院しているので、できない心情を理解してできることをしたい</p>	<p>入院中の高齢者は伝統行事に親戚縁者が見舞いに来ることを楽しみにしているので、面会時間の制限などのルールにこだわらず見舞客を受け入れることが、伝統行事に高齢者も参加したことになると思う。</p>
5	病院	<p>できるだけ伝統行事はみんな楽しんでみたいので、十六日の伝統行事には、検査日程は組まないように、カレンダーにわかるように書いてある。検査日の設定は患者と医師で行われるが、新米の医師はわからないで組んでしまうことも予測している。最い付き合いの医師ならこれではできないよと言いが、1年交代の医師には、意識をしたら検査日を調整する。伝統行事の日は検査を組んでも「患者さんさまよ」と伝えるようにしている。十六日が大事な伝統行事であることを解説する。そしてずらしてもらえように、お願いをする。十六日には組まないようにしている。</p> <p>伝統行事の時には家は忙しいので、検査は別の日にしてほしいと予測している。患者は、医師に対しては絶対であり、言いたくも言えないという島民性を理解している。(検査などの日時を伝統行事に被らないように調整すると)患者はほっとした表情をしてあげると言うてくれる。この地域の高齢者は自分の言いたいことがきちんと標準語で伝えられたいということを知っている。それは必要なケアだと思う。</p>	<p>盛大な伝統行事の日に検査を入れようとする新米の医師には、伝統行事について解説し、別日程の調整を依頼している</p>	<p>検査予約を入れず、できるだけ伝統行事はみんな楽しんでみたい</p> <p>「医師は絶対」という意識をこの地域の高齢者が持っていることを理解しているので代替する必要がある</p> <p>地域の高齢者は標準語で上手く話せない島民性を知っているため代替する必要がある</p>	<p>検査日や外来は、伝統行事と重ならないように主治医と調整すると、高齢者からほっとした表情をして「ありがと」といわれる</p> <p>地域の高齢者は自分の言いたいことができちんと標準語で伝えられない、医師の言うことは絶対と思いついていっているので、伝統行事のことで医師との調整を補うことは必要なケアだと思う</p>
6	病院	<p>この地域に住んで、地域の同じ病院で25年程働いている私は、最初に出会う時「どこに生れ」とさっかかけをすることで地域の把握をする努力をしている。患者は地域に関心を持って、その地域の行事への参加状況などの話をし、その人の地域文化を理解する。友達の話や、集落の特徴、料理の話、お店の話とか、話をしながら、繋がりをみつけるコミュニケーションをとっている。</p>	<p>初めて出会う高齢者に「どこ生まれと尋ねて、伝統行事や、地域への関心度、つながりなどさっかかけをみつけコミュニケーションを図るようにしている。</p>	<p>適切なケアのためには、地域の把握や地域の行事を知る必要がある</p>	<p>高齢者の出身地域を把握することは、地域行事や伝統行事を話題にして地域文化を理解しつづ、つながりを見つけてコミュニケーションを図ることには役立つ</p>
7	病院	<p>高齢者が方言で「ツグスヤムヌム(膝が痛い)」と言って、医師が困っているところにも、「膝が痛い」と通訳をし、患者の伝えたい痛みを代弁した。そうすると患者は心を開いて自分のことを方言で語り始める。自分の症状や訴えをたくさん表現してくれる。標準語ではうまくしゃべれないので、方言で今の自分の状況を語りだしていると思っていると予測している。</p> <p>方言で話す、患者は症状などを訴える。(通訳することで)方言を知らない医師は症状や状況を把握することが出来て診断や治療方針に役に立つたと思う。また、若い医師たちは象徴的な症状の訴えなどについての方言を柱に基いて、高齢者がきたら「バズルムヤム」などどこが痛いかなど、コミュニケーションに役立てたり、診断、治療方針に役立てたりする努力、工夫をしている。</p> <p>私は、私よりも方言が上手で地域のことをよく知っている、病院の上司を尊敬し、その実践を真似たいと思うけれど、そこまではうまくできない。</p>	<p>高齢者が、医師に症状や訴えを表現できるように方言で「ツグスヤムヌム(膝が痛い)」と話すこと通訳し、安心して方言で話せるようにしている</p> <p>診断や治療に役立つよう、高齢者が語る方言を通訳している</p>	<p>方言を交えて高齢者と会話することで、方言で症状などを訴えやすいようにする</p>	<p>方言を標準語に通訳することで、高齢者は方言で症状や訴えをたくさん表現してくれるので、方言での会話は診断や治療方針に役立つ</p>
8	病院	<p>伝統行事はみんなでもやるものだから、病棟のスタッフたちにも、みんなでもやる。皆準備をする。命がけで、長男嫁を中心として、家族みんなでも伝統行事をやろうと知っている。病棟のスタッフでも勤務調整をして伝統行事の準備をもらうようにしている。島外からの親戚縁者が集まることも知っている。いつもより長男嫁は忙しいことを把握している。休ませて時間をつくるようにしている。スタッフたちは、伝統行事で準備があることを知っている。それぞれが段取りを敷いて、みんなに休みが割り振られるように、配慮してくれることが管理者としてうれしい。</p>	<p>伝統行事は病棟スタッフもみんなでもやることなので、長男嫁を優先して勤務調整をした</p>	<p>病棟のスタッフで特に長男嫁は伝統行事に忙しいことを知っている。伝統行事の準備をできるように勤務調整をしたい</p>	<p>病棟の同様に伝統行事の準備ができるよう一緒に勤務調整に協力してくれ、必要なら人に休みを出して、管理者としてうれしい</p>

ID	施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1	病院	<p>方言しかコミュニケーションがとれない高齢者に、県外のナーズが、標準語で、水分たくさんとってください等、指導しているが、高齢者は聞きとれず、ちぐはぐな会話をしている場面に出くわした。代わりに方言で説明したら、高齢者はよくわかったという顔をしたら。看護師の指導がわからなかった。看護師は自分が言いたいことが言えなくて困っているのだらうなと思って、通訳をする。</p> <p>これまでの経験から、共通語が十分に聞けない高齢者は簡単な言葉を話していても、大変なことを聞かれていると勘違いをするので、高齢者が不安にならないように、方言を聞き、通訳することは意味があると思う。ほっとした表情をして、「あなたの言っていることはよくわかったよ」と言ってくれた。</p>	<p>県外の看護師が標準語で説明しているが、高齢者がちぐはぐな会話をしている場面で、私が方言で説明したら高齢者はよくわかったという表情をした</p>	<p>方言でしか会話できない高齢者に、標準語の通訳が必要であった</p> <p>これまでの経験から高齢者が説明を取り違えないよう、不安がらないよう方言の通訳が必要と思った</p>	<p>標準語で話すナーズの指導にちぐはぐな対応をしている高齢者に方言で解説したら「よくわかった」という表情をした</p> <p>方言を通訳することは、看護師の指導が伝わることで、高齢者のいい対抗がたえられなくなるので、高齢者は不安が減り「ほっとした表情をしていた</p>
2	病院	<p>ナーズコールがあり訪室すると、女性の高齢者から「気分が悪いので、自宅に電話して、おじいちゃんに拜みをしてくれ」と頼まれた。気分が悪い、バイタルを確認すると特に問題はなかったが、電話をした後、落ち着くのかと思いきや、本人に(病院の)携帯電話を貸した。その後、しばらくして、気分がよくなったと、釋やかな表情をしていた。私にとっ、意味不明なことであっても、信仰がらみで依頼されることは、必要なケアだと思。私に、それを依頼したのは、年齢がらみで依頼されるから選ばれたと思う。そして、本人たちが、これまでやってきたことや、こだわりの支障することは、必要なケアである。</p>	<p>バイタルは落ち着いているが「気分が悪いので拜みが必要だから家族に連絡したい」と訴えている高齢者に、病院の携帯電話を貸して家族に連絡を取らせ、気の済むようにした</p>	<p>意味不明なことでも、先祖崇拝の信仰がらみで依頼されることは必要なケアと思う</p>	<p>拜みのごことを依頼されたのは、私が年齢が高くなるから選ばれたと思う</p> <p>信仰がらみで依頼されることは意味不明なことであっても、これまでやって来たことやこだわりの支障することは、必要なケアと思う</p>
3	病院	<p>処置中に突然、誰かが見ている等、ぶつぶつと急にしゃべりだし、塩をもっておいでと言われた。様子がおかしいと思ったが、邪気を取り除くために、塩を用いることの生活経験があったので、この人が必要としているし、少しでも落ち着けようと思い、訴えに応じた。その塩を握りしめ、だんだん、落ち着いてきた。</p> <p>この対象者が祈ることでパニック状態から解放されて、安全な処置ができるようになった。塩が邪気を取り除くというところは理解しているし、落ち着いたし、この人を安楽にさせるためには必要なケアだと思。</p>	<p>処置中にいきなりパニック状態になり、ぶつぶつとしゃべり出し、塩を要求したので、少しも落ち着けばと思いきや、要求に応じた</p>	<p>邪気を払うため塩をまく生活体験があったので、邪気を取り除き安楽にするケアは必要である</p> <p>パニック状態に陥っている高齢者が祈ることとで処置の継続ができるなら祈ることは必要と思った</p>	<p>塩が邪気を取り除くということは理解しているため、パニック状態の高齢者が塩を要求したときにも応じた。高齢者は塩を握りしめ、落ち着いてきたので、この人を安楽にさせるためには必要なケアだと思。</p>



4	病院	<p>高齢者を中心にやってきたことをやれるようにするのは、この人たちの生活のなかで、最も大切なことであり、当たり前のことと思ひ、高齢者が伝統行事(十六日)に帰りたいといったら、それは帰らないといかんねと言ひ、帰してあげろ。(夫や先祖が入っている仏壇に)伝統行事の際、高齢者を中心にやってきたことをやれるようにするのは、この人たちの生活のなかで、最も大切なことであり、当たり前のことと思ひ、帰す。家族に連絡をとり、帰る調整をする。</p> <p>この人の伝統行事における家族内での役割は、大きく、やらないといけないと本人も思ひ、家族も期待していると思ひ、まだまだできるという自信につなげたい。</p> <p>「行ってきたよ、おかげさまで」と、嬉しそうな表情をする。家族のなかで、役割を果たし、まだまだできるという自信につなげることは当たり前のケアだと思ふ。</p>	<p>高齢者が伝統行事に外出したいとの希望があれば、大事なことで、当たり前のこととして受け止め、帰れるように主治医と家族に調整している</p>	<p>高齢者を中心に執り行ってきた伝統行事には、高齢者にとって大切なことであるので、何より優先して伝統行事に参加させたい</p> <p>伝統行事に参加することで、高齢者に「まだまだできる」という自信につなげたい</p>	<p>伝統行事に参加後は、「おかげさまで行ってきたよ」とうれしそうな表情をする</p> <p>高齢者を中心にやってきたこと(伝統行事)をやるようにするのは、この人たちの生活のなかで、最も大切なことであり、当たり前のことと思ふ</p> <p>伝統行事に参加し、家族のなかで、役割を果たし、「まだまだできる」という自信につなげることは当たり前のケアだと思ふ</p>
5	診療所	<p>外来で、順番を待って受診することは当然のことと思ひていたが、今日の葬式の係で、早く準備をしないといけないので、自分から先にしてくれと言われ、困惑した。話を聞くと、葬式は集落で、役割が決められており、その役割を果たさないと、葬式が進められない。しかし島の人たちみんな、役割を分担して、葬式をとりしきるという、島の葬式の仕方を知らず、外来で訴えていることの大変さが伝わり、この仕事をやるために、それを受け入れることが大事をわかり、訴えを聞いて、医師にもその説明をして、外来の順番を入れ替えるようにしている。訴えを聞いて、外来待ちの住民たちも、必要性和大事さを知っているから、その訴えを理解してくれ、先に外来を済ませてくれとお願ひする。</p> <p>(ありがとうというのは言わないので、当然と思ひているかな。)本人はやつとこれで、葬式の準備ができると思ひ、安心した表情をしていた。</p>	<p>島の葬式の仕方を知らず、外来で理解不足な訴えをしていることを理解したので、応えるようにしたい</p>	<p>島の葬式の仕方を知らず、外来で理解不足な訴えをしていることを理解したので、応えるようにしたい</p>	<p>外来の順番を早めて、地域の行事ができるようにしたら、葬式の役割が果たせられたのか安心した表情をした</p> <p>地域での役割(葬儀の遂行)を果たすために、外来順番の変更の希望を外来待ちの住民も島のしきりとして、その必要性を理解して交番してくれた</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 病院	<p>地域ごとに盛大に催される敬老会に、入院していることで、参加ができない高齢者は、さみしいだろうと思ひ、忙し中でも、病院内で少しでも癒やしになればと思ひ、手作り敬老会を考案し、関心のありそうな看護師や病棟の医師を巻き込んで、高齢者が好みそうな踊りや歌を任事の合間に練習して、実施した。医師をも巻き込んだのは、忙しなくても遊び心をもって楽しむと思つたから。家にいれば、地域の老人からお祝いのもらって、公民館に行ったり、家に人が来てもらつたりして、本人も楽しんで過ごしたはずなのに、入院しているから、元気な人はいないねえと言っていた。できるだけ長く楽しんでもらいたかつたのでわくわくさせるために計画の段階から、敬老会の準備状況までできるだけ高齢者に語るようにして、盛大に敬老会を楽しんだ。高齢者がすごく喜んでくれた。出来ただけ高齢者に楽しんでもらおうと、踊りの稽古に通い始めた。</p> <p>敬老会をきっかけに、看護師と医師との関係がコミュニケーションがとりやすくなつたり、患者と看護師との関係も親しみやすいつくられていった。準備しているプロセスを患者と楽しみを共有し、自分たちスタッフ同士も楽しんだ。</p>	<p>地域行事(敬老会)に参加できず落ちこぼれた高齢者を見て、医師や看護師仲間と手作りで地域行事を開催した。</p>	<p>最大の地域行事(敬老会)には高齢者を参加させたい。</p> <p>最大の地域行事(敬老会)に参加できない高齢者でも代替であつても楽しい思いをしてほしい。</p> <p>業務で忙しい医師や看護師仲間にも病院で開催する地域行事で遊び心を持ってほしい。</p> <p>病院で開催する地域行事は準備の段階から高齢者も準備する職員も楽しみたい。</p>	<p>敬老会(病院内での)をきっかけに、看護師と医師との関係がコミュニケーションがとりやすくなつたり、患者と看護師との関係も親しみやすいつくられていった。</p> <p>地域の敬老会に参加できない高齢者のために病院内で敬老会を企画したら、高齢者がすごく喜んでくれた。</p> <p>病院での敬老会の企画・実施は、準備の段階から患者と楽しみ、看護師仲間も楽しんだ。</p>
2 病院	<p>伝統行事(旧十六日祭)に、入院のため参加が出来ない高齢者が、仏壇に線香があげられないことに對して先相に申し訳ないと言つた。70代の高齢者に、「神行事に詳しい90代の高齢者が病気を直して、後からでも線香を上げて事情を説明すれば、神様はとがめないよ」と作話を伝えた。早く元気にして、退院して、神様にありがとうございませうと感謝の言葉をかけようねと慰めた。</p> <p>主治医が驚くほど、患者の表情が明るくなり、前向きに生きる姿勢が見られ、不思議な検査アータも良好になつて、退院した。伝統行事には、治療効果があると思つた。</p>	<p>伝統行事(十六日祭)に参加できず落ちこぼれた70代の高齢者に、「元気になつてから事情を説明したら神様はとがめないよ」と作話を語り話をして励ました。</p>	<p>伝統行事に参加できず落ちこぼれている高齢者を「参加できないことば(神様から)許される」と作話をしても慰めたい。</p>	<p>主治医が驚くほど、高齢者の表情が明るくなり、前向きに生きる姿勢が見られ、退院した。ので、伝統行事には、治療効果があると思つた。</p>
3 病院	<p>伝統行事(旧暦の七夕は裏糺除の日とされる)に入院中の患者が、裏糺除ができなくて悩んでいた。七夕の時期に都合がつかなくても、神様は心が広いので、退院してから、事情を説明して、お墓の草刈りをして花を供えればいよいよだと思つた。高齢者は納得したようだったので、そうするよと落ち着いたように思つた。</p>	<p>伝統行事(裏参り)に参加できず悩んでいた高齢者に、「神様は心が広いのでとがめないよ」と励ました。</p>	<p>伝統行事に参加できず落ちこぼれている高齢者を「神様の広い心は許してくれる」と励ました。</p>	<p>伝統行事に参加できず悩んでいる高齢者に退院後の対応について具体的に話し合つたら落ち着いた。</p>
4 病院	<p>正月に入院していた高齢者が、医師に外泊許可を要望したが拒否された。伝統行事を地域で過ごさず思つたので、外泊ではなく、「お墓に出かけて夕方帰ってくるのほどうかた、外出の交渉を主治医にし、外泊許可をだしてもらつた。外泊できなくて、がっかりした表情をするので、「外出さえも出来ない人もいるのよ、何時間かでも、家で家族と過ごせるからいいよ」など、「あなたは幸せですよ、外出ができるんだから、外出できるのは病気が良くなつた証だですよ」と患者をなだめ、外出を促したら頷いていた。</p>	<p>伝統行事(正月)に外泊を希望していたが医師から拒否された高齢者が落ち込んでいたので、主治医に「せめて外出許可」を交渉し外出ができるようにした。</p>	<p>伝統行事への参加許可がおりず落ちこぼれている高齢者に、外泊が無理でも数時間の外出にでも代替させたい。</p> <p>伝統行事を地域でしてほしいと思うので、外泊ではなく外出許可になったことを、一時でも地域に居られることを意味づけ、一緒に喜びたい。</p>	<p>伝統行事に外泊許可が得られず落ちこぼれている高齢者の主治医と交渉し外出許可をえて、「外出できるのは病気が良くなつた証だ」となだめたら頷いていた。</p>
5 病院	<p>高齢者には、できるだけ方言を交えて会話をするようにしている。だんだん親しくなつてある日、「誰にもいえないところがかゆい」と方言で言いたし、当初から全身痒痒感があり、軟膏を塗布していたが、軟膏を塗つてもかゆみが良くなつた。なにかを主治医に告げ、診察の結果、帯状疱疹がみつかつた。方言で気軽に話し合える関係性がもてたことで、命取りにもなる帯状疱疹の早期発見につなげることができた。方言での会話は、親近感が持ちやすいつつ、方言を身につけていたことで、方言で会話ができれば、看護に役に立つ、ケアに役に立つことを経験した。</p>	<p>方言を交えてコミュニケーションを取り親しくなつた患者から「誰にもいえないところがかゆい」と陰部痒痒感を訴えられ、帯状疱疹の診断を受け、治療につなげた。</p>	<p>方言での会話は何でも気軽に話し合える関係性がつけられる。</p>	<p>方言での会話は、親近感が持ちやすいつつ、方言を身につけていたことで、方言で会話ができれば、看護に役に立つた。</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 病院	鳥には、ベッドの枕元にはさみを置いたりする風習がある。県外出身の私は危険だと思っているが、邪険にすることはなく、患者の病状などに照らして、「気をつけて置いと下さい」とその行為を認めている。	枕元にはさみを見つけても(鳥の風習であることを知っている)邪険にすることなく「気をつけて置いてください」と話す	(県外出身の私は)ベッドの枕元にはさみを置くことは危ないと思うが鳥の風習を認めた	鳥の風習(ベッドの傍にはさみを置く)はケアに影響がない限りは邪険にせず認める
2 病院	高齢者の枕元に塩が袋につつまれて置かれていることをよく見かけるが、何も言わないようにしている。看護師の中にも、「神だかい人」がいて、勤務中にも塩を携帯していることをみかけたり、聞いたりするので、あえて否定しようとは思わない。	枕元に塩が置かれていることをよくみかけながら、勤務中に塩の入った袋を携帯している看護師もいるので、注意したりしない	看護師仲間で霊感の話題があり、病院は信仰を否定する場所ではないので危険な行為を認めたい	鳥の風習(塩を枕元に置く)危険がなく、節度が守られていれば否定しない。
3 病院	危険状態になると家族や関係者が押しかけて、消灯を過ぎてもうさくなくしてしまうので、他の入院患者に配慮するよう注意するが、危険の状態であれば、どうしてもそばにいたいと思うので、面会時間以外の付き添いもそのやり方を家族と相談して、他の入院患者に迷惑にならないように許している。これまで、苦情を受けたことがないのでそれで良いと思う。	特に危険状態の時には面会時間を守らず家族や関係者が押しかけてくるが、他の入院患者に配慮し、付き添い方など家族と相談し許している	危険状態であれば、ずっとそばにいたい心づいて、面会時間以外の面会や付き添いをさせたい	危険状態の患者の家族の面会時間外での付き添いを他の患者の迷惑にならないように許しているが、苦情を受けたことがないのでそれで良いと思う
4 病院	正月や十六日には、患者が帰りがたがるし、家族も連れて帰りがたがるので、医師の許可が得られれば、伝統行事に参加してもらっている。食事制限などがなければ、島外から孫が帰ってくるとか、親戚が来るとか聞いているので、皆で集まって、そのことで元氣になり、戻ってきたらいいと思う。	伝統行事(十六日)には、帰りがたがる患者や連れて帰りがたがる家族の患者には、主治医の許可を取るようになっている。	伝統行事には島外から親戚や孫が帰ってくると思うので、皆で集まって元氣に戻ってきたらいいと思う	伝統行事を自宅でやっていた高年齢者は、病院に戻ったときに明るい表情になる
5 病院	県外出身の私は、高齢者が方言で話しても自分は全く使えないので申し訳なく思っている。それでも高齢者が方言で何を話しているときには、地元の高齢者に通訳してもらっている。高齢者は、地元の高齢者に方言で症状を訴えるので、高齢者の訴えが聞けて良かったと思う	県外出身の私は、方言が通じないので、高齢者が方言で話しかけてきたら、地元の高齢者を探し通訳してもらっている	県外出身の私は、高齢者が方言で話しかけてきてもらえないが、理解する必要性を感じる	県外出身の私は、方言が全くわからないので、方言で話す高齢者には地元の看護師に通訳を依頼することで、高齢者の訴えを聞くことができた

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 療養所	<p>園が海の近くにあることもあり、サニツ(旧3月3日)には、園の療養者に声かけて、普段は海に連れて行けない人も声かけて、おやつを準備して出かけるようにしている。浜下りしない人も多いが、元海師で現在車いす生活の高齢者を、普段は連れて行かないけど、サニツなので、年に一回ならいいんじゃないかという気持ちになって、車いすごと砂浜に下ろしたら、本人は買ったこともないような笑顔を見せた。</p> <p>サニツの日に海に下りられたら、海にまつわる思い出を語り出すので、その思い出を共有できる。</p>	<p>海の近くにある施設であり、浜下りする伝統行事(サニツ)には、おやつを準備して、声かけてでかけ、車いすごと浜辺に下し楽しむ</p>	<p>年に一度の浜下りには、施設の近くの海に連れだし、楽しみたい</p>	<p>施設の近くの海にサニツ(旧3月3日)に車いすごと浜下りすると、見たこともない笑顔を見せた</p> <p>サニツの日に海に下りられたら、海にまつわる思い出を生き生きと語り出すので、その思い出を共有できたと感じた</p>
2 療養所	<p>旧盆でもほとんどの人が帰れない。宮古では、決まった日(七夕、十六日)にしかお墓参りが出来ないで、お盆の初日に施設内にある納骨堂で年1回慰霊祭をしている。普段は外出したくない人も、納骨堂に身内がいる人は、日々のケアの時に、「納骨堂で手を合わせたい」といって希望するので、特に声かけをして連れて行っている。</p>	<p>決まった日(七夕、十六日)にしか墓参りのできない地域であるので、その日は、施設内にある納骨堂に手をあわせることを手伝っている</p>	<p>納骨堂に身内が納められている高齢者は、日々のケアの際に「手を合わせたい」との希望を聞いているので、本人の希望することを援助したい</p>	
3 療養所	<p>地域行事(トライアスロン)は、島全体が参加し、応援している。園は、バイクコースなので、毎年テントを張り、希望者を募り、車いすでも応援できるようにしている。園で過ごしている高齢者も、鳥ぐるみのイベントには一緒に参加してほしいと思う。そろいのシャツや帽子を身につけて、宮古島の一人としてこのイベントに参加してきた一体感を感じる機会になっている。私は安全面を考えると、見守りながら、応援会場に出かけている。</p>	<p>地域行事(トライアスロン)は、希望者を募り、車いすでも応援できるように、安全面を考慮して応援会場に出かけ見守っている</p>	<p>園で過ごしている高齢者も、鳥ぐるみのイベントには一緒に参加してほしい</p>	<p>島全体が参加する地域行事(トライアスロン)へは、施設の高齢者も島の一人として一体感を感じる機会になっている</p>
4 療養所	<p>十五夜には、行事を味わってもらうために、ふきやぎ(お供えのお餅)を買ってきて、一緒に食べて行事の雰囲気味わえるようにしている。昔からこの地域であたりまえにやっていた伝統行事なので、入所中の高齢者であっても、やるべきものと思っている。小さい頃からやっていた行事については、私が知らないことを教えてもらう機会があることと、小さい頃から体にしみじみついた行事は、やりたい気持ちがあり、身体的にできなくなっても、援助してもらってでも続けていきたい気持ちを察している。</p>	<p>伝統行事(十五夜)を味わってもらうために、おはぎを買ってきて一緒に食べて行事の雰囲気を楽しんでいる</p>	<p>昔からこの地域でやってきたこと(十五夜)はおはぎを食べる)をやり、伝統行事の雰囲気味わってもらいたい</p> <p>伝統行事を味わくことは、入所中の高齢者であっても、やるべきと思っている</p> <p>小さい頃からやってきた身体に染みついている伝統行事は、身体が不自由になってもやりたい気持ちがあると思うので援助して続けさせたい</p>	<p>伝統行事を味わってもらうための企画は、島外出身の私が知らないことを高齢者から教えてもらう機会になっている</p>

<p>5</p> <p>療養所</p>	<p>島外出身の私は、方言が話せず、聞けないので、方言で話しかけられたら、地元の職員に声かけして、代わりに聞いてくれないかとお願いしている。方言は慣れ親しんだ言葉で、方言でしか表現できないニュアンスもあるため、聞けたり、話せたらもともと対象の理解ができると思うけど、難しいところがある。</p> <p>方言がわからなくて、「もういいよ」と対象に拒否された経験もある。もういいよじゃなくとで、こめんね。わかる人に変わるからこの人に話して下さいとお願いをしている。そのことで、高齢者も安心している。方言を聞ける人に解説してもらい、本人が話していることを通訳してもらって、「こうしようね」とケアに活かすと、本人が安心した表情になる。</p>	<p>方言が聞けない、話せない私は、方言で高齢者が話し始めると、方言の聞ける人に解説してもらい、訴えを理解し「こうしようね」とケアに活かしている</p>	<p>方言は慣れ親しんだ言葉で、方言でしか表現できないニュアンスもあるため、対象の理解に役立てたい</p>	<p>島外出身者の私は方言が聞けないので、地元の際に通訳してもらおうと、高齢者が安心した表情をする</p>
<p>6</p> <p>療養所</p>	<p>元気な頃の運動会の話題が良よくるので、園では、入所者と職員とで運動会を実施している。高齢者の状態にあわせて見学や応援など、できることをして、職員と入所者の交流の機会にしている。刺激の少ない園の生活に運動会は、企画、準備、実施の間、職員と入所者の会話の中心となり、認知症予防になっていると思う</p>	<p>若い頃楽しんで地域行事(運動会)の話題があるので、施設で運動会を実施し、対象の状態にあわせて見学や応援を手伝っている</p>	<p>地域行事を施設で実施することは、高齢者と職員の交流の機会になる</p> <p>地域行事を施設で実施することは、高齢者の認知症予防になる</p>	<p>地域行事(運動会)を園で開催することは、高齢者と職員の交流の機会になっている</p> <p>高齢者が若い頃楽しんできた地域行事(運動会)は、高齢者の認知症予防にもなっていると思う</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
<p>療養</p> <p>1</p>	<p>地域文化ケアの場面</p> <p>サニツの日に何気なくドライブにいったら、ほとんど面会に来ない家族に偶然会えた。その時利用者はものすごく喜んでくれた。地域行事や伝統行事に利用者を選んできたら、関係者と交流ができると思った。</p> <p>施設入所者は外出する機会がほとんどなく、自宅にもどることも難しい中で、生まれ育ってきた、地域に行ってみたいと思っていた。地域に向かい合いの交流会などと交流が持てるとうれしかった。</p> <p>地域行事を調べて、その時の利用者の地域の地域行事に合わせて、その利用者の外出をしている。そこに行くとおーいど誰かしら知り合いが、寄ってきて声をかけてくる。「みんな元気？ どうですか？」などという声掛けをして、利用者は「あー、誰々」と嬉しそうにしている。利用者はとても良い表情をして会話が弾む。</p>	<p>施設入所者の地域の伝統行事や地域行事を調べて、日時・場所に合わせ、高齢者の外出支援をしている</p>	<p>地域行事や伝統行事の場に施設入所者が地域に出向き昔の知り合いと交流させたい</p>	<p>高齢者と地域行事に出かけると、地域の知り合いに会い、交流が弾み、高齢者は良い表情をして会話が弾むので地域行事に外出するケアを継続している</p>
<p>療養</p> <p>2</p>	<p>地域行事を調べて、一覧を作り、地域ごとに利用者に提示した。どんな地域行事に行きたいかという希望を聞く。利用者の希望に対して、職員の日程や、行き先を調整して、段取りを敷く。その後、利用者の家族に連絡して、地域行事の時にいきますよという連絡をする。それは、日頃面会には来られなくても、そこで会える機会、話をする機会を作りたいので、情報提供する。家族に連絡するかしないかも、利用者に了解をもらっている。</p> <p>地域行事に利用者と参加すると、利用者の知り合いから、利用者の得意なことややってきたことも聞きたい。その話を聞いて、それを施設ケアに活かすことができ、最初は面倒くさがらなくても、外出してしまえば利用者と楽しそうに話をしている、一緒に楽しんでいく。利用者だけでなく、職員も楽しんでほしいと思う。</p>	<p>地域ごとの行事の一覧表をつくり、入所に提示して参加希望の行事を聞き、参加に向けて、先方との調整など段取りを敷く</p> <p>外出支援を好まない職員について、利用者の外出時の会話を集めるように誘っている</p>	<p>地域行事や伝統行事の場には、地域の人々が集まるので、日頃面会に来られない方でも会う機会、話をする機会にしたいたい</p> <p>地域に出向き利用者の知り合いから利用者の得意なことを聞きたい</p> <p>外出支援を好まない職員も誘って参加させることで、外出支援を楽しんでもらいたい</p>	<p>地域行事への外出支援をする職員は、高齢者と会話が弾み、一緒に楽しんでいる</p> <p>地域行事へ出かけると、高齢者の知り合いから高齢者がやってきたことや得意なことなどが聞け、施設のケアに活かすことができ</p>
<p>療養</p> <p>3</p>	<p>伝統行事に誘う家族もいるが誘わない家族もいる。施設には生活はないと思っただけで、できるだけ高齢者を地域に出して、地域の雰囲気を感じてもらいたいと思う。認知症の利用者で、なかなか意向が把握できないと恐って話をすると、行事の話をすると、以外と覚えていて反応することもある。認知症の症状に合わせて、こんな行事があるねと説明をしていくと、反応する行事がある。その行事について参加できるように計画する。一緒に行事が出来なくても、その場と一緒にいく。</p> <p>日常的なケアの中で、正月などの行事の前にはそわそわすることを知っている。周りの人も、わかっているように表情や反応がある。施設では見られないような表情や反応がある。外出支援をするのに、ケア提供者だけで足りない。施設生活そのもの明るくなるので、職員みんなで取り組みたいので嫌がるケア提供者も事務職員も外出支援に誘っている。</p>	<p>認知症の高齢者でも行事の話題には反応することがあるので、好みの行事を思い出すため、いろいろな行事の話を話題にして反応を伺う</p> <p>認知症高齢者が反応する行事には、日時・場所を調べて参加できるように段取りを敷く</p> <p>外出支援でケア提供者が足りないときには、事務職員も巻き込む</p>	<p>家族が行事に誘わなくても、外出支援によりその場の雰囲気を感じてほしい</p> <p>外出時の高齢者の表情を職員で共有したい</p> <p>行事に参加し高齢者を元気にしたい</p>	<p>地域行事で高齢者の表情がだんだん明るくなって、施設では見られないような表情や反応がある</p> <p>地域行事への外出支援に人手が足りないときに、事務職員も巻き込むことで施設の全体の雰囲気そのものが明るくなる</p> <p>地域行事に高齢者を連れ出すと、誰かはよくわからなくても「あー」って反応するので、地域の人、寄って来て昔の話を。</p>

4	療養	本人の希望と家族の折り合いがつけば、伝統行事を家族と過ごしてほしいと思ってる。しかし、希望者全員を送迎することは業務上困難なので、協力できる家族を引っ付けて、家族に送迎をお願いしている。また介護タクシーの活用方法を伝えたりして協力をしてもらっている。「送迎があれば外泊させてよい」という連絡が、家族から来るようになった。	伝統行事を家族と過ごせるよう送迎の手配をする	伝統行事は、できるだけ自宅に戻り家族と過ごしてほしい	できるだけ伝統行事には家族と過ごしてほしいと思いき、家族に協力を依頼していたら、伝統行事が近づく調整を依頼する家族がでてきた。
5	療養	誰でも自分の家がよいと思っており、施設入所中の利用者が家に「帰りたい」とい、家を見に行きたいと不穏になるときは、利用者の状況と家族状況を加味して、家族に休みの日に外泊して調整をし、連れて帰ってもらう。夫の命日の日に、調整をして外泊を実現したこともある。送迎があれば外泊させてよいという連絡が、家族から来るようになった。 迎えにいったら「家がいいから施設に行きたくない」と言われて困ることもあるけれど、それは当然のことだと思える。	「家に帰りたい」と訴える高齢者には、家族と調整して外泊させる	誰でも施設ではなく自分の家が良いと思っ ているので、帰りたいときには帰らせてあげたい	帰宅願望がある高齢者が家族の協力で帰宅し、迎えにいくと「家がいい、施設に戻りたくない」と言われるが誰でも自分の家が良くないと思っ ているので、それは当然のことだと思える。
6	療養	伝統行事は一人一人の個別支援で手間がかかり、自分たちの仏壇行事も重なるため、調整が難しいので家族を巻き込んでいく。地域行事は、同じ地域の複数の高齢者をグループで連れて行けるので、家族に依頼しなくても、介護職だけでなく施設の事務職員も巻き込んで、集めて連れていく。	伝統行事には私（職員）の仏壇もあるため、家族を巻き込んでいる 伝統行事はできるだけ家族の支援を依頼し、地域行事は施設の職員で対応するようにし、関係者みんなでも協力し合う	高齢者と同様に私（職員）の伝統行事も大事にしたいので家族にも協力してほしい	
7	療養	一度地域行事へ外出支援をすることで、利用者が地域行事に参加できるということになった。次に行きたい地域行事を一緒に考えて計画する。地域行事の連れて行くことを約束する。日常の施設ケアの中で、予定している地域行事のことを話題にする。利用者からも話題にされる。そのやり取りが私は楽しみとなり、利用者とのコミュニケーションとして使っている。 何も楽しめない施設生活を変化させることで、運動会や遠足と同じようにその日まで楽しい時間を過ごさせるのではないかと。施設ケアにも楽しみがもてるのではないかと思 う。 とても楽しみにして、「その行事はまだか」と自分から話すようになってきたり、今度はこの行事に行きたいと要望をだすようになる。利用者から地域行事の企画の話だけでなく、色々な話を聞かせてくれるようになる。 施設の生活に楽しみとして取り込まれていると思える。	地域行事や伝統行事の話題は、やりとりが楽しいのでコミュニケーションとして日常の施設ケアに取り入れている	楽しみが少ない施設ケアで、地域行事のことを話題にして施設を楽しんでほしい	高齢者から地域行事のことを話しかけられ、そのやり取りが私の楽しみになっている 日常の施設ケアで、参加したい地域行事の企画を高齢者と一緒に行うことを話しかけると、高齢者から地域行事のことやいろいろと話しかけてくるようになった 施設職員と高齢者は地域行事に参加するケアによって、会話が生まれ、何の楽しみもない施設の生活に楽しみとして取り込まれていると思える
8	療養	外出しなくなっていく利用者には、行事はあまり乗る気ではないが、外出しなからドライブしながら「家を帰りに行こう」といったら、乗ってくれる。家族以外の関係者には会いに行かないが、自分の家を見に行き、他者との関係性は取りにくい人だが、自分の家は見たいのではないかと。自分の家に行きたらうれしそうである。	外出を好まない施設利用者をドライブしながら「家を見よう」と誘い出す	家族と関係性が取りにくい高齢者でも自分の家は見たいと思う	行事に乗り気でない高齢者でも、自宅を見たいらしく、「家を帰りに行こう」と誘ったら外出に応じ、自分の家を見て嬉しそうなる表情をする

9	療養	ベテランの職員が方言で話している場面では、同じ利用者とは思えないほど会話がはずみ、「わーっ」としゃべっていた。だからなるべく話すことはできなくても、利用者の話は聞けるように方言を勉強し、聞けるようになった。 方言で話す方が自分でも伝えたいことをちゃんと伝えてくれるようになった。	方言の話せる職員との会話は楽しそうなので、利用者の話が聞けるように方言を勉強し、聞くことだけでもできるようなっている	高齢者は方言で話す方が自分の言いたいことがちゃんと伝えられると思う	私が方言を勉強し聞けるようになったら、方言で話す高齢者が自分の言いたいことをちゃんと伝えてくれるようになった。
10	療養	伝統行事(十五夜やお正月や七夕)に帰れない利用者に対しては、「寂しいだろう、帰りたいだろう」と思い、施設内で短冊を書いたり、月見会をしたりして、「家の方向」に向かっ手を手を合わせようね」と促し、一緒に持つ。伝統行事の雰囲気が出るように、また行為ができるように工夫して高齢者の思いを少しでも慰めている。	伝統行事に帰れない高齢者には施設内で月見会をしたり、「家の方向」に向かっ手を合わせようね」と支援している	伝統行事に家に帰れない高齢者の思いを慰めたい	
11	療養	新人職員の研修として、施設内だけでなく、伝統行事や地域行事への外出支援をすることで利用者の表情が変わり、利用者の関係性や、過去の得意なことなども分かって、施設内のケアに活かせるという話をする。新人職員も一緒に地域行事や伝統行事の外出支援に連れて行く。そして高齢者の反応や交流を確認してもらおう。 そういう地域行事や伝統行事に行くことは、職員にとっても楽しいことであり、利用者にとっても、家族にとっても意味のあることだとこのことを、一緒に活動することを通して、伝える努力をしている。それを知ることが施設のケアを拡げていくことにもつながっていく。施設の責任者も外出支援を推進するように声掛けをしたり支援している。	伝統行事や地域行事への外出支援の良さを新人職員の研修会で話す 新人職員を伝統行事や地域行事の外出支援に連れて行く	新人職員にも地域行事や伝統行事への外出支援が高齢者ケアになることを知ってほしい 職員みんなで施設のケアを広げたい	地域行事に外出支援することの効果について新人職員研修で語ったり、一緒に外出支援に連れて行き、高齢者の反応や交流を確認することで、施設のケアが広がっている
12	施設	高齢者の入所前の情報をケアに活かしたいが、施設内での利用者しか知らないことになり、この方は昔なんの仕事してたんだろう、生まれ、出身とかどこなんだろうと思いついて確認した。農業や製糖工場に働いていることがわかった。利用者には「製糖工場に働いてた？」と聞いた。そうよ、退職金もいっぱいもらったよ」など話をしてくれた。介護の幅が広がるコミュニケーションがとれた。 毎日、普通に施設で生活になっていくと思うが、この利用者のことを知ることでも、昔の話もでき、外出のきっかけにもなる。リーダーの私は、スタッフにも「この人こうだったんだよ、このようのが好きだったんだよ」という話をしたら、スタッフも「この人こうだったんだよ」とか、声掛けしてくれたりとかするようになった。	高齢者の入所前の地域の暮らしを把握し、そのことを話題にしてコミュニケーションを図った リーダーの私は、高齢者の入所前の暮らしの情報を入手し、施設職員にも情報を提供した	高齢者の入所前の暮らしを知り、ケアに活かしたい 施設職員みんなも入所前の高齢者が暮らしで大事にしていたことを知り、ケアに活かしてほしい	高齢者の入所前の暮らしの情報を把握し、それを話題にすると、会話が弾む 高齢者の入所前の暮らしの情報を、職員間で共有したら、職員もその情報を活用して高齢者と関わるようになった





4	療養施設	<p>外出中に車の中でぼんやり外の風景を眺めているかと思ったら、施設に戻り来た煙の評論を楽しそうに始めていた高齢者がいた。煙のことを話題にして、自分の煙の自慢話がはじまり、さとうきびの刈り取りが話題となり、新しい刈り取りの機械(ハーベスター)がみてみたいと高齢者が言いました。次の外出の目標を相談し、一緒に外出の企画をしています。</p> <p>外出して外の空気に触れたり、外の風景に触れるだけでも全く違う表情が見られます。外の風景が変わったことをみんなで確認し、認知症の人でも、施設に戻るとホッと、寝つきが良くなる。施設が最期の場所だと感じているのかなと思う。</p>	<p>地域巡りを繰り返すと、次々に高齢者の希望が拳がり、次の目標設定がしやすくなる</p>	<p>施設が最期の場所だと感じていると思うからこそ、せめて高齢者が行きたい場所は連れて行きたい</p>	<p>地域に出かけ外の空気や風景に触れるだけでも高齢者は全く違う表情を見せる</p> <p>重度の認知症高齢者でも、外出して地域巡りをして、施設に戻るとホッと、寝つきが良くなる</p>
5	療養施設	<p>旧の3月3日(サニツ)に行われる新しく生まれ島のイベント(サニツ浜カーニバル)についても、高齢者に声掛けして、イベントを楽しんでほしいと思い、単調な生活に変化をつけてもらうために連れていきます。</p> <p>単調な生活で、季節を感じてもらおうためにサニツもするが、イベントというよりも何月かを気にしていると感じるので、季節を感じるイベントが必要である。</p>	<p>伝統行事(浜下り)には、高齢者に声かけて海に出かけている</p>	<p>施設での生活は単調なので、地域に出かけて生活に変化をつけたい</p> <p>伝統行事への参加をとおして季節感を味わってほしい</p>	<p>単調な施設の暮らしでも季節を感じてもらえるよう行事に合わせてイベントをしているが、高齢者は施設のイベントに参加しながら、地域に戻ることを含めて季節の行事の過ごし方を気にし始めると感じる</p>
6	療養施設	<p>高齢者から、職員が「ハーリー」に出るなら見に行きたい、新聞でスポーツイベントの出演者の名前を調べて「職員を応援したい」と要望するので、イベントに参加し、会場で応援してもらって応援できるように外出の支援をする。</p> <p>高齢者が職員(関係者)の出演する地域のイベントを応援したい、見たいと要望している。毎年地域行事(トライアスロン大会)の出演している職員には、出場しない年があるのと、「応援に行くから参加しなさい」といい、利用者の楽しみになっている。</p>	<p>高齢者が地域行事に参加して「応援したい」と希望すれば、その希望に応じている</p>	<p>地域行事は臨場感を持って楽しませたい</p>	<p>高齢者が職員(関係者)の出演する地域行事(トライアスロン大会)を応援したい、見たいと要望し、応援することが利用者の楽しみになっている</p>
7	療養施設	<p>伝統行事の時間が近づくと、夜眠らない、落ち着かない、そわそわする、「家族から電話きたか」「今日は何日か」と落ち着かない利用者がいる。その時は、本人の訴えにあわせて、家族に連絡をするとか家族の命日が近づいているなど、本人が落ち着かない理由を手を合わせた方がいいだろうと思う。</p> <p>本人が夫の命日の数日前には落ち着かなくなるが、手を合わせることで落ち着いたので、家族に連絡して確認できて良かったと思った。高齢者の心身の状態は伝統行事との関係があつたことをこれまでも経験してきた。</p>	<p>伝統行事が近づき落ち着かなくなる高齢者には、家族に連絡し伝統行事に参加できるようにしている</p>	<p>落ち着かなくなるのは、伝統行事に参加したいのかもかもしれないと思う</p>	<p>本人が落ち着かないのは、伝統行事への参加と関係があるかもしれないと思うので、落ち着かせるためのケアを組み立てたら、高齢者が落ち着いたので、伝統行事と高齢者の心身の状態は関係すると思う</p>
8	療養施設	<p>昔、農作業をしていた畑好きで利用者には、プランターを準備して、本人が育てていた野菜作りを始めていた。利用者は、土を入れろ、種を入れろと、現場監督のように職員に指示をして、職員が次はどうするの々と習うことで話が弾み、元気がでていた。発芽や成長ぶりを毎日楽しみにして、観察したりそれについての会話が弾み、元気になる。</p> <p>その料理の仕方を知って、職員が調理をし、一緒に食べている。</p> <p>自分にはわからないことがわかるようになり、楽しい面白い。高齢者との関係は、会話が弾み接しやすくなる。要介護状態で施設で暮らす本人にとっては、この施設が暮らすの場になっている。居心地のいい場になっている。帰る場所はどこだと高齢者が言ってくれた。自分の親をこの施設に入所させた、ここにいると面白いんだらうなと思えるケアをしたい。ここが第二の人生の場所、僕たちと一緒にいられたら楽しいなと思わせるケアをしたい。</p>	<p>農業をしていた高齢者に馴染みの農作業を習いながら、一緒に野菜作りをした</p>	<p>自分の親をこの施設に入所させた、この施設は楽しいと思わせたい</p>	<p>畑好きで高齢者から私は、野菜の作り方を教えてもらい、自分ばかりわからないことがわかるようになり、楽しい面白い</p> <p>畑好きで高齢者に土作りや野菜作りを私が習うことで話が弾み元気になるので、施設での暮らしが居心地の良い場所になっていると思う</p> <p>高齢者から土作りや野菜作り等を習うことで、高齢者との関係は会話が弾み接しやすくなる</p>

9	<p>療養施設</p> <p>標準語を話すようにと教育をされたので、方言は話すことはできないが、両親は方言で会話をしていたので聞くことはできる。方言が話せる職員が方言で会話をすると、落ち着きのない対象者でも落ち着いてくれる様子を目の当たりにして、高齢者には方言で話した方がいいと思う。方言でしゃべるとけんかをしているように感じられるところもある。利用者に対して方言で話しかけるのは良くないのではないかと考えることもある。利用者の中には、島外者いるので、方言でしゃべっていると、けんかをしていたと家族に話されることがある。だから、施設では方言を使いつぶらなくなっているところがある。自分自身がいしゃべれないこともあるけど、方言で話すことのメリットとデメリットがある。また間違った方言を使うよりは共通語でしゃべった方が安心になる。</p>	<p>方言での会話は、メリット(落ち着く)とデメリット(乱暴に聞こえる)があるので、対象に合わせ使用している</p>	<p>方言の善し悪しを考えると使い分けよう心がける</p>	<p>方言で話すことで安心感が得られ落ち着く高齢者もいるが、方言での会話はけんかをしているように感じる高齢者もおり、メリットとデメリットがあるので、迷うことがあるが、私もしゃべれないこともあり、施設では方言を使いつぶらなくなっていると思う</p>
10	<p>療養施設</p> <p>地域行事、伝統行事への外出に乗り気でない人にも声掛け、誘うことで参加する場合がありますが、1回参加すると、利用者が楽しそうな表情を見せたので、意識して繰り返して誘うようになり、本人が行きたいと思えるよう工夫して誘うようになっている。だんだん外出の機会を増やしていくと、元氣になっていく高齢者がいると感じる。連れていくと旨を思い出して元氣になる。そして次に出かけたいと思うと、次にむけて目標を持つ。外出を繰り返すことで本人も行きたくなくなり、元氣になっていく。自分が楽しいと思う。1回出かけると表情が変わる。繰り返して連れていくと自分にお願してくるようになる。だから、やり続けている。</p>	<p>地域行事や伝統行事に乗り気でない高齢者も、「行きたい」と思えるよう工夫して誘っている</p>	<p>伝統行事や地域行事に参加すると楽しそうな表情をするので高齢者に参加してほしい 伝統行事や地域行事への参加は(私が)楽しい</p>	<p>地域行事等への外出を繰り返すことで高齢者の表情が変わり、元氣になっていると感じる 外出したくない高齢者でも、誘って地域行事に参加すると、楽しそうな表情を見せる 地域行事に高齢者と参加すると私が楽しい 地域行事などに連れ出すと表情が変わり、繰り返して外出支援をするうちに、「〇〇に外出したい」と要望してくるのでやり続けている</p>
11	<p>療養施設</p> <p>伝統行事(サニツ)のお祭りに参加するため外出した時は、家族を戻す、声かけ、家族の共食の場面で、おとーり(酒を飲み交わす)に加わった。普段施設の生活では見れない表情を観察するために、同席して付き合った。その表情を記憶して、利用者が落ち込んだとき、元氣のない時に笑顔を取り戻せるケアとして、その行事に参加するため企画をする。やってみて、自分が楽しいからやる。こっぴで生活を終わらせるのはもったいないので、普段見れない表情を見せたいので、機会があれば連れていきたいと思ったり、ほかの職員にも見せたいと思ったりした。こういう喜びの表情を施設の中で作る必要があり、職員の教育の一環として、他の職員に同行させている。職員の研修に取り入れたのは、自分が参加して楽しいのと、利用者の表情を見ていると、施設の中で生活を終わらせるのはもったいないので、職員に広げたいと思う。指示された業務ではなく、ケアの一部だし、自然にできるといいと思う。</p>	<p>職員研修会で、地域行事に参加することで施設では見ることのできない高齢者の表情があることを伝えている 高齢者が元氣がない時、落ち込んだとき、笑顔を取り戻せるケアとして伝統行事や地域行事に誘っている</p>	<p>職員研修会で職員に外出支援の良さを伝え、広げたい 高齢者が地域行事に参加して、施設では見ることのできない表情を職員と共有したい 伝統行事や地域行事に参加して元氣を取り戻してほしい 施設だけで生活を終わらせるのはもったいないので、高齢者に伝統行事に参加して楽しんでほしい</p>	<p>高齢者が落ち込んだとき、笑顔を取り戻せるケアとして、地域行事に参加支援すると施設では見れない良い表情をする 高齢者は地域行事などの外出先では施設ではみせない表情をするので、このケアを継続したい 伝統行事の外出支援は(私が)楽しい</p>

ID 13

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 療養施設	<p>帰宅願望がある高齢者で、訪問者が来ると施設の入り口が開くので、その隙に出ていこうとする場面をよくみかけている。家に戻りたいという気持ちを察して、声をかけ、一緒に外出する。高齢者が歩けるところまで、同伴する。頃合いをみて、携帯電話で職員に車で迎えにきてもらう。「帰って休もうか？」という、同意してくれる。帰宅願望が一応落ち着く。</p>	<p>帰宅願望がある高齢者の帰りたい気持ちを察し、一緒に外出して馴染みのある地域を歩く</p>	<p>帰宅願望のある高齢者の気持ちを落ち着かせたい</p>	<p>帰宅願望のある高齢者に声かけをして一緒に地域に出かけ散歩すると帰宅願望が一応落ち着く</p>
2 療養施設	<p>「家に帰りたい」と話す高齢者に出身地域を尋ね、私と同じ出身地域であることを伝える。安心することを期待して伝える。そうすると「あーそうか」と高齢者の表情が和らぐ。家に帰りたい高齢者につんつんたらさ(同情にたえない、愛しい)との思で関わることで、精神的に少しは和らげられると思う。</p>	<p>家に帰りたいと訴え続ける高齢者に同じ出身地であることを伝える</p>	<p>家に帰りたい願望を受け止め、労わりたい思いで接し、同郷であることで安心を与えたい</p>	<p>帰宅願望のある高齢者を受け止め、労わりたい。同郷であることを伝えると表情が和らいだ</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
療養施設 1	<p>三十分前、ある宮古島の老人施設で、天井を向いている寂たきりの高齢者が、手元も見ずにおなかのうえで芋麻を紡ぐ動作をしていることを思い出した。ある日、宮古上布の材料(芋麻)を面会人の夫が、入所中の妻(車いす)に運んでいた。入所中の妻は、その芋麻を紡いで商品にしていた。</p> <p>島の伝統工芸(宮古上布)の材料仕込みを女性が行っていた歴史を知っていたので、入所中の女性高齢者の数人に確認したら、元気な頃はやっていて、ことを把握した。そこで、宮古上布の原料となる芋麻を施設の中庭で栽培し、職員で収穫し、デイスーパーや入所者の活動として、芋麻を紡いでもらった。懐れた仕事は、手元を見なくても、できることだから、続けさせたいと活動に取り入れた。懐れた仕事は、手元を見なくても、体が覚えていたので、車いすでも懐たきりでも、私よりずっとうまく出来るから、その手伝いがしたかった。過去に芋麻を紡いでいた高齢者が、目の色を変えて、疲れもトイレも忘れ、帰りに、芋麻を紡いでいた。デイスーパーの利用者の中には、その材料を自宅に持ち帰り、デイスーパーでの楽しみだけでなく、自宅でも楽しんでいました。</p>	<p>伝統工芸(宮古上布)の材料を(デイスーパー)を施設の中庭で栽培し、職員で収穫して、高齢者に宮古上布を紡げるようにした</p>	<p>過去にやったことが出来るので、残された機能を活かし、できることを続けてほしい</p>	<p>若い頃やった伝統工芸の懐れた手仕事は残された機能できると続けさせたいと思ひ、材料を仕込みデイスーパーの活動に取り入れたら、目の色を変えて疲れもトイレも忘れられるほどに、芋麻を紡いでいた</p> <p>伝統工芸をデイスーパーで始めたら、自宅に材料を持ち帰り楽しんでいました</p>
療養施設 2	<p>昔、この地域では、自前の豆腐作りをしていたことを知っていたので、デイスーパーで、ゲートボールをする前に、皆で豆腐作りをした。運動だけでなく、皆と一緒に食べられるものがあったら、高齢者にもっと楽しんでもらおうと考へ、企画した。豆をひくと柔らかいのはじめ、皆で協力しながら、豆腐作りの全プロセスに取り組んだ。豆腐作りに必要なたんぱく質も、それぞれ持ち寄った。認知症があっても、自分がやってきた豆腐作りの方法は鮮明に覚えていて、皆に指図するほどであった。仲間達は、集中して、トイレも忘れ、失禁しながらも、実際に高齢者と取り組んだことで、それぞれの地域や家庭で豆腐作りの方法が違ふことがわかり、皆で楽しむことができた。</p>	<p>過去の暮らし(地域の豆腐づくり)の材料を仕込んで、高齢者から学びながら一緒に豆腐づくりを再現した</p>	<p>過去の暮らし(地域での豆腐づくり)を再現し、一緒に楽しみたい</p>	<p>昔の豆腐づくりをデイスーパーで再現したら、認知症があっても、豆腐作りの方法は鮮明に覚えていて、皆に指図していたので驚いた</p> <p>それぞれの地域や家庭で昔の豆腐作りの方法を話し始め、集中して、トイレも忘れ、失禁する高齢者もいて、みんな楽しんでいました</p>
療養施設 3	<p>私(施設長)は、宮古島のトライアスロンがスタートしたとき、花冠をつくるボランティアで参加したことがある。それで、トライアスロンを高齢者に楽しんでもらいたいと思ひ、職員に声をかけ、トライアスロンで高齢者が応援できるようにした。高齢者が関係者の応援が出来るように、トライアスロンに出場する地元の人や、職員、職員の関係者が出場していることが伝わるように、権断幕の作成や応援用のマラカスを高齢者と一緒に手作りし、準備から一緒に楽しめるよう、トライアスロンを話題にした。関係者が通るときには、事前に職員が把握して、高齢者でもタイミングよく応援できるように、工夫した。暑い中、外で水分補給や食事しながら、応援を高齢者と一緒にした。トライアスロンの選手達、皆の応援を車いすの高齢者集団が行うので、選手達の目にもとまると、バイクを止めて、握手をしたり、一緒に踊ったり、選手の反応があった。関係者が通るときには、応援も一段と盛り上がり、職員も一緒に、地域の行事を施設の年中行事と位置づけ、楽しんでいく。</p> <p>できるだけ、地域の行事や地域の運動会には、一人でも、外出して交流する機会を持つように、職員に指示をしている。</p>	<p>地域行事(トライアスロン)は、準備の段階から地域全体の参加で開催されるので、施設の高齢者も応援する参加を企画し、毎年実施している</p> <p>(施設長の私は)どの地域行事でも、外出を支援し地域と交流する機会を持つよう、職員に指示している</p> <p>施設職員と高齢者と一緒に地域行事(トライアスロン)を街頭で応援し、テント内で食事をして、一緒に楽しむ</p>	<p>参加型の地域行事(トライアスロン)には、施設の高齢者も参加し職員も一緒に楽しませたい</p>	<p>地域行事(トライアスロン)では、高齢者は応援する。選手達は、車いすの高齢者集団の応援に、バイクを止めて、握手をしたり、一緒に踊ったりするので、交流の機会になっていくと思う。</p>

4	療養施設	<p>施設の中では、季節を感じる機会が乏しいので、季節感を感じてもらいたいと思うので、ハーフマラソンやマラソン、運動会などの地域の行事で高齢者が季節感を感じられるよう、職員に地域行事に参加するケアを促している。</p> <p>ここ最近の職員は、そのようなイベントに高齢者を参加させる支援に賛同しづらくなっているが、施設の業務として位置づけられるよう、職員の負担を最小限になるように、事前準備や勤務の組み方を工夫している。</p> <p>関心のある職員がいて、賛同が得られるところもあるので、続けている。</p>	<p>(施設長の私は)地域行事は季節感を味わう機会になるので、職員に地域行事に参加するケアを促している</p> <p>地域行事に継続的に高齢者の外出支援ができるよう職員の負担軽減のための工夫をしている</p>	<p>施設の中では季節を感じる機会が乏しいので、地域行事に参加して季節感を感じてほしい</p>	<p>職員の関心には差があるが、季節感を高齢者に感じてもらうよう地域行事には地域に合わせて外出支援ができるよう施設長として工夫し、関心のある職員の賛同があり、継続できている</p>
5	療養施設	<p>目の前の高齢者達は、生きていくことに必死で、狭い範囲で生活してきているので、話題性が隣の村や、部落までは及ばず、自分の身近なこと、身近な出来事に目を輝かせる。それに気づいたのは、伝統工芸(宮古上布)の色や折り方が、多様にあるにもかかわらず、自分の折り方しか知らなかったことに驚き、今のうちに情報があるわけではないので、そのゆとりもなかったもので、知らなかったことが了解できた。この経験を通して、高齢者との話題は、生きるために一生懸命自分のことだけをしてきた時代に生きてきた人たちなので、その人の出身地やその人自身のことが語れるように話題を工夫している。高齢者のケアには、出身地が大事なことでと気づいたので、職員には、高齢者が入所時に出身地を聞くように伝えていく。やってくれる職員もいるがやらない職員もいる。</p>	<p>誰もが生きることが精一杯だった時代を生きた高齢者に、出身地やその人自身について語れるように話題を工夫している</p> <p>(施設長の私は)高齢者が入所する際には必ず出身地を聞くように伝えていく</p>	<p>生きてきた時代や歴史をケアに活かしたい</p>	<p>情報の乏しかった時代に生きてきた高齢者へのケアは、身近な話題を高齢者と語る機会を工夫するよう職員に伝えていくがやる職員とやらない職員がいる</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 療養施設	<p>「帰る、帰る、おうちに帰るよ。」と廊下を繰り返し往復している認知症の周辺症状がでている高齢者が、神様をお茶をあげるのを家に帰らなければならぬと何度も訴え続ける。落ち着かないので、仏壇(神様)にお茶をおあげすることを大事にしているこの高齢者の気持ちは、なだめたり説得することでは気持ちは切り替えられないと判断したので、その気持ちはどこにいってしまうだろうと、どうしてもそれがたいという気持ちに治まらないうちで「一緒に帰って手を合わせて戻ってこようね」と外出し、仏壇に手を合わせて施設に戻ると、別人のように落ち着いた。</p> <p>認知症の周辺症状が出ているときは、説得しても悪循環なので、止めるためのケアよりも本人の思いに沿い、一緒に外出して本人の目標を達成するケアをすることは必要だと思う。その気持ちに寄り添うケアをすることで、対象者が落ち着くのでそれでいいと思う。この人たちが大切にしていることは自分も大切にしないといけないと思ってる。</p>	<p>外出して仏壇に拝みをしたと訴え続ける認知症高齢者を、説得するのではなく外出して思いと遠ざけた</p>	<p>高齢者が大切にしていること(仏壇に拝みをした)を大切にしたい 認知症の周辺症状(帰宅願望)を寄り添うケアをおこなって、介護現場を落ち着かせたい</p>	<p>高齢者の気持ちに添って外出し仏壇に手を合わせて施設に戻ったら別人のように落ち着いた 高齢者を大切にすることは自分も大切にしないといけないと思える 高齢者の気持ちに寄り添うケアをすることで対象者が落ち着くと、介護の現場も落ち着くのよいと思う 「神様にお茶をあげるのを家に帰らなければならぬ」と訴え続ける認知症高齢者はより一緒に外出して希望を達成するケアは必要と思う</p>
2 療養施設	<p>私が気分がすぐれず、もやもやしているときには、その神様がみえたと話している高齢者に自ら声掛け、誘って外出し、(私のために)一緒に拝みをして、「これで大丈夫ね」とその高齢者にすがすがしく言われると、私も大丈夫と思える。だから、私のメンタルのケアが必要な時にはその高齢者に一緒に拝みをしてもらえよう、お願いしている。特定の宗教ではなく、漠然とした信仰心を感じ安心する。</p>	<p>私のメンタルケアが必要な時に、高齢者に一緒に拝みをしてほしいとお願いしている</p>	<p>私のもやもや感を神様と交信できる特殊な能力を持つ入所高齢者に取り除いてほしい</p>	<p>私が気分がすぐれずメンタルケアが必要なときには、拝みのできる高齢者に声かけと一緒に拝みをする、漠然とした信仰心を感じ安心する</p>
3 療養施設	<p>地域ごとに特徴的な方言があり、県外出身の私は、方言の語もできないし、聞くこともできないので、私が困った顔をしていると、ぎこちないながらも標準語で話して、会話を成立させるために気を使ってくれると感じている。関係性が壊れないよう気を使ってくれ。私も信頼関係を作りたので、方言を理解する努力をしている。自分自身も高齢者のように、気遣うケアができるようになりたいと感じている。</p>	<p>県外出身の私が高齢者同士の方言での会話に入れないことで関係性が崩れないように高齢者に気遣ってもらわれたいと感じる よりよい信頼関係を高齢者とつくりたいので、方言を理解する努力をしている</p>	<p>高齢者のように気遣いケアができるようになりたい</p>	<p>県外出身の私が方言が聞けずに困った顔をすると、高齢者はぎこちないながらも標準語を話して、関係性が壊れないように気遣ってくれるので、私は方言を学習し、高齢者のように気遣うケアができるようになりたいと思う</p>

4	療養施設	<p>ショートステイを利用している高齢者で、活動に参加しようとして、黙って一人で座り込んでいる様子を見たことがあった。集団のケアにはなじまない様子だったので、その人に必要なケアをしたと思う。その人の出身地は、男性が歌や三味線が上手と言われているので、その人も三味線が弾けるかもしないかと思い、三味線を差し出し、弾きまじりながら声掛けした。そして、自分が手習いをしてきたので、もう一度、三味線を弾いてみる。そして、たぐさんの曲をうまく弾いてくれた。その日はその地域の豊年祭があり、その豊年祭に参加したこともかかわらず、その豊年祭のために家族が忙しく、ショートステイを利用しなくても、その人なりに楽しく過ごしてほしいと考えた。三味線での活動に参加したくなくても、その人なりに楽しく過ごしてほしかった。三味線で宮古民謡が弾けることを活かして、高齢者ケアのツールとして関わることがわかった。</p>	<p>集団のケアに馴染まない高齢者の地域を思いだし、特技(三味線を弾く)を見つけ、一緒に歌った</p>	<p>施設での活動に参加しなくてもその人なりに施設で楽しく過ごしてほしい</p>	<p>活動に参加しようとしていない高齢者の地域では三味線の上手い人が多いことを知っていたので、三味線を弾きながら一緒に歌うことを試みたら、高齢者が上手に三味線を引いてくれたので、私は高齢者ケアのツールとして三味線を活用できることがわかった</p>
5	療養施設	<p>三味線で宮古民謡を弾くことが上手で、歌も本当にうまかった。一緒に歌う機会をつくったり、好きな歌や得意な民謡を知ることができた。その歌を敬老会で利用者に好きな歌を歌ってもらうことを提案し、実践した。 施設で過ごす時間を、昔から高齢者が楽しんできたことで、私も一緒に楽しみたい。その時に本人がのめりこむように見えている様子から、本当にその民謡が大好きなんだと確信した。だから、お義母の好きなことを見つけて、それをケアにつなげていけば楽しい支援につながると考えた。</p>	<p>特技(三味線を弾く)が見い出したので、一緒に歌う機会をつくったり、施設のイベントに三味線の披露してもらった</p>	<p>施設で過ごした時間を、高齢者が楽しんできたことで私も一緒に楽しみたい</p>	<p>高齢者が三味線が上手いことを把握したので、施設の敬老会に披露してもらった。提案し、私も一緒に楽しんだ</p>
6	療養施設	<p>地域の園児らが慰問に訪れたときに、伝統芸能の獅子舞やエイサーで高齢者を楽しませてくれる。子どもたちがいるだけで、子どもたちと触れ合うだけで、楽しいひと時を過ごせていると思った。最後に子どもたちが、高齢者へ、普段使わない方言でいつまでも元気であってほしい(がんじゅーふーいーまちよー)とあいさつをしていた。それを聞いていた高齢者が涙を流しているのを見て、昔のことば(方言)は、高齢者にとって、人生の中で体に染み込んだ大切なもので、それを小さな子どもたちが使うことに感動した。先生たちが高齢者を喜ばせようと、いろいろ喜ばせるための企画をしていると思うと、そのことに感動を覚えた。方言がもつ高齢者ケアカに感動した。</p>	<p>地域の子ども達も達が慰問で、方言での挨拶をしたら高齢者が涙ぐんだ場面に出会い、方言の持つ高齢者ケアカに感動した</p>	<p>高齢者にとって方言は、人生の中で身体に染み込んだ大切なもので威力がある</p>	<p>地域の園児たちが、施設に慰問に訪れ、高齢者に方言で挨拶をした時、高齢者が涙を流している場面を見て方言のもつ高齢者へのケアカに感動した</p>
7	療養施設	<p>高齢者の出身地を把握するようにしている。きちんと相手に沿ったコミュニケーションがしたいし、話を膨らませて高齢者を理解したいために、必要なことだと思うので高齢者の出身地を把握するようになっている。高齢者の出身地を知ること、話かはずみ、そのことで共感できる話題を探して見つけて、会話が楽しめる。 施設の高齢者が私に関心を寄せて私の生い立ちや両親のことを話題にして、そこから高齢者との共通点を見つけて距離感を縮めていくことがわかった。自分自身のことでも話題にする。自分を表出することで話題が膨らみ、共感できる機会が増えて会話が楽しめる。</p>	<p>話を膨らませて高齢者を理解したいので高齢者の出身地を把握するようにしている 共通の話題を見つけて距離感を縮めるために県外出身の私のことも話題にする</p>	<p>共感できる話題を探して見つけて会話を楽しみたい</p>	<p>高齢者の出身地域を把握し、共感できる話題を探して見つけ会話を楽しんでいると、高齢者は私の生い立ちにも関心を寄せるので自身のことでも話題し、共感できる機会が増え会話が楽しめる</p>



療養施設	<p>デザイナーズでは、手先の器用な人たちがいて、手工芸をしている場面をよく目にしていて。その人たちに対し、母親が作った手作りの小物に反応してくるのではないかと意図して、身につけて見せるようにしている。その小物をきっかけに、それを目にした高齢者が自分の好きなこと、得意なことを話し始めると、それをきっかけにして、その人のことを深く知ることができる。</p> <p>嫁ぎ先の嫁姉が宮古上布（地域の織物）をしていて、実家の母が作る小物を喜んでくれる。その喜ぶ様子をみて、デザイナーズで手工芸をしている利用者も喜んでくれるかもしれないと考えた。</p> <p>日ごろ口数の少ない上品な高齢者が、この小物から着物の話になると饒舌になり、昔のこと、若い時のことを話し出すので、活気づいている様子を見て、楽しい時間になってよかったですと思える。また、その小物を見て、「あなたのお母さんすごいね」と言われると、自分自身もうれしくなる。</p>	<p>手工芸（織物）をしていた地域であり、手工芸に関心があるのでは？と思いい、母の手作りの小物を見せると若い頃の思い出まで話題が広がった</p>	<p>高齢者の得意なこと、喜んでくれることを導き出した</p>	<p>手先の器用な高齢者が手工芸をしている場面を見て、私の母の手作りの小物が話題になるように仕掛けたら、饒舌になり、昔のこと、若い時のことを話し出すので、活気づいている様子を見て、楽しい時間になってよかったですと思えた</p> <p>母の手作りの小物を見て、母を褒めてくれたので、自分自身もうれしくなった</p>
------	--	--	---------------------------------	--

ID	施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1	療養施設	地域(久松)の猫神祭に、その地域の利用者を集めて連れて行って行った。若い時にハーリーを見に行っていたことを楽しそうに語っているのを聞いたことがあったので、地域との交流の機会になることを期待して、連れて行った。若い時から頼んでいた行事に参加すると、寝たきりやどんな状態の高齢者でも、当時の楽しい気持ちに戻れるんじゃないかという思いがあった。ぜひ、地域の行事には参加させたいと思っていた。その伝統行事を一緒に見て、一緒に応援して、一緒に食事をして、そして海の見える場所だから、一緒に地域巡りをし、一緒に楽しんでいる。たまにしかない貴重な場(伝統行事)に参加することは、有意義なことだと思ふ。	地域行事(ハーリー)に高齢者と参加し、一緒に見て、一緒に応援し、一緒に食事し、一緒に地域巡りをし、一緒に楽しんだ	伝統行事に参加し地域との交流の機会となり、当時の楽しい気持ちに戻ってほしい	若い頃親しんでいた行事に参加すると、当時の楽しい気持ちに戻れると期待して、高齢者と一緒に伝統行事に参加し、一緒に見学して、一緒に応援して、一緒に食事し一緒に楽しんだ。
2	療養施設	伝統行事としての墓参りに、本人がどうしても行きたいと希望するときは、高齢者の思いを叶えたいと思ふ、家族に調整をして協力を求めている。家族の協力が得られれば、時間調整をして、職員がお墓まで連れて行く。	伝統行事として墓参りに高齢者が希望すれば、家族に調整し、無理の場合には職員が手伝えるよう調整している	伝統行事の墓参りに参加したい思いを叶えたい	伝統行事としての墓参りに高齢者が参加を希望すると、「急がいから」と家族の協力が得られなくても職員が時間を調整してお墓に連れて行き、本人の希望を叶える
3	療養施設	十六日やお盆が近づくと、落ち着かない高齢者をよく見かける。そのため管理者である私は、できるだけ、家族に連絡をして、家族の協力を得て過ごせるように調整をするよう職員に指示している。高齢者が仏壇に手を合わせて、一緒においしいものを食べて、親戚が集まって話をするという場が高齢者が居合わせるようにすることは特養の職員として当たり前のことだと思っている。利用者の思いを叶えることは大事なことであり、できる限りのことをして、高齢者が生きている間にその思いをかなえることは、特養の使命と思っている。	伝統行事(十六日、旧盆)が近づくと落ちつかない高齢者をよく見かけるので、管理者の私は家族の協力を得て自宅で過ごせるよう職員に指示している	高齢者が生きている間に思いを叶えることは施設の使命であり、その思いを叶えたいので、高齢者に詫ひたい	伝統行事に仏壇に手を合わせ家族や親戚と一緒に馳走を食べ、話しの場に高齢者が加わることは当たり前のことであり、高齢者が生きている間にその思いを叶えることは、特養の使命と思っている
4	療養施設	毎日自宅の仏壇のお茶を取り換えたいと要望する高齢者がいるが、それではできない。できるだけ自宅に帰る機会をつくって、一緒に自宅の仏壇のお茶を取り換えるようにしている。高齢者の思いがかなえてあげられないことは、高齢者にとってむなしじ悲しいことだと思ふので、本人には謝っている。毎日仏壇のお茶を取り換えることはこの高齢者の地域の風習であり、この人が大事にしてきたことだから、できるだけのことをしていく。	毎日仏壇のお茶を取り替える習慣のあった高齢者には、自宅に帰る機会を増やしその習慣を継続させている	高齢者の習慣(毎朝仏壇にお茶を供える)ができないことはむなし悲しいことだと思ふので、高齢者に詫ひたい	高齢者が地域の風習や大事にしてきたこと(毎日自宅の仏壇のお茶を取り替えること)が叶えられないことは高齢者にとってむなし悲しいことだと思ふので、できるだけ支援している
5	療養施設	十六日と旧盆は、利用者だけでなく、職員も伝統行事として墓参りをするので、ケアのついでに職員が自分の墓参りに参加するよう、地元が一緒に高齢者と職員をペアに調整している。宮古には、祖先崇拜で墓参りを大事にしている文化があるので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしている。職員も同じ地元の高齢者は、「自分が連れていく」と申し出るので、職員の同意も得られている。	伝統行事(十六日、旧盆)は、職員も高齢者もできるように、同じ地域はペアを組む調整をしている	職員も高齢者も伝統行事での墓参りを大事にしていることを支援したい	祖先崇拜で墓参りを大事にする文化があり、職員も同じ地域の高齢者を「自分が連れていく」と申し出るので、高齢者だけでなく、職員もそれを大事にしていることが伝わっている
6	療養施設	家族が面会時に孫の運動会を話題にすると、高齢者が孫の運動会に参加できよう外出を計画している。孫は運動会で演舞している場面も見せたいし、その時は親戚も集まるので、孫や親戚との交流をさせたいと考えている。高齢者にとっては孫との交流が重要なので実践している。	地域行事(孫の運動会)に、高齢者が参加できるように計画し、実践する	地域行事の機会を捉えて、家族や親戚と交流させたい	高齢者にとって孫との交流が重要だと思ふので、高齢者が地域行事(孫の運動会)することで、孫との交流だけでなく地域の入々との交流の機会になっていると思ふ

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
療養施設	地域の祭りには、地域の出身者であるケア提供者が地元の高齢者を連れ出している。その地域出身のスタッフが地域の祭りを把握しているの、地域で祭りがあるときは、そのスタッフから高齢者が楽しめるんじゃないか、興味を持ってくれるのではないかといつて、申し出て高齢者を地域へ連れ出している。祭りに出かけて、高齢者は単に祭りを眺めているだけでなく、飛び入りでイベントにも加わり、主体的に参加している。そのため、高齢者とスタッフの出身地を把握するように意識している。そのことで地域のスタッフが地域の行事を教えてくれるので、高齢者が地域行事に参加するための企画がしやすい。	(管理者の私は)同じ地域の高齢者と職員をマッチングさせ、地域行事に高齢者を連れ出している (管理者の私は)高齢者だけでなく、職員の出身地も把握するようにしている	同じ地域行事を持つ高齢者と職員をマッチングさせることで一緒に楽しめている	地元出身のスタッフが地域の行事を教えてくれ、高齢者を地域行事に参加する企画を、実施しているが、高齢者は見学だけでなく飛び入りでイベントに加わり主体性を発揮していた
療養施設	高齢者の地域を把握するようにして、それぞれの地域のイベントを新聞やテレビでも知るようになっている。イベントを把握したら、勤務時間では外出支援の時間がとりにくいので、仕事が終わってから、休みだから一緒に出かけて楽しもうという感じで、高齢者に声かけ、誘うようにしている。個人の休みを利用して、高齢者と一緒に地域へ出かけている。出かけて、一緒に方言大会に飛び入りで参加したりする。イベントを把握したら、高齢者に声掛けしている。	地域行事は、新聞などで情報収集し時間外に高齢者と一緒に出かけている	地域行事を一緒に楽しみたい	地域の行事を新聞やテレビで探し、時間外や休みを利用して、その地域出身の高齢者を誘って出かけて一緒に楽しんでいるので、地域行事の情報収集は苦にならない
療養施設	イベントへの参加を重ねていると、方言大会の事務局から、誘いを受けるようになってきた。地域で栄養指導や活躍してきた高齢者に、参加を声掛けすると、本人も参加したいと話していた。参加すると地域の人いろいろな声かけられて盛り上がり、本人も出てよかったと言っていた。	地域のイベントへの参加の誘いがあり、参加しそつな高齢者に声かけ参加を促し、一緒に参加した	地域に出ると地域の人と出会い、方言で自由に話せるので、高齢者に楽しんでほしい	地域の行事に参加すると高齢者は地域の人と出会い、いろいろな声かけられ方言で会話ができ出かけて良かったと喜んでいて 地域の行事に参加を繰り返すと地域行事の事務局と馴染みの関係ができ、地域のイベントに誘いを受ける
療養施設	外出支援は、時間外での開催があったりして、勤務時間だけでは対応できないことも多く、職員に休みだけから行きませす」と申し出ることもある。また、高齢者の健康状態の確認を医師にお願いし、管理者に報告し、外出の手続きを取る。外出支援は、施設が取り組んでいることであり、現場から外出支援を提案すると、了解が得られる。だから、どこの地域のどんな祭りでも、高齢者が希望したら、出かけられる。	外出支援は組織も推進しているの、現場から提案すると了解が得られ、時間外でも、どこの地域でも、どの地域行事でも高齢者を誘って希望したら出かける	地域に出かけると、地域の人の出会い楽しい	地域に出かけられることを好まない家族もいるので、その家族には許可を取らないこともあり、出合せないように工夫するがまた手出合つて家族に叱られたことがある
療養施設	職域ハレール大会で、職員が出場するときは、応援してもらうために外出を楽しみにしている高齢者を連れいきます。 高齢者の家族に出くわして、驚かれたり、施設に預けていることにひきめを感じているのか、連れ出さないという反応もある。家族に出かけることを伝えるようにしているが、拒否されると予断がつくところには断らず、叱られたことがある。 高齢者を外出させるときに、家族に叱られることがあるので、そういう家族の場合は、家族に会いそうにないイベントに高齢者を連れ出す支援をしている。	高齢者が地域行事に参加することを好まない家族もいるが、外出の好きな高齢者は地域行事への参加を支援している 高齢者の地域行事参加を好まない家族を事前に把握し、家族とから合わない地域行事に参加するようにしている	地域行事は家族に反対されても外出の好きな高齢者は参加させ、楽しませたい	地域に出かけられることを好まない家族もいるので、その家族には許可を取らないこともあり、出合せないように工夫するがまた手出合つて家族に叱られたことがある

<p>療養施設</p> <p>6</p>	<p>この地域性か、高齢者はあまり希望や要望を口にしない。遠慮なのか、こんな体になつてしまつて、とあきらめているのではないだろうか。でも、夢について働きかけると、ちよつと背中を押される感じで語ってくれる。</p> <p>外出支援は自分が楽しいからやっている。利用者も楽しんでいて、今までは希望を言わなかった人が、私もやりたいと言いつつ出てきてよかつたと思える。人と交わることに得意ではない人でも、これをやりたいということがある。職員も見たらわかるだろうし、参加する職員が増えたらいいと思う。利用者も何か楽しんでるなということが分かっていくと、他の利用者にも広がっていくと思う。(職員にも)一緒に楽しむというのと、勤務時間だけ一緒に過ごせばいいと思うタイプとある。</p>	<p>希望を語らなかつた高齢者がやりたいことを言い出すようになったので、それをひとつひとつつづてできるようにしている</p>	<p>背中を押して、あきらめ掛けているやりたいうことを語らせ、やってきたことをできるようにしたい</p> <p>高齢者の希望を聞き、それに取り組むことを経験して参加する職員が増え、一緒に楽しんでほしい</p> <p>高齢者が夢を実現していることを楽しんでいて、やりたいうことがわかる、やりたいことが語れることが伝染してほしい</p>	<p>外出支援は自分が楽しいし、利用者も楽しんでくれる</p> <p>今まで希望を語らなかつた高齢者がやりたいことを語り始めたので、この仕事を続けてきてよかつたと思える</p>
<p>療養施設</p> <p>7</p>	<p>あなたの夢は何ですかと質問すると、「娘の職場に行ってみよう」と答えた高齢者がいたので、希望を叶えるために、娘の職場と一緒に訪問した。娘の働いているところを見ることがないので、空港で働いている忙しそうにしているから、見てみたいという話であった。この話は空想前に聞いたことがあって、数年後に実現することができた。</p> <p>高齢者の夢を実現しようとするところについて、職員の中には反対する人もいる。なのではないという反応もある。職員によっては、「時間外にまでやることには、協力してあげたい」と思う。</p> <p>あなたの夢は何ですかと質問すると「昔さとうきびを育てていたの、キビ刈りをして」と語った人がいた。職員に情報提供したら、すぐに企画し、キビ刈りの見学に行つた。キビ刈りに出かけてすぐに亡くなつてしまつたので、夢を実現させて良かった、間に合つてよかつたと思えた。</p>	<p>(管理者の私は)職員に高齢者の夢を叶えるために外出支援を時間外で依頼することは強制できないので、理解してくれる職員に協力を依頼している</p>	<p>高齢者の夢(出かけたい場所)を実現させたい</p>	<p>高齢者の夢を実現しようとする企画については時間外になつたりして反対者もいるので、いつも同じ職員が連れ出すことになるが、協力してくれる職員はいる</p> <p>サトウキビを育てていた高齢者が「キビ刈りをしてほしい」という夢を語り、それを現実に、その直後に亡くなつたが、「間に合つて良かった」と思えた</p>
<p>療養施設</p> <p>8</p>	<p>今はやれないけど、高齢者が「豆を植えたい」と言ってきたので、それを一緒に続けてきた。元氣な時にずっと豆を植えてきた。自分で育てた豆をみんなに焚いて食べて食べさせたいとこぼしていたのを聞き、家族に種を買ってきてもらい、施設のちよつとした畑に植えよつと言つたら、本人は曲がつた背中から歌を作り、木を伐り、一連の作業をすべて一人でやり遂げた。人との交流が得意じゃなく、何年も前から入所しているのに、ずっと思つていてと思うけど、そのことをずっと語らずにいたが、今、やつと語ってくれた。</p> <p>高齢者が(希望を)言いやすい、言つてもいいという雰囲気施設の中で作れてきたこと、みんなに振る舞おうという目標は持っていた。高齢者がやれるんだ、こんなことができると思つた。来年も一緒にやろうね」と高齢者から声かけられた。一緒にいて、「あの笑顔が見られた」と喜び、うれしさを感ずる。</p>	<p>人との交流が得意でない高齢者が若い頃にやつていたこと(豆を蒔き、収穫し、調理してみんなに振る舞う)を一人でやり遂げられるように企画し、取り組んだ</p>	<p>高齢者の希望が言える施設、希望が叶えられる施設にしたい</p>	<p>高齢者がずっと言えずに抱えていたやりたいうこと(豆を蒔き、収穫し、調理してみんなに振る舞う)を言える雰囲気施設が作れたと思つた</p> <p>高齢者がやりたいことができる、やれると思つたと楽しいと思えた</p> <p>一緒にいて、「あの笑顔が見られた」ということに喜び、うれしさを感じ、介護の仕事は楽しいと思える</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 療養施設	健康な頃は、地域で活躍していても、施設入所すると、ぶつ切り途切れ、地域にいたこととささ、忘れ去られることは悲しい、尊厳を支えられていないと感じた。そこで高齢者が暮らしていた場所(地域)に、私も一緒に行きたいと提案し、行くことになった。同じ地域の高齢者を4、5人地域に連れ出して、若いころ集まった場所(地区公民館)で一緒に食事をして、日ごろ買っていたJAで買物をして、記念撮影などをした。地域に出かけると、親戚や顔見知りを訪ねてきてくれ、とても歓迎してくれた。仏壇のある家には訪問し、高齢者が仏壇で手を合わせた。家には、高齢者の孫や子どもたちが、家に入りきらないくらい集まり、その高齢者が自宅に植えた花を眺めたり、花を摘んだりした。高齢者が馴染んだ地域で関係者と関わり、元々の暮らしに戻す必要性を考えて、企画をし、高齢者に一緒に行くことと声掛け、誘った。自宅のお決まりの場所、定位置に座り、施設とは違う、すごくいい表情をしていた。だから、このケアを繰り返している。自分が楽しいから。	高齢者が暮らしていた地域に複数で外出し、若い頃集まった場所でお茶会をしたり、地域の売店で買物したり、地域の人々の歓迎された 仏壇のある家に訪問したら、親戚、近隣が家に入らないくらい集まり、高齢者を歓迎してくれた	馴染んだ地域での関係者との関わりによって、地域と高齢者をつなぎ止めた 施設の高齢者が地域に出向くと家族・親戚・地域の人が歓迎してくれるので私も楽しい	施設入所することで地域とぶつ切り切れ、忘れ去られることは悲しいことだと感じたので、高齢者と地域に出かけようとする施設とはちがう、すごくいい表情をしていた 施設の高齢者と地域に出かけ、高齢者の関係者との集まりや、自宅でのゆつくり過ごすことは、私も楽しい
2 療養施設	地域に連れ帰るケアに味を占め、映画「スケッチ オブ みやまーく」の主役の高齢者を連れ出すことにした。誘うときは、行きつけの美容室に行こうと声掛けした。家族にも連絡し、家族と美容室で待ち合わせさせて美容室に行ったら、家族だけでなく親戚や近所の人も集まって、予想以上の歓迎に驚いた。 本人が髪を染めたいといっていたので、もともと帰宅願望のある方なので、でもなかなか連れていく機会がなかったもので、それなら行きつけの美容室にしようかと、すぐ決断して連れて行った。 地域に帰すケアをしたときに、皆が見たことのないようないい表情をして、成功体験をしていたので、今回もうまくいくと思っていた。地域に帰ると、みんなが歌ったり踊ったりして、大いに盛り上がりがあった。	高齢者を連れ出し家族と待ち合わせ、地域の美容室に出かけたら、予想外の近隣の高齢者が美容室に集まり、高齢者を歓迎した	高齢者を地域に連れ出すことで成功体験(高齢者が施設では見せないいい表情をする)を何度も味わいたい	施設から地域に連れ帰るケアは楽しい成功体験をしたので、帰宅願望のある高齢者を誘って出かけた。家族や親戚が集まり民家で歌ったり踊ったり、予想以上の歓迎をしてくれ、皆が見たことのないいい表情をしていた
3 療養施設	腰痛があつて具合が悪いので、「今年は参加できるかな、大丈夫かな」と思ったが、祭り(みやまーく)に行ったら元気になる。その高齢者は、「スケッチ オブ みやまーく」で、古謡や伝統行事を大事にし、地域で役割を果たしてきた人であることがわかった。また、年齢的にも最後かもしれないので、「腰が痛いから起きたくない」と言っていたが、祭り会場では、はしゃいで元気があり、今も元気で施設で過ごしている。 本人から先に祭り(みやまーく)に行きたいとは言わなかったが、「行きたい」と聞いたので、「行きたい」と言っていた。体調悪いからどうかと思つたが、本人に聞いてみようということになり、本人に聞いた。	体調が少々悪く、来年はないかもしれないと思い、若い頃役割のあった伝統行事(みやまーく)に誘った	次がないかもしれない(年齢や状態から次の祭りで生きていけないかもしれない)ので、今年の伝統行事に少々無理をしても参加させた	体調はすぐれなかつたが年齢的に最後の伝統行事になるかもしれないと思い、希望を確認し参加したら、会場ではしゃいで元気があつた
4 療養施設	高齢者に対して、スタッフ同士でも、それぞれが出身地を話題にし、関係者のつながりを意図的に話題にする。このことは、高齢者とかかわるときに必要なツールと考えている。生活歴を把握してからケアをするようにしている。その高齢者の生活歴を把握するために、出身地を話題にしている。高齢者が話題を広げ、楽しそうに反応するので介護はいいと思えるし、介護の醍醐味を感じる。	高齢者の出身地を話題にし、高齢者の生活歴、関係者のつながりを把握するようにしている	高齢者の出身地や関係者とのつながりを知り、介護の醍醐味を感じたい	高齢者の出身地を聞き、生活歴を把握してからケアをすると、高齢者の反応が良いので介護の醍醐味を感じる
5 療養施設	地域に出ると高齢者は方言でべらべらしゃべれるし、職員はお客さんになり、高齢者が主役になって主導権が施設と変わる。また、高齢者は地域に詳しいので、地域を職員に案内してくれる。施設より地域にいる高齢者は生き生きする。	高齢者を地域に連れ出すと、高齢者は地域に詳しいので職員を案内してもらい、主導権を握らせる	高齢者は、地域のことはよく知っていて、地域では楽しい思いができるので、地域に出かけて楽しんでほしい	地域に出かけると高齢者が主役で主導権を握り、職員はお客さんになるので高齢者が生き生きとする

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
療養施設	<p>多くの保育園とのイベント(地域行事)に高齢者と一緒に出かけていく。高齢者達は、外出するのが大好きで、「行きたい」というので、一緒に行く。どこに行くといっても、「行きたくない」と言われ、出かけたことを忘れていたけれども、「行きたい」と聞いたら、「行きたくない」と言う。どこもいっていないと言う。子ども達と一緒に踊ったりして書ぶし、家族も来て、三味線に合わせて、家族と一緒に踊ったり、食事を一緒にしたりする。</p> <p>目的は、高齢者達が外出したがるし、外出すると楽しそうだから。老人ホームに入所中にも、家族は、わざわざ施設にお見舞いにはこないけど、子ども達のイベントには、来てくれるし、自分の孫やひ孫との交流ができるから、連れてくる。自分の孫やひ孫が踊ったりすると、踊っているよと台図をしたりして、一緒に楽しむ。できるだけ、行事には、外に出して参加させたいと思う。だから、声をかける。</p>	<p>地域行事(地域の保育園のイベント)に出かけて、子ども達と、家族と一緒に踊り、語り、食事をすることを支援している</p>	<p>地域行事に参加して、家族と交流させたい 地域行事を外出を希望する高齢者の楽しみの機会にしたい</p>	<p>高齢者は地域行事(保育園のイベント)に参加すると楽しそうである 施設には家族の面会も少ないので、地域行事(保育園のイベント)への参加は家族とも交流し一緒に楽しむ機会になっている</p>
療養施設	<p>みやーくづつには、家族が連れていけない高齢者は、車いすに乗せて、誘っていく。会場では、飲み物とか、お菓子とか、みんなが振る舞うので、たくさん、お土産もらって帰ってくる。お土産もらいいに行こうと誘ったら、わかっている人は、そうそうと言って、一緒に出かける。認知機能も低下しているの、島の人が出会うことも、わからないことも多いし、すぐ忘れてしまふけど、鳥の人達が近づいてきて、声をかけてくれる。</p> <p>結構、みんな楽しそうにしているよ。</p>	<p>伝統行事(みやーくづつ)には、家族が協力できない高齢者を誘って外出させている</p>	<p>認知機能が低下している高齢者にも、鳥の人たちが声をかけてくれるので楽しい思いをさせたい</p>	<p>認知症高齢者は、伝統行事に多くの知り合いで出合い声かけ合ってもすぐに忘れてしまうが、その瞬間は楽しそうである 伝統行事(みやーくづつ)には、高齢者を誘ってでかけると、知り合いが近づいて来て声かけてくれるので地域の人々と交流し機会になっている</p>
療養施設	<p>子どもの誕生日(生後10日目)は昔からやらってきたことなので、要介護状態になっても、やらないと気が済まない。どしどしやるといい。だから、昔はやったかもしれないけど、やらなくてもいいんじゃないかと、なだめるが、聞き入れてもらえないので、ひ孫の誕生日に赤ちゃんの家まで、車いすで連れ出してお祝いに行く。高齢者は、この儀式をして、これで安心だという会話を聞き、私もほっとする。</p> <p>昔のことなので、忙しい、もういいんじゃないかと思うけれども、やりたかった本人がいうし、私も小さい頃から、誕生日を盛大にやっていたことを知っているの、義務として、やらなくともいい、高齢者を連れて行かないといけないと思う。</p>	<p>地域行事(ひ孫の誕生日)に行きたいとせかむので、誕生日の日に車いすで行出した</p>	<p>高齢者が継続してきたことや大事にしていること(誕生日)は叶えさせたい</p>	<p>昔からやっていた子どもの誕生日をやりたいたいとせかむ高齢者を車いすで地域に出かけると「これで安心だ」と話し、私も「ほっとした」 私も小さい頃から誕生日を盛大にやることを知っているの、高齢者が誕生日に地域に出かけたいとせかむと義務としてやらなくともいいと思う</p>
療養施設	<p>トライアスロンのときは、応援にいきたいという高齢者は、応援のしやすい場所を選んで、連れて行く。トライアスロンが近くと、みんな、選手の応援のために横断幕の絵を描いたり、張り紙をしたり、ちぎり紙をしたり、楽しんで準備する。応援のよくできる場所では、部落の人達がたいたテントに仲間入りさせてもらう。水源地の人達と一緒に、太鼓やハーモニカをたたいて、一緒に楽しむ。太鼓やハーモニカを、高齢者に差し出して、一緒に応援をすることを促されて、一緒に楽しむ。応援会場まで行って、落ち着かない人は連れて帰ってくる。</p> <p>室内での活動が多いので、とにかく外に出さなさと誘って連れていく。外に出かけたら、高齢者はハイテンションになり、嬉しい表情をする。</p>	<p>地域行事(トライアスロン)は、準備を施設で行い、当日は地域の人々とテントの中で一緒に応援する</p>	<p>高齢者は室内での活動が多いので地域行事(トライアスロン)の参加を誘い、外出の機会にする 地域行事(トライアスロン)は準備から当日の応援まで一緒に楽しみたい</p>	<p>高齢者は、地域行事(トライアスロン)の応援を地域の人々と一緒に楽しみ、ハイテンションになり、嬉しい表情をする</p>
療養施設	<p>外出をいやがり、室内に神様がいてからと、外出をしたがらない高齢者がいたが、毎日、ずつと、室内だけに引きこもっているのはいけないと思い、外出を促すが、行くことしれない。拜みの道具(香炉、ちんびん、おちよこなど)を並べて、朝屋晩を並べて拜みをしている。外出には応じてくれないが、本人がやりたいと言っているの、好きなようにさせている。この人が今までやってきたことを施設でもできるだけ続けさせたいと思うので、気が済むようにすることにしたい。</p> <p>できた。外出をしてほしいが、本人が、拜みをするので、気が済むんだつたら、朝屋晩拜むことを気にせず支持している。</p>	<p>外出したくない高齢者に外出してもほしいが、朝屋晩、拜みの道具を並べて折っているの、今までやってきたことを支持して好きなようにさせている</p>	<p>高齢者の気が済むように、施設でも本人が大切にしてきたことややりたいことを支持したい</p>	<p>誘っても外出したがらず朝屋晩、道具を並べて拜みをしている高齢者には、これまでやってきたことを施設でも継続しているので、気の済むように支持することにした</p>

療養施設 6	<p>帰宅願望の強い高齢者が、夜中の2時に、家に帰りたいと言いついで、明日にしようと言いついで、戻してもらえず、施設をそと出て行くので、一緒に後ろからずと歩いた。きび畑に入っていて、きび畑の草取りを暗いなかで一生懸命とっている。しばらく草取りをして、「疲れた」というので、「帰る？」とどうかがしたら、「じゃあ、帰ろう」といって、一緒に施設に戻った。やりたいことをさせれば、落ち着くので、させた方がいいと思う。畑にいつか来た、きび畑と話をしたら、会話がなくなった。「疲れたね、じゃあ、着替えていって、お風呂入る？」と聞いたら、会話がなくなった。夜中から入浴をする。そういうことを、天候や時間に関係なく、しよちゅうや。雨の日の草取りは、その日がいいという。私は傘をさして、草取りをさせる。施設に戻り、入浴の後に二人で熱いお茶を入れて飲んだ。お茶と一緒に飲みながら、「また行く？」と聞くと、「行かない、もういい」と言うので、「じゃあ、終わりに」と言う。こんなことだけしている。高齢者が満足するまで、必ず連れていった方がいいと思う。本人がやりたいときに、満足するから、させたほうがいい。</p>	雨の日の夜中に「草取りをしたいと理不尽なことを訴える認知症高齢者を説得するよなり、やりたいことをやらせれば落ち着くので、満足するまで本人がやりたいことにつきあうことがいいと思う	認知症高齢者を説得するよりも、やりたいことが理不尽であっても満足するまでさせた	雨の日の夜中に「草取りをしたいと何度も訴えている高齢者の草取りにつきあう	<p>帰宅願望の強い高齢者が、夜中の2時に、家に帰りたいと言いついで、明日にしようと言いついで、戻してもらえず、施設をそと出て行くので、一緒に後ろからずと歩いた。きび畑に入っていて、きび畑の草取りを暗いなかで一生懸命とっている。しばらく草取りをして、「疲れた」というので、「帰る？」とどうかがしたら、「じゃあ、帰ろう」といって、一緒に施設に戻った。やりたいことをさせれば、落ち着くので、させた方がいいと思う。畑にいつか来た、きび畑と話をしたら、会話がなくなった。「疲れたね、じゃあ、着替えていって、お風呂入る？」と聞いたら、会話がなくなった。夜中から入浴をする。そういうことを、天候や時間に関係なく、しよちゅうや。雨の日の草取りは、その日がいいという。私は傘をさして、草取りをさせる。施設に戻り、入浴の後に二人で熱いお茶を入れて飲んだ。お茶と一緒に飲みながら、「また行く？」と聞くと、「行かない、もういい」と言うので、「じゃあ、終わりに」と言う。こんなことだけしている。高齢者が満足するまで、必ず連れていった方がいいと思う。本人がやりたいときに、満足するから、させたほうがいい。</p>	<p>伝統行事に家に帰れず施設にいる高齢者は、落ち着かなくなり、心が沈むので、自宅に帰れない高齢者の寂しい思いを汲んで元気になるようにその場を一緒に楽しむ</p>	<p>伝統行事に家に帰れず施設にいる高齢者は、落ち着かなくなり、心が沈むので、自宅に帰れない高齢者の寂しい思いを汲んで元気になるようにその場を一緒に楽しむ</p>
療養施設 7	<p>旧正月や十六日に、家族がつれて帰れる高齢者はよいが、家族が連れて帰れない高齢者は、落ち着かなくなるので、旧正月とか十六日とか積極的に教えたくないが、とくにアイサイピスでははばかれてしまう。はばかれては、家族が連れに来ない高齢者は、誰も迎えて来てくれないと沈むので、施設で、三味線を弾いて、みんなに聞かせている。焼肴で山に持って来られたと沈むので、できるだけ、元気にいられるように、「ここで行事をやったらいさ」と言い、「さあみんなで歌を歌おうか」と三味線を弾いてみんなで歌っている。施設では、赤飯とか、天ぷらとか、旧正月の食事を出してくれる。本日は、帰りたいはずなのに、自宅に帰れない高齢者の寂しい思いをくんで、その場を一緒に楽しむ。</p>	伝統行事(旧正月)に自宅に帰れない高齢者の寂しい思いを軽減したい	伝統行事(旧正月)に自宅に帰れない高齢者たちと、三味線を弾いてつたを歌ったり、伝統行事食を一緒に食べる	<p>伝統行事に自宅に帰れない女性高齢者が、伝統行事食を教えてもらっている</p> <p>高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい</p>	<p>伝統行事に自宅に帰れない女性高齢者が、伝統行事食を教えてもらっている</p> <p>高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい</p>	<p>伝統行事のことはわからないことがいっぱいあるので子ども達にも伝えていきたいと思う</p>	<p>伝統行事のことはわからないことがいっぱいあるので子ども達にも伝えていきたいと思う</p>
療養施設 8	<p>特に、女性高齢者は、これまで行事のときには、料理をつくってきたので、女性高齢者は男性よりも、行事には、帰りたい願望が強いと思う。だから、女性高齢者の方が、行事が近づくときとそわそわする。女性高齢者には、行事料理の品数や、作り方や料理の由来など、話を聞くようにしている。</p> <p>私も受け継ぐべきものは受け継ぐと思うので、自分から聞いて習うようにしている。私は、結構受け継いだタイプだと思う。高齢者から聞いた内容を子ども達にも伝えていきたいと思う。わからないことがいっぱいあるので、これからも高齢者から習いたいと思う。</p>	女性が家に帰って伝統行事食をつくりたい心情を察して、料理の由来や作り方を語らせた	女性が家に帰って伝統行事食をつくりたい心情を察して、料理の由来や作り方を語らせた	<p>伝統行事に自宅に帰れない女性高齢者が、伝統行事食を教えてもらっている</p> <p>高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい</p>	<p>伝統行事に自宅に帰れない女性高齢者が、伝統行事食を教えてもらっている</p> <p>高齢者から教えてもらった伝統行事食を子ども達に伝えていきたいし、これからも高齢者から習い続けたい</p>	<p>伝統行事のことはわからないことがいっぱいあるので子ども達にも伝えていきたいと思う</p>	<p>伝統行事のことはわからないことがいっぱいあるので子ども達にも伝えていきたいと思う</p>
療養施設 9	<p>重度の認知症高齢者が幼少期に方言で歌っていた歌を歌い出していたので、それをイベント時に本人に歌ってもらったり、子ども達に教えて、子ども達に歌ってもらったりしている。</p> <p>子ども達へ歌を伝えることを通して、重度の認知症高齢者でもできることがある。役割を持つてくれることがわかった。</p> <p>島の人でなければこの喜びとこの喜びというのにはわからない、世代を超えてわかって、ひととを一緒に笑って過ごすこと、喜ぶことが嬉しいと思える。</p>	島のひととして、世代を超えてわかり合えるひとときを(私が)過ごしたい	<p>重度の認知症高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった</p>	<p>重度の認知症高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった</p>	<p>重度の認知症高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった</p>	<p>重度の認知症高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった</p>	<p>重度の認知症高齢者が幼少期の歌を歌い出したので、子ども達に教えて歌ってもらっているが、重度認知症高齢者でもできることがある、役割が持てることがわかった</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
<p>療養施設</p> <p>1</p>	<p>方言は、小さいころから、使ってきた言葉なので、ケアをする上では施設や施設外を問わず、大事な要素だと思ふ。方言で話しかけた時、その人の育った地域のこと(地域の慣例行事、慣習など)を話題にすると、気持ちの距離が短くなるので、保健師活動では、相手の状況に合わせて、それを意識的に実践していた。方言で話しかけると、気持ちも落ちつき、対象の生活背景を早く把握でき、適切なケアに結びつく。</p> <p>高齢者も標準語よりも方言で話しかけられると、気持ちの距離が短くなるように、表情もいきいきし、自身の困りごとや相談したいことなどを気軽に話しかけられるから、相手もそれには、安心感、安全、信頼につながるからだと思う。看護職者が、対象者とコミュニケーションを形成する上では、方言での会話やその人の育った地域のこと(地域の関連行事、ひとつの文化行事である慣習など)を知っていることは、大変重要なことだと思う。</p>	<p>保健師活動では、対象の生活背景を理解するために意識的に方言で育った地域のことを方言で語らせたようにした</p>	<p>方言での会話は、気持ちの距離が短くなるので方言で語らせた</p> <p>方言で会話すると、気持ちをともにしたい、ともになれるので安心すると思う</p> <p>方言での会話は、コミュニケーションを形成する上で非常に重要なことだと思う</p>	<p>方言での会話は、目には見えないけれど、気持ちをもっともにしたい思いが伝わり、ともになれるので、安心すると思う</p> <p>高齢者とは方言で会話するように心がけているのは、標準語より方言の方が気持ちの距離が短いと感じるので、コミュニケーションを形成する上では、非常に重要なことだと思う</p> <p>高齢者も、方言で会話すると、いきいきとした表情で、会話をしてくれるのが伝わる</p>
<p>在宅</p> <p>2</p>	<p>脳卒中後遺症で右麻痺、言語障害があり、言葉でのコミュニケーションがとれない対象者宅で「歌が好きですか?」「民謡がいいかな」と聞いたら頭をたててにふった。宮古民謡(伊良部トーガ二)の歌を体をさすりながら、歌い出すと、体を少し揺らしリズムをとりながら、静かに聴いていた。そして、大粒の涙を流し、泣きながら最後まで聴いていた。私も一緒に歌を歌いながら、泣いた。</p> <p>このようにすることは、私も初めての経験であり、このときに、私と相手の気持ちが一致し、共感の理解を感じた。看護の幅の広さと奥の深さを感じた瞬間であり、このとき、看護という言葉の重みを身をもって学ばせて頂いた。対象者は、この歌のメロディーや歌詞をよく存じていたに違いない。この歌がもつ、わびしさ、悲しさ、ふがいなさ、苦しさなど、世話をしてくれる高齢の夫への申し訳なさを喜怒哀楽の境地に思いを馳せられていたのかと思う。この対象者を訪問した時期の宮古島は、きび取連の多忙な頃であり、世話をしている高齢の夫は昼食時間に家に戻り、対象者の食事介助や排泄の世話をし、また畑へ収穫作業に勤しむという生活状況であった。それゆえに、自分がおかれている状況を重ね合わせ、わびしさ、悲しさ、ふがいなさ、苦しさ、世話をしてくれる夫への申し訳なさを、普段より強く感じていたかと思われ。</p> <p>その地域に生まれて、その地域の状況を知っているものでなければ、できない看護だと思つた。私がケアを受ける身になった時には、同じ地域に生まれ育った人から、ケアを受けたという思いが強くなっている。それは、安心で、安全で、信頼に繋がりが、共感あえるとと思うからだ。</p>	<p>歌の好きな郷たきり高齢者と島の民謡を一緒に泣きながら歌った</p>	<p>地域のことをよく知る人のケアは、安心で、信頼でき、共感し合えると思う</p> <p>同じ地域で生まれ育った人ができるケアをしたい</p>	<p>民謡が好きで高齢者と民謡を一緒に歌っていたら、歌のリズムを取りながら大粒の涙で大泣きしていた</p> <p>民謡の好きな高齢者と一緒に歌を歌いながら、(感動して)二人で泣き、相手の気持ちと共感できたと感じ、看護の幅の広さと奥の深さを感じた</p> <p>高齢者と一緒に民謡を歌いながら、その地域に生まれて、その地域の状況を知っているものでなければできない看護があると思えた</p> <p>私がケアを受ける身になったときには、安心で、その人を信頼し、共感しあえる同じ地域に生まれ育った人から、ケアを受けたいという思いが強くなった</p>
<p>療養施設</p> <p>3</p>	<p>トリアスロンの日には、施設に入所している高齢者と一緒にになって、近頃のコースに沿って、応援に参加しています。入所者の心身の状況の健康状態に気を配りながら、共に楽しみを分かち合います。宮古のトリアスロンは、島全体の人々が応援に参加するので、施設に入所している高齢者も毎年参加させたいと思う</p>	<p>地域行事(トリアスロン)の応援に参加している施設高齢者の心身の健康管理をした</p>	<p>島のみんなで応援する地域行事(トリアスロン)には、体調を管理しながら高齢者も応援に参加させたい</p>	<p>地域行事(トリアスロン)は、高齢者と一緒に応援して楽しんだ</p>



4	在宅	<p>老健事業がばじまった頃、寝たきり高齢者の外出支援をどのようにしたらいいかということについて、駐在保健師の私と、役場の職員と、住民と、家族でその課題について、みんなで話し合いをもちながら、一緒に考える場をつくり、高齢者の健康づくりの活動も含めて、事業をスタートさせた。</p> <p>ひとつの事業は、ひとつの町村にとどまらず、近隣の市町村もまちまわりで、活動を広げた。</p>	<p>寝たきり高齢者の外出支援について、専門職、行政、住民で話し合い、一緒に考え、活動をスタートさせた</p> <p>誕生した寝たきり高齢者の外出支援は、近隣の町村とも話し合い、活動を広げた</p>	<p>ひとつの地域で誕生させた新たな寝たきり高齢者の外出支援は、近隣の町村にも波及させたい</p>
5	療養施設	<p>敬老会は、施設でも催すが、各地域でもそれぞれに地域特性を出しながら開催されている。施設の高齢者の地域行事への参加については、健康状態を見て、家族から申し出があれば、できるだけ参加できるように調整している。地域の敬老会に参加できない高齢者が寂しい思いをしないように、施設での敬老会もオカリナ演奏を入れたり、職員で久松五勇士(鳥に受け継がれている偉人伝)を演舞したりといろいろ工夫、検討し、会を盛り上げている。</p>	<p>施設でも敬老会は開催するが、地域の敬老会に参加を希望する高齢者が参加できるように家族と調整する</p> <p>地域で敬老会に参加できなかった寂しさを埋め合わせるため、施設での敬老会では、私の得意のオカリナを演奏する</p>	<p>地域の敬老会に参加できない高齢者に寂しい思いをしないよう施設の敬老会を盛り上げ高齢者を楽しませたい</p>
6	療養施設	<p>伝統行事は、内容も方法も地域によって多様性があるため、異なる地域の伝統行事を新聞記事等を利用して、高齢者に話すようにしている。宮古の出身者であっても、近隣の地域の行事を知らなかったり、みたことがない高齢者が多く、情報を伝えるため、マスコミなどから絶えず情報を収集している。</p> <p>たぶん、高齢者は、地域の伝統行事に高い関心を持っているので、情報をすることは楽しみをもたせ、脳の活性化に繋がると思う。また、近年は娘が宮古嫁になったり、仕事で宮古島に暮らしているなどの繋がりで、デイケア等を利用して県外の高齢者が増えつつある。このような方に対しては住んでいる地域の行事を紹介したり、その地域出身の方を紹介するなど、気をつけてケアにあたっている。</p>	<p>地域が異なれば伝統行事も異なるので、新聞などで情報を仕入れ高齢者に話題を提供している</p>	<p>高齢者は地域行事や伝統行事に関心があると思うので、情報を伝えることで脳の活性化につながると思う</p>
7	療養施設	<p>運動会の話をすると高齢者達はとてもいきいき、三倍以上の元気になる。特に、運動会で歌った校歌が大好きである。運動会の時期になると、高齢者が沈んだ表情をしたり、空気がよどんでいるときには、運動会のことを話題にし、それぞれ小学校の校歌を順繰りで歌わせたりする。日頃、引っ込み事業な高齢者もこの時ばかりは、積極的にになり、自身でリードしながら、大きな声で校歌を歌い、車椅子に座りながらも、校歌遊戯まで披露してくれるのである。</p> <p>生徒の頃は、みんな元気ではつらつとし、楽しかった思い出として浮かぶようである。胸に秘めた多くの思い出、エピソードが引き出され、脳が最も活性化するときである。高齢者にとって、当時は今のようにいろんなイベントがあったわけではないので、運動会は、大きな楽しみだったと思う。運動会には懐かしさや喜び、楽しかったことが胸に詰まっていると感じる。みんなで声を大にして歌うと、高齢者も、職員も気持ち若返り、小学生時代に戻り、楽しい時を共有するのである。</p>	<p>地域行事(運動会)の話題になると高齢者は生き生きするので、高齢者が沈んだ表情をすすると運動会の歌や校歌を歌うことを提案し、職員もみんな一緒にうたう</p>	<p>高齢者は地域行事(運動会)の話題や歌が大好きであることを知っているので、高齢者が沈んだ表情や空気がよどんでいると運動会を話題にしたら盛り上がる。</p> <p>地域行事(運動会)は、高齢者が若かった頃(イベントの少ない時代)には大きな楽しみであり、懐かしさや喜びがたくさん詰まっていると思うので、運動会の話題は高齢者を元気にする</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 訪問看護	<p>伝統行事(十五夜)には、「ふきやぎ」を作って仏壇に供えることは共通しているが、過ごし方は地域によって異なる。十五夜が近づく、高齢者宅で十五夜の供え物や過ごし方については、地域によって異なるので、意識して聞くようにしている。幼少期に自分が体験した十五夜は地域の人皆で集まり、月見盆をし、歌って楽しんでいたので、どんな十五夜を過ごしてきたかと要介護高齢者に聞いていたら、「これまでふきやぎを作って、隣近所に喜ばれて、今でもやりたいたいが出来なくなっている」ことを知った。そこで、私が手伝いながら、一緒にふきやぎ作りをしたかと思いきや、また実際にどういう風に作るのか、自分自身も習いたかと思ったので、高齢者にできるかと聞いた。高齢者は、すぐ「に生き生きた奉壇になり」「教えてあげよう」と合意した。ふきやぎの材料は私が買ってくることにし、下ごしらえを要介護高齢者が引き受け、十五夜の日に同僚にも声をかけて仕事を終えてから作る約束をした。職場に戻り、職員に提案したところ、職員は、「こういう行事はいいよね」と共感し、自分たちの文化は大事にしたい、高齢者に習いたいたいという思いがあった。</p> <p>ふきやぎ作りの間は、教えるので生き生きして、いつもの元気のななどは運っていた。ずっとやってきたことだから、要介護状態でも出来ることをするのは、やっぱり力があると思った。</p> <p>娘も息子も、「お母さんはこれが上手だったよ」と一緒に喜んで、皆おみやげをもらって、健康なときと同じように、隣近所の方も作って、娘が高齢者になって配ることをしていた。</p> <p>要介護状態であっても、この人の持っている力を活かしたいので、季節の行事で興味のあることは何か、特技は何かと、その特技を見つけてケアに活かしたいと思うので、その特技を見つけて、ケアに活かせるので良かったと思う。</p> <p>娘は、お母さんが元気にふきやぎづくりを指導している様子を見て、お母さんが皆に伝えたいことに気づき、毎年のイベントとしてふきやぎ作りの容易をしていた。</p> <p>人は誰でも出来る力を持っている、特に高齢者は伝統行事について教えたい、引き継ぎたい思いを持っている。これまで祖先から受け継いできたものを、途絶えさせずに、大事にししながら、次の世代へ伝えていきたいと思う。</p>	<p>伝統行事(十五夜)を味わってもらうために、過去にやっていたおはぎづくりを習いながら訪問看護師仲間も誘って一緒につくった</p>	<p>高齢者の特技(伝統行事の仕方や料理など)をみつけてケアに活かしたい</p> <p>高齢者は、伝統行事について教えたい、引き継ぎ続けたいと思っているのでそれを引き継ぎ、次の世代に伝えてきたい</p> <p>伝統行事をその人の過ごし方で再現し、楽しませたい</p> <p>同僚の訪問看護師も地域文化ケアと一緒に共感したい</p>	<p>この地域の文化は大事にしたいので高齢者に習いたいと思ったり、教えてもらって良かった</p> <p>これまで祖先から受け継いできたものを、途絶えさせずに、大事にしなが、高齢者に教えてもらい、次の世代へ伝えていきたいと思う</p> <p>要介護状態であっても、この人の持っている力を活かしたいので、その特技(ふきやぎづくり)を見つけて、ケアに活かせるので良かったと思う</p> <p>伝統行事に食べるふきやぎ(おはぎ)を一緒に作りながら、教えてもらうというものの元気のなさは運って生き生きとしていたので、要介護状態でも、ずっとやってきたこと、出来ることをするのは、やっぱり力があると思う</p>
2 訪問看護	<p>宮古島市が町並みをきれいにするために、さがり花の植栽を推進していた。この高齢者も自宅に立派なさがり花があるので、これを増やして、道行く人になくさん見せたいという希望を伝えていた。そうすることで、道行く人や、友人がさがり花をみながら、遊びに来てくれるからと話していたので、いいことだね、たくさん増やしてね。また皆で見に来るからと、支持した。</p> <p>実際に一人で開くよりも、より多くの人と開く方がいいと思うので、職員に声をかけたりして、高齢者宅を訪れ、花見をした。その気持ちを受け止め、一人でも多くの人のつながりをもて、その人の喜びが倍増して明日も頑張ろうという思いがもてるように、職員にも声をかけて、皆で花の普及に参加した。高齢者は、花の育て方を教えたり、花について語ることで、喜んでいて、職員の楽しそうにしている。</p> <p>誰でも人と話したいし、人と繋がりたいという思いが年を重ねることで、強まっているので、人とつながる方法として、この高齢者にとつての人のつながり方が、さがり花を植えて増やすことだったのではないかと感じた。そのような人のつながり方を若い職員にも受け継いでもらいたいと思う。</p>	<p>町並みを美しくするため植栽を推進している高齢者を支持し、訪問看護師仲間にも声をかけて夜の花見会を高齢者宅で行った</p>	<p>植栽を活用した人とのつながりかたを若い訪問看護師にも受け継いでもらいたい</p>	<p>ケアは一人が開くよりも多くの人が開くことが良いと思うので職員を誘って高齢者宅で、花見をしたら、花の育て方を教えてもらったり、花について語ることで、喜んでいました</p> <p>高齢者にとつての人のつながり方が、花を植えて増やすことだったのではないかと感じたので、そのような人のつながり方を若い職員にも受け継いでもらいたいと思いい、職員を誘ったら、乗ってくれ一緒に楽しんで</p>

3	<p>訪問看護</p>	<p>獅子が十五夜の夜に各家を回って、魔除けをするという昔からの儀式があるが、最近私の家には来ないと、ひとり暮らしの高齢者が嘆いていた。地域の獅子舞を呼ぶことは出来ないの、魔除けの獅子を手作りして魔除けができないかと考えた。そこで、ひとり暮らしの高齢者宅に隣近所を集めて、十五夜の日に観月会と獅子舞をしようかと提案し、約束した。相談しながら一緒に、隣近所への声かけや食事の持ち寄りなど、高齢者と一緒に段取りをして、職員にも声かけして、一緒に獅子舞を段ボールで作って、準備をした。高齢者宅で、隣近所も参加して、観月会で「シーソーガウガウ」と唱えながら獅子舞でお祓いをして、隣で歌って過ごした。</p> <p>この方は、風習や伝統的な慣習に従って生きていたので、体調が悪いときや、良くないことが起こるのは魔除けをしていないせいかもしれないと高齢者が思っているのではないかと気が毒に思ったので、獅子舞のお祓いをしてあげたいと思った。高齢者は、風習や伝統的な慣習を大切にしている、獅子舞での魔除けをしなければと思うと、代替えがきかないので、少しでもその気持ちが軽くなればと思った。</p> <p>本人は、本当に喜んで、獅子舞に抱きついて有り難うと言った。隣近所もみんな、この高齢者と一緒に喜んでいった。私運も嬉しかった。私も、職員も、隣近所もみんな、こんなに高齢者のその人の気持ちに寄り添って手助けすることができたのは、今の人は、人は人、自分は自分という気持ちがあるが、人のことをまだ考える気持ちがあるねと</p>	<p>伝統的な慣習を大切にしているおお祓いをするのが、体調が悪いからと気が毒に思っている。高齢者も誘い、お祓いをしてあげたい</p>	<p>高齢者が風習や伝統的な慣習を大切にしているおお祓いをするのが、体調が悪いからと気が毒に思っている。高齢者も誘い、お祓いをしてあげたい</p>
4	<p>訪問看護</p>	<p>要介護高齢者が若い頃働いていた職場(施設)の話をしているとき、「あのとき(働いていた時)が一番楽しかったね」と語り、長い間行ってないが、もう一度働いていた場所に行ってみたく話していた。杖歩行ではあるが、夏祭りに私が責任を持って連れて行きたいかどうかと提案したところ、本人の了承が得られたので、連れて行った。その施設で働いていた頃の関係者に会って、おしゃべりをしたり、関係者と一緒に出店で飲んだら、食べたりを楽しんだ。後日、親族からステーションに連絡があり、本人が楽しんでいいことに対するお礼を言われた。</p> <p>何度も元の職場を見たいと言っている。気がなっていた。祭りの機会があったので、ちょうど本人の思いを叶えるのにいい機会と思えた。</p> <p>その後、本人から、行ってみたいという言葉は聞かれなくなったので、自分の目で確かめて安心したと思う。その後、発言がきかれなくなった。</p>	<p>杖歩行の高齢者も「前の職場(施設)の祭りに行くことを提案し、了解を得て、一緒に参加した</p>	<p>若い頃の職場で楽しかった思い出を何度も語る。施設祭りの日に合わせて一緒に職場訪問したら、自分の目で職場を確かめて安心したのかその後話題になくなった</p>
5	<p>訪問看護</p>	<p>ひとり暮らしの高齢者が、「入院したくない、輸血したくない、家にいたい」と言い続けていた。本人の希望するケアを在宅で行って来た。訪問時に、同じ宗教の関係者が頻りに出入りをしてお見舞いをしていたので、いよいよターミナル期には、この人達に看取りの協力してもらいたいと考え、見守りを依頼した。高齢者に必要なケアを組み立て、本人の希望でもあったので、宗教関係者に見守りと食事の介助を依頼し、一日の中でローテーションを作って、提案し合意を得た。食事介助については、食事の準備から食事の食べさせ方まで具体的に指導をしたところ、宗教仲間はきちんとその通りにしてくれ</p> <p>た。本人は、宗教関係者のケアを望んだので、本人の言うとおりにした。亡くなる瞬間には、ケアに参加していた宗教関係者を呼んで、一緒にエンゼルケアを実施した。</p> <p>宗教関係者にケアをしてもらおう方が気が知れているし、長い時間を通して、互いに共感する者も多くあると思うので、宗教関係者にも強制的にならないように、「負担だったら無理なくいいよ。大丈夫か？」と声かけしながら、ローテーションを作ってきた。</p> <p>本人は穏やかに希望の通りに最期を迎えた。宗教関係者は、「できることはしたい」と、最後までケアに参加してくれたので良かったと思う。</p>	<p>「積極的治療をせず自宅を過ごしたい」と希望する高齢者が、自宅で最期を迎えられるよう馴染みの宗教仲間をケアの担い手として提案し、受け入れられた</p>	<p>高齢者が希望する宗教仲間のケアを組み立てたら、宗教仲間は「できることはいい」と看取りまでケアに参加してくれたので良かったと思う</p>

6	訪問看護	<p>訪問時にお寿司が好きと語っていた高齢者が、飲み込むことがままならないターミナル期を迎えていた。この人が好きなお寿司をどうしても食べさせたいとずっと考え続けてきた。あのレストランの蒸し寿司ならと思いついたので、これまで高齢者の誕生日会をしてきたが、今年の誕生日が最期になると思い、誕生日に好きなお寿司をどうしても食べさせたいので、食べられそうなお寿司を出しているレストランに交渉した。「余命幾ばくもない高齢者に、どうしてもお宅のお寿司を食べさせたい」と交渉し、職員では対応できず店長に代わり、店長に「私が取りに行きますからお願います」と頼み込んだ。レストランの店長は了解をし、きれいに彩りよく盛り付けて、心のこもったハットリ詰めのお寿司を特別に準備してくれた。昼食の休憩時間に誕生日会を企画し、職員にも声かけし、賑やかに高齢者宅で、一緒に蒸し寿司を食べた。高齢者は涙を流して喜んでくれた。人は思いがあれば、共感する人はちゃんといると思えた。</p>	<p>最期の誕生日に好きなものを食べさせたいと思い、高齢者の状態にあった食事やレストラン店長と交渉し、取り寄せ、訪問看護師仲間と昼食時間に誕生日会をした</p>	<p>最期の誕生日に好きな食べ物を食べさせ、みんなまで祝ってあげたい</p>	<p>死にゆく高齢者の大好きだった料理を特別注文でつづらえ、一緒に高齢者宅で食べたら高齢者は涙を流して喜んでくれた</p> <p>死にゆく高齢者に最期の楽しみ(お寿司を食べることをプレゼントしたい)と思い、飲食店に特別注文をしたらそれに応じてくれたことから、人は思いがあれば共感する人はいると思えた</p>
7	訪問看護	<p>地域行事(宮古島トライアスロン)は、走る人も応援する人も皆で活性化して続けて欲しいと思っている。訪問先の高齢者が、トライアスロンが近づくに、高齢者に応援を促している。本人が希望する場合には、家族に協力を依頼している。HOTなどの機器を装着している場合は、安全に参加できるような、家族には安心して関わられるよう、操作の確認や、応援する場所や時間など細かく調整している。トライアスロンの当日は、自分自身の役割である医療班ボランティアの台間を見つけて、本人の様子を確認し、熱中症対策などに直接ケアや本人、家族指導をしながら、要介護状態であっても、できるだけ地域行事に参加し続けられるよう促している。トライアスロン終了後は体調管理と同時に参加時に反応を聞くようにしている。応援だけじゃない。週ばたで応援に参加すると、地域の人はありがたいとこにいるので、「あの人も見える、あの人も見える」と顔見知りや隣近所が出てくるので、そこで会話が弾み、地域の人との交流を楽しんでいる。</p>	<p>人工呼吸器を装着している高齢者が安全に地域行事(トライアスロン)に参加できるように、本人、家族の協力を得て街頭応援の参加を支援した</p>	<p>地域行事(トライアスロン)は、要介護者も含めてみんなまで盛り上げたい</p> <p>地域行事(トライアスロン)を、引きこもりがちな要介護高齢者と地との交流の機会にした</p>	<p>高齢者は、地域行事(トライアスロン)を道ばたで応援する)に参加すると、地域の人との会話が弾み交流を楽しんでいる</p> <p>「地域行事(トライアスロン)はみんなが活性化し続けてほしい」と思っているので、高齢者にも応援を促し、安全に応援ができるように調整すると応援してくれる</p>
8	訪問看護	<p>十六日などの伝統行事に必要な買い物は、足の不自由な高齢者は買い物が出来ないようにしている。訪問の際に相談をして、私の買い物ついでに買って来て、仏壇に供えてもらう買い物が出来ないことで、仏壇行事が出来ない人、そういう高齢者をつくらない努力をしている。</p>	<p>足の不自由な高齢者が伝統行事の買い物に困らないよう、前もって声かけし自分の買い物ついでに買い物をする</p>	<p>買い物が出来ないことで伝統行事が出来ない高齢者をつくらないようしている</p>	<p>買い物が出来ないことを理由に、伝統行事が出来ない高齢者には買い物支援をして、伝統行事のできない高齢者はつくらない。</p>
9	訪問看護	<p>お墓参りの時期には、人工呼吸器を装着している高齢者を介護している家族には、家族が墓参りできるように、墓参りする日時に合わせて、訪問日や訪問時間を変えるなど、家族が墓参りできるようにしている。家族が墓参りをしていない間は、訪問して家族が戻ってくるまで、高齢者宅で一緒に過ごしている。家族は、「ありがとう。お陰で安心して墓参りができた」と感謝の言葉をいってくれる。</p> <p>要介護高齢者がいても、家族が大事な伝統行事を、皆と同じように出来ることは何かと考えて家族が必要なこととしている。家族が安心してお墓参りが出来るように、安心して送り出す役割を担っている。</p>	<p>伝統行事の墓参りには、要介護高齢者の家族が安心して墓参りできるような訪問看護の時間を調整している</p>	<p>大切な伝統行事を家族が安心して皆と同じように出来るようにしたい</p>	<p>家族が安心して伝統行事にはお墓参りが出来るように、お墓参りの日時を合わせて訪問し家族が必要なことを手伝うと、家族から感謝の言葉をもらう</p>

10	訪問看護	<p>日頃の訪問で、多くの時間を在宅で暮らしている高齢者に、外出の機会をつくらうと行きたいところはあるかと尋ねるようになっている。看護の日(日曜日)には、社協のヘルパー、ケアマネ、保健所などに声をかけて、イベントとして普段外出しづらい、人工呼吸器を装着した高齢者など、外出支援のボランティアを依頼している。看護の日は、看護をわかっただけで、外出支援のボランティアを依頼している。看護の日は、看護をやるように、毎年イベントをしている。イベント時には、専門職のボランティアだけでなく、家族や親戚にも役割を作って一緒に参加してもらった。息子がイベントで担った役割を支持し、高齢者には、息子のおかげだから、息子への感謝を促した。息子はイベントで自信を得たのか、介護への参加が増えた。</p> <p>本人の喜びはもちろんのこと、ボランティアの参加者が増えてきた。これまで、保健所の保健師は、用事のあるときのみ訪問看護ステーションにきていたが、イベントを始めたことで、何か私運に出来ることはあるか、困っていることはないかと、こちらが依頼しなくても、ボランティアとしての参加意欲が伝わるようになった。その後、保健所に依頼できること(台風時の停電の対応)は相談するようになっていた。</p> <p>保健所は、高齢者宅への訪問回数が増えた。また、イベントを通して、私は、保健所保健師に関係性が近づき、依頼しやすくなった。</p>	<p>看護の日には、家族、住民ボランティア、医療者を巻き込み、医療的支援が必要な高齢者の外出を支援するイベントを企画し、毎年実施している</p>	<p>看護の日を看護の理解と新たなイベント(地域行事)に位置づけたい</p>	<p>看護を地域の人々にPRする「看護の日」には、地域の専門職に声かけ、医療機器を装着し地域で暮らしている高齢者の外出機会を毎年つくっているが、高齢者はとても喜んでくれる</p> <p>保健所保健師は、「看護の日」のボランティア活動をしてから医療機器を装着して地域で暮らしている高齢者宅への訪問回数が増えた</p> <p>地域で専門職が医療機器を装着した高齢者の外出支援のボランティア活動を継続していたら、専門職から「何かできることはないか」と主体的に声がかかってくるようになり、ボランティア参加者が増加してきた</p> <p>地域で「看護の日」にボランティア活動を継続している専門職(保健所保健師)から相談されるようになった</p> <p>医療機器を装着し地域で暮らしている高齢者の家族は、外出支援を継続しているうちに家族として介護への参加が増えた</p> <p>「看護の日」に保健所保健師とボランティア活動をしてから、保健所保健師に相談をしやすくなった</p>
11	訪問看護	<p>介護者が緊急手術をすることになり、要介護高齢者が緊急に入院(レスパイト)をする状況が起こった。そのため二人の対応をする必要が生じ、介護者の入院手続きを始める間の、要介護高齢者のケアを保健所保健師に依頼した。保健所保健師とは、看護の日のイベントや地域行事(トライアスロン)で馴染みの関係になり頼めると思った。保健所保健師は、引き受けたいが、長いこと直接ケアをしたことがないから怖いといっていたので、「そうだよ」といいたが、一緒にケアをする時間をつくった。</p>	<p>緊急事態の高齢者のケアを保健所保健師と一緒に協力しながら行った</p>	<p>急でも頼めそうな馴染みのある保健所保健師の力も借りることで、緊急事態のケアはできると思った</p>	<p>「看護の日」にボランティア活動を継続しているうちに、緊急事態の高齢者のケアを保健所保健師と一緒にできるようになった</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 訪問看護	<p>方言で話すことは、親近感をもたらす効果があると思う。親近感とは信頼関係を築きやすく、特に求められるターミナルケアについては方言で話す（語り合う）ことで、ターミナルケアに必要な看護技術にもまさらる経験をいくつもしている。だから、ターミナルケアをするときには特に方言で会話をしようとしている。</p>	<p>方言での会話は親近感が増すので、特にターミナルケアの時には高齢者と方言で語り合うようにしている</p>	<p>方言には、親近感をもたらす効果があり、看護技術にも勝る経験をしているのでターミナルケアでは意図的に方言で会話する</p>	<p>方言は親近感をもたらすと思いい方言でターミナルケアをすると看護技術にも勝る経験ができる</p>
2 訪問看護	<p>高齢者は自分の体が弱くなったら施設に入りたいたいという意向があった。しかしひとりで暮らすため自分自身が施設に入所すると仏壇はどうなるのか不安であるとかケア提供者に相談していた。ADLが低下し仏壇のことが一人でできないことが増える、仏壇の継承をどうすればいいのかわからないことに関して悩み、症状がなくてもノートパソコンを必要以上に飲んだり、吐いたり過剰内服や身体症状がみられた。どうしたのかと聞いたら自分は施設にいかなければいけないだけだと、仏壇をどうしたらいいかわからず、不安であることを把握した。高齢者の仏壇の継承を何とかしなければならぬというニーズを把握した。</p> <p>そこでケア提供者は島内の娘を呼んで、高齢者、娘と会議をもった。娘にお母さんは仏壇行事を大事にすること子どもたちが成功したと思っているということを伝え、仏壇継承を大事にしていることをわかかってほしいことを伝えた。そして施設に入ってから後の仏壇の継承に困っており継承してほしいことを代弁した。仏壇の継承を誰がやるかについて家族で話し合い持つことを娘に約束させた。また、仏壇の継承を悩む、過剰薬物の投与や身体症状我々でいることを娘に伝え、高齢者の悩みの理解を得た。</p> <p>家族は話し合いで、仏壇の継承を決め、高齢者は「安心して施設に行ける」と言って、施設に入った。その後、身体症状が良くなり、不必要な薬も飲まなくなった。訪問看護師の私のことを「神様」と呼んでくれて、施設入所までの間、私が訪問することを見てくれた。高齢者の仏壇ごとを解決し、病状が安定して施設入所した経験から、高齢者の不安のニーズには仏壇ごともあることを知っているとかケアが変わると思っ</p>	<p>仏壇の継承に悩む必要以上の階割の内服をしていた高齢者の家族に、高齢者にとっての仏壇の価値を代弁し、家族に支援を求めた</p>	<p>高齢者の仏壇の継承の悩みが心身機能に影響している。その悩みを取り除きたいので家族に代弁する必要がある</p>	<p>高齢者の仏壇ごとを解決し、病状が安定して施設入所した経験から、高齢者の不安のニーズには仏壇ごともあることを知っているとかケアが変わると思った</p>
3 訪問看護	<p>私は、高齢者が仏壇を大事にしているという価値をもっており、仏壇行事の中でも特に本人が大事にしている行事も把握していたので、外泊のできる施設を探した。高齢者が施設に入所するとき、施設ケア提供者へ高齢者がいかに仏壇を大事にしているか説明した。この人は仏壇をとっても大事にしている人である入所までの間に仏壇の継承をめぐり家族と相談してようやく仏壇の継承ができる段取りが整い入所したという話を伝えた。そして仏壇行事（十六日）の日には外泊ができるように娘家族や施設のケア提供者と調整して仏壇行事の時に外泊がなくなった。</p>	<p>仏壇を大事にしているので仏壇行事には外泊を積極的にしている施設を紹介した</p> <p>施設入所時、仏壇を大事にして仏壇行事には自宅で過ごしたい希望があることを施設職員に伝えた</p> <p>施設入所後、仏壇行事の時には、施設から外泊し、自宅で家族と過ごしていることを確認した</p>	<p>仏壇を大事にしていること、施設入所後も仏壇行事には自宅で過ごしたいことを把握していたので、できるようにしたい</p>	<p>高齢者が施設入所後も仏壇行事に仏壇に折り合い希望があることを把握していたので、それができる施設を探し、実現したのは良かったと思う</p>

4	<p>訪問看護</p> <p>宮古のハーリーを見ないと言っていた高齢者がいた。出身が海に近いところではなく、ハーリーとは関係のない地域の出身で一度ぐらいは見たいなと日頃から言っていた。希望しているハーリーのイベントの前に本人の意向を確認したら「行きたい」と希望したので、その段取りを相談した。イベントの日には、介護職に協力を依頼し、ハーリー会場と一緒に連れて行った。</p> <p>通所サービスに参加したから、ハーリーを見たことがない、ハーリーを見てみたいという。しかし、ハーリー会場は人ごみの中であり、人酔いや暑さで体調を崩して、外出に耐えて行きたくなくなった。</p>	<p>他の地域の伝統行事(ハーリー)に関心があることを把握していたので、伝統行事の日にあわせてヘルパーも依頼し訪問し、参加した</p>	<p>外出したがらない高齢者に希望する伝統行事(ハーリー)への参加を企画し、外出の機会にした</p>	<p>外出の機会として伝統行事(ハーリー)に外出支援を実践したが、体調を崩したことで、継続した外出の機会確保にはつながらなかった</p>
5	<p>訪問看護</p> <p>方言を使う高齢者に、「いここがお金をもってきたが、どこに住んでいるかわからない」と方言で相談された。高齢者は方言の方が自分の気持ちや伝えやすいので、方言が通じることをわかると何でも相談をする。身近に感じさせるので方言で話すようにしている。</p>	<p>方言が馴染みやすい高齢者には、こちらから方言で話しかける</p>	<p>方言での会話では健康問題以外に生活上の課題も相談されやすい</p>	<p>方言での会話では、高齢者は借金のことまで相談する</p>
6	<p>訪問看護</p> <p>呼吸器を理由に運動したがらない高齢者に運動の機会として、生まれ育った地域への関心を寄せるための会話を意図的に行った。例えば、地域の風景や新しい道ができている話や、高齢者の関係者のことを話題にし、地域や人々に関心を引きよせさせる、関心を持つことを期待して語り続けた。</p> <p>この人はこの地域で生まれ育って老いているので、この地域に愛着があると思った。高齢者は、その語りに反応し結果として地域を回ったり、隣近所の関係者にあたりしした。歩けなかった坂を登ったので、驚いたし、地域への愛着のすこさを感じた。</p> <p>地域文化ケアニーズと、高齢者の運動をすることへの意欲と運動につなげることができた。</p>	<p>運動したがらない高齢者に、生まれ育った地域について意図的に話題にし、地域に関心を引き寄せさせたら、地域に散歩にでかけるようになった</p>	<p>高齢者は地域には愛着があると思おうので、運動することを地域で出かける意欲につなげた</p>	<p>高齢者は地域への愛着ニーズがあると思おうので、出身の地域に散歩に出かけ運動への意欲と運動習慣につなげることができた</p>
7	<p>訪問看護</p> <p>高齢者が抑うつになったとき、生まれも育ちも同じ地域の同年代の気持の通じ合う高齢者たちが毎日本人の家に集まり、おしゃべりしたりお茶会したりして1年くらい継続している。高齢者は「大変だけれど茶菓子を出している」と話す表情はうれしそうである。人と話すのは介護予防になるので続けたいと良いと支持している。抑鬱状態の高齢者には近隣との関わりが介護予防に最も良いと思う。</p>	<p>抑鬱状態の高齢者宅に近隣の高齢者が毎日集うことを訪問時に聞き、「介護予防になるので続けたい方が良い」と支持した</p>	<p>抑鬱状態の高齢者の介護予防は、近隣の気持の通じ合う高齢者との交流が大切であることを高齢者に伝えたい</p>	<p>抑鬱状態にある高齢者は自宅に近隣の高齢者が定期的に集まっていることをうれしそうに表情で語る</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 在宅	<p>ケアマネの私は、高齢者が欠かしたくない伝承行事(ミヤークツツ)に行きたい希望があることを把握していた。そのことが気になっていたが、とくにミヤークツツに参加することを計画していなかった。膝も伸びないし、いつもぼーと寝ている感じの高齢者だった。訪問看護師から、誘われ、ヘルパーと三人で、抱きかかえるように、車に乗せて参加した。伝承行事の会場(ムトウヤ)に連れて行くと、住民達がみんな輪になって、お酒を飲み、楽しんでいった。そして、高齢者を輪の中に入れ、座られてあげてくれさせて、お酒を飲んだり、ごちそうを食べてくれた。帰りは住民達も送迎を手伝ってくれ、自宅のベッドで寝かせてくれた。看護師が一緒だったら安心だと思っただし、ヘルパーも一緒に移動も大丈夫だと思った。</p> <p>高齢者はすごく喜んで、寝たきりの障害者とは思えないほど、普通の人のようにしかみえなかった。娘も興奮さんも、背広着せたり、ネクタイを締めたりしてがんで、輪の中で、浴け込んでお酒を飲んだり、食べたり、おしゃべりしている姿は本当に普通の人だった。すごく元気になって、笑ったり話している姿に、驚き、高齢者にとって、大事な行事だったと改めて認識した。</p>	<p>高齢者が希望している伝承行事(みやくつツ)に、訪問看護師、ヘルパー、ケアマネの私で抱きかかえるようして参加を支援した</p>	<p>高齢者が毎年参加している伝承行事(みややくつツ)の参加を続けさせたい</p>	<p>伝承行事に訪問看護師に誘われ高齢者の参加支援をしたとき、高齢者が島のみんなの中に溶け込み、元気になって普通の人のようにみえたことに驚き伝承行事の大事さを認識した</p>
2 在宅	<p>元気な頃は、孫の学校行事には全て参加していた。高齢者が大腿骨頸部骨折で入院し、退院直後に孫のバレーボール大会があり、もうあきらめているからいいさと、何か敬しそうな表情をしていた。娘から、行こう、行こうと誘われたが、いけるわけがないと断っていた。体に合う椅子を私が準備するので、行けると思おうと、バレーボールの応援への参加を促した。しづんでいたため、家族も説得をしたが、応じなかった。家族は、本人としては、座れるものが確保でき、連れて行ってあげたら、たぶん行きたいと思うと話し、息子からの説得が、効果的であるということを話し合った。息子と話し合いの機会をもち、私は椅子の確保をして、バレーボール大会に参加した。その時に、私は、心身機能も低下しているし、最期の機会になるかもしれないと思っただし、強く説得した。その孫の試合が、功を奏したのが、(きつかけになったのか)、ポーダブル便器への移乗やリハビリに意欲的になり、復活した。</p> <p>私は、来年は死ぬかも知れないし、最期だから、連れてあげたいと思った。意欲があれば何かできることを学んだ。私が無理と限界をつくったら、この人復活しなかったのかもしれない。まわりからみて、無理と思っても、本人がやる気になったらできる。だから、本人が希望することはなんでもやってみようかと思っただし、</p>	<p>地域行事(孫のバレーボール大会)への参加を促していたが、最期になるかもしれないと思ひ、本人の強い説得、家族調整と会場の安楽な姿勢の確保を支援した</p>	<p>元気な頃にしてきたことで最期の思い出をつくりたい</p>	<p>地域行事(孫の運動会)への参加支援を促し参加したらその後のリハビリ意欲が向上し、高齢者は、「意欲があれば何でもできる」ことを学んだ</p> <p>地域行事への参加は、私のケアの限界を越え、人を復活させる力があることを学んだ</p> <p>地域行事参加による高齢者の変化をみて、専門職が無理と思っても本人のやる気次第でできることを知ったので、本人の希望は何でも叶えたいと思った</p>
3 在宅	<p>伝承行事(十六日祭)でのお墓参りは、家族にとっては、邪魔扱いされても、本人は、絶対に行きたいと思う。ただ、移動、車いすの状態では、家族が移動に困ると思うので、高齢者がお墓参りにいけるように、介護タクシーを使うと、家族の負担が軽減することを家族に説明し、介護タクシーでの外出をすすめている。</p> <p>多くの家族は、介護負担がからないのであれば、一緒に参加したいといく。</p>	<p>高齢者が、伝承行事(墓参り)に参加できるように家族の介護負担の軽減(介護タクシーの活用)を図っている</p>	<p>家族の介護負担を軽減し、高齢者に墓参りに参加させたい</p>	<p>伝承行事に参加したい要介護高齢者の希望を実現するには、家族の介護力に委ねるだけでなく、柔軟に地域の人的・物的サービスを整えることで高齢者と家族の折り合いがつけられる</p>



4	在宅	<p>伝統行事(十六日祭)は、高齢者達が、すごく大事な、大事な行事であると、しよっちゅう話している。だから、県外出身の私も、大事だろと意識している。だから、早めに家族に電話して、高齢者が、十六日祭に家族と一緒に参加できるように支援している。十六日祭は、家族でやる行事だと思ってるので、高齢者も行かせたいなという思いがある。本人が、「行かなくてもいいよ、行かないよ」と、言っても素直だから、本当はいきたいんじゃないかと察することができる。そのため、家族に電話して、高齢者本人は「行かなくてもいいよ」と話しているが、今回、どうしますか？」と家族に聞くようにしている。「連れて行くよ」という家族もいれば、連れていかない家族もいる。連れて行かない家族に対しては、「本人は口では行かないと言っているけど、行きたいみたくて、伝えていた。私の関わりで、連れて行く人もいる。お墓参りに行けなかった高齢者は、本当は行きたくったという気持ちが見え隠れするので、来年は、行かしてあげたいと思う。」</p>	<p>伝統行事(十六日)には、高齢者が参加できるように、前もって家族と調整している</p>	<p>伝統行事(十六日)に参加したい高齢者の思いを代弁してでも叶えたい</p>	<p>高齢者は伝統行事のことをよく話題にするので、県外出身の私も大事なことと意識している 伝統行事に参加できなかつた高齢者は参加しなかつた気持ちが見え隠れするので、来年は参加させたいと思う</p>
5	在宅	<p>老夫婦の認知症高齢者が、ゴミ屋敷になつていて、近所の人から、通報があつた。ヘルパーや保健師やその夫、ヘルパー事業所の仲間達が8人集まり、近所の人や親戚も加わり、みんなで大掃除した。老夫婦の生活は、もう限界だろうと思ひ、施設入所を娘と一緒に進めた。しかし、経済的理由で、要介護状態で、二人で今の生活を継続することになった。認知症で、地域を歩き回っても地域の人々や施設のボランティアが県守り、道に迷つても見つけて自宅まで届けてくれる。地域では、いつもぐるぐる同じところを回っているおじいとおばあさんがいると、地域の人々は知っている。今日は違うところにいるねと、氣遣つてくれる。 自分の家で、地域の人の見守られながら、住み続けているので、施設に入らなくて良かったと思える。</p>	<p>認知症の老夫婦が地域の人々に支えられながら暮らしの継続を支援している</p>	<p>経済的理由で施設入所のできない認知症の老夫婦を地域の人の見守りを受け地域で住み続けさせたい</p>	<p>施設入所ができない認知症の老夫婦が地域に暮らし続けたいが、地域の人々の見守られ自分の家で住み続けているので施設に入れなくて良かったと思う</p>



施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
訪問看護 1	<p>昼夜逆転や暴言があるなど認知症症状がある高齢者を介護している嫁が大変な思いをしながらか介護をしていることを私は知っていた。嫁は10年間、つかさ(地域から選ばれ仕事を司る役割)をしている。役割を終える区切りとして儀式(卒業式)があり、嫁はその卒業式に出席したいが、姑の介護があるためあきらめていた。</p> <p>私は、嫁をつかさの卒業式に出席させたいと思い、「あきらめないで、お祝いごとだから、やりましよう」と支持した。卒業式に出席することでみんなに祝ってもらえる体験を嫁さんにしてほしいと考え、要介護高齢者がショートステイを利用できるよう調整した。要介護高齢者の娘(義理の妹にあたる)にも状況を説明し、協力を得た。私は、その地域の出身であり、その儀式に対する地域のおおぼあ思い入れは、「絶対的なものがある」ということを感じていた。同じ地域で祖父母に育てられた私は、それは絶対的だと感じた。だがこの時期、姑はターミナル期であり、ショートステイ利用中に亡くなる可能性があったが、その高齢者のケア環境を変えてでも、優先すべきことと感じていた。要介護者には「頑張ってきてね」と声をかけ、卒業式終了後、自宅に戻ったときは嫁が卒業式に参加できたことに対し、私は要介護高齢者に「あなた(おばあ)が頑張ったから、お嫁さんもお祝いできたよ」と感謝した。おばあも「ああ、よかったさ。」と喜んでいた。そのあとも、嫁は姑に感謝の気持ちを持ち、「最期まで看るからね。」と実際に自宅で看取った。</p>	<p>伝統行事の儀式(行事の祈り役)の締めくくりへの参加を介護のためにあきらめかけている嫁介護者に、娘の了解も得て、要介護高齢者のショートステイ利用を支援した</p> <p>嫁介護者を、伝統行事の締めくくりに参加させてくれた要介護高齢者に「ありがとう」と感謝した</p>	<p>伝統行事の儀式(行事の祈り役)の締めくくりへの参加は重要なことであり、それを希望する介護者の思いを要介護高齢者の介護より優先させたい</p>	<p>同じ地域で育った私は、神行事の締めくくりに参加することは「絶対的」と思ったので、家族介護者(嫁)に神行事を優先させるケアをしたら、家族から感謝された</p> <p>同じ地域で育った私は、神行事の締めくくりに参加することは「絶対的」と思ったので、家族介護者(嫁)に神行事を優先させるケアをしたら、高齢者から感謝された</p> <p>高齢者の介護より神行事を優先させた家族介護者は、高齢者が神行事に協力してくれたことを感謝し、高齢者を「(自宅で)最後まで看るから」と私と約束し、自宅で看取った</p>
訪問看護 2	<p>親兄弟や親戚に迷惑をかけた生保の一人暮らし男性高齢者が、車で移動しなければならぬ本家にお供え物をもって仏壇に線香をあげたいと希望している事例があった。生保なので、仏壇行事のために、お供え物にお金をかけるのはどうかということ、生保のワーカーから注意を受けて、禁止していた。それから、本人も気になりだして、統合失調症もあり、幻聴などの症状が現れ始めていたので、ケアマネジャーとして調整に入った。そこで、本人の小遣いと考えて本人の希望のものを購入することでどうかと提案した。その背景として、不義理で迷惑をかけた自分だけ、仏壇にお供え物をしたいだらうし、その仏壇がある地域に戻りたい希望が強いだろうと感じたので実践した。権利擁護が入っていたので、ヘルパーへの訴えがあり、ごだわりが強くなって、介護者が困っていた。そのため、生保のワーカーと調整に入り、本人の意向を把握した。必要性を感じた理由は、「先祖崇拝の文化があるじゃないですか。私自身もおじいとおばあに育てられていますから、もうとうや(本家)にお線香あげたいと思う気持ちがあるんですね。」</p> <p>対象者の嫁は、統合失調症の病気の特徴で感情の表現をうまくすることはないが、ごだわりがとれ、妄想や幻聴がなくなっていた。「もう手を合わせてきたので安心した」と語ったので、「お父さんもお母さんも喜んでくれるはずよ。よかったね」と返した。私は、段取りが成功してうれしかったし、今回の面接で私の無意識の文化に気づけてよかったと思った。</p>	<p>生活保護の高齢者が、供え物の購入を禁止され幻聴が出るほど思い詰めていたので、生活保護ワーカーと相談し希望をかえた</p>	<p>本家に伝統行事にお供え物を持参し線香を挙げたい気持ちに共有できるので生活保護世帯であってもできるようにしたい</p>	<p>生活保護費を工面して仏壇にお供え物をした後は、「もう手を合わせてきたので安心した」と語り、妄想や幻聴がなくなっていた</p> <p>私は、生保ワーカーと調整して、高齢者がごだわっている仏壇にお供え物をする行為の段取りが成功してうれしかった</p> <p>無意識のなかで、先祖崇拝の文化を大事な事とし、ケアしていることに気づいたので、仏壇を大事にしていることを認めたい</p>

3	<p>訪問看護</p> <p>この人どんな暮らしをしているのか、どんなことを大事にしているのかを考えながら基本情報を聞き取りながら、イメージできないいろいろな質問して、本人の若い時の感想を聞き取りながら、なんとか知り、暮らしや生活文化を理解する努力をしている。話を聞き取りながら、本人だけでなく、家族が「にがいに(お祈り)」などの伝統行事を大事にしているのか、そのための習慣があるのかを気にして把握している。特に、「にがいに」を大事にしている地域の人には、ADLの状態や介護の状況から、「にがいに」が実践できているのかを予測し、ケアの必要性を聞きかけ、訪問の方法工夫している。</p> <p>在宅で介護を続けながらの生活になるので、本人だけでなく、家族もこれまでの伝統行事が続けられるかどうかを意識し、当たり前の活動が続けられるのかを確認すること、必要なケアを把握している。地域の暮らしのなかで、これまでやってきたことを継続することは当たり前のことだと考えている。それは相手が訴えてくることもあるが、伝統行事は地元の人間として把握している。訪問先では、そのことを話題にして、二ノズが表出させられるように働きかけている。</p>	<p>伝統行事での祈りの習慣や重要性を把握し、高齢者の心身の状況と照らし、やってきたことが継続できるように必要なケアを組み合わせている</p>	<p>伝統行事の祈りの価値は個別性があるもので、その状況を把握し、必要であれば当たり前の活動が継続してできるように支援したい</p>	<p>高齢者の暮らしや伝統行事での祈りの習慣を把握し、伝統行事で当たり前の活動が続けられようケアをしているが、これまでやってきたことを継続するのは当たり前のことだと考えている</p>
4	<p>訪問看護</p> <p>サニツ(旧暦の3月3日)になると、デイサービスの利用者が、海に行けない仲間(高齢者)のためにペットボトルに塩水を汲んできて、一緒に手を洗うことをしていた。旧暦の3月3日に自分の祖母が海に行き海水で手を洗っていることを私は知っていて、それを思い出したので、海に行ける高齢者はスタッフと一緒に海に連れていくことにしている。中には海に行けない人がいるので、その人たちのためにペットボトルに海水を汲んで、その人たちが海水で手を洗えるようにしている。これは、祖母がやっていったし、利用者である高齢者もやっていたので、やるべきことだと感じて、やっていた。</p> <p>高齢者がやっていたから、私は手伝う。当たり前だから、高齢者には必要なことだと考えて、当たり前にする。</p> <p>面接を通してその行為の意味を学んでよかった。次の旧暦の3月3日(サニツ)は、違(かかわりになる)と思う。</p>	<p>伝統行事(浜下り)で海にいけない高齢者が、儀式(手足を海水で洗い清める)ができるように、海水を汲んできて手足が洗えるようにした</p>	<p>祖母が伝統行事(浜下り)には、手足を海水で洗い清めていたので、要介護高齢者でも、当たり前にやるべきことだと思</p>	<p>サニツ(旧3月3日)に海水で手足を清める意味づけができたので、次から高齢者のサニツへの思いを共有できると思う</p>
5	<p>訪問看護</p> <p>旧盆時期には訪問しないように配慮している。島外からの家族、親戚が訪ねてきている場合には邪魔にならないように訪問を控える。そのために、家族や親戚が帰ってきているのかを確認するようにしている。ただ、家族にケアの方針を話すいいタイミングになるので、家族が帰ってきているのを見計らって、旧盆の時に訪問を意図的に組むこともある。</p> <p>伝統行事には、普段会えない島外の家族や親戚が訪ねてくる習慣があることを知っている。なので、家族とのつながりをケアに活用できるかを個別に考える。</p> <p>高齢者の伝統行事への参加支援は、自分がケアをしていくときに必要なこと、自分にとって必要なことと想っている</p>	<p>伝統行事には島外からの関係者の訪問があるか否かを前もって把握し、訪問計画を立てている</p>	<p>伝統行事に島外からの関係者が来ることを知っている。訪問を控えるか、意図的に家族に会える機会にするかを個別的に判断する</p>	<p>伝統行事(旧盆)には、島外から家族、親戚が訪ねてくるので、家族とのケアの方針を話すタイミングや家族とのつながりをケアに活用できるように取り組んでいる</p>



5	小規模	伝統行事のときに、施設に残っている人達には、帰れないことで、寂しい思いをさせないように、食事と一緒に過ごすなどの楽しいイベントを企画している。	伝統行事で施設に残っている高齢者には、一緒に食事をつくるなどのイベントを企画している	伝統行事に帰れない高齢者のために施設でイベントを企画し、寂しい思いをさせないようにする	
6	小規模	地域の運動会や催しものなど、できるだけ、農業や漁業に関係のあるものの情報を宮古テレビから仕入れて、行こうと誘い、そこにつれていく。出身地によって、どのような伝統行事があるかは把握するようにしている。高齢者に、地域で「どんなものがあるんですか」と情報をとるようにしている。生活情報も聞くようにしている。それによって、対応の仕方とか、ケアを変えている。方言も交えながら。自分のケアを組み立てるために必要な情報であり、この人々との関係がなくなっていくために意識して聞いている。高齢者の出身地は、地域によって、言葉も違うし、地域の行事も違うので、方言も交えながら、意識的に聞くようにしている	地域の行事を地元テレビなどで情報を入れ、高齢者を誘い一緒に参加する 高齢者から地域の行事の情報を方言を交えながら入手する	地域行事や生活情報をマスコミや高齢者から入手し、個別のケアを組み立てたい	個別のケアを組み立てるためには、マスコミの情報や方言を交えながらの高齢者情報は役に立つ
7	訪問看護	昔やっていた行事は、参加したいんじゃないか、見たいんじゃないかと思っていて、本人たちを楽しませるために、ハーリーのさかんな地域の出身者を誘って連れて行って、本人同士で、昔のことを回想している。会話をしながら、本人たちの気持ちを開放し、昔の話を引き出し、「今やってみようか」と次のケアにつながるケアを、一緒に考える。 楽しませながら、次のケアをつくる事を心がけている。	楽しませながら次のケアを高齢者をつくるために、伝統行事と一緒に参加し、「今やってみようか」と聞き出すようにしている	伝統行事は参加して楽しみたいのではないかと思うので、参加してみたい 伝統行事で、気持ちを解放し昔の話を引き出し、次のケアを一緒に考えたい	伝統行事(ハーリー)を見たいのではないかと、思い、連れ出すと高齢者同士で昔のハーリーのことを回想している 伝統行事(ハーリー)に高齢者を連れ出し、生まれ育った地域で高齢者の気持ちを解放し、昔の話を引き出し、「今やってみようか」と次のケアにつながるようになるように一緒に考える機会になっている
8	訪問看護	私が、方言の言葉を理解しなかったことで、ものすごく泣きたいぐらいに怒鳴られた。でも、何が言いたいかわからなくなって、理解できないままだったので、方言がよくしゃべれて、よく聞ける人に引き継いだ。	方言が理解できなかったので、方言が良く聞けて、よく話せる人に引き継ぎ通訳してもらう	方言を理解できないことで怒鳴られ困ったので方言のわかる人に引き継ぎ、高齢者の言いたいことを知りたい	

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 地域包括支援センター	<p>宮古の人同士では方言で会話をしており、方言のわからない人とはどのようなように共通語で言おうかという緊張感がある。緊張感をほぐしリラックスして会話ができて、関係性が深まるように、意図的に方言で自己紹介をするようにしている。どこの地域の人かということとを意識して、その地域の人に合わせ、過去の職業なども含めて、方言をはじめめから使うかどうかの使い分けをする。方言で語ることで、共通語では話にくいことでも話やすくなり本音がしやすい。例えば、痛みを標準語では表現がしにくい時でも、方言ではともしリアルな痛みの表出、ニーズを把握することができる。</p> <p>方言で話すことで、関係性が近づいて、話している内容が共有できる。高齢者がニーズが訴えやすい関係づくりができる。情のような通じ合っているという感覚をもつことができる。本音が聞けたりの中から聞くことができ、困っていることがきけるから私もうれし。言葉は大事だと思う。</p>	<p>共通語での会話で緊張感を持つこともあるので、地域や過去の職業を聞き、方言での会話を使い分けている</p> <p>共通語では話しにくいことでも、方言での会話は本音が出やすいので、こちらから方言で話しかけるようにしている</p>	<p>方言での会話は、緊張感をなくし関係性が深まる</p> <p>方言での会話は、緊張感をなくし関係性が深まる</p> <p>方言での会話は、緊張感をなくし関係性が深まる</p>	<p>高齢者の生活歴などに配慮しながら方言で語るようにしているが、共通語では語りにくいことでも方言では緊張感がほぐれリラックスして話しやすいと思う</p> <p>方言での会話は、会話の内容が共有でき、高齢者がニーズを訴えやすい関係づくりができ、人として通じ合う感覚を持つ</p> <p>方言での会話は、緊張感をなくし関係性が深まる</p>
2 小規模多機能型居宅介護	<p>帰宅願望があり徘徊する高齢者は、私と同じ集落に住んでいることを知っていた。ケアを提供している場所から家までの道中がわかり、安全であることを知っている。でも、「私も一緒に帰ろう」と言って徘徊に付き合う。出来るだけ落ち着かせるために集落の話や、昔のことなど本人が関心を寄せられそうな過去の話題を方言で話しながら一緒に徘徊する。帰宅時間になるとそそわわし、表情は険しくなり外に出たがる。その表情をみて、先取りしている。高齢者の反応は、だんだんおだやかになってきて安心したような表情がでてくるので、一緒に休みながら歩き続ける。</p> <p>高齢者は、家に帰りたいというところを把握しているので、徘徊を一緒にすること、落ちついてきたり、安心して安定してくるのでよいのではないかと。</p>	<p>帰宅願望のある徘徊する高齢者でも、方言で関心を寄せそうな過去の話をしながら一緒に馴染みの地域を歩く</p>	<p>馴染みの地域を一緒に徘徊しながら、方言で過去の話をすることで高齢者は安心して落ち着く</p>	<p>家に帰りたい思いを把握して先取りして一緒に帰ろうと誘い地域の話や過去の話題を方言で話すと、認知症高齢者は落ち着いてと安心したような表情が出てくるので良いと思う</p>
3 小規模多機能型居宅介護	<p>レクリエーションの時に、出来るだけ地域の踊り(クイチャーやモーターやなど)のメニューをだして、自分から踊る。高齢者を一緒にさそって踊る。高齢者は、クイチャーやモーターを踊ることは楽しいだろうと思う。高齢者の反応は、一緒に楽しむテンションが上がる。自分も「上手」と褒められるのでうれしい。</p> <p>これまで長く県外で看護師をしていたが、このようなケアが共有できるのは、この地域でなければできないことだと思う。自分のありのままをだしてそのケアをすることは、東京などでできない。自分の生まれ育った地域でないといけないことだと思う。</p>	<p>昔からの踊りを踊ることは楽しいだろうと思うので一緒に踊って楽しませたい</p> <p>自分の生まれ育った地域であり、自分(看護師)のありのままを出してケアしたい</p>	<p>看護師が、高齢者を誘って地域の踊りをすると、高齢者は一緒に楽しみテンションが上がる</p> <p>地域の踊りを一緒に踊って楽しむのは、都会ではできず、自分の生まれ育った地域からできると思う</p> <p>高齢者の地域の踊りを一緒に踊ると高齢者から「上手」と褒められ私もうれしい</p>	<p>看護師が、高齢者を誘って地域の踊りをすると、高齢者は一緒に楽しみテンションが上がる</p> <p>地域の踊りを一緒に踊って楽しむのは、都会ではできず、自分の生まれ育った地域からできると思う</p> <p>高齢者の地域の踊りを一緒に踊ると高齢者から「上手」と褒められ私もうれしい</p>

4	小規模多機能住宅介護	<p>高齢者たちが昔に体験をしたと思われ地域行事(運動会)のこと話にする。高齢者同士でだんだん思い出して、「誰が速かった」、「応援がすごかった」など会話が盛り上がる。</p> <p>地域で高齢者たちが若かったときに、どのような地域行事や伝統行事があったのかを知っているため、その話題を積極的にする。高齢者はそれを受けて盛り上がり話題が弾む。回想法の効果は得られるのではないかと予測する。</p> <p>高齢者の反応は、認知症でも、その瞬間を思い出してキラキラし、盛り上がり話題が弾むので、意味があったと確認できる。自分がその場について、関わりができています。地元に戻ってきてよかったと思う。</p>	<p>高齢者の地域での地域行事や伝統行事を知っているの、昔体験したと思われ行事について話題にする</p>	<p>伝統行事や地域行事を話題にして回想法の効果を狙う</p>	<p>生まれ育った地域で高齢者と関わりができたので、「地元に戻ってきて良かった」と思う</p> <p>同じ地域で育ったので地域行事や伝統行事を知っていて、その話題を積極的にケアに取り入れると、高齢者は盛り上がり話題が弾むので回想法の効果は得られると思う</p> <p>高齢者は地域の行事のことを話題にする、その瞬間を思い出しさらに話せるので意味があると確信できる</p>
5	小規模多機能住宅介護	<p>十六日やお盆、正月の大事な伝統行事の時は、家族が接客を理由にサービス利用を希望するが、お客さんは仏壇だけでなく、その高齢者(おはあちゃん)にも会いにくるといふ、高齢者が家にいる必要があることを家族に上司と説得し、高齢者を自宅で過ごせるようにしている。</p> <p>高齢者は伝統行事が近づくときとそわそわする。当たり前前にみんなを帰りたいと思っている。高齢者は伝統行事は長い経験のなかで、体内時計のように体に刷り込まれているので、一緒に時を過ごさせたい。家族がそわそわして伝統行事ができるようにすることは当たり前ので、段取りをしいた。</p>	<p>伝統行事には、高齢者が家で家族と過ごせるよう、上司と一緒に家族を説得する</p>	<p>伝統行事の来客は仏壇への拝みだけでなく、高齢者にも会いに来るので、高齢者を来客者に会わせたい</p>	<p>伝統行事には多くのお客さんが来るので高齢者には家で過ごせるよう調整するが、それは当たり前前のケアを思う</p>
6	小規模多機能住宅介護	<p>できるだけ伝統行事の時には家族と過ごせるよう調整する努力をするが、家族との折り合いがつかず施設に残っている高齢者へは、伝統行事にあわせた料理を作った。伝統行事の日には、特別な料理を食べたいと思っていると思うので、できることをやってあげたいと思う。高齢者の反応はさらさらうれしそうな表情をする。</p>	<p>家族との折り合いがつかず施設に残る高齢者には伝統行事食をつくって一緒に食べる</p>	<p>伝統行事の日は特別な料理を食べたいと思っていることを察する</p>	<p>伝統行事に自宅で過ごせない高齢者には伝統行事にちなんだ特別の料理をだすと高齢者はうれしそうな表情をみせる</p>



施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
<p>1</p> <p>小規模</p>	<p>一人暮らし高齢者の伝統行事の準備を島外にいる姪と調整し、役割分担している。買い物して線香をつけるまではやるが、車いすの高齢者には「線香が消えるまで、あんだ、ここに居りなさい」といって、今、できる役割を見つけている。伝統行事の当日には、姪と時間調整をして、一人暮らし高齢者が仏壇行事ができるように調整しているが、姪と調整ができないときは、翌朝自分がやるからと声掛けしている。姪は、世話になっている人を通して、電話でいつも調整するときはありがとうと書かれている。本人から島の人を遠ざけて、病氣もあり、拒否的な個性が災いしているが、自分は島のヘルパーとして、どんな人でも、人の話を聞こうと心がけている。</p> <p>一人暮らしで島内に頼る人がいないときは、ヘルパーの業務に関係なく訪問して行事の手伝いをしている。伝統行事に困らないように手伝うこととしている。ヘルパーの業務中には、できるだけ伝統行事の必要な一人暮らし高齢者を担当するように自分から申し出て、ヘルパー業務のついでに伝統行事の準備もしている。ヘルパー利用の高齢者に対しては、身内と思ひ、親と思ひ、伝統行事で困っていると相談してくるので、親にするように、業務の有無に関係なく、伝統行事ができるように手伝っている。高齢者が伝統行事ができるように、促し、声掛けしているけど、行事に合わせて時間きたら自分が変わってやることもある。高齢者が、伝統行事に必要な手伝いを自分から申し出て、自分に対して具体的に指示をしている。高齢者は喜んでいて、あたりまえに思っているところもある。</p> <p>島の高齢者は、自分自身と特に関係がなくとも、島の人はみんなつながっているし、頼りにされたら、つい、家族のように思えてボランティアでももやってみよう。</p>	<p>伝統行事の手伝いが必要な要介護高齢者を把握している。行事があるときは自分から申し出て、ヘルパー業務しながら行事の手伝いをする</p> <p>伝統行事の時に、ヘルパー業務がないときは、ボランティアで訪問し、行事を手伝う</p> <p>ひとり暮らし要介護高齢者には、伝統行事ができるように、島外の家族と買い物や準備の取扱いなど連絡を取り合い手伝う</p> <p>伝統行事の準備で線香を供えるのを手伝った後、要介護高齢者に線香が消えるまで見守るように声をかける</p>	<p>伝統行事を手伝う時は、要介護高齢者が出来る役割を見つけ、参加できるようにしている</p> <p>島のヘルパーとして、どんな人の話も聞いて、誰も伝統行事に困らないようにしてあげたい</p> <p>ヘルパーとして担当している高齢者は、日頃から、伝統行事で困っていることを相談してくるので、身内のように頼られていると感じるので、ヘルパー業務度外視で、自分の親にするように手伝いたい</p> <p>島の高齢者は、皆繋がっていると感じていて、誰でも行事が出来るようにしてあげたい</p> <p>元氣なところから知っているため、病氣をしたせいで関係者が遠ざかっていると感じる愛しさを感じ、関わりたい</p>	<p>島のヘルパーとして同じことを何度も繰り返すような高齢者にも話を聞くよう心がけて、誰にも伝統行事に頼りにされているのをうれしい</p> <p>島の人はみんなつながっているのを頼りにされたら仕事を度外視して手伝いたい</p> <p>親のように、身内のように一人暮らし要介護高齢者でも伝統行事ができるように、業務に関係なく手伝うのは当たり前と思う</p>
<p>2</p> <p>小規模</p>	<p>一人暮らしの高齢者が、入院したときに見舞いに行ったら友人たちに見舞いに来ないと言っていたと耳にしたので、こんなに頼りにされているのかと思ひ、仕事の合間に病院に見舞いに行く。高齢者の関係者が見舞いに行ったら、「ヘルパーが見舞いに来ないと言っていた」と人づてに聞かされて、自分に会いたくないと思った。見舞いに行くと「自分は死んだ方がいいと弱音を吐いて、泣き出したりするので、「私のお母さんと思っっているから・・・」と伝え、二人で泣いた。</p>	<p>担当している高齢者が入院中に会いたが、知っているのと知り、業務ではないが仕事の合間に病院に見舞った</p> <p>病院に見舞いにいくと「自分は死んだほうがいい」と話すので、「私のお母さんのように大切にしてください、そんなことを言わないで」と伝え、2人で抱き合って泣いた</p>	<p>訪問を担当している要介護高齢者が、入院中に私が見舞いに来ないと嘆息していることを知り、頼りにされると気づいたので、期待に応えたい</p>	<p>入院中のひとり暮らし高齢者が「ヘルパー（私）が見舞いに来ない」と泣いている話を聞き、頼りにされていることを実感した</p> <p>ひとり暮らし高齢者の期待に応えることは、「家族のように思われている」と思える</p>

3	小規模	<p>8年前から、自分の高齢の親が好きなおいもを、日曜日ごとにたくさん購入し料理を作り、一人暮らしの高齢者に配布している。高齢者に「お芋たべろ？」と高齢者に聞いて、「食べさせようと思ったようにしている。高齢者にも食べやすいと思い、食べやすい料理をして、行き差し入れる。自分の親の分を作るついでに一人暮らしの高齢者の分もつくる。ヘルパーをしてきて、これまで亡くなった人にも、四十九日まで死んだ人のところには、自分のケアの区切りとして供えてほしいと思うので、食べないけど、「これを供えてちょうだい」と持っている。</p> <p>高齢者の中にはありがたく思っていて、「自分はお芋の差し入れで、命をもっている(つないでいる)」と語る人もいて、喜んで、楽しんで思ってくれる人もいて、良いこと継続していると、ありがたう、ありがたうと言われるので、励みになっているし、断らない人は好きだらうと思いついて、続けている。中には、いろいろな、あまり好きじゃない人もいて、自分はお芋を高齢者に配りながら、母親から学べなかった伝統行事のやり方を島の高齢者たちに教えてほしいとお願いで、学んでいる。家庭によって、高齢者のやり方は違って、自分なりの家庭のやり方を見つけているために、たくさん高齢者から習っている。</p>	<p>自分の親が好きなお芋料理を、毎週日曜日にたくさん調理し、島の一人暮らし高齢者へ配布している</p> <p>芋料理を配りながら、伝統行事のやり方を教えてほしいと、一人暮らし高齢者へお願している</p> <p>一人暮らしの高齢者には、芋料理の好みを聞いて、好きな人に届けている</p> <p>長年芋料理を届けた高齢者が亡くなった時には、四十九日まで家族のように芋料理を届け、供養している</p>	<p>毎週母親のために調理している芋料理を、他の高齢者にも食べさせたい</p> <p>伝統行事のやり方は家庭ごとに違うので、島の高齢者から習って自分なりのやり方を見つけた</p> <p>島の高齢者らに芋料理を配ることで、ありがたうと言われるので、自分自身の励みにした</p> <p>長年関わった高齢者がなくなった時には、四十九日まで芋料理を供えることで、自分のケアの区切りにする</p>	<p>差し入れ(私の母が好きだった芋)をしながら島の伝統行事を高齢者から教えてもらい、学び続けている</p> <p>生前に関わった高齢者が死んだ後も49日まで供え物をし、ヘルパーの仕事に区切りをつけ満足する</p> <p>高齢者に差し入れ(私の母が好きだった芋)をすることで喜んでくれるので、それを励みにヘルパー業務が継続できる</p>
4	小規模	<p>方言での会話は親しみが湧くので、方言で会話をするようにしている。高齢者との方言での会話では、敬う言葉や、伝統行事のことを話題にしている。自分は、方言や伝統行事のことをもと知りたいたいと高齢者に伝えている。にかい(折りの言葉や縁香を立て方などを習っている。今でも習いながらやっている。要介護高齢者であっても、昔の伝統行事については鮮明に覚えて、話されているので、今、認知症を抱えている要介護状態の高齢者に、行事のことを教えてと伝え、教えてもらっている。</p> <p>車いすで、認知症があるから、いろいろなことが分らないが、にがいのやり方を話しているときには、誇らしげに見える。だから、伝統行事で役割を果たせなくても、反応がわからなくても、伝統行事に参加させたいと思うし、伝統行事にいてもいいと思う。ある、場の共有だけでもいいと思える。楽しいとか嬉しいと感じていると思う。</p>	<p>高齢者との方言を使う</p> <p>方言で会話をしながら、敬う言葉や伝統行事の折りの言葉を、要介護高齢者から習う</p> <p>認知症高齢者であっても、伝統行事のことをよく覚えていて、話題にして話せるようにしている</p> <p>伝統行事で役割を果たせない高齢者でも、できるだけ行事に参加してもら</p>	<p>高齢者との方言での会話は親しみが湧くと思う</p> <p>高齢者から方言を習いたい</p> <p>要介護高齢者は、伝統行事のことを語る時は誇らしげなので、伝統行事のことを語らせてみたい</p> <p>伝統行事の場は楽しさやうれしさを感じると思うので、場を共有することは意味があると思う</p>	<p>伝統行事の話をするときの表情から、高齢者が楽しい、うれしいを感じていると思う</p> <p>方言や伝統行事のことを高齢者から習うようにしているが認知症高齢者でも昔のことは良く覚えていて教えてくれる</p> <p>認知症であっても伝統行事の話は誇らしげに語ってくれるので、伝統行事に参加を促すケアの必要性を支持してくれるので続けられる</p>
5	小規模	<p>行事(運動会、ハッピー)には、高齢者を参加させようとしている。ヘルパーとしてできるだけ、要介護高齢者を、島の人が集まる行事に連れ出すようにしている。家族は、(要介護状態で)かわいそうだから、見せたくないという人もいて、認知症があって、会話ができなくなる人もいて、島の人の見せたくないという家族の気持ちもわかるけど、年を取るのほみんな同じで、年を取るといことは、そういうことだと思ってるので、高齢者は参加させている。</p> <p>地域の人は、近づいてきて、「元氣か」と声掛けしてくれる人もいて、「あんな姿になつてかわいそうに」とか、「みっともない、連れまわさなければいいの」と陰口をたたく人もいて、でも、外に連れ出すと高齢者がよい表情で喜んでくれるので、高齢者は地域の人が集まる地域行に参加したほうがいいと思っている。家族や地域の人は、「みっともない、やめてくれ」という人はいないけど、この島の人は建前ではやいやいやの言いが、本音は、一つの家だから、要介護高齢者が参加することを拒んではいけない。要介護高齢者のうれしいという反応が島の人も伝わって、受け入れられている。</p>	<p>要介護高齢者は、島の人が集まる伝統行事や地域行事に連れだし、参加してもら</p>	<p>年を取ることによって身体が変化し、できないことが増えることを島のの人にわかしてもらいたい</p> <p>要介護状態でも、島のひとふれあう機会をつくりたい</p> <p>要介護状態であることを、みっともないという島の人にも、島の大きな家族の一員として、認めしてほしい</p>	<p>住民は高齢者に近づいてきて「元氣？」と声かけてくれ、高齢者も良い表情をするので、地域の人の集まる伝統行事に参加した方が良いと思う</p> <p>伝統行事に参加させることを嫌がる家族や地域の人もいて、本音は一つの家として受け入れ拒んではいけないと思う</p> <p>要介護高齢者のうれしい反応が地域の人には伝わり、地域に受け入れられていると思う</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	<p>子供の頃から、高齢者や家族構成など、よく知っている人が、年をとって一人暮らしになって、仏壇行事があるときには、供え物の買い物など困るなどと思い、買い物の手伝いをしている。</p> <p>頼まれたら当然やるけど、頼まれなくても、やっている。それは、家族がいないので、困るだろうと察して、義務感のようにやっている。</p> <p>昔からやっていることなので、仏壇の行事の準備に、いちいち、高齢者から支持されたり、頼まれなくてもやっている。</p>	<p>行事の準備を手伝う家族がいない一人暮らしの高齢者を把握しているので、買物や行事の準備を手伝っている</p> <p>高齢者が行事を大切にしていること、一人では準備ができないことも知っているので、頼まれなくても手伝っている</p>	<p>一人暮らしの要介護高齢者が、行事をきちんとしたい気持ちがあることを知っているのので、行事ができるよう手伝う義務があると</p> <p>思う</p>	<p>ひとり暮らし高齢者であっても伝統行事ができるように、仕事とは関係なく、伝統行事の買い物など頼まれたときにはやるのは当然だし、頼まれなくても家族のいない高齢者は困るので、買い物などの準備をやるのは義務だと思っ</p>
2 小規模	<p>「行事が近づいているけど、今度はどうするの？」と島外の親戚や子どもや姪や甥に連絡して、行事の準備に供える。加勢(手伝うこと)は、当たり前だと思っっているからやっている。仏壇行事の準備を誰かがしないと困るだろうからやっている。電話をかけて、島外の家族に調整をしたりすると、「ありがとう」と感謝され、島に戻ってくるときには、お土産をもらったりする。子供の頃からなんでもよく知っているの、昔からやっていることなので、義務感でやっている。</p>	<p>行事が近づく、一人暮らしの要介護高齢者には、島外の家族に連絡し、行事の準備について、打ち合わせをしている</p>	<p>一人暮らしの要介護高齢者が、家で行事ができるよう手伝うことは当たり前前のごと</p> <p>思う</p> <p>一人暮らし高齢者の家族関係や行事の準備の仕方など、子供頃頃から何でも知っ</p> <p>ているので、島外家族へ連絡をすることも、行事の準備をすることも当たり前前である</p>	<p>高齢者が伝統行事ができるように島外の家族と調整し手伝うと、島外の家族から「ありがとう」とお礼を言われたり、お土産をもらったりする</p> <p>伝統行事の手伝いは、昔からやっていることなので、義務感でやっている</p>
3 小規模	<p>この地域は昔から、盛大だったハリー(伝統行事)には、なるべく連れ出すようにしている。傍にいて、ハリーのことを話題にしている。利用者は、ハリーの会場で久しびりに会う知人に挨拶したりする。認知機能が低下して、昔からの馴染みの知り合いに気がないことがあるので、「どこそこのだれだれだよ」と出会う人たちの関係を伝えていく。人によっては、要介護状態になった無様な姿は、みじめだから、人前に連れ出てくるといふ人もいるが、連れていった方がいい。本人は、行きたいかもしれないと前向きに考えている。</p> <p>行きたいといわなくても、連れ出せば、なんか嬉しそうな表情をする。久しぶりに人をいっばい見て、家にいたら、ほとんども、誰にも出会うことなく、家に来る人もいないが、ハリーで、みんなに会えるから行った方がいいと思う。</p>	<p>要介護状態になっても、島の人が集まる伝統行事(ハリー)に連れ出している</p> <p>認知症のために、伝統行事(ハリー)のことが理解できなくなっている人には、傍でハリーのことを話題にする</p> <p>島の人が挨拶しても、認知症で理解できない人には、その人との人間関係に合わせながら、思い出せるよう話題を提供し、伝え</p> <p>ている</p>	<p>本人が表現しなくても、島の伝統行事(ハリー)に参加してきたことを知っているの、その気持ちに添えたい</p> <p>要介護高齢者は、毎年恒例の伝統行事(ハリー)に連れ出すと、うれしそうなのでハリーに連れ出した</p> <p>い</p> <p>伝統行事(ハリー)は、島の人がたくさん集まるので、島の人の交流の機会にした</p>	<p>伝統行事に行きたいと言わなくても連れ出すとうれしそうな表情をする</p> <p>伝統行事に参加すると、久しぶりに地域の人にいっばい会えるので、いいと思う</p>
4 小規模	<p>方言は昔から使っていることばで、肩肘はらず、きさくに話ができ、冗談や言いたいことが言えるので、利用者とは、できるだけ、方言で話すようにしている。刺激になるだろうと思ひ、無表情で「ほーっ」と手持無沙汰のときには、わざと方言で怒らせるような会話を</p> <p>する。身内のように、聞かるといふことか？</p> <p>怒ったり、笑ったりしても、5分もすれば、すぐに忘れられるので、それでいいと思う。</p>	<p>方言での高齢者との会話は冗談や言いたいことが言えるので、方言で話している</p> <p>認知機能が低下し、周囲に関心が持てない高齢者は、方言で怒ったり、笑ったりできるように会話をしている</p>	<p>認知症のためにすぐ忘れられることも、感情を表出しやすい方言で声掛け、刺激している</p>	<p>無表情のときには刺激になれればと思ひ、わざと方言で怒らせる会話をすると、表情がでるぶん良かったと思える</p>

地域文化ケアの実施

ID 30

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	<p>サービス事業所の利用者で親戚の一人ぐらし高齢者の仏壇行事(旧盆、みゃーくづつ、旧正月など)供え物の準備をしている。島はみんな、(親戚も)同じ家族のようなもので、自分に対してできなかったことを、親世代の親戚には親に接しているつもりで供え物を作っている。この島は先祖崇拝の島なので、伝統行事には供え物につきものである。仏壇行事に供え物をたくさんすると、いいことがあると思うからやっている。島は、一つの大きな家族みたいなものだから、できない人には代わりやあってあげるのが当たり前だと思う。親戚で障害のある高齢者は、普段ミキサ一食ではあるが、行事の時は、伝統行事の行事食がわかるような工夫をして調理している。自分そうすると、高齢者が嬉しそうにするので、私までうれしくなる。</p>	<p>要介護状態で一人暮らしをしている高齢者には、仏壇行事の準備をし、供え物をつくっている</p> <p>ふだんミキサ一食の高齢者でも、行事の時には、行事食であることがわかるように調理を工夫している</p>	<p>島はみんな家族のようなものだから、親に接するように、一人でできない人には、代わりに手伝うのが当たり前と思う</p> <p>島は先祖崇拝の島なので、伝統行事の供え物をつくることに困っている高齢者を手伝うことで、先祖に守られ、私にもご利益があってほしいと思う</p>	<p>伝統行事食を工夫して調理すると高齢者がうれしそうにするので私もうれしくなる</p> <p>「伝統行事に供え物を供えると(手伝っている私にも)いいことがある」と思っているのでやっている</p> <p>島はみんな同じ家族(親戚)のようなものだから、伝統行事ができない人に代わってやってあげるのは当たり前と思う</p>
2 小規模	<p>毎朝、サービス事業所の利用者で親戚でもある高齢者の家に行くと仏壇にお茶を準備できる。必ず、供えている。車いす状態で一人でできないので、自分が必ず、仏壇のお水とお茶を準備している。そうすると、高齢者は車いすに座って、手を合わせている。高齢者は、要介護状態になるまで、仏壇に手を合わせることはなくて、そんなことはやらなくてもいいと言っていたのに、障害を持つようになってからは、真剣に手を合わせている。自分が、この高齢者宅で、それをやる理由は、心が寂しいんじゃないかと思うから、準備している。</p>	<p>要介護状態で仏壇にお茶を供えることができない高齢者の代わりに、毎朝お茶を供えている</p>	<p>高齢者が、熱心に仏壇に手を合わせる様子から、「困ったときの神頼み」を感じることで、その思いが遂げられるよう手伝いたい</p>	<p>仏壇にお茶を準備すると、真剣に高齢者が手をあわせると寂しい心を感じてくれると思う</p>
3 小規模	<p>ハリーは伝統行事だから、漕げなくても見るだけでもいいと思うので、連れて行っている。そうすると、高齢者は、誰、誰が漕いでいると話してくれる。ハリーに参加させる理由は、高齢者は島の人に実際に会うと「うれい」と言ってくれるから、ハリーに行きたいという人には、声掛けして、確認して、希望する日は連日(3日間連続)連れていくようにしている。</p>	<p>本人が希望すれば、島の伝統行事(ハリー)へ連れ出し、参加させている</p> <p>ハリーに参加したい人はその思いが表出できるよう、ハリーのことを私から話題にする</p>	<p>伝統行事のハリーは、船をこぐことばかりでなく、参加し、島の人とたくさん会えることを喜んでいと思うので、参加を手伝いたい</p>	<p>伝統行事(ハリー)に連れ出すと、高齢者は話が弾み、島の人に会うとうれいと言ってくれる</p>
4 小規模	<p>言葉に出して「自分の量の上から死にたい」と、島から出たくないという人がたくさんいる。それを高齢者は口にする。島の人にはみんな家族のようなものだから、(ケア提供者を)自分の息子や娘のように思っていて、言いやすいのではないかと感じる。そういう人でも、家族によって島外に連れていかれそうな時には、気持ちが悪くなるので、「いくな、お家がいてるから、一生懸命本人の方がいいよね」と、本人が行きたくないという時には代弁する。施設や病院では高齢者本人が、死んでからしか帰ってこられないと不安がって、怖がらないうようにしたり、子どもに少しでも高齢者の意向を表出できるように一緒に伝えながら家族を説得している。高齢者は子どもたちに「言えない、子どもたちもその反応に気がつかないので、サポートしてできる限り希望をかなえたい」。</p> <p>高齢者は、家族を説得している場面を見ると、嬉しそうに表情をしている。島で一生懸命介護している家族を見ると、口が悪くても、親のことを思っていると感じることが出来る。</p>	<p>高齢者の「自分の量の上から死にたい」という思いを代弁すること、家族が高齢者を島外の施設へ入所させる検討をする、島にいたい高齢者の気持ちを代弁する</p> <p>家族が高齢者を島外の施設に入所せよとすると、自分事のように思い、家族を説得する</p>	<p>私が高齢者の島にいたい思いを代弁すること、家族にも自分の気持ちを代弁すること、家族に島にいたい高齢者の気持ちをわかってほしい</p> <p>私が高齢者の島にいたい思いを代弁すること、家族に島にいたい高齢者の気持ちをわかってほしい</p> <p>高齢者の島にいたい思いを代弁すること、高齢者には島にいられたらいいなという希望を持ってほしい</p>	<p>島外施設に入所させようとする家族にヘルパーの私が「やっぱ家がいいよね」と引き止め家族を説得している場面で、高齢者はうれいそうな表情をする</p> <p>高齢者が「自分の家で住み続けたい」と口にするのはケア提供者を自分の子供のようになり、思い、言いやすいからだと感じる</p> <p>島で一生懸命介護している家族は、口が悪くても親のことを思っていると感じる</p>

5	<p>家族を説得はするが、家族にもストレスや介護疲れがあるだろうと感じるので、自分の孫をその家に行かせるようにして、なにか癒されるように配慮している。また、差し入れをしたり、少しでも生活が楽になるように、できることを手助けしている。そうして、介護家族にも頑張ってもらいたいと思う。</p>	<p>高齢者と家族の思いが違う時には、高齢者の島にいたい気持ちに肩入れするだけでなく、家族の介護負担に配慮し、家族を癒すようにしている</p> <p>高齢者と家族の思いが違う時には、家族の介護負担に配慮し、差し入れや生活のためにできることを探し、手伝いをしている</p>	<p>家族のストレスや介護疲れを少しでも理解し、できることは手伝いたい</p> <p>高齢者の思いを遂げるために、介護する家族にも頑張ってもらいたい</p> <p>高齢者を支えながら介護に苦勞する家族の思いを受け止めたい</p>	<p>介護している家族も、「施設に入れたい」と言ったりもするが、島で介護を続けてくれるので、ありがたいと思う</p>
6	<p>子どもたちが学校から、高齢者の施設に「ただいま」と帰ってくることで、高齢者は元気づけられると思う。高齢者は、子どもたちに癒されると思うから、子どもたちが、出入りをするのはありがたい。子どもたちは一緒に帰って、高齢者と話したり、方言の歌を教えたりして、お互いに楽しんでる。</p> <p>子どもと接する表情が明るく、方言の歌を教える時も嬉しそうにしている。子どもたちと一緒に私も参加して、自分も方言の歌をいっしょに学べ、幼少期の記憶もよみがえってうれい。</p>	<p>要介護高齢者が方言の歌を子供たちに教えるときには一緒に参加する</p>	<p>要介護高齢者が子供たちに癒される場を共有して一緒に楽しみたい</p> <p>子供たちと一緒に学ぶと自分の幼少期を思い出しうれい</p>	<p>高齢者と子ども達との交流では、子どもと接する高齢者の表情が明るく、方言の歌を教える時も嬉しそうにしている</p> <p>高齢者と子どもたちとの活動に私も参加して、方言の歌をいっしょに学べ、幼少期の記憶もよみがえってうれい</p>
7	<p>島言葉(方言)は、関係性を柔らかくするという感じがする。笑顔を見せたり、その笑顔に私が元気づけられる時がある。この仕事をやっていてよかったですと思える。かえって自分の方が、高齢者に元気づけられていると思う。認知症で何もわからなくなっても、方言での会話にはわかると思う。</p> <p>認知症があっても、方言で話すと、笑顔が増えると感じている。</p>	<p>方言は人間関係を柔らかくすると感じるの で、高齢者には方言で話している</p>	<p>方言で話すことで、高齢者との関係をよくなりたい</p> <p>方言での会話で高齢者の笑顔を増やし、この仕事を続けるための元気をもらいたい</p> <p>方言での会話で、認知症高齢者の笑顔を増やしたい</p>	<p>認知症があっても方言で話すと笑顔が増えると感じる</p> <p>島言葉での会話は関係性を柔らかくするのに方言での会話で私が高齢者から元気づけられる</p>
8	<p>正月と十六日とお盆の時は、家庭で過ごして伝統行事を楽しめるよう組織が進めている。それは、亡くなった家族もこの世に戻ってきて一緒にご馳走を食べるし、自分も神様と一緒に過ごしたいと思うからいいと思う。その行事の時は、そういう目的で配食サービスはしないのだけど、その日は家族もみんなくつろぐ感じなので、必要な家には食事介助やおむつ交換に入って、家族でくつろげるようにしている。</p>	<p>行事の日は、要介護高齢者が、家で家族、神様と一緒に過ごせるよう、調整する</p>	<p>食事を供える行事では、日頃の配食ではなく伝統行事を楽しんでほしい</p> <p>伝統行事の日は、家で家族、神さまと一緒に過ごしてほしい</p> <p>伝統行事の日は、家で、家族にもくつろいでほしいので必要な介護は手伝いたい</p>	<p>伝統行事には高齢者を含めて家族みんなでくつろいでいる感じがする</p> <p>高齢者は、伝統行事には家族と神様と一緒に過ごしたいと思うから、それができるといいと思う</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	<p>ひとり暮らしの高齢者宅に訪問するときは、高齢者が大切にしている、毎朝お茶を仏壇に供えるという習慣を、出来なくなつた高齢者に変わって、準備する。高齢者を車いすに乗せて、仏壇に近づけて、窓を開けて、高齢者が指示する通りに仏壇のセツチンダを高齢者に聞いて、お花とお茶を準備している。一緒に拝む、一緒にお茶を飲んでいく。その理田は、食事をするときに頂きますというのと同じ、毎日の生活の習慣だから実施している。</p> <p>これは高齢者から依頼されなくても、朝ご飯を食べるように当たり前のこととしてやっていると、高齢者は、穏やかな表情で、いい雰囲気になり、穏やかな表情で「ありがとう、すごい幸せな表情で言ってくれる。</p> <p>ヘルパーとしての仕事かどうかはわからないけど、仏壇の拝の手伝いをしたいと思つてと、やった方が良かったのではないかと、自分自身がいいことをしていると思つているので、いいことあるようにと、自分のことを仏壇にお願いしている。</p> <p>高齢者の仏壇のことを手伝うことで、高齢者からいろいろ教えてもらえるので、とても楽しい。高齢者の仏壇行事と一緒に手伝うことで、話だけではわからないことも実際に見てくれたので、自分自身に身についたので、私はたくさんを教えてもらい、得したと思つた。</p>	<p>毎日仏壇にお茶を供えることができなくなった一人暮らし要介護高齢者を手伝う</p> <p>仏壇に拝む準備をし、高齢者と一緒に拝み、供えたお茶を一緒にいただく</p>	<p>高齢者の毎日の生活習慣を続けられるようにしたい</p> <p>仏壇を拝むのに手伝いが必要とわかつていてなければ、自分が後ろめたいので自分のためにやる</p> <p>高齢者が仏壇に拝む手伝いをすることで、私にいいことがあつてほしい</p> <p>高齢者の仏壇のことを手伝いながら、仏壇のことを高齢者から習いたい</p>	<p>毎朝お茶を仏壇に供え一緒に拝むことで、高齢者は穏やかな表情でいい雰囲気になり「ありがとう」と幸せそうに話す</p> <p>高齢者の仏壇の手伝いをすることで高齢者からいろいろ教えてもらえるので、とても楽しい</p> <p>高齢者の仏壇行事を一緒に手伝うことで、話だけではわからないことも実際に見ると自分自身に身についたので、私はたくさんを教えてもらい、得したと思つた</p> <p>仏壇にお茶を供えて高齢者と拝むと「いいことをしている」と思える</p> <p>高齢者から依頼されなくても毎朝お茶を仏壇に供えるケアは当たり前のことと思つている</p> <p>仏壇にお茶を供えることはヘルパー業務か否かわからないが、やらないと後悔する</p>
2 小規模	<p>十五夜の時は、家のことが忙しくて行けないときは、自分の家で団子をつくって、高齢者宅へ届けている。自分の家の準備が忙しくて、高齢者宅に行けないことは予則している。ふるきやぎ(団子)のお裾分けを高齢者に届けると、高齢者は、仏壇に供えて、拝んで、おいしそうに食べていた。</p>	<p>伝統行事(十五夜)では、仏壇に行事食(団子)を供えることになっているので、自分で団子の準備ができない高齢者の分を自宅につくり、届けている</p>	<p>どんなに忙しくても、伝統行事が高齢者でもできるように手伝いたい</p>	<p>家で作った伝統行事食を高齢者にお裾分けすると、高齢者は仏壇に供えて美味しく食べていた</p>
3 小規模	<p>七夕の朝には、〇〇地域では、玄關の水瓶に水を供える習慣があり、一生懸命、高齢者がぶつぶつと拝んでいる。意味はわからないけど、水をくんでくる理由もわからないけど、自分は手伝っている。理田は、自分の親も、同じ行為をしているから。</p> <p>この仕事は、ヘルパーの仕事とは思っていないが、昔からしてきたことで、今できなくなつていたので、手伝ってあげないと、高齢者が困ると思うから実施している。手伝って欲しいと高齢者は言葉にはしないけど、やりたいたいじゃないかと、その思いをくみ取って、手伝っている。私は大事なことでと思うから、「ありがとう」と言われると、自分がやつた、よかつた、役に立ったと感じる。もし、やらないでいると、この人は出来ないのに、きつたと自分でやろうと思うので、転ぶんじゃないかと危険に思うし、過去に転んでいたことがあった。だから、「次からはもうしないか」と思うので、転ぶんじゃないかと伝えていく。でも、高齢者が自分でやってしまうのではないかと、心配だから、できるだけ早めに言訪問している。</p> <p>「ありがとう」と言われると嬉しい、自分が褒められたいからやっているのかもしれない。嬉しい、本当に嬉しい、とっても嬉しい、自分が褒められるととっても嬉しいでしょう。昔から知っている人だから、何でもやってあげたい。そして、そのことがすぐ嬉しい。行事の支離をするときは、とても嬉しい、本当に嬉しい。</p>	<p>昔からしてきた信仰の習慣として伝統行事(拝み)ができなくなつていて高齢者が、困らないように準備をする</p> <p>伝統行事(拝み)の準備をするために、転倒予防的に早めに準備を手伝う</p>	<p>信仰の習慣である伝統行事(拝み)については、十分理解していないが、親がやっていたことでもあるので、高齢者たちを手伝いたい</p> <p>「伝統行事(拝み)の準備を手伝ってほしい」と訴えても、高齢者がやりたいと思いを察して手伝いたい</p> <p>高齢者が伝統行事(拝み)をするために、危険な行動は避けてほしい</p> <p>高齢者の伝統行事(拝み)への思いを察して準備を手伝うことで、感謝され、褒められたい</p>	<p>伝統行事の手伝いを「ありがとう」と言われると役立って良かった、褒められて嬉しいと思う</p> <p>伝統行事の拝みの手伝いをしているが自分の親も同じことをしているの必要な手伝いと思う</p> <p>伝統行事の拝みの手伝いは、ヘルパーの仕事ではないと思うが、高齢者が昔からやってきたことであり、やりたいと思うので、その思いをくみ取ることは必要なことと思う</p>

4	小規模	高齢者にはできるだけ、方言でしゃべるようにしている。	高齢者には方言で話している	地域行事(運動会)がある時は、ディスプレイで過ごすことが多い高齢者を強く誘って一緒に参加する 島の人が、高齢者に話しかけてくるが、会話がつかないときは、高齢者の思いを代弁している	地域行事(運動会)に参加することで、屋外まで活動範囲を広げ、島内外の人と交流してほしい 高齢者が地域行事(運動会)に参加することで、話題が見つかり、利用者間での会話が弾んでほしい	高齢者を地域行事に誘って連れ出すが、参加後に何人も高齢者で話題が弾み元気になるので良いと思う
5	小規模	高齢者達は朝から晩まで室内での活動をしていますので、運動会のイベントには誘って一緒に参加している。そこでは、めったに買ったことのない島の人や島外からも運動会の時にはシマに帰ってくるので、そのときに一緒に参加して、顔を見たり、話をしたりする。高齢者の所に知り合いが来て、「ご飯いっぱい食べたか」と聞かれ、状況が読み込めない事を察すると、私が、「毎日いっぱい食べているよ」と高齢者の代わりに返事をしている。 運動会に行こうと高齢者に声をかけをし、人がいっぱい来るからと強く誘って連れ出している。皆が来るので、交流の機会になると思う。 事業所に戻る和高齢者のデモンジョンが上がる。運動会であつたできごと、みんなが参加してわかるから、お互いにしゃべりたがって事業所が賑やかになる。何日もその話が弾んで元気になる。	島の人が集まる地域行事や伝統行事を外出の機会とし、景色や外気に触れ、日光浴のために連れ出す	外出の支援はディスプレイでのケアより介護の負担があるが、高齢者たちの表情の変化に期待している	高齢者が地域行事や伝統行事に連れ出すと、ヘルパーとしての体力を消耗するが、高齢者がいつもと違う楽しそうな表情を見せるので、仕事としても楽しい	
6	小規模	ずっと家についてひとり外出できないし、普段はディスプレイ事業所にいて外出もないので、イベントに連れ出したり、浜に連れて行く。太陽の日差しも浴びて、気持ちいいと思う。室内でのケアよりいいけど、仕事としても楽しいし、皆がいつもと違う表情を見せて、楽しんでるのを見ると、楽しいのが上回っている。スタッフも高齢者も楽しいので、イベントや外出は何回もめもめいい。お遊戯会も学校行事も行きたい人は、連れて行くようにしている。	認知機能が低下していても、伝統行事(ハリー)に参加して懐かしい場面に触れると思いつくことを期待している	要介護高齢者を伝統行事(ハリー)に参加させることは介護の負担感があるが、高齢者のために何かいいことをしたい	高齢者が元気なときに活躍していた伝統行事に連れ出すと、何かいいことをしているように感じる	
7	小規模	ハリー(伝統行事)は事業所の目の前で行われるので、認知機能が低下して、ハリーがわかるかどうかかわからない高齢者も、ハリー会場に連れ出して、「ハリーだよ」と声をかけて見せている。 元気な時は、当たり前前にハリーに参加してきた人たちなので、わかるはずと思い、自己満足かも知れないけど、自分が何かいいことしている感じになる。そしてハリーにみんな連れて行って、疲れるけど、終わったらほっとしている感じになる。元気じゃなくても、ハリーに参加できてよかった、無事にハリーを終えることができたと思える。	認知機能が低下していても、高齢者にとつてはやるべきことであり、やらないといけない思いがあると思う	伝統行事(みやーくづつ)への参加は、うれしい気持ちになるので、高齢者と一緒に楽しみたい	高齢者が元気なときに活躍していた伝統行事に連れ出すと、何かいいことをしているように感じる 伝統行事に高齢者を連れ出すと疲れるが、要介護状態でもハリーに参加できて良かったと「ほっと」とする	
8	小規模	みやーくづつは大変な行事だけど、高齢者にとっては、やらないと行けないと思っていないのではないかと、やらないといけないこと、張り合いにもなっていると思う。私の親も、やらないといけないと思っている。難儀だけどやらないといけないし、やり残したこと思っている。島を出て島外に住んでいたら、来島してまでこの行事をやろうとは思わないと思うけど、ここに住んでいるから、必ずやる。この島で暮らして、行事は大事と思っているから、楽しみながら続けているし、高齢者の参加支援を続けている。それが終わると、とても嬉しい気持ちになっている。	伝統行事(みやーくづつ)は、高齢者にとつてはやるべきことであり、やらないといけない思いがあると思う	伝統行事(みやーくづつ)への参加は、うれしい気持ちになるので、高齢者と一緒に楽しみたい 伝統行事(みやーくづつ)に要介護高齢者の参加を支援し続けたい	伝統行事への高齢者の参加支援を終えることとともううれしい気持ちになる 高齢者は「伝統行事をやらないといけない」と思っていると思うので参加支援を続けている この島で暮らして、私も伝統行事は大事に思っている。高齢者の伝統行事への参加支援を継続している	

9	小規模	<p>島外の子ども達に向かって、私(ヘルパー)のことを「自分の子どもも良かったら良かったね」と、高齢者が話してくれるのはありがたい。長いことケアをしてくると、家族以上の思いが出てくる感じがする。米寿のお祝いのあと、もっと長生きしてもらって、ガジマヤーのお祝いをしたいなと思う。</p>	<p>地域行事(米寿のお祝い)に一人暮らし高齢者が参加できるよう手伝った</p>	<p>要介護高齢者とは、長いかかわりの中で家族以上の愛着を感じており、お祝いが続けられるよう長生きしてほしい</p>	<p>長くケアをしている高齢者から「自分の子どもも良かったらよかったね」といわれると高齢者から家族のように思われていると感じる 長くケアをしている高齢者は、もっと長生きしてもらい、「98歳の祝い(ガジマヤー)」をしてあげたいと思う</p>
---	-----	--	--	--	---



地域文化ケアの実施

ID 32

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	サニツに浜辺で、手足を洗い清めて、健康祈願をする儀式に、参加できない高齢者には、バケツに塩水をくんできて、手足を洗わせるのを毎年やっている。おばあちは、「あは」といって喜んでる。 塩水で手足で洗う儀式を施設でやるよと、声をかけたら、高齢者は喜んでやります。「そうか、そうか」と言って喜んでやります。昔からやっていたり前のことから手伝わっています。	伝統行事(サニツ)には、浜辺で手足を洗い清め、健康祈願をする儀式に行けない要介護高齢者には、海水を汲んできて、手足を洗い清める手伝いをする	昔から健康祈願としてやってきた当たり前のことなので、要介護状態でも続けられるようにしたい 当たり前のことである伝統行事(サニツ)ができなくなっている高齢者に、伝統行事(サニツ)の代替をすることで、喜んでほしい	伝統行事(サニツ)に手足を塩水で洗う儀式を勧めると高齢者は喜んでやるが、「昔からやっていることだから」だと思う
2 小規模	ミヤークツヅ(伝統行事)で、クイチャ(伝統的な踊り)をみたという。車いすの高齢者には、車いすを押し、一緒にクイチャ(お祝いの酒)を飲ませます。参加できない人は嬉しいと思います。「ミヤークツヅは、もうすぐさ」、「ミヤークツヅあるよ」と、活動中に何回も話題にして、行きたい気分にして、当日には連れて行きます。「ミヤークツヅを見に行くか」と聞いて、向人が行きたい人がいたら、連れていってあげます。〇〇地域で人口が増えるイベントで、島外の人たちとのふれあいをもちつチャンスだと思っています。	島の伝統的な踊り(クイチャ)が好きで高齢者を把握しているので、伝統行事で踊りをみる機会があるときは、車いすで介助して連れ出し、一緒に輪の中に入りお祝いのお酒を飲ませる。	伝統行事(ミヤークツヅ)に参加することで、要介護高齢者を楽しませたい 島内外から島の人が集う伝統行事(ミヤークツヅ)に参加させ、島の人と要介護高齢者との交流の機会にしたい	伝統行事は高齢者が島外の人とふれあいをもちつチャンスと思うので、参加支援をしていいるが高齢者が参加している姿を見てうれしく思う
3 小規模	利用者の中には、こんな姿になっているので、ハリー(伝統行事)には「笑われるからいけない」という人がいる。行きたくても、連れていけない人もいる。そういう人たちのために、数年前から、ハリーの様子をビデオをとってきて、ビデオ放映してみせたりして	島の人が集う伝統行事(ハリー)が好きなのに、要介護状態の姿を見られたくないと言っている人がいるので、ビデオを撮影し、ディスプレイで伝統行事(ハリー)の上映会をしている	島の伝統行事(ハリー)が好きだが、人に見られたくないと感じている高齢者に、せめてもの楽しみを作りたい 島の伝統行事(ハリー)に行くことができなくても、話題を共有し、一緒に楽しみたい	重度化して伝統行事(ハリー)に参加できない高齢者にビデオを見せると、関心を示さない人もいるが、真剣に見て笑ったり話しかけたりする人もいます。真剣に見て笑ったり話しかけたりする人もいます。反応がなかった人でも、来年参加したいことを期待している。伝統行事(ハリー)がわからなくなっている人でも、ハリーの映像をビデオで見ると、楽しかったことを思い出してほしいと思う。ハリーの映像をビデオで見ると参加したい気持ちになって、来年一緒に参加したいと思う。

4	小規模	<p>ハリーに行きたい人は連れて行って、地域の人たちと一緒にみて、久しぶりに会って、元気だったの？としゃべったりしながら、船こぎを一緒にみる。行事に参加することは大事じゃないかと思う。本人も行きたいと思うし、高齢者も行事に参加することは大事だと思う。</p> <p>毎日施設(小規模多機能型居宅介護)のサービスタにきて、施設のなかだけの同じ人の交流しかないの、行事に参加して、地域の人と交流するのはいいと思う。嬉しそうにしているのをみて、やってよかったと感じている。</p>	<p>島の人が集う伝統行事(ハリー)に介助して連れ出し、地域の人たちと一緒に参加し、交流を持たせている</p>	<p>伝統行事(ハリー)では、島の人たちに会えるので、島の一人として一緒にいて、日常のデイサービスとは違う交流を楽しんでほしい</p>	<p>伝統行事(ハリー)に参加支援をして、高齢者がうれしそうにしているのを見ると「やって良かった」と感じる</p> <p>施設では単調な交流しかできないが、伝統行事(ハリー)への参加は地域の人と交流ができるのでいいと思う</p>
5	小規模	<p>利用者はみんな島の人で、伝統行事は、草からやってきてきていることで、行事に参加させて、雰囲気だけでも、味あわせたいと思う。行事に参加して、やりたいという気持ち、手助けを動かしてもいいので、一緒に踊ってほしいという期待もある。みんなが集まって、みんな一緒にできるかもしれないと思う。自分だったら、どういう風にケアされたいかという事を考えて、ケアをやっているつもりだ。</p>	<p>伝統的な踊りを舞う伝統行事は、できるだけ参加を手伝っている</p>	<p>伝統的な踊りを舞う伝統行事は、伝統行事の雰囲気味わってほしい、体の動く部分を使って参加したい、踊りたい気持ちになることを期待している</p> <p>自分がしてほしいケアを高齢者へ実践したい</p>	
6	小規模	<p>朝の高齢者宅の訪問の際には、おはようございますと言いながら、自然に「今日もお守りください」と仏壇に手を合わせる。お守りくださいというのは、利用者だけじゃなくて、私も一緒に守ってという意味である。</p> <p>拜んだ後は、守ってくれると思いい、安心する。また、高齢者にかわいがってもらったから恩返しをしたいと言うのが一番大きい。</p>	<p>仏壇のある家に、朝のヘルパー業務で訪問するときは、「今日も一日、利用者も、私も家族同様お守りください。」と必ず仏壇に手を合わせる</p>	<p>島の先祖たちに見守られる安心感を得たい 島の高齢者からかわいがられて育ったので、恩返ししたい</p>	<p>高齢者宅の仏壇と一緒に「私も守ってください」と祈ると、安心する</p>
8	小規模	<p>トライアスロンでは、要介護高齢者を連れ出し、毎年一緒に応援している。理由は、私がか楽しいので高齢者も楽しい思いをさせたいので参加させている。参加すると施設で「ほーっ」としている高齢者も目を大きく開いていい表情で選手たちをみてくれる。</p>	<p>地域行事(トライアスロン大会)には、要介護高齢者を連れ出し、一緒に応援している</p>	<p>自分が楽しい地域行事(トライアスロン大会)には高齢者も一緒に参加させて、楽しみたい、楽しませたい</p>	<p>地域行事(トライアスロン)に参加すると、日頃は「ほーっ」と過ごしているが目を見開き表情が良くなる。</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	<p>小中学校の行事とか、地域の行事のとき、高齢者が行事に参加できるように、送迎をしている。行事は、勤務とか、勤務外に関係がないので、シフトが組まれていないときに、ボランティアとして関わっている。ボランティアとして、自分も楽しみながら、一緒に参加している。そのような行事にいくと、日頃見かけない、地域の人のコミュニケーションがとれる。チャペルなどで、できるだけ、高齢者と一緒に出発しようとしている。高齢者は、ずっと部屋の中にいることが多いので、地域の人と会ったり、しゃべったりするのは、地域の行事がチャンスだと思う。</p> <p>表情が穏やかになっていいかなと思う。小中学校のイベントのときは、あの子はどこの子、あの子はだれかと、子ども達に関心を寄せるので、脳も活性化されると思う。</p>	<p>高齢者が学校行事や地域行事へ参加できるように送迎をしている</p> <p>学校行事や地域行事へ高齢者が参加できるように、ボランティアで手伝っている</p>	<p>学校行事や地域行事は、要介護高齢者と島の人の交流の機会とらえ、高齢者ケアに活かしたい</p>	<p>地域行事には高齢者を誘ってボランティアとして参加し、楽しい</p> <p>高齢者は地域行事と一緒に参加して、表情が穏やかになり、子ども達にも関心を寄せるので脳も活性化されると思う</p>
2 小規模	<p>介護度が高くなって、地域の行事に行こうと誘っても、行くまでの気持ちが悪くなってきていられるか、声かけに反応が弱くなっている。だから、何度も何度も誘う。「行こう、行こう」と何度も誘う。理由は、参加した高齢者も、行くを楽しんでいるから、楽しみを増やしたいから誘う。何度も何度も声をかける理由は、家と施設の往復だけでは、高齢者との会話がはずまない。</p> <p>地域に出て、鳥の人たちに会おうと、鳥の人たちが声をかけてくれるので、楽しそう。しばらく行った人も、「久しぶりに誰々みたよ」等、利用者同士で会話がはずみ、楽しそうである。</p>	<p>介護度が高く、地域行事への誘いに応じない高齢者には、その気になるまで何度も誘う</p>	<p>しつこく地域行事に参加しても参加すると喜んでもらえる期待があり、楽しみを増やしたい</p> <p>デイサービスの活動だけでは話題に乏しいので、行事に参加して利用者同士の会話を弾ませたい</p>	<p>地域に出かけると鳥の人たちが声かけてくれるので会話が弾み楽しそうである</p>
3 小規模	<p>介護度が重度化した高齢者の家族が、重度になつたことで、「行つといて、行つといて」と促す家族がいる。本人が、行きたいのか、行きたくないかわからない時に、家族が促す。重度化して、表情の乏しい高齢者や心身機能の低下の高齢者もいるが、デイサービスだけでなく、地域の行事に参加すると表情が和らぐので、押しつけてはいないけど、地域に出ることはいいと思っている。</p>	<p>意思表示ができない重介護の高齢者でも、家族の後押しを受けて地域行事へ連れ出し、参加を手伝う</p>	<p>意思表示ができないが、鳥の人の交流で表情が和らぐので、意思表示ができなくても、デイサービスに閉じ込めず、地域に出したい</p>	<p>地域に出かけると重症でも表情が和らぐので押しつけるわけにはいかないが、地域に出かけることはいいことだと思う</p>
4 小規模	<p>方言での会話は、冗談を言ったりするので、関わり方が面白く、方言の方が面白く、方言で大事ななど、この事業所でヘルパーをするようになってから思っています。標準語でしゃべるよりも、コミュニケーションが取りやすい。</p> <p>方言はわかりやすいのかもしれない。お年よりも聞きやすそうである。</p> <p>方言は、15歳から、島外に出ているが、三日で聞いたりしよべたりすることは、まったく問題なくなつた。三日で全て思い出した。だから、高齢者達の話がほほ開けるので、ありがたいと思うし、これを(ケアの)強みにしたいと思う。</p>	<p>冗談を交えながら高齢者と方言でコミュニケーションを取る</p>	<p>高齢者がなじみやすい方言でコミュニケーションをしたい</p> <p>島の出身であり、方言を自由に使えることを自分の強みとしてケアに活かしたい</p>	<p>方言での会話は冗談を言い合ったり関わり方が面白いので方言の大事さを感じる</p>

5	小規模	伝統行事は、本人の希望もあるし、家族の希望もあるので、自宅でも、過ごしてもらいた と思う。島外からも、家族親戚が来島するので、上司も含めて、本人が仏壇行事が自 宅でできるような調整をしている。	要介護状態でも、伝統行事(仏壇行事)を 自宅で家族と過ごせるよう、ケアを調整す る	伝統行事(仏壇行事)は、自宅で一緒に家 族、親族と過ごしたいという希望をかなえた い	伝統行事や地域行事が多く煩わしいが高 齢者と一緒に参加すると高齢者との話題が 作りやすくケアに活かせる 伝統行事に参加し続けることで、伝統行事 が好きでない自分から好きになれるように 脱皮したいと思う 伝統行事はやりたくなくても島中の雰囲気 からやらないと気持ちが悪く、やった方 が楽かなと思う
6	小規模	この島は、行事が多すぎるのが、切実な悩みです。伝統行事や地域行事が多いと思う が、高齢者に関わる仕事として、積極的ではないが、参加している。一緒に参加すると、 年寄りや話をするとき、話題づくりがしやすい。性格的には、行事は好きではないけれ ども、職業としては、必要と思う。そういう自分から脱皮したいと思う。ちよつと今、脱皮中 です。不思議なもので、伝統行事はやらないうちでも、島中がそんな雰囲気なので、 やらないと気持ちが悪く、伝統行事はやらないうちでも、島中に住んでいる人たちは思入れが違つような 感じがすると最近、勝手に理解してきた。	島の伝統行事や地域行事は、高齢者ケア につながるもので、仕方なく参加している 島の伝統行事や地域行事に参加し、高齢 者との会話で出来事を話題にする	島出身者であつても、行事を面倒に感じて いる自分を愛えたい 島の伝統行事、地域行事を面倒からず 大切にして、島の高齢者のように良い年 取り方をしたい 伝統行事や地域行事への義務感や負担感 と同時に、行事をすることで味わう心地よ さを大事にしたい	伝統行事や地域行事が多く煩わしいが高 齢者と一緒に参加すると高齢者との話題が 作りやすくケアに活かせる 伝統行事に参加し続けることで、伝統行事 が好きでない自分から好きになれるように 脱皮したいと思う 伝統行事はやりたくなくても島中の雰囲気 からやらないと気持ちが悪く、やった方 が楽かなと思う
7	小規模	高齢者は、地域行事を心身の機能が低下していることで、きつから、参加したがらな い、家に帰らなければならない高齢者も増えてきている。しかし、伝統行事は、本人が昔、楽し んでやってきたことであり、認知機能が低下していても、どこか残っていると思うので、脳 の活性化も期待して、家族と一緒に伝統行事に関わってほしいと思う。だから、伝統行 事は自宅でも家族と過ごさせたい。	心身機能が低下している高齢者は、島の地 域行事や伝統行事への参加を拒むことが あるが、参加を促している	伝統行事や地域行事は、高齢者が昔から 楽しみながらやってきたので、心身機能や 認知機能が低下しても、その楽しみを味わ うことができるかと期待している	伝統行事や地域行事が多く煩わしいが高 齢者と一緒に参加すると高齢者との話題が 作りやすくケアに活かせる 伝統行事に参加し続けることで、伝統行事 が好きでない自分から好きになれるように 脱皮したいと思う 伝統行事はやりたくなくても島中の雰囲気 からやらないと気持ちが悪く、やった方 が楽かなと思う
8	小規模	高齢者達は、行事が近づくと活動中(デイサービス)に、行事の準備の話をする。行事 のことをすごく気にしている感じがするので、自分からも、行事の準備のことを話題にす る。話題にしなから、行事の段取りを教えてもらっている。	伝統行事が近づくと、デイサービスの活動 で話題にしなから、高齢者の行事の準備状 況を語らせ、把握している デイサービスで行事のことを話題にしなが ら、要介護高齢者から行事の段取りを習う	高齢者は、伝統行事の準備を気にするの で、その気持ちを汲み取り、できないこと を手伝いたい	高齢者は伝統行事が近づくと行事の準備 をすごく気にしていると感じるので、そのこと を話題にして行事の段取りをしながら学ん でいる

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	<p>代表者の私は、ケアは特別なことをするのではなく、受け継いでやることだと思っている。例えば方言は昔から使われていた言葉なので、魂が入っていると思うので、方言を使うことは、穏やかになれるし、素直な心になれる。意識の疎通が自然体で確実には、心がけていくのではなく、自然に方言で会話をしている。高齢者はヤマトクチ(標準語)は考えを話をするので、疲れるし素直な心が出せない、言葉のキャッチボールが、考えたことをリズムよく会話することができない。方言で話すことは心地よいものだと思う。共通語で話した後は、高齢者は、なんとなくぐっつりして、心にふたをしていてと感ずる。</p>	<p>高齢者との会話はできるだけ方言で話しかけるようにしている</p>	<p>方言は使い慣れている愛着のある言葉で魂が入っているので方言で話しかけたいリズム長く話し、高齢者の素直な心を引き出すために方言でキャッチボールしたい</p>	<p>高齢者は共通語で話すとは何となくついたりして、心に蓋をしていて、穏やかに感ずるが、方言を使うと、穏やかになれるし、素直な心になれる。意思の疎通が自然体で「あーん」にできる。</p>
2 小規模	<p>ハーリーの日には、ハーリーのことを話題にして、昔のハーリーのことを要介護高齢者たちに話してもらっている。昔のハーリーのことを回想させて、思い出させて準備を整え、今日がハーリーの日であることを話題にしている。そうすることで、昔の風習を思い出し、それは今の時代も続いているのか訪ねてくる。訪ねてきたら、わからないかと、どうしたいかとか本人に確かめて参加する。</p>	<p>伝統行事(ハーリー)の日には、昔のハーリーのことを高齢者たちに話してもらっている</p>	<p>過去を振り返り、年を重ねることを心地よいと感じてほしいので、過去を回想させ、昔の風習を思い出し、伝統行事(ハーリー)に参加を希望してほしい</p>	
3 小規模	<p>これまで全員をハーリーに連れ出していたが、心身の重症化に伴い、天候と本人の状態との関係で、会場に行けない人も出てきている。そのため、実際の様子をビデオに録画して、省に戻ってハーリーの映像を見せるようにしている。その映像を繰り返し、見せることもある。</p> <p>ハーリーが近づくと、利用者がそわそわしている様子があるので、行事の前にはこちらからハーリーを話題にし、語らせ、準備状況について話し合うなど、ハーリーのことで盛り上がる時間をつくっている。</p> <p>島の人は伝統行事のことは染み込んでいるので、特に意識していることはなく、しなければならぬという考えがあまりない。雰囲気とか、ムードが島全体に漂うので、昔から自然発生的に繰り返される変化しないことで、当たり前前に繰り返される日々の暮らしから意識的に繰り返される日々の暮らしを役割が変わっていく。</p> <p>高齢者は穏やかで見ながら昔の姿を見ながら昔のことを話題にしたり、泣いたり、反応のない人もいて、それぞれの感情を表出している。</p>	<p>伝統行事(ハーリー)に参加できない高齢者のためにビデオに録音し、映像を見せている</p> <p>伝統行事(ハーリー)が近づくと、高齢者達はその時間を盛りにする</p>	<p>高齢者が若かりし頃の一大伝統行事(ハーリー)を、今でも楽しませたい</p> <p>要介護状態になっても、昔から自然発生的に繰り返される日々の暮らしを届けてたい</p>	<p>ハーリーで高齢者の表情は昔のことを話題にしながら穏やかになり、話題が膨らんだり、泣いたり、感情を表出する</p> <p>ハーリーへの参加は、島の人の身体に染み込んでいるので当然「参加できるようにしなればならない」と思う</p> <p>ハーリーが近づくと島全体にそのムードが漂うので、ハーリーに参加することは当たり前であり、要介護状態になっても日々の暮らしを続けさせたい</p>

4	<p>島の高齢者には、寂しく暮らしてほしくない、笑顔になってほしい、元気になってほしいという思いがある。その人の人柄をみとめ対等な関係であり続けるために、地域の一員としてまだ生きてくという実感を持たせるために、伝統行事にまつわる人の出入りや、島の人たちの様子をできるだけ情報提供し、共有し、話題にしている。島の人の動きがある伝統行事は高齢者が島の情報や動きを知るいい機会だと思っている。</p> <p>対等な関係でいられるとうれしいし、人の世話になっていくと卑下することなく、対等で、お互いさまという感じで生きてほしいと思っているので、島の情報(救急車が来たとか、人が亡くなったとか、祭りでだれが翻ってきたとか、そついで情報)は逐一流し、施設に出入りする子どもたちにも高齢者に伝わるように大きな声で声掛けするように指導をしている。</p> <p>島の情報を共有することで、私も島の一員だと、連帯感をもって、島の一員と感じられるよう日々を送ってほしいと思っている。</p> <p>子どもたちが、自分たちのしてきたことを繰り返すことで、年を取るとそのことが心地よいと感じられるようになるのではないかと思っている。</p> <p>高齢者は要介護状態でも、島の空気を感知、島で暮らし、島で死にたいとわかっている。認知機能にかかわらず、要介護高齢者は子どもたちの声には、普段は目を閉じていてもばちと目を開けたり、敏感に反応する。島の一人一人の思いがこの地域を創ってきたし、その思いが未来を創る。いい意味で昔のような暮らしができればいい。人も島も暮らしも全てが宝物なので持ち続けていきたい。残していきたい。そのツールが伝統行事であり、伝統行事を通じてみんながつながって生きていく。そして、生きていく中でまた、つながりができる。</p>	<p>伝統行事は島の情報を知らなくさん提供している</p> <p>で、島での出来事をたくさん提供している</p>	<p>要介護状態になっても、参加支援をすることで地域の全てに関われることは対等な関係でいられることがうれしい</p> <p>要介護状態であっても、島の一員として連帯感を持って日々を過ごしてほしい</p> <p>寂しがらず、笑顔で、元気で、伝統行事を通じてみんながつながって生きていくし、生きていく中でつながりができていると思える</p>	<p>要介護状態になっても、参加支援をすることで地域の全てに関われることは対等な関係でいられることがうれしい</p>
5	<p>島は貧しいけど、人と物とところが循環してきた島であった。しかし、今は物と金が循環するものになってしまった。高齢者が作ってきた、人と物とところが循環する島に戻したい。そうすることが高齢者が心地よく暮らしてきた島にこそと思う。島の未来の文化を作っていくのは子どもたちだから、高齢者が作り上げた価値が伝わるように、子どもたちと高齢者が接点を持たせるようにしている。</p>	<p>高齢者と子ども達との交流の機会を日常的に作っている</p>	<p>高齢者が創り上げてきた人・物・心が循環する価値を子ども達に伝えてほしい</p> <p>高齢者が心地よく暮らせる島にしたい</p>	<p>高齢者が創り上げてきた人・物・心が循環する価値を子ども達に伝えてほしい</p> <p>高齢者が心地よく暮らせる島にしたい</p>
6	<p>島に生きてきた高齢者の世界は、島にある。方言での会話、島の人々との関係、伝統行事の全てが島にある。それらは全て、笑顔で心を埋めて、少しでも隙間を埋めて生きてきたためのツールになっていると思う。島でしか世界のない高齢者を要介護状態になつたからと言って島外に移動させると、この人の世界がはぎとられ、終わってしまう。だから私は旅立ち「家の量の上から」にござわり、高齢者は島の家で人生が終わられるような活動をやり続けている。</p>	<p>高齢者がつくってきた世界は島にあるので、島での暮らしの継続できるような支援をしている</p>	<p>島で生きてきた高齢者の世界を人生の最期まで継続させたい</p> <p>要介護状態になつても島外にでることなく「家の量の上から」人生を終えてほしい</p>	<p>島で生きてきた高齢者の世界を人生の最期まで継続させたい</p> <p>要介護状態になつても島外にでることなく「家の量の上から」人生を終えてほしい</p>
7	<p>高齢者から、「高齢者はもうさく、役に立たないから捨てるんだ」といわれた。今の若者は犬や猫はかわいがれるが高齢者は捨てると言われた。島の高齢者の生きてきた知恵を活かしたい、高齢者を島の宝として役立たせたいと思ひ、民泊事業を始めた。高齢者は何回も島の歴史を語ってもらいたい、島の暮らしを再現してもらいたいと思つた。高齢者だからできるものがあると絞り返した。高齢者は戦争体験者なので命の大切さを知っている。若い人は同じやない満足しないが高齢者は違つてもいいと違いを認めてくれる。繰り返して話してくれるので心に響く。これこそ生きる力を養う教育と思つたので高齢者を主役とした民泊を始めた。</p>	<p>高齢者の生きてきた知恵(命の大切さ、運命の受け止め、心に響く語り)を活かす活動(民泊事業)を始めた</p>	<p>高齢者を島の宝として、生きてきた知恵を活かしたい</p> <p>高齢者には島の歴史や暮らしを語りつづけ、島の暮らしを再現してもらいたい</p>	<p>高齢者を島の宝として、生きてきた知恵を活かしたい</p> <p>高齢者には島の歴史や暮らしを語りつづけ、島の暮らしを再現してもらいたい</p>

8	<p>高齢者を先生にして子ども達と一緒にシマ学校を始めた。すると、学校でシマの方言での挨拶が始まった。また子ども達は、三味線を購入し、高齢者から三味線を習い、舞台発表会で三味線を弾きながら歌を披露していた。高齢者に役立ち感を持ってもらいたい。高齢者は尊敬に値するものであり、粗大ゴミではない。高齢者からたくさんのお話を学んで、子ども達にシマの誇りを持ってほしいと思う。高齢者の力を子ども達の教育に活かしたい。</p>	<p>高齢者が尊敬されるよう、子ども達がシマを誇れるよう高齢者の力を子ども達の教育に活かす取り組み(シマ学校)を始めた</p>	<p>高齢者を尊敬できる子ども、シマを誇れる子どもを育てる役割を高齢者に担ってほしい</p>
9	<p>要介護高齢者からシマの童歌を学んだ。童歌のワンフレーズを習ってきてそれを口ずさむと、高齢者達はその続きのフレーズを歌い出し、ひとつのメロディーとして童歌を完成させた。これができるのは高齢者達のお陰だと声に出して感謝した。高齢者は素直、高齢者はすばらしいと、涙が出るほど感動した。このような童歌をいくつも完成させ、ぼつり、ぼつり、ほそ、ほそと歌っているときほど幸せそうな顔になる。一人一人の高齢者がすこく楽しそう、幸せそう、穏やか出安心している表情になることが私の目的です。残り少ない日々を、毎日このように送ってほしいと思う。</p>	<p>要介護高齢者の力を借りて、シマの童歌と一緒に掘り起こした</p>	<p>残り少ない日々を楽しく、幸せに、安心して、穏やかに過ごしてほしいので、島で生きてきた高齢者の世界を人生の最期まで継続させたい</p>
10	<p>高齢者達が掘り起こし、教えてもらった童歌は、子ども達に教えて祭るときなどに発表会でシマの人たちに披露する。シマの人たちは、すこい、すこいと喜ぶ。高齢者は、こつくり顔いたり(ほそほそと口ずさむ、本当にすこいと思うので、未来につなげていきたい。高齢者の力を借りてその役割を担いたい。</p>	<p>掘り起こした童歌を子ども達に教えて発表会で地域の人々に披露した</p>	<p>高齢者が掘り起こした古い地域の童謡を子ども達が歌うと、顔いたり、口ずさんだりするので、高齢者はすこいと思う</p>

施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1 小規模	<p>私は目の前の要介護高齢者たちに育てられたかと思っいるし、島の行事もこの高齢者たちが守っていると思っいる。そのため、優先して伝統行事、地域行事に連れ出すようにしている。ハーリーでは、男性高齢者で、カツオ漁で家族を支え、海神祭を支えてきた男性要介護高齢者が認知症になり、ハーリーを話題にしてもわからなくなっていたが、昔の記憶を呼び戻し、元氣になってほしいと思っ、連れ出した。参加した本人の表情をみて、「明日も行ってこましようね(3日間連続して開催される祭り)」と言葉にして声をかけた。</p> <p>ハーリーの会場で、認知症があるにもかかわらず、船をこぎ動かしたり、立てないのに立ち上がろうとしたり、やくみじやうとう(とでもいいね)と言葉を笑し、拍手をしていた。この様子をみて、わからな思っていたけど、漣ぐことは覚えていて、ことを発見することができ、帰ってきて目も輝かせ「じゃやうとうあた、いい(よかつたよ、ねえ)」といった。日ごろ無義情な方が表情豊かな光景を呈している。「自分自身を取り戻すことができた、自分はまだまだやれやれ、んじやないか」という氣持ちが出てきたんじやないかと思っ。</p> <p>伝統行事に要介護高齢者を参加させることについて、反対するスタッフはひとりもなく、むしろ、スタッフから話題にしている。これは、スタッフも利用者もみんな島の出身者だから、できることだと思っ。</p> <p>老いて要介護状態になっ、歩けないから、車いす生活だから地域行事、伝統行事に出られないのは理不尽だと思っている。動けないから地域行事、伝統行事から遮断するのはなく、動けないからこそ、最後になるかもしれないから、伝統行事、地域行事にできるだけ参加させる必要がある。</p>	<p>島の行事を守ってきた高齢者は、優先して伝統行事、地域行事に連れ出している</p> <p>カツオ漁で家族を支えてきた認知症の男性高齢者には、昔の記憶を呼び戻せるよう伝統行事(ハーリー)に連れ出した</p>	<p>言葉ではわからなくとも実物を見て昔の記憶を呼び戻してほしい</p> <p>高齢者たちが守ってきた伝統行事を、要介護状態でも楽しんでほしい</p> <p>要介護状態になっことで地域行事に参加できない理不尽さを解消したい</p>	<p>要介護高齢者が伝統行事(ハーリー)に参加し、会場で一体感を持ち、帰ってきて目を輝かせているとうれしくなる</p> <p>伝統行事に参加して表情豊かになった高齢者を見て、「高齢者は自分を取り戻しまたやれる」という氣持ちが出てきたと感っ</p>
2 小規模	<p>ハーリーに連れ出すと、普段めったに会わない人たちも含めて島の人が島内外から大勢集まっ交流できる一番いい機会だと思っているので、要介護高齢者を連れ出している。</p> <p>行事は人がたくさん集まり、絆を深める機会になる。だから、「歩けないから家にいなさい」ではなく、車いすで参加させる。今までやってきたことを体が不自由になっことを理由に、やらな、させないことは残酷なことだと思っ。だから、行事に少しでもかかわらせるケアをしている。この島に生まれ育ち、私たちを見守り育ててくれ、すべての行事にかかわっしてきた皆さんだから、伝統行事、地域行事には参加させたい。</p> <p>連れだすことで、昔を懐かしみ、過去の楽しかった記憶を思い起してくれ、それが喜ばなり頑張っ生きる氣持ちを持ってくれたらというこを期待している。</p>	<p>要介護状態でも、島の人と交流できる機会として、伝統行事のハーリーに連れ出している</p>	<p>島内外から人があつまる伝統行事に参加して、島の人と交流し絆を深めてほしい</p> <p>要介護状態になっても、これまでやってきたことを、続っけて参加させたい</p> <p>この島に生まれれた私たちを見守り育ててくれた高齢者だから、島の伝統行事や地域行事には参加させたい</p> <p>要介護状態になっても、昔を懐かしみ、喜びを島の皆と分かち合うことで、生きる氣持ちになるこを期待したい</p>	



3	<p>島最大の行事、みやーくづつ(伝統行事)には、島出身者が帰省し、島の人口が普段の3倍になる。帰省した島の人々に合わせるために、利用者を連れ出すことにより、これまでつなかりを持ってきた人々に出会うことができる。みんなが近づいて、声掛けをし、それにより、自分のことをわかってくれる人がたくさんいることで、寂しい思いが減ると思う。そのことが、生きる意欲につながっていると思うから、伝統行事に連れていく。声掛けをしてくれる人が誰かわからないので、そばにいて、その人のことを説明し、過去の話をし、過去のつなかりがよみがえるように話題にしている。「元気だった？自分にはどここのだれだれよと声をかけてくれる。声をかけられると、あの人はだれか」と聞いてくるので、その人が誰かわからなくても、自然に微笑みが生まれている。「優しい賢い人だったのに、残念だとか、心無い言葉も耳に入ってくるが、思いは人によりけりだが、声をかけてくれるという島の人のやさしさが、本人にとっては、うれしい、喜ばしいことであり、その人を元気づけ、勇気づけてくれる。感動的なことだと思っている。いろんな人がその高齢者にかかわることができるのは、たくさんの方がかかわる「お祭り」だからである。</p>	<p>島出身者が帰省する島最大の伝統行事(みやーくづつ)に、要介護高齢者を連れだしている</p> <p>島内外から集まった島の人に声かけされても認識できない要介護高齢者には、島での人間関係を知っている私が、声掛けした人が思い出せるよう話題を提供している</p>	<p>要介護状態になっても、島最大の伝統行事(みやーくづつ)で帰省した島の人にあってほしい</p> <p>要介護状態でも、伝統行事(みやーくづつ)に参加することで、帰省者と交流し、うれしい、楽しいという思いを味わってほしい</p> <p>島の人たちのやさしさに触れることで、元氣や勇氣をもらってほしい</p>	<p>伝統行事に参加させると、島の人の声かけに高齢者は自然にほほえみが生まれる</p> <p>伝統行事に参加させると島の人が近づいてきて優しい言葉かけをしてくれ、元気づけ、勇気づけてくれることはうれしく感動的なことだと思っている</p>
4	<p>島言葉は島の人にとっては宝であり、島の人同士を結びつける大事なものだと思っている。だから、島言葉で「がじゅーいー(元氣)？」と声掛けをしている。また、方言でやりとりは、はっきり言っても面白くおもしろいので、楽しいことを含めて、はっきり言うときは、方言でいって傷つきにくいと感じるので方言を使うようにしている。方言は、心の絆を築め、お互いのいい関係を保っていくことができると思う</p> <p>島言葉(方言)を使うことで、島への思いをお互いが持つことができ、お互いにそう思うことがあることをわかると思える。島の人を結びつけるものがある。</p>	<p>島の言葉は島の人を結びつける宝の思っているので、要介護高齢者には方言で「がじゅーいー(元氣)？」と声かけするようにしている</p>	<p>ケアの時は、優しく伝えないといけないこともあるので、心の絆を保ち、いい関係を保てるよう方言を使うようにしている</p>	<p>島言葉(方言)を使うことで、島への思いをお互いが持つことができ、お互いにわかり合えていると思う</p>
5	<p>これまで、学校の子どもたちとの交流が高齢者に必要だと考え、組織として学校との交流の機会を作るように努力してきた。学校の発表会には子どもたちから、招待状が届いている。招待状が届いたら、要介護高齢者を連れていくようにしている。発表会を盛り上げ、子どもたちを元気づけるために、要介護高齢者を連れていく。高齢者と子ども達とが交流することで子ども達は元氣になる。子どもたちが元氣になることは、高齢者の一番の望みじゃないかと思える。</p>	<p>学校からイベントの招待があると、子ども達を元気づけるために要介護高齢者と学校行事に参加する</p>	<p>子ども達のイベント(地域行事)に参加し、イベントを盛り上げることが高齢者の一番の望みになっていると思う</p> <p>地域行事(子ども達の発表会)では、ふれあいを通して高齢者は子ども達に元氣を与えていると思う</p>	<p>子ども達のイベント(地域行事)に参加し、イベントを盛り上げることが高齢者の一番の望みになっていると思う</p> <p>地域行事(子ども達の発表会)では、ふれあいを通して高齢者は子ども達に元氣を与えていると思う</p>
6	<p>地域で開催される敬老会には、常に利用者を連れ出して参加させている。その目的は、同じ世代の方たちと一緒に喜びを分かち合うために、参加してもらうことは大事なことで思っている。スタッフもそれに合わせて、身なりを整える準備や手伝い、会場へ連れていくなど必要なケアをしている。主催者(自治会長)とは、移動しやすい場所など、座席の設定を調整、工夫している。</p> <p>利用者が、島のみんまに祝ってもらっているという意識を持てるのが大事だと思う。主催者(自治会長)はいやがることなく、配慮してくれるのでありがたいと感じている。</p>	<p>要介護状態でも、島をあげての敬老会に参加できるような準備や送迎を手伝っている</p> <p>要介護状態でも、敬老会に参加できる環境を整えるよう、自治会長と調整している</p>	<p>高齢者が、同世代の方たちと一緒に喜びを分かち合っている</p>	<p>高齢者の地域行事参加に島の人たちが協力してくれるのでありがたいと思う</p> <p>要介護状態でも島のみんまに敬老会で祝ってもらっているという意識が持てる事が大事と思う</p>

7	小規模	<p>みゃーくづつ(伝統行事)だといって、1日目、2日目、3日目だと、スタッフが行事のすべてに参加させようとしていることで、利用者も一緒にいられる、一体化できることって素晴らしいと思う。スタッフは、この行事の全部を肩せあげようと、連れ出したり、工夫して、島の人はそれにこたえるかのように、声掛けをしたり差し入れをして、交流の時間、喜びの時間を一緒に過ごす満足感を持つことができるのは、そのすべてが行事にあると思うから。</p>	<p>みゃーくづつ(伝統行事)には全日程、要介護高齢者が参加できるように、職員間の業務調整をする</p>	<p>交流し、喜びの時間を共有し、行事に参加する満足感を持つてほしい</p>	<p>伝統行事に高齢者とケア提供者が一緒にいられる、一体になれる</p> <p>伝統行事で島の人と交流の時間、喜びの時間を一緒に過ごす満足感を持つことができるのは、行事に参加するからだと思う</p>
---	-----	---	--	--	---

ID	36	施設	地域文化ケアの場面	ケアの方法	ケアの意図	ケアの評価
1	地域		〇〇島で保健師をしていたとき、地域行事や伝統行事に参加しなれば、その地域では暮らせないので、自分がそこにいるために、必死でそれらの行事に参加していた。祭りになると、血圧が高くなる住民がいるので、それをコントロールするために、島の生活の保健指導として、祭り食(山羊汁)を食べないわけにはいかないの、祭り食に野草(フーチハー)をたくさん入れて食べるように指導していた。セルフケアに祭り食を活用し、取り込んだ。	伝統行事(豊年祭)の後に、高血圧が悪化する住民が増えるので、ヤギ汁にヨモギをたくさん入れて食べるように指導している	祭の食事は変えられないが、食べ方を工夫してセルフケアにつなげたい	島外出身の私は、高齢者のケアをするために、島に人々に馴染めるよう必死に伝統行事や地域行事に参加せざるを得ない
2	地域		トランプの荷台にデコレーションをし、はっぴを着せて、要介護高齢者を豊年祭に一緒にパレードをする。伝統行事になっているのでその日に高齢者が参加できるように心身の健康管理をする。高齢者は、行事が近づく楽しみになっている反面、参加できるか気にする。	伝統行事(豊年祭)には、高齢者を車に乗せてパレードする習慣があるので、要介護高齢者は心身の健康管理をしながら一緒に楽しむ	高齢者は伝統行事(豊年祭)でパレードに参加することを楽しみにしているの、安心して参加させたい	地域行事で高齢者の祝いを地域を挙げて行う地域行事への参加は疲れるが、要介護高齢者達が嬉しそう、生き生きとしたので自分自身も楽しかった
3	訪問看護		宮古では、亡くなったあとに死者をお風呂に入れるという習慣を持つ地域がある。入浴は身内皆で、あの世の旅立ちに、身を清めて神様になるという意味で、入浴をする習慣があり、浴室の床に死者を寝かせて流水で入浴する行為がある。訪問看護師の私は、死者の入浴を支援するのにシャワーキーヤリーがあると便利なのを知っているの、家族に声かけし、環境を整える支援をしている。習慣を受け入れることは必要なことであり、専門職として、できることを手伝いたいと思う。	エンゼルケアとして家族や身内で入浴の習慣を持つ地域で、専門職として入浴のしやすい用具や方法を伝える	家族や身内で行うエンゼルケアを容易にするための支援を行いたい	死者を入浴する習慣のある地域で、その習慣を受け入れることは必要なことと思う
4	訪問看護		終末期の高齢者が、島に帰りがついていた。家族は状態が悪いので、連れて行けないと諦めていたが、毎年参加している伝統行事(八月踊り)に連れて帰ること出来たのかと何度も、しつこく説教をした。それでも家族の了解が得られなかった。何か出来ないかと家族と相談したところ、家族が要介護高齢者の同級生に相談し、同級生が島の八月踊りに行く前に、自宅を訪問してくれた。島に帰すことはできず、八月踊りに参加することは叶わなかったが、同級生の訪問で参加したかった八月踊りの話で盛り上がり、本人はすごく喜び、一時ではあるが、元氣になっていた。	伝統行事(八月踊り)にターミナル期の高齢者を参加させるために家族に何度もしつこく説教した	人生最後の伝統行事(八月踊り)に参加させたい	伝統行事に参加させることはできないので代替ケアになったが死後に家族から「高齢者がすごく喜んでくれた」と感謝されてうれしかった
5	小規模		島の高齢者達の日常の会話は方言が主流なので、コミュニケーションを図るために、必死で方言を覚える努力をした。今でも方言はうまくしゃべれないが、方言を学ぶために高齢者との会話は方言を交えて、話すようにしている。	方言は高齢者たちの会話の主流であるので、方言を必死で覚え、方言を交えて会話するようにしている	高齢者ケアに方言での会話が必要であるため、方言を習いたい	高齢者との会話は方言が主流であるので、島外出身の私は必死に方言を覚えコミュニケーションが図れるように努力している。